

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama



アドミニストレーション ガイド

RoomOS を実行中のシスコ コラボレーション デバイス向け 11.5

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023

 CISCO

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

目次の項目はすべてハイパーリンクになっています。ハイパーリンクをクリックすると、対応する章に移動できます。メインセクション間を移動するには、上部のメニューバーのボタンを使用します。

このガイドは、主にビデオ会議デバイスの設定や構成を行う管理者を対象としています。

主にオンプレミスサービス (CUCM、VCS) に登録されたデバイスの機能と設定について説明していますが、機能と設定の大部分は、Webex クラウドサービスに登録されたデバイスにも適用されます。

デバイスは、次のとおりです。

Board Series

- Board 55/55S、70/70S および 85S
- Board Pro 55 および 75

Desk Series

- Desk Mini
- Desk
- Desk Pro

Room シリーズ

- Codec EQ
(Room Kit EQ および Room Kit EQ PTZ 4K バンドルを含む)
- Codec Plus
(Room Kit Plus、Room Kit Plus PTZ 4K、
Room Kit Plus Precision 60、Room Kit Plus PTZ-12 バンドルを含む)
- Codec Pro
(Room Kit Pro、Room Kit Pro PTZ 4K、
Room Kit Pro Precision 60 バンドルを含む)
- Room Bar
- Room Bar Pro
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual
- Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

目次

はじめに	5
RoomOS ソフトウェアおよびユーザーマニュアル	6
最新情報	7
製品機能の概要	20
Room シリーズの概要	21
Desk シリーズの概要	24
Board シリーズの概要	25
ビデオ会議デバイスの管理方法	26
タッチコントローラ	31
構成	32
ユーザー管理	33
デバイス パスフレーズの変更	34
[設定 (Settings)] メニューへのアクセスの制限	35
デバイス設定	36
サインイン バナーの追加	37
ウェルカムバナーの追加	38
デバイスのサービス証明書の管理	39
信頼できる認証局 (CA) のリストの管理	40
セキュア監査ロギングのセットアップ	44
CUCM 信頼リストの削除	45
永続モードの変更	46
SMTP 電子メールサーバーのセットアップ	47
アドホック マルチポイント会議のセットアップ	48
Cisco Proximity の設定と使用	50
ビデオ品質対コールレート比の調整	55
壁紙バンドルをバックグラウンド画像として選択	57
ハーフウェイモードのカスタムバックグラウンド画像を追加する	58
ホーム画面のカスタムバックグラウンドを追加する	59
画面およびタッチコントローラへのブランディングの追加	60
仮想背景の追加	62
着信音の選択と着信音量の設定	63
お気に入りリストの管理	64
アクセシビリティ機能のセットアップ	65
低電力動作の設定	66
CUCM からの製品固有の設定のプロビジョニング	67

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

周辺機器.....	69	BYOD 設定.....	191
画面およびその他の出力デバイスの設定.....	70	CallHistory 設定.....	192
入力ソースの接続.....	77	Cameras 設定.....	193
入力ソース数の拡大.....	88	Conference 設定.....	206
ディスプレイについて.....	89	FacilityService 設定.....	214
解像度について.....	90	ファイル設定.....	215
HDMI および USB-C ケーブルについて.....	91	GPIO 設定.....	215
自動フレーミング機能の設定.....	92	H323 設定.....	216
PresenterTrack 機能のセットアップ.....	97	HttpClient 設定.....	219
ブリーフィングルームの設定.....	101	HTTP フィードバック設定.....	220
教室の設定.....	108	Logging 設定.....	221
Board Pro と Room Bar Pro での外部マイクの使用.....	117	Macros 設定.....	223
スピーカー接続のテスト.....	118	Network 設定.....	224
Bluetooth® ヘッドセット.....	121	NetworkServices 設定.....	234
タッチコントローラの接続.....	122	Peripherals 設定.....	243
メンテナンス.....	131	Phonebook の設定.....	246
新しいソフトウェアのインストール.....	132	Provisioning 設定.....	247
オプションキーの追加.....	134	Proximity 設定.....	250
デバイスのステータス.....	135	RoomAnalytics 設定.....	252
診断の実行.....	136	RoomCleanup 設定.....	254
システムログファイルの取得.....	137	RoomReset 設定.....	255
コール ログの取得.....	139	RoomScheduler 設定.....	256
リモート サポート ユーザーを作成する.....	140	RTP 設定.....	256
設定とカスタム要素のバックアップ/復元.....	141	Security 設定.....	258
カスタム要素の CUCM プロビジョニング.....	142	SerialPort 設定.....	261
カスタム要素の TMS プロビジョニング.....	143	SIP 設定.....	262
以前に使用していたソフトウェアイメージへの復元.....	144	Standby 設定.....	267
ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット.....	145	SystemUnit 設定.....	271
Cisco Webex Room Navigator の初期設定へのリセット.....	150	Time 設定.....	273
Touch 10 の初期設定へのリセット.....	151	UserInteraction 設定.....	277
Cisco Natural Audio Module IV の初期設定へのリセット.....	152	UserInterface ス設定.....	278
Table Microphone Pro の初期設定へのリセット.....	153	UserManagement 設定.....	292
ユーザーインターフェイスのスクリーンショットをキャプチャする.....	154	Video 設定.....	297
デバイスの設定.....	155	VoiceControl 設定.....	318
デバイス設定の概要.....	156	WebEngine 設定.....	319
アプリ設定.....	165	Webex 設定.....	321
Audio 設定.....	166	WebRTC 設定.....	324
Bluetooth 設定.....	190	ズーム設定.....	325
Bookings 設定.....	191	試験的設定.....	326

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Bluetooth® の用語マークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、かかる商標の Cisco による使用はライセンスに基づいています。その他の商標と商号は、それぞれの所有者のもです。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

物理インターフェイス	327
電源のオン/オフと LED の動作	328
コネクタパネル: Codec EQ	338
コネクタパネル: Codec Plus	339
コネクタパネル: Codec Pro および Room Panorama	340
コネクタパネル: Room Kit	341
コネクタパネル: Room Kit Mini	342
コネクタパネル: Room Bar	343
コネクタパネル: Room Bar Pro	344
コネクタパネル: Room 55	345
コネクタパネル: Room 55 Dual および Room 70	346
コネクタパネル: Room 70 G2 および Room 70 Panorama	347
コネクタパネル: Desk Mini	348
コネクタパネル: Desk および Desk Pro	349
コネクタパネル: Board	350
コネクタパネル: Board Pro	351
コネクタパネル: Room Panorama アンプ	352
Room Navigator 物理インターフェイス	353
Touch 10 物理インターフェイス	354
付録	355
デバイスを Web カメラとして使用したラップトップからのコール	356
パノラマ表示ビデオ	360
リモート モニタリングのセットアップ	361
デバイスの Web インターフェイスを使用したコール情報へのアクセスと応答	362
デバイスの Web インターフェイスを使用したコールの発信	363
デバイスの Web インターフェイスを使用したコンテンツの共有	365
ローカル レイアウトの制御	366
ローカル カメラの制御	367
相手先カメラの制御	368
ルーム分析	369
ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイスのカスタマイズ	371
マクロを使用したビデオ会議デバイスの動作のカスタマイズ	373
ユーザーインターフェイスのボタンの表示または非表示	374
サードパーティ USB 入力デバイスの使用	375
HTTP(S) 要求の送信	376
デジタル サイネージ	377
Web アプリ	378
API 駆動型の Web ビュー	379
入力ソースの構成	380
プレゼンテーションソースの構成	382
デバイスの XML ファイルへのアクセス	384

デバイスの Web インターフェイスからの API コマンドと設定の実行	385
オーディオの高度なカスタマイズ	386
イーサネットポートについて	391
ミニ端子コネクタのピン配列方法	392
オーディオ入力と出力	393
GPIO および 3G-SDI コネクタ	395
COM ポートを使用した API アクセス	396
メンテナンス用のシリアル インターフェイス	397
SystemTools コマンド	402
TCP ポートの開放	403
エフェメラル IP ポート	404
TMS からの HTTPFeedback アドレス	405
オンプレミス登録デバイスの Cisco Webex Edge for Devices へのリンク	406
Cisco Webex Cloud サービスへのデバイスの登録	407
サポートされている RFC	408
最小帯域幅の計算	409
シスコ Web サイト内のユーザー マニュアル	410
Cisco のお問い合わせ先	411

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 1 章

はじめに

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RoomOS ソフトウェアおよびユーザーマニュアル

RoomOS は、デバイスがオンプレミスサービス (CUCM、VCS) および Webex クラウドサービスに登録されている場合、シスコ コラボレーション デバイスにインストールされるオペレーティングシステムです。

ソフトウェアの入手方法とユーザーマニュアルの入手先は、デバイスの登録先によって異なります。

アドミニストレーション ガイドについて

このアドミニストレーション ガイドは、主にビデオ会議デバイスの設定や設定を行う管理者を対象としています。

主にオンプレミスサービス (CUCM、VCS) に登録されたデバイスの機能と設定について説明していますが、機能と設定の大部分は、Webex クラウドサービスに登録されたデバイスにも適用されます。

Project Workplace

オフィスやミーティング ルームをビデオ会議用に整備する際にインスピレーションを得たり、ガイドラインを確認したりするには、次の Cisco Project Workplace を参照することをお勧めします。

▶ <https://www.cisco.com/go/projectworkplace>

オンプレミスで登録済みのデバイス

Software

オンプレミスで登録済みのデバイス用の RoomOS の新しいバージョンは、年に 3 ~ 4 回リリースされます。ソフトウェアは、シスコの Web サイトからダウンロードできます。

▶ <https://software.cisco.com/download/home>

リリースノート

デバイスをアップグレードする前に、ソフトウェアリリースノート (RoomOS 11) を参照することをお勧めします。

▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/products-release-notes-list.html>

▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/products-release-notes-list.html>

▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-board/products-release-notes-list.html>

その他のマニュアル

また、定期的にシスコの Web サイトにアクセスして、この管理者ガイドの最新バージョンや、デバイスに関するその他のマニュアルを確認することを推奨します。

▶ <https://www.cisco.com/go/board-docs> (Board Series)

▶ <https://www.cisco.com/go/desk-docs> (Desk Series)

▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs> (Room Series)

アドミニストレーション ガイドを探すには、[\[ドキュメント \(Documentation\)\]](#) をクリックし、[\[メンテナンスと運用 \(Maintain and Operate\)\]](#) > [\[メンテナンスと運用ガイド \(Maintain and Operate Guides\)\]](#) を検索します。

この製品のガイドの詳細については、▶ [シスコ Web サイト内のユーザー マニュアル](#) の付録を参照してください。

Webex で登録済みのデバイス

Software

Webex クラウド登録デバイス用の RoomOS の新しいバージョンは、毎月リリースされます。ソフトウェアは、組織の Control Hub で設定されたデバイスに自動的にインストールされます。

リリースノート

Webex 展開の最新バージョンの新機能を見つけるには、Webex ヘルプセンターで [「RoomOS デバイスの新機能」](#) を参照することをお勧めします。

▶ <https://help.webex.com/article/6ger7db/>

この項目では、過去にリリースされた機能の概要や、近日中にリリース予定の機能の詳細についても紹介しています。

その他のマニュアル

Webex Cloud サービスに登録されたデバイスの詳細については、以下の Webex ヘルプセンターのサイトを参照してください。

▶ <https://help.webex.com>

オンプレミスで登録済みのデバイスで説明したとおり、シスコの Web サイトには、オンプレミスおよび Webex で登録済みのデバイスの両方に対応するガイドがありますのでご注意ください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (1/13 ページ)

この章では、新機能や改善点の概要の説明と、新規、変更、削除されたデバイスの設定（構成）の一覧を示します。詳細については、ソフトウェアリリースノート（RoomOS11）を参照することをお勧めします。

RoomOS 11.5 の新機能および改善点

新商品

- Cisco Room Bar Pro

初回ウィザードの再スタイル (すべての製品)

初回ウィザードは、ユーザーが Webex、UCM または VCS に登録されているかに関わらず、デバイスの導入プロセスを完了できるようにする双方向のセットアップウィザードです。

RoomOS 11.5 では、以前のウィザードの機能を維持しながら、RoomOS 11 のルックアンドフィールに合わせて初回ウィザードをアップデートしました。今回のリリースでは、以前のウィザードの UI に切り替えるオプションを残しています。

Cisco Room Navigator のオフィスアワー

(すべての製品)

ビデオデバイスで構成したオフィスアワーは、スケジューラと PWA モードの Cisco Room Navigator のペアリングに連動するようになります。

RoomOS 11 ユーザーインターフェイス

(Room Panorama および Room 70 Panorama)

Room Panorama と Room 70 Panorama にも RoomOS 11 ユーザーインターフェイスがあります。これらの製品には、以前のオンプレミスリリースである RoomOS 11.1 の新しいユーザーインターフェイスはありません。

最近の会議についてのデバイスの情報を隠す

(すべての製品)

最近の通話リストにある会議名やその他の表示名を隠す機能。

[非表示 (Hidden)] に構成を設定する場合、「会議」などの意味を持たない会議名に置き換わります。

デスクおよびボードの Zoom 呼制御

(すべての製品)

この機能は、Zoom の統合を使用する場合にボードやデスクデバイスでの Zoom 会議の通話を制御します。これにより、Zoom 呼制御をサポートしていなかったボードやデスクデバイスにおける 11.1 の制限が修正されます。

ケーブルを使用した共有コンテンツに対して更新された UI

(すべての製品)

ケーブルを使用した共有コンテンツ UI フローが更新されました。コンテンツのソースに接続された時にポップアップが表示されるようにしました。以前は、*Video Input Connector [n] PresentationSelection* 設定を使用して動作を構成できるようにしていました。

最も顕著な変更は以下のとおりです。

- PresentationSelection 設定が *AutoShare* の場合、5 秒カウントダウンするポップアップがコンテンツを自動で共有する前に表示されます。カウントが 0 になるまでに自動共有を却下できます。
- PresentationSelection 設定が *OnConnect* の場合、ポップアップの共有または却下をタップするまで画面にポップアップが表示されます。

Webex on Flip

Samsung Flip を使用した Cisco Room Kit Mini は、最初のリリースの RoomOS 11 をサポートしていませんでした。RoomOS 11.5 では、モードを切り替えるマクロを要件として、サポートを再度導入しました。

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

最新情報 (2/13 ページ)

RoomOS 11.5 での設定の変更点

新しい設定

Audio Input Microphone [1..3] Pan *(Codec EQ)*

Audio Microphones AGC *(Room Bar)*

Audio Output USBC [1] Mode *(Codec EQ)*

Cameras Camera ColorSaturation Level *(Desk, Desk Mini, Desk Pro)*

Cameras Camera [n] VideoFormat *(Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55D, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)*

Cameras SpeakerTrack Closeup *(Room Bar)*

Cameras SpeakerTrack HeadDetectorRange *(Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55D, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)*

Cameras SpeakerTrack ZoomRange *(Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55D, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)*

Conference DefaultCall Webex Rate *(すべての製品)*

Conference HideNonVideo OnCall Mode *(すべての製品)*

RoomAnalytics PeoplePresence Input HeadDetector *(すべての製品)*

RoomAnalytics PeoplePresence Input Ultrasound *(すべての製品)*

SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Mode *(すべての製品)*

SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Url *(すべての製品)*

UserInterface Bookings Visibility EarlyJoin *(すべての製品)*

UserInterface Bookings Visibility JoinedParticipants Avatars *(すべての製品)*

UserInterface Bookings Visibility MeetingReminder *(すべての製品)*

UserInterface Bookings Visibility Organizer *(すべての製品)*

UserInterface Features Call CameraControls *(すべての製品)*

UserInterface RoomStatusMenu Visibility *(すべての製品)*

Webex Meetings MeetingChatNotifications Mode *(すべての製品)*

Webex Meetings MeetingChatPreview *(すべての製品)*

Webex Meetings RoomObservedByHost *(すべての製品)*

Webex Meetings AudioNotifications *(すべての製品)*

削除された設定

Cameras SpeakerTrack TrackingMode *(Board Pro)*

Macros XAPI Transport *(すべての製品)*

NetworkServices SSH AllowPublicKey *(すべての製品)*

変更された設定

Conference MaxReceiveCallRate *(Codec EQ)*

旧: デフォルト: 6000

新: デフォルト: 20000

Conference MaxTransmitCallRate *(Codec EQ)*

旧: デフォルト: 6000

新: デフォルト: 20000

Conference PeopleFocus OnCall Mode *(全製品)*

旧: Active/Inactive/Previous

新: Active/Auto/Inactive/Previous

SIP リッスンポート *(すべての製品)*

旧: デフォルト値: オン

新: デフォルト値: オフ

Standby WakeupOnMotionDetection *(Codec EQ)*

旧: デフォルト値: オン

新: デフォルト値: オフ

UserInterface OSD Output *(Board Pro)*

旧: デフォルト値: 自動

新: デフォルト: 1

旧: 1/2/3/Auto

新: 1

Video Input Connector [1] PreferredResolution *(Codec EQ)*

旧: 1920_1080_60

新: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

最新情報 (3/13 ページ)

Video Input Connector [2..3] PresentationSelection (*Room Bar*)

旧 : デフォルト : デスクトップ

新 : デフォルト : OnConnect

Video Output Connector [1..3] MonitorRole (*Codec EQ*)

旧 : Auto/First/PresentationOnly/Second

新 : Auto/First/PresentationOnly/Recorder/Second/Third

Video Output Connector [2] Location HorizontalOffset (*Board Pro*)

旧 : デフォルト : 0

新 : デフォルト : 1

Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Mode (*Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2*)

旧 : Custom/General/Inogeni

新 : Auto/Custom/General

Video Selfview Default OnMonitorRole (*Codec EQ*)

旧 : Current/First/Second

新 : Current/First/Second/Third

Video Selfview OnCall Mode (*Board, Board Pro, Room Bar, Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Desk, Desk Mini, Room 55, Room 55D, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama*)

旧 : デフォルト : オフ

新 : デフォルト : オン

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (4/13 ページ)

RoomOS 11.1 の新機能および改善点

新商品

- Cisco Codec EQ (および Room Kit EQ と Room Kit EQ PTZ 4K バンドル) は、新しい RoomOS 11 ユーザーインターフェイスで利用できるようになりました。
完全なインテグレートオーディオ API およびオーディオ コンソール アプリケーションのロックを解除するには、Codec EQ は、オプション キー AVIntegrator が必要であるという点で Codec Pro とは異なります。
- Cisco Table Microphone Pro は、多方向デジタルイーサネットマイク (audio over IP) です。現在、Codec EQ、Codec Pro、および Room 70 G2 でサポートされています。以前と同様、Room 70 Panorama と Room Panorama でもサポートされています。

デフォルトとしての RoomOS 11 ユーザーインターフェイス

(Room Panorama および Room 70 Panorama を除くすべての製品)

RoomOS 11 ユーザーインターフェイスは、RoomOS 10.19 以降、オンプレミスデバイスのオプトインエクスペリエンスとして利用できます。このリリースでは、RoomOS 11 が唯一のユーザーインターフェイスであり、以前はオンに切り換えるだけで使用できた機能が含まれています。

AirPlay (Board 55/70 を除くすべての製品)

AirPlay のサポートが追加されました。有効にすると、iPhone、iPad、Mac を接続して、画面の共有、共同作業、オーディオやビデオコンテンツの再生などを簡単に行うことができます。

Zoom ミーティングに参加する

(すべての製品)

ワンボタン機能 (OBTP) を使用するか、Zoom ボタンをタップして、ミーティング番号とパスフレーズを入力することで、Zoom ミーティングに参加するためのサポートが追加されました。

ホワイトボードの改善 (Desk および Board Series)

ホワイトボード機能を強化し、形状の挿入、改良版の消しゴム、選択ツールなどの新しいツールを追加しました。形状認識ツールが拡張され、より多くの形状を処理できるようになりました。ホワイトボードに名前を付けたり、保存したホワイトボードを簡単に参照して選択することもできるようになりました。

常時カメラとマイクへのアクセス

(すべての製品)

マイクやカメラへのアクセスを毎回許可するのではなく、デフォルトで許可する Web アプリのリストを作成します。たとえば、WebRTC 会議に特定のサービスを使用する場合は、そのホストをリストに追加することで、ユーザーが WebRTC 会議を開始するたびに自動的にマイクとカメラへのアクセスを許可します。

このデフォルトのアクセスは、xAPI から付与されます。

管理パスフレーズの動作の変更点 (すべての製品)

管理パスフレーズの動作が変更されました。新しいデバイスでは、デフォルトの管理者パスフレーズ以外のパスフレーズを設定するまで、会議機能は無効になります。

デフォルトのパスフレーズは変更されていません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

最新情報 (5/13 ページ)

RoomOS 11.1 での設定の変更点

新しい設定

Apps WallpaperBundles HalfwakelImage (全製品)

Audio Input Ethernet [n] Channel [m] Level (Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

Audio Input Ethernet [n] Channel [m] Gain (Codec EQ)

Audio Input Ethernet [n] Channel [m] Mode (Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

Audio Input Ethernet [n] Channel [m] Pan (Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

Audio Input Ethernet [n] EchoControl Mode (Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

Audio Input Ethernet [n] EchoControl NoiseReduction (Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

Audio Input Ethernet [n] Equalizer ID (Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

Audio Input Ethernet [n] Equalizer Mode (Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

Audio Input Ethernet [n] Mode (Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

Audio Input HDMI [1] Level (Board)

Audio Input HDMI [1] Mode (Board)

Audio Input HDMI [1] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo (Board, Desk Pro)

Audio Input USB C [1] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo (Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room Bar)

Audio Input USB Microphone [1] EchoControl Mode (Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room 55, Room Bar, Room Kit, Room Kit Mini)

Audio Panning Mode (Board 55S/75S/85S, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Bar, Room Panorama, Room 70 Panorama)

BYOD USB CXapi (Desk, Desk Mini, Desk Pro)

CallHistory Recents DisplayName (すべての製品)

Cameras Camera [n] IrCutFilter Mode (Board Pro, Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama)

Cameras Camera [n] IrCutFilter Threshold (Board Pro, Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama)

Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan (Board Pro)

Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt (Board Pro)

Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom (Board Pro)

Cameras PresenterTrack Connector (Board Pro)

Cameras PresenterTrack Enabled (Board Pro)

Cameras PresenterTrack TriggerZone (Board Pro)

Cameras SpeakerTrack DefaultBehavior (全製品)

Conference CapsetFilter (全製品)

Conference MaxMultisiteReceiveRate (全製品)

[Conference MaxTotalReceiveCallRate からパスを変更](#)

Conference MaxMultisiteTransmitRate (全製品)

[Conference MaxTotalTransmitCallRate からパスを変更](#)

Conference PeopleFocus OnCall Mode (全製品)

Macros Diagnostics JavascriptErrors (全製品)

Macros QuickJSEngine (すべての製品)

UserInterface CustomWallpaperOverlay (全製品)

[UserInterface WallpaperOverlay からパスを変更](#)

UserInterface Features Call JoinZoom (全製品)

UserInterface HomeScreen ダッシュボード (全製品)

[アプリのホーム画面ダッシュボードからパスを変更](#)

UserInterface RoomScheduler AmbientTemperature Show (全製品)

UserInterface RoomScheduler PeopleCount Current (全製品)

UserInterface RoomScheduler StatusWhenInUse (全製品)

Video Input AirPlay Beacon (Board 55/70 以外の全製品)

Video Input AirPlay DiscoveryInstructions NetworkName (Board 55/70 以外の全製品)

Video Input AirPlay DiscoveryInstructions ShowNetworkInfo (Board 55/70 以外の全製品)

Video Input AirPlay Mode (Board 55/70 以外の全製品)

Video Input AirPlay Password (Board 55/70 以外の全製品)

D15503.02

RoomOS
11.5
07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (6/13 ページ)

Video Input AirPlay SecurityMode (Board 55/70 以外の全製品)

Video Input Miracast Pin Length (全製品)

Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Mode (Codec Plus, Codec Pro, Room 55, Room 70 G2, Room 70 Single, Room Kit)

Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Name (Codec Plus, Codec Pro, Room 55, Room 70 G2, Room 70 Single, Room Kit)

WebRTC InteractionMode (Board Pro, Desk, Desk Mini)

Zoom DefaultDomain (全製品)

Zoom DialStringOptions (全製品)

削除された設定

アプリホーム画面 ダッシュボード (全製品)

[UserInterface HomeScreen](#) ダッシュボードにパスを変更

Conference MaxTotalReceiveCallRate (全製品)

[Conference MaxMultisiteReceiveRate](#) にパスを変更

Conference MaxTotalTransmitCallRate (全製品)

[Conference MaxMultisiteTransmitRate](#) にパスを変更

UserInterface Concept Mode (Board, Board Pro, Codec Pro, Desk Mini, Desk, Desk Pro, Room Bar, Room 55, Room 70 G2, Room Kit, Room Kit Mini)

UserInterface WallpaperOverlay (全製品)

[UserInterface CustomWallpaperOverlay](#) にパスを変更

変更された設定

Conference FarEndControl Mode (全製品)

旧: デフォルト値: オン

新: デフォルト: Auto

旧: Off/On

新: Auto/Off/On

Conference MaxMultisiteReceiveRate (Board)¹

旧: デフォルト: 10000

新: デフォルト: 6000

旧: 整数 (64..10000)

新: 整数 (64..6000)

Conference MaxMultisiteReceiveRate (Board Pro)¹

旧: デフォルト: 10000

新: デフォルト: 15000

旧: 整数 (64..10000)

新: 整数 (64..15000)

Conference MaxMultisiteReceiveRate (Desk, Desk Mini, Room Bar)¹

旧: デフォルト: 6000

新: デフォルト: 15000

旧: 整数 (64..6000)

新: 整数 (64..15000)

Conference MaxMultisiteReceiveRate (Room 70 Panorama, Room Panorama)¹

旧: デフォルト: 20000

新: デフォルト: 15000

旧: 整数 (64..20000)

新: 整数 (64..15000)

Conference MaxMultisiteTransmitRate (Board Pro, Desk, Desk Mini, Room Bar)²

旧: デフォルト: 6000

新: デフォルト: 15000

旧: 整数 (64..6000)

新: 整数 (64..15000)

Conference MaxMultisiteTransmitRate (Room 70 Panorama, Room Panorama)²

旧: デフォルト: 20000

新: デフォルト: 15000

旧: 整数 (64..20000)

新: 整数 (64..15000)

Conference MaxReceiveCallRate (Board Pro, Codec Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room 70 G2, Room Bar)

旧: 整数 (64..6000)

新: 整数 (64..20000)

¹ これらの構成では、Conference MaxTotalReceiveCallRate からのパスも変更されています。

² これらの構成では、Conference MaxTotalTransmitCallRate からのパスも変更されています。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (7/13 ページ)

Conference MaxTransmitCallRate (Board, Board Pro, Codec Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room 70 G2, Room Bar)

旧: 整数 (64..6000)

新: 整数 (64..20000)

スタンバイサイネージ URL (全製品)

旧: 文字列 (0, 2000)

新: 文字列 (0, 2048)

タイムゾーン (すべての製品)

valuespace に追加: America/Ciudad_Juarez

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL (全製品)

旧: 文字列 (0, 255)

新: 文字列 (0, 2048)

UserInterface Kiosk URL (Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro)

旧: 文字列 (0, 255)

新: 文字列 (0, 2048)

UserInterface OSD Output (Board Pro, Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama)

旧: デフォルト: 1

新: デフォルト: 自動

ビデオ デフォルトレイアウトファミリ リモート (Desk Pro)

旧: Auto/Equal/Overlay/Prominent/Single

新: Auto/Equal/Overlay/Prominent/Prominent_L/Single

Video Input Connector [2] CameraControl Camerald (Board Pro)

旧: デフォルト: 2

新: デフォルト: 3

Video Input Connector [3] CameraControl Camerald (Board Pro)

旧: デフォルト: 3

新: デフォルト: 2

Video Output Connector [2] HDCPPolicy (Desk Pro)

旧: オフ/オン

新: オン

Video Output Connector [2] HDCPPolicy (Room 55)

旧: デフォルト: オフ

新: デフォルト: オン

旧: オフ

新: オン

Video Selfview OnCall Duration (全製品)

旧: デフォルト: 10

新: デフォルト: 5

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (8/13 ページ)

RoomOS 10.19 の新機能および改善点

新製品

- Webex Room Bar (新しい RoomOS 11 UI エクスペリエンスを使用)

新しい RoomOS 11 UI エクスペリエンスを試用

(Codec Plus, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 Panorama, Room Panorama を除くすべての製品)**

このリリースでは、オンプレミスサービスに登録されているすべてのデバイスで RoomOS 11 UI エクスペリエンスを試用できます。デバイスの Web インターフェイスなどから、*UserInterface Concept Mode* の設定を *Compositor* に設定する必要があります。

RoomOS 11 については、ヘルプセンターの記事:

- ▶ 「RoomOS 11 での新しいユーザーエクスペリエンス」 (<https://help.webex.com/n01kjh1/>) を参照してください。

Miracast® を使用したワイヤレス共有

(Desk Hub 以外の全製品)*

クライアントを必要とせずに Windows コンピュータからワイヤレスコンテンツを共有するソリューションです。Miracast を使用するとデスクトップを共有できるため、プレゼンテーション中にプレゼンタビューを表示できます。これには、有線ネットワーク接続が必要です。

デバイスに就業時間を設定する (全製品)*

デバイスに就業時間を設定すると、通常就業時間外にサイネージなどの常時稼働機能をオフにすることができます。また、室内の動きを検出しただけで、デバイスが起動しないようにすることもできます。管理者は、機能のオン/オフの切り替え、時間の設定、スタンバイ/ウェイクアップの動作を構成できます。

ラップトップから会議

(Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70S, Room 70 G2)*

ラップトップから会議する際に、Room Series のデバイスを Web カメラ (スピーカーとマイク付き) として使用できるようになりました。これには、セットアップに Inogeni などの HDMI-to-USB コンバータ (キャプチャデバイス) が必要です。デバイスの UI から、カメラの制御、音量の調整、背景雑音の除去、オーディオ品質の最適化を行うことができます。

組み込みアプリケーション

(Desk Pro, Desk, Desk Mini, Board Series)*

ログインや別のツールへのコンテキストの切り替えを意識せずに、Webex ミーティング内でシームレスに Web アプリを操作できます。

組み込みアプリケーションのサポートにより、Webex デバイスの参加者は、会議中に開いたアプリを確認し、操作できます。参加者が Webex アプリを開始すると、デバイスが自動的に開き、アプリケーションにログインします。

パーソナルモードのデバイスで利用できます。

フレーム

(Board Series, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room Bar)*

会議室に数人が集まっているときは、カメラモードをフレームに変更すると、全員がよく見えるようになります。フレームモードでは、参加者の周囲の不要なスペースが切り取られ、最大 4 つのフレームで、人物がより近くに、均等なサイズで、同じ目線の高さに見えるように設定します。

人の存在機能

(Desk Pro, Desk, Desk Mini, Desk Hub)*

[ディレクトリ (Directory)], [お気に入り (Favorites)], [最近の履歴 (Recents)] の 3 つのリストすべてで、デバイス本体から相手の存在を確認できるようになりました。人の存在機能では、Webex アプリ、ユーザーの Webex デバイスと電話の全体的な可用性を表示します。デバイスから [サイレント (Do Not Disturb)] ステータスまたはカスタムステータスを設定できます。

Webex Edge for Devices にリンクされたパーソナルモードのデバイスでのみ使用できます。

QR コードによるホットデスク

(Desk Pro, Desk, Desk Mini, Desk Hub)*

携帯電話で QR コードをスキャンして、ホットデスク用に構成された Desk Series のデバイスにサインインします。

Webex Edge for Devices にリンクされたデバイスでのみ使用できます。

イマーシブシェア

(Desk Pro, Desk, Desk Mini)*

デバイスは、クライアントから送信された受信側のイマーシブシェアを使用して、正しくレンダリングできます。

Webex アプリからイマーシブシェアを開始すると、Webex Edge for Devices にリンクされた Webex デバイスにも表示されるようになります。

* この機能には RoomOS 11 UI エクスペリエンスが必要です。現在、Board Pro、Desk Hub、Desk Mini、Room Bar でのみデフォルトになっています。他の製品で使用するには、*UserInterface Concept Mode* の構成を明示的に *Compositor* に設定する必要があります。

** Board Pro、Desk Hub、Desk Mini、Room Bar には、デフォルトで RoomOS 11 UI エクスペリエンスがインストールされています。これは、変更できません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (9/13 ページ)

RoomOS 10.19 での設定の変更点

新しい設定

オーディオ 入力 ARC [2] モード *(Codec Plus)*

Audio Microphones HdmiPassthrough MuteButton *(Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2)*

Audio Microphones UsbPassthrough MuteButton *(Board Pro, Desk, Desk Pro, Room Bar)*

Audio Output Ethernet [1] Mode *(Codec Pro, Room 70 G2)*

BYOD QRCodePairing *(Desk Hub, Desk Mini, Desk, Desk Pro)*

Cameras SpeakerTrack Frames Mode *(Board, Board Pro, Codec Plus, Codec Pro, Room Bar, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)*

Conference EmbeddedApp NotificationsOnly *(Board, Board Pro, Desk Mini, Desk, Desk Pro)*

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing *(Desk Mini, Desk, Desk Pro)*

SystemUnit BroadcastName *(全製品)*

Time OfficeHours Enabled *(全製品)*

Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby AutoWakeup *(全製品)*

Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby Delay *(全製品)*

Time OfficeHours WorkDay End *(全製品)*

Time OfficeHours WorkDay Start

Time OfficeHours WorkWeek Friday *(全製品)*

Time OfficeHours WorkWeek Monday *(全製品)*

Time OfficeHours WorkWeek Saturday *(全製品)*

Time OfficeHours WorkWeek Sunday *(全製品)*

Time OfficeHours WorkWeek Thursday *(全製品)*

Time OfficeHours WorkWeek Tuesday *(全製品)*

Time OfficeHours WorkWeek Wednesday *(全製品)*

UserInterface Bookings Visibility TentativeMeetings *(すべての製品)*

UserInterface Concept Mode *(Codec Plus, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 Panorama, Room Panorama を除くすべての製品)*

UserInterface Features Call HdmiPassthrough *(Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2)*

UserInterface Features Call LayoutControls *(全製品)*

UserInterface Features Call ParticipantList *(全製品)*

UserInterface Features Call SelfviewControls *(全製品)*

UserInterface Features Call Webcam *(Board Pro, Room Bar, Room Kit Mini)*

UserInterface Help Tips *(Codec Plus, Codec Pro, Room Bar, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)*

UserInterface MuteWarning *(全製品)*

Video Input Miracast Mode *(Desk Hub を除くすべての製品)*

Video Output Connector [n] HDCPPolicy *(Board Pro, Codec Plus, Codec Pro, Desk Hub, Desk Pro, Room Bar, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)*

Video Output HDMI Passthrough Allowed *(Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2)*

Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Delay *(Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2)*

Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Enabled *(Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2)*

Video Output HDMI Passthrough OutputConnector *(Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2)*

削除されたコンフィギュレーション

なし。

変更されたコンフィギュレーション

Audio Microphones NoiseRemoval Mode *(すべての製品)*

旧: デフォルト: 手動

新: デフォルト: 有効

Audio Microphones UsbPassthrough MuteButton *(Room Kit Mini)*

旧: デフォルト: Inactive

新: デフォルト: Active

Board

最新情報 (10/13 ページ)

Audio USB Mode (*Board Pro, Desk Hub, Desk Mini, Desk, Desk Pro, Room Bar, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55*)

[valuespace](#) に追加: AdditionalSpeaker

タイムゾーン (*すべての製品*)

[valuespace](#) に追加: ヨーロッパ/キエフ

ユーザインタラクション 挙手 CMS (*すべての製品*)

旧: デフォルト: False

新: デフォルト: True

UserInterface Language (*すべての製品*)

[valuespace](#) に追加: ウクライナ語

Video Input Connector [2, 3] Visibility (*Desk, Desk Pro*)

旧: デフォルト: IfSignal

新: デフォルト: Always

Video Input Connector [2] Visibility (*Desk Mini*)

旧: デフォルト: IfSignal

新: デフォルト: Always

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (11/13 ページ)

RoomOS 10.15 の新機能および改善点

キオスクモード (Board Pro, Desk Mini) *

キオスクモードでは、デバイスのホーム画面を、自分でホストして管理するカスタム Web アプリに置き換えることができます。これにより、デバイスを仮定の受付またはヘルプデスクに変えることができます。デバイスを意図した目的にのみ使用できるように、その他のユーザーインターフェイスはロックされます。

Microsoft OneDrive ホワイトボードを開く

(Board Pro, Desk Mini) *

デバイスの [ファイル (File)] ボタンから直接、Microsoft OneDrive ホワイトボードを保存および開くことができます。

Room Navigator の永続的な Web アプリ

(Room Navigator)

Room Navigator でサードパーティの Web アプリケーションを実行すると、会社のカスタムソリューションを統合して、会議室の予約管理や、職場のガイドラインや情報を伝達することができます。選択したアプリは、RoomOS のユーザーインターフェイスに代わり、Room Navigator の画面全体に表示されます。

永続的な Web アプリは、ネットワークを介してデバイスにペアリングされている Room Navigator でのみ使用できます。

Webex デバイスでの T3 アラーム検出 (全製品)

マクロとサードパーティの統合を使用することにより、デバイスでは外部 T3 火災警報器のオーディオ信号を認識し、xAPI でステータス変更をトリガーできます。本機能は、米国の業界標準のアラームパターンである T3 アラームのみをサポートします。

デバイスがアラームを検出することを保証するものではありません。この機能に頼って警報の意識を高めるべきではありませんし、他の安全やセキュリティ対策および文書に取って代わるものではありません。

人物フォーカス レイアウト オプション

(Board Pro, Desk Mini) *

人物フォーカスは、どのレイアウト群にも適用できるレイアウトオプションです。人物フォーカスでは、不要な背景を削除することにより、画面の領域を最適化します。

クローズドキャプションのリアルタイム翻訳

(すべての製品)

ユーザーは、言語を選択すると、受信したクローズドキャプションの翻訳を表示できます。

Webex アシスタントが有効になっている場合、クローズドキャプションとリアルタイムの翻訳が利用できます。オンプレミスのサービスに登録されているデバイスは、Webex Edge for Devices にリンクされている必要があります。

ホットデスク (Desk Mini, Desk Hub) *

ホットデスクは、Desk Series のデバイスでのみサポートされています。共有デバイスにサインインして予約すると、まるで個人のデバイスであるかのようなメリットが得られます。

デバイスがオンプレミスサービスに登録されている場合、ホットデスクをサポートするには、デバイスを Webex Edge for Devices にリンクする必要があります。

USB-C ケーブルによるペアリング

(Desk Pro, Desk, Desk Mini, Desk Hub)

超音波ペアリングの代わりに USB-C ケーブルを使用して、Desk Series のデバイスをペアリングできます。

デバイスがオンプレミスサービスに登録されている場合、この機能をサポートするには、デバイスを Webex Edge for Devices にリンクする必要があります。

USB 転送 (Desk Hub)

USB キーボードやマウスなどのコンピュータの周辺機器を Desk Hub の USB-A ポートまたは (背面から見て) 左側の USB-C ポートに接続する場合は、これらのポートで USB 転送を有効にすることができます。この機能は、ホットデスク環境で便利ことがあります。ユーザーは、コンピュータを Desk Hub に接続すると、周辺機器に自動的にアクセスできます。

Video Input Connector [n] Quality 構成の変更

(全製品)

このソフトウェアリリースでは、[シャープネス (Sharpness)] の動作を変更し、[自動 (Auto)] を追加しました。

- 新しい値の [自動 (Auto)] は、以前のリリースで動作していた [シャープネス (Sharpness)] と同じように動作します。最初に、[自動 (Auto)] によって可能な限り最高の解像度に近づけます。モーションが検出されると、自動的にエンコードが変更され、最高に近いフレームレートが得られます。
- [シャープネス (Sharpness)] を選択すると、ストリームでは可能な限り最高の解像度が得られますが、自動変更は行われません。
- 以前はデフォルトとして [シャープネス (Sharpness)] が設定されていたコネクタでは、デフォルト値が [自動 (Auto)] に変更されました。

デフォルト値を使用している場合は、変更気付かないはずですが、ただし、この設定を明示的に [シャープネス (Sharpness)] に設定した場合、自動による動作は失われます。

* 一部の機能には RoomOS 11 UI エクスペリエンスが必要です。これは、現在 Board Pro, Desk Hub, Desk Mini でのみ使用されています。デバイスが Webex クラウドに登録されているか、クラウド管理ソフトウェアアップグレードを備えた Webex Edge for Devices にリンクされている場合、Board, Desk, Desk Pro, および Desk Limited Edition で RoomOS 11 UI エクスペリエンスを切り替えることができます。オンプレミスのみの展開では使用できません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

最新情報 (12/13 ページ)

RoomOS 10.15 での設定の変更点

新しい設定

Audio Microphones PhantomPower (Room 55 Dual, Room 70)

Audio Output Ethernet [1] Mode (Room 70 Panorama)

BYOD USBForwarding USBA Enabled (Desk Hub)

BYOD USBForwarding USBC Enabled (Desk Hub)

Cameras Camera Brightness Mode (Desk Hub)

Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber (Board Pro)

Files Services OneDrive TemporaryPersonalSignIn (Desk Hub を除くすべての製品)

Logging Debug Bluetooth (すべての製品)

NetworkServices SNMP CommunityName (Board Pro, Desk, Desk Hub, Desk Mini)

NetworkServices SNMP Mode (Board Pro, Desk, Desk Hub, Desk Mini)

NetworkServices SNMP SystemContact (Board Pro, Desk, Desk Hub, Desk Mini)

NetworkServices SNMP SystemLocation (Board Pro, Desk, Desk Hub, Desk Mini)

NetworkServices Wifi Settings A_MPDU (すべての製品)

ネットワークサービス Wifi クラウド A_MPDU から名前変更

NetworkServices Wifi Settings FrequencyBand (すべての製品)

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels HttpProxy (Board, Board Pro, Codec Plus, Codec Pro, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Kit, Room Kit Mini, Room Panorama, Room 70 Panorama)

PhoneCradle WirelessCharging Mode (Desk Hub)

RoomAnalytics T3AlarmDetection Mode (全製品)

RoomAnalytics T3AlarmDetection Timeout (全製品)

Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed (Desk Hub 以外の全製品)

Standby WakeupAtMeetingStart (すべての製品)

USBC EthernetForwarding Mode (Desk Hub)

UserInterface Features Files Start (Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition)

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL (Desk Hub を除くすべての製品)

UserInterface Kiosk Mode (Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition)

UserInterface Kiosk URL (Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition)

WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts (Desk Hub 以外の全製品)

Webex Hotdesking DefaultBookingEndTime (Desk, Desk Hub, Desk Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition)

WebRTC Provider MicrosoftTeams CompatibilityMode (Board, Codec Plus, Codec Pro, Desk Pro, Desk Limited Edition, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Kit, Room Kit Mini, Room Panorama, Room 70 Panorama)

削除された設定

Cameras Camera [1..7] MotorMoveDetection (Codec Pro)

Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan (Room Panorama, Room 70 Panorama)

Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt (Room Panorama, Room 70 Panorama)

Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom (Room Panorama, Room 70 Panorama)

Cameras PresenterTrack Connector (Room Panorama, Room 70 Panorama)

Cameras PresenterTrack Enabled (Room Panorama, Room 70 Panorama)

Cameras PresenterTrack PresenterDetectedStatus (Room Panorama, Room 70 Panorama)

Cameras PresenterTrack TriggerZone (Room Panorama, Room 70 Panorama)

NetworkServices WifiCloud A_MPDU (すべての製品)

NetworkServices Wifi Settings A_MPDU に名前変更

変更された設定

Audio Input HDMI [n] Level (Board Pro, Codec Plus, Codec Pro, Desk, Desk Pro, Desk Limited Edition, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room Kit, Room Kit Mini, Room Panorama, Room 70 Panorama)

旧: デフォルト: -10

新: デフォルト: -5

Audio Input USBC [1] Level (Board Pro, Desk, Desk Hub, Desk Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition)

旧: デフォルト: -10

新: デフォルト: -5

BYOD NFCPairing (Desk Hub)

旧: デフォルト: 無効

新: デフォルト: 有効

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

新機能 (13/13 ページ)

Video Input Connector [n] OptimalDefinition Threshold60fps *(すべての製品)*

旧: 1024_576/1280_720/1920_1080/512_288/768_448/Never

新: 1024_576/1280_720/1920_1080/512_288/768_432/Never

Video Input Connector [1] CameraControl Mode *(Desk Hub)*

旧: オフ/オン

新: オフ

Video Input Connector [2] CameraControl Mode *(Desk Hub)*

旧: デフォルト: オフ

新: デフォルト: オン

旧: オフ

新: Off/On

Video Input Connector [2] PreferredResolution *(Board Pro)*

旧: デフォルト: 3840_2160_30

新: デフォルト: 3840_2160_60

旧: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30

新: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60

Video Input Connector [1] PresentationSelection *(Desk Hub)*

旧: デフォルト: OnConnect

新: デフォルト: Desktop

Video Input Connector [1..2] Quality *(Desk Hub)*

Video Input Connector [1..3] Quality *(Codec Plus, Room 55 Dual, Room 70)*

Video Input Connector [2..2] Quality *(Board, Room Kit, Room Kit Mini)*

Video Input Connector [2..3] Quality *(Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Desk Limited Edition, Room 55)*

Video Input Connector [1..6] Quality *(Codec Pro, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama)*

旧: モーション/シャープネス

新: 自動/モーション/シャープネス

Video Input Connector [1] Quality *(Board, Desk Hub, Desk Mini, Room Kit, Room Kit Mini)*

Video Input Connector [1, 3] Quality *(Board Pro, Codec Plus, Desk, Desk Pro, Desk Limited Edition, Room 55, Room 55 Dual, Room 70)*

Video Input Connector [3..5] Quality *(Codec Pro, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama)*

旧: デフォルト: シャープネス

新: デフォルト: 自動

Video Output Connector [2] Resolution *(Desk Hub)*

旧: 1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60/自動

新: 自動

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

製品機能の概要

卓越したビデオおよび音声エクスペリエンスと洗練されたデザインを融合して、Cisco Webex Room、Desk、および Board ポートフォリオのすべてのデバイスは強力なコラボレーションソリューションを実現します。ハドルルームから役員室まですべての部屋に対応でき、個人用デスクトップにも対応できる Webex デバイスが用意されており、豊富な機能を備え、容易に拡張できます。

Cisco Webex デバイスポートフォリオ全体で期待できる機能の一部は次のとおりです。

- ・ スマートな会議：カメラのベストオーバービュー、自動フレーミングおよびスピーカートラック、ノイズリダクション、OBTP による簡単な会議への参加、Wi-Fi サポート、タッチコントロールまたは Webex アプリによる簡単な制御。
- ・ スマートなプレゼンテーション：シングル、デュアル、またはトリプル画面、有線またはワイヤレス 4K コンテンツ共有、デュアルコンテンツソースのサポート。
- ・ スマートな会議室：自動ウェイクアップ、人数カウント、環境および周辺機器の制御。
- ・ 柔軟な登録：クラウド導入とオンプレミス導入の両方に対応して構築。また、*Webex Edge for Devices* を使用して、オンプレミスの登録済みデバイスを Webex クラウドサービスにリンクし、クラウド機能にアクセスして選択できます。

以下のページには、デバイスごとに異なる機能に関する情報を含む、各製品の詳細が記載されています。

Room シリーズの概要 (1/3 ページ)

Room Bar、Room Bar Pro

Cisco Room Bar は、コンパクトでありながらパワフルなビデオ コラボレーション デバイスです。広視野角 (120 度) カメラ、ノイズキャンセリングマイク、デュアルステレオスピーカー、コーデックが 1 つのデバイスに組み込まれています。ハドルスペースや小規模の会議室向けにデザイン (デバイスから 3 m 以内に最大 5 名まで) 少し大きめの中規模の会議室では、最高のオーディオエクスペリエンスを確保するために外部マイクを追加できます。

より大きく、より強力な Cisco Room Bar Pro は、デュアルカメラ (112 度の視野レンズとシームレスに連動する望遠レンズ)、3 チャンネルのスピーカーシステム、内蔵マイクアレイ、および強力な豊富な接続オプションを備えたコーデックを備えています。最大 3 台の画面を接続し、アナログまたはデジタルの外部マイクを選択して、大きめの中規模の会議室で最高の音声体験を得ることができます。

どちらのデバイスも、HDMI CEC を介してフラットパネル画面と適切に統合され、壁面または画面に簡単に取り付けることができます。



フラットパネル ディスプレイの上部に設置された Room Bar



フラットパネル ディスプレイの上部に設置された Room Bar Pro

Room Kit、Room Kit Mini

Cisco Room Kit では、カメラ、コーデック、スピーカー、およびマイクが単一のデバイスに統合されています。簡単に設置でき、HDMI CEC によってフラットパネル画面との優れた統合が実現されます。Room Kit は、最大 7 席の会議室用に設計されています。

若干規模の小さい Cisco Room Kit Mini は同じ機器を搭載し、120 度の視野角を持っており、2 ~ 5 人のハドルルームに最適です。コンピュータに接続されている場合、Room Kit Mini を USB カメラとして使用できます。Room Kit Mini は Samsung Flip とのバンドルでも利用できます。そのため、Room Kit Mini のビデオ会議機能と Samsung Flip のホワイトボード機能およびコンテンツ機能を組み合わせることができます。



フラットパネル ディスプレイの上部に設置された Room Kit

Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro

シスコのコーデックは、HDMI および CEC を使用して外部ディスプレイと統合できる強力なコラボレーション ソリューションです。シスコでは、コーデックと Cisco Quad Camera、Precision 60 Camera¹、PTZ 4K カメラ、PTZ-12 カメラ²、および Cisco タッチコントローラ ユーザーインターフェイスを組み合わせせた Room Kit バンドルを提供しています。

Cisco Codec EQは、最大 3 つの画面、3 つのアナログまたは 8 つのデジタル指向性マイクが統合されています。Codec Pro と同様に、大規模な会議室、役員室、研修室、講堂に適しています。AV インテグレーションパッケージ (オプションキー) を使用すると、すべてのインテグレーションオーディオ API が使用できます。

Cisco Codec Proは、最大 3 つの画面、8 つのアナログまたは 4 つのデジタル指向性マイクが統合されています。大規模な会議室、役員室、研修室、講堂にも適しています。コーデックは、AV インテグレーションを考慮して構築されています。

Cisco Codec Plus には、最大 2 つの画面と 3 つのアナログマイクが統合されています。中規模から大規模の会議室に適しています。



¹ Codec Pro および Codec Plus のみ。

² Codec Plus のみ。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

D15503.02

RoomOS 11.5

07-2023

CISCO

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Room シリーズの概要 (2/3 ページ)

Room 55

Cisco Room 55 には、カメラ、コーデック、画面、スピーカー、およびマイクがすべて 1 台のデバイスに統合されています。単一の 55" 画面をフロアスタンド、車輪付きベース、または壁に取り付けることができます。Room 55 は、小規模から中規模の会議室向けに完全に設計され、作業スペースをビデオコラボレーションハブに変換します。



フロアスタンドに取り付けられた Room 55

Room 70 G2、Room 70、Room 55 Dual

Cisco Room 70 G2 は Codec Pro に基づいており、クアッドカメラおよび内蔵スピーカーとマイク*を搭載した 70 インチの LED シングル画面またはデュアル 4K 画面で構成されています。シングル画面設定により人中心のエクスペリエンスが実現しますが、デュアル画面では強力な人中心および人とコンテンツ中心のエクスペリエンスが生み出されます。

同様の機能を備えた Cisco Room 70 は、Codec Plus をベースにしています。

容易に拡張でき、スピーカートラッキングおよび自動フレーミング機能を提供する Room 70/G2 Single または Dual は、最大 14 人を収容できる大きな会議室に適したオールインワンソリューションです。

小さな画面のみを備えた Room 70 Dual と同様に、Cisco Room 55 Dual は Codec Plus に基づいており、クアッドカメラ、および内蔵スピーカーとマイク*を搭載した 2 つの 55 インチの 4K 画面を備えています。Room 55 Dual は、最大 12 人までの中規模から大規模の会議室に最適です。

これらの各製品には、自立型フロアスタンド、壁面固定型フロアスタンド、および壁面取り付けキットの 3 つの取り付けキットのオプションがあります。



フロアスタンドに取り付けられた Room 70 Single G2 / Room 70 Single



フロアスタンドに取り付けられた Room 70 Dual G2 / Room 70 Dual

* スピーカートラッキング専用の内蔵マイク。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

Room シリーズの概要 (3/3 ページ)

Room Panorama、Room 70 Panorama

現代の経営幹部向けに作成された Cisco Room Panorama は、大規模の会議室を変革し、世界中のチームを対面式で結び付けます。

Codec Pro および Quad Camera を中核とするオールインワンソリューションである Room Panorama は、2 つの 82 インチの 8K ビデオ画面、コンテンツプレゼンテーション用の 65 インチの 4K 画面を備えています。カメラは、パノラマビデオ、スピーカートラッキング、自動フレーミング機能を提供します。特別に作られた内蔵スピーカーシステムは、16 チャンネルのアンプで駆動される、12 個のメインスピーカーと 4 個の低音スピーカーで構成されています。正確なスピーカートラッキングが可能な内蔵マイクアレイ、および最大 8 個の外部マイクのサポートを備えているため、言葉を聞き逃すことはありません。

Cisco Room 70 Panorama はハイエンドのコラボレーションシステムで、中規模から大規模の会議室やスペースで容易に拡張できます。Cisco Room 70 Dual G2 に基づいた Room 70 Panorama は、強力なコーデック、クアッドカメラ、2 つの 70 インチの LED 画面、コンテンツプレゼンテーション用の 55 インチまたは 65 インチの 4K 画面を備えています。内蔵されたスピーカーとマイクによって、正確なスピーカートラッキングが可能で、システムは最大 8 個の外部マイクをサポートします。カメラは、パノラマビデオ、スピーカートラッキング、自動フレーミング機能を提供します。取り付けキットのオプションには、自立型フロアスタンド、壁面固定型フロアスタンド、および壁面取り付けキットの 3 つの取り付けキットのオプションがあります。



Room Panorama



壁面取り付けされた Room 70 Panorama と 65 インチのコンテンツ画面 (上)



フロアスタンドの Room 70 Panorama と 55 インチのコンテンツ画面 (下)

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Desk シリーズの概要

Cisco Desk Pro, Cisco Desk, Cisco Desk Mini デバイスは、1 人または 2 人を収容するオフィスまたはフォーカスルームでの個人用のデスクベースのコラボレーション用に設計されています。高解像度のタッチスクリーン、広角ビューを備えたカメラ、高度な音声システムを搭載した Desk Series は、Cisco の Room シリーズと同様に強力な優れたビデオエクスペリエンスを提供しますが、デスクトップ向けに設計されています。

USB-C 接続およびタッチリダイレクト、簡単なコンテンツ共有、画面拡張を使用すると、Desk Series デバイスがオールインワンのプライマリモニターおよびコラボレーションデバイスになります。



Desk Pro: 正面および背面から表示



Desk Mini

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Board シリーズの概要

Cisco Board と Cisco Board Pro は、4K カメラ、内蔵マイクとスピーカー、高解像度 4K タッチスクリーンを備えたオールインワンデバイスです。

これらのデバイスは、プレミアム ビジュアルコラボレーション、ビデオ会議、コ・クリエーションを組み合わせています。ビデオ会議、デジタルホワイトボード、プレゼンテーション、コンテンツの共有に参加することで、チームがさまざまな物理的な会議スペースでコラボレーションし、リモートのメンバーとつながるようにサポートします。

Board Pro

Board Pro には、フロアスタンド、ホイールベース、壁面固定型の 3 つの取り付けオプションがあります。

Board Pro には 2 種類の画面サイズがあり、小規模から大規模の会議スペース向けに設計されています。

- 55 インチの LED 画面を備えた Board Pro 55。
- 75 インチの LED 画面を備えた Board Pro 75。

Board

Board には、フロアスタンド、壁面スタンド、壁面固定型の 3 つの取り付けオプションがあります。

Board には、次の 3 つの画面サイズがあります。

- Board 55 および 55S (55 インチの LED 画面を搭載)。最大 5 人まで使用できるハドルルーム用に設計されています。
- Board 70 および 70S (70 インチの LED 画面を搭載)。最大 8 人の会議室用に設計されています。
- Board 85S (85 インチの LED 画面を搭載)。講堂、トレーニングスペース、教室など、大規模なコラボレーションスペース向けに設計されています。

第 2 世代の Board は S シリーズと呼ばれ、ハードウェアプラットフォームにマイナーな最適化が施されています。



Board Pro (ホイールベース)



Board Pro (フロアスタンド)



Board Pro (壁面固定)

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ会議デバイスの管理方法 (1/5 ページ)

一般的には、この管理者ガイドに記載されているように、デバイスの管理とメンテナンスにデバイスの Web インターフェイスを使用することを推奨します。

それ以外にも次の方法でデバイスの API にアクセスできます。

- HTTP/HTTPS (デバイスの Web インターフェイスでも使用)
- WebSocket
- SSH
- シリアル接続

他のアクセス方法や API の使用方法の詳細については、デバイスの API ガイドをご覧ください。

ヒント

設定またはステータスが API で使用可能な場合、ウェブ インターフェイスの設定またはステータスは次のような API の設定またはステータスに変換されます。

`X > Y > Z` に Value を設定 (Web) することは次と同等です。

`xConfiguration X Y Z: 値 (API)`

`X > Y > Z` ステータス (Web) にチェックマークを付けることは

以下と同じです。

`xStatus X Y Z (API)`

次に例を示します。

`[システムユニット (SystemUnit)] > [名前 (Name)]` を `[MySystem]` と設定することは、次と同等です。

`xConfiguration SystemUnit Name: MySystem`

`[システムユニット (SystemUnit)] > [ソフトウェア (Software)] > [バージョン (Version)]` ステータスにチェックマークを付けることは

以下と同じです。

`xStatus SystemUnit Software Version`

デバイスの Web インターフェイスでは、API の場合よりも多くの設定とステータスを使用できます。

アクセス方式	注	方式の有効化/無効化方法
HTTP/HTTPS	<ul style="list-style-type: none"> • デバイスの Web インターフェイスで使用されます。 • 非セキュア (HTTP) 通信またはセキュア (HTTPS) 通信 • HTTPS: デフォルトで [有効 (Enabled)] • HTTP: デバイスを以前のソフトウェア バージョンから CE9.4 以降にアップグレードし、アップグレード後に初期設定にリセットしていない場合のみ、デフォルトで [有効 (Enabled)] 	<p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [HTTP] > [モード (Mode)]</p> <p>変更を有効にするには、デバイスを再起動してください。</p>
WebSocket	<ul style="list-style-type: none"> • HTTP に関連付けられるため、WebSocket を使用するには HTTP または HTTPS も有効化する必要があります • 暗号化 (wss) または非暗号化 (ws) の通信 • デフォルトで [無効 (Disabled)] 	<p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [HTTP] > [モード (Mode)]</p> <p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [WebSocket]</p> <p>変更を有効にするには、デバイスを再起動してください。</p>
SSH	<ul style="list-style-type: none"> • セキュアな TCP/IP 接続 • デフォルトで [有効 (Enabled)] 	<p>[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [SSH] > [モード (Mode)]</p> <p>デバイスを再起動する必要はありません。変更が有効になるまでに少し時間がかかる場合があります。</p>
シリアル接続	<ul style="list-style-type: none"> • ケーブルを使用してデバイスに接続します。IP アドレス、DNS、ネットワークは不要。 • デフォルトで [有効 (Enabled)] • デバイスは大量のフィードバックを返す可能性があるため、デフォルトのボーレートを推奨します ([シリアルポート (SerialPort)] > [ボーレート (BaudRate)])。 • セキュリティ上の理由から、デフォルトではサインインを求められます ([シリアルポート (SerialPort)] > [ログイン必須 (LoginRequired)])* 	<p>[シリアルポート (SerialPort)] > [モード (Mode)]</p> <p>変更を有効にするには、デバイスを再起動してください。</p>

* Board の場合: [\[シリアルポート \(SerialPort\)\] > \[ログイン要求 \(LoginRequired\)\]](#) 設定は、Board 55S、70S、85S のみで使用できます。Board 55 および 70 では常にサインインが必要です。



すべてのアクセス方式を無効にする ([オフ (Off)] に設定する) と、デバイスを設定できなくなります。再び有効にする ([オン (On)] に設定する) ことはできないため、復元するにはデバイスを初期設定にリセットする必要があります。

ビデオ会議デバイスの管理方法 (2/5 ページ)

デバイスの Web インターフェイス

デバイスの Web インターフェイスは、デバイスの管理ポータルです。コンピュータから接続して、デバイスをリモートで管理できます。フル設定アクセスが提供され、メンテナンス用のツールやメカニズムを利用できます。

注: デバイスの Web インターフェイスを使用するには HTTP または HTTPS が有効になっている必要があります ([\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\] > \[HTTP\] > \[モード \(Mode\)\]](#) 設定を参照)。

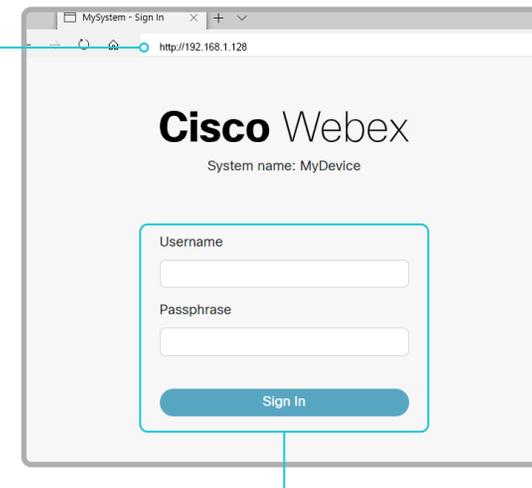
Web ブラウザは最新版を使用することを推奨します。*

デバイスへの接続

Web ブラウザを開き、デバイスの IP アドレスをアドレスバーに入力します。

IP アドレスの確認方法

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。
2. [\[このルームデバイスについて \(About this room device\)\]](#) を選択します。

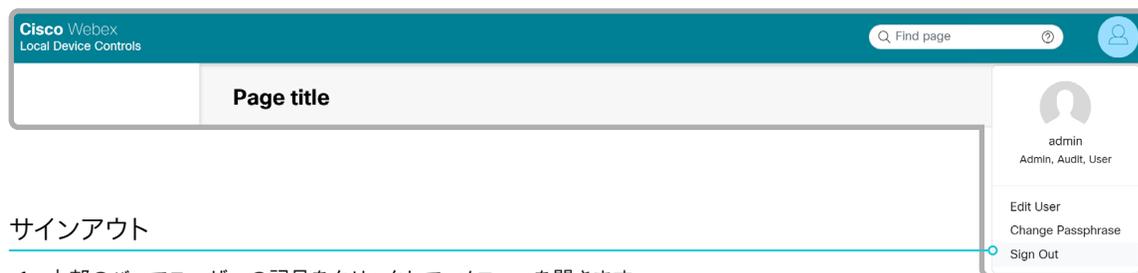


サインイン

デバイスのユーザー名とパスフレーズを入力して、[\[サインイン \(Sign In\)\]](#) をクリックします。

-  デバイスには、*admin* というデフォルト ユーザーがパスフレーズなしで用意されています。パスフレーズがまだ設定されていない場合は、[\[パスフレーズ \(Passphrase\)\]](#) フィールドを空白のままにします。

admin ユーザーのパスワードを設定する必要があります。



サインアウト

1. 上部のバーでユーザーの記号をクリックして、メニューを開きます。
2. [\[サインアウト \(Sign Out\)\]](#) をクリックします。

* Internet Explorer はサポートされていません。

ビデオ会議デバイスの管理方法 (3/5 ページ)

デバイスの Web インターフェイスの構成方法

左側のメニューからページまたはトピックを選択します。検索するページを検索するための検索フィールドが上部のバーにあります。

存在するページは、次の条件に依存します。

- デバイスの種類とサービスの登録 (Webex, Cisco UCM, VCS, Webex Edge for Devices)
- 接続された周辺機器と設定
- サインインしているユーザーのロールとアクセス権

つまり、下の図に示すメニュー項目の一部がデバイスに存在しない可能性があります。

ユーザー管理、ユーザーロール、およびアクセス権の詳細については、▶ 「ユーザー管理」の章を参照してください。

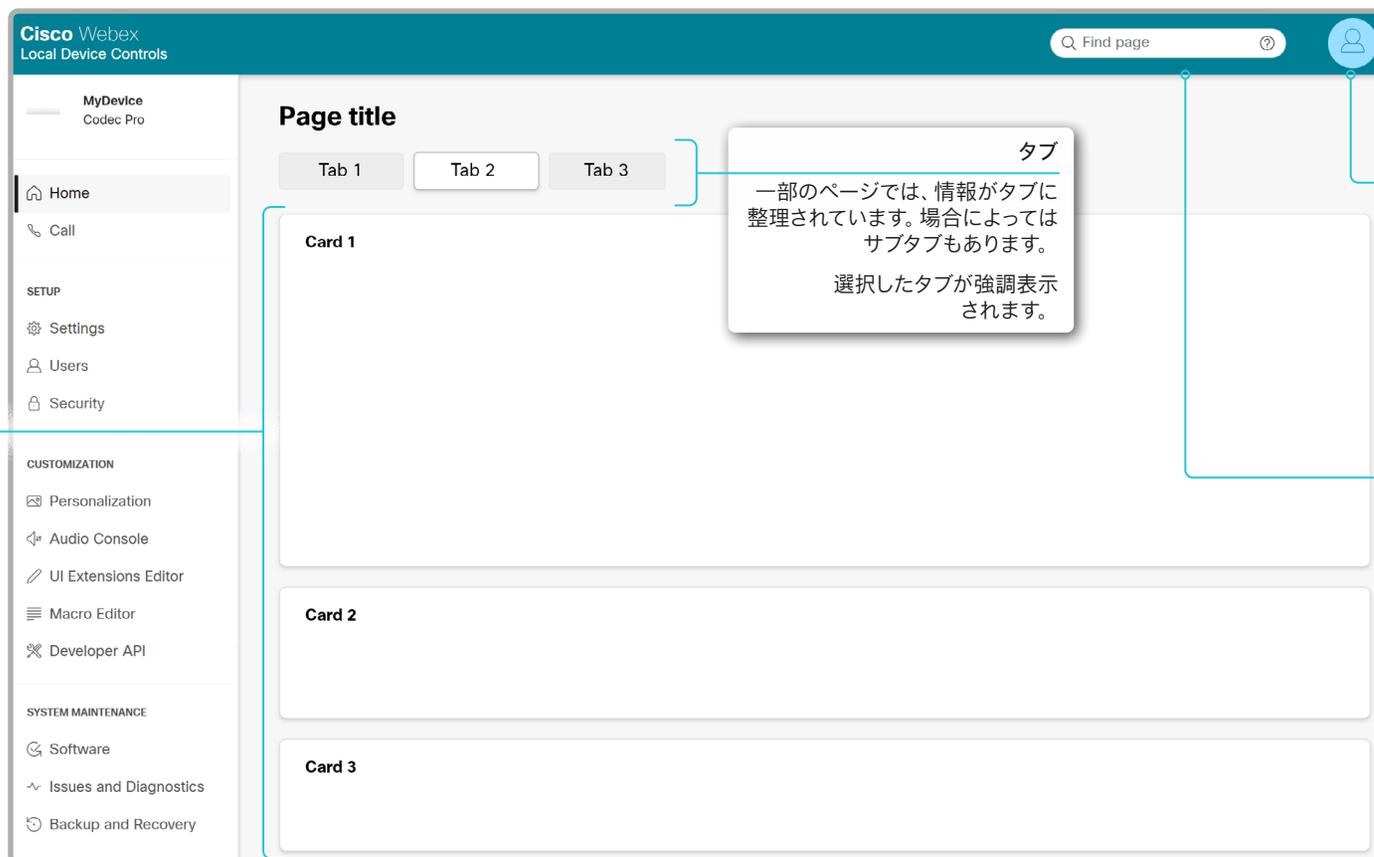
デバイスの名前とタイプ

メイン メニュー

項目をクリックすると、ページが開きます。

カード

ページ、タブ、またはサブタブに関する情報は、さらにカードにグループ化されることがあります。



タブ
一部のページでは、情報がタブに整理されています。場合によってはサブタブもあります。
選択したタブが強調表示されます。

ユーザーメニュー

記号をクリックすると、サインインしているユーザーが表示されます。ユーザー設定を編集し、パスワードを変更し、サインアウトすることもできます。

検索フィールド

ページを検索するには、このフィールドを使用します。関連ページの候補は、入力を開始すると表示されます。それらのいずれかをクリックすると、対応するページが開きます。

ビデオ会議デバイスの管理方法 (4/5 ページ)

デバイスの Web インターフェイスのメインメニュー

ページを開き、デバイスからコールを設定できます。カメラの位置を変更したり、マイクをミュートしたり、音量を調整したり、レイアウトを変更したり、コールの詳細を確認することができます。

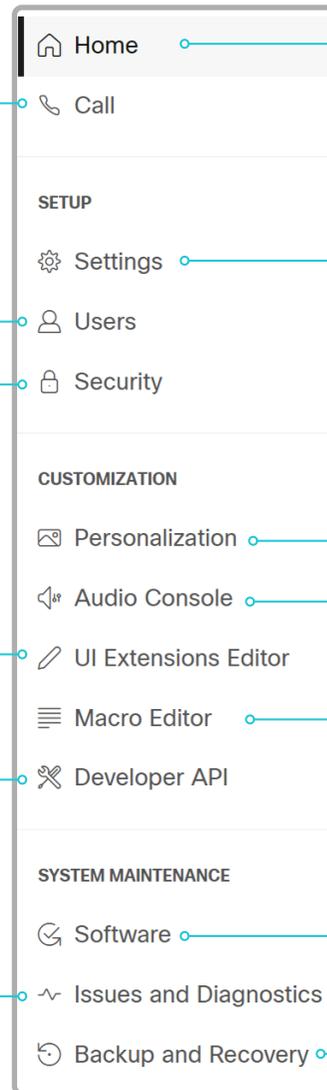
ページを開くと、ユーザーの追加、編集、削除、またはユーザーのパスワードの変更を行うことができます。このページからリモートサポートユーザーを作成することもできます。

異なるサービスおよびバックエンドとの通信に必要な証明書をアップロードおよび表示できるページを開きます。サインインバナーを作成して、デバイスの再起動時に自動的にリセットするシステムコンポーネントを選択することもできます。

カスタム UI パネルとアクションボタンを作成できる、UI 拡張エディタを開きます。

デバイスの XML ファイルを表示し、コマンドと構成を実行できるページを開きます。

アクティブな診断メッセージを確認し、ログをダウンロードし、ユーザーインターフェイスと画面に表示されるメッセージとインジケータのスクリーンショットを作成できるページを開きます。



IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号、アクティブ ネットワーク インターフェイス、ソフトウェアバージョン、SIP アドレス。問題、登録ステータス、使用率、環境データなどの一般情報を一覧で表示します。

以下にアクセスできるページが開きます。

- ・ デバイスの設定およびステータス。
- ・ 定義済みのルームタイプテンプレート。 (*Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2 のみ*)
- ・ カメラ、画面、マイク、その他の入力、出力、および周辺機器に関する詳細情報。
- ・ この機能をサポートするカメラがある場合、プレゼンタトラッキングのセットアップと有効化。 (*Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, および Room 70 G2 のみ*)
- ・ 電子メールでホワイトボードと注釈を送信できるようにするための SMTP サーバーの設定。 (*Desk, Desk Mini, Desk Pro, Board, Board Pro, Room Kit Mini と Samsung Flip のみ*)

ブランディング要素またはその他の背景画像の追加、着信音の選択、ローカル連絡先リスト (お気に入り) の作成などを行ってデバイスを個人用に設定できるページが開きます。

オーディオ機能の高度なカスタマイズが可能なグラフィカル インターフェイスを提供するオーディオコンソールが開きます。 (*AVIntegrator オプション付き Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama のみ*)

デバイスの動作を自動化またはカスタマイズするコード (マクロ) のスニペットを作成できるマクロエディタを開きます。

新しいソフトウェアとオプションキーをインストールできるページを開きます。プロダクトキーも変更できます。プロダクトキーは、シスコのテクニカルサポートの担当者から指示があった場合にのみ変更します。

ブランディング要素、お気に入りリスト、UI 拡張、マクロ、サインインバナー、および設定など、デバイス上の情報をバックアップおよび復元できるページを開きます。以前のソフトウェアイメージへの切り替え、工場出荷時設定へのリセット、デバイスの再起動またはシャットダウンを行うこともできます。

* クラウドに登録されたデバイスでは使用できません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ会議デバイスの管理方法 (5/5 ページ)

ユーザーインターフェイス上の設定とデバイス情報

デバイス情報および一部の基本設定とデバイス テストには、デバイスのユーザーインターフェイスからアクセスできます。

デバイスの重要な設定と機能（ネットワーク設定、サービスの有効化、初期設定へのリセットなど）は、パスフレーズで保護できます。▶ [「\[設定 \(Settings\)\] メニューへのアクセスの制限」](#)の章を参照してください。

一部の設定とテストは、デバイスの電源を初めてオンにしたときに起動するセットアップ アシスタントでも表示されます。

設定へのアクセス

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。

南京錠の記号  は、設定が保護されている（ロックされている）ことを示しています。

2. 変更する設定または実行するテストを選択します。

設定がロックされている場合は認証ウィンドウが表示され、続行するには ADMIN ログイン情報でサインインする必要があります。デバイスが Webex クラウドに登録されている場合は、Control Hub から設定のロックを解除する必要があります。

Board および Board Pro の場合

タッチコントローラをボードに接続している場合、このコンテキストで 2 つのデバイスが別々に動作します。どちらかにサインインして設定をロック解除しても、もう一方には影響しません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

タッチコントローラ

ビデオ会議デバイスのコントロール

タッチコントローラは、ビデオ会議デバイスの制御に使用されるシスコのインターフェイスユニットです。

現在、このようなインターフェイスユニットは 3 種類が利用可能です。すべて区別せずに「タッチコントローラ」と呼ばれます。

- Cisco Room Navigator
- Cisco Touch 10
- Cisco TelePresence Touch 10

タッチコントローラを使用すれば、会議、コンテンツ、連絡先、ディレクトリなどに瞬時にアクセスできます。カスタマイズガイドに記載されているように、カスタムボタンとパネルを使用してユーザーインターフェイスをカスタマイズできます。Room Navigator は、電波品質や温度などを監視するための環境センサーも備えています。

タッチコントローラは、デバイスに直接接続するか、ネットワーク (LAN) 経由でデバイスとリモートでペアリングできます。

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する方法については、▶ [「タッチコントローラの接続」](#)の章を参照してください。

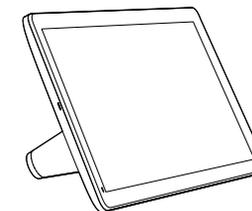
ビデオ会議デバイスとの互換性

Room Navigator は以下によってサポートされています。

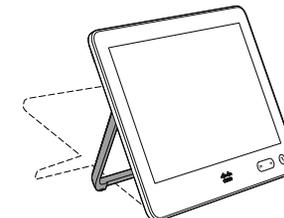
- Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro
- Room シリーズ
- Board 55S、70S、85S
- Board Pro

Touch 10 および TelePresence Touch 10 は以下によってサポートされています。

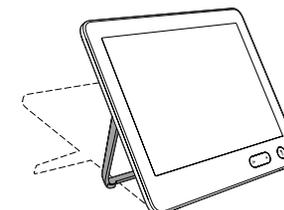
- Codec Plus および Codec Pro
- Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama
- Board 55S、70S、85S
- Board 55 および 70



Cisco Room Navigator
(2021 年初めに発売)



Cisco Touch 10
(2 つ目のバージョン、2017 年後半に発売)



Cisco TelePresence Touch 10
(最初のバージョン)

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 2 章

構成

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ユーザー管理

デバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにアクセスする場合などは、ローカルユーザーでデバイスにサインインする必要があります。ユーザーには、アクセス権を持つ対象を決める、異なるロールを割り当てることができます。

デフォルトのユーザー アカウント

デバイスには、初期状態でデフォルトの管理者ユーザー アカウントにフル アクセス権が付与されています。ユーザー名は *admin* で、初期状態ではパスワードは設定されていません。



必ず *admin* ユーザーのパスワードを設定する必要があります。

新しいデバイスまたは工場出荷時の状態にリセットされたデバイスでは、パスワードを設定するまで通話機能は無効化されます。

パスワードの設定方法については、▶ [「デバイス パスフレーズの変更」](#)の章を参照してください。

新しいユーザー アカウントの作成

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザー \(Users\)\]](#) に移動します。
2. [\[Create User\]](#) をクリックします。
3. [\[ユーザー名 \(Username\)\]](#)、[\[新しいパスワード \(New passphrase\)\]](#)、[\[パスワードの確認 \(Confirm passphrase\)\]](#) の各入力フィールドに入力します。
デフォルトでは、ユーザーが初めてサインインする際にパスワードを変更する必要があります。
認証にクライアント証明書を使用する場合にのみ、[\[クライアント証明書 DN \(識別名\) \(Client Certificate DN\)\]](#) フィールドに値を入力してください。
4. 適切な [\[ロール \(Roles\)\]](#) チェックボックスをオンにします。
admin ロールをユーザーに割り当てた場合は、[\[自分のパスワード \(Your passphrase\)\]](#) 入力フィールドに自分自身のパスワードを確認のために入力します。
5. ユーザーをアクティブにするには、[\[ステータス \(Status\)\]](#) を [\[アクティブ \(Active\)\]](#) に設定します。
6. [\[ユーザの作成 \(Create User\)\]](#) をクリックします。
変更を加えないで終了するには、[\[戻る \(Back\)\]](#) ボタンを使用します。

既存のユーザー アカウントの編集

ADMIN ロールが割り当てられているユーザーを変更する場合は、常に、[\[パスワード \(Your passphrase\)\]](#) 入力フィールドに確認のため各自のパスワードを入力する必要があります。

ユーザー特権を変更する

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザー \(Users\)\]](#) に移動します。
2. リスト内の該当ユーザをクリックします。
3. ユーザー ロールを選択し、ステータスを [\[アクティブ \(Active\)\]](#) または [\[非アクティブ \(Inactive\)\]](#) に設定してから、そのユーザーが次回ログインしたときにパスワードを変更する必要があるかどうかを決定します。
HTTPS で証明書ログインを使用する場合にのみ、[\[クライアント証明書 DN \(識別名\) \(Client Certificate DN\)\]](#) フィールドに値を入力してください。
4. [\[ユーザーを保存\]](#) をクリックします。
変更を加えないで終了するには、[\[戻る \(Back\)\]](#) ボタンを使用します。

パスワードを変更する

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザー \(Users\)\]](#) に移動します。
2. リスト内の該当ユーザをクリックします。
3. [\[パスワード \(Passphrase\)\]](#) カードを見つけて、適切な入力フィールドに新しいパスワードを入力します。
4. [\[新しいパスワードの設定 \(Set New Passphrase\)\]](#) をクリックして、変更を保存します。
変更を加えないで終了するには、[\[戻る \(Back\)\]](#) ボタンを使用します。

ユーザー アカウントを削除する

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザー \(Users\)\]](#) に移動します。
2. リスト内の該当ユーザをクリックします。
3. [\[削除 \(Delete\)\]](#) カードを見つけて、[\[ユーザの削除 \(Delete User\)\]](#) をクリックし、プロンプトが表示されたら確定します。

ユーザー ロール

1 つのユーザーアカウントは、1 つのユーザーロールまたは複数の組み合わせを保持できます。デフォルトの *admin* ユーザーなどの、フル アクセス権を持つユーザー アカウントは、*admin*、*user*、*audit* の各役割も持つ必要があります。

ユーザーロールは次の通りです。

ADMIN: このロールを持つユーザーは、新規ユーザーの作成、ほとんどの設定の変更、通話、および連絡先リストの検索ができます。このユーザーは監査証明書のアップロードもセキュリティ監査設定の変更も行えません。

USER: このロールを持つユーザーはコールの発信と連絡先リストの検索が可能です。このユーザーは呼び出し音量の調整や時刻と日付の表示形式の変更など、いくつかの設定を変更できます。

AUDIT: このロールを持つユーザーは、セキュリティ監査の設定の変更および監査証明書のアップロードが可能です。

ROOMCONTROL: このロールを持つユーザーは、カスタマイズされた UI パネル (室内制御など) を作成できます。このユーザーは、UI 拡張エディタおよび対応する開発ツールにアクセスできます。

INTEGRATOR: このロールを持つユーザーは、高度な AV シナリオを設定したり、デバイスをサードパーティの機器と統合したりするために必要な設定、コマンド、およびステータスにアクセスできます。このユーザーは、カスタマイズした UI パネルを作成することもできます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイス パスフレーズの変更

デバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにアクセスする場合などは、ローカルユーザーでデバイスにサインインする必要があります。

デフォルトのユーザー アカウント

デバイスには、初期状態でデフォルトの管理者ユーザー アカウントにフル アクセス権が付与されています。ユーザー名は `admin` で、初期状態ではパスフレーズは設定されていません。



デバイス設定へのアクセスを制限するには、デフォルトの `admin` ユーザーにパスフレーズを設定する必要があります。

新しいデバイスまたは工場出荷時の状態にリセットされたデバイスでは、パスフレーズを設定するまで通話機能は無効化されます。

`admin` ユーザーのパスフレーズが設定されるまでは、システムパスフレーズが設定されておらず、通話が無効化されていることを示すセキュリティ リスクの Warning (注意) が画面上に表示されます。

他のユーザー アカウント

デバイスのユーザー アカウントは複数作成できます。

ユーザーアカウントの作成と管理の方法の詳細については、[▶「ユーザー管理」](#)の章を参照してください。

パスフレーズポリシー

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [\[ユーザーインターフェイス パスワードポリシー \(UserManagement PasswordPolicy\)\]](#) 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらは、パスワードの最小の長さ、大文字と小文字の最小数、数字と特殊文字の最小数、パスワードの有効期限、パスワードを再利用できる期間などのルールです。

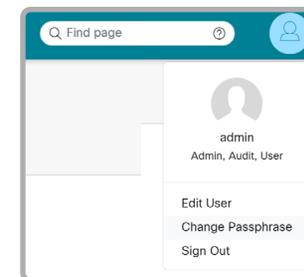
新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

パスフレーズを変更する

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、上部のバーにあるユーザーの記号をクリックしてメニューを開きます。
2. [\[パスフレーズの変更 \(Change Passphrase\)\]](#) をクリックします。
3. 適切な入力フィールドに新しいパスフレーズと現在のパスフレーズを入力して、[\[新しいパスフレーズの設定 \(Set New Passphrase\)\]](#) をクリックします。



現在パスフレーズが設定されていない場合は、[\[現在のパスフレーズ \(Current passphrase\)\]](#) フィールドを空白のままにします。



別のユーザーのパスフレーズの変更

管理者アクセス権がある場合は、すべてのユーザーのパスフレーズを変更できます。

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザー \(Users\)\]](#) に移動します。
2. リスト内の該当ユーザーをクリックします。
3. 新しいパスフレーズを、[\[新しいパスフレーズ \(New passphrase\)\]](#) および [\[パスフレーズの確認 \(Confirm passphrase\)\]](#) 入力フィールドに入力します。
該当ユーザーが `admin` ロールを持っている場合は、[\[自分のパスフレーズ \(Your passphrase\)\]](#) 入力フィールドに自分自身のパスフレーズを確認のために入力する必要があります。
4. [\[新しいパスフレーズの設定 \(Set New Passphrase\)\]](#) をクリックして、変更を保存します。
変更を加えないで終了するには、[\[戻る \(Back\)\]](#) ボタンを使用します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

[設定 (Settings)] メニューへのアクセスの制限

デフォルトでは、任意のユーザーが、ユーザーインターフェイスの [設定 (Settings)] メニューにアクセスできます。

権限のないユーザーがデバイスの設定を変更できないようにするために、このアクセスを制限することを推奨します。

Board および Board Pro の場合

Board でタッチコントローラを使用している場合は、ボード自体およびタッチコントローラの両方で [設定 (Settings)] メニューにアクセスできます。この場合、ボードとタッチコントローラは別々に動作します。どちらかにサインインして設定をロック解除しても、もう一方には影響しません。

[設定 (Settings)] メニューのロック

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
2. [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\]](#) > [\[設定メニュー \(SettingsMenu\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) に移動して、[\[ロック \(Locked\)\]](#) を選択します。
3. [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
これで、ユーザーは、ADMIN クレデンシャルでサインインしないとユーザーインターフェイスでデバイスの重要な設定にアクセスできなくなります。

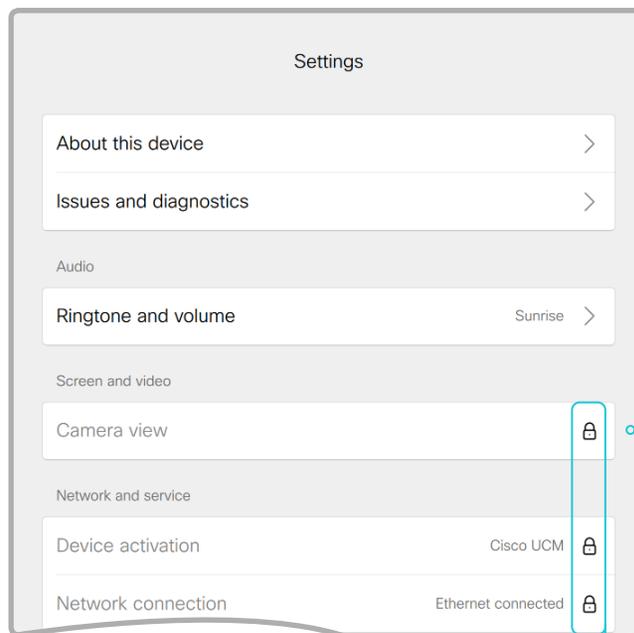
[設定 (Settings)] メニューのロック解除

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
2. [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\]](#) > [\[設定メニュー \(SettingsMenu\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) に移動して、[\[ロックなし \(Unlocked\)\]](#) を選択します。
3. [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
これで、すべてのユーザーがユーザーインターフェイスの [\[設定 \(Settings\)\]](#) メニューにアクセスできます。

ユーザーインターフェイスの [設定 (Settings)] メニュー

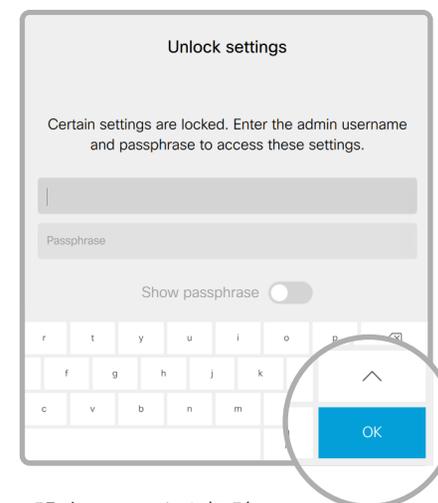
このメニューがロックされている場合は、サインインしないと、デバイスの重要な設定にアクセスできません。

- ・ 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。



ロックされた設定

ロックされた設定には南京錠のマークが付いています。



設定のロックを解除

南京錠をクリックすると、ADMIN ユーザーでサインインするように求められます。サインインすると、[\[設定 \(Settings\)\]](#) メニューを閉じるまで、すべての設定にアクセスできます。

デバイスが Webex クラウドに登録されている場合は、Control Hub から設定のロックを解除する必要があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

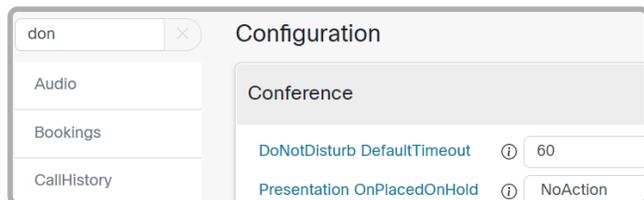
デバイス設定

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択します。

デバイス設定の検索

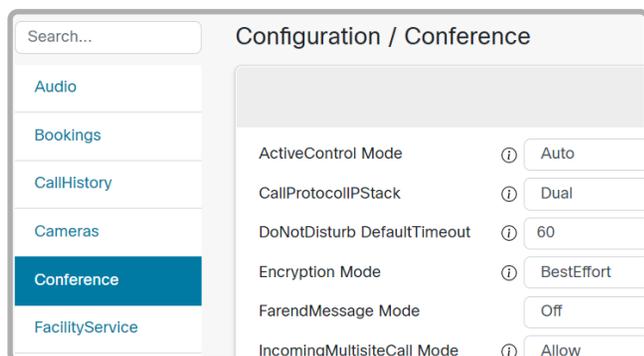
設定を検索する

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字が含まれているすべての設定が右側のペインに表示されます。値スペースにこれらの文字が含まれている設定も表示されます。



カテゴリを選択して設定に移動する

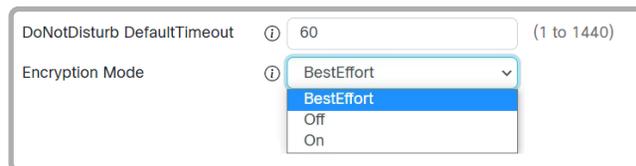
デバイス設定はカテゴリ別にグループ化されています。左側のペインのカテゴリを 1 つ選択して、関連付けられている設定を表示します。



デバイス設定の変更

値スペースを確認する

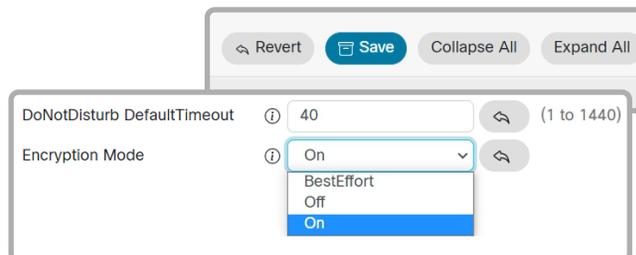
設定の値スペースは、入力フィールドに続くテキストか、矢印をクリックすると開くドロップダウン リストで指定します。



値の変更

- ドロップダウン リストから望ましい値を選択するか、入力フィールドに新しいテキストを入力します。
- [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。

変更しない場合は、[\[元に戻す \(Revert\)\]](#) ボタン  を使用します。



変更が保存されていないカテゴリには、編集記号 () のマークが付きます。

デバイスの設定について

すべてのデバイス設定をデバイスの Web インターフェイスから変更できます。

個別のデバイス設定については、[▶ 「デバイス設定」](#)の章で説明しています。

異なる設定には、異なるユーザー ログイン情報が必要である場合があります。管理者がすべてのデバイス設定を変更できるように、管理者にはすべてのユーザー ロールを割り当てる必要があります。

ユーザー管理およびユーザーロールに関する詳細情報は、[▶ 「ユーザー管理」](#)の章で確認できます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

サインイン バナーの追加

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、**[セキュリティ (Security)]**に移動し、**[サインインバナー (Sign-in Banner)]**を選択します。

サインイン バナーの追加

1. サインインしたユーザーに表示するメッセージを入力します。
2. **[保存 (Save)]** をクリックしてバナーをアクティブにします。

サインインバナーの削除

- ・ サインインバナーを削除するには、**[クリア (Clear)]** をクリックします。

The image shows the configuration process for a sign-in banner. At the top, a 'Sign In Banner' configuration window is displayed. It contains a text input field with the placeholder text 'The information you type here will be shown to all users when they sign in.' Below the input field are 'Save' and 'Clear' buttons. A blue arrow points from the input field to a terminal window below it. The terminal window shows a login prompt: 'login as: admin', followed by the banner text: 'The information you type here will be shown to all users when they sign in.', and then 'Using keyboard-interactive authentication' and 'Password: ***'. Another blue arrow points from the terminal window to the main Webex login page at the bottom. The Webex login page shows the banner text at the top, followed by the 'Cisco Webex' logo and 'System name: MyDevice'. Below that are 'Username' and 'Passphrase' input fields, and a 'Sign In' button.

サインイン バナーについて

デバイス管理者がすべてのユーザーに初期情報を提供する場合に、サインイン バナーを作成できます。メッセージは、ユーザーがデバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにサインインすると表示されます。

最大サイズは 4 kByte です。

ウェルカムバナーとサインインバナーの比較

サインインバナー

- ・ サインインバナーは、ユーザーがデバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにサインインする前に表示されません。

ウェルカムバナー

- ・ ウェルカムバナーは、ユーザーがデバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにサインインした後に表示されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

ウェルカムバナーの追加

ウェルカムバナーの追加は API コマンドを使用してのみ利用可能です。専用のユーザーインターフェイスは提供されません。

API コマンド

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set
```

これはマルチライン コマンドです。このコマンド実行後に入力した文字が、コマンドに対する入力となります（改行を含む）。ピリオドを含み改行で終わる別の行を用いて、入力を終了します。

他にもいくつかウェルカムバナーのコマンドが存在します。API ガイドにて詳細をご確認ください。

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Clear
```

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Get
```

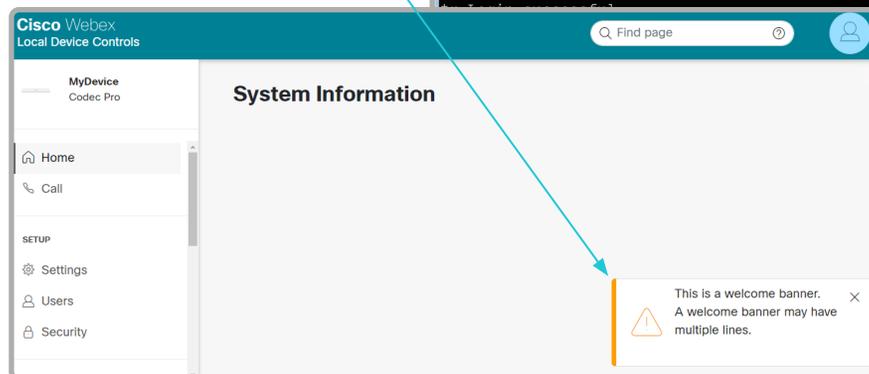
例

```
xCommand SystemUnit WelcomeBanner Set <enter>
```

```
This is a welcome banner. <enter>
```

```
A welcome banner may have multiple lines. <enter>
```

```
. <enter>
```



× をクリックしてバナーを閉じます。

ウェルカムバナーについて

デバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスへのサインイン後にユーザーに表示される、ウェルカムバナーを設定できます。バナーには、複数の行を表示することができます。

バナーには、使い始めるうえで必要な情報や、デバイスのセットアップ時に知っておく必要があることなどを記載できます。

最大サイズは 4 kByte です。

ウェルカムバナーとサインインバナーの比較

サインインバナー

- サインインバナーは、ユーザーがデバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにサインインする前に表示されます。

ウェルカムバナー

- ウェルカムバナーは、ユーザーがデバイスの Web インターフェイスまたはコマンドライン インターフェイスにサインインした後に表示されます。

これはサインインバナーです

→

デバイスのサービス証明書の管理

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、**[セキュリティ (Security)]** に移動します。**[証明書 (Certificates)]** を選択し、**[サービス (Services)]** サブタブを開きます。

次のファイルが必要です。

- ・ 証明書 (ファイル形式: .PEM)
 - ・ 個別のファイルとして、または証明書と同じファイルに含まれる秘密キー (ファイル形式: .PEM 形式)
 - ・ パスフレーズ (秘密キーが暗号化されている場合にのみ必要)
- 証明書と秘密キーは、デバイス上の同じファイル内に保存されます。

デバイスのサービス証明書について

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信が確立される前に、有効な証明書をデバイスから提供するようにサーバーまたはクライアントから要求されることがあります。

デバイスの証明書は、デバイスの信頼性を確認するテキスト ファイルです。これらの証明書は、認証局 (CA) によって発行されます。

証明書は、HTTPS サーバー、HTTP クライアント、SIP、IEEE 802.1X、および監査ロギングの各サービスで使用されます。

複数の証明書をデバイスに保存できますが、サービスごとに有効化できる証明書は一度に 1 つだけです。

認証が失敗した場合、接続は確立されません。

証明書の追加

1. **[参照 (Browse)]** ボタンを押して、コンピュータ上の証明書ファイルと秘密キー ファイル (オプション) を見つけます。
2. 必要な場合には **[パスフレーズ (Passphrase)]** に入力します。
3. **[アップロード (Upload)]** をクリックして、デバイスに証明書を保存します。

有効期間が 10 年以内の証明書のみが受け付けられます。

証明書を有効/無効にし、表示、または削除する

各サービスの証明書を有効または無効にするには、トグルボタンを使用します。

証明書を表示または削除するには、それぞれ対応するボタンを使用します。

Add Certificate Use the form below to add new certificates.

This system supports PEM formatted certificate files (.pem). The certificate file may contain the certificate and a RSA or DSA encrypted private key with or without a passphrase. Optionally the private key file may be supplied separately.

Certificate No file chosen

Private key (optional) No file chosen

Passphrase (optional)

Upload

Existing Certificates

Certificate	Issuer	802.1X	Audit	HTTPS	HttpClient	SIP	Pairing	Actions
Certificate_A	Certificatelssuer_A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Delete View Certificate
Certificate_B	Certificatelssuer_B	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Delete View Certificate

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのデバイスの証明書はこれとは異なります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理 (1/4 ページ)

証明書の検証は、TLS (Transport Layer Security) を使用する場合に必要になることがあります。

通信が確立される前にサーバーまたはクライアントに証明書の提供を要求するように、デバイスを設定できます。デバイスは、証明書を使用して、サーバーまたはクライアントの信頼性を検証します。認証が失敗した場合、接続は確立されません。

証明書 (テキスト ファイル) は、信頼できる認証局 (CA) によって署名されている必要があります。信頼できる CA からの証明書のリストはデバイス上に保存されています。

CA 証明書リスト

信頼できる CA のリストの確認とメンテナンスは、デバイスの Web インターフェイスから実行できます。

- デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#)に移動し、[\[証明書 \(Certificates\)\]](#)を選択します。CA リストごとにタブが 1 つ存在します。

CA リストは次のとおりです。

- **プレインストール (Preinstalled)** : デバイスと通信する外部サーバー (HTTPS、SMTP *(Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room Kit Mini with Samsung Flip のみ)*、および syslog) の証明書を検証するために使用される、プレインストールされた CA 証明書。
- **コラボレーションエッジ (Collaboration Edge)** : デバイスが Cisco Unified Communications Manager (CUCM) によって Expressway を介してプロビジョニングされている場合に (MRA とも呼ばれます)、インターネット経由で通信するサーバーの証明書を検証するために使用される、プレインストールされた CA 証明書。
- **カスタム (Custom)** : 自分でデバイスにアップロードした CA 証明書。ログとその他の接続の証明書を検証するために必要な証明書がプレインストールリストに含まれていない場合は、それらの CA をすべてこのリストに含める必要があります。

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理 (2/4 ページ)

外部サーバー用にプレインストールされた CA 証明書の管理

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動します。[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択し、[\[プレインストール \(Preinstalled\)\]](#) サブタブを開きます。

Preinstalled Certificates The Certificate Authorities listed below are used to validate the certificates of external servers that the video system communicates with:

- HTTP servers hosting content used by the web views, the `HttpClient` xAPI, Macros, etc.
- SMTP mail servers (on video systems with touch screens)

Certificate Details

Certificate	Issuer	Details	Enabled
Certificate_01	Issuer_1	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_02	Issuer_2	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_03	Issuer_3	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_04	Issuer_4	View	<input checked="" type="checkbox"/>

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのデバイスの証明書はこれとは異なります。

[表示 (View)],
証明書の有効化
または無効化

証明書の詳細を表示するには、[\[表示 \(View\)\]](#) ボタンを使用します。

トグルボタンを使用して、証明書を有効または無効にします。



プレインストールされた証明書を使用する代わりに、必要な証明書を手動でカスタム証明書リストに追加することもできます。

信頼できる CA 証明書のリストを更新する方法については、[▶ 「デバイスへの CA 証明書のアップロード」](#) の章を参照してください。

プレインストールされた CA 証明書

デバイスには、よく使用される CA 証明書のリストがプレインストールされています。デバイスは、通信している外部サーバーからの証明書を検証するときに、このリストを使用します。

- HttpClient API またはマクロによって使用されるコンテンツをホストしている HTTP サーバー
- プロビジョニング サーバー
- 電話帳サーバー
- syslog サーバー (外部ロギング用)
- SMTP メールサーバー ([Board](#), [Board Pro](#), [Desk](#), [Desk Mini](#), [Desk Pro](#), [Room Kit Mini with Samsung Flip](#) のみ)
- Cisco Webex クラウドによって使用されるサーバーおよびサービス

デバイスを初期設定にリセットしても、プレインストールされた証明書のリストは削除されません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理 (3/4 ページ)

Expressway プロビジョニングを使用する CUCM 用のプレインストール済み CA 証明書の管理

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動します。[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択し、[\[コラボレーションエッジ \(Collaboration Edge\)\]](#) サブタブを開きます。

Collaboration Edge Certificates This CA list is used for Cisco UCM via Expressway (Edge) provisioning only.

[Configure provisioning now.](#)

These certificates are used to validate the servers contacted over the Internet when the endpoint uses Cisco UCM via Expressway provisioning.

You can either enable or disable all Edge certificates on the device by clicking the "Enable All"/"Disable All" button below, or toggle individual certificates on and off in the table.

[Disable All](#)

Certificate Details

Certificate	Issuer	Details	Enabled
Certificate_01	Issuer_1	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_02	Issuer_2	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_03	Issuer_3	View	<input checked="" type="checkbox"/>
Certificate_04	Issuer_4	View	<input checked="" type="checkbox"/>

図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのデバイスの証明書はこれとは異なります。

[表示 (View)],
証明書の有効化
または無効化

証明書の詳細を表示するには、[\[表示 \(View\)\]](#) ボタンを使用します。

トグルボタンを使用して、証明書を有効または無効にします。

Expressway を使用する CUCM 用のプレインストール済み CA 証明書

このリストにあるプレインストール CA 証明書は、デバイスを Cisco Unified Communications Manager (CUCM) によって Expressway 経由でプロビジョニングする場合にのみ使用されます。

Cisco Expressway インフラストラクチャ証明書のみがこのリストと照合されます。

Cisco Expressway インフラストラクチャ証明書の検証に失敗した場合は、デバイスのプロビジョニングと登録が行われません。

デバイスを初期設定にリセットしても、プレインストールされた証明書のリストは削除されません。



プレインストールされた証明書を使用する代わりに、必要な証明書を手動でカスタム証明書リストに追加することもできます。

信頼できる CA 証明書のリストを更新する方法については、[▶ 「デバイスへの CA 証明書のアップロード」](#)の章を参照してください。

信頼できる認証局 (CA) のリストの管理 (4/4 ページ)

デバイスへの CA 証明書のアップロード

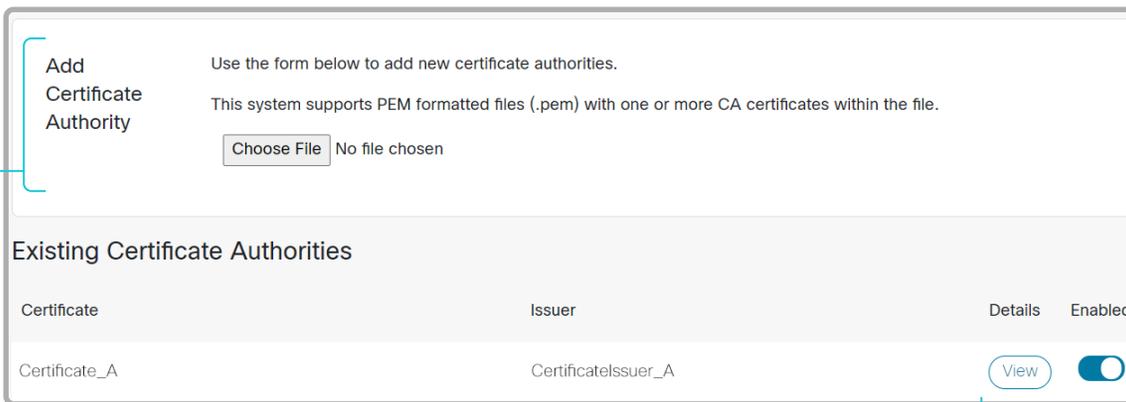
デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) に移動します。[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択し、[\[カスタム \(Custom\)\]](#) サブタブを開きます。

次のファイルが必要です。

- CA 証明書のリスト (ファイル形式: .PEM)。

CA 証明書のリストのアップロード

- [\[参照 \(Browse\)\]](#) ボタンをクリックして、コンピュータから CA 証明書のリストを含むファイル (ファイル形式: .PEM) を見つけます。
- [\[アップロード \(Upload\)\]](#) をクリックして、デバイスに新しい CA 証明書を保存します。
ファイルを選択すると、ボタンが表示されます。



図に示している証明書および証明書発行者は一例です。お使いのデバイスの証明書はこれとは異なります。

[表示 (View)]、証明書の有効化または無効化

証明書の詳細を表示するには、[\[表示 \(View\)\]](#) ボタンを使用します。

トグルボタンを使用して、証明書を有効または無効にします。



以前に保存した証明書は自動的に削除されません。

CA 証明書を含む新しいファイル内のエントリが既存のリストに付加されます。

信頼できる CA 証明書のカスタム リストについて

このリストには、自分でデバイスにアップロードした CA 証明書が含まれます。これらの証明書は、クライアント証明書とサーバー証明書の両方について、ロギングおよびその他の接続を検証するために使用できます。

次のものに使用できます。

- HttpClient API またはマクロによって使用されるコンテンツをホストしている HTTP サーバー
- プロビジョニング サーバー
- 電話帳サーバー
- SIP サーバー
- syslog サーバー (外部ロギング用)
- SMTP メールサーバー ([Board](#)、[Board Pro](#)、[Desk](#)、[Desk Mini](#)、[Desk Pro](#)、[Room Kit Mini](#) [with Samsung Flip](#) のみ)
- Cisco Expressway インフラストラクチャ
- Cisco Webex クラウドによって使用されるサーバーおよびサービス

セキュア監査ロギングのセットアップ

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[設定 (Settings)] に移動し、[構成 (Configurations)] を選択します。



監査サーバーの証明書を検証する認証局 (CA) が、デバイスの信頼できる認証局のリストに含まれている必要があります。含まれていない場合は、外部サーバーにログが送信されません。

リストの更新方法については、▶ 「デバイスへの CA 証明書のアップロード」の章を参照してください。

1. [セキュリティ (Security)] > [監査 (Audit)] > [サーバ (Server)] 設定を探して、監査サーバーの [アドレス (Address)] を入力します。

[ポート割り当て (PortAssignment)] を [手動 (Manual)] に設定した場合は、監査サーバーの [ポート (Port)] 番号も入力する必要があります。

2. [セキュリティ (Security)] > [監査 (Audit)] > [ロギング (Logging)] > [モード (Mode)] を [外部セキュア (ExternalSecure)] に設定します。
3. [保存 (Save)] をクリックして変更を有効にします。

Configuration / Security

Revert Save Collapse All Expand All

Fips Mode ⓘ Off

Audit

Logging Mode ⓘ ExternalSecure

OnError Action ⓘ ExternalSecure

Server

Address ⓘ (0 to 255 characters)

Port ⓘ 514 (0 to 65535)

PortAssignment ⓘ Auto

安全な監査ロギングについて

監査ロギングを有効にすると、そのデバイスでのすべてのサインイン アクティビティと設定変更が記録されます。

[セキュリティ (Security)] > [監査 (Audit)] > [ロギング モード (Logging Mode)] 設定を使用して、監査ロギングを有効にします。監査ロギングは、デフォルトでは無効になっています。

ExternalSecure 監査ログ モードでは、デバイスは、暗号化された監査ログを外部監査サーバー (syslog サーバー) に送信します。そのサーバーの ID は、署名された証明書によって検証される必要があります。

監査サーバーの署名は、プレインストールされている CA 証明書またはカスタム CA リストを使用して検証されます。

監査サーバー認証に失敗した場合は、監査ログが外部サーバーに送信されません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

CUCM 信頼リストの削除

この章は、Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されているデバイスにのみ関連します。

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#)に移動します。[\[証明書 \(Certificates\)\]](#) を選択し、[\[Unified CM\]](#) サブタブを開きます。

CUCM 信頼リストを削除する

信頼リストを削除するには、[\[CTL/ITL の削除 \(Delete CTL/ITL\)\]](#) をクリックします。

 一般的に、以前の CTL (証明書信頼リスト) ファイルと ITL (初期信頼リスト) ファイルは削除しません。

次のようなケースでは、これらのファイルを削除する必要があります。

- CUCM の IP アドレスを変更する場合。
- CUCM クラスタ間でエンドポイントを移動する場合。
- CUCM 証明書を再生成または変更する必要がある場合。

信頼リスト フィンガープリントと証明書の概要

信頼リストのフィンガープリントとリストの証明書の概要は、Web ページに表示されます。

この情報は、トラブルシューティングに役立ちます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

永続モードの変更

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#)に移動し、[\[永続設定 \(Persistency Settings\)\]](#)を選択します。

永続性ステータスの確認

アクティブなラジオ ボタンは、デバイスの現在の永続性ステータスを示しています。

または、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[ステータス \(Statuses\)\]](#)を選択し、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) > [\[永続性 \(Persistency\)\]](#) ステータスを確認することもできます。

永続設定を変更する

すべての永続設定がデフォルトで [\[永続 \(Persistent\)\]](#) に設定されます。これらの設定は、[\[非永続 \(Non-persistent\)\]](#) にする場合にのみ変更する必要があります。

1. 設定、通話履歴、内部ログイン、ローカル電話帳 (ローカル ディレクトリとお気に入り)、および IP 接続 (DHCP) 情報の永続性を設定するには、ラジオ ボタンをクリックします。

2. [\[適用 \(Apply\)\]](#) をクリックします。

デバイスが自動的に再起動します。再起動後、新しい永続設定に従って動作が変化します。



非永続モードに切り替える前に保存されたログ、設定および他のデータは、消去されたり削除されたりすることはありません。

永続モード

デフォルトでは、設定、通話履歴、内部ログ、ローカル電話帳 (ローカル ディレクトリとお気に入りリスト)、および IP 接続情報が保存されます。すべての永続設定は [\[永続 \(Persistent\)\]](#) に設定されているので、デバイスを再起動してもこの情報は削除されません。

通常は、永続設定は変更しないことをお勧めします。[\[非永続 \(Non-persistent\)\]](#) モードへの変更は、前のセッションでログに記録された情報をユーザーが参照したりトレースバックしたりしないようにする必要がある場合のみ行ってください。

非永続モードでは、デバイスが再起動されるたびに次の情報が削除または消去されます。

- デバイス設定の変更
- 通話の発信および受信に関する情報 (通話履歴)
- 内部ログ ファイル
- ローカル連絡先またはお気に入りリストの変更
- 前回のセッション以降のすべての IP 関連情報 (DHCP)



[\[非永続 \(Non-persistent\)\]](#) モードに変更する前に保存された情報は、自動的にクリアまたは削除されることはありません。そのような情報を削除するには、デバイスを初期設定にリセットする必要があります。

初期設定にリセットする方法の詳細については、[▶ 「ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット」](#)の章を参照してください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom Bar
Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SMTP 電子メールサーバーのセットアップ

SMTP サーバー接続を設定すると、ビデオ会議デバイスのユーザーが、組織内外の人と電子メールでホワイトボードやコメントを共有できるようになります。

サーバーのセットアップは手動で行うこともできますが、セットアップウィザードを使用することを強くお勧めします。ウィザードを使用すれば、セットアップ中に接続をテストすることや、サーバー証明書のアップロードが必要な場合に、その方法についてガイダンスを得ることができます。

Room Kit Mini の制限事項

この機能は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使用している場合にのみ使用できます。

電子メールによる共有の有効化

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択します。
2. [\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[SMTP\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#)に移動します。電子メールによる共有は、[\[モード \(Mode\)\]](#)が[\[オン \(On\)\]](#)の場合にのみ可能になります。

ウィザードを使用したサーバーのセットアップ

推奨

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[ホワイトボードを電子メールに送信 \(Send Whiteboard to Email\)\]](#)を選択します。
2. [\[ウィザードを開始 \(Start Wizard\)\]](#)をクリックし、サーバーのアドレス、暗号化方式、およびポート番号を入力します。
3. [\[接続のテスト... \(Test Connection...\)\]](#)をクリックします。問題がなければ、[\[OK\]](#)をクリックしてウィザードを続行します。

証明書が見つからない場合は、[\[再設定 \(Reconfigure\)\]](#)をクリックし、ウィザードの指示に従って必要な証明書をデバイスにアップロードします。
4. ホワイトボードや注釈の送信元となる電子メールアドレスを入力します。
5. SMTP サーバーが認証を要求し、暗号化方式が TLS または STARTTLS の場合は、ユーザー名とパスワードのフィールドに入力します。
6. [\[確認して保存 \(Verify and Save\)\]](#)を選択して、サーバーのセットアップウィザードを完了します。

これで、[\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[SMTP\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#)が[\[オン \(On\)\]](#)になっていれば、デバイスから電子メールでホワイトボードや注釈を送信することができます。

ウィザードを開始するのではなく、[\[手動設定 \(Manual Configuration\)\]](#)を選択した場合は、上記で説明したのと同じフィールドに入力し、[\[確認して保存 \(Verify and Save\)\]](#)を選択します。

設定ページからのサーバーの設定

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択します。
2. [\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[SMTP\]](#) に移動し、[\[サーバー \(Server\)\]](#)、[\[セキュリティ \(Security\)\]](#) (暗号化方式)、[\[ポート \(Port\)\]](#)、[\[送信元 \(From\)\]](#)、[\[ユーザー名 \(Username\)\]](#)、および [\[パスワード \(Password\)\]](#) を設定します。
3. 必要に応じて、▶ [「デバイスへの CA 証明書のアップロード」](#)の章の説明に従って、CA 証明書をデバイスにアップロードします。

暗号化方式と証明書

暗号化方式は、電子メールサーバーでサポートされているものを選択する必要があります。

TLS および STARTTLS 暗号化方式には、サーバー証明書が必要です。SMTP サーバーの証明書を検証できない場合、デバイスは接続を許可しません。証明書チェックを無視することはできません。

ほとんどの場合、サーバー証明書はデバイスにプレインストールされている CA リストを使用して検証できます。そうでない場合は、必要な証明書を自分でデバイスにアップロードする必要があります。自分でアップロードした証明書は、カスタム証明書のリストに追加されます。

CA のリストの詳細については、▶ [「信頼できる認証局 \(CA\) のリストの管理」](#)の章を参照してください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

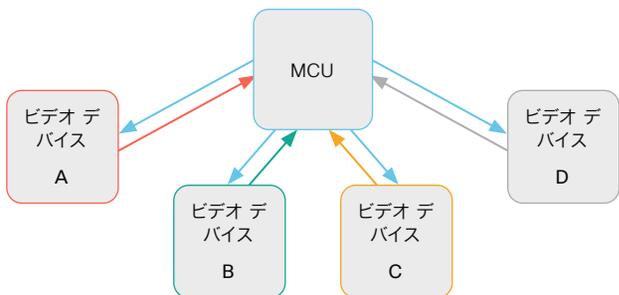
アドホック マルチポイント会議のセットアップ (1/2 ページ)

注: この章は、通常の SIP 通話にのみ適用されます。デバイスが Webex Edge for Devices にリンクされ、Webex の最適化されたエクスペリエンスが有効になっている場合でも、Webex Meetings には適用されません。

ポイントツーポイントのビデオ コール (2 者間だけのコール) を、より多くの参加者とのマルチポイント会議に拡大する方法はいくつかあります。

集中型会議インフラストラクチャ

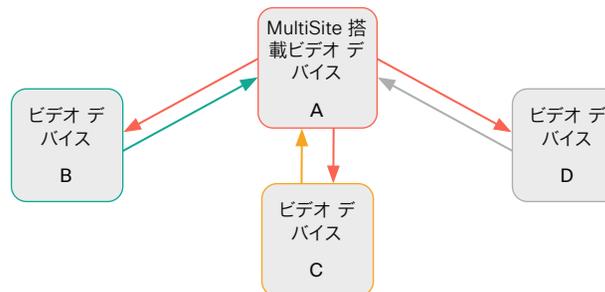
ほとんどのソリューションは、一元化された会議インフラストラクチャである MCU (マルチポイントコントロールユニット)¹を基盤としています。



この設定では、ビデオデバイス A、B、C、D は、4 者会議に参加します。MCU がすべてのデバイスからのメディア ストリームを受信し、ストリームを処理して、すべてのメディアを他の参加者に送信します。

ローカル会議リソース - マルチサイト

MultiSite のシナリオでは、ビデオ デバイスのうち 1 台に MCU 機能を担当させます。



この設定では、ビデオデバイス A、B、C、D は、4 者会議に参加します。ここではデバイス A で MultiSite 機能を使用し、MCU として機能させます。このデバイスがすべてのデバイスからのメディア ストリームを受信し、ストリームを処理して、すべてのメディアを他の参加者に送信します。

マルチサイトは標準の製品デリバリーには含まれていません。デバイスにマルチサイトオプションキーをインストールするには、アップグレードオプションの購入が必要です。

MultiSite でサポートされる参加者の最大数は、次のように製品によって異なります。

- 自分を含めて 4 人の参加者 (Board, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70)
- 自分を含めて 5 人の参加者 (その他の製品)

マルチポイント設定

マルチポイント会議の処理方法を決定するには、[会議 (Conference)] > [マルチポイント (Multipoint)] > [モード (Mode)] 設定を使用します。この設定で使用できる値は次のとおりです。

- Auto
- CUCMMediaResourceGroupList
- マルチサイト
- オフ (Off)

次のページの表で、さまざまな会議オプションについて説明しています。

¹ MCU: マルチポイント コントロール ユニットの、ビデオ会議ゲートウェイまたはビデオ会議ブリッジとも呼ばれます。

アドホック マルチポイント会議のセットアップ (2/2 ページ)

Conference Multipoint Mode 設定	MultiSite オプション キー	リモート デバイス タイプ ²	参加者を追加する操作	
オフ (Off)	該当なし	MCU	直接リモート追加	<ul style="list-style-type: none"> MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしている場合、UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接コールすることができます。新しい参加者がコールを受け入れるとすぐに会議に追加されます。 MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしていない場合、UI に [追加 (Add)] ボタンは表示されません。
		ビデオ デバイス	音声の参加者の追加 ³	<ul style="list-style-type: none"> 音声のみの参加者を 1 人追加できます。 ビデオでの参加者は追加できません。
CUCM メディア リソースグループ リスト (CUCM-MediaResource-GroupList)	該当なし	ビデオ デバイス	協議追加	<ul style="list-style-type: none"> CUCM に登録されたデバイスでのみ使用でき、[SIP] > [タイプ (Type)] 設定は [シスコ (Cisco)] にする必要があります。 新しい参加者をコールする間、会議は保留されます。新しい参加者がコールを受け入れると、その新しいコールを会議にマージできます。 会議に新しい参加者を最初に追加した参加者だけが、さらに参加者を追加できます。
MultiSite ⁴	o	N/A	ローカルマルチサイト ⁵	<ul style="list-style-type: none"> UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接呼び出すことができます。 デバイスの上限に達するまで参加者の追加を続けることができます。
	x	N/A	音声の参加者の追加 ³	<ul style="list-style-type: none"> 音声のみの参加者を 1 人追加できます。 ビデオでの参加者は追加できません。
自動 (Auto)	o	MCU	直接リモート追加	<ul style="list-style-type: none"> MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしている場合、UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接コールすることができます。新しい参加者がコールを受け入れるとすぐに会議に追加されます。 MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしていない場合、UI に [追加 (Add)] ボタンは表示されません。
		ビデオ デバイス	カスケードなしのローカルマルチサイト ⁵	<ul style="list-style-type: none"> UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接呼び出すことができます。 デバイスの上限に達するまで参加者の追加を続けることができます。 MultiSite ホスト (MCU として機能しているデバイス) のみが参加者を追加できます。これにより、カスケード会議ができなくなります。
	x	MCU	直接リモート追加	<ul style="list-style-type: none"> MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしている場合、UI に [追加 (Add)] ボタンが表示され、次の参加者を直接コールすることができます。新しい参加者がコールを受け入れるとすぐに会議に追加されます。 MCU が [参加者の追加 (Add Participant)] をサポートしていない場合、UI に [追加 (Add)] ボタンは表示されません。
		ビデオ デバイス	音声の参加者の追加 ³	<ul style="list-style-type: none"> 音声のみの参加者を 1 人追加できます。 ビデオでの参加者は追加できません。

² リモートデバイスタイプは、[コール [n] (Call [n])] > [デバイスタイプ (DeviceType)] ステータスに表示されます。

³ Board, Codec Plus, Codec Pro, Desk Pro, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2 でサポートされています。

⁴ マルチストリームを使用している会議では、マルチサイトは自動的に無効になります。つまり、UI の [追加 (Add)] ボタンを使用して、会議に新しい参加者を追加することはできません (ビデオ参加者も音声のみの参加者も追加できません)。

⁵ 会議のカスケードを避けるために、[会議 (Conference)] > [マルチポイント (Multipoint)] > [モード (Mode)] を [マルチサイト (MultiSite)] ではなく [自動 (Auto)] に設定することを推奨します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

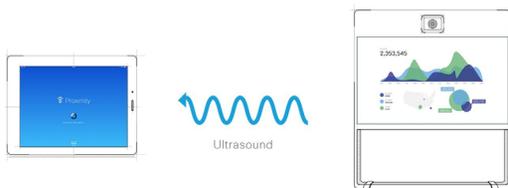
Cisco Proximity の設定と使用 (1/5 ページ)

Cisco Proximity では、ユーザーがビデオ会議デバイスの近くにいる場合、ラップトップからワイヤレスでコンテンツの共有、発信、ビデオ会議デバイスの操作ができます。

Cisco Proximity が有効な場合、ビデオ会議デバイスから超音波のペアリングメッセージが発信されます。これらのメッセージは、Cisco Proximity クライアントを搭載した近くのデバイスで受信され、ビデオ会議デバイスと自動的にペアリングできます。

シスコでは、ワイヤレス共有、デバイスコントロール、会議参加の簡略化のために Webex アプリの導入を推奨しています。しかし、それが難しい場合、Cisco Proximity では、インフラストラクチャに依存することなく、軽量でデバイス中心の代替手段を提供します。

このガイドでは、オンプレミスで登録されたビデオ会議デバイス向けの Cisco Proximity について説明しています。オンプレミスのデバイスが Webex Edge for Devices にリンクされている場合、クラウドペアリングの Cisco Proximity に関する情報については、▶ [Webex ヘルプセンター \(https://help.webex.com/n1v31g9/\)](https://help.webex.com/n1v31g9/) を参照してください。



プロキシミティ接続の数

プロキシミティの最大同時接続数は次のとおりです。

- ・ 30

この最大接続数に達すると、新しいユーザーはクライアントから警告されます。

プロキシミティ サービス

コールの発信とビデオ会議デバイスの制御:

- ・ ダイヤル、ミュート、音量調節、切断
- ・ ラップトップ (OS X と Windows) で使用可能

ラップトップからワイヤレスで共有:

- ・ プレゼンテーション ケーブルを接続しないコンテンツの共有
- ・ ラップトップ (OS X と Windows) で使用可能



Cisco Proximity クライアントをインストールする

クライアントの入手場所

ラップトップ (Windows および OS X) 向けの Cisco Proximity クライアントは、▶ <https://proximity.cisco.com> から無償でダウンロードできます

エンド ユーザー ライセンス契約書

エンドユーザー ライセンス契約書をよく確認してください。

▶ https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/warranty/English/EU1KEN_.html

サポートされるオペレーティング システム

- ・ Mac OS X 10.9 以降
- ・ Windows 7 以降

Windows 8 で導入されたタイル ベースのインターフェイスはサポートされていません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Proximity の設定と使用 (2/5 ページ)

超音波の放出

シスコのビデオ会議デバイスは、プロキシミティ機能の一部として超音波のペアリングメッセージを送出します。

業務用または商用アプリケーション、家電製品など、ほとんどの人は毎日さまざまな環境で、程度の差はあれ超音波にさらされています。

人によっては空中の超音波によって何らかの影響を自覚する場合がありますが、75 dB 未満のレベルで影響が生じることはほとんどありません。

Room 70, Room 70 G2, Room Panorama, Room 70 Panorama, Room 55, Room 55 Dual, Room Bar, Room Bar Pro, Room Kit, Room Kit Mini, Room Kit EQ¹, Room Kit Plus¹, および Room Kit Pro¹ :

- ・ スピーカーから 50 cm 以上の距離では、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満になります。

Desk, Desk Mini, Desk Pro :

- ・ スピーカーから 20 cm 以上の距離では、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満になります。

Board および Board Pro :

- ・ 画面から 20 cm 以上の距離では、超音波の音圧レベルは 75 dB 未満になります。

Board 55 および 70 (S シリーズ以外) の場合、スピーカーが下向きのため、画面の真下ではレベルが若干高くなる場合があります。

Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro :

- ・ これらのビデオ会議デバイスでは、サードパーティのスピーカーで超音波が放出されるため、超音波の音圧レベルを予測できません。

スピーカー自体の音量コントロール、および[\[音声 \(Audio\)\]>\[超音波 \(Ultrasound\)\]>\[最大音量 \(MaxVolume\)\]](#)での設定は、超音波の音圧レベルに影響を与えます。リモート制御またはタッチコントロールでの音量制御は効果がありません。

超音波をオフにする方法

デバイスは、次の機能のために超音波を使用しています。

- ・ プロキシミティ ペアリング
- ・ 動作検出

ある機能の超音波をオフにすると、その機能は使用できなくなります。

プロキシミティペアリングの超音波送出手をオフにするには、以下を設定する必要があります。

- ・ [\[プロキシミティ \(Proximity\)\]>\[モード \(Mode\)\]](#): Off
- ・ [\[オーディオ \(Audio\)\]>\[超音波 \(Ultrasound\)\]>\[Ru1Protocol\]](#): Off²
- ・ [\[オーディオ \(Audio\)\]>\[超音波 \(Ultrasound\)\]>\[RzssProtocol\]](#): Off²

動作検出の超音波の送出手をオフにするには、以下を設定する必要があります。

- ・ [\[RoomAnalytics\]>\[PeoplePresenceDetector\]](#): Off
- ・ [\[Standby\]>\[WakeUpOnMotionDetection\]>\[モード \(Mode\)\]](#): Off

超音波の送出手を完全にオフにするには、上記の設定をすべてオフに設定する必要があります。

¹ これは、Quad Camera の内蔵スピーカーのみを使用する場合に適用されます。外部のサードパーティ製スピーカーを使用している場合は、Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro の情報を参照してください。

² または、[\[オーディオ \(Audio\)\]>\[超音波 \(Ultrasound\)\]>\[MaxVolume\]](#): 0 を設定できます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Proximity の設定と使用 (3/5 ページ)

ヘッドセット

ヘッドセットまたはヘッドフォンは、製品に応じていくつかの出力タイプに接続できます。

注: 超音波を発する出力にヘッドセットを接続しないでください。

専用ヘッドセット出力 (アナログ)、ミニジャック

Desk Pro :

- このデバイスは、専用のヘッドセット出力では超音波を送りません。したがって、いつでもヘッドセットを接続できます。

オーディオライン出力 (アナログ)、ミニジャック、ユーロブロック

Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro :

- デバイスによってオーディオライン出力で超音波を発するため、接続したヘッドセットからの音圧レベルを制御することはできません。
- アナログ回線出力にヘッドセットを接続する場合、超音波の送出をオフにしておくことを強く推奨します。

Board, Room Bar Pro, Room Kit, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama :

- デバイスは、オーディオライン出力で超音波を送りません。

USB 出力

Board Pro, Desk シリーズ, Room Bar, Room Bar Pro, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55 :

- デバイスは、USB 出力で超音波を送りません。したがって、いつでもヘッドセットを接続できます。

Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro :

- デフォルトでは、デバイスは USB 出力で超音波を送りません。これらの出力は、主に USB オーディオインターフェイスを対象としています。
- ヘッドセットを直接または USB オーディオインターフェイス経由で接続する場合は、超音波の送出をオフにするか、これらの出力で超音波が送出されないようにオーディオシステムを設定することを強く推奨します。

Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama :

- デバイスは、USB 出力で超音波を送りません。

Board :

- USB 出力にはオーディオがありません。

* 副次的な影響として、プロキシミティまたは動作検出機能を []。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Proximity の設定と使用 (4/5 ページ)

プロキシミティ サービスを有効にする

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
2. [\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) に移動して、Proximity を [\[オン \(On\)\]](#) にします。

[プロキシミティ (Proximity)] を [\[オン \(On\)\]](#) にすると、ビデオ会議デバイスから超音波のペアリングメッセージが送出されます。

超音波のペアリング メッセージは、Proximity クライアントがインストールされた近くにあるデバイスによって受信され、デバイスの認証および許可をトリガーします。

[プロキシミティ (Proximity)] がデフォルトで [\[オン \(On\)\]](#) または [\[オフ \(Off\)\]](#) かは、製品によって異なります。
3. 許可するサービスを有効にします。[デスクトップクライアントからのワイヤレス共有 (Wireless share from a desktop client)] はデフォルトでは有効になっています。

プロキシミティ機能を最大限に活用するために、両方のサービスを有効にすることをお勧めします。

コールの発信とビデオ会議デバイスの制御:

- [\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) > [\[サービス \(Services\)\]](#) > [\[通話制御 \(CallControl\)\]](#) に移動して、[\[有効 \(Enabled\)\]](#) を選択します。

デスクトップ クライアントからのワイヤレス共有:

- [\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) > [\[サービス \(Services\)\]](#) > [\[コンテンツ共有 \(ContentShare\)\]](#) > [\[クライアントから \(FromClients\)\]](#) に移動して、[\[有効 \(Enabled\)\]](#) を選択します。

デフォルトの動作

Room Bar Pro, Codec EQ, Codec Plus,、 Codec Pro :

- サードパーティ製スピーカーの使用時には、プロキシミティが想定どおりに動作するように追加のテストが必要な場合があるため、[プロキシミティ (Proximity)] 機能はデフォルトで [\[オフ \(Off\)\]](#) になっています。超音波によってまれにオーディオ アーチファクトが生じることがあります。このアーチファクトが生じた場合、[\[音声 \(Audio\)\]](#) > [\[超音波 \(Ultrasound\)\]](#) > [\[最大音量 \(MaxVolume\)\]](#) の設定を使用して超音波の最大音量を下げることを検討してください。

Desk, Desk Mini, Desk Pro :

- Desk 製品は複数のデバイスが互いに近くにある、間仕切りのない広々としたオフィスに設置されることが多いため、[プロキシミティ (Proximity)] 機能はデフォルトで [\[オフ \(Off\)\]](#) になっています。このような環境では、ペアリングが不安定になる可能性があります。プロキシミティは、通常 1 部屋につき 1 つのデバイス上でだけ [\[オン \(On\)\]](#) にしてください。

その他の製品 :

- [プロキシミティ (Proximity)] 機能はデフォルトで [\[オン \(On\)\]](#) に設定されています。

推奨

一般に、Cisco では、最適なユーザーエクスペリエンスのため、Proximity は常に [\[オン \(On\)\]](#) に設定することをお勧めしています。

ただし、[プロキシミティ (Proximity)] がデフォルトで [\[オフ \(Off\)\]](#) に設定されている製品については、[プロキシミティ (Proximity)] を [\[オン \(On\)\]](#) にする前に、ご使用の環境と設定に適していることを確認することが重要です。

プロキシミティに対する完全なアクセス権限を得るためには、[\[プロキシミティ \(Proximity\)\]](#) > [\[サービス \(Services\)\]](#) > [\[...\]](#) も [\[有効 \(Enabled\)\]](#) にする必要があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Proximity の設定と使用 (5/5 ページ)

部屋の考慮事項

部屋の音響

- 壁/床/天井の表面が硬い部屋では、音の反響が大きいことが問題になる場合があります。最良の会議環境とプロキシミティのパフォーマンスを確保するために、常に会議室の音響処理を行うことを強く推奨します。
- プロキシミティを有効にするビデオ会議デバイスは、1 つの部屋の中で 1 つだけにすることを推奨します。複数あると、干渉が発生する可能性があり、デバイス検出とセッション メンテナンスの問題の原因となることがあります。

プライバシーについて

シスコのプライバシーポリシーと Cisco Proximity 付録には、クライアントにおけるデータ収集とプライバシーの懸念事項が記載されており、この機能を組織に導入する際にはこれを考慮する必要があります。次のページを参照してください。▶ <https://www.cisco.com/web/siteassets/legal/privacy.html>

基本的なトラブルシューティング

Webex クライアントを使用するデバイスを検出できない

- ビデオ会議デバイスがスタンバイ モードかどうかを確認します。スピーカーがオフになっている (たとえば、スタンバイ モードの TV) 場合、超音波は送信されません。(Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro のみ)
- スピーカーの音量を確認します。超音波の音量を制御するのは、スピーカー自体の音量コントロールです (リモートコントロールまたはタッチコントローラを使用してコントロールされる音量ではありません)。音量が低すぎると、受信デバイスで超音波のペアリング メッセージを検出できません。(Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro のみ)
- 一部の Windows ラップトップでは、超音波の周波数範囲 (20kHz ~ 22kHz) の音を記録できません。これは、特定のデバイスのサウンドカード、サウンド ドライバ、または内蔵マイクに関する周波数の制限が原因である可能性があります。詳細については、サポート フォーラムを参照してください。
- ユーザーインターフェイス (コントロールパネル) で [\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) > [\[問題と診断 \(Issues and diagnostics\)\]](#) を確認するか、デバイスの Web インターフェイスで [\[問題と診断 \(Issues and diagnostics\)\]](#) を確認します。超音波に関する問題がリストに記載されていない場合 (超音波信号を確認できません (Unable to verify the ultrasound signal))、超音波のペアリングメッセージがビデオ会議デバイスから送出されます。クライアントで検出される問題のサポートには、プロキシミティの [サポート掲示板](#) を参照してください。

オーディオ アーチファクト

- ハムノイズやクリッピングノイズなどが聞こえる場合は、最大超音波音量を下げてください ([\[オーディオ \(Audio\)\]](#) > [\[超音波 \(Ultrasound\)\]](#) > [\[最大音量 \(MaxVolume\)\]](#))。

ラップトップから内容を共有できない

- コンテンツ シェアリングを機能させるには、ビデオ会議デバイスとラップトップを同じネットワーク上に配置する必要があります。この理由から、ビデオ会議デバイスが Expressway 経由で企業ネットワークに接続されており、ラップトップが VPN 経由 (VPN クライアント依存) で接続されている場合には、プロキシミティ シェアリングが失敗する可能性があります。

その他のリソース

Cisco Proximity のサイト:

▶ <https://proximity.cisco.com>

サポート フォーラム:

▶ <https://www.cisco.com/go/proximity-support>

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ品質対コールレート比の調整 (1/2 ページ)

ビデオ入力品質の設定

ビデオのエンコーディングと送信のときには、高解像度と高フレーム レートとの間にトレード オフが存在します。

[ビデオ (Video)]>[入力 (Input)]>[コネクタ n (Connector n)]>[品質 (Quality)]設定を使用して、高フレームレート ([モーション (Motion)]) または高解像度 ([シャープネス (Sharpness)]) の優先順位を決定します。

次のページの表はメインビデオチャンネル用です。したがって、[品質 (Quality)]は[モーション (Motion)]に設定されています。

最適鮮明度プロファイル

最適鮮明度プロファイルは、ビデオ会議室の光 (照明) の条件およびカメラ (ビデオ入力ソース) の品質を反映している必要があります。光の条件およびカメラの品質が良いほど、高い最適鮮明度プロファイルを使用する必要があります。

通常、[中 (Medium)] プロファイルが推奨されます。ただし照明条件が非常に良好な場合は、プロファイルを決定する前に、さまざまな最適鮮明度プロファイル設定でエンドポイントをテストすることをお勧めします。特定の帯域の解像度を上げるために、[高 (High)] プロファイルを設定できます。

異なる最適鮮明度プロファイルに使用する一般的な解像度、コール レートおよび送信フレーム レートの一部を次のページの表に示します。解像度とフレーム レートは、発信側と着信側の両方のデバイスでサポートされている必要があります。

60 fps でのビデオ送信のしきい値

60 fps でのビデオ送信を許可する条件を決定するには、[ビデオ (Video)]>[入力 (Input)]>[コネクタ n (Connector n)]>[最適鮮明度 (OptimalDefinition)]>[60fps のしきい値 (Threshold60fps)]設定を使用します。

このしきい値より低い解像度では、最大転送フレームレートが 30 fps になります。このしきい値より高い解像度については、使用可能な帯域幅が十分であれば 60 fps になる可能性があります。

60 fps のビデオの許可

(適用対象: Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55)

デフォルトとして、カメラは 1 秒あたり 30 フレーム (30 fps) を出力します。これにより、通常の帯域と照明条件であってもクローズアップと広い視野両方の画像の品質が良くなります。条件がさらに良い場合、カメラからの出力が 60 fps となり、一般的に良い品質となる可能性があります。

カメラの出力フレームレートを設定するには、[カメラ (Cameras)]>[カメラ (Camera)]>[フレームレート (Framerate)]設定を使用します。

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[設定 (Settings)]に移動し、[構成 (Configurations)]を選択します。

1. Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room Bar, Room Bar Pro, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55 の Connector 1 (内蔵カメラ) を除く、すべての製品とコネクタに適用されます。

[ビデオ (Video)]>[入力 (Input)]>[コネクタ n (Connector n)]>[品質 (Quality)]に移動し、高フレームレートまたは高解像度の優先順位を選択します。

2. [ビデオ (Video)]>[入力 (Input)]>[コネクタ n (Connector n)]>[最適鮮明度 (OptimalDefinition)]>[プロファイル (Profile)]に移動して、適切な最適鮮明度プロファイルを選択します。
3. [ビデオ (Video)]>[入力 (Input)]>[コネクタ n (Connector n)]>[最適鮮明度 (OptimalDefinition)]>[60fps のしきい値 (Threshold60fps)]に移動して、その解像度よりも低い場合に最大転送フレームレートを 30 fps にするしきい値を設定します。
4. Room Kit, Room Kit Mini, および Room 55 に適用されず。
[カメラ (Cameras)]>[カメラ (Camera)]>[フレームレート (Framerate)]に進み、60fps のビデオを許可するかどうかを選択します。

ビデオ品質対コール レート比の調整 (2/2 ページ)

H.264 をサポートする製品:

- すべての製品*

H.264 : 解像度とフレームレート[w×h@fps]は、異なる最適な定義プロファイルとコール レートから取得します。						
コール レート (kbps)	最大 30 fps および最大 128 kbps の音声ビットレート			最大 60 fps および最大 128 kbps の音声ビットレート		
	標準	中 (Medium)	高	標準	中 (Medium)	高
128	320 × 180 @ 30	320 × 180 @ 30	512 × 288 @ 30	320 × 180 @ 30	512 × 288 @ 20	512 × 288 @ 30
256	512 × 288 @ 30	640 × 360 @ 30	768 × 448 @ 30	512 × 288 @ 30	640 × 360 @ 30	512 × 288 @ 60
384	640 × 360 @ 30	768 × 448 @ 30	768 × 448 @ 30	640 × 360 @ 30	512 × 288 @ 60	640 × 360 @ 30
512	768x448@30	1024x576@30	1024x576@30	512 × 288 @ 60	640x360 @ 60	768x448 @ 60
768	1024 × 576 @ 30	1280 × 720 @ 30	1280 × 720 @ 30	640x360 @ 60	768x448 @ 60	1024x576 @ 60
1152	1280 × 720 @ 30	1280 × 720 @ 30	1280 × 720 @ 30	768x448@60	1024x576@60	1280 × 720 @ 60
1472	1280 × 720 @ 30	1280 × 720 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1024x576@60	1024x576@60	1280 × 720 @ 60
1920	1280x720@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1024x576@60	1280x720@60	1280x720@60
2560	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1280x720@60	1920x1080@60
3072	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1280x720@60	1920x1080@60
4000	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1920x1080@60	1920x1080@60
6000	1920 × 1080 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1920 × 1080 @ 60	1920 × 1080 @ 60	1920 × 1080 @ 60

H.265 をサポートする製品:

- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Pro
- Codec Plus
- Room Bar Pro
- Room Kit
- Room 55
- Room 55 Dual
- Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama *
- Room Panorama *

H.265 : 解像度とフレームレート[w×h@fps]は、各種の最適な定義プロファイルとコールレートから取得します。						
コール レート (kbps)	最大 30 fps および最大 128 kbps の音声ビットレート			最大 60 fps および最大 128 kbps の音声ビットレート		
	標準	中 (Medium)	高	標準	中 (Medium)	高
128	512 × 288 @ 30	512 × 288 @ 30	640 × 360 @ 30	512 × 288 @ 30	512 × 288 @ 30	512 × 288 @ 60
256	640 × 360 @ 30	768 × 448 @ 30	768 × 448 @ 30	640 × 360 @ 30	512 × 288 @ 60	640x360 @ 60
384	768 × 448 @ 30	1024 × 576 @ 30	1280 × 720 @ 30	640x360 @ 60	768x448 @ 60	768x448@60
512	1024x576@30	1280x720@30	1280x720@30	640x360 @ 60	768x448@60	1024x576@60
768	1280 × 720 @ 30	1280 × 720 @ 30	1920 × 1080 @ 30	768x448@60	1024x576@60	1280 × 720 @ 60
1152	1280 × 720 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1024x576@60	1280 × 720 @ 60	1280 × 720 @ 60
1472	1280 × 720 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1280 × 720 @ 60	1280 × 720 @ 60	1280 × 720 @ 60
1920	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1280x720@60	1920x1080@60
2560	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1280x720@60	1920x1080@60	1920x1080@60
3072	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@60	1920x1080@60	1920x1080@60
4000	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@30	1920x1080@60	1920x1080@60	1920x1080@60
6000	1920 × 1080 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1920 × 1080 @ 30	1920 × 1080 @ 60	1920 × 1080 @ 60	1920 × 1080 @ 60

* Room Panorama および Room 70 Panorama の場合、データは非パノラマモードで適用されます。

壁紙バンドルをバックグラウンド画像として選択

デバイスに事前インストール済みの壁紙バンドルのセットから選択できます。壁紙バンドルは、システムがアウェイク状態のときに表示されます。独自のカスタムバンドルをアップロードすることはできません。

壁紙バンドルには、いくつかのセットアップタイプの壁紙が含まれる場合があります。複数画面にまたがる画像を提供することで、複数画面設定での使用を想定したバンドルや、タッチコントローラ用の壁紙が含まれるバンドルもあります。

設定タイプの例には次のものがあります。

- *single*: 単一画面のバックグラウンド画像
- *dual*: 2 つの画面にまたがるバックグラウンド画像 (並べて表示)
- *dualAbove*: 2 つの画面 (一方の画面が他方の画面) にまたがるバックグラウンド画像
- *three*: 3 つの画面にまたがるバックグラウンド画像 (並べて表示)
- *tripleAbove/tripleBelow*: 3 つの画面にまたがるバックグラウンド画像。Room Panorama および Room 70 Panorama 用に設計されており、3 番目の画面は 2 つのメイン画面の上または下にあります
- *controller*: タッチコントローラのバックグラウンド画像



壁紙バンドルを適用するか、別のバンドルに変更する場合は、`UserInterface WallpaperBundle` API コマンドを使用する必要があります。タッチコントローラまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことはできません。

壁紙バンドルを使用するには、`[ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [壁紙 (Wallpaper)]` を `[自動 (Auto)]` に設定する必要があります。

選択できる壁紙バンドルを確認する

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle List
```

バンドルの名前と設定タイプの両方が返されます。

別の壁紙バンドルに変更:

画面設定に一致する設定タイプを提供するバンドルを選択する必要があります。¹

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle Set
Name: "Name"
```

壁紙バンドルを削除して、デフォルトのバックグラウンドの外観に戻します。

```
xCommand UserInterface WallpaperBundle Clear
```

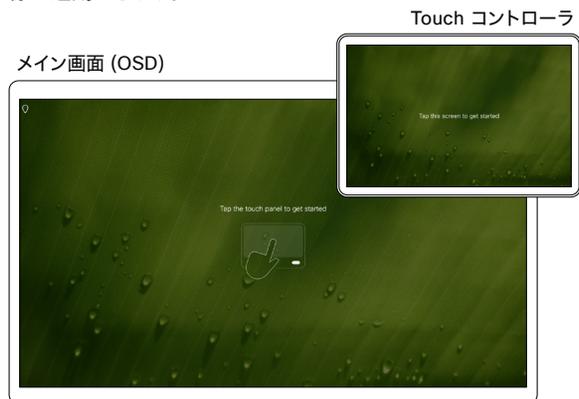
¹ 例外: 「ベージュ (beige)」、「ブルー (blue)」、「カーボン (carbon)」、「フォレストグリーン (forestgreen)」のバンドルは、限定版カラーの Desk および Desk Mini デバイス用に予約されています。

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

ハーフウェイクモードのカスタムバックグラウンド画像を追加する

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#)に移動し、[\[壁紙およびハーフウェイク \(Wallpaper and Halfwake\)\]](#)を選択します。

デバイスがハーフウェイクモードのときに、メイン画面とタッチコントローラの両方に表示されるカスタムバックグラウンド画像を適用できます。



ハーフウェイク画像をアップロードまたは置き換える

[\[画像のアップロード \(Upload image\)\]](#) または [\[画像の置換 \(Replace image\)\]](#) をクリックし、参照して画像ファイルを検索します。

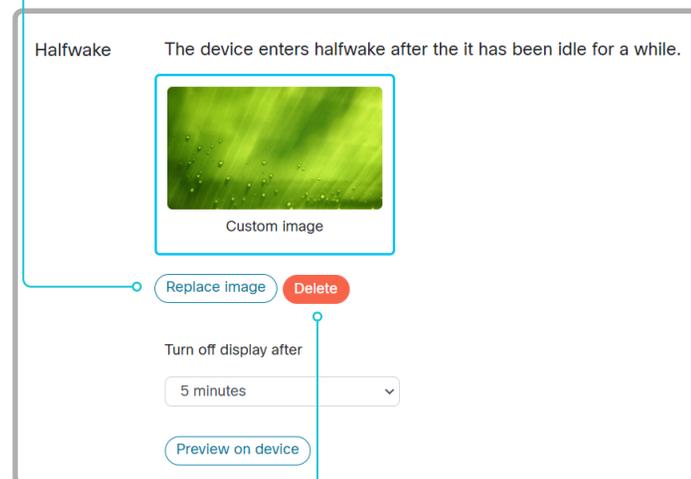
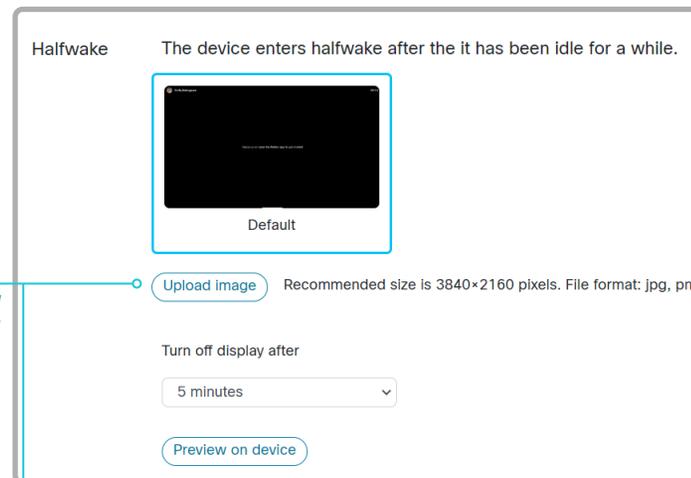
サポートされるファイル形式:

- JPEG、PNG

推奨サイズ:

- 1920 × 1080 ピクセル (*Desk, Desk Mini*)
- 3840 × 2160 ピクセル (*その他の製品*)

カスタムハーフウェイク バックグラウンドはデバイスに自動的に保存され、アップロードされるとアクティブになります。



ハーフウェイク画像を削除する

削除により、選択した画像をデバイスから削除します。削除したカスタムの壁紙を再度使用する場合は、その壁紙を再度アップロードする必要があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

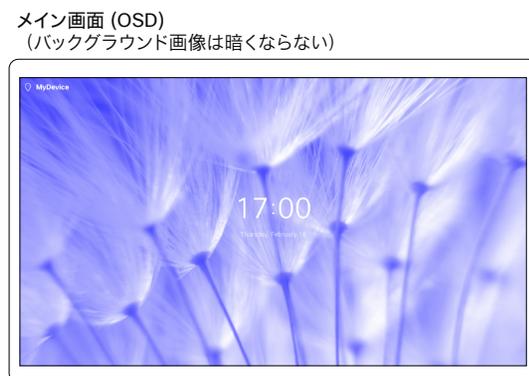
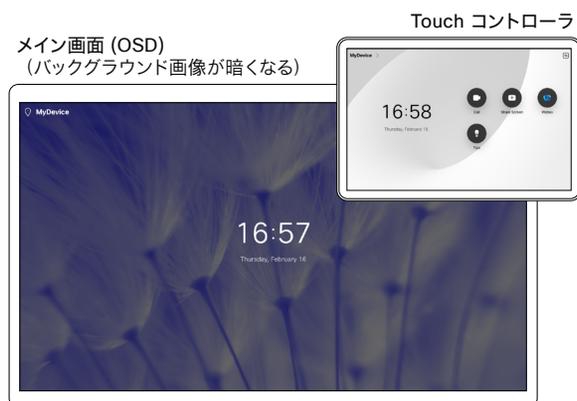
Room 70
Panorama

Room
Panorama

ホーム画面のカスタムバックグラウンドを追加する

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#) に移動し、[\[壁紙およびハーフウェイク \(Wallpaper and Halfwake\)\]](#) を選択します。

ホーム画面にカスタムバックグラウンド (壁紙とも呼ばれます) を適用できます。カスタムバックグラウンドはメイン画面にのみ表示されず。タッチコントローラにはデフォルトのバックグラウンドがあります。



ホーム画面の壁紙をアップロードまたは置き換える

[\[画像のアップロード \(Upload image\)\]](#) または [\[画像の置換 \(Replace image\)\]](#) をクリックし、参照して画像ファイルを検索します。

サポートされるファイル形式:

- ・ JPEG、PNG

推奨サイズ:

- ・ 1920 × 1080 ピクセル (*Desk, Desk Mini*)
- ・ 3840 × 2160 ピクセル (*その他の製品*)

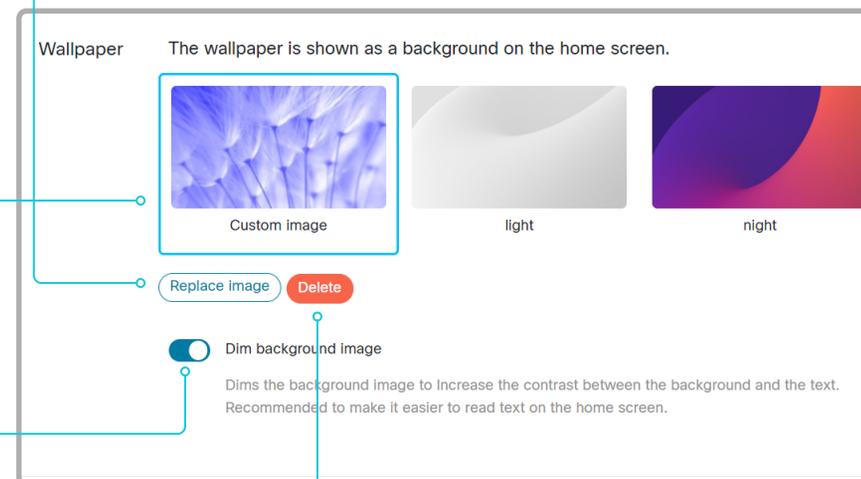
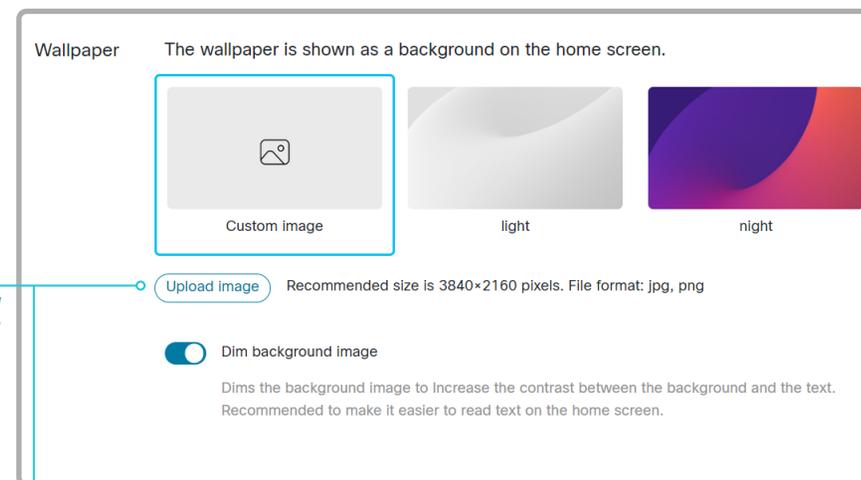
カスタム壁紙はデバイスに自動的に保存され、アップロードされるとアクティブになります。

壁紙の選択

使用する壁紙をクリックします。プレインストールされたバックグラウンド画像とカスタム壁紙から選択します。

バックグラウンド画像を暗くする

バックグラウンド画像を暗くして、バックグラウンドとテキストのコントラストを上げることを推奨します。



カスタムの壁紙の削除

削除により、選択した画像をデバイスから削除します。削除したカスタムの壁紙を再度使用する場合は、その壁紙を再度アップロードする必要があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

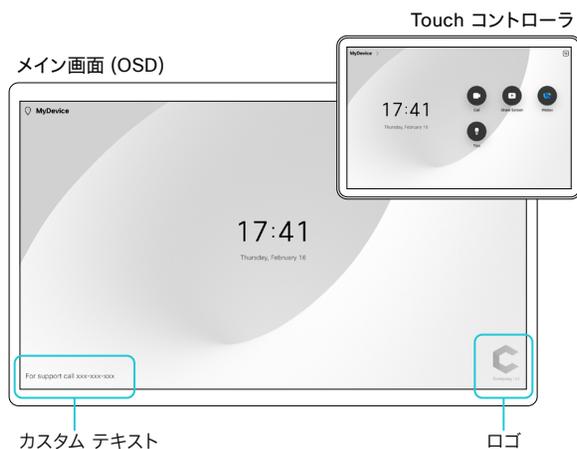
画面およびタッチコントローラへのブランディングの追加 (1/2 ページ)

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#)に移動し、[\[ブランディング \(Branding\)\]](#)を選択します。

ホーム画面 (ウェイクモード) およびデバイスがハーフウェイクモードのときに表示される会社のロゴとカスタムテキストを追加できます。

ホーム画面のブランディング

アウェイク状態では、ロゴとカスタムテキストはメイン画面にのみ表示されます。ロゴは右下、カスタムテキストは左下です。これらのブランド要素は、タッチコントローラには影響しません。



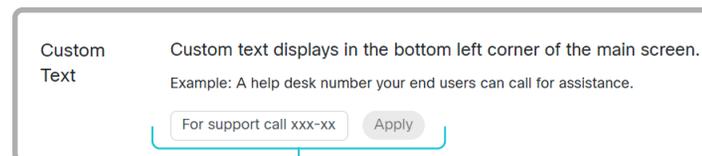
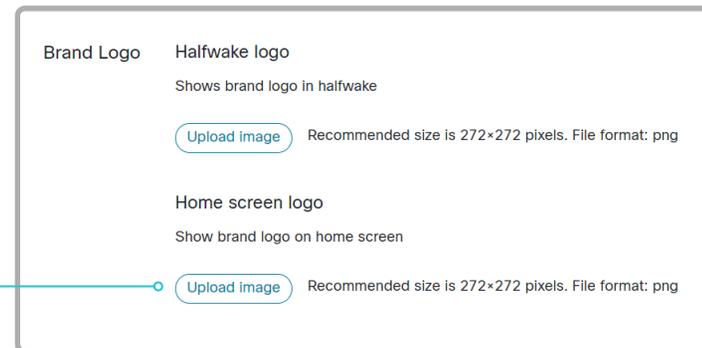
ホーム画面のロゴをアップロードする

[\[画像のアップロード \(Upload image\)\]](#) または [\[画像の置換 \(Replace image\)\]](#) をクリックし、参照して画像ファイルを検索します。

サポートされるファイル形式: PNG

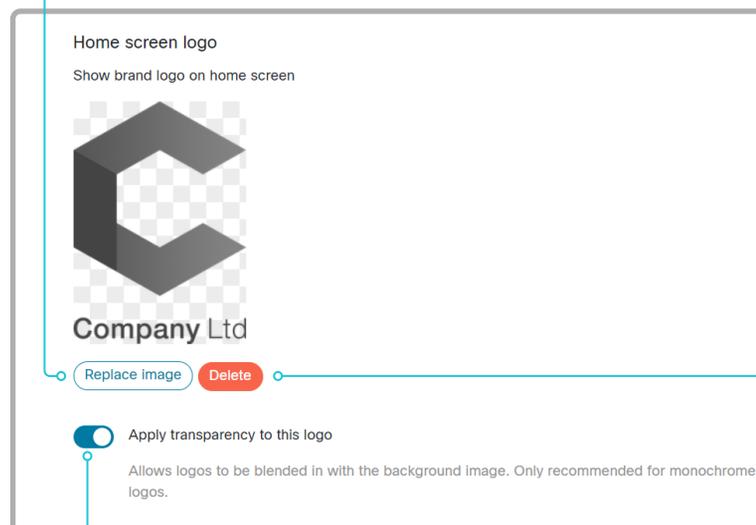
推奨サイズ: 272 × 272 ピクセル

ロゴはデバイスに自動的に保存され、アップロードされるとアクティブになります。



カスタムテキストを追加する

入力フィールドにテキストを入力し、[\[適用 \(Apply\)\]](#) をクリックします。



ハーフウェイク画像を削除する

削除により、デバイスからロゴを削除します。削除したカスタムの壁紙を再度使用する場合は、その壁紙を再度アップロードする必要があります。

ホーム画面のロゴに透明度を適用する

ロゴに透明度を適用することで、ホーム画面のバックグラウンドにより馴染みやすくなります。モノクロのロゴの場合のみに推奨します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

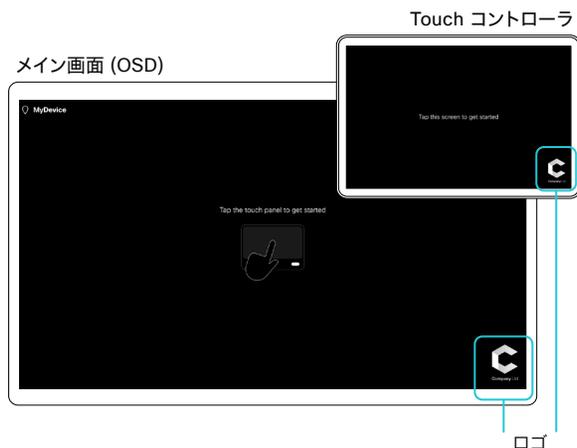
Room 70
Panorama

Room
Panorama

画面およびタッチコントローラへのブランディングの追加 (2/2 ページ)

ハーフウェイクモードでのブランディング

ハーフウェイクモードでは、ロゴがメイン画面とタッチコントローラの両方の右下に表示されます。ホーム画面に適用されるカスタムテキストは、ハーフウェイクモードでは表示されません。



デバイスの使用を開始する手順

画面中央のメッセージ (タッチコントローラではなく、画面のみ) をカスタマイズまたは削除する場合は、[\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\]](#) > [\[OSD\]](#) > [\[ハーフウェイクメッセージ \(HalfwakeMessage\)\]](#) 設定を使用します。これは、デバイスの使用開始方法をユーザーに示すメッセージです。

通常は標準メッセージのままにすることをお勧めします。サードパーティのユーザーインターフェイスがある場合など、別のシナリオに合わせる必要がある場合のみ、メッセージを変更してください。

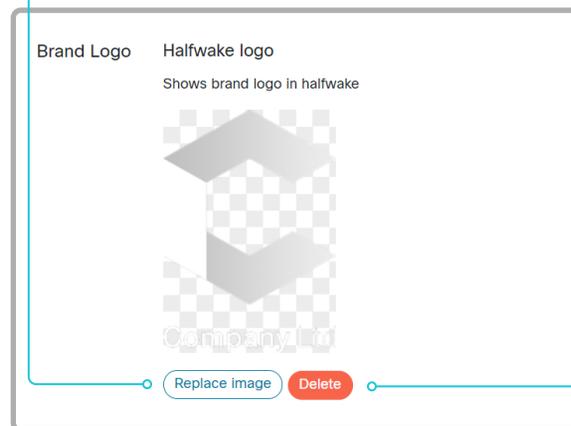
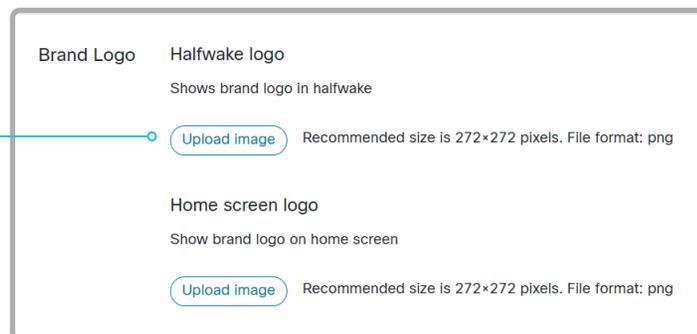
ハーフウェイクモードのロゴをアップロードする

[\[画像のアップロード \(Upload image\)\]](#) または [\[画像の置換 \(Replace image\)\]](#) をクリックし、参照して画像ファイルを検索します。

- ・ サポートされるファイル形式: PNG
- ・ 推奨サイズ: 272 × 272 ピクセル

ハーフウェイクの暗いバックグラウンド画像とうまく調和するように、明るいロゴを推奨します。

ロゴはデバイスに自動的に保存され、アップロードされるとアクティブになります。

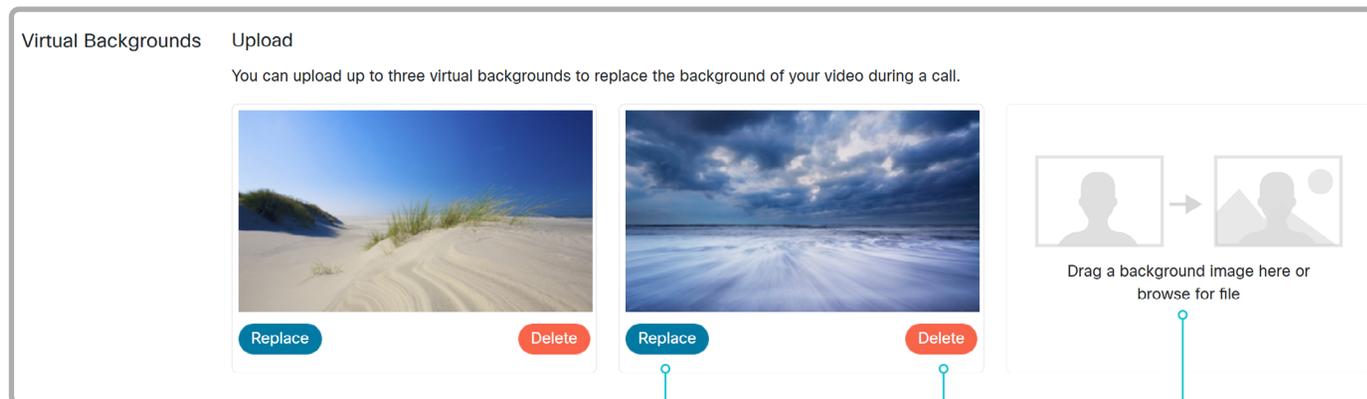


ハーフウェイク画像を削除する

削除により、デバイスからロゴを削除します。削除したカスタムの壁紙を再度使用する場合は、その壁紙を再度アップロードする必要があります。

仮想背景の追加

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#)に移動し、[\[仮想バックグラウンド \(Virtual Backgrounds\)\]](#)を選択します。



背景画像の交換

[\[置き換え \(Replace\)\]](#) を使用すると、仮想背景を新しいファイルに置き換えることができます。

背景画像の削除

[\[削除 \(Delete\)\]](#) では、デバイスから仮想背景を完全に削除します。

削除した仮想背景を再度使用する場合は、その仮想背景を再度アップロードする必要があります。

背景画像のアップロード

新しい仮想バックグラウンドを参照して選択するか、ファイルシステムからファイルを選択して、デバイスの Web インターフェイスにドラッグします。

サポートされるファイル形式: BMP、GIF (アニメーションなし)、JPEG、PNG

最大ファイルサイズ*: 8 MB

* この最大サイズには Base64 エンコーディングのオーバーヘッドが含まれるため、画像ファイルは少し小さくする必要があります。

仮想バックグラウンドについて

コール中にカスタム画像を背景として使用する場合、最大 3 つの仮想背景をアップロードして使用できます。

仮想バックグラウンドは、ユーザーインターフェイスから選択できます。[\[セルフビュー \(selfview\)\]](#) をタップするか、コントロールパネルを開いて[\[バックグラウンド \(Background\)\]](#) を選択し、バックグラウンドオプションを検索します。詳細についてはユーザーガイドを参照してください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, DeskPro, DeskMini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

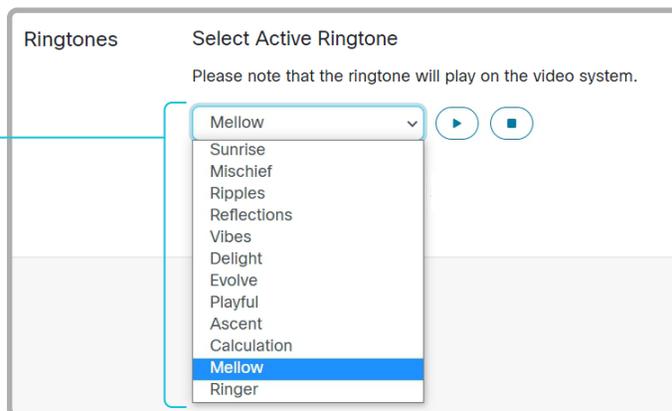
Room Panorama

着信音の選択と着信音量の設定

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[パーソナライゼーション \(Personalization\)\]](#) に移動し、[\[着信音 \(Ringtones\)\]](#) を選択します。

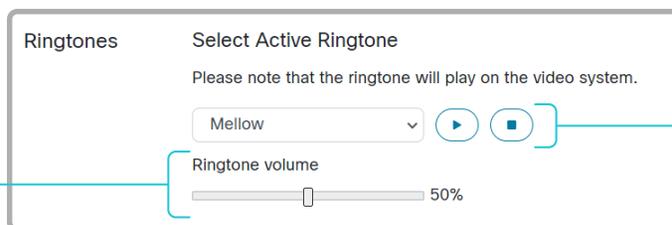
呼び出し音の変更

1. ドロップダウン リストから呼び出し音を選択します。
2. [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックすると、それがアクティブな呼び出し音になります。



呼び出し音の音量の設定

呼び出し音の音量を調節するにはスライド バーを使用します。



呼び出し音の再生

呼び出し音を再生するには、再生ボタン (▶) をクリックします。

再生を終了するには、停止ボタン (■) を使用します。

着信音について

デバイスには着信音一式がインストールされています。着信音を選択して音量を設定するには、デバイスの Web インターフェイスを使用します。

デバイスの Web インターフェイスから、選択した呼び出し音を再生できます。呼び出し音が再生されるのはデバイス上であり、Web インターフェイスが実行されているコンピュータ上ではないことに注意してください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

お気に入りリストの管理

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[パーソナライゼーション (Personalization)] に移動し、[連絡先 (Contacts)] を選択します。

ファイルからの連絡先のインポートまたはエクスポート

ローカルの連絡先をファイルに保存するには [エクスポート (Export)] をクリックし、ファイルから連絡先を取得するには [インポート (Import)] をクリックします。

ファイルから新しい連絡先をインポートすると、現在のすべてのローカル連絡先は破棄されます。

連絡先を追加または編集する

1. [連絡先の追加 (Add contact)] をクリックして新しいローカル連絡先を作成するか、連絡先の名前をクリックしてから [連絡先を編集 (Edit Contact)] をクリックします。

2. ポップアップ表示されたフォームに値を入力するか、そのフォームを更新します。

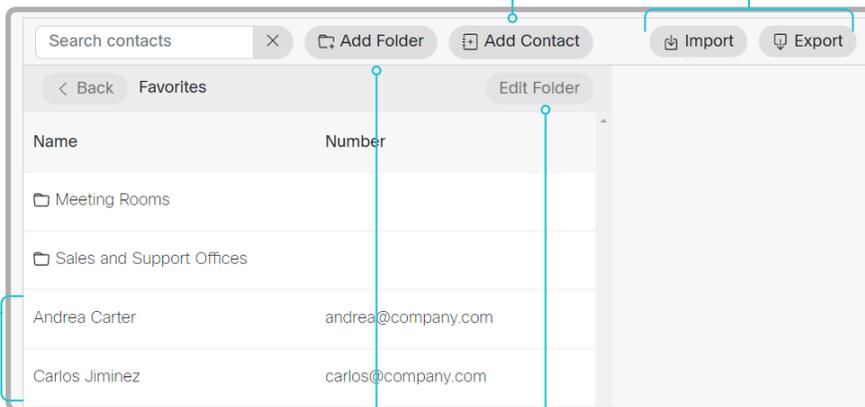
連絡先をサブフォルダに保存するために、フォルダドロップダウン リストでフォルダを選択します。

連絡先に関する複数の連絡方法 (ビデオアドレス、電話番号、携帯番号など) を保存する場合は、[連絡方法の追加 (Add Contact Method)] をクリックして、新しい入力フィールドに値を入力します。

3. [保存 (Save)] をクリックしてローカル連絡先を保存します。

コンタクトを削除する

1. [連絡先を編集 (Edit Contact)] に続いて連絡先の名前をクリックします。
2. [削除 (Delete)] をクリックしてローカル連絡先を削除します。ポップアップするダイアログで選択内容を確認します。



サブフォルダを追加または編集する

1. [フォルダの追加 (Add Folder)] をクリックして新しいサブフォルダを作成するか、一覧表示されたサブフォルダの 1 つをクリックしてから [フォルダの編集 (Edit Folder)] をクリックして既存のサブフォルダを変更します。
2. ポップアップ表示されたフォームに値を入力するか、そのフォームを更新します。
3. [保存 (Save)] をクリックしてフォルダを作成または更新します。

サブフォルダを削除する

1. フォルダの名前をクリックし、[フォルダの編集 (Edit Folder)] をクリックします。
2. フォルダとそのすべてのコンテンツおよびサブ フォルダを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。ポップアップするダイアログで選択内容を確認します。

デバイスのユーザーインターフェイスによるお気に入りの管理

お気に入りリストへの連絡先の追加

1. ホーム画面の [発信 (Call)] を選択します。
2. 追加する連絡先を選択します。
3. 連絡先カードの [通話 (Call)] ボタンの横にある星印をタップします。タップすると、星のマークの色が黒から白に変わります。

追加した連絡先は、最上位のフォルダに格納されます。サブフォルダを選択または作成することはできません。

お気に入りリストからの連絡先の削除

1. ホーム画面の [発信 (Call)] を選択します。
2. [お気に入り (Favorites)] タブを選択します。
3. 削除する連絡先を選択します。
4. 連絡先カードの [通話 (Call)] ボタンの横にある星印をタップします。タップすると、星のマークの色が白から黒に変わります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

アクセシビリティ機能のセットアップ

着信時のスクリーンの点滅

聴覚に障がいのあるユーザーが着信に気づきやすくするために、着信時に画面が点滅するように設定できます。

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択します。
2. [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\]](#) > [\[アクセシビリティ \(Accessibility\)\]](#) > [\[着信コール通知 \(IncomingCallNotification\)\]](#) に移動して、[\[画面表示の強調 \(AmplifiedVisuals\)\]](#) を選択します。
3. [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックします。

低電力動作の設定

デフォルトでは、デバイスは y 分後にディスプレイオフモードになります。デフォルトの遅延は製品によって異なります。

次の設定を使用して、優先遅延を設定するか、このモードをオフに切り替えることができます。

- **Standby Control:** Off/On
- **Standby Delay:** 整数 (1 ~ 480)

Standby Control が Off の場合、デバイスは自動的にディスプレイオフモードになりません。**Standby Control** が On の場合、**Standby Delay** がタイムアウトすると、デバイスはディスプレイオフモードに入ります。

Standby Delayにはハーフウェイク期間も含まれます。

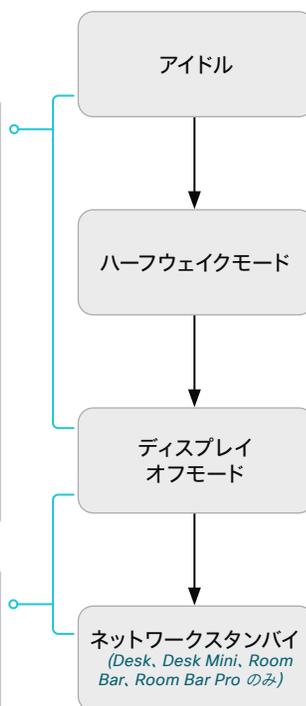
デフォルトでは、デバイスは通常のディスプレイオフモードになってから 2 分後にネットワークスタンバイ状態になります。^{*}

次の設定により、優先遅延を設定するか、ネットワークスタンバイへの自動移行をオフにできます。

- **Standby Level Networked Mode:** Off/On
- **Standby Level Networked Delay:** 整数 (0 ~ 1440)

Standby Level Networked Control が Off の場合、デバイスはネットワークスタンバイ レベルになりません。**Standby Level Networked Control** が On の場合、デバイスは **Standby Level Networked Delay** がタイムアウトしたときにネットワークスタンバイになります。

遅延が 0 に設定されている場合、デバイスはディスプレイオフ状態をスキップして、ネットワークスタンバイに直接移行します。



デフォルトでは、アクティビティがなく、アクティブな Web アプリやセッションがない場合、デバイスは 2 分後 (設定不可) にハーフウェイクモードになります。ハーフウェイクモードが x 分間表示されます。ここで、 x は **Standby Delay** - 2 です。

例: **Standby Delay:** 5

ハーフウェイク画面が 3 分間表示され、デバイスがディスプレイオフモードになります。

ハーフウェイク段階をスキップするには、この設定を使用します。

- **Standby Halfwake Mode:** Manual

ハーフウェイクモード

ハーフウェイクモードは、アイドルモードとディスプレイオフモードの中間の段階です。アクティビティが検出されるか、ディスプレイオフモードになるまで、デバイスはハーフウェイクモードのままです。

ハーフウェイクモードでは、テキスト付きの画面が暗く表示されたり、Web ページやデジタルサイネージなどのブランディング情報が表示されたりします。

低電力モード

低電力モードには複数あり、それぞれが異なる電力消費プロファイルを提供します。

ディスプレイオフモード

これは低電力の最初の段階です。ディスプレイがオフになります。

ネットワークスタンバイ

(Desk, Desk Mini, Room Bar, Room Bar Pro のみ)

これは低電力の 2 番目の段階であり、ディスプレイオフモードよりも消費電力をさらに削減します。

ディスプレイをオフにすることに加えて、CPU/GPU のクロックを下げ、下位レベルのモジュールの電源を切ります。

デバイスは引き続きネットワーク経由でアクセス可能であり、コールを受信すると起動します。

^{*} 人の存在が検出された場合、または Bluetooth 経由でオーディオがデバイスにストリーミングされている場合、デバイスはディスプレイオフモードのままになり、ネットワークスタンバイにはなりません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

CUCM からの製品固有の設定のプロビジョニング (1/2 ページ)

この章では、Cisco UCM リリース 12.5(1)SU1 で導入された手法を使用して、設定やパラメータをデバイス (エンドポイント) にプロビジョニングする方法について説明します。

Cisco UCM リリース 12.5(1)SU1 より前のリリースでは、UCM からデバイスにプッシュできるのは製品固有の設定の一部だけに限定されていました。それ以外のすべての設定については、管理者が Cisco TMS またはデバイスの Web インターフェイスを使用する必要がありました。

CUCM リリース 12.5(1)SU1 以降では、CUCM からプロビジョニングできる設定またはパラメータが増えました。設定のリストは、デバイス上でユーザーに表示される内容 (パブリック xConfiguration) と一致しますが、ネットワーク、プロビジョニング、SIP、および H.323 の設定は例外です。

CUCM の詳細については、▶ [『Cisco Unified Communications Manager リリース 12.5\(1\)SU1 機能設定ガイド』](#) [英語] の「Video Endpoints Management (ビデオ エンドポイント管理)」の章をご覧ください。

設定制御モード

管理者は、導入のニーズに基づいて、CUCM 管理インターフェイスでさまざまな設定制御モードを構成できます。設定を CUCM とデバイスのどちらから制御するか、または両方を使用して制御するかを決定できます。

次のように、さまざまな設定制御モードがあります。

- **Unified CM とエンドポイント (Unified CM and Endpoint)** (デフォルト) : CUCM とデバイスを、デバイス データをプロビジョニングするためのマルチマスター ソースとして動作させる場合は、このモードを使用します。CUCM はデバイスから自動的に xConfiguration データを読み取ります。デバイスでローカルに行われた更新は、即座に CUCM サーバーに同期されます。
- **Unified CM** : CUCM が、デバイス データをプロビジョニングするための集中管理型マスター ソースとして動作します。CUCM は、デバイスでローカルに行われた変更をすべて無視します。このような変更は、次回 CUCM が新しい設定をデバイスに適用するときに上書きされます。
- **エンドポイント (Endpoint)** : エンドポイントが設定データのマスター ソースとして動作します。このモードでは、エンドポイントは CUCM からの設定データを無視します。ローカルに行われた変更は同期されません。

このモードは通常、インテグレータがデバイスをインストールし、デバイスからローカルに設定を制御する場合に使用されます。

オンデマンドによるデバイスからの設定の読み込み

管理者は、CUCM で [\[デバイスからxConfigを読み込む \(Pull xConfig from Device\)\]](#) オプションを使用して、デバイスから設定の変更内容をいつでもオンデマンドで読み込むことができます。

このオプションは、デバイスが登録されている場合にのみ有効になります。

サポートされる CE ソフトウェアのバージョン

CE9.8 以降をサポートするすべてのデバイスで、CUCM のこの新しいプロビジョニング レイアウトを使用できます。

デバイスのソフトウェア バージョンが CE9.8 より前の場合は、CUCM のユーザーインターフェイスですべてのパラメータを表示できますが、設定できるのは "#" でマークされているサブセットのみです。"#" は各パラメータ値の右側に表示されます。

パラメータの完全なセットは、デバイスを CE9.8 以降にアップグレードした場合にのみ機能します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

CUCM からの製品固有の設定のプロビジョニング (2/2 ページ)

CUCM からのプロビジョニングのセットアップ

1. CUCM にサインインし、[\[デバイス \(Device\)\] > \[電話 \(Phone\)\]](#) に移動して、目的のデバイスを見つけます。
2. [製品固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションを見つけます (図を参照)。
3. [\[その他 \(Miscellaneous\)\]](#) カテゴリをクリックし、[設定制御モード (Configuration Control Mode)] 設定を見つけます。
使用するモードを、[Unified CM]、[エンドポイント (Endpoint)]、または [Unified CMとエンドポイント (Unified CM and Endpoint)] から選択します (前のページの説明を参照)。
4. デバイスから現在の設定を読み込む場合は、[\[デバイスからxConfigを読み込む \(Pull xConfig from Device\)\]](#) ボタンをクリックします。
5. カテゴリを選択し、変更する設定の値を指定します。
6. 最後に、以前のバージョンの CUCM での手順と同様に、[\[保存 \(Save\)\]](#) と [\[設定の適用 \(Apply Config\)\]](#) をクリックします。

Product Specific Configuration Layout

Parameter Value Pull xConfig from device

Note: Endpoints running software versions earlier than CE 9.8 only support provisioning a limited set of parameters from Cisco Unified CM. These parameters are indicated below with the # symbol.

Category	Parameter	Value	Notes
DefaultCall	Protocol*	Sip	#
	Rate	6000	
	DoNotDisturb DefaultTimeout	60	
	EncryptedIx Mode*	Auto	
	Encryption Mode*	BestEffort	
	FarendMessage Mode*	Off	
	MaxReceiveCallRate	6000	
	MaxTotalReceiveCallRate	6000	
	MaxTotalTransmitCallRate	6000	
	MaxTransmitCallRate	6000	
FarEndControl	Mode*	On	#
	SignalCapability*	On	#

オンデマンドによるデバイスからの設定の読み込み

このボタンをクリックすると、デバイスからすべての構成がオンデマンドで読み込まれます。

ハッシュ (#) の付いた設定

Cisco UCM リリース 12.5(1)SU1 以前でも使用できていた設定です。

設定またはパラメータ

選択中のカテゴリに属している設定です。

カテゴリ

デバイス設定はカテゴリ別にグループ化されています。これらは、デバイスの Web インターフェイスで表示されるカテゴリと同じです。API コマンド パスにも対応しています。

ただし、[\[その他 \(Miscellaneous\)\]](#) は例外です。このカテゴリには、CUCM でのみ設定可能な設定が表示されます。これらはデバイスのローカル設定に対応していません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 3 章

周辺機器

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

画面およびその他の出力デバイスの設定 (1/7 ページ)

ビデオ出力の数は、製品によって異なります。通常、出力は画面または他のタイプのディスプレイに使用されます。Codec Pro および Room 70 G2 でもレコーダの接続がサポートされています。

統合デバイスには、外部画面で使用可能なコネクタに加えて、1 つ以上の内蔵画面があります。キットとコーデックには、外部画面専用のコネクタがあります。

デバイスが、利用可能なすべてのモニターにレイアウト（人およびビデオ）を配信します。使用するデバイスおよび設定の画面数に応じてレイアウトがどのように表示されるかについては、
▶ [Webex ヘルプセンターの記事「Webex 会議室 | ビデオストリームのレイアウト \(https://help.webex.com/zp1dhab/\)」](https://help.webex.com/zp1dhab/) を参照してください。

論理コネクタ

論理出力は、各出力コネクタに割り当てられます。また、デバイスのコネクタパネルの物理コネクタに接続されていない内蔵画面にも割り当てられます。

論理出力は、次の表のカッコ内に追加されています（コネクタ 1、コネクタ 2 など）

これらは、設定およびステータスパス、および API コマンドで使用される名前です。

4K 解像度

高解像度とフレームレートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。

USB-C ケーブルは USB 3.1 Gen 1/USB 3.2 Gen 1x1 (DisplayPort Alternate Mode) をサポートしている必要があります。

音声サポート

音声は一部の出力でサポートされていない点に注意してください。

製品	ビデオ出力数	内蔵画面で使用	外部画面および他の出力デバイスで使用可能		
			コネクタ	最大解像度	音声サポート
Board	1	内部 (コネクタ 1)	なし		
Board Pro	1	内部 (コネクタ 1)	なし		
Codec EQ	3	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 (60 fps)	接続しているカメラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力では音声は出力されません。すべてのコネクタが [自動 (Auto)] に設定されていて、Quad Camera が接続されていない場合、デバイスは HDMI 1、HDMI 2、HDMI 3 の順に再生を試し、最初に成功した画面でオーディオを再生します。Audio Output HDMI [n] Mode について詳しくは、「デバイス設定」の項を参照してください。
Codec Plus	2	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 (60 fps)	接続しているカメラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力では音声は出力されません。それ以外の場合は、HDMI 1 で音声が出力されます。
Codec Pro	3	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 (60 fps)	接続しているカメラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力では音声は出力されません。すべてのコネクタが [自動 (Auto)] に設定されていて、Quad Camera が接続されていない場合、デバイスは HDMI 1、HDMI 2、HDMI 3 の順に再生を試し、最初に成功した画面でオーディオを再生します。Audio Output HDMI [n] Mode について詳しくは、「デバイス設定」の項を参照してください。
Desk	1	内部 (コネクタ 1)	なし		

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

画面およびその他の出力デバイスの設定 (2/7 ページ)

製品	ビデオ出力数	内蔵画面で使用	外部画面および他の出力デバイスで使用可能		
			コネクタ	最大解像度	音声サポート
Desk Mini	1	内部 (コネクタ 1)	なし		
Desk Pro	1	内部 (コネクタ 1)	なし		
Room Bar	2	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力では音声は出力されません。
Room Bar Pro	3	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力では音声は出力されません。
Room Kit	2	なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力では音声は出力されません。
Room Kit Mini	1	なし	HDMI (コネクタ 1)	3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力では音声は出力されません。
Room 55	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI (コネクタ 2)	3840 × 2160 (60 fps)	HDMI 出力では音声は出力されません。
Room 55 Dual / Room 70 Dual	2	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	なし		内蔵画面では音声のみ。
Room 70 Single	2	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)		内蔵画面では音声のみ。必要に応じて、外部スピーカーを音声ライン出力コネクタに接続することができます。
Room 70 Dual G2	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3)		デフォルトでは、統合された画面でのみ音声が再生されます。
Room 70 Single G2	3	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)		デフォルトでは、統合された画面でのみ音声が再生されます。
Room 70 Panorama	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	なし		
Room Panorama	3	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)	なし		

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



* 内蔵画面はユーザーインターフェイスです。ビデオやコンテンツには使用されません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

画面およびその他の出力デバイスの設定 (3/7 ページ)

自動セットアップ

(ビデオ出力が 1 つのみのデバイスには該当しません。また、すべての画面で動作が事前に定義されている Room 70 Panorama および Room Panorama には関連しません)

デフォルトで画面の数が自動検出され、物理接続に従って、各画面のロール (第 1、第 2、または第 3 画面のいずれを目的としているか) が自動的に設定されます。

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択すると、以下に示す設定が見つかります。

例

画面の総数が 3 台で、[\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されている場合は、次の設定が想定されます。

- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[モニター \(Monitors\)\]](#): [トリプル (Triple)]
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 1 \(Connector 1\)\]](#) > [\[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [第 1 (First)]
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 2 \(Connector 2\)\]](#) > [\[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [第 2 (Second)]
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 3 \(Connector 3\)\]](#) > [\[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [第 3 (Third)]

画面の総数が 2 台で [\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されている場合は、次の設定が想定されます。

- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[モニター \(Monitors\)\]](#): [二画面表示 (Dual)]
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 1 \(Connector 1\)\]](#) > [\[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [第 1 (First)]¹
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ 2 \(Connector 2\)\]](#) > [\[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [第 2 (Second)]¹

手動設定が必要なとき

1 つ以上の設定を手動で行ってデフォルト動作を上書きできません。次のことを行いたい場合に、手動設定が必要になります。

- 画面をプレゼンテーションの表示専用を使用する場合
- レコーダ用の出力の 1 つを使用する場合 ([Codec Pro](#)、[Room 70 G2](#)、[Room Bar Pro](#) で使用可能)
- 複数の画面で同じレイアウトを複製する場合
- 最も低い番号のビデオ出力とは別の画面に画面表示メッセージとインジケータ (OSD) を表示する場合 ([Room 55](#) では使用できません)
- 解像度を手動で設定する (デバイスで画面のネイティブ解像度やリフレッシュレートの検出に失敗した場合など)

¹ Room 55 には、明示的な MonitorRole 設定がありません。内蔵画面 (コネクタ 1) は、常にモニターロール [第 1 (First)] を想定し、HDMI 出力 (コネクタ 2) に接続されている外部画面は、常にモニターロール [第 2 (Second)] を想定します。

画面およびその他の出力デバイスの設定 (4/7 ページ)

手動セットアップ

(ビデオ出力が 1 つのみのデバイスには該当しません。また、すべての画面で動作が事前に定義されている Room 70 Panorama および Room Panorama には関連しません)

自動設定は、1 つ以上の画面を使用した一般的なシナリオで十分に対応できます。より複雑なシナリオでは、手動セットアップが必要になることがあります。

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択すると、以下に示す設定が見つかります。

各画面のロールの設定

各画面のロールは、[\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ n \(Connector n\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#) 設定を使用して定義します。¹

モニターロールは、この出力に接続されている画面に表示されるレイアウト (人およびコンテンツ) を決定します。

同じモニターロールの画面は同じレイアウトになり、別のモニターロールの画面は異なるレイアウトになります。

画面の設定に一致するモニターロールを選択する必要があります。

画面数の設定

[\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニター \(Monitors\)\]](#) 設定で、セットアップで使用するレイアウトの異なる画面数を設定します。

多くの場合、異なるレイアウトの数は物理画面の数と同じですが、そうではない場合もあります。まったく同じレイアウトが繰り返して 2 台以上の画面で使用される場合、異なるレイアウトの数は少なくなります。

[\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定した場合、デバイスは、画面がコネクタに接続されているかどうかを自動的に検出します。このため、設置されている画面の数も特定されます。

その他のオプションでは、シングル、デュアル、またはトリプル画面の設定を修正し、1 つの画面をコンテンツ用に予約することができます。

メッセージおよびインジケータを表示する画面の選択

[\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#) 設定を使用して、画面表示のメッセージおよびインジケータを表示する画面を定義します。²

[\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定した場合、使用する画面は、コネクタの数に基づいて自動的に決定されます。

画面の解像度とリフレッシュレートの設定

デバイスは、画面のネイティブの解像度を識別し、可能であればその解像度で出力します。通常は、これにより画面の最適な画像が提供されます。

解像度や更新間隔の自動検出に失敗した場合、[\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ n \(Connector n\)\] > \[解像度 \(Resolution\)\]](#) 設定を使用して手動で解像度を設定する必要があります。

例

合計 2 台の画面で、2 番目の画面がプレゼンテーションの表示専用になっています。

- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニター \(Monitors\)\]](#): [\[デュアルプレゼンテーションのみ \(DualPresentationOnly\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 1 \(Connector 1\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[自動 \(Auto\)\]](#)¹
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 2 \(Connector 2\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[自動 \(Auto\)\]](#)
- [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#): [\[1\]](#) または [\[自動 \(Auto\)\]](#)^{2, 3}

合計 3 台の画面があり⁴、第 3 画面をプレゼンテーションの表示専用設定します。

- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニター \(Monitors\)\]](#): [\[トリプルプレゼンテーション専用 \(TriplePresentationOnly\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ1 \(Connector 1\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[自動 \(Auto\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 2 \(Connector 2\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[自動 \(Auto\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 3 \(Connector 3\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[自動 \(Auto\)\]](#)
- [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#): [1](#)

合計 2 台の画面があり、録音デバイス⁴がコネクタ 3 (HDMI) に接続されています。OSD はコネクタ 2 の画面に表示します。

- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[モニター \(Monitors\)\]](#): [\[自動 \(Auto\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ1 \(Connector 1\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[自動 \(Auto\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 2 \(Connector 2\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[自動 \(Auto\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\] > \[出力 \(Output\)\] > \[コネクタ 3 \(Connector 3\)\] > \[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): [\[レコーダ \(Recorder\)\]](#)
- [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[OSD\] > \[出力 \(Output\)\]](#): [2](#)

¹ Room 55 には、明示的な MonitorRole 設定がありません。内蔵画面 (コネクタ 1) は、常にモニターロール [\[第 1 \(First\)\]](#) を想定し、HDMI 出力 (コネクタ 2) に接続されている外部画面は、常にモニターロール [\[第 2 \(Second\)\]](#) を想定します。

² Room 55 には、OSD 出力設定がありません。OSD は常に内蔵画面に表示されます。

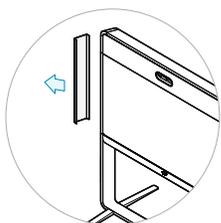
³ Codec Pro および Room 70 G2 の場合は [\[1\]](#) に設定し、その他のデバイスの場合は [\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定します。

⁴ Codec EQ、Codec Pro、Room 70 G2、Room Bar Pro は 3 つの出力をサポートしていますが、録音デバイスをサポートしているのは Codec Pro、Room Bar Pro および Room 70 G2 のみです。

画面およびその他の出力デバイスの設定 (5/7 ページ)

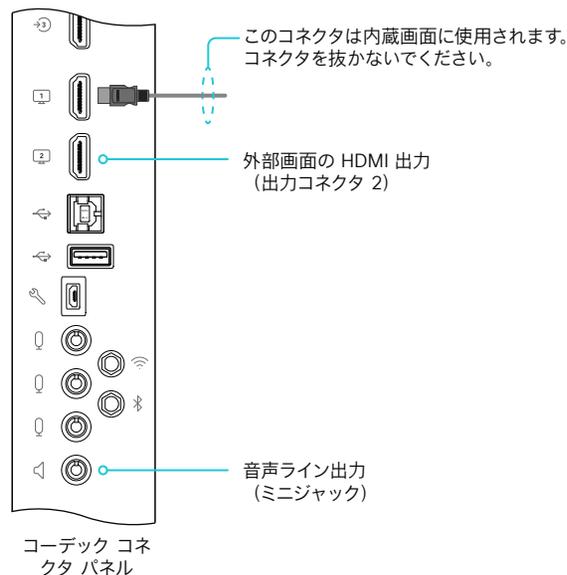
出力コネクタ

 画面および周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。



これらのデバイスのコネクタパネルおよび電源スイッチを扱うには、左側のカバーを取り外します。カバーはマグネットで固定されています。

Room 70 Single



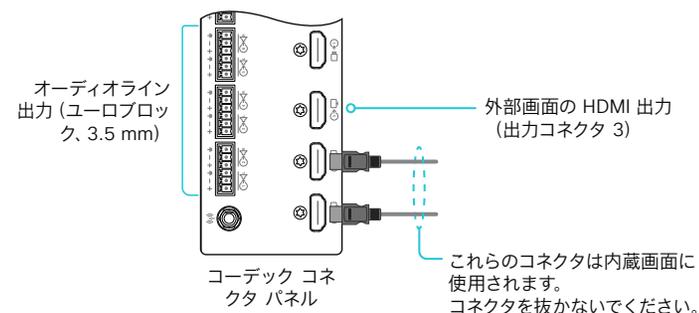
Room 55 Dual および Room 70 Dual

HDMI 出力 (出力コネクタ 1 および 2) はどちらも、内蔵画面で使用されます。コネクタを抜かないでください。

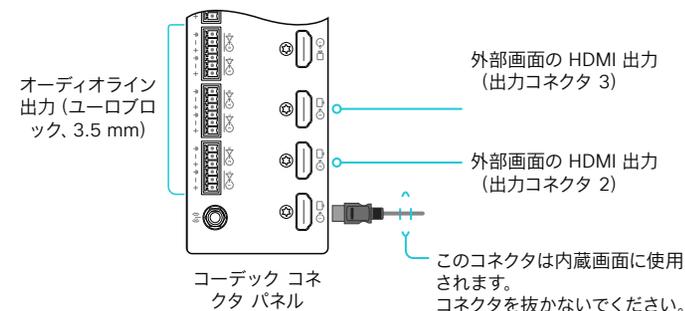
 Room 55 Dual、Room 70、および Room 70 G2 の内蔵画面を切断しないでください。

内蔵画面の接続ではマルチチャンネルオーディオを使用し、それによってデバイスのスピーカーシステムが駆動されます。サードパーティ製機器を挿入すると、オーディオ チェーンが壊れて、デバイスに音声に関連する障害が生じる可能性があります。

Room 70 Dual G2



Room 70 Single G2



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

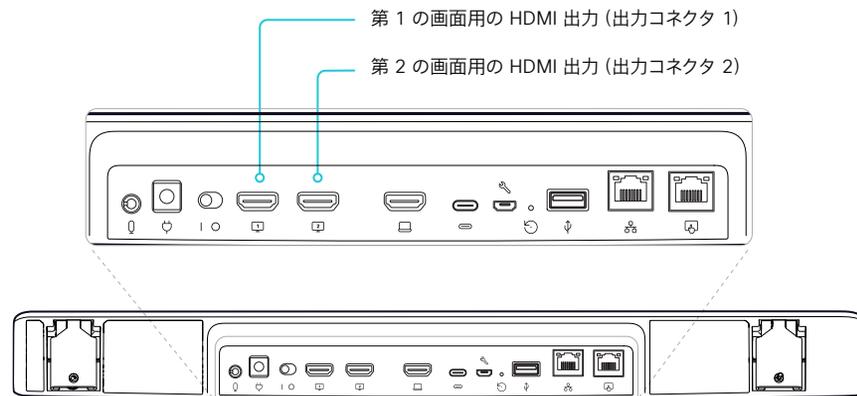
Room
Panorama

画面およびその他の出力デバイスの設定 (6/7 ページ)

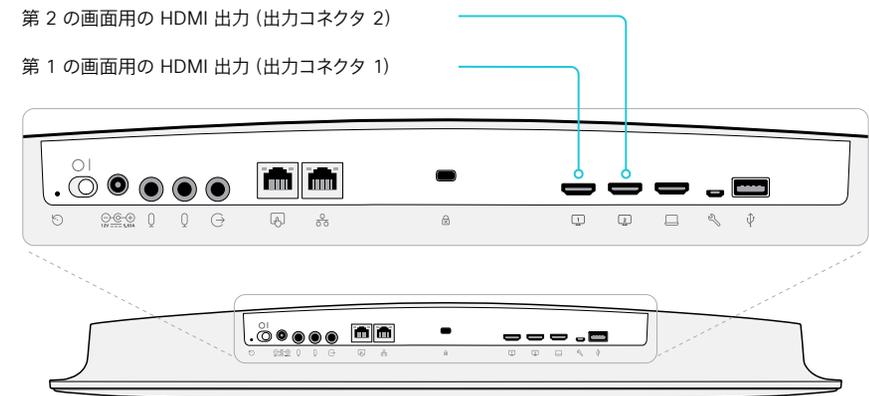
出力コネクタ

 画面および周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

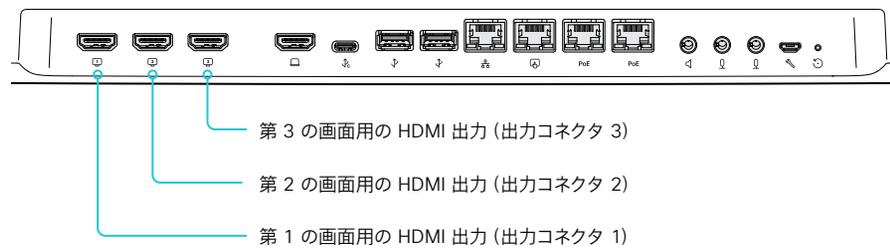
Room Bar



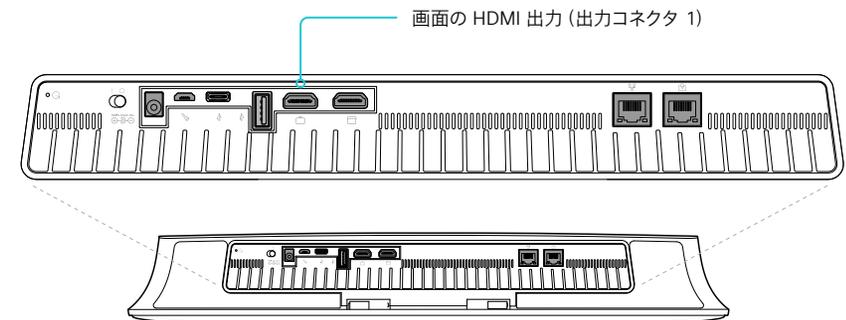
Room Kit



Room Bar Pro



Room Kit Mini



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

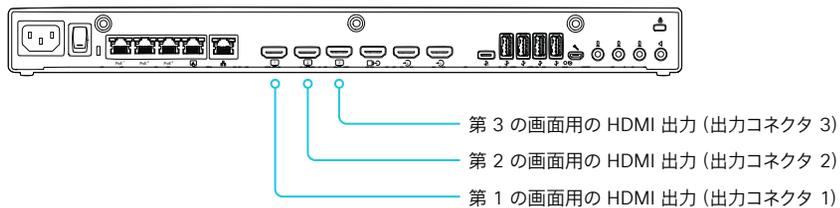
Room
Panorama

画面およびその他の出力デバイスの設定 (7/7 ページ)

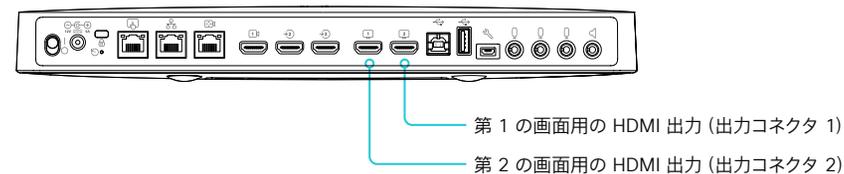
出力コネクタ

⚠ 画面および周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

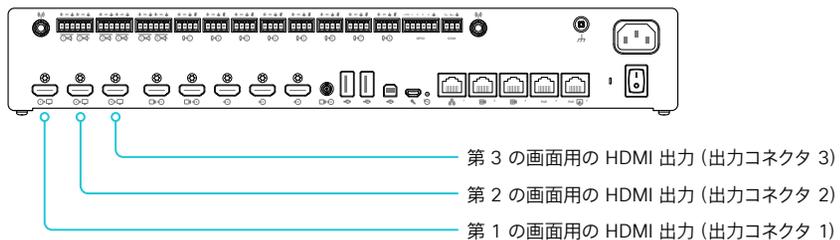
Codec EQ



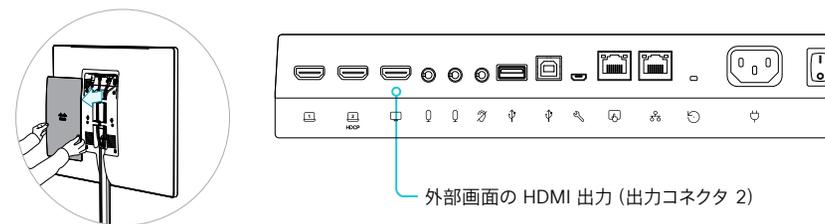
Codec Plus



Codec Pro



Room 55



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの接続 (1/11 ページ)

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択すると、この章に示す設定が見つかります。

ビデオ入力の数、製品によって異なります。通常、ビデオ入力にはカメラとコンピュータ、またその他のコンテンツソースに使用されますが、他の種類のビデオおよびコンテンツソースも接続できます。

入力にコンピュータまたはコンテンツソースを接続している場合は、コンテンツをローカルまたは会議参加者で共有することができます。

統合デバイスには、外部のコンテンツソースに使用できるコネクタに加えて、内蔵カメラがあります。キットとコーデックには、外部カメラおよびその他のコンテンツソース専用のコネクタがあります。

論理コネクタ

論理入力は、各入力コネクタ、およびデバイスのコネクタパネルの物理コネクタに接続されていない内蔵カメラにも割り当てられます。

論理入力は、次のページの表のカッコ内に追加されています (コネクタ 1、コネクタ 2 など)

これらは、設定およびステータスパス、および API コマンドで使用される名前です。

ビデオとコンテンツの品質について

ビデオのエンコーディングと送信のときには、高解像度と高フレームレートとの間にトレードオフが存在します。一部のビデオソースでは、高フレームレートが高解像度より重要である場合や、逆の場合もあります。

モーション (高フレームレート) または鮮明度 (高解像度) に関する品質を最適化するには、[\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[画質 \(Quality\)\]](#) 設定を使用します。

通常、通常のビデオ入力用、および画像の動きが激しい場合には [\[モーション \(Motion\)\]](#) を選択する必要があります。高品質で詳細な画像とグラフィックが必要なときは、[\[自動 \(Auto\)\]](#) または [\[シャープネス \(Sharpness\)\]](#) を選択します。



デバイスにより、Quad Camera、SpeakerTrack 60 カメラ、または Precision 60 が検出されると、この設定は自動的に [\[Motion\]](#) に設定されます。ユーザーが手動でこの設定を変更すると、再起動後またはカメラの再接続後に [\[モーション \(Motion\)\]](#) に戻ります。

[\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定すると、デバイスは着信ビデオストリームの分析を継続します。最初に、[\[自動 \(Auto\)\]](#) にすると、最高に近い解像度 (シャープネス) が得られます。モーションが検出されると、自動的にエンコードが変更され、最高に近いフレームレート (モーション) が得られます。

デフォルト値は、カメラで最も頻繁に使用されるコネクタの場合は [\[モーション \(Motion\)\]](#)、プレゼンテーションソースで最も頻繁に使用されるコネクタの場合は [\[自動 \(Auto\)\]](#) です。表を参照してください。

入力ソースのタイプと名前の設定

入力ソースのタイプと名前を設定することをお勧めします。

- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[入力ソースタイプ \(InputSourceType\)\]](#)
- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[名前 \(Name\)\]](#)

これらの設定によって、ユーザーインターフェイスに表示される名前とアイコンが決まります。分かりやすい名前とアイコンを設定すると、ソースを簡単に選択できるようになります。

製品	品質のデフォルト設定
Board	コネクタ 2: Auto
Board Pro	コネクタ 2, 3: Auto
Codec EQ	コネクタ 1, 2: Motion コネクタ 3, 4: Auto
Codec Plus	コネクタ 1: Motion コネクタ 2, 3: Auto
Codec Pro	コネクタ 1, 2: Motion コネクタ 3, 4, 5: 自動 コネクタ 6: Motion
Desk / Desk Pro	コネクタ 2, 3: Auto
Desk Mini	コネクタ 2: Auto
Room Bar	コネクタ 2, 3: Auto
Room Bar Pro	コネクタ 2: Motion コネクタ 3: Auto
Room Kit / Room Kit Mini	コネクタ 2: Auto
Room 55	コネクタ 2, 3: Auto
Room 55 Dual / Room 70	コネクタ 1: Motion コネクタ 2, 3: Auto
Room 70 G2	コネクタ 1, 2: Motion コネクタ 3, 4, 5: 自動 コネクタ 6: Motion
Room Panorama / Room 70 Panorama	コネクタ 1, 2: Motion コネクタ 3, 4, 5: Auto コネクタ 6: Motion

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの接続 (2/11 ページ)

HDCP サポート

(適用対象: Board Pro, Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) をサポートするように入力コネクタの 1 つを設定できます。つまり、デバイスで HDCP 保護コンテンツを表示することが許可されます。

 これは特定のコネクタにのみ適用されます。以下の表を参照してください。

この入力で HDCP を有効にするには、次の設定を使用します。

- `[Video (ビデオ)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [HDCP] > [モード (Mode)]`

この設定がオンの場合、指定されたコネクタに接続されているソースからのコンテンツはローカルでのみ再生できます。コール中は他の会議参加者と共有することはできません。これは、コンテンツが HDCP 保護されているかどうかにも適用されます。

Quad Camera の接続

(適用対象: Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro)

Quad Camera をデバイスに接続する場合は、常にコネクタ 1 を使用します。これは、カメラのスピーカーを通して音声を正しく再生するために必要です。

カメラの接続の詳細については、Room シリーズ製品の設置ガイドをオンラインで参照してください。

コンピュータまたはその他のコンテンツソースの接続

1 つまたは複数のコンテンツソースを接続できます。たとえば、コンピュータをデバイスに接続して、コンテンツをローカルで共有したり、会議の参加者と共有したりできます。外部入力ソースの数とサポートされる最大解像度を次の表に示します。

高解像度とフレームレートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。

USB-C ケーブルは USB 3.1 Gen 1/USB 3.2 Gen 1x1 (DisplayPort Alternate Mode) をサポートしている必要があります。

内蔵マイクも備わっているデバイスの外部アナログマイク

(適用対象: Board Pro, Room Bar, Room Bar Pro, Room Kit, and Room 55)

これらのデバイスは、内蔵マイクに加えて、1 または 2 つの外部マイクをサポートします。Cisco Table Microphone または Cisco TelePresence Ceiling Microphone をお勧めします。

マイク 1 はビデオ システムの内蔵マイクですので注意してください。

Board Pro と Room Pro の場合、詳細については ▶ 「[Board Pro と Room Bar Pro での外部マイクの使用](#)」の章を参照してください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

入力ソースの接続 (3/11 ページ)

入力コネクタの概要

製品	ビデオ入力の数	内蔵カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP サポート	コメント
Board	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps) または 1080p (60 fps)	使用不可	
Board Pro	4	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (60 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 (30 fps)	HDMI (コネクタ 3)	<p>USB-C</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有、サポートされているオペレーティングシステムでの画面拡張 (コンピュータの外付け画面)、およびタッチ転送機能用。 USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモード) でカメラ、マイク、およびスピーカーも使用できるほか、ラップトップの充電 (最大 60 W) も提供します。 <p>HDMI:</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有および画面拡張 (コンピュータの外付け画面) 用です。
コーデック EQ	4	該当なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) USB-C (コネクタ 4)	コネクタ 1: 1920 × 1080 (60 fps) コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 (30 fps) コネクタ 4: 3840 × 2160 (30 fps)	HDMI 3 (コネクタ 3)	<p>Quad Camera:</p> <ul style="list-style-type: none"> 常にコネクタ 1 を使用 <p>カメラ制御:</p> <ul style="list-style-type: none"> いずれかの補助イーサネットポート経由 イーサネットポートが足りない場合は、イーサネットスイッチを接続することで、すべてのカメラを制御できます。 <p>HDMI:</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有用です。 <p>USB-C</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有用です。 USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモードまたは USB-C パススルー) でカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

入カソースの接続 (4/11 ページ)

製品	ビデオ入力の数	内蔵カメラ用に予約済み	外部入カソース	最大解像度	HDCP サポート	コメント
Codec Plus	3	該当なし	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)		HDMI 2 (コネクタ 2)	<p>Quad Camera :</p> <ul style="list-style-type: none"> 常にコネクタ 1 を使用 <p>SpeakerTrack 60 :</p> <ul style="list-style-type: none"> コネクタ 1 とコネクタ 2 を使用 <p>カメラ制御 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助イーサネットポート経由 複数のカメラを接続する場合は、イーサネットスイッチを接続することで、すべてのカメラを制御できます。
Codec Pro	6	N/A	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1080p60 コネクタ 2: 1080p60 コネクタ 3: 4Kp30 コネクタ 4: 4Kp30 コネクタ 5: 4Kp30	HDMI 5 (コネクタ 5)	<p>Quad Camera :</p> <ul style="list-style-type: none"> 常にコネクタ 1 を使用 <p>SpeakerTrack 60 :</p> <ul style="list-style-type: none"> コネクタ 1 とコネクタ 2 を使用 <p>カメラ制御 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 補助イーサネットポート経由 使用可能な補助イーサネットポートよりも多くのカメラがある場合は、すべてのカメラを制御できるようにするためにイーサネットスイッチが必要です。
Desk Pro	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (60 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 (60 fps)	使用不可	<p>USB-C</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有、サポートされているオペレーティングシステムでの画面拡張 (コンピュータの外付け画面)、およびタッチ転送機能用。 USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモードまたは USB-C バススルー) でカメラ、マイク、スピーカーを使用できるほか、ラップトップを充電 (最大 60 W) することもできます。 <p>HDMI :</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有および画面拡張 (コンピュータの外付け画面) 用です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

入力ソースの接続 (5/11 ページ)

製品	ビデオ入力の数	内蔵カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP サポート	コメント
Desk	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 1920 × 1080 (60 fps) コネクタ 3: 1920 × 1080 (60 fps)	使用不可	<p>USB-C</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有、サポートされているオペレーティングシステムでの画面拡張 (コンピュータの外付け画面)、およびタッチ転送機能用 USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモードまたは USB-C パススルー) でカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます。 <p>HDMI:</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面拡張とコンテンツ共有用。
Desk Mini	2	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2)	コネクタ 2: 1920 × 1080 (60 fps)	使用不可	<p>コンテンツ共有、サポートされているオペレーティングシステムでの画面拡張 (コンピュータの外付け画面)、およびタッチ転送機能用。</p> <p>USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモードまたは USB-C パススルー) でカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます。</p>
Room Bar	3	内部 (コネクタ 1)	USB-C (コネクタ 2) HDMI (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps) または 1920 × 1080 (60 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 (30 fps) または 1920 × 1080 (60 fps)	使用不可	<p>USB-C</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有および画面拡張 (コンピュータの外付け画面) 用です。 USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモードまたは USB-C パススルー) でカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます。 <p>HDMI:</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面拡張とコンテンツ共有用。
Room Bar Pro	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI (コネクタ 2) USB-C (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps) または 1920 × 1080 (60 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 (30 fps) または 1920 × 1080 (60 fps)	使用不可	<p>USB-C</p> <ul style="list-style-type: none"> コンテンツ共有および画面拡張 (コンピュータの外付け画面) 用です。 USB-C では、任意のソフトウェアクライアント (USB カメラモードまたは USB-C パススルー) でカメラ、マイク、スピーカーを使用することもできます。 <p>HDMI:</p> <ul style="list-style-type: none"> 画面拡張とコンテンツ共有用。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

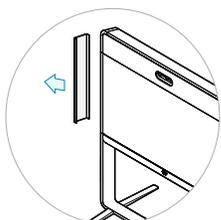
入力ソースの接続 (6/11 ページ)

製品	ビデオ入力の数	内蔵カメラ用に予約済み	外部入力ソース	最大解像度	HDCP サポート	コメント
Room Kit	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps)	使用不可	
Room Kit Mini	2	内部 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps)	使用不可	
Room 55	3	内部 (コネクタ 1)	HDMI 1 (コネクタ 2) HDMI 2 (コネクタ 3)	コネクタ 2: 3840 × 2160 (30 fps) コネクタ 3: 3840 × 2160 (30 fps)	HDMI 2 (コネクタ 3)	
Room 55 Dual / Room 70	3	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3)		HDMI 2 (コネクタ 2)	カメラ制御: 補助イーサネットポート経由 追加のカメラを接続する場合は、すべてのカメラを制御できるようにするため、イーサネット スイッチが必要です。
Room 70 G2	6	HDMI 1 (コネクタ 1)	HDMI 2 (コネクタ 2) HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1080p60 コネクタ 2: 1080p60 コネクタ 3: 4Kp30 コネクタ 4: 4Kp30 コネクタ 5: 4Kp30	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラ制御: 補助イーサネットポート経由 使用可能な補助イーサネットポートよりも多くのカメラがある場合は、すべてのカメラを制御できるようにするためにイーサネットスイッチが必要です。
Room 70 Panorama	6	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1080p60 コネクタ 2: 1080p60 コネクタ 3: 4Kp30 コネクタ 4: 4Kp30 コネクタ 5: 4Kp30	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラはイーサネットポート 2 経由で制御されます。
Room Panorama	6	HDMI 1 (コネクタ 1) HDMI 2 (コネクタ 2)	HDMI 3 (コネクタ 3) HDMI 4 (コネクタ 4) HDMI 5 (コネクタ 5) SDI (コネクタ 6)	コネクタ 1: 1080p60 コネクタ 2: 1080p60 コネクタ 3: 4Kp30 コネクタ 4: 4Kp30 コネクタ 5: 4Kp30	HDMI 5 (コネクタ 5)	カメラはイーサネットポート 2 経由で制御されます。

入力ソースの接続 (7/11 ページ)

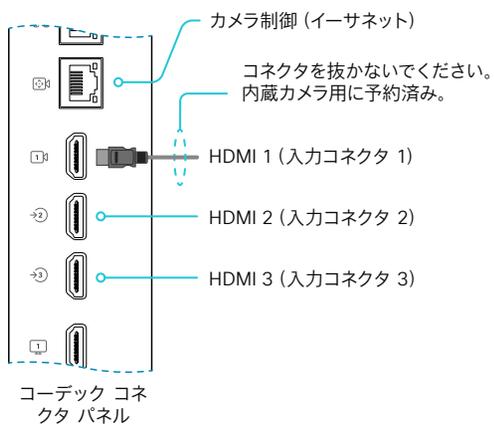
入力コネクタ

 周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

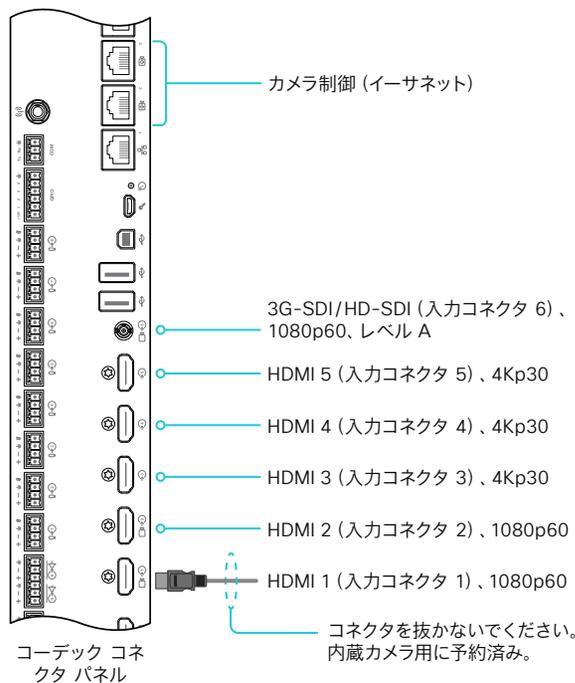


これらのデバイスのコネクタパネルおよび電源スイッチを扱うには、左側のカバーを取り外します。カバーはマグネットで固定されています。

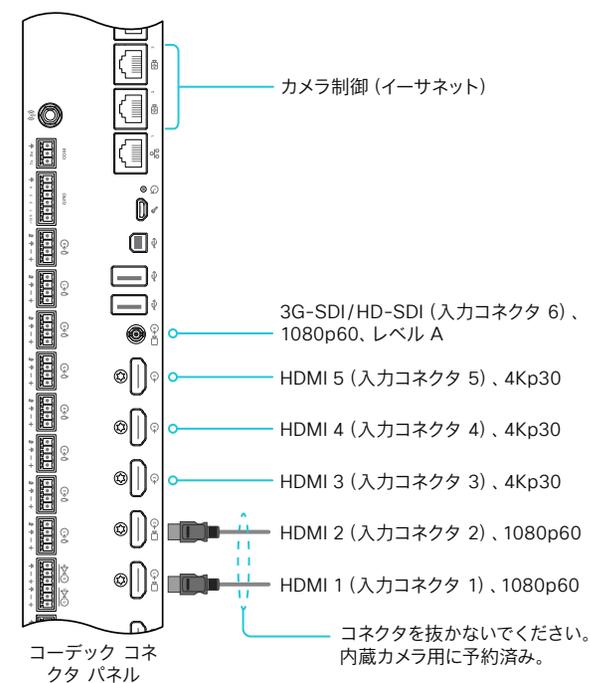
Room 55 Dual および Room 70



Room 70 G2



Room 70 Panorama

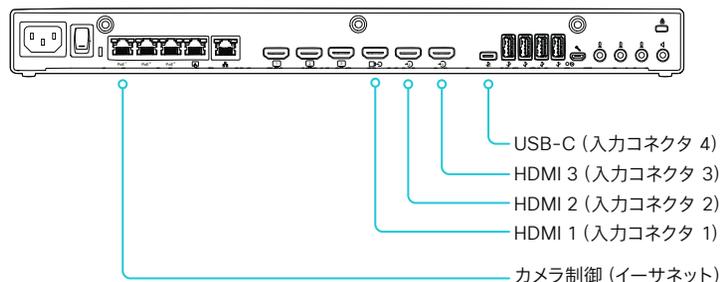


入力ソースの接続 (8/11 ページ)

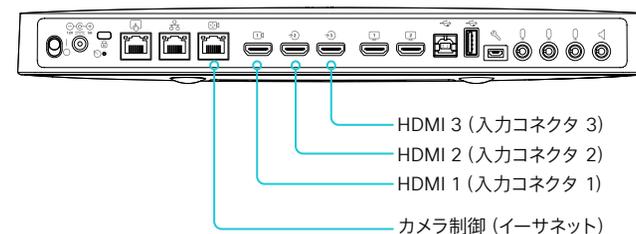
入力コネクタ

 周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

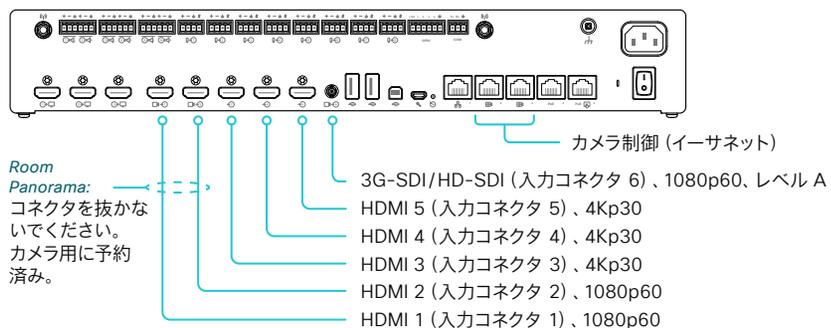
Codec EQ



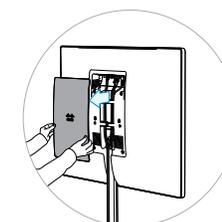
Codec Plus



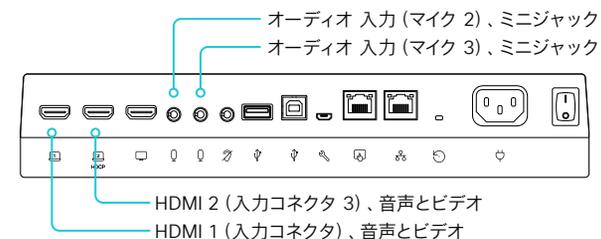
Codec Pro および Room Panorama



Room 55



コネクタ パネルおよび電源スイッチを使用するには、背面のカバーを取り外します。



- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, DeskMini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

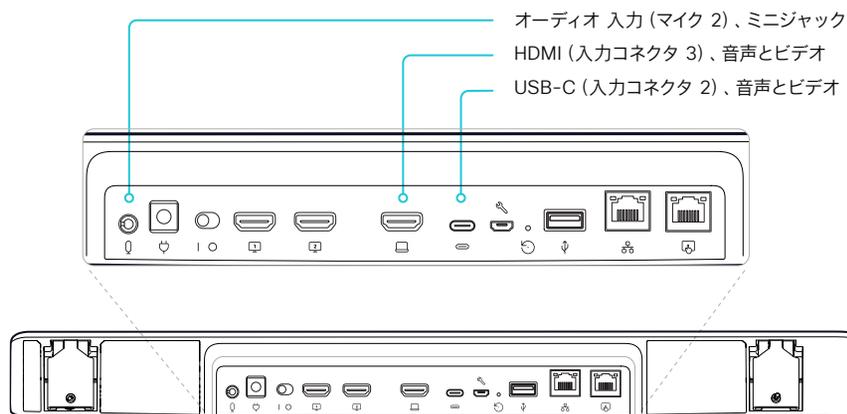
Room
Panorama

入力ソースの接続 (9/11 ページ)

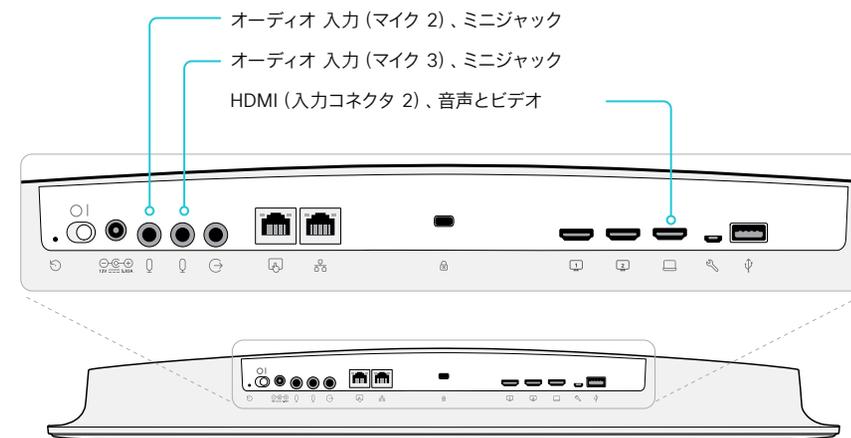
入力コネクタ

⚠ 周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

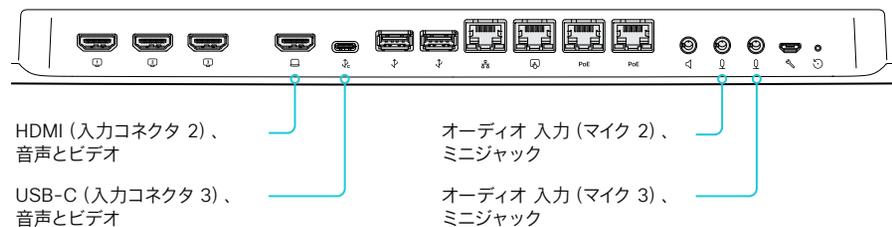
Room Bar



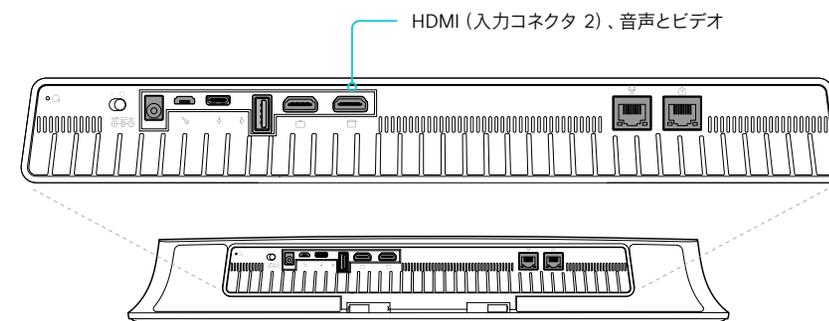
Room Kit



Room Bar Pro



Room Kit Mini



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

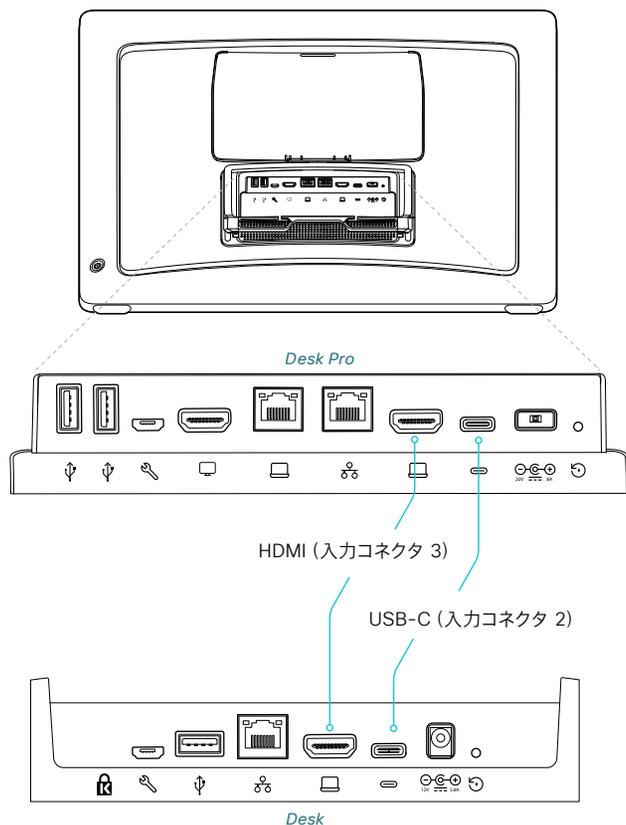
Room
Panorama

入力ソースの接続 (10/11 ページ)

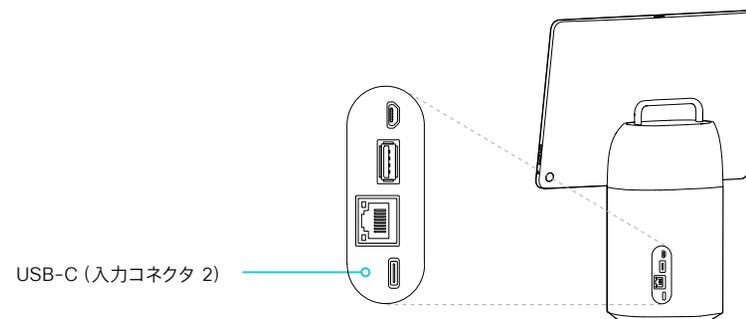
入力コネクタ

⚠ 周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

Desk および Desk Pro



Desk Mini



Board

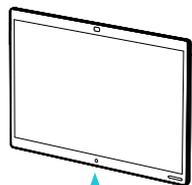
入力ソースの接続 (11/11 ページ)

Board Pro

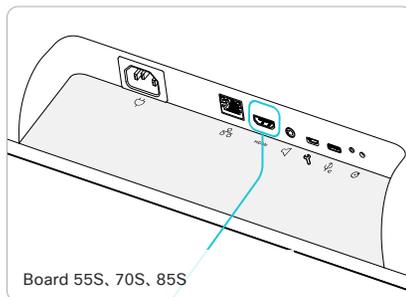
入力コネクタ

⚠ 周辺機器の接続時や切断時には、必ず電源を切ってください。

Board

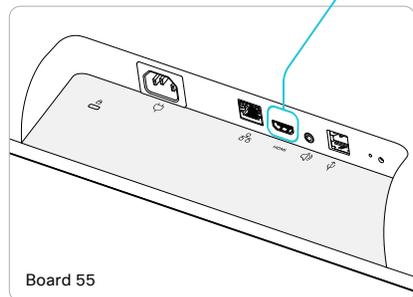


コネクタパネルは下部にあります

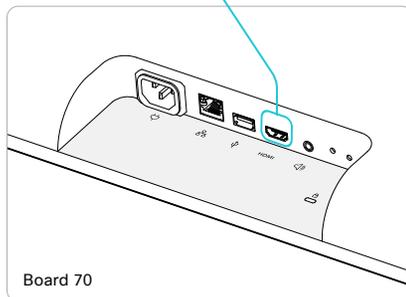


Board 55S, 70S, 85S

HDMI (入力コネクタ 2)、音声とビデオ

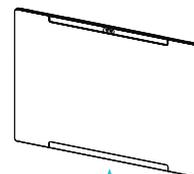


Board 55

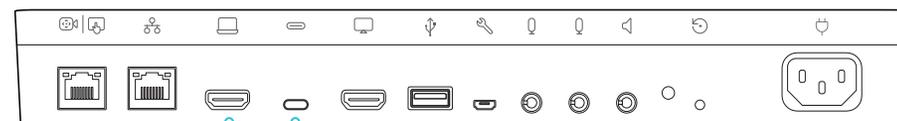


Board 70

Board Pro



コネクタパネルは下部にあります



オーディオ 入力 (マイク 3)、
ミニジャック

オーディオ 入力 (マイク 2)、
ミニジャック

USB-C (入力コネクタ 2)、音声とビデオ

HDMI (入力コネクタ 3)、音声とビデオ

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

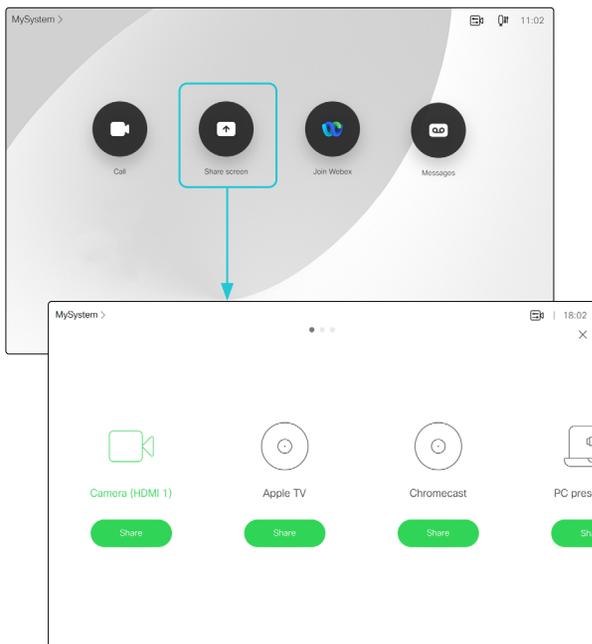
Room 70 Panorama

Room Panorama

入力ソース数の拡大

Cisco のタッチ ユーザーインターフェイスは、サードパーティ製の外部ビデオ スイッチに接続された入力ソースが含まれるようにカスタマイズできます。

ソースは、ビデオ会議デバイスに直接接続されている他のビデオと同じように表示されて動作します。



複数の外部入力ソースがあるユーザーインターフェイス (例)

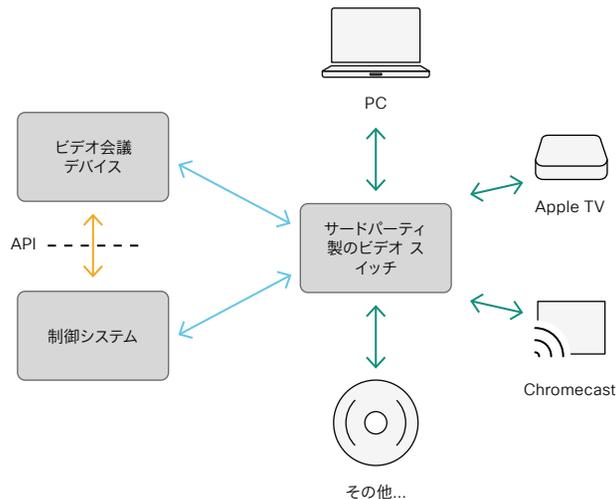
ユーザーインターフェイスを拡張する方法と、それをデバイスの API を使用してセットアップする方法の詳細については、カスタマイズ ガイドをご覧ください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

アーキテクチャ

タッチインターフェイスを搭載したシスコのビデオ会議デバイス、サードパーティ製のコントロールシステム (Lightware、Crestron、AMX など)、およびサードパーティ製ビデオスイッチが必要です。ビデオ スイッチを制御するのは、ビデオ会議デバイスではなく、制御システムです。

制御システムをプログラミングするとき、ビデオ スイッチや Touch インターフェイスのコントロールに接続するには、ビデオ会議デバイスの API (イベントとコマンド) *を使用する必要があります。このようにして、ユーザーインターフェイス上に表示されて実行される事柄と、入力ソースの実際の状態とを同期できます。



* 制御システムをプログラミングするときに必要な API コマンドにアクセスするには、RoomControl、Integrator、または admin ユーザー ロールを持つユーザーが必要です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ディスプレイについて

ディスプレイの推奨事項

ビデオ会議のテクノロジーリーダーとして、Webex は、サードパーティ製ディスプレイによる高品質な会議エクスペリエンスをさらに確保するために認定プログラムを作成しています。

Webex の認定は、厳密な分析およびテスト仕様を使用して行われます。これらは、エンジニアの意図を正確に再現するパフォーマンスの標準的な評価基準を定義します。

Webex Rooms デバイスは、画質を最適化し、カメラと画面間の遅延を最小化し、強力なスタンバイ処理を実装し、最適なエクスペリエンスを実現するためのその他の手段を実装するように設計されています。

Webex Rooms 認定または互換ディスプレイ

Webex Rooms 認定または互換ディスプレイを使用することを推奨します。互換性が検証されており、Webex デバイスへの接続時に最高のエクスペリエンスを提供します。

認定プログラムに関する情報と、サポートされているサードパーティ製ディスプレイのリストは、こちらからご覧ください。

▶ <https://cs.co/certifiedvendors>

その他のディスプレイ

認定ディスプレイを使用しない場合は、最適なエクスペリエンスを提供するためにディスプレイを設定することが重要です。

デフォルトのディスプレイ設定では、ほとんどのディスプレイによる遅延は非常に高い (>100 ms) ことが多いです。これは、リアルタイムの通信品質に悪影響を及ぼす可能性があります。

次のディスプレイの設定によって、この遅延が低下する可能性があります。

- [ゲーム (Game)] モード、[PC] モード、または応答時間 (および通常であれば遅延) を低下させるように設計された同様のモードをアクティブにします。
- 遅延を発生させる、動きを円滑化する機能 (たとえば、[モーションフロー (Motion Flow)] や [ナチュラルモーション (Natural Motion)] などのビデオ処理) を非アクティブにします。
- 音響エコーキャンセレーションの誤動作を発生させる [仮想サラウンド (Virtual Surround)] 効果や [ダイナミック圧縮 (Dynamic Compression)] などの高度な音声処理を非アクティブにします。

自動入力切り替えとスタンバイ制御を実現するために、ディスプレイの Consumer Electronics Control (CEC) 機能を手動で有効にする必要がある場合があります。

この機能は次のように利用されます。

- ディ스플레이上のアクティブなビデオ入力は、メーカーのユーザーインターフェイスでユーザーが変更できます。したがって、コールが発信されると、ビデオ会議デバイスはアクティブなビデオ入力ソースに照会し、必要に応じてこのソースをそれ自体に戻します。
- ビデオ会議デバイスがアクティブな入力ソースにならずにスタンバイ状態になった場合、ディスプレイはスタンバイ状態に移行しません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

解像度について

コンピュータの接続

ビデオデバイスに送信する解像度を最終的に決定するのは、接続されているコンピュータや、その他の入力ソースです。

ビデオデバイスは、サポートしている解像度と、優先解像度を信号で通知します。デフォルトの優先解像度は、ビデオデバイスによって異なります。また、同じデバイスでも、コネクタによってサポートされる解像度や優先解像度が異なる場合があります。

デフォルトの優先解像度は、次のように変更できます。

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択します。
2. [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[推奨解像度 \(Preferred Resolution\)\]](#) に移動して、値を調整します。
3. [\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックします。

コンピュータの接続時にエラーが発生すると、画面とタッチコントロールにメッセージが表示されます。

外部 ディスプレイを接続する

(適用対象: [Board](#)、[Board Pro](#)、[Desk](#)、[Desk Mini](#)、[Desk Pro](#)、[Room 70 Panorama](#)、[Room Panorama](#) を除くすべての製品)

デバイスを初めて起動すると、セットアップ アシスタントが自動的に起動します。ここで、外部 ディスプレイの調節や設定のテストができます。画面の指示に従います。

後で外部ディスプレイの設定の調整が必要になった場合は、デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択します。[\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[解像度 \(Resolution\)\]](#) に移動し、画面の解像度を調整します。ディスプレイのサポート内容に応じて解像度を設定してください。

スクリーンが黒くなったりちらつく場合は、解像度を低く設定できます。それでも問題が解決しない場合は、Ultra HD をサポートするディスプレイのポートにケーブルが接続されていることを確認してください。また、ディスプレイで Ultra HD の設定がオンになっていることを確認してください。

シスコでは、Webex Room の認定ディスプレイおよび互換性のあるディスプレイのリストを提供しています。▶ [「ディスプレイについて」](#)の章を参照してください。

チェックリスト

確実な動作のために、シスコにケーブルを注文するか、認定ケーブルを使用してください。▶ [「HDMI および USB-C ケーブルについて」](#)の章を参照してください。

ビデオ会議デバイスのコネクタ (入力/出力) が正しく設定されていることを確認してください。

接続されている外部デバイスで 4K がサポートされ、正常に設定されていることを確認します。

4K の使用では高品質ケーブルの必要性が増します。

- 4kp30 は 1080p60 の約 2 倍のデータレートを使用します。
- 4kp60 は 1080p60 の約 4 倍のデータレートを使用します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

HDMI および USB-C ケーブルについて

次の場合、HDMI または USB-C ケーブルが必要です。

- ・ プレゼンテーションソース
- ・ 外部カメラ (Board, Desk, Desk Mini, Desk Pro ではサポートされません)
- ・ 外部ディスプレイ (Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro ではサポートされません)

HDMI 入力/出力を持つデバイス、USB-C 入力/出力を持つデバイス、HDMI と USB-C 入力/出力を組み合わせたデバイスもあります。各デバイスのコネクタパネルの詳細については、▶ 「物理インターフェイス」の章を参照してください。

-  確実な動作のために、Cisco にケーブルを注文^{1,2}するか、認定ケーブルを使用することを推奨します。

プレゼンテーション ソース用の HDMI ケーブル

プレゼンテーション ソースには、PC/ラップトップ、ドキュメント カメラ、メディア プレーヤー、ホワイトボード、またはその他のデバイスを使用できます。

1920X1080@60fps を超える解像度フォーマットには、必ずハイスピード対応の HDMI ケーブルを使用してください。確実な動作のために、シスコが提供している HDMI ケーブルを使用するか、高速 HDMI 1.4b カテゴリ 2 仕様準拠のケーブルを使用してください。

HDMI プレゼンテーション ケーブルはシスコに注文 (HDMI 1.4b カテゴリ 2) することをお勧めします。

外部カメラおよびディスプレイ用の HDMI ケーブル

1920X1200@60fps を超える解像度フォーマットには、必ずハイスピード対応の HDMI ケーブルを使用してください。動作が保証されている範囲については、3840 × 2160 (60 fps) でシスコ³が事前に選定した HDMI ケーブルを使用するか、またはプレミアム HDMI ケーブル認定プログラムに合格したケーブルを使用します。

HDMI ケーブルの延長

一般に、1920×1200@60fps を超えるフォーマットでは、高品質の高速 HDMI ケーブルを使用してソースをデバイスに直接接続することをお勧めします。

1 本のケーブルでサポートされる範囲を超えてケーブルの到達距離を延長するには、必要な距離にわたって信号品質を維持できるエクステンダまたはリピータが必要です。パッシブアダプタは使用しないでください。

USB-C ケーブル

一般に、USB 3.1 Gen 1/USB 3.2 Gen 1x1 をサポートする USB-C ケーブルが必要です。

- ・ パッシブケーブルの長さ: 最大 2 m ²
- ・ 電力供給 3 A または 5 A (60 W または 100 W) ⁴
- ・ DisplayPort 代替モードのサポート

詳細情報

HDMI

HDMI ケーブルの詳細については、▶ <http://www.hdmi.org>を参照してください

ビデオデバイスに入力ソースとディスプレイを接続する

ディスプレイ、カメラ、コンピュータと各ビデオデバイスの接続方法の詳細については、次のセクションを参照してください。

- ▶ [入力ソースの接続](#)
- ▶ [画面およびその他の出力デバイスの設定](#)

¹ シスコの 4K マルチヘッドケーブル (CAB-HDMI-MUL4K-9M および CAB-HDMI-MUL4K-2M) は、4Kp30 の解像度までサポートしており、Board および Room シリーズのデバイスと互換性があります。これらのケーブルには、HDMI タイプ A ↔ USB-C、Mini ディスプレイポート、および HDMI タイプ A のコネクタが搭載されています。

シスコの 1080p マルチヘッドケーブル (CAB-HDMI-MULT-9M) は、これらのデバイスには対応していません。

² シスコの 9 m アクティブ光 USB-C ケーブル (CAB-USBC-AC-9M) は、USB 3.1 Gen 1/USB 3.2 Gen 1x1 に準拠し、充電 (60 W) できます。このケーブルは最大 4Kp60 解像度をサポートしており、Desk と Desk Pro を除き、USB-C コネクタを備えたすべてのデバイスで使用できます (例外は、コネクタの物理サイズによるものです)。

³ シスコの 8 m アクティブ HDMI ケーブル (CAB-PRES-2HDMI-GR) は、最大 4Kp30 の解像度をサポートします。これはプレゼンテーションソース用です。ARC (Quad Camera) が必要なカメラには使用しないでください。

⁴ USB-C 経由で充電できる入力にのみ必要です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

自動フレーミング機能の設定 (1/5 ページ)

デバイスの自動フレーミング機能は、カメラによって異なります。主なフレーミング機能は次のとおりです。

- ベストオーバービュー - 室内のすべての人をカバーする最小のフレーム
- スピーカートラック - 発言中のスピーカー (クローズアップ) またはスピーカーに近い人のグループ (グループフレーミング) にズームインします。
- フレーム - 個々のクローズアップをすべて合成し、余分なバックグラウンドは削除します。

	最適な全体表示	クローズアップとグループフレーミング	フレーム
Board Pro, Board	X	x	x
Desk Pro, Desk, Desk Mini	x		
Codec EQ ¹ , Codec Plus ² , Codec Pro ²	X	x	x
Room Bar, Room Bar Pro	X	x	x
Room Kit Mini,	X		x
Room Kit, Room 55	X	x	x
Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2	X	x	x
Room 70 Panorama ³ , Room Panorama ³	X	x	

最適な全体表示

「頭」のある物体の検出¹および自動カメラフレーミングによって状況を把握し、室内のすべての人を含むベストオーバービューを構成するために使用されます。このシステムは、室内で参加者が移動したり、新たな参加者が入室した場合に、フレームにすべての人が含まれるように自動的に調整します。

最大ビューを制限する (ルームオーバービュー)

SpeakerTrack 60 カメラ、*Desk*、*Desk Mini*、*Desk Pro*、または*パノラマ表示ビデオシナリオ*で、*Room Panorama* または *Room 70 Panorama* はサポートされません。

デフォルトでは、ベストオーバービュー/スピーカートラック (ルームオーバービュー) の最大ビューは、完全にズームアウトされたカメラビューです。

ユーザーインターフェイスから、ズームアウトの少ないビューを最大として定義できます。

クローズアップとグループフレーミング

Desk、*Desk Mini*、*Desk Pro*、または *Room Kit Mini* ではサポートされていません。

クローズアップが有効になっている場合 ([カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [クローズアップ (Closeup)])、オーディオトラックを使用して、室内の発言中のスピーカーを見つけます。

発言中のスピーカーが特定されると、デバイスは発言中のスピーカーのみに焦点を合わせてズームインするか (クローズアップ)、発言中のスピーカーだけでなく、スピーカーの近くにいる参加者 (グループフレーミング) を含むフレームを作成するかを決定します。他の参加者はフレームから除外されます。

室内のすべての人がカメラフレーム内に常に含まれるようになる場合は、クローズアップ機能をオフにします。

グループフレーミングをサポートするカメラやデバイスでは、発言中のスピーカーだけをクローズアップするよりも、良いグループフレーミングを見つけることが優先されます。これには、スイッチの総数が減ることで、より自然なユーザーエクスペリエンスを作り出すというプラスの効果があります。たとえば、フレーム内の別の人が話し始めた場合に、おそらくカメラは再フレームする必要がありません。

また、カメラの最大ズーム係数とカメラからのスピーカーの距離によっては、スピーカーのフレーミングを単独で作成できない場合があります。

¹ Quad Camera が必要です。

² Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラが必要です。

³ パノラマ表示ビデオシナリオでは、2 つのカメラのパノラマ表示をオフにすることはできません。他のすべてのシナリオでは、自動フレーミング機能が動作し、この章で説明するように設定できます。

⁴ 例外: SpeakerTrack 60 カメラは、顔検出アルゴリズムではなく、頭部検出アルゴリズムを使用しています。したがって、人々がマスクを着用している場合、スピーカートラック/ベストオーバービューはうまく機能しません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

自動フレーミング機能の設定 (2/5 ページ)

フレーム

フレームが有効になっている場合 ([カメラ (Cameras)]>[スピーカートラック (SpeakerTrack)]>[フレーム (Frames)]>[モード (Mode)])、カメラはズームして、個人または小グループで人物を表示します。これらの個別のフレームとグループフレームは、さらに 1 つの出力ビデオストリームに構成されます。このストリームでは、余分なバックグラウンドが削除され、人物どうしをより近く、同じ大きさ、同じ目の高さで表示します。

カメラは最大 4 つのフレームをサポートします。すべての画像処理は送信者側で行われるため、受信者側のデバイスはフレームをサポートする必要はありません。

フレームモードは、スピーカートラック技術に依存します。したがって、フレームを使用するには、[カメラ (Cameras)]>[スピーカートラック (SpeakerTrack)]>[モード (Mode)]を[自動 (Auto)]に設定する必要があります。



フレームが無効のビデオストリーム



フレームが有効のビデオストリーム

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

自動フレーミング機能の設定 (3/5 ページ)

カメラの仕様

Cisco Quad Camera

(Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro ではオプション)

- カメラは、ベストオーバービュー、クローズアップ、グループフレーミング、フレームをサポートします。
- 適切なグループフレーミングを見つけることが、通話中のスピーカ一のみクローズアップを作成することよりも優先されます。
- カメラの最大ズーム係数は SpeakerTrack 60 カメラよりも小さいため、カメラから離れているスピーカーに接近してズームインすることはできません。
- プリセットされたカメラ位置に保存できる最大ズームレベルは 95% です。この最大値を超えるズームレベルは、95% で保存されます。
- 照明や音響などの部屋の条件は、Quad Camera がすべての人を検出する能力に大きな影響を与える可能性があります。スピーカトラック機能は、部屋の条件が最適であり、座席エリアがカメラの位置に対して最大で深さ 8 m (26 フィート)、幅 5 m (16 フィート) の場合に最適に機能します。部屋の条件が最適でない場合、またはカメラの距離が 8 m / 26 フィートを超えると、パフォーマンスが低下します。
- 水平方向の視野角 (83°) の外側に座っている参加者は検出されません。

Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラ

(Codec Plus および Codec Pro のオプション)

- デュアルカメラアセンブリは、ベストオーバービューとクローズアップをサポートする 2 つのカメラで構成されています。
- グループフレーミングはサポートされていません。スピーカの変更が検出された場合、ビデオ会議デバイスでは、最適なカメラフレームが常に表示されるように、2 つのカメラを自動的に切り替えます。
- SpeakerTrack 60 は、部屋の座席エリアがカメラの位置に対して最大で深さ 9 m / 30 フィート、幅 5 m / 16 フィートの場合に最適に機能します。
- 水平方向の視野角 (80°) の外側に座っている参加者は検出されません。照明などの室内の状態も、カメラが人を検出する能力に影響します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

自動フレーミング機能の設定 (4/5 ページ)

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#)を選択すると、ここに示す設定が見つかります。

自動フレーミング機能を設定する

ベストオーバービュー / スピーカートラッキング

[\[カメラ \(Camera\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#)

ベストオーバービュー/スピーカートラックを有効化または無効化します。

Auto: ベストオーバービュー/スピーカートラックはデフォルトでは有効になっています。ユーザーインターフェイスのカメラ制御パネルから、モードのオンとオフをすぐに切り替えることができます。

Off: ベストオーバービュー/スピーカートラックはオフになります。ユーザーインターフェイスからオンに切り替えることはできません。

クローズアップとグループフレーミング

Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room Kit Mini ではサポートされていません。

[\[カメラ \(Camera\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[クローズアップ \(Closeup\)\]](#)

この設定は、[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) が [\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されている場合のみ適用されます。

クローズアップ機能またはグループフレーミング機能をオンまたはオフにします。

Auto: 動作はデバイスのタイプによって異なります。*Board* および *Board Pro* では、室内のすべての人を常にカメラフレーム内に含めることを目指します。その他のデバイスは、発言中のスピーカーのみまたは発言中のスピーカーとその近くにいる参加者 (グループフレーム) のいずれかにズームインします。

オフ (Off): デバイスは室内のすべての人を常にカメラフレーム内に含めます。

オン (On): デバイスは、発言中のスピーカーのみ、または発言中のスピーカーとその近くにいる参加者 (グループフレーム) のいずれかにズームインします。

フレーム

Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room 70 Panorama, Room Panorama ではサポートされていません。

[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[フレーム \(Frames\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#)

この設定は、[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[スピーカートラック \(SpeakerTrack\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) が [\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されている場合のみ適用されます。

フレームカメラモード (余分なバックグラウンドの削除) のサポートをオン/オフにします。

Auto: ユーザーは、デバイスのユーザーインターフェイスのカメラ制御を使用して、フレームのオンとオフを切り替えることができます。

Off: フレームを使用できません。

自動フレーミング機能の設定 (5/5 ページ)

トラッキング モード

これらのデバイスが *SpeakerTrack 60* カメラを使用している場合、*Codec Plus* および *Codec Pro* に適用されます。

トラッキングモードでは、トラッキングアルゴリズムによって変更が検出されたときに、カメラビューが新しいスピーカーに切り替わる速度を定義します。

[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [トラッキングモード (TrackingMode)]

自動 (Auto) : これがデフォルト設定です。

低速 (Conservative) : 検出された変更に対するデバイスの反応がより低速になり、カメラビューは遅れて切り替わります。

スピーカートラッキングコネクタの検出

これらのデバイスが *SpeakerTrack 60* カメラを使用している場合、*Codec Plus* および *Codec Pro* に適用されます。

ほとんどの場合、デバイスは、*Speaker Track 60* の左右のカメラが接続されている入力を自動的に検出します。自動的に検出されない場合にのみ、コネクタ検出モードを [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [コネクタ検出 (ConnectorDetection)] > [モード (Mode)]

自動 (Auto) : デバイスはビデオ入力を自動的に検出します。

手動 (Manual) : 個々のカメラのビデオ入力を手動で設定します。ビデオ会議デバイスがカメラから Extended Display Identification Data (EDID) 情報を受信しない状況では、手動設定を選択する必要があります。

コネクタ検出モードを [手動 (Manual)] に設定した場合は、左右のカメラが接続されているビデオ入力コネクタを指定する必要があります。

[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [コネクタ検出 (ConnectorDetection)] > [右カメラ (CameraRight)]

[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [コネクタ検出 (ConnectorDetection)] > [左カメラ (CameraLeft)]

SpeakerTrack 60 の左右のカメラが接続されているビデオ入力コネクタの数を設定します。

スピーカートラック機能によってオーバーライドされる設定

これらのデバイスが *SpeakerTrack 60* カメラを使用している場合、*Codec Plus* および *Codec Pro* に適用されます。

スピーカートラッキングをオンにすると、次の設定が自動的に変更されます。

- [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [画質 (Quality)]

デュアルカメラが接続されているコネクタでは、この設定は常に [モーション (Motion)] に変更されます。両方のコネクタがすでに [モーション (Motion)] に設定されている場合は変更はありません。

- [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [最適鮮明度 (OptimalDefinition)] > [60fpsのしきい値 (Threshold60fps)]

デュアルカメラが接続されているコネクタ間ですでにこの設定が一致している場合、設定は変更されません。一致していない場合は、2 つのうち、低い方のしきい値が優先されます。

- [ビデオ (Video)] > [入力 (Input)] > [コネクタ n (Connector n)] > [最適鮮明度 (OptimalDefinition)] > [プロファイル (Profile)]

デュアルカメラが接続されているコネクタ間ですでにこの設定が一致している場合、設定は変更されません。一致していない場合は、2 つの設定のどちらかの値が、[標準 (Normal)]、[中 (Medium)]、[高 (High)] の順に優先されます。

スピーカートラッキングがオフになっている場合、上記の設定は以前の値に戻されます。これは、ユーザーインターフェイスを使用してスピーカートラッキングをオフにした場合でも、[カメラ (Cameras)] > [スピーカートラック (SpeakerTrack)] > [モード (Mode)] 設定を使用した場合でも同様です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

PresenterTrack 機能のセットアップ (1/4 ページ)

PresenterTrack 機能を使用すると、カメラがステージ上のプレゼンタの動きを追跡することができます。プレゼンタがステージを離れると、追跡は停止します。

PresenterTrack をサポートするカメラおよびビデオ会議デバイスは次のとおりです。

- Board Pro と PTZ 4K カメラ
- PTZ 4K または Precision 60 Camera を搭載した Codec EQ
- Codec Plus および PTZ 4K、Precision 60 または SpeakerTrack 60 カメラを搭載した Codec Pro
- Room 55 Dual、Room 70、PTZ 4K または Precision 60 を外部カメラとして使用する Room 70 G2

機能と制限事項

- セットアップ後は、PresenterTrack 機能のアクティブ化と非アクティブ化の操作をタッチコントローラのカメラパネルで行えます。
- カメラはデジタルパン、チルト、ズームを使用するため、プレゼンタを追跡する間、物理的に移動することはありません。
- PresenterTrack は、ステージ上の 1 人または複数の人物のトラッキングをサポートしています。拡大表示の範囲内に収まらない場合には、カメラはズームアウトしてステージ全体を表示します。
- PresenterTrack は、スタンドアロン機能として、またはブリーフィングルームやクラスルームのシナリオの一環として使用することができます。
- PresenterTrack 用の SpeakerTrack 60 カメラアセンブリ内のカメラの 1 つを使用するようにデバイスを設定できます。
- PresenterTrack と SpeakerTrack を同時に使用することはできません。
 - PresenterTrack をアクティブにすると、SpeakerTrack は自動的に非アクティブ化します。
 - SpeakerTrack をアクティブにすると、PresenterTrack は自動的に非アクティブ化します。

ただし、これには 1 つ例外があります。ブリーフィングルームおよびクラスルームのシナリオでは、Q&A モードになると (デバイスがローカルプレゼンタモードのときにローカルのオーディエンスが質問した場合)、両方の機能が同時にアクティブになります。

カメラを配置する前の考慮事項

PresenterTrack を設定する際、ステージエリアとトリガーゾーンを定義する必要があります。ステージ上の後援者を追跡するカメラを配置する際は、位置とこのエリアの使用を考慮に入れてください。

PresenterTrack をセットアップする間、ビデオ会議デバイスとカメラがある部屋で作業することを推奨します。

ステージエリア

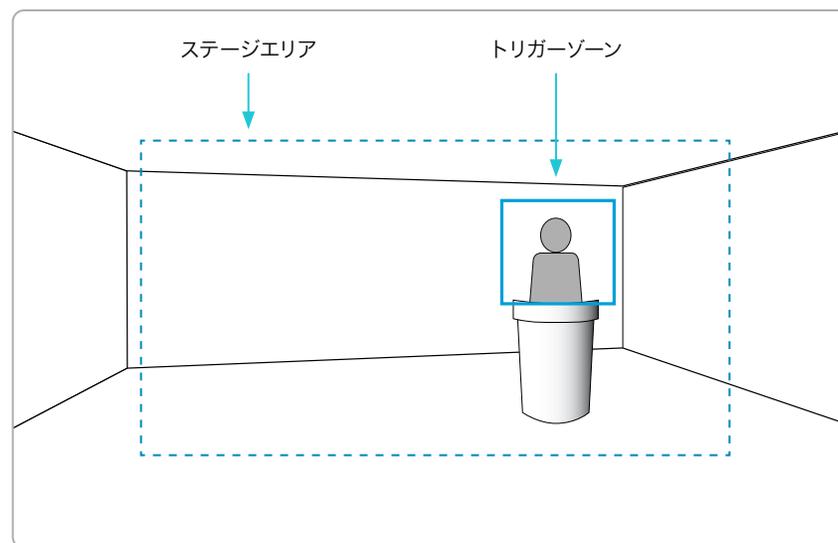
ステージエリアは、ズームアウトした全体イメージになります。

- 後援者のステージ上の動きを考慮して、このエリアは十分な大きさに設定します。講演者がステージエリアを離れると、追跡機能は停止します。
- 聴衆またはミーティングの参加者が、室内を自然に移動しても、追跡機能をトリガーしないように設定します。

トリガーゾーン

PresenterTrack 機能は、カメラがトリガーゾーン内で頭部を検出するまで起動しません。

- プレゼンタが自然にステージに入ってくる場所 (演台や演壇など) を選択します。
- カメラが講演者の頭部検出できる範囲の大きさに設定してください。
- 誤って頭部を検出することがないように、トリガーゾーンの背景は無彩色にします。トリガーゾーンは、スクリーンの手前に設定しないでください。



PresenterTrack 機能のセットアップ (3/4 ページ)

PresenterTrack 機能のセットアップとテスト

PresenterTrack をセットアップする間、ビデオ会議デバイスとカメラがある部屋で作業することを推奨します。

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動します。[\[音声とビデオ \(Audio and Video\)\]](#) を選択し、[\[プレゼンタトラッキング \(Presenter Track\)\]](#) サブタブを開きます。

2. [\[プレゼンタトラッキングの有効化 \(Enable PresenterTrack\)\]](#) をオンにし、[\[設定 \(Configure\)\]](#) をクリックして設定ページを開きます。

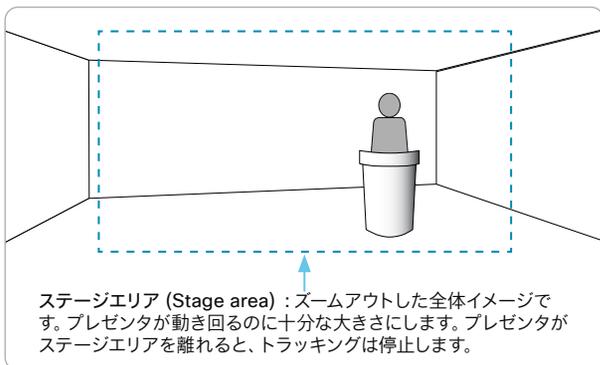
このページを開くと、スタンバイ機能と PresenterTrack 機能が非アクティブ化され、セルフビューが全画面表示になって、デバイスの画面の上にトリガーゾーンの枠が表示されます。

 このウェブページを閉じる前に必ず [\[完了 \(Done\)\]](#) をクリックします。でないと、デバイス画面にトリガーゾーンの枠が表示されたままになります。

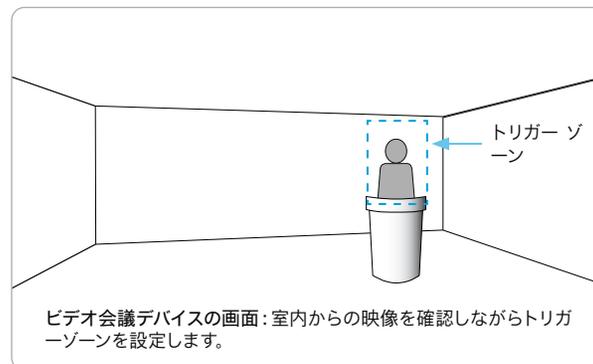
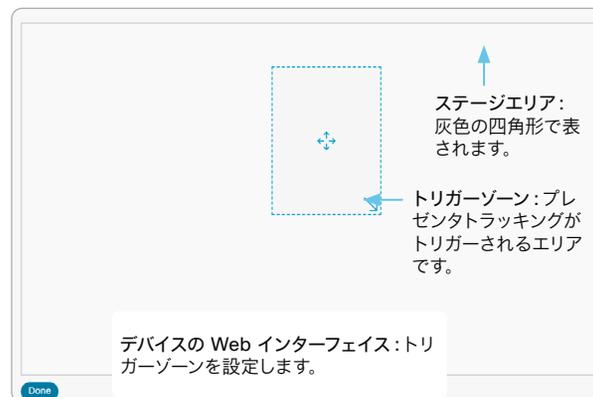
または、デバイスのユーザーインターフェイスでコントロールパネルを開き、[\[カメラ \(Camera\)\]](#) をタップして、新しいカメラモードまたはプリセットを選択し、長方形を削除することもできます。

3. デバイスのユーザーインターフェイスで、コントロールパネルを開き、[\[カメラ \(Camera\)\]](#)、[\[手動 \(Manual\)\]](#) の順に選択します。ドロップダウンリストから正しいカメラを選択 (デバイスに複数のカメラがある場合) し、タッチコントローラのカメラ制御 (ズーム、パン、チルト) を使用してステージエリアを定義します。

カメラが PresenterTrack 機能をサポートしていない場合は、通知が表示されます。



4. トリガーゾーンを表す青い破線枠が、デバイスの Web インターフェイスに表示されます。デバイスの画面を見ながら、枠を移動させてサイズ調整します。カメラのセルフビューにも同じ枠が表示されます。トリガーゾーンが必要な場所に枠を配置します。



より高度な多角形のトリガーゾーンを設定する場合は、サイドバーを参照してください。

5. [\[完了 \(Done\)\]](#) をクリックします。

多角形トリガーゾーンの設定

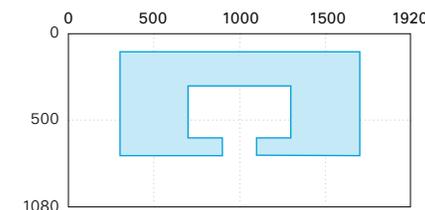
[\[プレゼンタトラッキング \(Presenter Track\)\]](#) Web ページで設定できるトリガーゾーンは、四角形に限られます。

より高度な多角形のトリガーゾーンを定義する場合は、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択して、[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[プレゼンタトラッキング \(PresenterTrack\)\]](#) > [\[トリガーゾーン \(TriggerZone\)\]](#) 設定を使用する必要があります。

この設定の値は、多角形の頂点の座標ペアで構成される文字列です。

例:

次のトリガーゾーンを定義します。このゾーンには 12 個の頂点があります。このようなトリガーゾーンは、プレゼンタの背後に映りこませたくない画面がある場合に便利です。



頂点の座標は次のとおりです。

(300,100)	(1100,600)	(700,600)
(1700,100)	(1300,600)	(900,600)
(1700,700)	(1300,300)	(900,700)
(1100,700)	(700,300)	(300,700)

対応する設定値は次のとおりです。

[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[プレゼンタトラッキング \(PresenterTrack\)\]](#) > [\[トリガーゾーン \(TriggerZone\)\]](#): 300,100,1700,100,1700,700,1100,700,1100,600,1300,600,1300,300,700,300,700,600,900,600,900,700,300,700

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

D15503.02

RoomOS 11.5

07-2023

CISCO

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

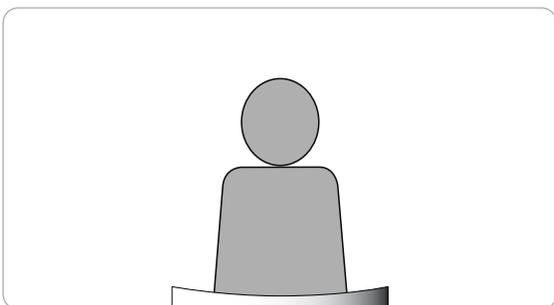
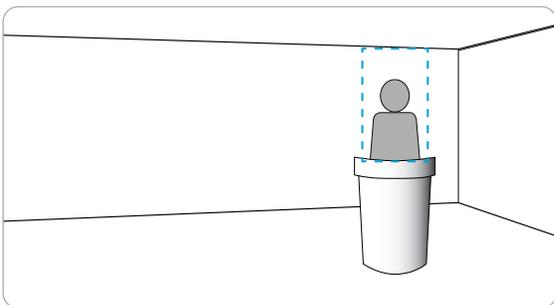
Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

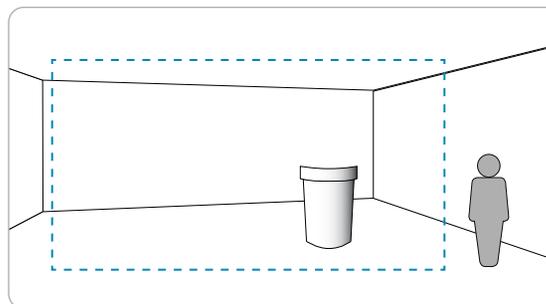
PresenterTrack 機能のセットアップ (3/4 ページ)

6. デバイスのユーザーインターフェイスでコントロールパネルを開き、**[カメラ (Camera)]**、**[プレゼンタ (Presenter)]**の順に選択します。プレゼンタ トラッキング機能がアクティブ化されます。
7. 実際にトリガーゾーン内に入り、カメラがズーム インされるか確認します。



8. ステージ上を動き回り、カメラが追跡していることを確認します。

9. ステージを離れると、プレゼンタ トラッキングが停止することも確認します。



何か問題があれば、ステップ 3、4、5 に戻り、ステージエリアまたはトリガーゾーンのサイズを調整します。

より詳細なトラブルシューティングが必要な場合は、次のページで説明するように、PresenterTrack 診断モードをオンに切り替えることができます。

PresenterTrack の一時的なアクティブ化または非アクティブ化

会議中に、タッチコントローラを使用して、PresenterTrack を一時的にアクティブ化または非アクティブ化できます。

1. デバイスのユーザーインターフェイスで、コントロールパネルを開き、**[カメラ (Camera)]**を選択します。
2. カメラモードとプリセットのリストで**[プレゼンタ (Presenter)]**を選択すると、プレゼンタトラックがアクティブになります。カメラモードとプリセットのリストで**[プレゼンタ (Presenter)]**以外を選択すると、プレゼンタトラックが非アクティブになります。

PresenterTrack を非アクティブ化した場合、追跡を開始するためにはプレゼンタが再びトリガーゾーンに入る必要があります。

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

PresenterTrack 機能のセットアップ (4/4 ページ)

診断モード

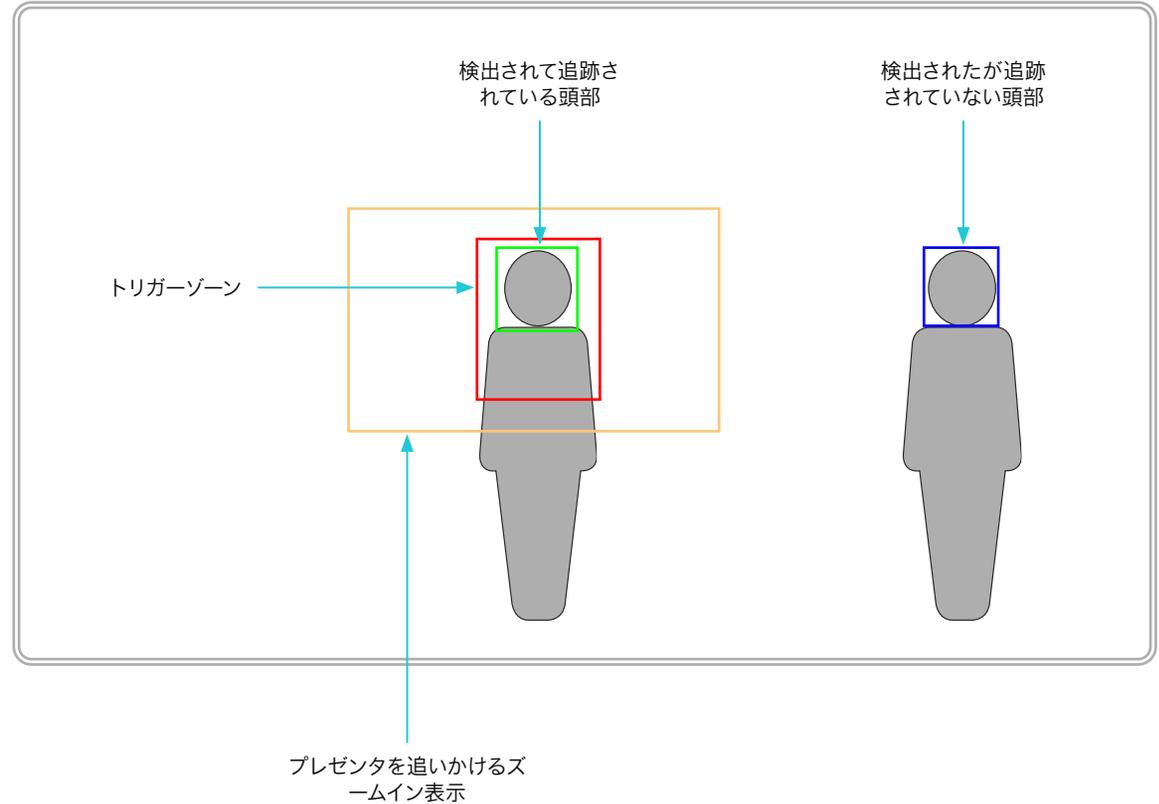
問題のトラブルシューティングを行うときは、PresenterTrack 診断モードが有用なツールとなる場合があります。デバイスを診断モードにするには、デバイスの xAPI を使用する必要があります。

xAPI にログインし、次のコマンドを実行します。

- xCommand Cameras PresenterTrack Set Mode: Diagnostic

このモードでは、画面上のステージ エリア (ズームアウトした全体イメージ) と、次のインジケータで示されるオーバーレイが表示されます。

- 赤色の枠: トリガーゾーン。
- 黄色の枠: プレゼンタのズームイン表示。
- 緑色の枠: 検出されて追跡されている頭部。
- 緑または赤の点滅枠: 頭部検出。緑色は信頼度が高いことを示し、赤色は信頼度が低いことを示します。
- 青色: 頭部が検出されたが、追跡していないことを示します。



ブリーフィングルームの設定 (1/7 ページ)

ブリーフィングルームの設定によって、ユーザーグループにトレーニングと教育セッションを提供するためのルームの設定、管理、使用が容易になります。

ブリーフィングルームの設定には、次のように、さまざまなシナリオに対応する定義済みのルームモードがあります。

- ローカルプレゼンタ (プレゼンタは部屋にいる)
- [遠隔地のプレゼンタ (Remote Presenter)] (プレゼンタは電話から)
- ディスカッション (部屋にいるローカルのプレゼンタと異なるサイト間のディスカッション用)

ブリーフィングルームの設定は、ルームタイプテンプレートとして使用できます。テンプレートを使用して部屋のセットアップを行うと、一連の設定がデバイスに自動的にプッシュされます。その部屋が正しくセットアップされていること、およびカメラがこの章の指定どおりに接続されていることが重要です。それ以外の場合、設定はルームと一致しません。

必要な機器

- 次のデバイスのいずれか
 - Codec Pro
 - Room 70 G2
- 3 台のディスプレイ (プレゼンテーション ディスプレイ、遠隔地のプレゼンタディスプレイ、遠隔地の聴衆者ディスプレイ)
- 2 台のカメラ (聴衆者カメラとプレゼンタカメラ)
- マイク
- スピーカー
- Touch コントローラ



ブリーフィングルームの設定*

教室とブリーフィングルームのセットアップの違い

画面の数と画面上のレイアウト分配という点では、教室の設定はブリーフィングルームの設定よりも柔軟性があります。また、より多くの製品が教室をサポートしています。

教室

- サポートされる製品: Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2
- デバイスがサポートする画面であればいくつでも使用できます。通常は 2 つまたは 3 つです。デフォルトの動作で要件が満たされない場合は、ビデオ モニター設定を使用して画面上のレイアウト分配を設定する必要があります。

ブリーフィング ルーム

- サポートされる製品: Codec Pro および Room 70 G2
- 設定には 3 つの画面が必要であり、画面上のレイアウトは、その特定のシナリオに合わせて事前設定済み (および固定済み) です。

* 図は Speaker Track 60 カメラを視聴者カメラとして使用したコーデックを示しています。サポート対象の統合デバイスやその他のサポート対象のコーデックとカメラの組み合わせにも、同じ原則が適用されます。

ブリーフィングルームの設定 (2/7 ページ)

ルーム モード*

ローカル プレゼンタ モード



プレゼンタは部屋にいます。このモードは、ローカル オーディオエンスの誰かが質問をする場合 (Q&A) にも対応します。

自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト)、プレゼンタ カメラが室内でプレゼンタを検出すると、デバイスはこのモードに切り替わります。

遠隔地のプレゼンタ モード



プレゼンタは電話をかけています。

自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト)、プレゼンタ カメラが室内でプレゼンタを検出できなかったときに、デバイスはこのモードに切り替わります。

ディスカッション モード



異なるサイト間のディスカッションの場合。ローカルプレゼンタは部屋にいます。

このモードをアクティブにするには、常にタッチコントローラを使用します。

	ローカル プレゼンタ モード	遠隔地のプレゼンタ モード	ディスカッション モード
遠端に送信されるビデオ	プレゼンタカメラからビデオを送信します。 Q&A: プレゼンタカメラからの画面と発表者 (聴衆者カメラ) からの画面を分割したビデオを送信します。	聴衆者カメラからビデオを送信します	聴衆者カメラからビデオを送信します
遠隔地のプレゼンタ ディスプレイ	プレゼンテーションを表示します。	電話をかけているプレゼンタと他のリモート サイトを表示します (レイアウトはローカルで決定できます)。	ディスカッションに参加しているリモート サイトを表示します (レイアウトはローカルで決定できます)。
プレゼンテーション ディスプレイ	プレゼンテーションを表示します。	プレゼンテーションを表示します。	プレゼンテーションを表示します。
遠隔地の聴衆者ディスプレイ	さまざまなサイトから電話をかけているリモート参加者を表示します。	プレゼンテーションを表示します。	プレゼンテーションを表示します。

プレゼンテーションがない場合は、対応する画面に何も表示されません (グレー)。

* 図は SpeakerTrack 60 カメラを聴衆者カメラとして使用したコーデックを示しています。サポート対象の統合デバイスやその他のサポート対象のコーデックとカメラの組み合わせにも、同じ原則が適用されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

D15503.02

RoomOS 11.5

07-2023

CISCO

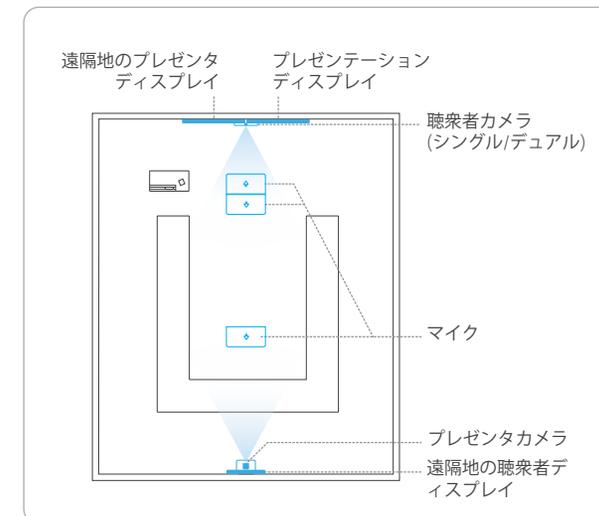
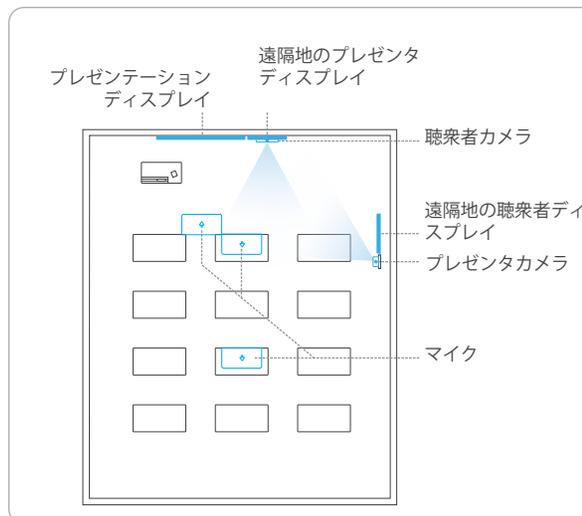
ブリーフィングルームの設定 (3/7 ページ)

部屋の配置例

これらの図は、画面、カメラ、マイク、および最適なエクスペリエンスのためのスタッフの配置の例を示しています。

推奨事項

- ・ **遠隔地のプレゼンタ ディスプレイ:** 正面に配置された第1画面。統合デバイスの場合、これがデバイスの画面 (左側) です。
- ・ **プレゼンテーション ディスプレイ:** 正面に配置された第2画面。2つの画面を使用する統合デバイスの場合、これがデバイスの右側画面です。
- ・ **リモート参加者のディスプレイ:** 第3画面は、ローカルのプレゼンタがリモートのユーザーを表示できるように、横または背面に配置されています。
- ・ **聴衆者カメラ:** ビデオ会議デバイスにカメラが搭載されている場合は、そのカメラを使用します。その他のデバイスの場合は、Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラを推奨します。通常はスピーカー トラッキング機能が備わっているカメラを推奨しますが、この機能が備わっていないカメラを使用することも可能です。
- ・ **プレゼンタカメラ:** プレゼンタトラックが有効の PTZ 4K または Precision 60 Camera。
- ・ **マイク:** 部屋を十分にカバーするシスコの天井マイクを推奨します。他のマイク ソリューションを使用することもできます。
- ・ **スピーカー:** ビデオ会議デバイスにスピーカーが搭載されている場合は、そのスピーカーを使用します。その他のデバイスでは、室内正面のプレゼンテーションディスプレイの横に高品質のステレオスピーカーを設置することをお勧めします。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

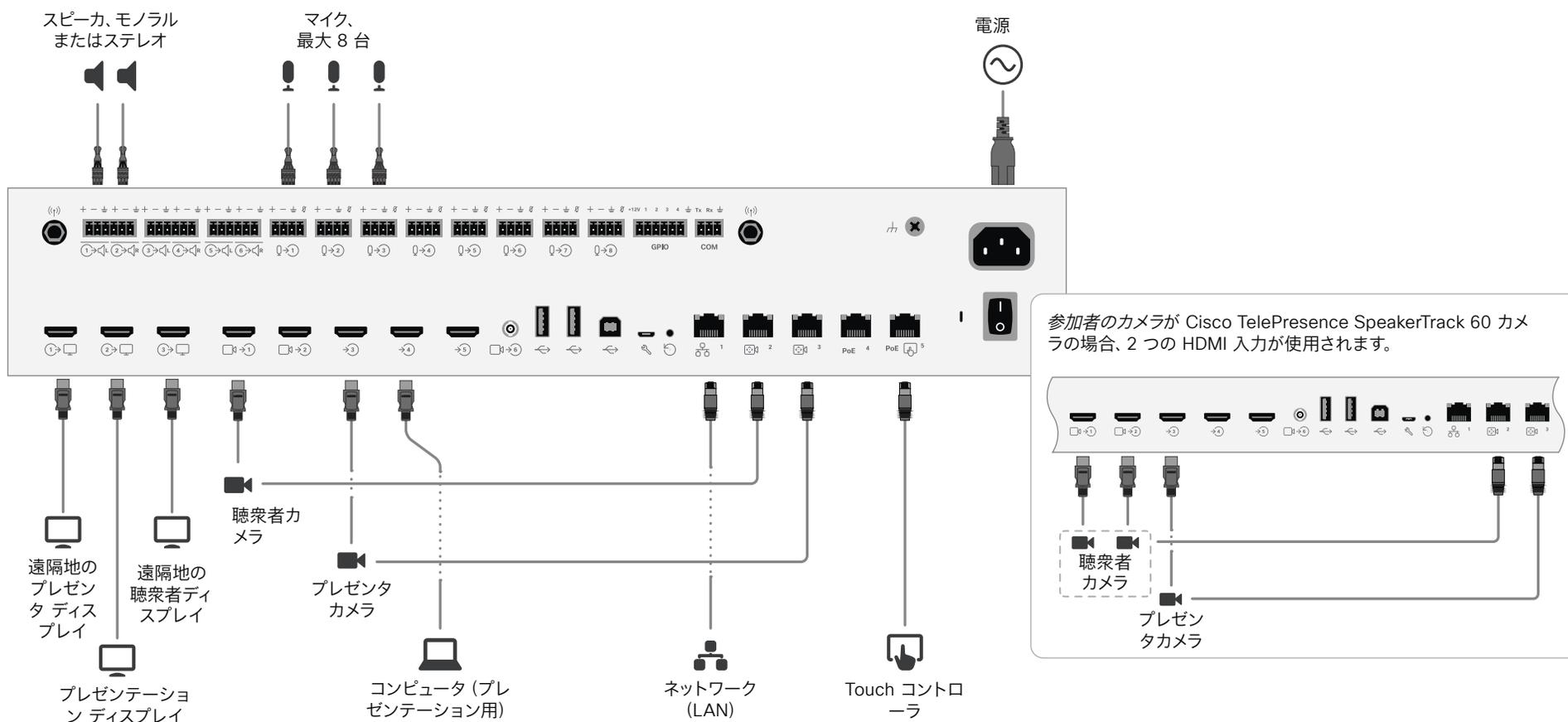
Room 70
Panorama

Room
Panorama

ブリーフィングルームの設定 (4/7 ページ)

Codec Pro: ケーブルの接続

⚠ 図のようにカメラと画面をデバイスに接続します。図のとおりになると、ブリーフィングルーム タイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

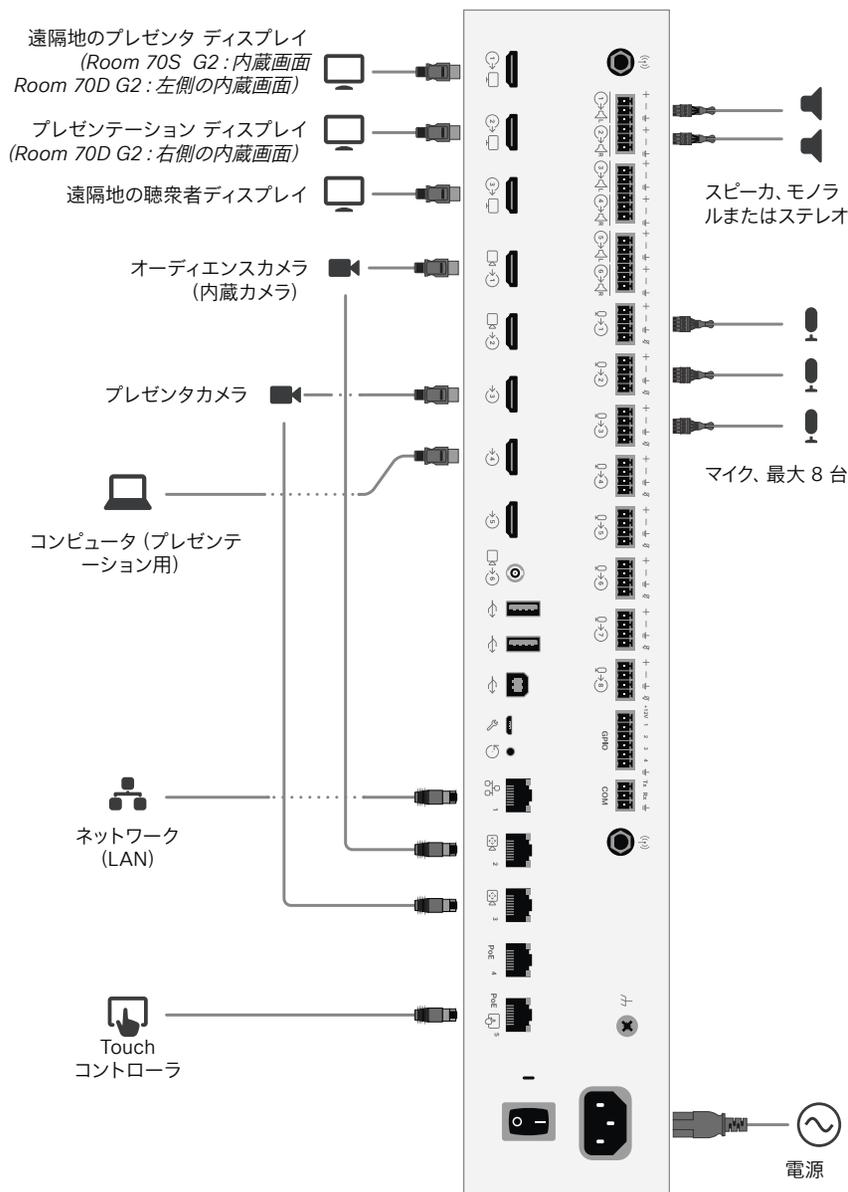
Room
Panorama

ブリーフィングルームの設定 (5/7 ページ)

Room 70 G2: ケーブルの接続

 図のようにカメラと画面をデバイスに接続します。図のとおりになると、ブリーフィングルーム タイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。

事前に接続済みのケーブルは、内蔵カメラおよび内蔵画面用のケーブルを含めて、すべて工場出荷時の状態のままで使用してください。接続する必要があるのは、外部画面と外部カメラだけです。



ブリーフィングルームの設定 (6/7 ページ)

デバイスの設定

ブリーフィングルームを設定するときは、同じ室内にいることを推奨します。それ以外の場合、PresenterTrack を適切に設定することはできません。

1. 前のページの説明に従って、カメラとスクリーンを接続します。
2. プレゼンタカメラからのビデオの共有を停止するには、タッチコントローラを使用します。ブリーフィングルームの設定中は、プレゼンタカメラからのビデオがどの画面にも表示されないことが重要です。
3. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
4. [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ 3 \(Connector 3\)\]](#) に移動して、次のように設定します。
 - [\[入力ソースタイプ \(InputSourceType\)\]](#): [\[カメラ \(camera\)\]](#)
 - [\[プレゼンテーション選択 \(PresentationSelection\)\]](#): [\[手動 \(Manual\)\]](#)
 - [\[品質 \(Quality\)\]](#): [\[モーション \(Motion\)\]](#)
 - [\[可視性 \(Visibility\)\]](#): [\[なし \(Never\)\]](#)
 - [\[カメラ制御モード \(CameraControl Mode\)\]](#): [\[オン \(On\)\]](#)

[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
5. プレゼンタカメラの PresenterTrack を設定します。
▶ [「PresenterTrack 機能のセットアップ」](#) の章を参照してください。
PresenterTrack 機能を使用すると、プレゼンタがステージ上を移動している間、カメラがプレゼンタを追跡します。
6. [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[プレゼンタトラック \(PresenterTrack\)\]](#) > [\[プレゼンタ検出ステータス \(PresenterDetectedStatus\)\]](#) を見つけて、[\[ローカルプレゼンタ \(Local Presenter\)\]](#) モードと [\[遠隔地のプレゼンタ \(Remote Presenter\)\]](#) モードの自動切り替えを有効にするか (デフォルト)、無効にするかを選択します。
[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
7. [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ルームタイプ \(Room Types\)\]](#) を選択します。[\[ブリーフィング \(Briefing\)\]](#) サムネイルをクリックして、対応する設定をデバイスにプッシュします。

ルームモード間の切り替え

ルーム モード (ローカル プレゼンタ、遠隔地のプレゼンタ、ディスカッション) を切り替えて、カメラの入力ソースとリモートおよびローカルの画面レイアウトを変更するには、次の 2 つの方法があります。

- 自動。誰が発言しているか、およびローカル プレゼンタがステージにいるかどうかによって、自動的に変更します。
自動では、ローカル プレゼンタ モードと遠隔地のプレゼンタ モードが自動的に切り替わります。現在のモードが [\[ディスカッション \(Discussions\)\]](#) の場合、ルーム モードは自動的に変更されません。
自動的な切り替えは、この機能が有効になっている場合にのみサポートされます ([\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[PresenterTrack\]](#) > [\[有効 \(Enabled\)\]](#) が True に設定されている場合)。
- 手動。タッチコントローラのボタンを使用して変更します。

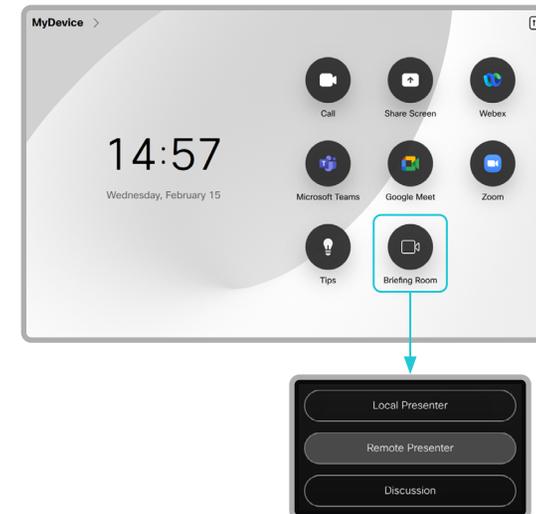
自動切り替えでは、以下が実行されます。

- 人物がプレゼンタトラックのトリガーゾーンで検出されると、デバイスは [\[ローカル プレゼンタ \(Local Presenter\)\]](#) モードに切り替えます。
- 追跡されているローカルプレゼンタがステージから退出すると、デバイスはリモートプレゼンタモードに切り替わります。
- デバイスがローカルプレゼンタモードのときにローカルオーディエンスが質問すると、デバイスはプレゼンタと質問者の両方を表示する分割画面のビデオを送信します。これには、聴衆者カメラとして Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 または Cisco Webex Quad Camera が必要となり、スピーカー トラッキングがオンにされている必要もあります。

手動でのルームモードへの切り替え

会議中に、タッチコントローラを使用して別のモードに切替えることができます。

1. タッチコントローラで [\[会議室 \(Briefing Room\)\]](#) をタップします。
2. 変更するモードを [\[ローカルプレゼンタ \(Local Presenter\)\]](#)、[\[リモートプレゼンタ \(Remote Presenter\)\]](#)、または [\[ディスカッション \(Discussion\)\]](#) のいずれかをタップします。現在のビューは、強調表示されます。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

ブリーフィングルームの設定 (7/7 ページ)

制限事項

ブリーフィングルームを使用している場合は機能しません。

- MultiSite (内蔵マルチポイント スイッチ)
- プロキシミティ クライアントへのコンテンツ共有
- 指向性オーディオ
- アクティブ コントロール (CMS からのレイアウト選択)

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

教室の設定 (1/9 ページ)

教室の設定では、ユーザーグループにトレーニングと教育セッションを提供するために、ルームの設定、管理、および使用が容易になります。

教室の設定は、ルームタイプテンプレートとして使用できます。テンプレートを使用して部屋のセットアップを行うと、一連の設定がデバイスに自動的にプッシュされます。その部屋が正しくセットアップされていること、およびカメラがこの章の指定どおりに接続されていることが重要です。それ以外の場合、設定はルームと一致しません。

必要な機器

- 次のデバイスのいずれか
 - Codec EQ
 - Codec Plus
 - Codec Pro
 - Room 55 Dual
 - Room 70
 - Room 70 G2
- 1 つ以上の画面 (構成可能)
- 2 台のカメラ (聴衆者カメラとプレゼンタカメラ)
- マイク
- スピーカー
- Touch コントローラ

制限事項

教室では、次の機能はサポートされていません。

- MultiSite (内蔵マルチポイント スイッチ)
- プロキシミティ クライアントへのコンテンツ共有
- 指向性オーディオ
- アクティブ コントロール (CMS からのレイアウト選択)

ルーム モード

教室の設定は、事前定義されたルームモード (ローカルプレゼンタ、遠隔地のプレゼンタ、ディスカッション) に基づいて調整されます。

ローカル プレゼンタ モード

- プレゼンタは部屋にいます。このモードは、ローカル オーディエンスの誰かが質問をする場合 (Q&A) にも対応します。
- 自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト)、プレゼンタカメラが室内でプレゼンタを検出すると、デバイスはこのモードに切り替わります。
- プレゼンタカメラから遠端にビデオを送信します。Q&A の場合、プレゼンタカメラからの画面と質問者 (聴衆者カメラ) からの画面を分割したビデオを遠端に送信します。

遠隔地のプレゼンタ モード

- プレゼンタは電話をかけています。
- 自動切り替えが有効になっている場合 (デフォルト)、プレゼンタカメラが室内でプレゼンタを検出しなかったときに、デバイスはこのモードに切り替わります。
- 聴衆者カメラから遠端にビデオを送信します

ディスカッション モード

- 異なるサイト間のディスカッションの場合。ローカルプレゼンタは部屋にいます。
- このモードをアクティブにするには、常にタッチコントローラを使用します。
- 聴衆者カメラから遠端にビデオを送信します

教室とブリーフィングルームのセットアップの違い

画面の数と画面上のレイアウト分配という点では、教室の設定はブリーフィングルームの設定よりも柔軟性があります。また、より多くの製品が教室をサポートしています。

教室

- サポートされる製品: Codec EQ, Codec Plus, Codec Pro, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2
- デバイスがサポートする画面であればいくつでも使用できます。通常は 2 つまたは 3 つです。デフォルトの動作で要件が満たされない場合は、ビデオ モニター設定を使用して画面上のレイアウト分配を設定する必要があります。

ブリーフィング ルーム

- サポートされる製品: Codec Pro および Room 70 G2
- 設定には 3 つの画面が必要であり、画面上のレイアウトは、その特定のシナリオに合わせて事前設定済み (および固定済み) です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

教室の設定 (2/9 ページ)

部屋の配置例

これらの図は、画面、カメラ、マイク、および最適なエクスペリエンスのためのスタッフの配置の例を示しています。

推奨事項

聴衆者カメラ:

- ビデオ会議デバイスにカメラが搭載されている場合は、そのカメラを使用します。その他のデバイスの場合は、Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラを推奨します。通常はスピーカー トラッキング機能が備わっているカメラを推奨しますが、この機能が備わっていないカメラを使用することも可能です。

プレゼンタカメラ:

- プレゼンタトラックが有効の PTZ 4K または Precision 60 Camera。

マイク:

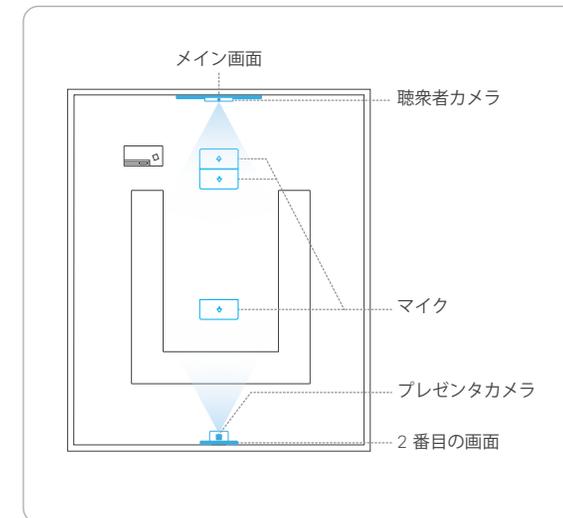
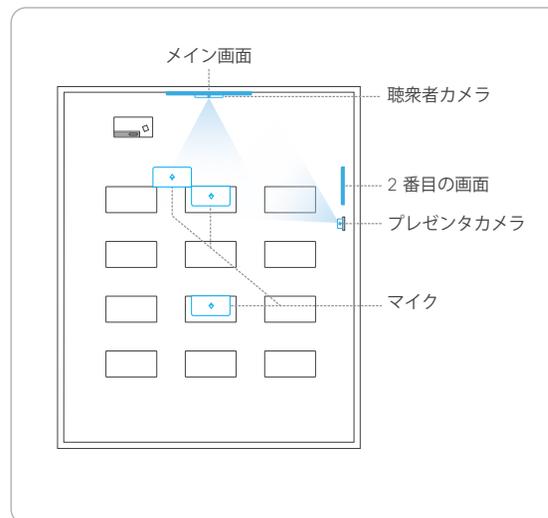
- 部屋を十分カバーするシスコの天井マイクを推奨します。他のマイクソリューションを使用することもできます。

スピーカー:

- ビデオ会議デバイスにスピーカーが搭載されている場合は、そのカメラを使用します。そうでない機器の場合は、室内正面のメイン画面の横に高品質のステレオ スピーカーを設置することを推奨します。

画面:

- 1 つ以上の画面を使用できます (画面の最大数はデバイスのタイプによって異なります)。
- ほとんどの設定では、2 つの画面を使用することを推奨します。メイン画面をルームの前面に配置します。ローカルのプレゼンタがリモートのユーザーを表示できるように、2 つ目の画面を側面に配置するか、背面に配置します。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

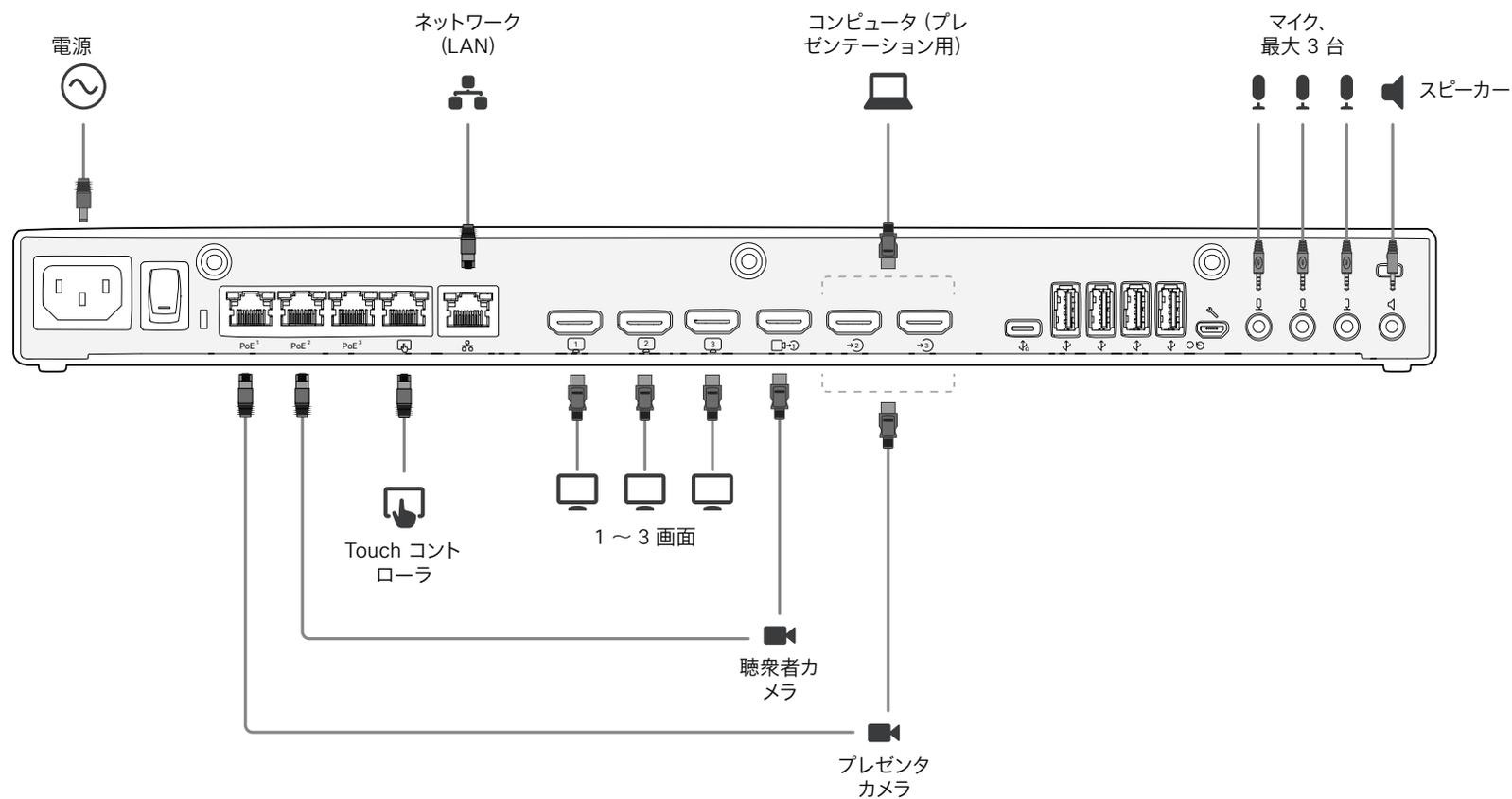
Room 70 Panorama

Room Panorama

教室の設定 (3/9 ページ)

Codec EQ: ケーブルの接続

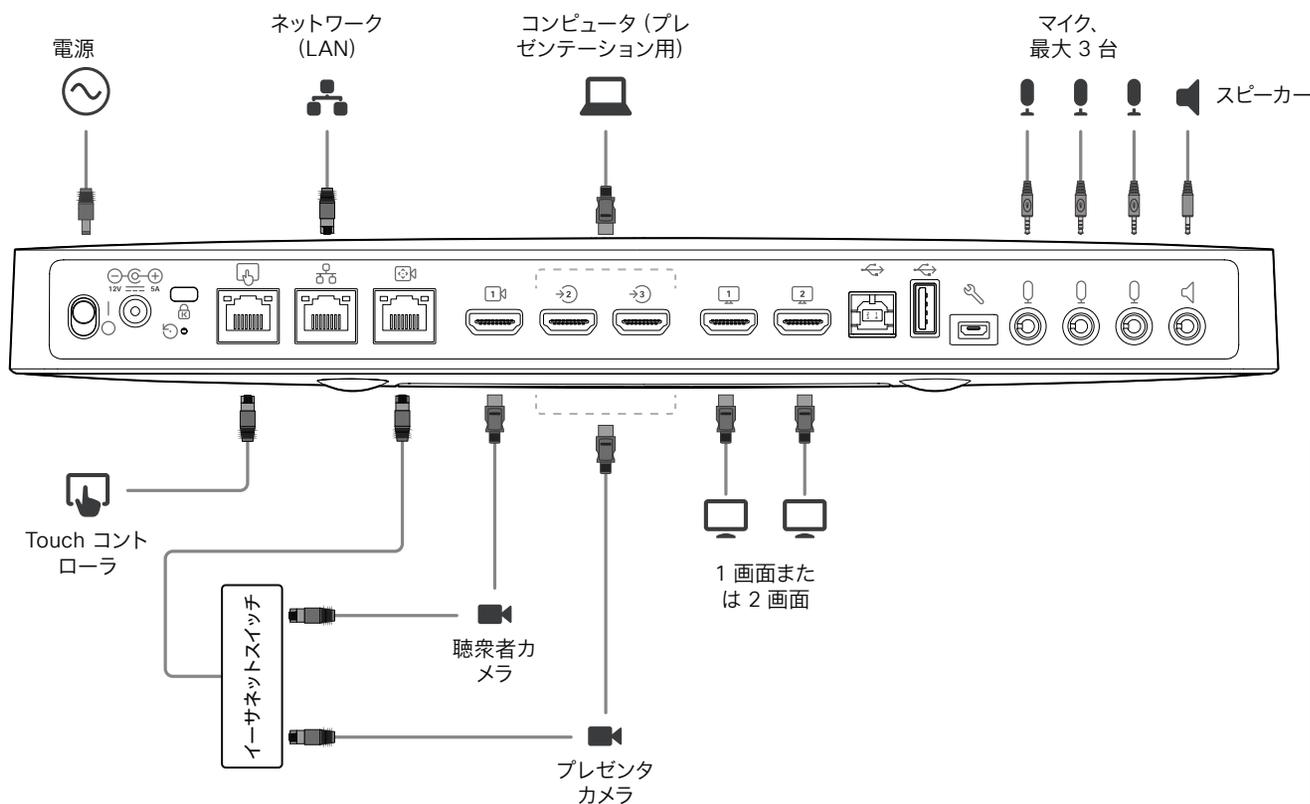
⚠ 図のようにカメラと画面をデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルームのルームタイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。



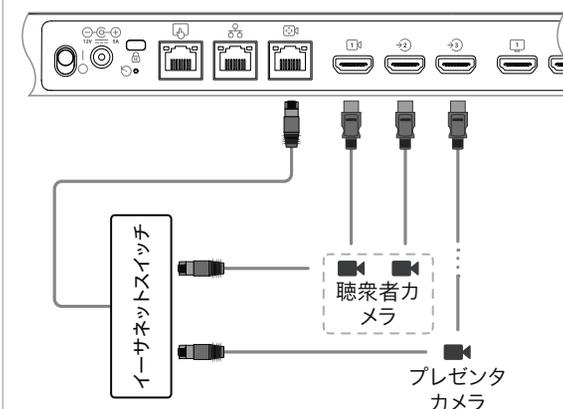
教室の設定 (4/9 ページ)

Codec Plus: ケーブルの接続

! 図のようにカメラと画面をデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルームのルームタイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。



参加者のカメラが Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラの場合、2 つの HDMI 入力を使用されます。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

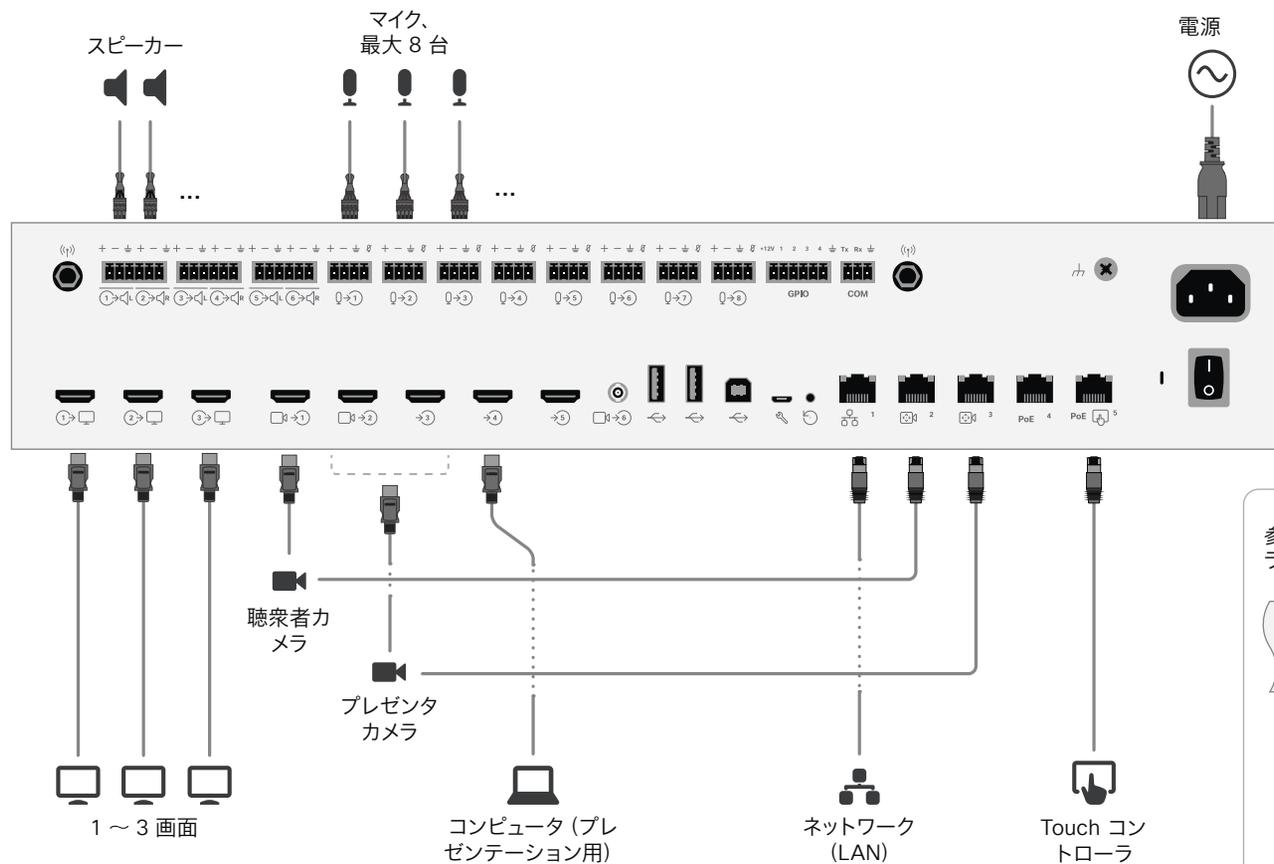
Room 70
Panorama

Room
Panorama

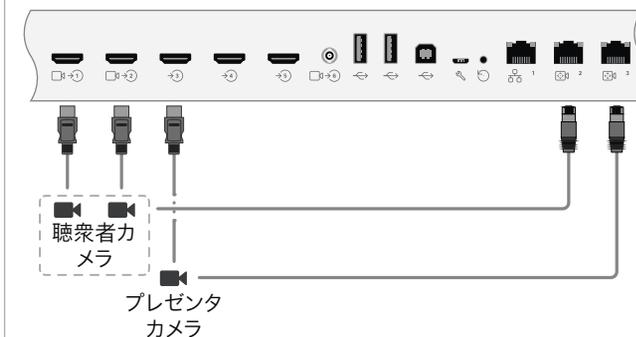
教室の設定 (5/9 ページ)

Codec Pro: ケーブルの接続

⚠ 図のようにカメラと画面をデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルームのルームタイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。



参加者のカメラが Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 カメラの場合、2 つの HDMI 入力を使用されます。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

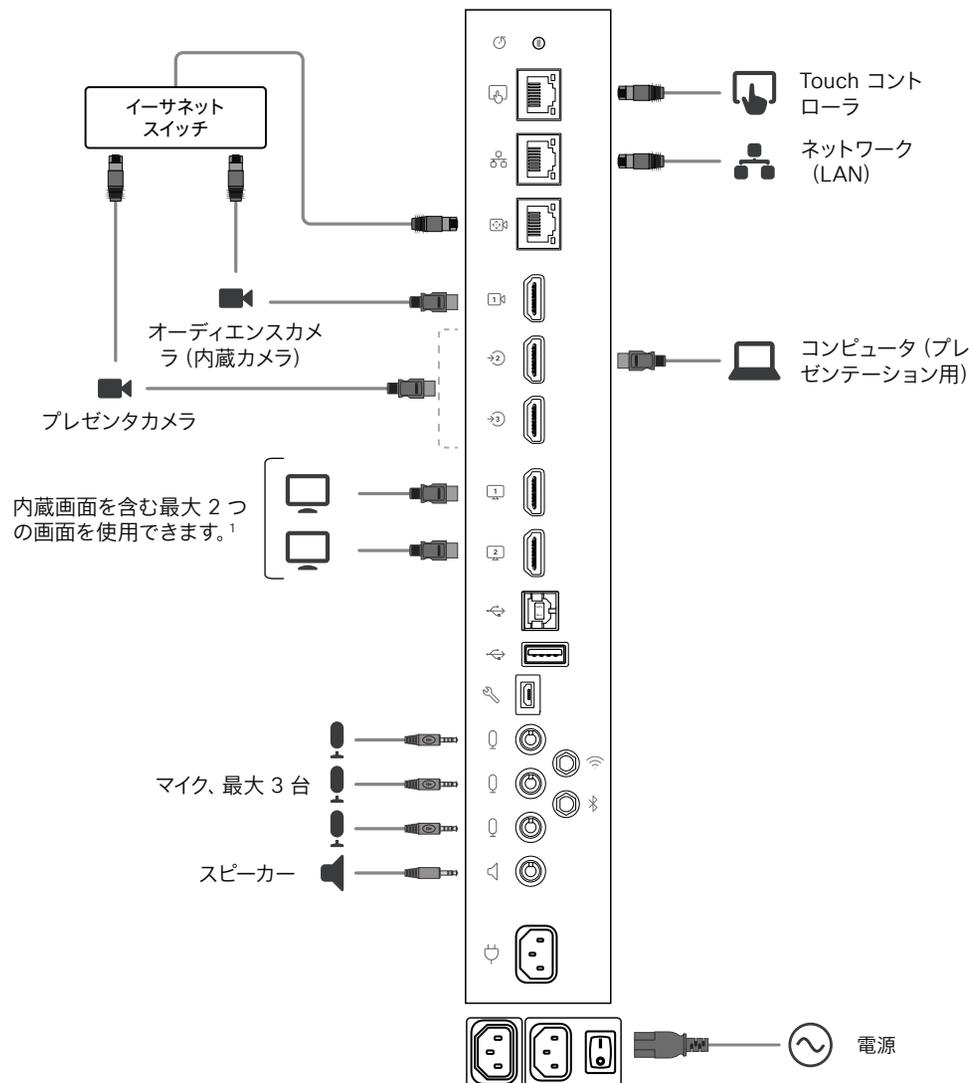
教室の設定 (6/9 ページ)

Room 55 Dual および Room 70: ケーブルの接続



図のようにカメラと画面をデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルームのルームタイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。

事前に接続済みのケーブルは、内蔵カメラおよび内蔵画面用のケーブルを含めて、すべて工場出荷時の状態のままで使用してください。接続する必要があるのは、外部画面と外部カメラだけです。



¹ Room 55 Dual および Room 70 Dual: HDMI 出力 1 および 2 は、デバイスの内蔵画面用です。外部画面はサポートされていません。
Room 70 Single: HDMI 出力 1 はデバイスの内蔵画面に使用されます。外部画面をHDMI出力2に接続することができます。

教室の設定 (7/9 ページ)

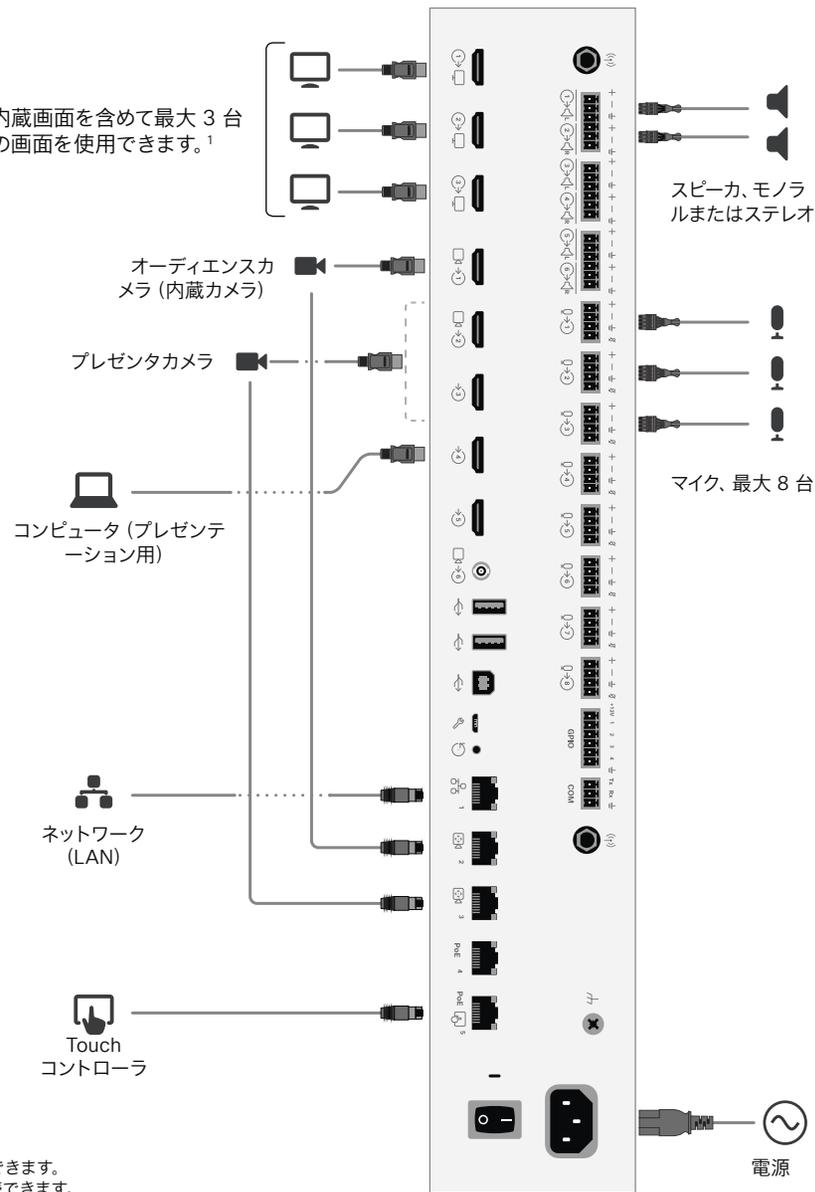
Room 70 G2: ケーブルの接続



図のようにカメラと画面をデバイスに接続します。図のとおりになると、クラスルームのルームタイプテンプレートの選択時に自動的にデバイスにプッシュされる設定が、実際のセットアップ構成と一致します。

事前に接続済みのケーブルは、内蔵カメラおよび内蔵画面用のケーブルを含めて、すべて工場出荷時の状態のままで使用してください。接続する必要があるのは、外部画面と外部カメラだけです。

内蔵画面を含めて最大 3 台の画面を使用できます。¹



¹ Room 70 Dual G2: HDMI 出力 1 および 2 はデバイスの内蔵画面に使用されます。外部画面は HDMI 出力 3 に接続できます。
Room 70 Single G2: HDMI 出力 1 はデバイスの内蔵画面に使用されます。外部画面は HDMI 出力 2 および 3 に接続できます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

教室の設定 (8/9 ページ)

デバイスの設定

教室をセットアップするときは、同じ会議室にいることをお勧めします。それ以外の場合、PresenterTrack を適切に設定することはできません。

1. 前のページの説明に従って、カメラと画面を接続します。
2. プレゼンタカメラからのビデオの共有を停止するには、タッチコントロールを使用します。教室のセットアップ中は、プレゼンタカメラからのビデオがどの画面にも表示されないことが重要です。
3. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
4. [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) に移動し、次のように設定します (n はプレゼンタカメラが接続されているコネクタの番号です)。
 - [\[入カソースタイプ \(InputSourceType\)\]](#): [\[カメラ \(camera\)\]](#)
 - [\[プレゼンテーション選択 \(PresentationSelection\)\]](#): [\[手動 \(Manual\)\]](#)
 - [\[品質 \(Quality\)\]](#): [\[モーション \(Motion\)\]](#)
 - [\[可視性 \(Visibility\)\]](#): [\[なし \(Never\)\]](#)
 - [\[カメラ制御モード \(CameraControl Mode\)\]](#): [\[オン \(On\)\]](#)[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
5. プレゼンタカメラのプレゼンタトラッキングをセットアップします。
▶ 「[PresenterTrack 機能のセットアップ](#)」の章を参照してください。
PresenterTrack 機能を使用すると、プレゼンタがステージ上で移動している間、カメラがプレゼンタを追跡します。
6. [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。[\[カメラ \(Cameras\)\]](#) > [\[プレゼンタトラック \(PresenterTrack\)\]](#) > [\[プレゼンタ検出ステータス \(PresenterDetectedStatus\)\]](#) を見つけて、[\[ローカルプレゼンタ \(Local Presenter\)\]](#) モードと [\[遠隔地のプレゼンタ \(Remote Presenter\)\]](#) モードの自動切り替えを有効にするか (デフォルト)、無効にするかを選択します。
[\[保存 \(Save\)\]](#) をクリックして変更を有効にします。
モード切り替えの詳細については、次のページを参照してください。
7. デフォルトの画面とレイアウトの動作が設定に適合しない場合は、次の設定を使用して画面とレイアウトを設定する必要があります。
 - [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[モニター \(Monitors\)\]](#): 部屋の設定で使用する異なるレイアウトの数を定義します。
 - [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[出力 \(Output\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[モニターロール \(MonitorRole\)\]](#): 各画面にどのレイアウトを適用するかを定義します。モニター ロールによって画面のレイアウトは異なります。詳細については、▶ 「[画面およびその他の出力デバイスの設定](#)」の章を参照してください。
8. [\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ルーム タイプ \(Room Types\)\]](#) を選択します。[\[教室 \(Classroom\)\]](#) サムネイルをクリックして、対応する設定をデバイスにプッシュします。

教室の設定 (9/9 ページ)

ルームモード間の切り替え

ルーム モード (ローカル プレゼンタ、遠隔地のプレゼンタ、ディスカッション) を切り替えて、カメラの入力ソースとリモートおよびローカルの画面レイアウトを変更するには、次の 2 つの方法があります。

- 自動。誰が発言しているか、およびローカル プレゼンタがステージにいるかどうかによって、自動的に変更します。

自動では、ローカル プレゼンタ モードと遠隔地のプレゼンタ モードが自動的に切り替わります。現在のモードが [ディスカッション (Discussions)] の場合、ルーム モードは自動的に変更されません。

自動的な切り替えは、この機能が有効になっている場合にのみサポートされます ([カメラ (Cameras)] > [PresenterTrack] > [有効 (Enabled)]) が True に設定されている場合)。

- 手動。タッチコントローラのボタンを使用して変更します。

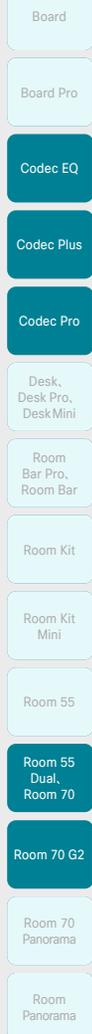
自動切り替えでは、以下が実行されます。

- 人物がプレゼンタトラックのトリガーゾーンで検出されると、デバイスは [ローカル プレゼンタ (Local Presenter)] モードに切り替えます。
- 追跡されているローカル プレゼンタがステージから退出すると、デバイスはリモート プレゼンタ モードに切り替わります。
- デバイスがローカルプレゼンタモードのときにローカルオーディエンスが質問すると、デバイスはプレゼンタと質問者の両方を表示する分割画面のビデオを送信します。これには、聴衆者カメラとして Cisco TelePresence SpeakerTrack 60 または Cisco Webex Quad Camera が必要となり、スピーカー トラッキングがオンにされている必要もあります。

手動でのルームモードへの切り替え

会議中に、タッチコントローラを使用して別のモードに切替えることができます。

- タッチコントローラで [教室 (Classroom)] をタップします。
- 変更するモードを [ローカルプレゼンタ (Local Presenter)]、[リモートプレゼンタ (Remote Presenter)]、または [ディスカッション (Discussion)] のいずれかをタップします。現在のビューは、強調表示されます。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Board Pro と Room Bar Pro での外部マイクの使用

これらのデバイスには、最大 4 m (13 フィート) の距離に最適化された内部マイクアレイがあります。これは、ほとんどの中小規模の会議室やコラボレーションスペースでは十分なものです。大きな部屋では、最高のオーディオエクスペリエンスを確保するために、外部のテーブルマイクや天井マイクを追加して、オーディオピックアップを拡張することを推奨します。

部屋の音響とバックグラウンドノイズレベルも、会議スペースでの音声ピックアップの距離と品質に影響することに注意してください。ベストプラクティスに関するガイダンスについては、Cisco Project Workplace を参照してください。

▶ <https://projectworkplace.cisco.com>

内蔵マイクアレイ

デバイスの内蔵マイクアレイは、2 つの主要な部分で構成されています。

1. 送話者の近接領域 (デバイスから約 1.5 m までをカバーします)。これは、デバイスのそばに立っている人、デバイスに描いている人やプレゼンテーションをしている人からの音声を拾います。
2. ワイドカメラレンズとほぼ同じ 120° の領域をカバーする 3 つのビーム。室内にいる人の音声を拾います (デバイスから約 4 m の距離まで)。

外部マイク

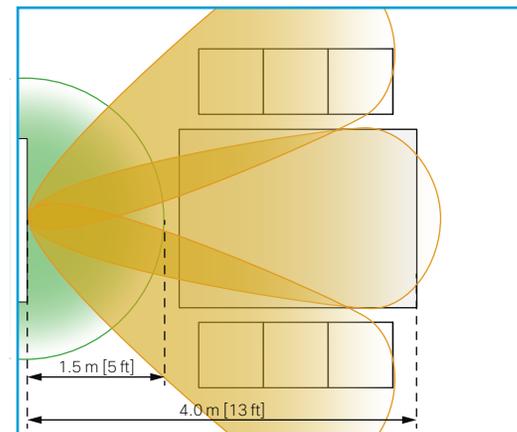
デバイスから 4 m を超える集音範囲が必要な部屋の場合は、外部マイクを追加することを推奨します。

デバイスは、最大 2 つのアナログマイク (ミニジャック) をサポートします。デジタル USB マイクもサポートされています。Room Bar Pro は、複数のデジタルマイク (イーサネット)* もサポートしています。

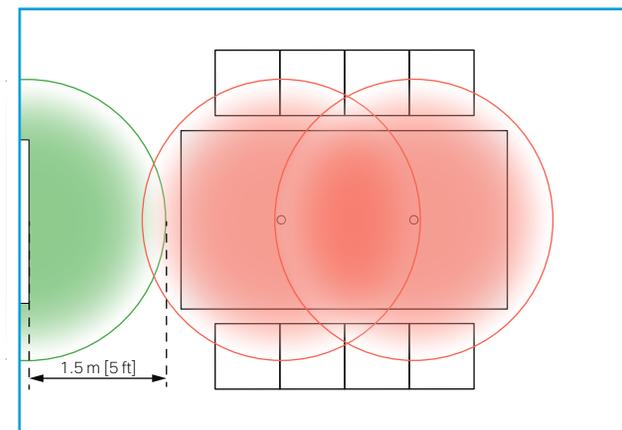
アナログまたはデジタル (イーサネット) マイクをデバイスに接続すると、内蔵マイクアレイの 3 つのビームが自動的に無効化されます。送話者の近接領域は、このゾーン内に人がいるときにアクティブになります。したがって、デバイスのそばに立っている人からの音声を拾います。

USB マイクを接続すると、すべての内蔵マイクと外部アナログまたはデジタル (イーサネット) マイクが無効化されます。

* AVIntegrator オプションで最大 8 台のデジタルマイク。 AVIntegrator オプションなしで最大 3 つ。



送話者の近接ゾーン (緑) と 3 つのビーム (黄) を持つ内蔵マイクアレイ。



2 つの外部マイク (赤) と内蔵マイクアレイの送話者の近接ゾーン (緑)。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

スピーカー接続のテスト (1/3 ページ)

デバイスのスピーカーがコーデックに正しく接続されていることは、会議のエクスペリエンスにとって非常に重要です。

ケーブルを正しく接続して、右のスピーカーから出る音を実際に右のスピーカーから出て、左のスピーカーから出る音が左のスピーカーから出るようにします。スピーカーのケーブルが正しく接続されていないと、このとおりにはなりません。

スピーカーの接続のテストは、ビデオ会議デバイスと同じ部屋で行う必要があります。スピーカーテストで問題が生じる場合、ケーブルを接続し直す必要があります。

Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, および Room 70 Panorama

スピーカーが正しく接続されているか検証を行うスピーカー チェック ツールが用意されています。カメラモジュールのスピーカーもテストに含まれます。

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[デベロッパー API \(Developer API\)\]](#) に移動します。

スピーカーチェックの実行

1. [\[コマンドとコンフィギュレーションの実行 \(Execute Commands and Configurations\)\]](#) テキスト領域に次のコマンドを入力します。*

```
xCommand Audio SpeakerCheck  
MeasurementLength: <秒数>  
Volume: <テスト信号の音量>
```

MeasurementLength および Volume パラメータを省略すると、テスト信号が各スピーカーから音量 1 で 1 秒間発信されます。

2. [\[実行 \(Execute\)\]](#) をクリックします。

スピーカーチェックが行われ、左から右の順に各スピーカーからテスト信号が発信されます。

3. テスト信号を聞き取ります。

1 つ以上のスピーカーから音が出ていない場合、または順番が正確に左から右ではない場合、スピーカーのケーブルを接続し直してスピーカー チェックを再度実行する必要があります。

In the field below you can enter API commands (xCommand and xConfiguration) directly.

Example command:

```
xCommand Dial Number: "person@example.com" Protocol: Sip
```

```
xCommand Audio SpeakerCheck
```

Execute

* 構文とセマンティックの説明については、デバイスの API ガイドをご覧ください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

スピーカーの接続のテスト (2/3 ページ)

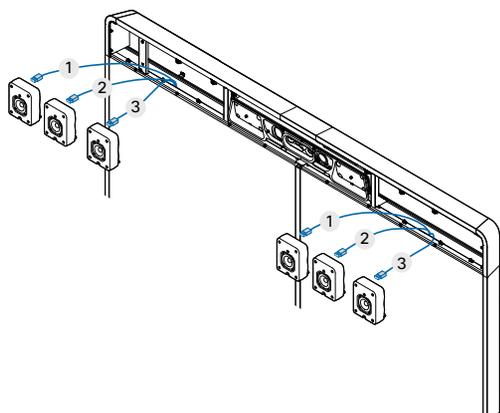
ケーブルの再接続方法

詳細については、製品のインストールガイドを参照してください。

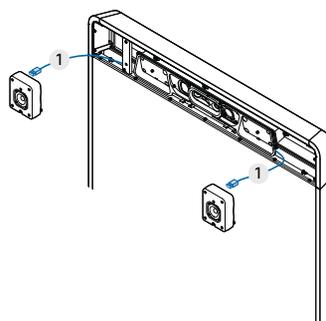
1. デバイスの上側のテキスタイル グリルを取り外します。カバーはマグネットで留められています。
2. スピーカー (Torx T20) を固定しているねじを外します。次に、スピーカーをベグから慎重に取り外します。
3. 正しく接続されていないケーブルを取り外し、正しいケーブルを接続します。

ケーブルには番号が付いています。どのケーブルをどのスピーカーに接続すればよいかについては、図を確認してください。

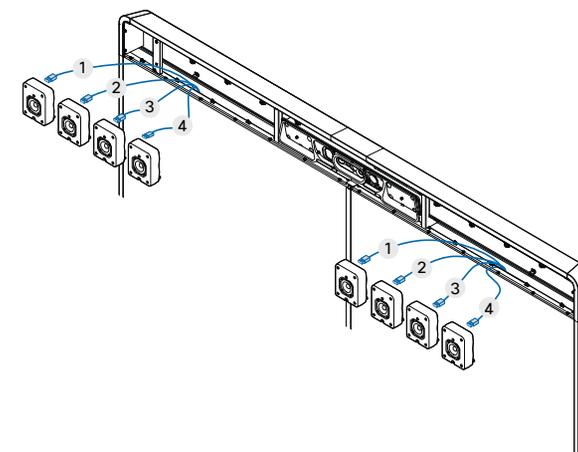
Room 55 Dual



Room 70 Single および Room 70 Single G2



Room 70 Dual, Room 70 Dual G2, Room 70 Panorama



スピーカーの接続のテスト (3/3 ページ)

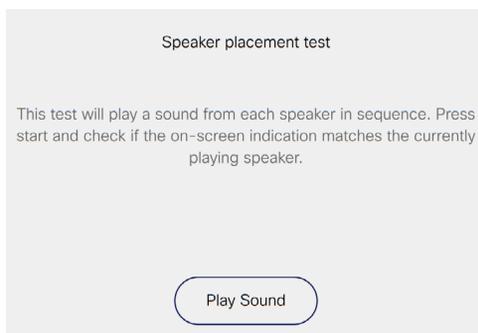
Room Panorama

スピーカーテストは、Room Panorama のセットアップアシスタントに含まれています。これは、製品のスタートアップガイドで説明されています。

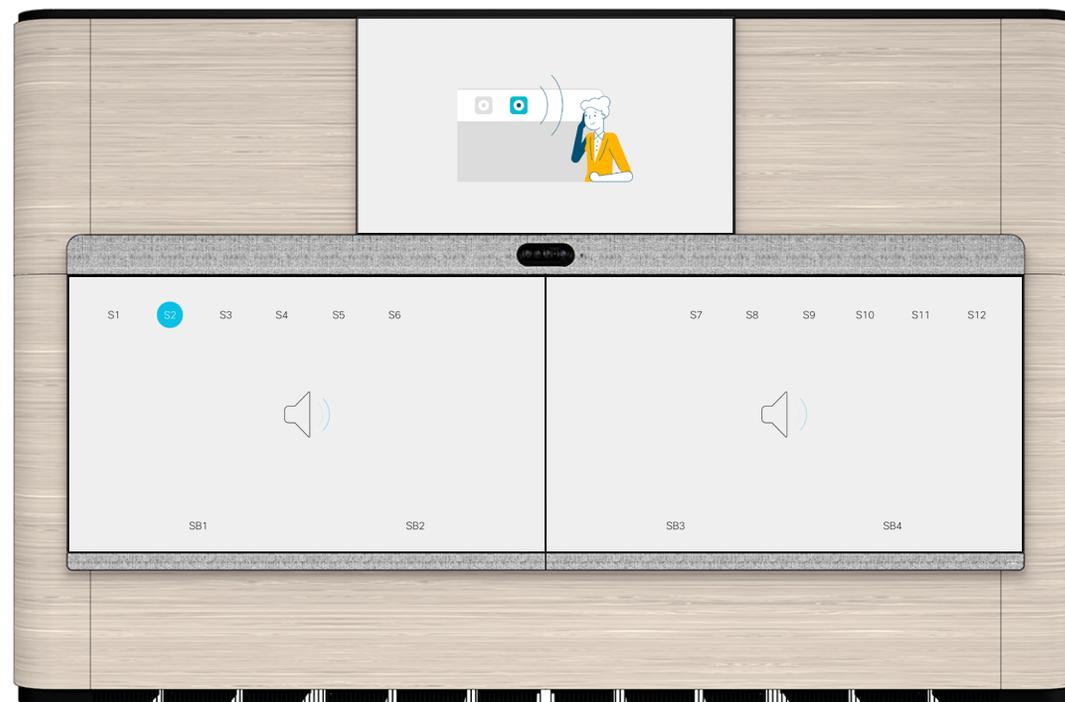
タッチコントローラから手動でテストを開始することもできます。

スピーカーテストを実行すると、各スピーカーから順にサウンドが再生されます。

1. **[設定 (Settings)]** > **[問題と診断 (Issues and Diagnostics)]** > **[手動によるスピーカーのテスト (Manual speaker check)]** > **[サウンドを再生 (Play Sound)]** をタップしてテストを開始します。



2. **[次へ (Next)]** をタップして次のスピーカーの音を確認するか、**[前へ (Previous)]** をタップして前のスピーカーにもう一度戻って音を確認します。



テストの実行中、画面のグラフィックに各スピーカーの位置に近い番号が表示されます。再生する必要があるスピーカーに近い番号は青色で示されます。

- **S1 ~ S12**: 画面の上のスピーカー (スピーカーグリルの後ろ)
- **SB1 ~ SB4**: 画面の下のサブウーファー (壁掛け用パネルの後ろ)

スピーカーとサブウーファーが正しく接続されている場合は、青色でマークが付いている位置のスピーカーからサウンドが聞こえます。

スピーカーが順番に再生されない場合、またはスピーカーでまったく再生されない場合は、ケーブル接続を確認する必要があります。問題を解決する方法については、スタートアップガイドを参照してください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Bluetooth® ヘッドセット

次の Bluetooth プロファイルがサポートされています。

- ・ HFP (ハンズフリー プロファイル)
- ・ A2DP (高度なオーディオ配信プロファイル)
- ・ ヘッドセットでは HFP と A2DP の両方、または HFP のみがサポートされている必要があります。A2DP 専用のヘッドセットはサポートされていません。

Bluetooth ヘッドセットは組み込みの Bluetooth 無線を直接使用してサポートされています。また USB Bluetooth ドングルを介して使用することもできます。ビデオ会議デバイスに複数のヘッドセットをペアリングすることができますが、一度に接続できるのは 1 つだけです。

範囲は最大 10m (30 フィート) です。通話中にこの範囲の外に出ると、音声はビデオ会議デバイスのスピーカーに切り替わります。

ほとんどのヘッドセットには音量コントロールが組み込まれています。通話中の場合は、ヘッドセットとビデオ会議デバイスの音量は同期しています。通話中でない場合は、ヘッドセットとビデオ会議デバイスの音量ボタンは独立して動作します。

サポート対象の Bluetooth 機能

- ・ 着信コールに応答する
- ・ コールの保留および再開
- ・ 着信コールの拒否
- ・ コールの終了
- ・ 音量の増減
- ・ 一部のヘッドセットにはミュート コントロールがあります。シスコのヘッドセットを使用する場合、ヘッドセットとビデオ会議デバイスのミュートコントロールが同期します。その他のヘッドセットの場合、ヘッドセットのミュートコントロールは、ビデオ会議デバイスのミュートコントロールとは独立して動作します。

USB Bluetooth ドングル

- ・ USB Bluetooth ドングルを使用すると、ヘッドセットが USB ヘッドセットとして検出されます。
- ・ ドングルを使用する場合、ヘッドセットの音量とビデオ会議デバイスの音量は同期されないことに注意してください。
- ・ シスコでは、Cisco 700 USB アダプタ、Jabra Link 360、Jabra Link 370、Plantronics BT300、および Plantronics BT600 についてテストを行っていますが、他の製品も同様に良好に動作するはずですが。

Bluetooth ヘッドセットのペアリング

1. ヘッドセットで Bluetooth のペアリングをアクティブにします。ご不明な点がある場合は、ヘッドセットのマニュアルを参照してください。
2. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。
3. [\[Bluetooth\]](#) を選択します。Bluetooth が無効になっている場合は有効にします。
4. ビデオ会議デバイスは、Bluetooth デバイスをスキャンします。検出された Bluetooth ヘッドセットがデバイス リストに表示されます。
5. デバイスを選択するとペアリングが開始されます。ペアリングが完了するまで数秒かかることがあります。
6. ペアリングが正常に行われると、ビデオ 会議デバイスはヘッドセットを接続済みとして表示します。これでペアリングが完了です。

デバイス間の切り替え

ビデオ会議デバイスの内蔵スピーカーと、アナログ Bluetooth または USB で接続されたオーディオデバイスとを切り替えることができます。

 内蔵オーディオ (スピーカー)

 ヘッドセット/ヘッドフォン (アナログ)

 ヘッドセット USB

 ハンドセット

 Bluetooth デバイス

ユーザーインターフェイスから使用するオーディオデバイスを選択する方法:

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。
2. 対応するドロップダウンメニューから、オーディオデバイスを選択します。 ([Board Pro](#)、[Desk](#)、[Desk Pro](#)、[Desk Mini](#))
[\[オーディオ \(Audio\)\]](#) をタップし、対応するドロップダウンメニューからオーディオデバイスを選択します。 ([Room Bar](#)、[Room Bar Pro](#) および [Room Navigator](#))

Board

タッチコントローラの接続 (1/9 ページ)

ビデオ会議デバイスのタイプに応じて、タッチコントローラは次の方法で接続できます。

- ビデオ会議デバイスに直接接続する (*Board ではサポートされません*)
- ネットワーク (LAN) を介してデバイスにペアリングする。これは、リモートペアリングと呼ばれます。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

適用対象: Board を除くすべての製品

Room Panorama: Room Panorama の設置では、テーブルの下またはテーブルの近くに取り付けられるイーサネットスイッチが使用されます。タッチコントローラをコーデックに直接接続するのではなく、このスイッチに接続します。

Room Panorama は最大 2 つのタッチコントローラをサポートします。

その他の製品: 次のページの図に示すように、ビデオ会議デバイスの専用のタッチコントローラポート (RJ45) にタッチコントローラを接続します。

Room Kit は Power over Ethernet (PoE) を提供していないため、タッチコントローラに電源を供給するためのミッドスパン PoE インジェクタが必要であることに注意してください。

タッチコントローラの設定

タッチコントローラはイーサネット (PoE) 経由で電源供給されています。接続されると、設定手順が始まります。画面に表示される指示に従います。

タッチコントローラのソフトウェアのアップグレードが必要な場合は、設定手順の一部として新しいソフトウェアがビデオ会議デバイスからダウンロードされ、自動的にユニットにインストールされます。タッチコントローラはアップグレード後に再起動します。

その後、タッチコントローラの指示に従い、設定を完了できます。

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023

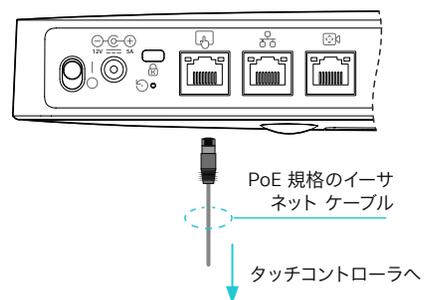


- サポートされているタッチコントローラ: Room Navigator (図を参照) および Touch 10。各デバイスでサポートされているコントローラのタイプは、[▶「タッチコントローラ」の章を参照してください。](#)

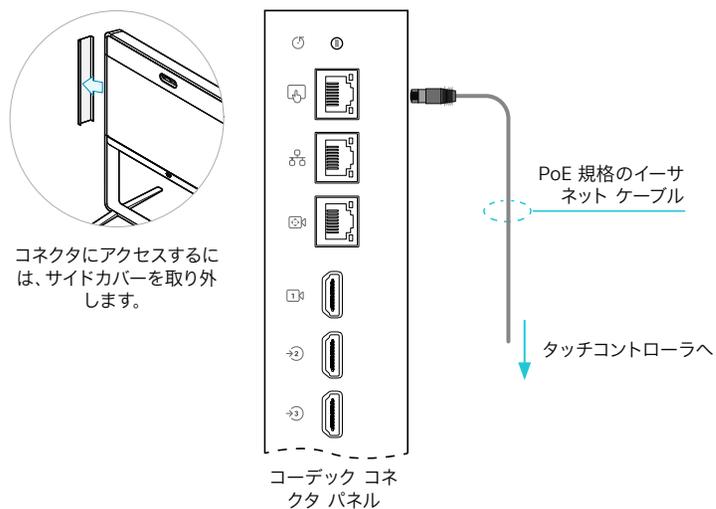
タッチコントローラの接続 (2/9 ページ)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

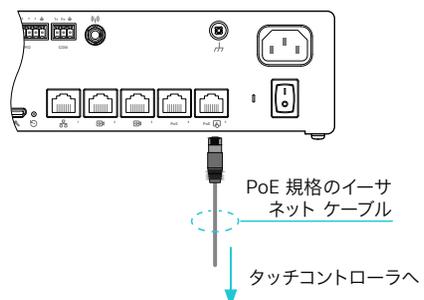
Codec Plus



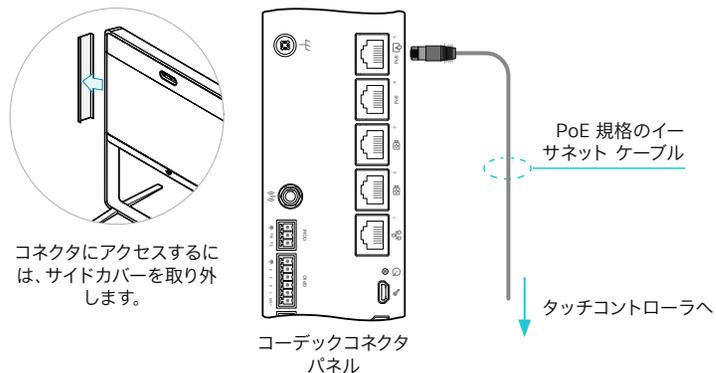
Room 55 Dual および Room 70



Codec Pro



Room 70 G2 および Room 70 Panorama



接点情報

タッチコントローラが正常にビデオ会議デバイスに接続されると、デバイスの名前またはアドレスが左上隅に表示されます。

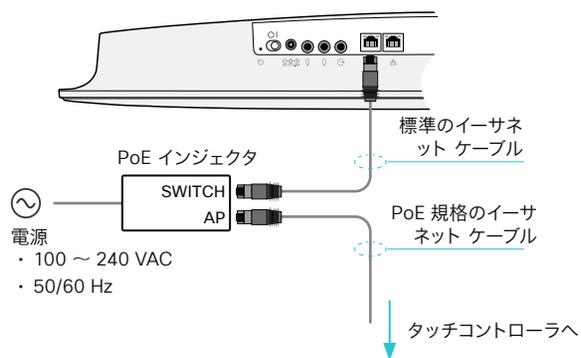
- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

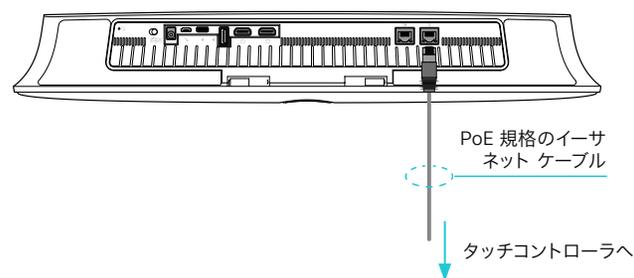
タッチコントローラの接続 (3/9 ページ)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

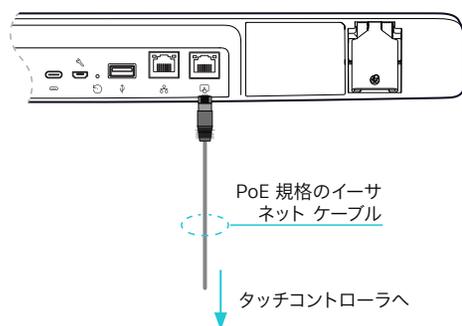
Room Kit



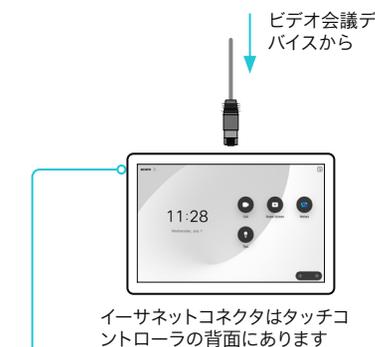
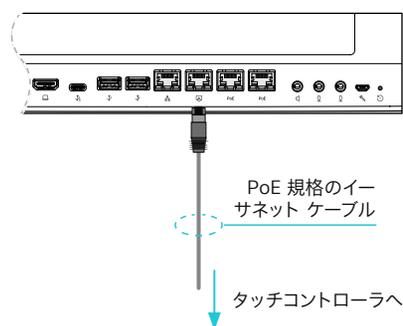
Room Kit Mini



Room Bar



Room Bar Pro



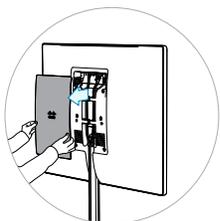
接点情報

タッチコントローラが正常にビデオ会議デバイスに接続されると、デバイスの名前またはアドレスが左上隅に表示されます。

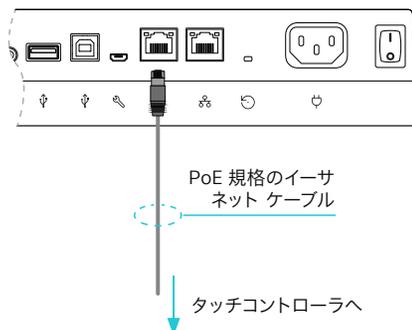
タッチコントローラの接続 (4/9 ページ)

タッチコントローラをビデオ会議デバイスに直接接続する

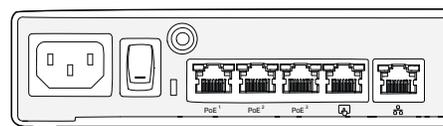
Room 55



コネクタ パネルおよび電源スイッチを使用するには、背面のカバーを取り外します。

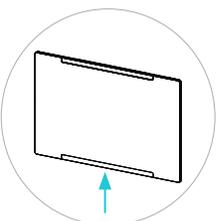


Codec EQ

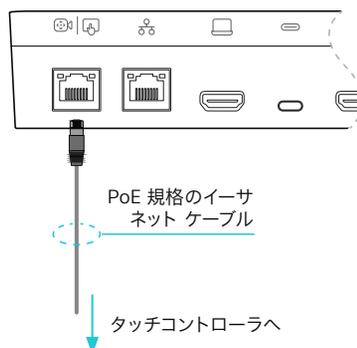


PoE 規格のイーサネット ケーブル
タッチコントローラへ

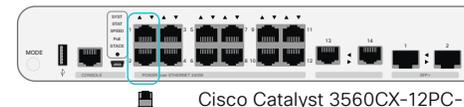
Board Pro



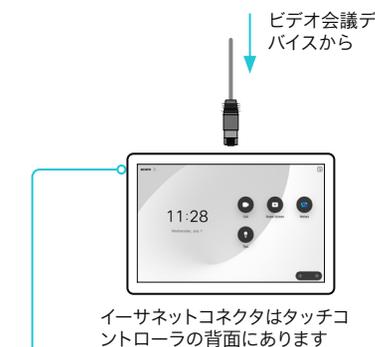
コネクタパネルは下部にあります。



Room Panorama



PoE 規格のイーサネット ケーブル
タッチコントローラへ



イーサネットコネクタはタッチコントローラの背面にあります

接点情報

タッチコントローラが正常にビデオ会議デバイスに接続されると、デバイスの名前またはアドレスが左上隅に表示されます。

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

タッチコントローラの接続 (5/9 ページ)

ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する

次のページの図のように、タッチコントローラとビデオ会議デバイスを壁面のネットワークソケットまたはネットワークスイッチに接続します。

タッチコントローラの設定

タッチコントローラを電源に接続すると、設定手順が開始します。画面に表示される指示に従います。

[[ルームデバイスの選択 \(Select a room device\)](#)]画面が表示されたら、接続するビデオデバイスを選択します。

- ペアリングできることを信号で伝えているデバイスのリストが、画面に表示されます。ペアリングするデバイスの名前をタップします。デバイスがリストに表示されるためには、次の条件を満たす必要があります。
 - デバイスとタッチコントローラが同じサブネット上にある必要があります。
 - デバイスが直近 10 分以内に再起動されている必要があります。デバイスがリストに表示されていない場合は、再起動をお試しください。
 - 使用可能なデバイスのリストにデバイスが表示されない場合は、入力フィールドに IP アドレスまたはホスト名を入力します。[接続 (Connect)] をタップします。

タッチコントローラのソフトウェアのアップグレードが必要な場合は、設定手順の一部として新しいソフトウェアがデバイスからダウンロードされ、自動的にユニットにインストールされます。タッチコントローラはアップグレード後に再起動します。

[[デバイスとのペアリング \(Pair to device\)](#)]画面が表示されたら、次のオプションからペアリング方法を選択します。

- ユーザー名/パスフレーズ - ユーザー名とパスフレーズを使用してサインインします。右矢印をタップして進みます。
user ロールを持つユーザーであれば十分対応できます。このタスクを実行するために admin ロールは必要ありません。
ユーザーアカウントを作成してそれにロールを割り当てる方法の詳細については、▶「[ユーザー管理](#)」の章を参照してください。
- PIN ペアリング - xAPI を介して PIN を生成します。

PIN ペアリングを開始して PIN を作成するには：

```
xCommand Peripherals Pairing PinPairing Start
```

次のパラメータを指定できます。

- 期間 (Duration)** - ペアリングプロセスがアクティブになる時間 (分)。
- PinVisibleOnScreen** - ビデオデバイスに接続されたメイン画面に PIN を表示させるかどうかを設定します。これが false の場合、管理者はタッチコントローラ画面でユーザーに PIN を提供する必要があります。
- 再試行 (Retries)** - 新しい PIN を生成する際に許可される無効な試行回数。

ネットワーク経由で接続されているタッチコントローラのペアリング解除

ネットワーク経由でデバイスに接続されている (リモートでペアリングされている) タッチコントローラのペアリングを解除するには、タッチコントローラの [[設定 \(Settings\)](#)] メニューに移動します。[[タッチコントローラの接続を解除 \(Unpair Touch controller\)](#)] を選択し、[[接続を解除 \(Unpair\)](#)] をタップして確定します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

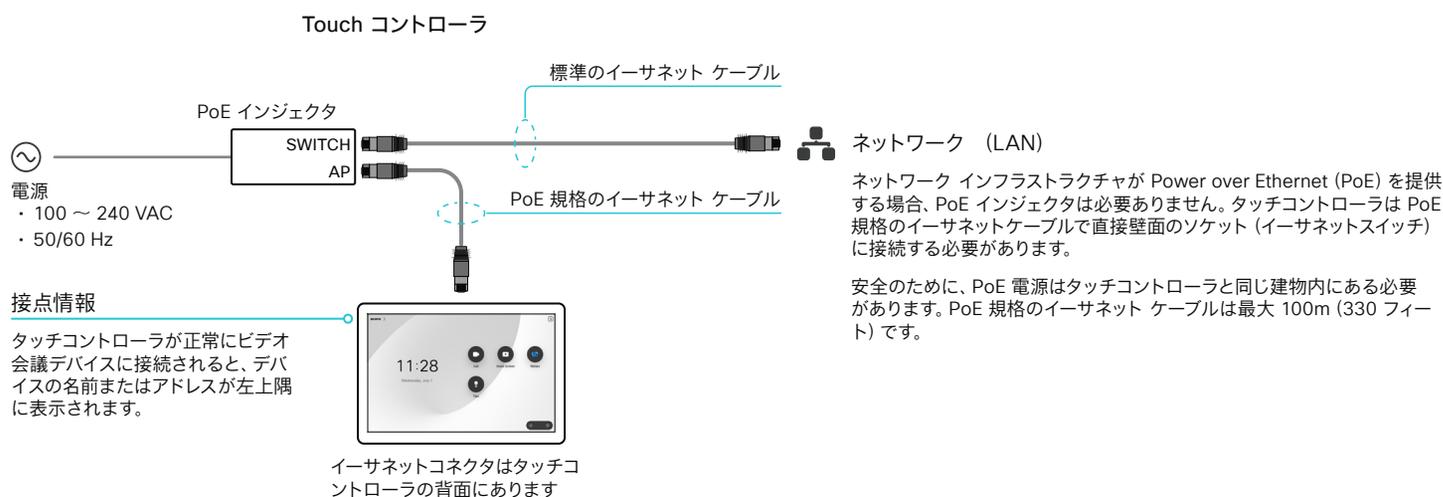
Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

タッチコントローラの接続 (6/9 ページ)

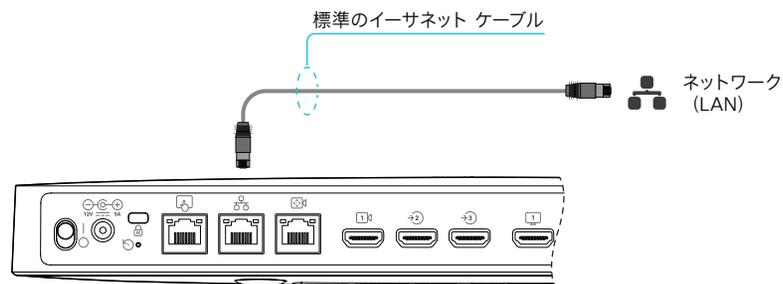
ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する



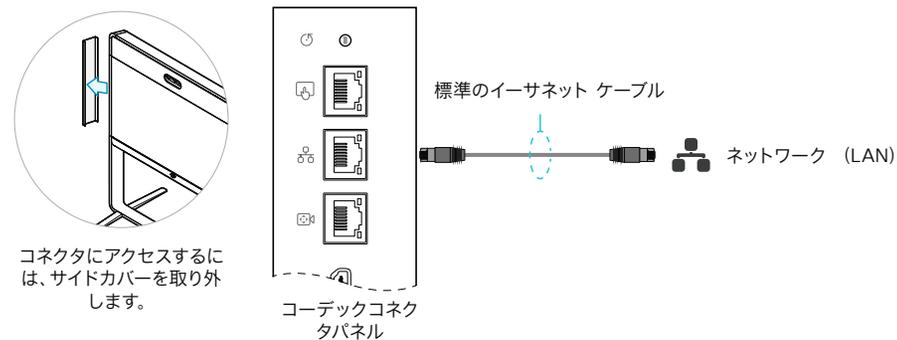
タッチコントローラの接続 (7/9 ページ)

ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する

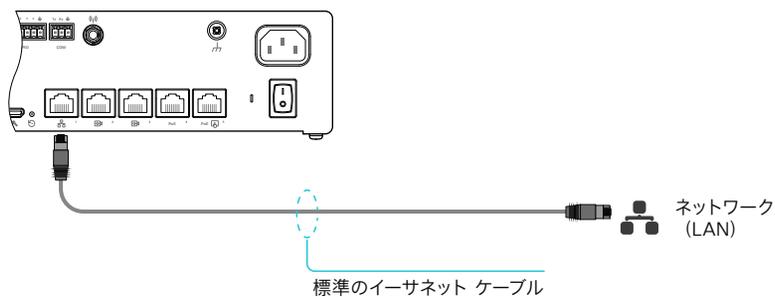
Codec Plus



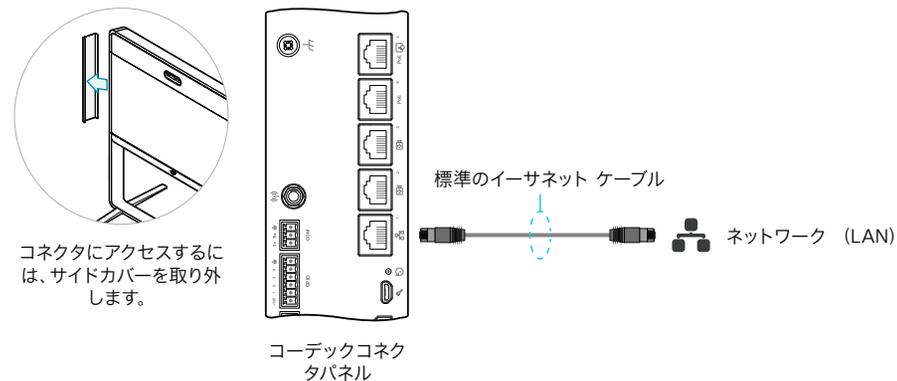
Room 55 Dual および Room 70



Codec Pro および Room Panorama



Room 70 G2 および Room 70 Panorama



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

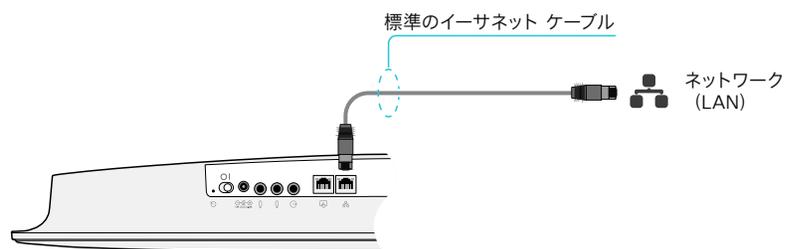
Room 70
Panorama

Room
Panorama

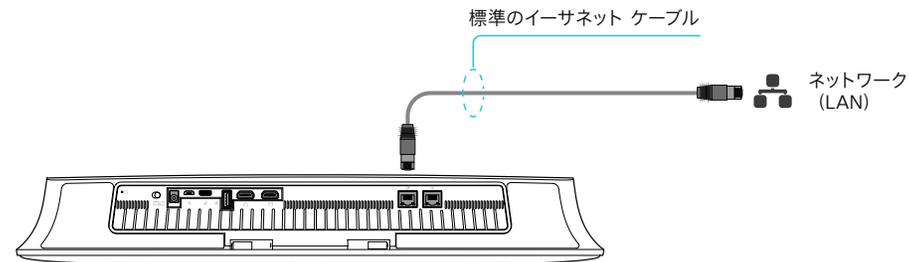
タッチコントローラの接続 (8/9 ページ)

ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する

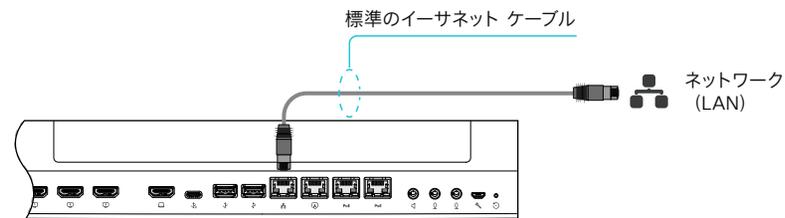
Room Kit



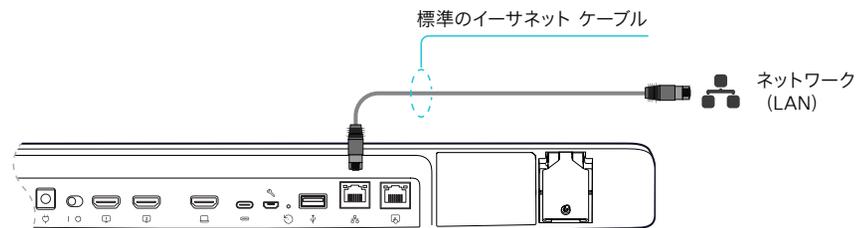
Room Kit Mini



Room Bar Pro



Room Bar



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

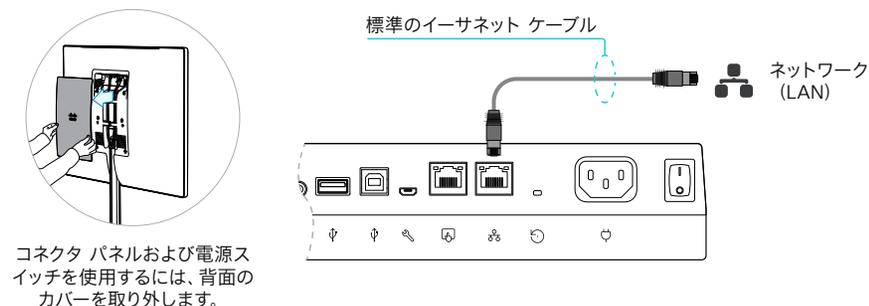
Room 70
Panorama

Room
Panorama

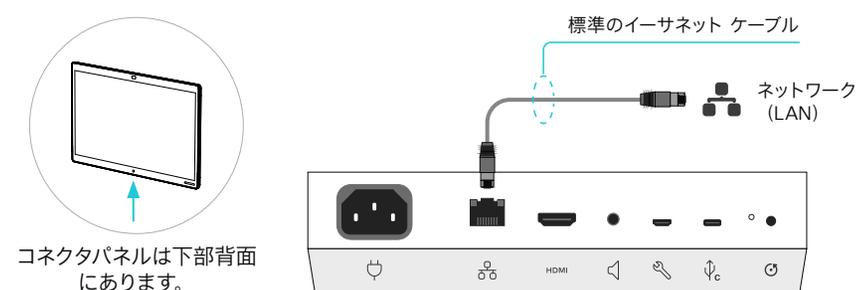
タッチコントローラの接続 (9/9 ページ)

ネットワーク (LAN) を介してタッチコントローラをビデオ会議デバイスに接続する

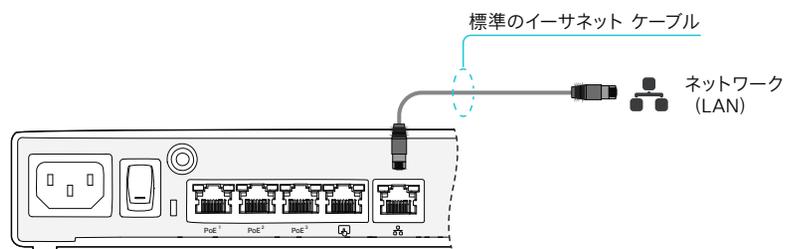
Room 55



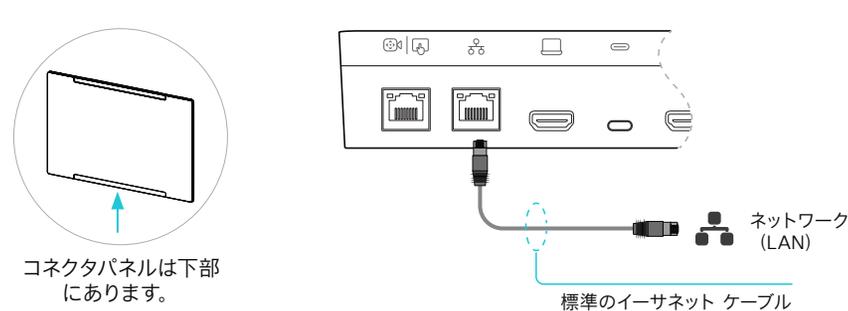
Board



Codec EQ



Board Pro



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 4 章

メンテナンス

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

新しいソフトウェアのインストール (1/2 ページ)

新しいソフトウェアをダウンロードする

各ソフトウェア バージョンに固有のファイル名があります。Cisco Download Software ウェブ ページにアクセスし、お使いの製品のページにアクセスします。▶ <https://software.cisco.com/download/home>

ファイル名フォーマットは次のとおりです。*

- 「cmterm-s53200ce11_x_y_z.k4.cop.sha512」
(Board, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70)
- 「cmterm-s53300ce11_x_y_z.k4.cop.sha512」
(Board Pro, Desk Pro, Desk, Desk Mini, Codec EQ, Codec Pro, Room Bar, Room Bar Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

ここで、「x」はマイナーリリース番号で、「y」はパッチ番号、「z」はビルド番号です。

ソフトウェアのアップグレードおよびダウングレード

ソフトウェアのアップグレードとダウングレードの要件については、ソフトウェアリリースノート (サイドバーのリンク) をよくお読みください。これは、Cisco UCM、TMS、デバイスの Web インターフェイスなどを使用してソフトウェアをインストールする場合のいずれにも適用されます。

アップグレードまたはダウングレードを行うと、インストールするバージョンに存在しない設定はすべて削除されます。後で以前のソフトウェアバージョンに戻そうとしても、削除された設定にはデフォルト値が割り当てられます。

クラウド管理ソフトウェアのアップグレード

お使いのデバイスが Webex Edge for Devices にリンクされている場合、Webex クラウドサービスからソフトウェアをアップグレードできません。次に、クラウドから新しい RoomOS ソフトウェアバージョンが利用可能になるとすぐに、デバイスが自動的にアップグレードされます。

Webex Edge for Devices のクラウド管理ソフトウェアアップグレードの詳細については、Webex ヘルプセンターの▶ [Webex Edge for Devices](https://help.webex.com/cy2l2z/) (<https://help.webex.com/cy2l2z/>) の記事を参照してください。

PKG ファイルと COP ファイルについて

ビデオデバイスと周辺機器のソフトウェアイメージは別々の PKG ファイルになっています。

そのため、これらのデバイスをアップグレードする場合は COP ファイルを使用する必要があります。COP ファイルには、ビデオデバイスおよび周辺機器に必要な PKG ファイルと、COP ファイルの内容を示す loads ファイルが含まれています。

ソフトウェア リリース ノート

このリリースの新着情報および変更の概要については、ソフトウェアリリースノート (RoomOS 11) を参照することを推奨します。これは、すべての製品を対象にした 1 セットのリリースノートです。次のいずれかのページに移動します。

- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/desktop-collaboration-experience-dx600-series/products-release-notes-list.html>
- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-room-kit-series/products-release-notes-list.html>
- ▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints/spark-board/products-release-notes-list.html>

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

新しいソフトウェアのインストール (2/2 ページ)

デバイスの Web インターフェイスからソフトウェアをインストールする場合は、インターフェイスにサインインして[ソフトウェア (Software)]に移動し、[ソフトウェアのアップグレード (Software Upgrade)]を選択します。

新しいソフトウェアのインストール

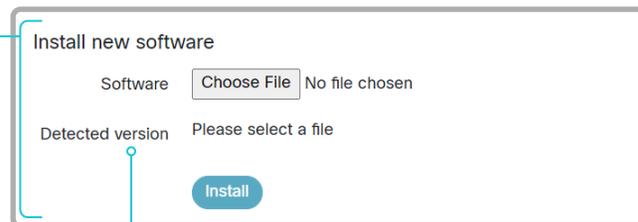
適切なソフトウェア パッケージをダウンロードして、コンピュータに保存します。これは .cop.sgn ファイルです。ファイル名は変更しないでください。

1. [ファイルの選択 (Choose File)]をクリックし、新しいソフトウェアを含む .cop.sgn ファイルを見つけます。
ソフトウェアのバージョンが検出され、表示されます。

2. [インストール (Install)]をクリックして、インストール プロセスを開始します。

インストールの完了には、通常 15 分以上はかかりません。ウェブ ページから進捗状況を確認できます。インストール後、デバイスは自動的に再起動します。

再起動後にデバイスの Web インターフェイスで作業を再開するには、再度サインインする必要があります。



新しいソフトウェア バージョンの確認

ファイルを選択すると、ここにソフトウェアのバージョンが表示されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

オプションキーの追加

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[ソフトウェア (Software)] に移動し、[オプションキー (Option Keys)] を選択します。

すべてのオプション キーのリストと、デバイスにインストールされていないオプション キーのリストが表示されます。

アンインストールされたオプションのオプション キーを取得する方法については、シスコの担当者にお問い合わせください。

Type	Description	Key	Status	
RemoteMonitoring	Enables snapshots of local and remote video sources in the web interface	Active	
DeveloperPreview	Enables previewing new APIs and features		Not installed	

オプションキーのアンインストール

削除ボタンをクリックして、オプションキーをアンインストールします。

デバイスのシリアル番号

オプション キーの注文時にはデバイスのシリアル番号が必要です。

オプション キーの追加

1. テキストの入力フィールドにオプションキーを入力します。
2. [適用 (Apply)] をクリックしてオプションキーを追加します。

オプション キーを複数追加する場合は、すべてのキーに対してこの手順を繰り返してください。

Add key

Serial number

Option key

Contact your Cisco representative to obtain option keys. You need to provide the serial number to get option keys.

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスのステータス

デバイス情報の概要

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[ホーム \(Home\)\]](#) を選択します。

これは、IP アドレス、MAC アドレス、シリアル番号、アクティブ ネットワーク インターフェイス、ソフトウェアバージョン、SIP アドレス、問題、登録ステータス、使用率と環境データなどの一般的な情報を示す [\[システム情報 \(System Information\)\]](#) ページです。

デバイス ステータスの詳細

より詳細なステータス情報を確認するには、デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ステータス \(Statuses\)\]](#) を選択します。

ステータス エントリを検索する

検索フィールドに必要な数の文字を入力します。これらの文字が含まれているすべてのエントリが右側のペインに表示されます。値スペースにこれらの文字が含まれているエントリも表示されます。

The screenshot shows a search interface with a search bar containing 'vol'. Below the search bar is a list of categories: Audio, Bookings, Cameras, Capabilities, and Conference. The 'Audio' category is selected, and the right-hand pane displays the following status details:

Audio	
Ultrasound Volume	60
Volume	70
VolumeKeyStepSize	10
VolumeMute	Off

カテゴリを選択して適切なステータスに移動する

デバイス ステータスはカテゴリ別にグループ化されています。左側のペインでカテゴリを選択すると、関連するステータスが右側に表示されます。

The screenshot shows a search interface with a search bar containing 'Search...'. Below the search bar is a list of categories: Audio, Bookings, Cameras, Capabilities, and Conference. The 'Conference' category is selected, and the right-hand pane displays the following status details:

Status / Conference	
ActiveSpeaker CallId	0
DoNotDisturb	Inactive
Line 1 Mode	Shared
Multipoint Mode	MultiSite
Muter Mode	User
SelectedCallProtocol	SIP

* 図に示しているステータスは一例です。お使いのデバイスのステータスとは異なる場合があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

診断の実行

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#)に移動し、[\[問題 \(Issues\)\]](#)を選択します。

アクティブな問題のリスト*が表示されます。エラーや重大な問題は赤色で目立つように示されます。警告は黄色です。

診断の実行

[\[再実行 \(Rerun\)\]](#) をクリックして、リストが最新であることを確認します。

スタンバイ モードを離れる

スタンバイモードのデバイスを復帰させるには、[\[システムの復帰 \(System Wakeup\)\]](#) をクリックします。

Diagnostics help identify issues that may cause the system to fail or not work as expected.

System Wakeup

Rerun

Active Issues

-  **SIP Registration Failed**
SIP registration failed: DNS lookup failed. Verify SIP [configuration](#) and [connectivity](#) to SIP proxy.
-  **Camera Not Found**
No cameras found. Make sure that the control cable between the camera and the system is connected.
-  **HTTP Mode Detected**
The HTTP mode is set to HTTP+HTTPS. In order to avoid eavesdropping, please consider [changing this setting to HTTPS](#).
-  **Macros Runtime Status**
System has active macros. Check the [macros configuration](#) or visit the [macro editor](#).
-  **Ultrasound Pairing May Fail**

* 図に示している問題は一例です。お使いのデバイスでは表示される情報が異なります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

システムログファイルの取得 (1/2 ページ)

システムログファイルは、テクニカルサポートが必要な場合に、Cisco のサポートから要求されることがある Cisco 固有のデバッグファイルです。

現在のログと履歴ログ

Current log ファイルはタイムスタンプ付きのイベント ログ ファイルです。

デバイスを再起動するたびに、現在のログ ファイルはタイムスタンプ付きの履歴ログ ファイルにすべてアーカイブされます。履歴ログファイルの最大数に到達すると、最も古いファイルは上書きされます。

拡張ロギング モード

拡張ロギング モードをオンにすると、コールのセットアップ中にネットワークの問題の診断に役立つ場合があります。このモードの間は、より多くの情報がログ ファイルに保存されます。このモードでは、ネットワークトラフィックをキャプチャすることもできます。

拡張ロギングはデバイスのリソースをより多く使用するため、デバイスの動作が低下する場合があります。拡張ロギング モードは、トラブルシューティングのときにのみ使用してください。

拡張ロギングは、ネットワーク トラフィックの完全キャプチャが含まれているかどうかによって 3 分から 10 分かかります。

ログ内の個人を特定できる情報 (PII)

ログに PII を含めるかどうかを選択できます。場合によっては、PII は、完全なエントリが削除されるのではなく、「プライバシー保護のために削除されました」というメモに置き換えられます。

ユーザーインターフェイスからのログの設定

デバイスのユーザーインターフェイスからログを設定するには、いくつかのオプションがあります。

- 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。
- [\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#) を開き、次のトグルボタンを見つけます。
 - 拡張ロギング:** オンにすると、ネットワークトラフィックの全部のキャプチャがログに含められます。PII の情報も含められます。
 - PII ロギング:** オンにすると、拡張ロギングがオンになっていない場合でも、PII がログに含められます。

Webex クラウドへのログの送信

デバイスが Webex クラウドサービスに登録されている場合、または Webex Edge for Devices にリンクされている場合は、ログをクラウドにアップロードすることもできます。

- 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。*
- [\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#) を開き、[\[ログの送信 \(Send logs\)\]](#) をタップします。

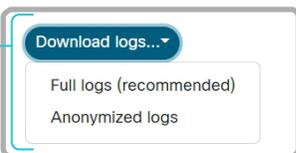
システムログファイルの取得 (2/2 ページ)

デバイスの Web インターフェイスからのログの設定とダウンロード

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[問題と診断 (Issues and Diagnostics)] に移動し、[システムログ (System Logs)] を選択します。

すべてのログ ファイルをダウンロードする

[システムログ (System Logs)] カードを見つけて、[ログのダウンロード... (Download logs...)] をクリックします。



[完全なログ (Full logs)] をダウンロードするか、または [匿名化されたログ (Anonymized logs)] をダウンロードするかを選択します。

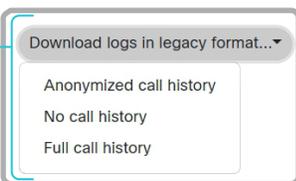
指示に従ってファイルを保存します。

個人を特定できる情報 (PII) は、匿名化されたログで「プライバシー保護のために削除されました」というメモに置き換えられます。サポートケースに匿名化されたログを添付すると、問題の解決に必要な時間が長くなる場合があります。

すべてのログファイルをダウンロードする (従来の形式)

非推奨

[システムログ (System Logs)] カードを見つけて、[従来の形式でログをダウンロード... (Download logs in legacy format...)] をクリックします。

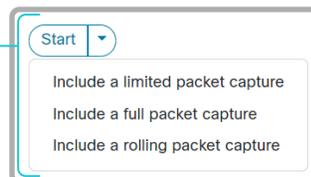


ログファイルに完全な通話履歴 (匿名以外の発信側/着信側)、匿名化された通話履歴を含めるかどうか、または通話履歴をまったく含めないかを選択します。

指示に従ってファイルを保存します。

拡張ロギングを開始する

[拡張ロギング (Extended Logging)] カードを見つけて、[開始 (Start)] をクリックします。



拡張ロギングは、ネットワークトラフィックの完全キャプチャが含まれているかどうかによって 3 分から 10 分かかります。

タイムアウトになる前に拡張ロギングを停止するには、[停止 (Stop)] をクリックします。

デフォルトとして、ネットワークトラフィックはキャプチャされません。ネットワークトラフィックの一部または全部のキャプチャを含めるには、ドロップダウンメニューを使用します。ローリング、フルキャプチャモードも使用できます。

ログファイルを開くまたは保存する

現在のログファイルをクリックして、ログファイルを Web ブラウザで開き、右クリックしてファイルをコンピュータに保存します。

履歴ログファイルをクリックし、指示に従ってファイルをコンピュータに保存します。



ログ ファイル リストの表示更新

[現在のログ (Current logs)] または [履歴ログ (Historical logs)] の更新ボタンをクリックすると、対応するリストの表示が更新されます。

ログファイルの形式

CE9.15 で、オンプレミスの登録済みデバイス用の新しいログファイル形式が導入されました。新しい形式は、クラウドに登録されたデバイスに使用される形式と同じです。

従来の形式ではなく、より新しいファイル形式を使用してログをダウンロードすることを推奨します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

コール ログの取得

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#)に移動し、[\[通話ログ \(Call Logs\)\]](#)を選択します。表示されるリストから、コールを選択して詳細を表示します。

詳細には、リモート番号、発信コールの方向、プロトコル、帯域、暗号化タイプ、接続時間に加え、コールの切断に関する情報が含まれます。

[接続解除の原因タイプ (Disconnect cause type)] フィールドは、コールが切断された理由を説明するために使用されます。考えられる値は多数あり、これらはダウンストリームで変更できます。例: OtherLocal, LocalDisconnect, UnknownRemoteSite, LocalBusy, LocalReject, InsufficientSecurity, OtherRemote, RemoteDisconnect, RemoteBusy, RemoteRejected, RemoteNoAnswer, CallForwarded, および NetworkRejected。

[接続解除の原因 (disconnection cause)] フィールドは、[接続解除の原因タイプ (Disconnect cause type)] の補足として追加情報を提供できます。

[接続解除の原因コード (disconnection cause code)] は SIP および Q.850 で定義されています。

[発生タイプ (Occurrence type)] は、コールの発信、受信、不在、拒否、リモート エンドがコールに回答しなかった場合、またはコールが別のデバイスで回答したかどうかに関する詳細情報を提供します。

[確認済み (Is Acknowledged)] フィールドは、不在着信がユーザーによって確認されたかどうかを示します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

リモート サポート ユーザーを作成する

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[ユーザー \(Users\)\]](#) に移動します。



リモート サポート ユーザーは、Cisco TAC から指示されたトラブルシューティングを行うために有効にする必要があります。

リモート サポート ユーザーの作成

- [リモートサポートユーザー (Remote Support User)] カードを見つけて、[\[ユーザーの作成 \(Create User\)\]](#) をクリックします。
- Cisco TAC で案件を開きます。
- [\[トークン \(Token\)\]](#) フィールドのテキストをコピーして、Cisco TAC に送信します。
- Cisco TAC はパスワードを生成します。
リモート サポート ユーザーは 7 日間、または削除されるまで有効です。

The system does not have an active Remote Support User.

[Create User](#)[Delete User](#)

This user is valid until

2021-02-02 20:10:42

Token

```
G2F5vpw+Q089WV9vJ9Sx/Ven321HU3A1T71+VqX17Q36y
FnLFFtb8W0hqJKy9gKAY32919huUI4wdw5PsaoH0saD/L
sTPp9Gh7cMSmhqkSeb+vAjSqt2PN7Sh11aZYrdoT4mnUK
W0jncR1M9iR7mo80dmkumDV1LsDVmknFsyvs1JKJdoGd1
ctMm8b0HBbtu5yBUYyQZhAHBwzBuZ3NWySwgoI3LhKcIO
Iydq/fwTHT2ZlyuIqYyItx6hoLtwTlORz7jz3IyL45J0h
QwKK41VdUceCULLHYuv4pS61BxjLQM+e5kcGZntFBorgC
uzDu1f70c0w83V6dDpHYGVzx8AA==
```

The system has an active Remote Support User.

[Create User](#)[Delete User](#)

リモート サポート ユーザーの削除

[\[ユーザーの削除 \(Delete User\)\]](#) をクリックします。

リモート サポート ユーザーについて

デバイスに診断の問題がある場合は、リモート サポート ユーザーを作成できます。

リモート サポート ユーザーにはデバイスに対する読み取りアクセス権が付与され、トラブルシューティングに役立つ限定された一連のコマンドにアクセスできます。

リモート サポート ユーザーのパスワードを取得するには、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のアシスタントが必要です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

設定とカスタム要素のバックアップ/復元

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#)に移動します。

バックアップ ファイル (zip 形式) には、設定とともにカスタム要素を含めることができます。以下の要素のいずれをバンドルに含めるかを選択できます。

- ・ ブランディング イメージ
- ・ マクロ
- ・ お気に入り
- ・ サインイン バナー
- ・ UI 拡張
- ・ 構成/設定 (すべてまたは一部)

バックアップファイルは、デバイスの Web インターフェイスから手動で復元できます。または、Cisco UCM や TMS などを使用して複数のデバイスにプロビジョニングできるように、バックアップバンドルを一般化することもできます (これ以降の章を参照)。

バックアップ ファイルの作成

1. [\[バックアップ \(Backup\)\]](#) を選択します。
2. バックアップ ファイルに含める要素を選択します。
3. バックアップ ファイルに含める設定 (ある場合) を選択します。次の点に注意してください。
 - ・ デフォルトでは、すべての設定がバックアップ ファイルに含まれます。
 - ・ ウェブ ページの一覧から手動で設定を削除することにより、1 つ以上の設定を手動で削除できます。
 - ・ 特定のデバイスに固有の設定をすべて削除する場合は、[\[システム固有の設定の削除 \(Remove system-specific configurations\)\]](#) をクリックします。
これは、他のデバイスでバックアップ バンドルを復元する予定がある場合に役立ちます。
4. [\[ダウンロード \(Download\)\]](#) をクリックして、コンピュータ上の zip ファイルに要素を保存します。

バックアップ ファイルの復元

1. [\[復元 \(Restore\)\]](#) を選択します。
2. [\[ファイルの選択 \(Choose File\)\]](#) をクリックして、復元するバックアップファイルを見つけます。
バックアップ ファイル内のすべての設定と要素が適用されます。
3. [\[アップロード \(Upload\)\]](#) をクリックして、バックアップを適用します。
設定によっては、有効にするためにデバイスを再起動する必要があります。

その他の情報

マクロの復元

マクロを含むバックアップ ファイルをデバイスで復元すると、次の処理が適用されます。

- ・ マクロのランタイムを起動または再起動します。
- ・ マクロは自動的に有効化 (開始) されます。

ブランド イメージの復元

バックアップバンドルにブランドイメージが含まれている場合、[\[ユーザーインターフェイス壁紙 \(UserInterface Wallpaper\)\]](#) 設定は自動的に [\[自動 \(Auto\)\]](#) に設定されます。

したがって、ブランドイメージは自動的に表示されます。

バックアップ ファイル

バックアップ ファイルは、いくつかのファイルを含む zip 形式のファイルです。それらのファイルは zip ファイル内の最上位にあり、フォルダに含まれていないことが重要です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタム要素の CUCM プロビジョニング

バックアップファイルは、▶ 「[設定とカスタム要素のバックアップ/復元](#)」の章で説明されているとおり、複数のデバイスでカスタマイズテンプレートとして使用できます。

カスタマイズ テンプレート (バックアップ ファイル) は、次のいずれかによってホストされています。

- ・ CUCM TFTP ファイル サービス、または
- ・ デバイスが HTTP または HTTPS で接続可能なカスタム Web サーバー。

デバイスが CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からカスタマイズ テンプレートの名前と格納場所に関する情報を取得するときは、デバイスがサーバーに接続してファイルをダウンロードし、カスタム要素を復元します。

-  カスタマイズ テンプレートとして使用するバックアップ ファイルに設定が含まれている場合でも、設定はデバイス上に復元されません。

カスタマイズ テンプレートの TFTP ファイル サーバーへのアップロード

1. *Cisco Unified OS Administration* にサインインします。
2. [\[ソフトウェア アップグレード \(Software Upgrade s\)\]](#) > [\[TFTP ファイル管理 \(TFTP File Management\)\]](#) に移動します。
3. [\[ファイルのアップロード \(Upload File\)\]](#) をクリックします。入力フィールドにカスタマイズ テンプレートの名前とパスを入力します。
4. [\[ファイルのアップロード \(Upload File\)\]](#) をクリックします。ファイルがアップロードされたら、TFTP サービスを再起動します。

デバイスごとのカスタマイズ プロビジョニング情報の追加

1. *Cisco Unified CM Administration* にサインインします。
2. [\[デバイス \(Device\)\]](#) > [\[電話 \(Phone\)\]](#) に移動します。
3. 関連するデバイスの製品固有の構成セクション内で、[\[カスタマイズ プロビジョニング \(Customization Provisioning\)\]](#) フィールドに以下を入力します。
 - ・ **カスタマイズ ファイル:** カスタマイズ テンプレートのファイル名 (backup.zip など)*
 - ・ **カスタマイズ ハッシュの型:** SHA512
 - ・ **カスタマイズ ハッシュ:** カスタマイズ テンプレートの SHA512 チェックサム。これらのフィールドが存在しない場合は、CUCM に新しいデバイスパッケージをインストールする必要があります。
4. [\[保存 \(Save\)\]](#) および [\[設定の適用 \(Apply Config\)\]](#) をクリックして、設定をデバイスにプッシュします。

* TFTP サービスを使用しない場合は、カスタマイズ テンプレートの完全な URI: <hostname>:<portnumber>/<path-and-filename> を入力する必要があります。

次に例を示します。

- ・ http://host:6970/backup.zip または
- ・ https://host:6971/backup.zip

SHA512 チェックサム

ヒント: Web インターフェイスを使用してデバイスにファイルを復元すると、そのファイルの SHA512 チェックサムを確認できます。

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[復元 \(Restore\)\]](#) を選択します。
2. [\[ファイルの選択 \(Choose File\)\]](#) をクリックし、チェックサムを計算するファイルを見つけます。

ページの下部に SHA512 チェックサムが表示されていることが確認できます。

CUCM のドキュメンテーション

▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/tsd-products-support-series-home.html>

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタム要素の TMS プロビジョニング

バックアップファイルは、▶ [「設定とカスタム要素のバックアップ/復元」](#)の章で説明されているとおり、複数のデバイスでカスタマイズテンプレートとして使用できます。

バックアップ ファイルは、デバイスが HTTP または HTTPS で接続可能なカスタム Web サーバー上にホストする必要があります。

デバイスが TMS (TelePresence Management Suite) からバックアップ ファイルの名前と位置に関する情報を取得するときは、デバイスがサーバーに接続してファイルをダウンロードし、カスタム要素を復元します。

構成テンプレートの作成と適用

1. 構成テンプレートを作成します。
2. 次の XML 文字列を含むカスタム コマンドを構成テンプレートに追加します。

```
<Command>  
  <Provisioning>  
    <Service>  
      <Fetch>  
        <URL>web-server-address</URL>  
        <Checksum>checksum</Checksum>  
        <Origin>origin</Origin>  
      </Fetch>  
    </Service>  
  </Provisioning>  
</Command>
```

上記コマンドで、下記のように適用します。

`web-server-address`: バックアップ ファイルへの URI
(例: `http://host/backup.zip`)。

`checksum`: バックアップ ファイルの SHA512 チェックサム。

`origin`: Provisioning *

3. 設定テンプレートのプッシュ先のデバイスを選択し、[\[システムに設定 \(Set on systems\)\]](#) をクリックします。

TMS 構成テンプレートおよびカスタムコマンドの作成方法の詳細については、▶ [『Cisco TMS 管理者ガイド』](#)を参照してください。

SHA512 チェックサム

ヒント: Web インターフェイスを使用してデバイスにファイルを復元すると、そのファイルの SHA512 チェックサムを確認できます。

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#)に移動し、[\[復元 \(Restore\)\]](#)を選択します。
2. [\[ファイルの選択 \(Choose File\)\]](#) をクリックし、チェックサムを計算するファイルを見つけてます。

ページの下部に SHA512 チェックサムが表示されていることが確認できます。

* このパラメータを Provisioning に設定しない場合は、バックアップ ファイルに含まれる設定もデバイスにプッシュされます。特定の 1 台のデバイスに固有の構成 (静的 IP アドレス、システム名、連絡先情報など) がバックアップ ファイルに含まれていると、接続できないデバイスができる可能性があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

以前に使用していたソフトウェアイメージへの復元

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#)に移動し、[\[システムリカバリ \(System Recovery\)\]](#)を選択します。

以前使用していたソフトウェア イメージに切り替える前に、デバイスの ログ ファイル、構成、およびカスタム要素をバックアップすることを推奨します。

ログファイルのバックアップ

1. [\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#) に移動し、[\[システムログ \(System Logs\)\]](#) を選択します。
2. [\[ログのダウンロード \(Download logs\)\]](#) をクリックし、指示に従ってログ ファイルをコンピュータに保存します。

設定とカスタム要素のバックアップ

1. [\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[バックアップ \(Backup\)\]](#) を選択します。
2. [\[ダウンロード \(Download\)\]](#) をクリックし、指示に従ってバックアップバンドルをコンピュータに保存します。

以前に使用していたソフトウェアイメージへの復元

管理者以外、または、Cisco テクニカルサポートの指示のもとで行う場合以外はこの手順を実行しないでください。

1. [\[システムリカバリ \(System Recovery\)\]](#) を選択します。
2. [\[ソフトウェア回復交換 \(Software Recovery Swap\)\]](#) カードを見つけて、[\[ソフトウェアの交換 \(Swap software\)\]](#) をクリックします。
3. [\[Confirm \(確認\)\]](#) をクリックして続行します。または、操作をやめる場合は [\[キャンセル \(Cancel\)\]](#) をクリックします。

デバイスがリセットされるまでお待ちください。完了するとデバイスが自動的に再起動します。この手順は数分かかることがあります。

以前に使用されたソフトウェアイメージについて

デバイスに重大な問題がある場合は、以前使用していたソフトウェア イメージに切り替えることで、問題の解決に役立つ場合があります。

ソフトウェアを最後にアップグレードしてからデバイスを初期設定にリセットしていない場合は、それまで使用していたソフトウェア イメージがデバイスに存在しています。ソフトウェアをダウンロードする必要はありません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (1/5 ページ)

デバイスに重大な問題が発生した場合、最後の手段としてデフォルトの初期設定にリセットすることができます。



初期設定にリセットすると元に戻すことはできません。

工場出荷時の状態にリセットする前に以前使用したソフトウェアイメージに戻すことを常に検討してください。多くの場合、これでデバイスが回復します。ソフトウェアの交換については、[「以前に使用していたソフトウェアイメージへの復元」](#)の章を参照してください。

デバイスを初期設定にリセットする際は、デバイスの Web インターフェイスまたはユーザーインターフェイスを使用することを推奨します。これらのインターフェイスが利用できない場合は、ピンホールからリセットボタンを使用できます。

工場出荷時設定リセットにより、次のような影響が発生します。

- 通話履歴が削除されます。
- パスフレーズがデフォルト設定にリセットされます。
- すべてのデバイス パラメータがデフォルト値にリセットされます。
- デバイスにアップロード済みのファイルがすべて削除されます。これには、カスタム壁紙、ブランディング要素、証明書、お気に入りリストなどが含まれます。
- 以前の (非アクティブな) ソフトウェア イメージが削除されます。
- オプション キーは影響を受けません。

初期設定にリセットした後は、デバイスが自動的に再起動します。これは、リセット前と同じソフトウェアイメージを使用しています。

初期設定へのリセットを実行する前に、デバイスのログファイル、設定、カスタム要素をバックアップすることを推奨します。バックアップしない場合、これらのデータは失われます。

Web インターフェイスを使用した初期設定へのリセット

初期設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#)に移動し、[\[システムリカバリ \(System Recovery\)\]](#)を選択します。

1. [\[初期設定へのリセット \(Factory Reset\)\]](#) カードを見つけ、表示される情報を注意深く読みます。
2. [\[工場出荷時の初期状態へのリセット \(Reset to Factory Defaults\)\]](#) をクリックします。
3. [\[初期設定へのリセット \(Factory Reset\)\]](#) をクリックして選択内容を確認します。または、操作をやめる場合は [\[キャンセル \(Cancel\)\]](#) をクリックします。
4. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。

デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップ アシスタントが起動し、[ようこそ (Welcome)] 画面が表示されます。

ログファイルのバックアップ

1. [\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#) に移動し、[\[システムログ \(System Logs\)\]](#) を選択します。
2. [\[ログのダウンロード \(Download logs\)\]](#) をクリックし、指示に従ってログ ファイルをコンピュータに保存します。

設定とカスタム要素のバックアップ

1. [\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) に移動し、[\[バックアップ \(Backup\)\]](#) を選択します。
2. [\[ダウンロード \(Download\)\]](#) をクリックし、指示に従ってバックアップバンドルをコンピュータに保存します。

ユーザーインターフェイスからの初期設定へのリセット

初期設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。
2. [\[初期設定へのリセット \(Factory Reset\)\]](#) を選択します。
3. [\[リセット \(Reset\)\]](#) を選択して確定します。または、操作をやめる場合は [\[キャンセル \(Cancel\)\]](#) を選択します。
4. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。

デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップ アシスタントが起動し、[ようこそ (Welcome)] 画面が表示されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (2/5 ページ)

ピンホールのリセットボタンを使用して初期設定にリセットする

初期設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

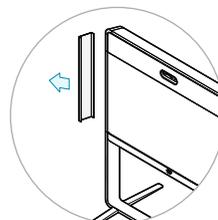
1. ピンホールにペーパークリップ (または類似のもの) を挿入します。画面が黒くなるまでリセットボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
2. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。

デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップアシスタントが起動し、[ようこそ (Welcome)] 画面が表示されます。

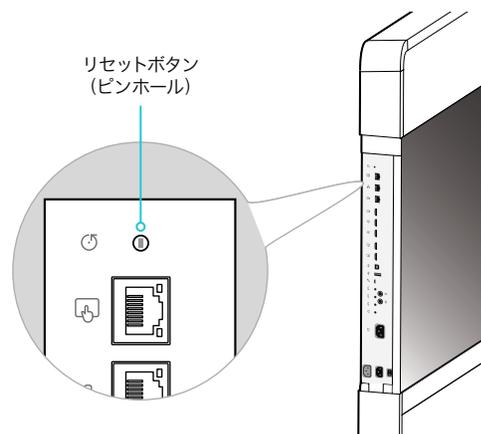
 図を参照して、さまざまな製品の引っ込んでいるリセットボタンを確認してください。

ボタンは使用がかなり難しい場合があります。ボタンを押すと、ボタンが下がる感覚がわかります。

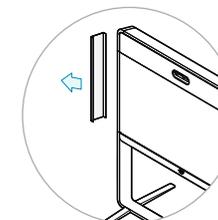
Room 55 Dual および Room 70



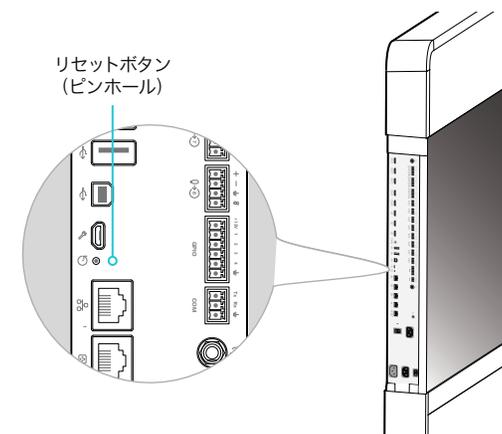
デバイスの左側のカバーを取り外して、コーデックコネクタパネルにアクセスします。カバーはマグネットで留められています。



Room 70 G2 および Room 70 Panorama

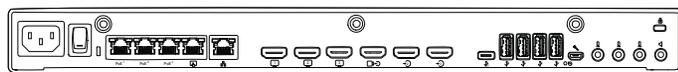


デバイスの左側のカバーを取り外して、コーデックコネクタパネルにアクセスします。カバーはマグネットで留められています。



ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (3/5 ページ)

Codec EQ



リセットボタン
(ピンホール)

Codec Plus

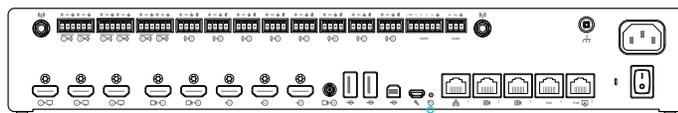


リセットボタン
(ピンホール)

Codec Pro および Room Panorama

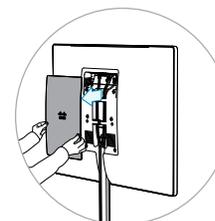
Room Panorama の場合:

- デコグリの下部にある持ち手を使用して、左側の画面を引き下げてコーデックにアクセスします。

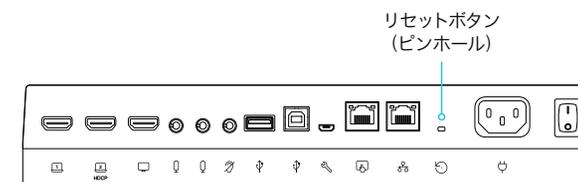


リセットボタン (ピンホール)

Room 55



コネクタ パネルを利用するには、背面カバーを取り外します。



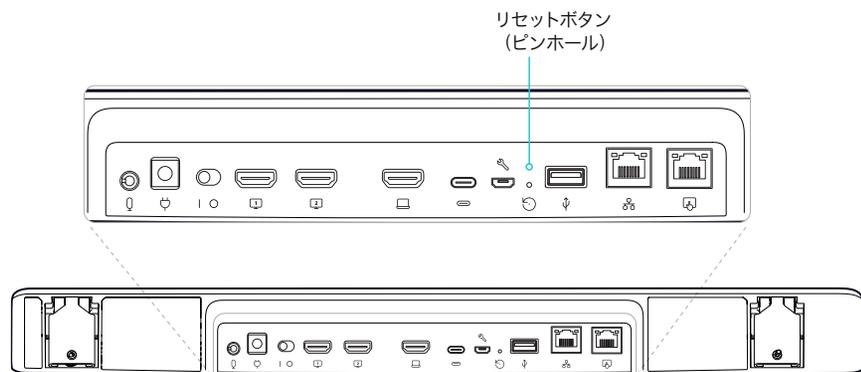
リセットボタン
(ピンホール)

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (4/5 ページ)

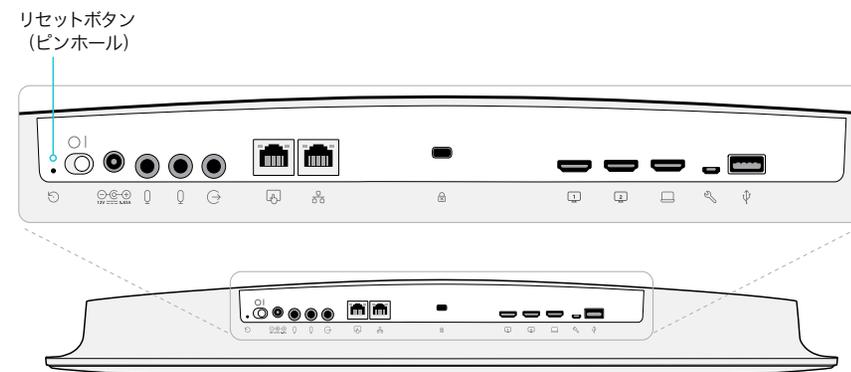
Room Bar

ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。

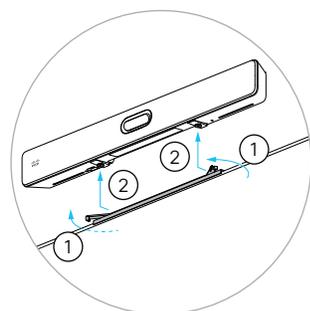


Room Kit

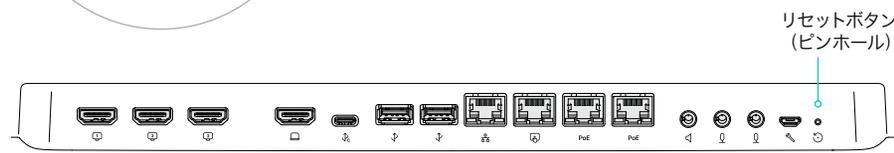
ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。



Room Bar Pro

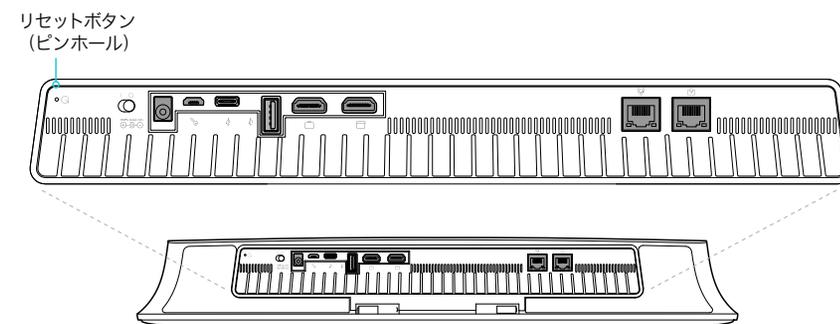


まず、取り付けバーの両側にあるロックハンドルを引いて、デバイスのロックを解除します (1)。次に、デバイスをゆっくりと手前に引き、取り付けバー (2) から持ち上げて、コネクタパネルにアクセスできるようにします。



Room Kit Mini

ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

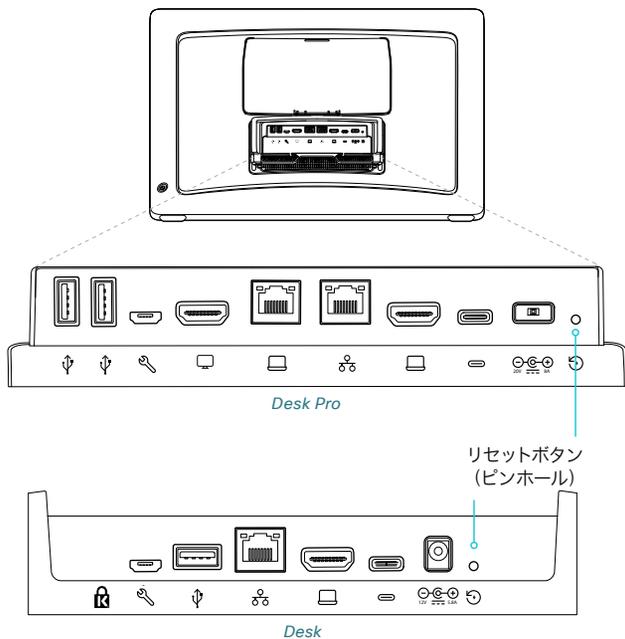
Room 70
Panorama

Room
Panorama

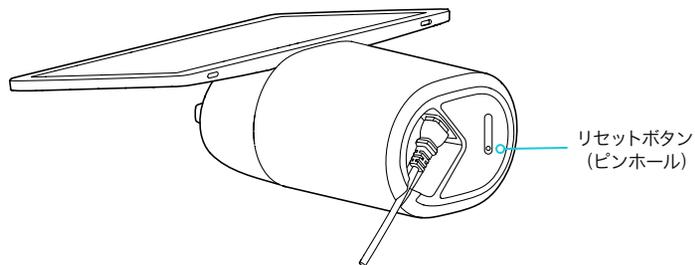
ビデオ会議デバイスの初期設定へのリセット (5/5 ページ)

Desk および Desk Pro

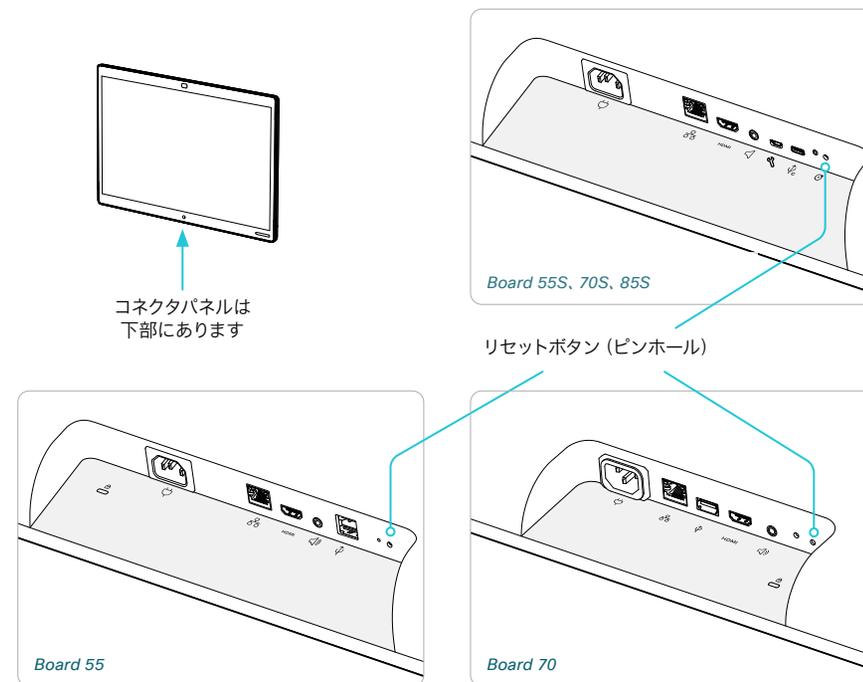
デバイスの背面のカバーをひっくり返して、コネクタパネルにアクセスします。



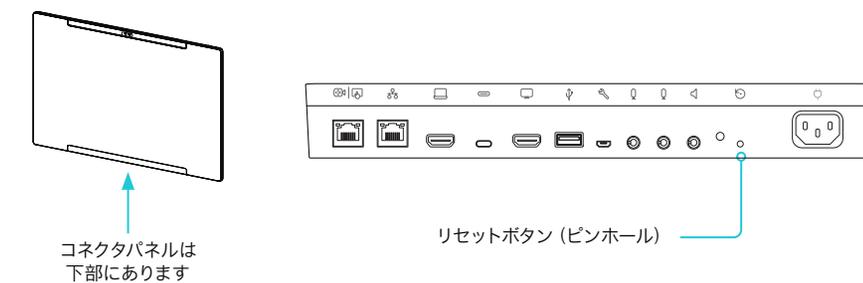
Desk Mini



Board



Board Pro



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Webex Room Navigator の初期設定へのリセット

エラー状態で、接続を再確立するためにタッチコントローラを工場出荷時設定にリセットすることが必要になる場合があります。

タッチコントローラを初期設定にリセットすると、ペアリング情報が失われ、(ビデオ会議デバイスではなく) タッチコントローラ自体がデフォルトの初期設定に戻ります。

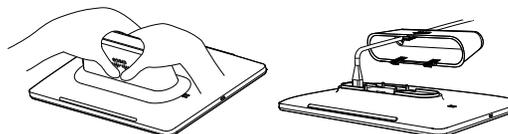


初期設定にリセットすると元に戻すことはできません。

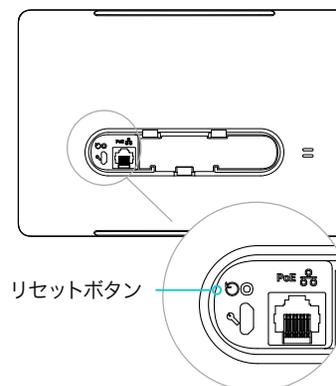
1. 脚を取り外して、コネクタパネルのリセットボタン (ピンホール) を見つけます。
2. ペーパークリップ (または同等のもの) を使用して、画面が黒くなるまでリセットボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
3. Room Navigator がデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了すると、Room Navigator が自動的に再起動します。数分かかることがあります。

Room Navigator がビデオ会議デバイスに直接接続されている場合、そのデバイスから新しい設定が自動的に受信されます。

Room Navigator が LAN 経由で接続されている場合は、改めてビデオ会議デバイスとペアリングする必要があります。ペアリングが成功すると、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。



しっかりと押し回して回転させ、テーブルスタンドを取り外します。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Touch 10 の初期設定へのリセット

エラー状態で、接続を再確立するためにタッチコントローラを工場出荷時設定にリセットすることが必要になる場合があります。

Cisco Touch 10

1. 背面の小さなカバーを開き、リセットボタンを見つけます。
2. 前面のミュートボタンが点滅し始めるまでリセットボタンを押し続けます (約 5 秒間)。その後、ボタンを離します。

Touch 10 が工場出荷時設定へと自動的に戻され、再起動されます。

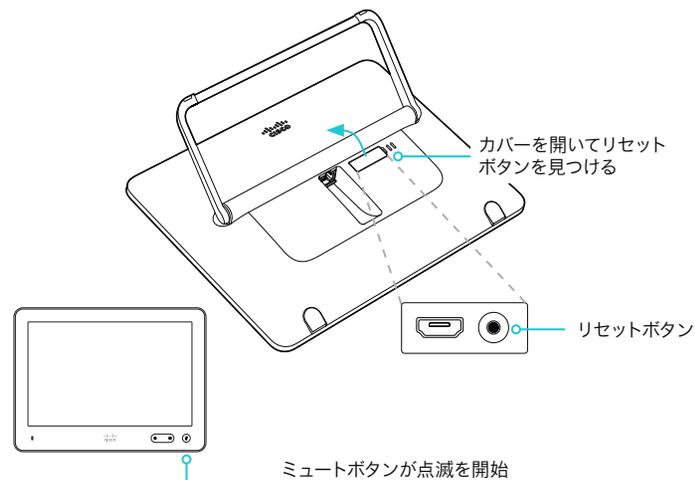
Touch 10 がビデオ会議デバイスに直接接続されている場合は、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。

Touch 10 が LAN 経由で接続されている場合は、改めてビデオ会議デバイスとペアリングする必要があります。ペアリングが成功すると、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。

タッチコントローラを初期設定にリセットすると、ペアリング情報が失われ、(ビデオ会議デバイスではなく) タッチコントローラ自体がデフォルトの初期設定に戻ります。



初期設定にリセットすると元に戻すことはできません。



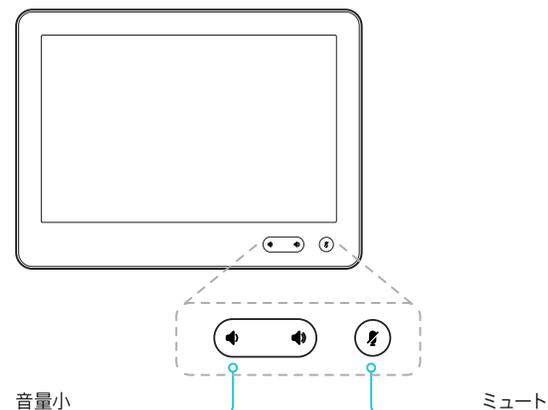
Cisco TelePresence Touch 10

1. **ミュート**および**音量小**ボタンを見つけます。
2. (赤と緑が)点滅しはじめるまで、**ミュート**ボタンを押します。約 10 秒かかります。
3. 音量小ボタンを 2 回押します。

Touch 10 が工場出荷時設定へと自動的に戻され、再起動されます。

Touch 10 がビデオ会議デバイスに直接接続されている場合は、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。

Touch 10 が LAN 経由で接続されている場合は、改めてビデオ会議デバイスとペアリングする必要があります。ペアリングが成功すると、デバイスから新しい設定を自動的に受信します。



2 つの Touch 10 バージョン

Touch 10 には 2 つのバージョンがあります。どちらも同様の外観で、同じ機能を備えています。

- *Cisco TelePresence Touch 10*: これは最初のバージョンです。前面にロゴはありません。
- *Cisco Touch 10*: このバージョンは 2017 年後半に発売されました。前面のロゴと、背面のコネクタが少ないことによって識別できます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Natural Audio Module IV の初期設定へのリセット

エラーが発生した場合、増幅器を初期設定にリセットする必要がある場合があります。



初期設定にリセットすると元に戻すことはできません。

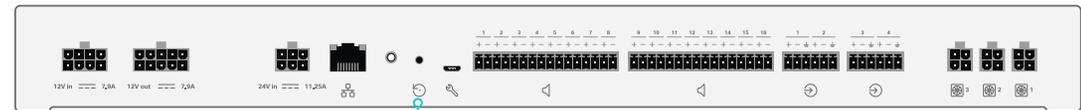
初期設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

1. ピンホールにペーパークリップ (または類似のもの) を挿入します。画面が黒くなるまでリセットボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
2. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。
デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップアシスタントが起動し、[ようこそ (Welcome)] 画面が表示されます。



ボタンは使用がかなり難しい場合があります。ボタンを押すと、ボタンが動く感覚がわかります。

アンプ: Cisco Natural Audio Module IV



リセットボタン (ピンホール)

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Table Microphone Pro の初期設定へのリセット

注: Cisco Microphone Array と同じです。

エラーが発生した場合、マイクを初期設定にリセットする必要がある場合があります。



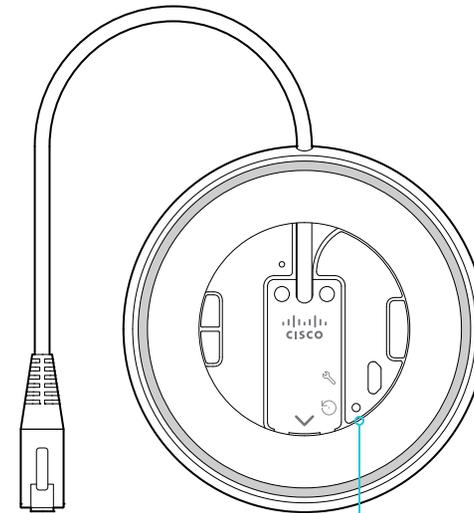
初期設定にリセットすると元に戻すことはできません。

初期設定へのリセットを続行する前に、デバイスのログ ファイルと設定をバックアップすることを推奨します。

1. ピンホールにペーパークリップ (または類似のもの) を挿入します。画面が黒くなるまでリセットボタンを押し続けます (約 10 秒)。その後、ボタンを離します。
2. デバイスがデフォルトの初期設定に戻るまで待ちます。完了するとデバイスが自動的に再起動します。数分かかることがあります。デバイスが正常に初期設定にリセットされると、セットアップアシスタントが起動し、[ようこそ (Welcome)] 画面が表示されます。



ボタンは使用がかなり難しい場合があります。ボタンを押すと、ボタンが動く感覚がわかります。



リセットボタン (ピンホール)

ユーザーインターフェイスのスクリーンショットをキャプチャする

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[問題と診断 \(Issues and Diagnostics\)\]](#)に移動し、[\[ユーザーインターフェイスのスクリーンショット \(User Interface Screenshots\)\]](#)を選択します。

スクリーンショットのキャプチャ

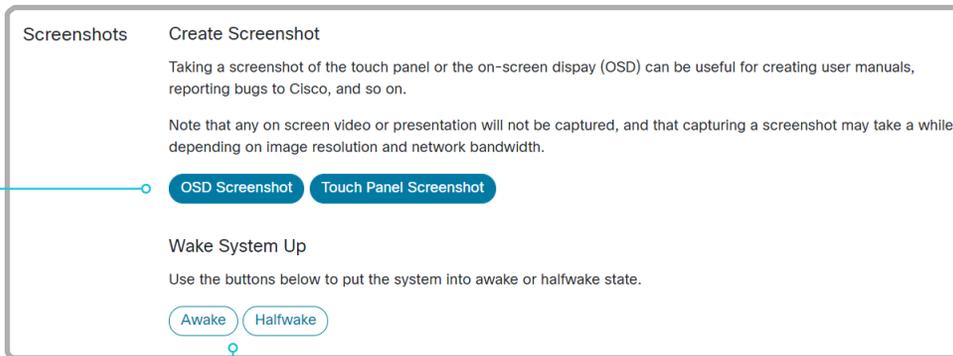
タッチコントローラのスクリーンショットをキャプチャするには、[\[タッチパネルのスクリーンショット \(Touch Panel Screenshot\)\]](#)をクリックします。メイン画面 (オンスクリーンディスプレイ) のスクリーンショットをキャプチャするには、[\[OSD のスクリーンショット \(OSD screenshot\)\]](#)をクリックします。

スクリーンショットは[\[現在のスクリーンショット \(Current Screenshots\)\]](#)カードの下に表示されます。スクリーンショットの準備ができるまで最大 30 秒かかる場合があります。

キャプチャされたスクリーンショットはすべて、[\[現在のスクリーンショット \(Current Screenshots\)\]](#)カードに一覧表示されます。イメージを表示するには、スクリーンショット ID をクリックします。

デバイスの復帰

スタンバイからデバイスを復帰するには、次のボタンを使用します。



Current Screenshots	Screenshot ID	Type	Annotation
	Web_2020-10-07 T12:55:55.648Z	Touchpanel	✕
	Web_2020-10-07 T12:58:04.744Z	OSD	✕

Remove All

スクリーンショットを削除する

すべてのスクリーンショットを削除する場合は、[\[すべて削除 \(Remove All\)\]](#)をクリックします。

1 つのスクリーンショットのみを削除するには、そのスクリーンショットの **✕** ボタンをクリックします。

ユーザーインターフェイスのスクリーンショットについて

ビデオ会議デバイスに接続されているタッチコントローラのスクリーンショットや、メニュー、インジケータ、メッセージを含むメイン画面 (オンスクリーンディスプレイまたは OSD と呼ばれる) のスクリーンショットをキャプチャできます。

Desk, Desk Mini, Desk Pro の場合:

- OSD のスクリーンショットのみ使用できます。

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

D15503.02
RoomOS
11.5
07-2023

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 5 章

デバイスの設定

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイス設定の概要

次のページでは、デバイス設定の完全なリストを確認できます。これらは、デバイスの Web インターフェイスから設定できます。

Web ブラウザを開き、デバイスの IP アドレスを入力してサインインします。[設定 (Settings)] に移動し、[設定 (Configurations)] を選択します。

IP アドレスの確認方法

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[デバイス設定 (Device settings)] を選択します。
2. [このルームデバイスについて (About this room device)] を選択します。

アプリ設定	165
Apps WallpaperBundles HalfwakeImage	165
Audio 設定.....	166
Audio DefaultVolume.....	166
Audio Input ARC [n] Mode.....	166
Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Gain.....	167
Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Level.....	167
Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Mode.....	167
Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Pan	167
Audio Input Ethernet [n] EchoControl Mode	168
Audio Input Ethernet [n] EchoControl NoiseReduction	168
Audio Input Ethernet [n] Equalizer ID	168
Audio Input Ethernet [n] Equalizer Mode	168
Audio Input Ethernet [n] Mode.....	169
Audio Input HDMI [n] Gain	169
Audio Input HDMI [n] Level	169
Audio Input HDMI [n] Mode	169
Audio Input HDMI [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo	170
Audio Input MicrophoneMode.....	175
Audio Input Microphone [n] Channel.....	170
Audio Input Microphone [n] EchoControl Dereverberation.....	171
Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode	170
Audio Input Microphone [n] EchoControl NoiseReduction	171
Audio Input Microphone [n] Equalizer ID	171
Audio Input Microphone [n] Equalizer Mode.....	172
Audio Input Microphone [n] Gain	173
Audio Input Microphone [n] Level.....	172
Audio Input Microphone [n] Mode.....	173
Audio Input Microphone [n] MuteOverride	173
Audio Input Microphone [n] Pan	174
Audio Input Microphone [n] PhantomPower.....	174
Audio Input Microphone [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo	174
Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource.....	174
Audio Input USBC [n] Gain	175
Audio Input USBC [n] Level	175
Audio Input USBC [n] Mode	175
Audio Input USBC [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo	176
Audio Input USBInterface [n] EchoControl Mode	176
Audio Input USBInterface [n] Gain.....	176
Audio Input USBInterface [n] Level.....	176
Audio Input USBInterface [n] Mode.....	177

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Audio Input USBMicrophone [n] EchoControl Mode	177
Audio Input USBMicrophone [n] Gain	177
Audio Input USBMicrophone [n] Level	177
Audio Input WebView [n] Mode	178
Audio Microphones AGC	178
Audio Microphones HdmiPassthrough MuteButton	178
Audio Microphones Mute Enabled	179
Audio Microphones NoiseRemoval Mode	179
Audio Microphones PhantomPower	179
Audio Microphones UsbPassthrough MuteButton	180
Audio Output ARC [n] Delay DelayMs	180
Audio Output ARC [n] Delay Mode	180
Audio Output ARC [n] Mode	180
Audio Output ConnectorSetup	181
Audio Output Ethernet [n] Mode	181
Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs	182
Audio Output HDMI [n] Delay Mode	182
Audio Output HDMI [n] Gain	182
Audio Output HDMI [n] Level	182
Audio Output HDMI [n] Mode	183
Audio Output InternalSpeaker Mode	183
Audio Output Line [n] Channel	183
Audio Output Line [n] Delay DelayMs	184
Audio Output Line [n] Delay Mode	184
Audio Output Line [n] Equalizer ID	184
Audio Output Line [n] Equalizer Mode	184
Audio Output Line [n] Gain	185
Audio Output Line [n] Level	185
Audio Output Line [n] Mode	185
Audio Output Line [n] OutputType	186
Audio Output USBC [n] Mode	186
Audio Output USBInterface [n] Mode	186
Audio Panning HeadsetAnalog BinauralProcessing	187
Audio Panning HeadsetAnalog Mode	187
Audio Panning HeadsetUSB BinauralProcessing	187
Audio Panning HeadsetUSB Mode	188
Audio Panning Mode	187
Audio Placement	188
Audio SoundsAndAlerts RingTone	188
Audio SoundsAndAlerts RingVolume	188
Audio Ultrasound MaxVolume	189

Audio Ultrasound Mode	188
Audio Ultrasound Ru1Protocol	189
Audio Ultrasound RzssProtocol	189
オーディオ USB モード	190
Bluetooth 設定	190
Bluetooth Allowed	190
Bluetooth Enabled	190
Bookings 設定	191
Bookings ProtocolPriority	191
BYOD 設定	191
BYOD HidForwarding Enabled	191
BYOD QRCodePairing	191
BYOD TouchForwarding Enabled	192
BYOD USBCXapi	192
CallHistory 設定	192
CallHistory Mode	192
CallHistory Recents DisplayName	192
Cameras 設定	193
Cameras Background Enabled	193
Cameras Background UserImagesAllowed	193
Cameras Camera ColorSaturation Level	199
Cameras Camera ExposureCompensation Level	200
Cameras Camera Framerate	200
Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber	193
Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode	194
Cameras Camera [n] Brightness Algorithm	194
Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel	194
Cameras Camera [n] Brightness Mode	195
Cameras Camera [n] Flip	196
Cameras Camera [n] Focus Mode	197
Cameras Camera [n] Gamma Level	197
Cameras Camera [n] Gamma Mode	198
Cameras Camera [n] IrCutFilter Mode	195
Cameras Camera [n] IrCutFilter Threshold	196
Cameras Camera [n] Mirror	198
Cameras Camera [n] VideoFormat	199
Cameras Camera [n] Whitebalance Level	199
Cameras Camera [n] Whitebalance Mode	199
Cameras PowerLine Frequency	200

Board

Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan.....	200
Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt.....	201
Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom	201
Cameras PresenterTrack Connector	201
Cameras PresenterTrack Enabled	201
Cameras PresenterTrack PresenterDetectedStatus.....	201
Cameras PresenterTrack TriggerZone.....	202
Cameras SpeakerTrack Closeup	204
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft	205
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight	205
Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection Mode.....	205
Cameras SpeakerTrack DefaultBehavior	202
Cameras SpeakerTrack Frames Mode	203
Cameras SpeakerTrack HeadDetectorRange.....	203
Cameras SpeakerTrack Mode	204
Cameras SpeakerTrack TrackingMode.....	204
Cameras SpeakerTrack Whiteboard Mode	205
Cameras SpeakerTrack ZoomRange.....	203

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, DeskPro, DeskMini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

Conference 設定	206
Conference ActiveControl Mode	206
Conference AutoAnswer Delay	206
Conference AutoAnswer Mode.....	206
Conference AutoAnswer Mute.....	206
Conference CallProtocolIPStack.....	206
Conference CapsetFilter	207
Conference DefaultCall Protocol.....	207
Conference DefaultCall Rate.....	207
Conference DefaultCall Webex Rate.....	207
Conference DoNotDisturb DefaultTimeout.....	208
Conference EmbeddedApp NotificationsOnly	208
Conference Encryption Mode	208
Conference EndToEndEncryption Identity PreferredDomain	208
Conference EndToEndEncryption Mode	209
Conference FarEndControl Mode	209
Conference FarEndControl SignalCapability.....	209
Conference FarendMessage Mode.....	209
Conference HideNonVideo OnCall Mode.....	210
Conference IncomingMultisiteCall Mode	212
Conference JoinLeaveNotifications	210
Conference MaxMultisiteReceiveRate	211
Conference MaxMultisiteTransmitRate.....	211

Conference MaxReceiveCallRate.....	210
Conference MaxTransmitCallRate	210
Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode	211
Conference Multipoint Mode.....	212
Conference MultiStream Mode	212
Conference PeopleFocus OnCall Mode.....	213
Conference Presentation OnPlacedOnHold.....	213
Conference Presentation RelayQuality	213

FacilityService 設定	214
FacilityService Service [n] CallType	214
FacilityService Service [n] Name	214
FacilityService Service [n] Number	214
FacilityService Service [n] Type	214

ファイル設定	215
Files Services OneDrive TemporaryPersonalSignIn.....	215
GPIO 設定	215
GPIO Pin [n] Mode	215

H323 設定	216
H323 Authentication LoginName	216
H323 Authentication Mode	216
H323 Authentication Password.....	216
H323 CallSetup Mode	216
H323 Encryption AES256Support.....	217
H323 Encryption KeySize	217
H323 Gatekeeper Address.....	217
H323 H323Alias E164	217
H323 H323Alias ID	217
H323 NAT Address	218
H323 NAT Mode.....	218
H323 PortAllocation.....	218

HttpClient 設定	219
HttpClient AllowHTTP	219
HttpClient AllowInsecureHTTPS	219
HttpClient Mode.....	219
HttpClient UseHttpProxy.....	219

HTTP フィードバック設定	220
HttpFeedback TlsVerify.....	220
HttpFeedback UseHttpProxy	220

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Logging 設定	221
Logging CloudUpload Mode	221
Logging Debug Bluetooth	221
Logging Debug Wifi.....	221
Logging External Mode	221
Logging External Protocol.....	222
Logging External Server Address	222
Logging External Server Port.....	222
Logging External TlsVerify.....	222
Logging Internal Mode	222
Logging Mode	223
Macros 設定	223
Macros AutoStart	223
Macros Diagnostics JavascriptErrors.....	224
Macros Mode	223
Macros QuickJSEngine	224
Macros UnresponsiveTimeout.....	224
Network 設定	224
Network [n] DNS DNSSEC Mode	224
Network [n] DNS Domain Name	224
Network [n] DNS Server [m] Address.....	225
Network [n] IEEE8021X AnonymousIdentity	226
Network [n] IEEE8021X Eap Md5	226
Network [n] IEEE8021X Eap Peap.....	227
Network [n] IEEE8021X Eap Tls	227
Network [n] IEEE8021X Eap Ttls	227
Network [n] IEEE8021X Identity	226
Network [n] IEEE8021X Mode.....	225
Network [n] IEEE8021X Password	226
Network [n] IEEE8021X TlsVerify	225
Network [n] IEEE8021X UseClientCertificate	225
Network [n] IPStack.....	227
Network [n] IPv4 Address.....	228
Network [n] IPv4 Assignment.....	228
Network [n] IPv4 Gateway.....	228
Network [n] IPv4 InterfacelIdentifier.....	228
Network [n] IPv4 SubnetMask	229
Network [n] IPv6 Address.....	229
Network [n] IPv6 Assignment.....	229
Network [n] IPv6 DHCPOptions.....	230

Network [n] IPv6 Gateway	229
Network [n] IPv6 InterfacelIdentifier.....	230
Network [n] MTU	230
Network [n] QoS Diffserv Audio	231
Network [n] QoS Diffserv Data	231
Network [n] QoS Diffserv ICMPv6.....	232
Network [n] QoS Diffserv NTP.....	232
Network [n] QoS Diffserv Signalling	231
Network [n] QoS Diffserv Video	231
Network [n] QoS Mode.....	230
Network [n] RemoteAccess Allow	232
Network [n] Speed	232
Network [n] TrafficControl Mode	233
Network [n] VLAN Voice Mode.....	233
Network [n] VLAN Voice VlanId.....	233
NetworkServices 設定	234
NetworkServices CDP Mode	234
NetworkServices H323 Mode	234
NetworkServices HTTP Mode.....	234
NetworkServices HTTP Proxy LoginName.....	234
NetworkServices HTTP Proxy Mode.....	235
NetworkServices HTTP Proxy PACUrl	235
NetworkServices HTTP Proxy Password	235
NetworkServices HTTP Proxy Url	235
NetworkServices HTTPS OCSP Mode.....	235
NetworkServices HTTPS OCSP URL	236
NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion	236
NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity.....	236
NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate	236
NetworkServices NTP Mode.....	236
NetworkServices NTP Server [n] Address	237
NetworkServices NTP Server [n] Key.....	237
NetworkServices NTP Server [n] KeyAlgorithm	237
NetworkServices NTP Server [n] KeyId.....	237
NetworkServices SIP Mode	238
NetworkServices SMTP From	239
NetworkServices SMTP Mode	238
NetworkServices SMTP Password	239
NetworkServices SMTP Port	238
NetworkServices SMTP Security.....	239
NetworkServices SMTP Server.....	238

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

NetworkServices SMTP Username.....	239
NetworkServices SNMP CommunityName.....	239
NetworkServices SNMP Mode.....	240
NetworkServices SNMP SystemContact.....	240
NetworkServices SNMP SystemLocation.....	240
NetworkServices SSH HostKeyAlgorithm.....	240
NetworkServices SSH Mode.....	240
NetworkServices UPnP Mode.....	241
NetworkServices UPnP Timeout.....	241
NetworkServices Websocket.....	241
NetworkServices WelcomeText.....	241
NetworkServices Wifi Allowed.....	242
NetworkServices Wifi Enabled.....	242
NetworkServices Wifi Settings A_MPDU.....	242
NetworkServices Wifi Settings FrequencyBand.....	242
NetworkServices XMLAPI Mode.....	243
Peripherals 設定.....	243
Peripherals ActivePen Enabled.....	243
Peripherals InputDevice Mode.....	243
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels EmcResilience.....	244
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels HttpProxy.....	244
Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing.....	244
Peripherals Profile Cameras.....	244
Peripherals Profile Cameras.....	245
Peripherals Profile ControlSystems.....	245
Peripherals Profile NetworkSwitches.....	245
Peripherals Profile TouchPanels.....	245
Phonebook の設定.....	246
Phonebook Server [n] ID.....	246
Phonebook Server [n] Pagination.....	246
Phonebook Server [n] TlsVerify.....	246
Phonebook Server [n] Type.....	247
Phonebook Server [n] URL.....	247
Provisioning 設定.....	247
Provisioning Connectivity.....	247
Provisioning CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics.....	247
Provisioning ExternalManager Address.....	248
Provisioning ExternalManager AlternateAddress.....	248
Provisioning ExternalManager Domain.....	248
Provisioning ExternalManager Path.....	248

Provisioning ExternalManager Protocol.....	248
Provisioning LoginName.....	249
Provisioning Mode.....	249
Provisioning Password.....	249
Provisioning TlsVerify.....	249
Provisioning WebexEdge.....	250
Proximity 設定.....	250
Proximity AlternatePort Enabled.....	250
Proximity Mode.....	251
Proximity Services CallControl.....	251
Proximity Services ContentShare FromClients.....	251
Proximity Services ContentShare ToClients.....	251
RoomAnalytics 設定.....	252
RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Interval.....	252
RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Mode.....	252
RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall.....	252
RoomAnalytics PeoplePresenceDetector.....	252
RoomAnalytics PeoplePresence Input HeadDetector.....	253
RoomAnalytics PeoplePresence Input Ultrasound.....	253
RoomAnalytics ReverberationTime Interval.....	253
RoomAnalytics ReverberationTime Mode.....	253
RoomAnalytics T3AlarmDetection Mode.....	254
RoomAnalytics T3AlarmDetection Timeout.....	254
RoomCleanup 設定.....	254
RoomCleanup AutoRun ContentType TemporaryAccounts.....	254
RoomCleanup AutoRun ContentType WebData.....	254
RoomCleanup AutoRun ContentType Whiteboards.....	255
RoomCleanup AutoRun HourOfDay.....	255
RoomReset 設定.....	255
RoomReset Control.....	255
RoomScheduler 設定.....	256
RoomScheduler BookingTimeout.....	256
RoomScheduler Enabled.....	256
RTP 設定.....	256
RTP Ports Range Start.....	256
RTP Ports Range Stop.....	257
RTP Video Ports Range Start.....	257
RTP Video Ports Range Stop.....	257

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

Security 設定	258
Security Audit Logging Mode	258
Security Audit OnError Action	258
Security Audit Server Address	258
Security Audit Server Port	259
Security Audit Server Port Assignment	259
Security Fips Mode	259
Security Session FailedLoginsLockoutTime	259
Security Session InactivityTimeout	260
Security Session MaxFailedLogins	260
Security Session MaxSessionsPerUser	260
Security Session MaxTotalSessions	260
Security Session ShowLastLogon	260
Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed	261
SerialPort 設定	261
SerialPort BaudRate	261
SerialPort LoginRequired	262
SerialPort Mode	261
SIP 設定	262
SIP ANAT	262
SIP Authentication Password	262
SIP Authentication UserName	262
SIP DefaultTransport	263
SIP DisplayName	263
SIP Ice DefaultCandidate	263
SIP Ice Mode	263
SIP Line	264
SIP ListenPort	264
SIP Mailbox	264
SIP MinimumTLSVersion	264
SIP PreferredIPSignaling	265
SIP Proxy [n] Address	265
SIP TlsVerify	265
SIP Turn Password	266
SIP Turn Server	265
SIP Turn UserName	266
SIP Type	266
SIP URI	266

Standby 設定	267
Standby BootAction	267
Standby Control	267
Standby Delay	267
Standby Halfwake Mode	268
Standby Level Networked Delay	267
Standby Level Networked Mode	268
Standby Signage Audio	268
Standby Signage InteractionMode	268
Standby Signage Mode	269
Standby Signage RefreshInterval	269
Standby Signage Url	269
Standby StandbyAction	269
Standby WakeupAction	270
Standby WakeupAtMeetingStart	270
Standby WakeupOnMotionDetection	270
SystemUnit 設定	271
SystemUnit BroadcastName	271
SystemUnit CrashReporting Advanced	271
SystemUnit CrashReporting Mode	271
SystemUnit CrashReporting URL	272
SystemUnit CustomDeviceId	272
SystemUnit Name	271
SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Mode	272
SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Url	272
Time 設定	273
Time DateFormat	273
Time OfficeHours Enabled	275
Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby AutoWakeup	275
Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby Delay	275
Time OfficeHours WorkDay End	275
Time OfficeHours WorkDay Start	275
Time OfficeHours WorkWeek Friday	276
Time OfficeHours WorkWeek Monday	276
Time OfficeHours WorkWeek Saturday	276
Time OfficeHours WorkWeek Sunday	277
Time OfficeHours WorkWeek Thursday	276
Time OfficeHours WorkWeek Tuesday	276
Time OfficeHours WorkWeek Wednesday	276

Board

Time TimeFormat	273
Time Zone	273

Board Pro

UserInteraction 設定	277
UserInteraction RaiseHand CMS	277

Codec EQ

UserInterface ス設定	278
--------------------------------	------------

Codec Plus

UserInterface Accessibility IncomingCallNotification	278
--	-----

Codec Pro

UserInterface Assistant Mode	278
------------------------------------	-----

Desk, DeskPro, DeskMini

UserInterface Assistant ProactiveMeetingJoin	278
--	-----

Room Bar Pro, Room Bar

UserInterface Bookings Visibility EarlyJoin	278
---	-----

Room Kit

UserInterface Bookings Visibility JoinedParticipants Avatars	279
--	-----

Room Kit Mini

UserInterface Bookings Visibility MeetingReminder	279
---	-----

Room 55

UserInterface Bookings Visibility Organizer	279
---	-----

Room 55 Dual, Room 70

UserInterface Bookings Visibility TentativeMeetings	279
---	-----

Room 70 G2

UserInterface Bookings Visibility Title	279
---	-----

Room 70 Panorama

UserInterface Branding AwakeBranding Colors	279
---	-----

Room Panorama

UserInterface ContactInfo Type	280
--------------------------------------	-----

UserInterface CustomMessage	280
-----------------------------------	-----

UserInterface CustomWallpaperOverlay	280
--	-----

UserInterface Diagnostics Notifications	280
---	-----

UserInterface Features Call CameraControls	280
--	-----

UserInterface Features Call End	281
---------------------------------------	-----

UserInterface Features Call HdmiPassthrough	281
---	-----

UserInterface Features Call JoinGoogleMeet	281
--	-----

UserInterface Features Call JoinWebex	282
---	-----

UserInterface Features Call JoinZoom	281
--	-----

UserInterface Features Call Keypad	282
--	-----

UserInterface Features Call LayoutControls	282
--	-----

UserInterface Features Call MidCallControls	282
---	-----

UserInterface Features Call MusicMode	282
---	-----

UserInterface Features Call ParticipantList	282
---	-----

UserInterface Features Call SelfviewControls	283
--	-----

UserInterface Features Call Start	283
---	-----

UserInterface Features Call VideoMute	283
---	-----

UserInterface Features Call Webcam	283
--	-----

UserInterface Features Files Start	283
--	-----

UserInterface Features HideAll	283
--------------------------------------	-----

UserInterface Features Share Start	284
--	-----

UserInterface Features Whiteboard Start	284
---	-----

UserInterface Help Tips	284
-------------------------------	-----

UserInterface HomeScreen Dashboard	284
--	-----

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL	285
---	-----

UserInterface KeyTones Mode	285
-----------------------------------	-----

UserInterface Kiosk Mode	285
--------------------------------	-----

UserInterface Kiosk URL	285
-------------------------------	-----

UserInterface Language	286
------------------------------	-----

UserInterface LedControl Mode	286
-------------------------------------	-----

UserInterface MuteWarning	286
---------------------------------	-----

UserInterface NameAndSiteLabels Mode	286
--	-----

UserInterface OSD EncryptionIndicator	287
---	-----

UserInterface OSD HalfwakeMessage	287
---	-----

UserInterface OSD Mode	287
------------------------------	-----

UserInterface OSD Output	288
--------------------------------	-----

UserInterface Phonebook DefaultSearchFilter	288
---	-----

UserInterface Phonebook Mode	288
------------------------------------	-----

UserInterface Proximity Notifications	289
---	-----

UserInterface RoomScheduler AmbientTemperature Show	289
---	-----

UserInterface RoomScheduler PeopleCount Current	289
---	-----

UserInterface RoomScheduler StatusWhenInUse	289
---	-----

UserInterface RoomStatusMenu Visibility	290
---	-----

UserInterface Security Mode	290
-----------------------------------	-----

UserInterface SettingsMenu Mode	290
---------------------------------------	-----

UserInterface SettingsMenu Visibility	290
---	-----

UserInterface SoundEffects Mode	291
---------------------------------------	-----

UserInterface Theme Name	291
--------------------------------	-----

UserInterface UsbPromotion	291
----------------------------------	-----

UserInterface Wallpaper	291
-------------------------------	-----

UserInterface WebcamOnlyMode	291
------------------------------------	-----

UserInterface Whiteboard ActivityIndicators	292
---	-----

UserInterface Whiteboard DefaultTheme	292
---	-----

UserManagement 設定	292
--------------------------------	------------

UserManagement LDAP Admin Filter	292
--	-----

UserManagement LDAP Admin Group	292
---------------------------------------	-----

UserManagement LDAP Attribute	293
-------------------------------------	-----

UserManagement LDAP BaseDN	293
----------------------------------	-----

UserManagement LDAP Encryption	293
--------------------------------------	-----

UserManagement LDAP MinimumTLSVersion	293
---	-----

UserManagement LDAP Mode	294
--------------------------------	-----

UserManagement LDAP Server Address	294
--	-----

UserManagement LDAP Server Port	294
---------------------------------------	-----

UserManagement LDAP VerifyServerCertificate	294
---	-----

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits	295
--	-----

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLength.....	295
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase	295
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial	295
UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumUppercase	296
UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime	296
UserManagement PasswordPolicy ReuseLimit.....	296
Video 設定	297
Video ActiveSpeaker DefaultPIPPosition	297
Video DefaultLayoutFamily Local	297
Video DefaultLayoutFamily LocalContent.....	298
Video DefaultLayoutFamily Remote	298
Video DefaultMainSource.....	299
Video Input AirPlay Beacon.....	299
Video Input AirPlay DiscoveryInstructions NetworkName	299
Video Input AirPlay DiscoveryInstructions ShowNetworkInfo	299
Video Input AirPlay Mode.....	300
Video Input AirPlay Password	300
Video Input AirPlay SecurityMode.....	300
Video Input Connector [n] CameraControl Cameramd	300
Video Input Connector [n] CameraControl Mode.....	301
Video Input Connector [n] CEC Mode	301
Video Input Connector [n] HDCP Mode.....	302
Video Input Connector [n] InputSourceType	302
Video Input Connector [n] Name	303
Video Input Connector [n] OptimalDefinition Profile.....	303
Video Input Connector [n] OptimalDefinition Threshold60fps.....	304
Video Input Connector [n] PreferredResolution.....	304
Video Input Connector [n] PresentationSelection	305
Video Input Connector [n] Quality	305
Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange	306
Video Input Connector [n] Visibility	306
Video Input Miracast Mode	307
Video Input Miracast Pin Length	307
Video Monitors	308
Video Output Connector [n] Brightness	308
Video Output Connector [n] BrightnessMode	308
Video Output Connector [n] CEC Mode	309
Video Output Connector [n] HDCPPolicy	309
Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset.....	310
Video Output Connector [n] Location VerticalOffset.....	310
Video Output Connector [n] MonitorRole	311

Video Output Connector [n] OverscanLevel.....	311
Video Output Connector [n] Resolution.....	312
Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange	312
Video Output Connector [n] Whitebalance Level	315
Video Output HDMI Passthrough Allowed	313
Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Delay	314
Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Enabled	314
Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Mode.....	313
Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Name	313
Video Output HDMI Passthrough OutputConnector	314
Video Output Webcam USBMode.....	314
Video Presentation DefaultPIPPosition.....	315
Video Presentation DefaultSource	315
Video Presentation Priority.....	315
Video Selfview Default FullscreenMode.....	316
Video Selfview Default Mode	316
Video Selfview Default OnMonitorRole	316
Video Selfview Default PIPPosition	317
Video Selfview Default Visibility	317
Video Selfview OnCall Duration	317
Video Selfview OnCall Mode.....	317
VoiceControl 設定	318
VoiceControl Wakeword Mode	318
WebEngine 設定	319
WebEngine Features LocalWebAppManagement.....	319
WebEngine Features SipUrlHandler	319
WebEngine Features WebGL	319
WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts.....	319
WebEngine FpsCounter	320
WebEngine MinimumTLSVersion.....	320
WebEngine Mode	320
WebEngine RemoteDebugging	320
WebEngine UseHttpProxy	320
Webex 設定	321
Webex CloudProximity GuestShare	321
Webex CloudProximity Mode.....	321
Webex CloudUpgrades Mode.....	321
Webex Hotdesking DefaultBookingEndTime.....	321
Webex Meetings AudioNotifications	322
Webex Meetings JoinProtocol	322

Board

Webex Meetings MeetingChatNotifications Mode.....	322
Webex Meetings MeetingChatPreview	323
Webex Meetings RoomObservedByHost.....	323

Board Pro

Codec EQ

WebRTC 設定	324
WebRTC EndCallTimeout.....	324
WebRTC InteractionMode.....	324
WebRTC Provider MicrosoftTeams CompatibilityMode	324

Codec Plus

Codec Pro

ズーム設定	325
Zoom DefaultDomain	325
Zoom DialStringOptions	325

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

試験的設定	326
--------------------	------------

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Board

ソフトウェア バージョン:

- RoomOS 11.5.2

Board Pro

対象製品:

- CodecEQ
- CodecPro
- CodecPlus
- Room70G2
- Room70/Room55D
- Room55
- RoomBar
- RoomBarPro
- RoomKit
- RoomKitMini
- RoomPanorama/Room70Panorama
- DeskMini
- Desk
- DeskPro
- Board
- BoardPro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

アプリ設定

Apps WallpaperBundles HalfwakelImage

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

UserInterface Theme Name が Night に設定されている場合など、一部のシナリオでは、ハーフウェイクモードで色付きのバックグラウンドが表示されます。この設定をオフにすると、常に黒いバックグラウンドを使用できます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: 一部のシナリオでは、バックグラウンドがハーフウェイクモードで色付けされます。

Off: ハーフウェイクモードでバックグラウンドが黒になります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio 設定

Audio DefaultVolume

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

スピーカーのデフォルト音量を定義します。Desk Series を除くすべてのデバイスでは、デバイスの電源を入れた際または再起動時に、音量がこのレベルに設定されます。Desk デバイスは、再起動後も、ユーザーが最後に設定したオーディオレベルを記憶します。

ユーザーインターフェイスのコントロールまたは Audio Volume コマンドを使用して、通話中と通話外の両方の音量を変更できます。Audio Volume SetToDefault コマンドは、音量をデフォルト値にリセットします。

デフォルト値:

50 [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/
Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro]

70 [Board BoardPro]

値スペース:

整数 (0 ~ 100)

範囲: 1 ~ 100 の値を選択します。これは、-34.5 dB ~ 15 dB の範囲内の 0.5 dB 単位に相当します。0 に設定すると、音声が入力になります。

Audio Input ARC [n] Mode

適用対象: CodecPlus CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

各 HDMI 出力には、関連付けられた音声リターンチャンネル (ARC) があります。この ARC を使用して、HDMI 出力に接続されている画面またはテレビからビデオ会議デバイスに音声を送信することができます。音声転送を許可するかどうかによって、各 HDMI 出力コネクタ (n) を個別に決定することができます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

オフ: HDMI 出力 n の ARC チャンネルを無効にします (音声はビデオ会議デバイスに送信されません)。

オン: HDMI 出力 n の ARC チャンネルを有効にします (音声はビデオ会議デバイスに送信されます)。

n: ARC 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 2 [CodecPlus]

範囲: 1 ~ 3 [CodecPro]

範囲: 3 ~ 3 (Room 70 Dual G2) 、 2 ~ 3 (Room 70 Single G2) [Room70G2]

範囲: 3 ~ 3 [RoomPanorama/Room70Panorama]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Level

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクやオーディオインターフェイスなど、イーサネット入力の指定されたチャンネルのゲインを設定します。入力ごとに最大 8 チャンネルを許可し、ゲインはチャンネルごとに個別に設定します。

接続しているオーディオ送信元の出力レベルに合わせて、ゲインを調整する必要があります。ゲインは、1 db ずつ調整できます。ゲインの設定が高すぎる場合、オーディオ信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎる場合、オーディオの信号対雑音比が低下します。ただし、通常はクリッピングよりも望ましい結果が得られます。通常、未処理の音声信号は信号レベルが大幅に変動するため、十分な信号のヘッドルームを取れるようにすることが非常に重要だということに注意してください。

デフォルト値:

45

値スペース:

整数 (0 ~ 70)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 4 [[CodecPro](#) [Room70G2](#)]

範囲: 1 ~ 6 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Gain

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクやオーディオインターフェイスなど、イーサネット入力の指定されたチャンネルのゲインを設定します。入力ごとに最大 8 チャンネルを許可し、ゲインはチャンネルごとに個別に設定します。

接続しているオーディオ送信元の出力レベルに合わせて、ゲインを調整する必要があります。ゲインは、1 db ずつ調整できます。ゲインの設定が高すぎる場合、オーディオ信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎる場合、オーディオの信号対雑音比が低下します。ただし、通常はクリッピングよりも望ましい結果が得られます。通常、未処理の音声信号は信号レベルが大幅に変動するため、十分な信号のヘッドルームを取れるようにすることが非常に重要だということに注意してください。

デフォルト値:

45

値スペース:

整数 (0 ~ 70)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 3

Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Mode

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

イーサネット入力の指定されたチャンネルでオーディオを無効化または有効化します。入力ごとに最大 8 チャンネルを許可し、モードはチャンネルごとに個別に設定します。

Setting Audio Input Ethernet [n] Mode をオフに設定すると、個々のチャンネルモード設定の効果がオーバーライドされます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: このチャンネルからのオーディオを無効化します。

On: このチャンネルからのオーディオを有効化します。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 4 [[CodecPro](#) [Room70G2](#)]

範囲: 1 ~ 6 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[RoomBarPro](#) [CodecEQ](#)]

Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Pan

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この入力チャンネルがミックスされるミックスチャンネル (左または右) を設定します。シングルチャンネルミックスの場合、この設定は無効になります。

デフォルト値:

モノ

値スペース:

左/右/モノ

Left: 左のミックスチャンネルにパンします。

Right: 右のミックスチャンネルにパンします。

Mono: 左右両方のチャンネルに均等にパンします。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 4 [[CodecPro](#) [Room70G2](#)]

範囲: 1 ~ 6 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[RoomBarPro](#) [CodecEQ](#)]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Input Ethernet [n] EchoControl Mode

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

エコー キャンセラは、音声環境で検出された変更があると、室内の音声特性に合わせて継続的に自己調整を行います。音声条件に大幅な変更を加えた場合は、エコー キャンセラの再調整に 1 ~ 2 秒かかることがあります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: エコー コントロールをオフにします。外付けの機器でエコーキャンセラを実行する場合に推奨します。

On: エコー コントロールをオンにします。一般的には相手先で自らの音声聞こえないようにするために、オンに設定することが推奨されます。選択すると、エコー キャンセレーションは常にアクティブになります。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 4 [CodecPro Room70G2]

範囲: 1 ~ 6 [RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ]

Audio Input Ethernet [n] EchoControl NoiseReduction

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスにはノイズ リダクションが組み込まれており、これにより、定常的なバックグラウンド ノイズ (空調システム、冷却ファンなどのノイズ) が軽減されます。さらに、ハイ パス フィルタ (ハム フィルタ) により、非常に低い周波数のノイズが軽減されます。ノイズリダクションを使用するには、Audio Input Ethernet [n] EchoControl Mode を有効にする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ノイズ リダクションをオフにします。

On: ノイズ リダクションをオンにします。低周波ノイズがある場合、推奨されます。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 4 [CodecPro Room70G2]

範囲: 1 ~ 6 [RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ]

Audio Input Ethernet [n] Equalizer ID

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この入力に適用するイコライザプリセットを選択します。この入力に複数のチャンネルがある場合、処理はそれらすべてに等しく適用されます。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 8)

イコライザプリセットの番号。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 4 [CodecPro Room70G2]

範囲: 1 ~ 6 [RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ]

Audio Input Ethernet [n] Equalizer Mode

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この入力の均等化プロセスを有効化または無効化します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 均等化は処理されません。

On: 均等化が適用されます。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 4 [CodecPro Room70G2]

範囲: 1 ~ 6 [RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Input Ethernet [n] Mode

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

このイーサネット入力からのオーディオを無効化または有効化します。

この入力に複数のチャンネルがある場合は、Audio Input Ethernet [n] Channel [1..8] Mode 設定も参照してください。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: この入力からのすべてのオーディオを無効化します。

On: 現用系チャンネルからのオーディオを有効化します。

n: 論理的なイーサネット入力を特定する固有の ID。

範囲: 1 ~ 4 [[CodecPro](#) [Room70G2](#)]

範囲: 1 ~ 6 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[RoomBarPro](#) [CodecEQ](#)]

Audio Input HDMI [n] Level

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

-5

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID。

範囲: 2 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[Room55](#)]

範囲: 2 ~ 5 [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Audio Input HDMI [n] Gain

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

-5

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomBarPro](#)]

Audio Input HDMI [n] Mode

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 入力コネクタの音声を有効にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: HDMI 入力で音声を無効にします。

On: HDMI 入力で音声を有効にします。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID。

範囲: 2 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#)]

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[Room55](#)]

範囲: 2 ~ 5 [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Input HDMI [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定を使用して、このプレゼンテーション ソースが現在画面上に表示されていない場合、またはプレゼンテーション ソースが接続されている間常に音声を再生する場合音声再生を停止するかどうかを決定します。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro Board BoardPro]

HDMI [1]: Off HDMI [2,3]: On [CodecEQ]

HDMI [1,2]: Off HDMI [3,4,5]: On [CodecPro]

HDMI [2]: Off HDMI [3,4,5]: On [Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

Off/On

Off: 音声は、プレゼンテーション ソースが接続されている間、ローカルおよび相手先に対して常に再生されます。HDMI 入力ソースを指定する必要はありません。

On: 音声は、接続されているプレゼンテーション ソースが画面上に表示されている間、ローカルおよび相手先に対して再生されます。

n: HDMI 入力を識別する一意の ID。

範囲: 2 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ]

範囲: 1 ~ 5 [CodecPro]

範囲: 1 ~ 2 [Room55]

範囲: 2 ~ 5 [Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 1 [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Desk DeskPro Board BoardPro]

Audio Input Microphone [n] Channel

適用対象: CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マルチチャンネルミックスを生成するときに入力信号をミキシングする方法を定義します。シングルチャンネルミックスの場合、この設定は無効になります。

この機能をサポートするその他の製品については、Audio Input Microphone [n] Pan 設定を参照してください。

デフォルト値:

モノ

値スペース:

Left/Mono/Right

Left: ステレオミックスの生成時に左チャンネルを混合します。

Mono: ステレオミックスの生成時に両方のチャンネルを混合します。

Right: ステレオミックスを生成するとき、右チャンネルにミックスされます。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8

Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode

適用先: RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

エコー キャンセラは、音声環境で検出された変更があると、室内の音声特性に合わせて継続的に自己調整を行います。音声条件に大幅な変更を加えた場合は、エコー キャンセラの再調整に 1 ~ 2 秒かかることがあります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: エコー コントロールをオフにします。外付けの機器でエコーキャンセラを実行する場合に推奨します。

On: エコー コントロールをオンにします。一般的には相手先で自らの音声がかき消えないようにするために、オンに設定することが推奨されます。選択すると、エコー キャンセレーションは常にアクティブになります。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2 ~ 3 [RoomKit RoomBarPro Room55 BoardPro]

範囲: 2 ~ 2 [RoomBar]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Input Microphone [n] EchoControl Dereverberation

適用先: RoomKit RoomBar CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスには室内の残響を減らす組み込みの信号処理が備わっています。残響除去を使用するには、Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode を有効にする必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 残響除去をオフにします。

On: 残響除去をオンにします。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2 ~ 3 [RoomKit, Room55]

範囲: 2 ~ 2 [RoomBar]

Audio Input Microphone [n] EchoControl NoiseReduction

適用先: RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスにはノイズ リダクションが組み込まれており、これにより、定常的なバックグラウンド ノイズ (空調システム、冷却ファンなどのノイズ) が軽減されます。さらに、ハイパス フィルタ (ハム フィルタ) により、非常に低い周波数のノイズが軽減されます。ノイズ リダクションを使用するには、Audio Input Microphone [n] EchoControl Mode を有効にする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ノイズ リダクションをオフにします。

On: ノイズ リダクションをオンにします。低周波ノイズがある場合、推奨されます。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 2 ~ 3 [RoomKit RoomBarPro Room55 BoardPro]

範囲: 2 ~ 2 [RoomBar]

Audio Input Microphone [n] Equalizer ID

適用対象: CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

このマイクに適用するイコライザプリセットを選択します。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 8)

イコライザプリセットの番号。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ]

Board

Audio Input Microphone [n] Equalizer Mode

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

このマイク入力のコライザ処理を有効化または無効化します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 均等化は処理されません。

On: 均等化が適用されます。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#)]

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Input Microphone [n] Level

適用先: [RoomKit](#) [RoomBar](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#)
[RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクの入力コネクタのゲインを設定します。接続しているオーディオ送信元の出力レベルに合わせて、ゲインを調整する必要があります。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

ゲインの設定が高すぎる場合、オーディオ信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎる場合、オーディオの信号対雑音比が低下します。ただし、通常はクリッピングよりも望ましい結果が得られます。

通常、未処理の音声信号は信号レベルが大幅に変動するため、十分な信号のヘッドルームを取れるようにすることが非常に重要だということに注意してください。

0 dB のゲインの最大入力レベルは製品によって異なります: -18 dBu (Room Bar, Room Kit, Codec Plus, Room 55, Room 70, Room 55 Dual)、24 dBu (Codec Pro, Room 70 G2)。

例: マイクの最大出力レベルが -44 dBu で、Codec Pro に接続されている場合、ゲインの設定は 24 dBu - (-44 dBu) = 68 dB にしてください。

デフォルト値:

14 [[RoomKit](#) [RoomBar](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [BoardPro](#)]

58 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

整数 (0 ~ 24) [[RoomKit](#) [RoomBar](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [BoardPro](#)]

整数 (0 ~ 70) [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[RoomKit](#) [Room55](#) [BoardPro](#)]

範囲: 2 ~ 2 [[RoomBar](#)]

Board

Audio Input Microphone [n] Gain

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクの入力コネクタのゲインを設定します。接続しているオーディオ送信元の出力レベルに合わせて、ゲインを調整する必要があります。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

ゲインの設定が高すぎる場合、オーディオ信号がクリップされます。ゲインの設定が低すぎる場合、オーディオの信号対雑音比が低下します。ただし、通常はクリッピングよりも望ましい結果が得られます。

通常、未処理の音声信号は信号レベルが大幅に変動するため、十分な信号のヘッドルームを取れるようにすることが非常に重要だということに注意してください。

0 dB のゲインの最大入力レベルは、-18 dBu です。

例: マイクの最大出力レベルが -40 dBu の場合、ゲインの設定は $-18 \text{ dBu} - (-40 \text{ dBu}) = 22 \text{ dB}$ にしてください。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (0 ~ 24)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[RoomBarPro](#)]

Audio Input Microphone [n] Mode

適用先: [RoomKit](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイク コネクタで音声を無効または有効にします。

Board Pro、Room Bar、Room Bar Pro、Room Kit、Room 55: Microphone [1] は、デバイスの内蔵マイクです。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 音声入力マイクのコネクタを無効にします。

On: 音声入力マイクのコネクタを有効にします。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[RoomKit](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [BoardPro](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomBar](#)]

Audio Input Microphone [n] MuteOverride

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は Codec Pro のアナログマイク入力専用です。

システムのメインミュート状態 (つまり、通常のミュートボタンで制御されるミュート状態) をオーバーライドするようにマイク入力を設定します。

これにより、マイク入力をミュート解除し、アクティブなビデオ入力中にプレゼンテーション音などを送信するためのライン入力として使用できます。

非アクティブなビデオ入力に関連付けられている場合や、非アクティブなビデオ入力でミュートに設定されている場合、マイクはミュート状態が続く場合があります。

たとえば、アナログソースからの音声を提示する必要がある場合、一部のマイク入力をライン入力として再利用する必要があります。

ミュート上書きを使用しない場合、プレゼンテーションの再生中にプレゼンタがマイクをミュートにした場合、これらのプレゼンテーション ソースはサイレントになります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ミュート設定を上書きしません。

On: ミュート設定を上書きします。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8

Board

Audio Input Microphone [n] Pan

適用対象: [CodecEQ](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マルチチャンネルミックスを生成するときに入力信号をミキシングする方法を定義します。シングルチャンネルミックスの場合、この設定は無効になります。

この機能をサポートしているその他の製品については、Audio Input Microphone [n] Channel 設定を参照してください。

デフォルト値:

モノ

値スペース:

Left/Mono/Right

Left: ステレオミックスの生成時に左チャンネルを混合します。

Mono: ステレオミックスの生成時に両方のチャンネルを混合します。

Right: ステレオミックスを生成するときに、右チャンネルにミックスされます。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Input Microphone [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクをビデオ入力コネクタに関連付けると、そのビデオ入力にビデオストリームまたはコンテンツがない場合に、マイクを自動でミュートできます。Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource 設定を使用すると、マイクに関連付けるビデオ入力コネクタを選択できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: マイクのミュート状態は、ビデオ入力の状態とは無関係です。

On: 関連するビデオ入力にビデオストリームまたはコンテンツがない場合、マイクは自動的にミュートされます。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#)]

Audio Input Microphone [n] VideoAssociation VideoInputSource

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクに関連付けるビデオ入力コネクタを選択します。

デフォルト値:

1

値スペース:

1/2/3/4/5/6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

1/2/3/4 [[CodecEQ](#)]

マイクが関連付けられているビデオ入力コネクタ。

n: マイク入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 8 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#)]

Board

Audio Input MicrophoneMode

適用対象: [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクモードを Focused に設定すると、マイクを組み合わせで音声感度が高くなります。その結果、室内のノイズが聞こえなくなり、デバイスの正面に座った人の声がよく聞こえるようになります。デバイスの正面に座っていない人の声は聞こえなくなります。

マイクモードを Wide に設定すると、デバイスは他のデバイスと同様に動作します。横に座っている人の声が聞こえるようになり、また室内のノイズもより聞こえるようになります。

話者が 1 人だけの場合、Focused モードを使用することをお勧めします。デバイスの前で複数の人が話す場合は Wide モードを使用してください。

デフォルト値:

にフォーカス

値スペース:

Focused/Wide

Focused: 1 点に集中された音の感度。デバイスの真正面がないソースからの音は抑制されます。

Wide: デフォルトのマイク動作で、通常の音声感度です。

Audio Input USBC [n] Level

適用対象: [RoomBar](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB-C 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

-5

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: USB-C 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Input USBC [n] Gain

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB-C 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

-5

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: USB-C 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Input USBC [n] Mode

適用先: [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB-C 音声モードを設定します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

On: USB-C からの音声を許可します。

Off: USB-C からの音声を許可しません。

n: USBC 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Audio Input USBC [n] VideoAssociation MuteOnInactiveVideo

適用先: RoomBar RoomBarPro CodecEQ DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定を使用して、このプレゼンテーション ソースが現在画面上に表示されていない場合、またはプレゼンテーション ソースが接続されている間常に音声再生を停止するかどうかを決定します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 音声は、プレゼンテーション ソースが接続されている間、ローカルおよび相手先に対して常に再生されます。USBC 入力ソースを指定する必要はありません。

On: 音声は、接続されているプレゼンテーション ソースが画面上に表示されている間、ローカルおよび相手先に対して再生されます。

n: USBC 入力を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Input USBInterface [n] EchoControl Mode

適用対象: CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスのエコーキャンセラは、音声環境で検出された変更があると、室内の音声特性に合わせて継続的に自己調整を行います。音声条件に大幅な変更を加えた場合は、エコー キャンセラの再調整に 1 ~ 2 秒かかることがあります。

外付けの機器でエコーキャンセルを実行する場合は、Audio Panning Mode 設定を使用して指向性オーディオをオフにする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスのエコーキャンセルをオフにします。外付けの機器でエコーキャンセルを実行する場合に推奨します。

On: デバイスのエコーキャンセルをオンにします。一般的には相手先で自らの音声聞こえないようにするために、オンに設定することが推奨されます。選択すると、エコー キャンセレーションは常にアクティブになります。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Input USBInterface [n] Level

適用対象: CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

接続されている特定の USB デバイスの出力レベルに合わせて、USB コネクタのゲインを設定します。USB デバイスの出力レベルは異なる場合があります。

ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0 ~ 24)

デシベル (dB) 単位でゲインを設定します。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Input USBInterface [n] Gain

適用対象: CodecEQ

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

接続されている特定の USB デバイスの出力レベルに合わせて、USB コネクタのゲインを設定します。USB デバイスの出力レベルは異なる場合があります。

ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0 ~ 24)

デシベル (dB) 単位でゲインを設定します。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Audio Input USBInterface [n] Mode

適用対象: *CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB コネクタでオーディオ入力を無効または有効にします。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: USB コネクタのオーディオ入力を無効にします。

On: USB コネクタのオーディオ入力を有効にします。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Input USBMicrophone [n] Gain

適用先: *RoomBarPro*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

接続されている特定の USB マイクの出力レベルに合わせて、USB コネクタのゲインを設定します。USB マイクの出力レベルは異なる場合があります。

ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0 ~ 24)

デシベル (dB) 単位でゲインを設定します。

n: USB マイクを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Input USBMicrophone [n] Level

適用対象: *RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

接続されている特定の USB マイクの出力レベルに合わせて、USB コネクタのゲインを設定します。USB マイクの出力レベルは異なる場合があります。

ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0 ~ 24)

デシベル (dB) 単位でゲインを設定します。

n: USB マイクを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Input USBMicrophone [n] EchoControl Mode

適用先: *RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスのエコーキャンセラは、音声環境で検出された変更があると、室内の音声特性に合わせて継続的に自己調整を行います。音声条件に大幅な変更を加えた場合は、エコー キャンセラの再調整に 1 ~ 2 秒かかることがあります。

AEC 参照信号は、常時デバイスから USB マイクに送信されます。エコーキャンセルがデバイスで実行されるか、外付けの機器で実行されるかには無関係です。

外付けの機器でエコーキャンセルを実行する場合は、Audio Panning Mode 設定を使用して指向性オーディオをオフにする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスのエコーキャンセルをオフにします。外付けの機器でエコーキャンセラを実行する場合に推奨します。

On: デバイスのエコーキャンセルをオンにします。一般的には相手先で自らの音声がかええないようにするために、オンに設定することが推奨されます。選択すると、エコー キャンセレーションは常にアクティブになります。

n: USB マイクを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Audio Input WebView [n] Mode

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

内蔵 Web ブラウザ (WebView) からの音声再生を許可するかどうかを設定します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

On: Web ブラウザからのオーディオを許可します。

Off: Web ブラウザからのオーディオの再生を許可しません。

n: WebView 入力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Microphones HdmiPassthrough MuteButton

適用対象: [RoomKit](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ラップトップからの通話機能を使用する場合 ([ビデオ出力 HDMI パススルーを許可 (Video Output HDMI Passthrough Allowed)] を True に設定する必要があります)、ミーティング アプリケーションから音声をいつでもミュートできます。この設定を使用すると、タッチコントローラおよび外付けマイクからのミュートも許可するかどうかを構成できます。ミーティングアプリケーションは、ラップトップのマイクではなく、HDMI-to-USB コンバータ (キャプチャデバイス) をマイクとして使用するよう設定する必要があります。

ミュートに関しては、タッチコントローラ/マイクはミーティング アプリケーションと同期していませんのでご注意ください。したがって、部屋とミーティング アプリケーションのミュートインジケータは、常に実際のミュート状態を反映しない場合があります。

Room 55 Dual および Room 70 Dual にはコンバータで使用できる HDMI 出力がないため、この設定は使用できません。

デフォルト値:

アクティブ

値スペース:

Active/Inactive

Active: タッチコントローラまたはマイクのボタンを使用してミュートできます。

Inactive: タッチコントローラまたはマイクからミュートすることはできません。物理ボタンは無効化されており、ユーザーインターフェイスにはミュートボタンはありません。

Audio Microphones AGC

適用先: [RoomKit](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

マイクのオートゲインコントロール (AGC) を有効または無効にします。

AVIntegrator オプション付きの Codec EQ: 適用外。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: AGC を無効にします。外部ミキサーや DSP など、マイク信号にすでに AGC が適用されている機器への接続時に使用します。

On: AGC を有効化します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Microphones NoiseRemoval Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定を使用して、デバイスのノイズ除去機能を有効化または無効化します。また、この機能が有効な場合のデフォルトの動作を定義します。有効にすると (有効または手動)、ユーザーインターフェイスにボタンが表示され、ユーザーが背景雑音の除去をオンまたはオフにすることができます。また、API コマンドを使用してオンとオフを切り替えることもできます。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

無効 (Disabled) /有効 (Enabled) /手動 (Manual)

Disabled: ノイズ除去機能オフになっており、ユーザーまたは API コマンドを送信してオンにすることはできません。

[有効 (Enabled)]: ユーザーインターフェイスのボタンを使用するか、API コマンドを送信することで、ノイズ除去をオンまたはオフにできます。ノイズ除去はデフォルトでオンになっています。Webex クラウドに登録されているパーソナルモードデバイスの場合、通話終了時、またはデバイスの再起動時は、ノイズ除去の状態は影響を受けません。ノイズ除去がオンの場合は、オンのままになり、オフの場合は、オフのままになります。その他のデバイスの場合、通話を終了するか、デバイスを再起動すると、ノイズ除去状態はデフォルトの状態 (オン) に戻ります。

[手動 (Manual)]: ユーザーインターフェイスのボタンを使用するか、API コマンドを送信することで、ノイズ除去をオンまたはオフにできます。ノイズ除去はデフォルトでオフになっています。Webex クラウドに登録されているパーソナルモードデバイスの場合、通話終了時、またはデバイスの再起動時は、ノイズ除去の状態は影響を受けません。ノイズ除去がオンの場合は、オンのままになり、オフの場合は、オフのままになります。その他のデバイスの場合、通話を終了するか、デバイスを再起動すると、ノイズ除去状態はデフォルトの状態 (オフ) に戻ります。

Audio Microphones Mute Enabled

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスでのマイク ミュートの動作を定義します。

デフォルト値:

True

値スペース:

True/InCallOnly

True: 音声ミュートが使用可能になります。通常、コール外ではマイクのミュート LED は点灯しませんが、API コマンドを使用するとミュートすることができます。

InCallOnly: 音声ミュートはデバイスがコール中の場合にだけ使用できます。アイドル状態のときは、マイクをミュートにできません。これは、外部の電話サービスまたは音声システムがデバイスを介して接続されており、デバイスがコール中でないときに使用可能にする場合に便利です。InCallOnly に設定されたとき、音声システムが誤ってミュートにされることを防止できません。

Audio Microphones PhantomPower

適用先: RoomKit RoomBarPro CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

マイク入力でファンタム電源 (11 V +/- 1 V) を使用するかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: マイク入力でファンタム電源を無効にします。ファントム電源を必要としない機器 (外部ミキサーなど) に接続する場合は、この設定を使用します。

On: マイク入力でファンタム電源を有効にします。Cisco Table Microphone や Cisco 天井マイクを含め、ファントム電源を必要とするマイクに直接接続する場合は、この設定を使用します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Microphones UsbPassthrough MuteButton

適用先: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ラップトップからの通話機能を使用している場合 (つまり、ラップトップのミーティング アプリケーションがデバイスのカメラ、マイクまたはスピーカーを使用している場合)、ミーティング アプリケーションからいつでも自分の音声をミュートできます。この設定を利用すると外付けマイクやデバイスからのミュートも許可するかどうかを設定できます。前提条件として、ラップトップのマイクではなく、デバイスのマイクを使用するようにミーティング アプリケーションを設定することが必要です。

ミュートに関しては、デバイスとマイクがミーティング アプリケーションと同期していないことに注意してください。したがって、部屋とミーティング アプリケーションのミュートインジケータは、常に実際のミュート状態を反映しない場合があります。

デフォルト値:

Active [RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ BoardPro]

Inactive [DeskMini Desk DeskPro]

値スペース:

Active/Inactive

Active: ユーザーは、デバイスやマイクのボタンを使用して音声をミュートできます。

Inactive: ユーザーはデバイスやマイクからミュートできません。物理ボタンは無効化されており、ユーザーインターフェイスにはミュートボタンはありません。

Audio Output ARC [n] Delay DelayMs

適用対象: CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

リップ同期を実現するには、各 ARC ライン出力で、他の接続デバイス (TV、外付けスピーカーなど) の遅延に合わせた追加の遅延を設定できます。ここで設定する遅延は、Audio Output ARC [n] Delay Mode 設定での定義に従い、一定の遅延になるか、外部モニターで測定または報告された遅延に相対的な遅延になります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 290)

遅延 (ミリ秒)。

n: 音声 APC 出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Output ARC [n] Delay Mode

適用対象: CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Audio Output ARC [n] Delay DelayMs 設定を使用すると、音声 ARC 出力に遅延を追加できません。追加される遅延は、一定のミリ秒数か、検出された遅延または外部モニターで報告された遅延に対して相対的なミリ秒数です。

デフォルト値:

RelativeToHDMI [CodecEQ CodecPro]

Fixed [Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

Fixed/RelativeToHDMI

Fixed: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、検出された遅延または外部モニターで報告された遅延に対して相対的になります。実際の遅延は、顕出された遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors ARC [n] DelayMs ステータスにより、実際の遅延がレポートされます。

n: 音声 APC 出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Output ARC [n] Mode

適用対象: CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI [n] 入力コネクタの音声リターンチャンネル (ARC) を有効にするかどうかを選択します。Quad Camera を使用して音声を再生する場合は、ARC出力を有効にする必要があります。

Room 70 G2 には、Quad Camera が統合スピーカーシステムの一部として含まれています。ARC 出力は有効にしておくことをお勧めします。内蔵スピーカーシステムを完全に無効にする場合は、[オーディオ 出力 内蔵スピーカー モード (Audio Output InternalSpeaker Mode)] 設定を使用します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

オフ: HDMI 入力で ARC チャンルを無効にします。

オン: HDMI 入力で ARC チャンルを有効にします。

n: 音声 APC 出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Audio Output ConnectorSetup

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

オーディオ入力とオーディオ出力を手動で設定するか、使用しているカメラのタイプと接続されているスクリーンに基づいてビデオ会議デバイスが自動的に実行するかを選択できます。

自動モードでは、音声入力と出力を手動で追加、更新、削除、または接続することはできません。したがって、以下の API コマンドは何の効果もありません。xCommand Audio Setup *, xcommand audio Setup *, xCommand audio Setup * と xCommand audio Localinput *。

手動モードに移行する場合: 既存のオーディオ設定はクリアされ (xCommand Audio セットアップがクリアされます)、入力および出力グループは製品のデフォルト設定に従って設定されます。[オーディオ出力 HDMI [n] モード (Audio Output HDMI [n] Mode)] および [オーディオ出力 ARC [1] モード (Audio Output ARC [1] Mode)] 設定はデフォルト値に設定されます。Codec Pro の自動遅延測定が有効になっています。

[自動 (Auto)] モードへの移行時: HDMI および ARC 出力コネクタは、デフォルトグループに接続されます。Audio Output HDMI [n] Mode と、Audio Output ARC [1] Mode 設定は変更されません。Codec Pro の遅延測定が停止されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: Code Pro のビデオ会議デバイスでは、カメラやいずれかの HDMI 出力に接続された画面を介して音声を再生します。ビデオ会議デバイスは、次のリストで利用可能な最初のデバイスで音声を再生することを選択します。

1. カメラ コントロールがビデオ会議デバイスのカメラ コントロール コネクタのいずれか (イーサネット 2 または 3) に接続されており、HDMI がビデオ会議デバイスのカメラ入力 (HDMI 1 入力) に接続されている Quad Camera。さらに、Audio Output ARC [1] Mode と Video Input Connector [1] CEC Mode は On になっている必要があります。カメラを介して音声を再生するには、HDMI 1 入力の音声リターンチャンネル (ARC) が使用されます。
2. Audio Output HDMI [1] Mode 設定がオンになっている場合は、HDMI 1 の出力に接続された画面。
3. Audio Output HDMI [2] Mode 設定がオンになっている場合、HDMI 2 の出力に接続された画面。
4. Audio Output HDMI [3] Mode 設定がオンになっている場合、HDMI 3 の出力に接続された画面。

音声は Quad Camera を通じて再生される場合、ビデオ会議デバイスは、画面とカメラの間の遅延を測定して、カメラの音声を画面上のビデオに同期させることができます (リップ シンク)。遅延を測定するために、ビデオ会議デバイスが画面に信号を送信し、画面がその信号を ARC (オーディオ リターン チャンネル) を介してビデオ会議デバイスに返します。遅延測定では、上記の一覧で CEC (消費者向け電子機器制御) をサポートする最初の画面で、Video Output Connector [n] CEC Mode が On に設定されています。

音声は画面内で再生される場合、追加の lip 同期遅延が画面上の役割になります。ビデオ会議デバイスが遅延することはありません。

Room 70 G2 では、[オーディオ出力 ARC [1] モード (Audio Output ARC [1] Mode)] および [オーディオ出力 内蔵スピーカー モード (Audio Output InternalSpeaker Mode)] がオンで、内蔵画面の [オーディオ出力 HDMI [n] モード (Audio Output HDMI [n] Mode)] がオンの場合、ビデオ会議デバイスは内蔵スピーカーシステムを通じてオーディオを再生します。統合されたスピーカーシステムと画面の関係が明確なため、自動遅延測定は必要ありません。

[手動 (Manual)]: audio Console アプリケーションまたは API (xCommand Audio Localinput *, xCommand Audio Localinput *) を使用して、オーディオ入出力を設定し、手動で出力する必要があります。

Room 70 G2 では、オーディオ コンソール アプリケーションまたは API (xCommand Audio LocalOutput *) を使用して明示的にコネクタを追加すると、外部画面をオーディオ出力に使用することができます。この場合、外部画面では、内蔵スピーカー システムで再生される音声のステレオ ダウン ミックスが再生されます。超音波信号は、外部画面やライン出力を介しては再生されず、内蔵スピーカー システムでのみ再生されます。

Audio Output Ethernet [n] Mode

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Ethernet [1]: 音響エコーキャンセリング (AEC) に必要な参照信号です。コーデックからこの接続で接続されているすべてのデジタルマイク (Cisco Table Microphone Pro/Cisco Microphone Array) に送信されます。無効化すると、AEC は機能しません。

Ethernet [2]: Room Panorama のみが使用する接続です。コーデックから DNAM IV 増幅器への音声出力に使用されます。

この設定を [オン (On)] に設定する必要がある、組み込み型の Room Panorama オーディオ システムを使用することをお勧めします。これをオフにすると、Room Panorama のスピーカーは使用されず、外付けスピーカーをコーデックに接続する必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: イーサネット接続が無効になっています。

On: イーサネット接続が有効になっています。

n: イーサネット接続を識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1 [[RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#)]

範囲: 1 ~ 2 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Board

Audio Output HDMI [n] Delay DelayMs

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

リップ同期を実現するには、各 HDMI ライン出力で、他の接続デバイス (TV、外付けスピーカーなど) の遅延に合わせた追加の遅延を設定できます。ここで設定する遅延は、Audio Output HDMI [n] Delay Mode 設定での定義に従い、一定の遅延になるか、外部モニターで測定または報告された遅延に相対的な遅延になります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 290)

遅延 (ミリ秒)。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 3

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Output HDMI [n] Level

適用先: [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: HDMI 出力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[Room70G2](#)]

範囲: Room Panorama : 3 ~ 3, Room 70 Panorama: 1 ~ 3 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Audio Output HDMI [n] Gain

適用対象: [CodecEQ](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 入力コネクタのゲインを設定します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: HDMI 出力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Output HDMI [n] Mode

適用先: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI 出力コネクタの音声チャンネルを有効にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

Room 70 Dual G2: HDMI 1, 2: On HDMI 3: Off

Room 70 Single G2: HDMI 1: On HDMI 2, 3: Off [[Room70G2](#)]

Room 70 Panorama: HDMI 1, 2: On HDMI 3: Off

Room Panorama: Off [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

On [[CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#)]

値スペース:

Off/On

Off: 音声出力にコネクタが使用されません。

On: 音声出力にコネクタを使用できます。Codec Pro および Room 70 G2 では、Audio Output コネクタの設定に依存しています。

n: HDMI 出力を識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [[Codec Plus](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#)]

範囲: Room Panorama : 3 ~ 3, Room 70 Panorama: 1 ~ 3 [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Audio Output InternalSpeaker Mode

適用先: [RoomKit](#) [RoomBarPro](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラの内蔵スピーカーを使用するかどうかを定義します。この設定を適用するには、Quad Camera に Codec Plus が接続されている必要があります。

Room 70 G2 では、統合されたモニターの Audio Output HDMI [n] Mode の設定がオンに設定されていないと、内蔵スピーカーの音声を再生できません。Room 70 G2 についても、Audio Output ARC 1 Mode 設定がオンになっている必要があります。

Codec Plus 以外のすべての製品では、統合スピーカーの使用を制限して、超音波のみを再生することができます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On/UltrasoundOnly [[RoomKit](#) [RoomBarPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#)

[RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)]

Off/On [[CodecPlus](#)]

Off: デバイスの統合スピーカーを無効にします。

On: デバイスの統合スピーカーを有効にします。

UltrasoundOnly: デバイスの内蔵スピーカーのみで超音波を有効にします

Audio Output Line [n] Channel

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

音声ライン出力がモノラル信号またはマルチチャンネル信号の一部のいずれであるかを定義します。

デフォルト値:

Line [[1, 3, 5](#)]: Left Line [2, 4, 6]: Right [[CodecPro](#) [Room70G2](#)]

Room Panorama: Line [[1, 3, 5](#)]: Left Line [2, 4, 6]: Right

Room 70 Panorama: Line [[1, 2](#)]: Mono Line [3, 5]: Left Line [4, 6]: Right [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

Left/Mono/Right

Left: 音声ライン出力信号はステレオ信号の左チャンネルです。

Mono: オーディオライン出力信号はモノラル信号です。

Right: 音声ライン出力信号はステレオ信号の右チャンネルです。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Output Line [n] Delay DelayMs

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

リップ シンクを実現するために、他の接続されているデバイス（たとえば、TV、外部スピーカー）の遅延と釣り合う追加の遅延を各音声ライン出力に設定できます。ここで設定する遅延は、Audio Output Line [n] Delay Mode 設定での定義に従い、固定であるか、HDMI 出力の遅延に対して相対的です。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 290)

遅延 (ミリ秒)。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[CodecEQ](#)]

Audio Output Line [n] Delay Mode

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Audio Output Line [n] Delay DelayMs 設定を使用すると、音声ライン出力に遅延を追加できます。追加される遅延は、固定のミリ秒数か、(接続済み TV に通常備わっている) HDMI 出力で検出された遅延に対して相対的なミリ秒数です。

デフォルト値:

Fixed [[Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

RelativeToHDMI [[CodecEQ](#) [CodecPro](#)]

値スペース:

Fixed/RelativeToHDMI

Fixed: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、固定のミリ秒数になります。

RelativeToHDMI: 出力に追加される遅延 (DelayMs) は、HDMI 出力で検出された遅延に対して相対的になります。実際の遅延は HDMI の遅延 + DelayMs です。Audio Output Connectors Line [n] DelayMs ステータスにより、実際の遅延がレポートされます。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[CodecEQ](#)]

Audio Output Line [n] Equalizer ID

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この出力に適用するイコライザプリセットを選択します。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 8)

イコライザプリセットの番号。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6

Audio Output Line [n] Equalizer Mode

適用対象: [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この出力のイコライザ処理を有効化または無効化します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 均等化は処理されません。

On: 均等化が適用されます。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6

Board

Audio Output Line [n] Level

適用対象: [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ラインの出力コネクタのゲインを設定します。接続されているデバイスのオーディオ出力レベルに合わせて、ゲインを調整する必要があります。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

0 dB のゲインの最大入力レベルは、製品によって次のように異なります。8 dBu (Room 70、Room 55 Dual)、18 dBu (Codec Pro、Room 70 G2)。

例: オーディオデバイスの最大入力レベルが 10 dBu で、Codec Pro に接続されている場合、ゲインの設定は 10 dBu - 18 dBu = -8 dB にしてください。

デフォルト値:

-4 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

0 [[Room70/Room55D](#)]

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[Room 70 / Room 55D](#)]

Audio Output Line [n] Gain

適用対象: [CodecEQ](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ラインの出力コネクタのゲインを設定します。接続されているデバイスのオーディオ出力レベルに合わせて、ゲインを調整する必要があります。ゲインは、1 db ずつ調整できます。

0 dB のゲインの最大出力レベルは、8 dBu です。

例: 接続したオーディオ デバイスの最大入力レベルが 4 dBu の場合、ゲインの設定は 4 dBu - 8 dBu = -4 dB にしてください。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-24 ~ 0)

範囲: デシベル (dB) 単位でゲインを選択します。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Output Line [n] Mode

適用先: [RoomKit](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

音声ライン出力のモードを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 音声ライン出力を無効にします。

On: 音声ライン出力を有効にします。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 1 ~ 1 [[RoomKit](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [BoardPro](#)]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Audio Output Line [n] OutputType

適用先: [RoomKit](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

出力タイプは、接続デバイスに一致するように設定する必要があります。
AVIntegrator オプション付き Bar Pro および AVIntegrator オプション付き Codec EQ: 該当なし。

デフォルト値:

Loudspeaker [[RoomKit](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [BoardPro](#)]

LineOut [[Room70/Room55D](#)]

値スペース:

LineOut/Loudspeaker/Microphone/Recorder/Subwoofer [[RoomKit](#)]

LineOut/Loudspeaker/Microphone/Recorder [[RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room55](#)
[Room70/Room55D](#) [BoardPro](#)]

Loudspeaker: スピーカーがライン出力に接続されている場合、スピーカーを使用します。このモードでのコネクタの出力レベルは、音量のマスターコントロールと、システムサウンドすべて（着信音、Webex Assistant など）を含めた出力信号に従って設定されます。

Microphone: このモードでは、接続されているマイクが拾った音がライン出力に送信されません。システム音声や遠隔ソースからの音声は含まれません。

録画機能が回線の出力に接続されている場合は、よく: 使用記録します。このモードでは出力レベルは固定され、システム音は含まれません。ローカルでのプレゼンテーションソース、ローカルマイク、および遠隔ソースからの音声が含まれます。

Subwoofer: サブウーファーがライン出力に接続されている場合、サブウーファーを使用します。このモードでは、低音はライン出力に送信され、それ以外のオーディオ信号は内蔵スピーカーで再生されます。

LineOut: 他のデバイスのライン出力を使用します。このモードでは出力レベルは固定され、システム音は含まれません。ローカルでのプレゼンテーションソースおよび 遠隔ソースからの音声が含まれます。

n: 音声ライン出力を示す固有の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Output USBC [n] Mode

適用対象: [CodecEQ](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB-C コネクタのオーディオ出力を無効または有効にします。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: USB-C コネクタのオーディオ出力を無効にします。

On: USB-C コネクタのオーディオ出力を有効にします。

n: USB-C コネクタを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Audio Output USBInterface [n] Mode

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB コネクタのオーディオ出力を無効または有効にします。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: USB コネクタのオーディオ出力を無効にします。

On: USB コネクタのオーディオ出力を有効にします。

n: USB インターフェイスを識別する一意の ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Audio Panning Mode

適用先: RoomBar RoomBarPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

ビデオストリームレイアウト内で、発言中のスピーカーがどこにいるかをデバイスが認識しているシナリオでは、デバイスはその場所に最も近いスピーカーでオーディオを再生できます。ヘッドセットを使用する場合にも同様の効果が得られます。これは、指向性オーディオと呼ばれます。たとえば、発言中のスピーカーがレイアウトの左側にいる場合、オーディオは左側のスピーカーから聞こえます。

また、ヘッドセットは、Audio Panning HeadsetAnalog (Desk Pro のみ) および Audio Panning HeadsetUSB (Board Pro および Desk シリーズのデバイスのみ) 設定に対応します。

この設定は、第 1 世代の Board (S シリーズを除く) では使用できません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: 利用可能な場合、指向性オーディオを使用します。

Off: スピーカーとヘッドセットの指向性オーディオを無効化します。

Audio Panning HeadsetAnalog BinauralProcessing

適用対象: DeskPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

アナログヘッドセットのオーディオのバイノーラル処理を無効化または有効化します。これは、自然な響きの指向性オーディオを実現するオーディオ処理技術です。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: バイノーラル処理を実行せず、通常のパニングを行い、左右の耳で単純な音量差をつけます。

True: オーディオにバイノーラル処理を実行します。

Audio Panning HeadsetAnalog Mode

適用対象: DeskPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

オーディオパンを無効化または有効化して、アナログヘッドセットで指向性オーディオを実現します。Audio Panning Mode 設定で指向性オーディオがすべて[オフ (Off)]になっている場合、Audio Panning HeadsetAnalog Mode が[自動 (Auto)]に設定されていても、ヘッドセットで指向性オーディオは得られません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: 利用可能な場合、指向性オーディオを使用します。

Off: アナログヘッドセットの指向性オーディオを無効化します。

Audio Panning HeadsetUSB BinauralProcessing

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

USB ヘッドセットのオーディオバイノーラル処理を無効化または有効化します。これは、自然な響きの指向性オーディオを実現するオーディオ処理技術です。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: バイノーラル処理を実行せず、通常のパニングを行い、左右の耳で単純な音量差をつけます。

True: オーディオにバイノーラル処理を実行します。

Board

Audio Panning HeadsetUSB Mode

適用対象: [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

オーディオパンを無効化または有効化して、USB ヘッドセットで指向性オーディオを実現します。Audio Panning Mode 設定で指向性オーディオがすべて[オフ (Off)]になっている場合、Audio Panning HeadsetUSB Mode が[自動 (Auto)]に設定されていても、ヘッドセットで指向性オーディオは得られません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: 利用可能な場合、指向性オーディオを使用します。

Off: USB ヘッドセットの指向性オーディオを無効化します。

Audio Placement

適用先: [RoomBarPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのマウント構成を定義します。この設定に基づいて、スピーカーシステムは音質を最適化するように構成されます。

デフォルト値:

Freestanding

値スペース:

Freestanding/Wallmount

自立型: デバイスは、後ろの空きスペースに取り付けられます。Board Pro の場合、これは、デバイスがフロアスタンドまたはホイールベースキットに取り付けられていることを表します。

壁面取り付け: デバイスは壁の近くに取り付けられます。Board Pro の場合、これは、デバイスが壁面マウントキットを使用して取り付けられていることを表します。

Audio SoundsAndAlerts RingTone

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

着信コールに使用する着信音を定義します。

デフォルト値:

Sunrise BoardPro

値スペース:

Sunrise/Mischief/Ripples/Reflections/Vibes/Delight/Evolve/Playful/Ascent/Calculation/Mellow/Ringer

リストから呼び出し音を選択します。

Audio SoundsAndAlerts RingVolume

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

着信コールの着信音量を定義します。

デフォルト値:

50

値スペース:

整数 (0 ~ 100)

範囲: 値は 5 刻みで 0 ~ 100 (-34.5 dB ~ 15 dB) になります。音量 0 = オフです。

Audio Ultrasound Mode

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、プロキシミティ機能に適用されます。設定はデフォルト値のままにしておいてください。

デフォルト値:

Dynamic [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)]

Static [[Board](#)]

値スペース:

Dynamic/Static

Dynamic: デバイスが超音波ボリュームを動的に調整します。ボリュームは、[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] の設定で定義された最大レベルまでさまざまに変化します。

Static: シスコが助言した場合にのみ使用してください。

Board

Audio Ultrasound MaxVolume

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、プロキシミティ機能に適用されます。超音波ペアリングメッセージの最大音量を設定します。

[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定と [プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定は、超音波ペアリングメッセージにのみ影響します。超音波を使用した人の存在の検出とモーション検知については、[ルーム分析 人の存在の検出 (RoomAnalytics PeoplePresenceDetector)] 設定および [スタンバイ モーション検知ウェイクアップ (Standby WakeupOnMotionDetection)] 設定を参照してください。

デフォルト値:

70

値スペース:

整数 (0 ~ 90) [CodecPlus CodecPro]

整数 (0 ~ 70) [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

値は指定の範囲内から選択します。0 に設定すると、超音波ペアリングメッセージは出力されません。

Audio Ultrasound Ru1Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、プロキシミティ機能に適用されます。デバイスが超音波ペアリングメッセージに対して Ru1 プロトコルを有効にする必要があるかどうかを選択します。Ru1Protocol と RzssProtocol の両方が無効化されている場合、アプリケーションではペアリングしません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: Ru1 プロトコルを無効化します。

On: Ru1 プロトコルを有効化します。

Audio Ultrasound RzssProtocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、プロキシミティ機能に適用されます。デバイスが超音波ペアリングメッセージに対して Rzss プロトコルを有効にする必要があるかどうかを選択します。Ru1Protocol と RzssProtocol の両方が無効化されている場合、アプリケーションではペアリングしません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: Rzss プロトコルを無効化します。

On: Rzss プロトコルを有効化します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オーディオ USB モード

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [Room55](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

USB コネクタの音声チャンネルを有効または無効にします。

デフォルト値:

SpeakerAndMicrophone

値スペース:

AdditionalSpeaker/Microphone/Off/Speaker/SpeakerAndMicrophone [[RoomKit](#) [Room55](#)
[DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)]

AdditionalMicrophone/AdditionalSpeaker/Microphone/Off/Speaker/
SpeakerAndMicrophone [[RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#)]

AdditionalMicrophone: ビデオ会議デバイスの内蔵マイクと外付けオーディオ入力デバイス (USB マイク) の両方が使用されます。USB オーディオ出力チャンネルは無効になります。

AdditionalSpeaker: ビデオ会議デバイスの内蔵スピーカーと USB オーディオ出力デバイスの両方が使用されます。USB オーディオ入力チャンネルは無効です。

USB に接続されたスピーカーは、デバイスの内蔵スピーカーよりも遅延が大きい場合があります。これにより、両方のスピーカーを同時に使用すると、異常なオーディオアーティファクトが発生する可能性があります。

AdditionalSpeaker の一般的なユースケースとして、アナログオーディオ出力のないビデオデバイスで補聴器 (ALD) をサポートすることがあります。この設定では、遅延の違いによって問題が発生する可能性は低くなります。

Microphone: 外部 USB マイクのみを使用します。他のマイクは無効になります。USB オーディオ出力チャンネルも無効になります。

Off: オーディオは USB 経由で流れませんが、シグナリングは引き続き有効です。これにより、USB デバイスをミュートまたは音量コントローラとして使用できます。

スピーカー: USB オーディオ出力チャンネルが接続されます (スピーカー)。他のスピーカーは無効になります。USB オーディオ入力チャンネルも無効になります。

SpeakerAndMicrophone: USB オーディオデバイスの入力 (マイク) チャンネルおよび出力 (スピーカー) チャンネルの両方が接続されます。他のマイクとスピーカーは無効になります。

Bluetooth 設定

Bluetooth Allowed

適用先: [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスは、組み込みの Bluetooth® モジュールを備えています。デフォルトで、ユーザーはユーザーインターフェイスを使用してオンとオフを切り替えることができます。この設定を使用すると、管理者は Bluetooth 設定を無効にしてユーザーインターフェイスからセットアップできないようすることができます。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 管理者が Bluetooth をオフにし、ユーザーがユーザーインターフェイスからオンにすることはできません。

True: Bluetooth が許可されます。ユーザーがユーザーインターフェイスを使用してオンとオフを切り替えることができます。

Bluetooth Enabled

適用先: [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

Bluetooth® 接続が許可されている場合 (Bluetooth 許可設定を参照)、この設定を使用して Bluetooth を有効および無効にすることができます。ビデオ会議デバイスは HFP (ハンズフリー プロファイル) と A2DP (高度なオーディオ配信プロファイル) のプロファイルをサポートします。A2DP だけをサポートするヘッドセットは使用できません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: Bluetooth は無効になり、ビデオ会議デバイスと Bluetooth デバイスはペアリングできません。

True: Bluetooth が有効になり、ペアリングを行って Bluetooth ヘッドセットを使用することができます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Bookings 設定

Bookings ProtocolPriority

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ビデオデバイスは、Webex クラウドで提供されるサービスである Cloud Video Interop (CVI) ゲートウェイ経由で SIP を使用するか、Microsoft Teams ミーティング Web アプリ (WebRTC) を実行することで、Microsoft Teams 会議に参加できます。

Microsoft Teams の会議に参加するには、カレンダーサービスを利用します。また、オンプレミスサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイス、および Webex クラウドサービスに登録されているデバイスで利用できます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/WebRTC

Auto: ミーティングの招待に CVI アドレスがある場合、デバイスは SIP/CVI 経由で Microsoft Teams の会議に参加します。それ以外の場合、WebRTC が使用されます。

WebRTC: デバイスは常に Microsoft Teams の会議に WebRTC を使用します。

BYOD 設定

BYOD HidForwarding Enabled

適用対象: DeskPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ラップトップ用の外付けマウスまたはキーボード (有線 USB または USB ドングル) を使用する場合、ラップトップに直接接続する代わりに、ビデオ会議デバイスの USB ポートにそれらを接続できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 外付けマウスまたはキーボードをラップトップに直接接続する必要があります。

True: ラップトップ用の外部マウスまたはキーボードをビデオ会議デバイスに接続できます。

BYOD QRCodePairing

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザーが QR コードを使用して、Webex アプリを介して携帯電話とビデオ会議デバイスをペアリングできるかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーはデバイスの画面に表示される QR コードをスキャンして、ペアリングプロセスが完了するのを待ちます。

この設定は、ホットデスクング用に設定されたデバイスにのみ適用されます。これは、デバイスが共有モードであり、Webex クラウドサービスに登録されているか、Edge for Devices にリンクされている必要があることを意味します。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Disabled/Enabled

Enabled: デバイスの画面に QR コードがあり、ユーザーはそれをスキャンしてデバイスにサインインできます。

Disabled: デバイスに QR コードがありません。ユーザーは別の方法 (NFC ペアリングまたは USB-C) でサインインする必要があります。

Board

BYOD TouchForwarding Enabled

適用先: *DeskPro Board*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定を使用すると、タッチリダイレクト機能を有効または無効にすることができます。タッチリダイレクトを使用すると、Board またはビデオデバイスのタッチスクリーンからラップトップを制御できます。ラップトップは、HDMI ケーブル (有線共有) と USB-C ケーブルによってデバイスに接続する必要があります。デバイスからラップトップへの接続には、USB-C - USB-C ケーブルまたは USB-C - USB-A ケーブルを使用できます。

第 1 世代の Boards (Board 55 および 70) にはこの機能はありません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: タッチ リダイレクトが無効になります。

True: タッチ リダイレクトが有効になります。

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

CallHistory 設定

CallHistory Mode

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

不在着信や応答されなかったコールを含めて、発着信コールに関する情報を保存するかどうかを指定します (通話履歴)。これにより、ユーザーインターフェイスの [最近の履歴 (Recents)] リストに通話が表示されるかどうかが決まります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 新しいエントリが通話履歴に追加されません。

On: 新しいエントリは通話履歴一覧に保存されます。

CallHistory Recents DisplayName

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー ロール: ADMIN

[最近の履歴 (Recents)] リストから会議のタイトルを非表示にすることを選択できます。このリストは、UI の [通話 (Call)] ボタンをタップしたときや、デバイスの Web インターフェイスの [通話 (Call)] ページで利用できます。この設定は、ホットデスクキングが有効になっている共有モードのデバイスでも、個人用モードのデバイスでもサポートされていません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 会議のタイトルを [最近の履歴 (Recents)] リストに保持します。

Hidden: 会議のタイトルを [最近の履歴 (Recents)] リストに表示しません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras 設定

Cameras Background Enabled

適用対象: *DeskMini Desk DeskPro*

必要なユーザー ロール: admin, user

カメラの背景機能を有効または無効にします。

カメラのバックグラウンド機能を使用すると、実際の環境の代わりに仮想バックグラウンド (つまり、画像やエフェクト) をカメラビューのバックグラウンドとして表示できます。カメラの背景設定コマンドを有効にするには、この設定を有効にする必要があります。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

True: カメラの背景機能を有効にします。

False: カメラの背景機能を無効にします。

Cameras Background UserImagesAllowed

適用対象: *DeskMini Desk DeskPro*

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザーが会議やコール中に仮想背景としてカスタム画像を使用する機能を有効または無効にします。

この機能にアクセスするには、カメラ 背景 有効 (Cameras Background Enabled) 設定も有効にする必要があります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

True: 仮想背景としてカスタム画像を使用できます。

False: 仮想背景としてカスタム画像の使用を無効にします。

Cameras Camera [n] AssignedSerialNumber

適用先: *RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro*

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR

カメラ ID は、Camera [n] の数字 n です。デフォルトでは、カメラ ID はカメラに自動的に割り当てられます。EDID 情報がカメラからビデオ会議デバイスに送信されない場合、カメラ ID は再起動後に保持されません。これは、ビデオ会議デバイスの再起動時にカメラが新しいカメラ ID を取得する可能性があることを意味します。

ビデオ会議デバイスが複数のカメラから EDID 情報を受信しない構成を考慮するには、Cameras Camera AssignedSerialNumber 設定を使用する必要があります。この設定は、カメラ ID をカメラのシリアル番号に関連付けることでカメラにカメラ ID を割り当てられるようにします。この設定はビデオ会議デバイスが工場出荷時の状態にリセットされるまで維持されます。

ビデオ会議デバイスが EDID 情報を受信しない一般的な原因として、そのような情報を渡さない HDMI リピーターを使用していることが挙げられます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 20)

カメラのシリアル番号。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [*CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D*]

範囲: 1 ~ 7 [*RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

範囲: 2 ~ 7 [*BoardPro*]

Board

Cameras Camera [n] Backlight DefaultMode

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

逆光補正をオンまたはオフにします。逆光補正は、部屋の中で人物の背後に強い光がある場合に役立ちます。逆光補正がないと、こちらの画像が相手に非常に暗い状態で見えることがあります。

この設定は、Bar Pro および Board Pro の内蔵カメラには適用されません。Cameras Camera Brightness Algorithm が[平均 (Average)]に設定されていない場合、Quad Camera および Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama または Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: カメラの逆光補正をオフにします。

On: カメラの逆光補正をオンにします。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras Camera [n] Brightness Algorithm

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラの明るさアルゴリズムを指定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Average/FaceOptimized

Auto: カメラの明るさアルゴリズムはデバイスによって自動的に設定されます。

Average: 従来の明るさアルゴリズムが適用されます。これは画像領域全体を使用して明るさを計算します。

FaceOptimized: 明るさは、人が検出された領域を重み付けして計算されます。これには、自動逆光補正が含まれます。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Cameras Camera [n] Brightness DefaultLevel

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

輝度レベルを設定します。Cameras Camera Brightness Mode を[手動 (Manual)]に設定する必要があります。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1 ~ 31)

明るさレベル。数値が高いほど、画像が明るくなります。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro]

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro]

Board

Cameras Camera [n] Brightness Mode

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

[輝度モード (Brightness Mode)]が[自動 (Auto)]に設定されている場合、輝度が設定され、現在の照明状態に基づいてデバイスが継続的に調整します。[手動 (Manual)]モードでは自動調整はされないため、Cameras Camera Brightness DefaultLevel 設定を使用して、輝度レベルを手動で設定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: デバイスがカメラの輝度を自動調整します。Cameras Camera Brightness DefaultLevel 設定は、効果はありません。

Manual: カメラの輝度レベルの手動調整を有効にします。明るさのレベルは、Cameras Camera Brightness DefaultLevel 設定を使用して設定します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro]

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro]

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras Camera [n] IrCutFilter Mode

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は PTZ 4K カメラにのみ適用され、他のカメラには影響しません。

IR カットフィルタ (赤外線カットフィルタ) は、近赤外線の波長をカットし、可視光を通過させるフィルタです。通常の照明環境の場合、赤外線による不要な副作用を避けるため、フィルタをオン ([日中 (Day)]モード) に設定する必要があります。ただし、カメラで暗い場所で画像をキャプチャする場合は、赤外線を利用できるようにフィルタをオフ ([夜間 (Night)]モード) に設定する必要があります。

デフォルト値:

曜日

値スペース:

自動/日中/夜間

Auto: デバイスによって、輝度の変化に基づき[日中 (Day)]モードと[夜間 (Night)]モードを自動的に切り替えます。2 つのモードを切り替えるタイミングを制御する方法については、IrCutFilter Threshold 設定を参照してください。

Day: IR カットフィルタはオンです。

Night: IR カットフィルタはオフです。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Board

Cameras Camera [n] IrCutFilter Threshold

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、Cameras Camera [n] IrCutFilter Mode が[自動 (Auto)]に設定されている場合に有効です。つまり、カメラが自動で[日中 (Day)]モードと[夜間 (Night)]モードに切り替わるように設定されている場合に有効です。しきい値が高いほど、[日中 (Day)]モードへの切り替えをトリガーするために必要な光量が多くなります。

デフォルト値:

14

値スペース:

整数 (0 ~ 255)

数値が高いほど、[日中 (Day)]モードに切り替えるために必要な環境光が多くなります。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras Camera [n] Flip

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Flip モード (垂直 Flip) を使用すると、画像を上下に反転できます。反転は、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。

この設定は、Quad Camera、PTZ-12 カメラ、または Board Pro、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama や Room Panorama の内蔵カメラでサポートされています。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。上下逆にマウントされたかどうかをカメラが自動的に検出できない場合、画像は変更されません。たとえば、Sony PTZ 4K カメラは上下逆さであることを自動検出できません。上下逆に取り付ける場合は、このパラメータを[オン (On)]に設定する必要があります。

Off: 画像を通常の方法で画面に表示します。

On: 画像を上下反転させて表示します。この設定は、カメラが上下逆にマウントされたが、マウント方向を自動的に検出できない場合に使用されます。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Board

Cameras Camera [n] Focus Mode

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラのフォーカス モードを定義します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/AutoLimited/Manual [CodecPlus CodecPro]

Auto/Manual [RoomBarPro CodecEQ Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama
BoardPro]

Auto: オート フォーカスの動作は製品によって異なります。Bar Pro、Board Pro、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama の内蔵カメラの場合、Quad Camera をコーデック (Codec EQ、Codec Plus または Codec Pro) と一緒に使用する場合、通話がつながらなかった時点、およびビューが変更された後にカメラはシングルショット オートフォーカスを行います。

Precision 60 または PTZ 4K カメラを使用する場合、カメラは連続オートフォーカスを行います。この場合、通話がつながったとき、パン、チルト、ズームが行われたとき、またカメラが風景の変化を識別したときに、オート フォーカスが実行されます。

AutoLimited: Codec Plus または Codec Pro を搭載した Precision 60 Camera を使用する際にこのモードが適用されます。ほとんどの場合、このモードはオート フォーカスと同様に動作します。[自動制限 (AutoLimited)] により、フォーカスの動作の精度が低下する場合があります。

問題が起りやすいのは、コントラストがない、またはコントラストが低い広い場所 (装飾のない壁、または部分的に空白のあるホワイトボードなど) です。オート フォーカスと比べて、このモードを使用する方が、背景にフォーカスが合う可能性が高まります。

Manual: オート フォーカスをオフにし、カメラの焦点を手動で調整します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Cameras Camera [n] Gamma Level

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ガンマ レベルを設定して、使用するガンマ修正テーブルを選択できます。この設定は、明るさの設定を変更しても十分な結果が得られない困難な光条件に役立つことがあります。Cameras Camera [n] Gamma Mode を [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

この設定は、Quad Camera または Bar Pro、Board Pro、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama および Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。また、この機能は、PTZ 4K カメラまたは PTZ-12 カメラではサポートされていません。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 7) [BoardPro]

整数 (0 ~ 14) [RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama]

ガンマ レベルを定義します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Board

Cameras Camera [n] Gamma Mode

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、ガンマ補正を有効にします。ガンマは、画像ピクセルとモニターの明るさとの間の関係を表します。

この設定は、Quad Camera または Bar Pro、Board Pro、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama および Room Panorama の内蔵カメラには適用されません。これらのカメラは部屋の明るさの状態に基づいて自動的に調整します。また、この機能は、PTZ 4K カメラまたは PTZ-12 カメラではサポートされていません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: 自動がデフォルトであり、推奨設定です。

Manual: 手動モードではガンマ値はガンマ レベル設定で変更されます。「Cameras Camera [n] Gamma Level」を参照してください。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras Camera [n] Mirror

適用先: RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ミラー モード (水平反転) を使用して画面の画像を反転できます。ミラーリングは、セルフビューおよび遠端に送信されるビデオの両方に適用されます。スピーカー トラッキングがオンのときはミラーリングが自動的に無効になります。

この設定は、Precision 60 Camera を使用する場合に限り適用されます。ただし、Cameras Camera [n] Flip 設定がオンの場合、PTZ 4K カメラは自動で画像をミラーリングします。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: 上下逆にマウントされたことをカメラが検出すると、画像が自動的に反転します。上下逆にマウントされたかどうかをカメラが自動的に検出できない場合、画像は変更されません。

Off: 他人から見えている自分のように画像を表示します。

On: 鏡に映っている自分のように画像を表示します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 7 [RoomBarPro CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 7 [BoardPro]

Board

Cameras Camera [n] VideoFormat

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラの出力ビデオ解像度およびフレームレートを設定します。

デフォルト値:

[1920_1080_60]

値スペース:

1920_1080_30/1920_1080_60/3840_2160_30

1920_1080_30: カメラの出力は、30 フレーム/秒で 1920x1080 の解像度です。

1920_1080_60: カメラの出力は、60 フレーム/秒で 1920x1080 の解像度です。

3840_2160_30: カメラの出力は、30 フレーム/秒で 3840x2160 の解像度です (PTZ 4K のみサポート)。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 7 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras Camera [n] Whitebalance Mode

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラのホワイト バランス モードを定義します。

Bar Pro および Board Pro の内蔵カメラは、室内照明環境に基づいて自動調整するため、この設定は適用されません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: カメラはカメラのビューに合わせて常にホワイト バランスを調整します。

Manual: カメラのホワイトバランスの手動設定を有効にします。ホワイト バランスのレベルは Cameras Camera [n] Whitebalance Level 設定を使用して設定します。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 7 [[RoomBarPro](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 2 ~ 7 [[BoardPro](#)]

Cameras Camera [n] Whitebalance Level

適用先: [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ホワイトバランスのレベルを定義します。Cameras Camera [n] Whitebalance Mode を [手動 (Manual)] に設定する必要があります。

Bar Pro および Board Pro の内蔵カメラは、室内照明環境に基づいて自動調整するため、この設定は適用されません。また、PTZ 4K と PTZ-12 カメラは、[ホワイトバランス (Whitebalance)] モードが [手動 (Manual)] に設定されている場合、Sony の [ワンブッシュ (One Push)] モードを使用するため、この設定は適用されません。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 16)

ホワイトバランスのレベル。

n: カメラを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 7 [[RoomBarPro](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 2 ~ 7 [[BoardPro](#)]

Cameras Camera ColorSaturation Level

適用対象: [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラから送られたビデオの色の彩度を変えることができます。数字が大きいほど色の彩度は高くなります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-20 ~ 20)

範囲: 数字が大きいほど色の彩度は高くなります。値が 0 のときは中間色の彩度レベルになります。最も負の値を指定すると、すべての色が削除され、グレースケールの画像になります。

Board

Cameras Camera Exposure Compensation Level

適用対象: [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラ画像が常に暗すぎる（露出不足）または明るすぎる（露出過多）場合は、この設定を使用して対象の輝度を補正できます。輝度/露出は、継続して自動調整されます。この設定は、Cameras Camera Brightness Mode 設定が[自動 (Auto)]の場合のみ有効です。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-3 ~ 3)

正の数に設定すると、キャプチャした画像の明るさが増します。負の数にすると暗くなります。

Cameras Camera Framerate

適用対象: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [Room55](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

デフォルトとして、カメラは 1 秒あたり 30 フレームを出力します。これにより、通常の帯域と照明条件であってもクローズアップと広い視野両方の画像の品質が良くなります。条件がさらに良い場合、カメラから 1 秒あたり 60 フレームの出力となり、全般的に良い品質となる可能性があります。

デフォルト値:

30

値スペース:

30/60

30 : カメラは、1 秒あたり 30 フレームを出力します。

60 : カメラは 1 秒あたり 60 フレームを出力します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras PowerLine Frequency

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラが電源周波数フリッカー防止をサポートしている場合、カメラは電源からのすべてのフリッカノイズを補うことができます。このカメラ設定はお使いの電源周波数に基づいて設定する必要があります。カメラが電源周波数の自動検出をサポートしている場合、設定で Auto オプションを選択できます。

シスコのカメラは、フリッカー防止と電源周波数の自動検出の両方をサポートしています。Auto はデフォルト値であるため、自動検出をサポートしないカメラの場合、この設定を変更する必要があります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

50Hz/60Hz/Auto

50Hz: 電線周波数が 50 Hz の場合、この値を使用します。

60Hz: 電線周波数が 60 Hz の場合、この値を使用します。

Auto: カメラが電源周波数を自動検出できるようにします。

Cameras PresenterTrack CameraPosition Pan

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この機能が有効化されている場合に、プレゼンタ追跡カメラ (PTZ 4K または Precision 60 Camera) をどのパンの位置に動かすかを定義します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535 ~ 65535)

パン ポジション。

Board

Cameras PresenterTrack CameraPosition Tilt

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この機能が有効化されている場合に、プレゼンタ追跡カメラ (PTZ 4K または Precision 60 Camera) をどのチルトの位置に動かすかを定義します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535 ~ 65535)

チルト ポジション。

Cameras PresenterTrack CameraPosition Zoom

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この機能が有効化されている場合に、プレゼンタ追跡カメラ (PTZ 4K または Precision 60 Camera) をどのズームの位置に動かすかを定義します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (-65535 ~ 65535)

ズーム ポジション。

Cameras PresenterTrack Connector

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

プレゼンタ追跡カメラ (PTZ 4K または Precision 60 Camera) を接続するビデオ入力コネクタを定義します。

デフォルト値:

1 [[CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#)]

3 [[BoardPro](#)]

値スペース:

整数 (1 ~ 6) [[CodecEQ](#) [CodecPro](#) [Room70G2](#)]

整数 (1 ~ 3) [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

整数 (3 ~ 3) [[BoardPro](#)]

ビデオ入力コネクタ。

Cameras PresenterTrack Enabled

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

PresenterTrack 機能を使用可能にするかどうかを定義します。この機能には、プレゼンタトラックカメラとして PTZ 4K または Precision 60 Camera が必要です。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: PresenterTrack 機能が無効になります。

True: PresenterTrack 機能を使用できます。

Cameras PresenterTrack PresenterDetectedStatus

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ブリーフィングルームと教室のシナリオ (ルーム タイプ テンプレート) で、リモート プレゼンタ モードと遠隔地のプレゼンタ モードの自動切り替えを有効にするか無効にするかを定義します。自動切り替えとは、PresenterTrack のトリガーゾーン内で人物が検出されるとデバイスがローカル プレゼンタ モードに切り替わり、ローカル プレゼンタがステージから退出するとリモート プレゼンタ モードに戻ることを意味します。

この設定を有効にすると、新しい人物がトリガーゾーンに入ったときに、Cameras PresenterTrack PresenterDetected ステータスが更新されます。

Precision 60 および PTZ 4K カメラのみがプレゼンタ追跡に対応しています。Codec EQ、Codec Plus、Room 70 および Room 55 Dual は、ブリーフィングルームに対応していません。ブリーフィングルームも教室もサポートされていないため、この設定は Board Pro には適用されません。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Disabled/Enabled

Disabled: モードの自動切り替えは行われません。

Enabled: ローカル プレゼンタ モードと遠隔地のプレゼンタ モードが自動的に切り替わります。

Board

Cameras PresenterTrack TriggerZone

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

トリガーゾーンを定義します。このゾーンに対応する領域で人物の頭部が検出されると、プレゼンタ追跡が開始されます。

形式は、文字列型の 2 組の x 座標と y 座標 (x1,y1,~xn,yn) です。x の範囲は (0, 1920) で、y の範囲は (0, 1080) です。2 組の座標により、長方形のトリガーゾーンの左上隅と右下隅が定義されます。座標が 3 組以上になると、多角形のトリガーゾーンの頂点が定義されます。

この機能には、プレゼンタトラックカメラとして PTZ 4K または Precision 60 Camera が必要です。

デフォルト値:

" "

値スペース:

文字列 (0, 255)

トリガーゾーンの座標。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras SpeakerTrack DefaultBehavior

適用対象: [すべての製品](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスの自動フレーミング機能は、カメラによって異なります。主要なフレーミング機能は、[ベストオーバービュー (Best overview)] (室内のすべての人をカバーできる最小のフレーム)、[クローズアップ (Closeup)] (発言中のスピーカーまたはスピーカーの近くにいるグループにズームイン)、[フレーム (Frames)] (室内にいるすべての人のクローズアップを合成し、余分なバックグラウンドを削除したもの) です。

カメラが通話後に戻る、デフォルトのフレームモードを選択します。通話中と通話していない場合の両方で、ユーザーインターフェイスから別のモードに変更できます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/BestOverview/Closeup/Current/Frames/Manual [[RoomKit](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Board](#) [BoardPro](#)]

Auto/BestOverview/Current/Manual [[DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#)]

Auto/BestOverview/Current/Frames/Manual [[RoomKitMini](#)]

Auto: BestOverview と同じです。

BestOverview: デフォルトのフレームモードは、[ベストオーバービュー (Best overview)] です。

Closeup: デフォルトのフレームモードは、[クローズアップ (Closeup)] (スピーカートラック) です。

Current: 通話が終了しても、その時点のフレームモードが維持されます。

Frames: デフォルトのフレームモードは、[フレーム (Frames)] です。

Manual: カメラを手動で制御します。パン、チルト、ズームの値は、通話を終了しても変更されません。

Board

Cameras SpeakerTrack Frames Mode

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Board](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

[フレーム (Frames)]カメラモードでは、カメラはズームして、個人または少人数のグループを表示します。これらの個別のフレームとグループフレームは、さらに 1 つの出カビデオストリームに構成されます。このストリームでは、余分なバックグラウンドが削除され、人物どうしをより近く、同じ大きさ、同じ目の高さで表示します。カメラは最大 4 つのフレームをサポートします。すべての画像処理は送信者側で行われるため、受信者側のデバイスはフレームをサポートする必要はありません。

[フレーム (Frames)]モードは、スピーカートラック機能に依存します。したがって、[フレーム (Frames)]を使用するには、Cameras SpeakerTrack Mode も[自動 (Auto)]に設定する必要があります。

この機能は、このソフトウェアバージョンの Room 70 Panorama および Room Panorama では使用できません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: ユーザーは、デバイスのユーザーインターフェイスのカメラ制御を使用して、フレームのオンとオフを切り替えることができます。

Off: フレームを使用できません。

Cameras SpeakerTrack HeadDetectorRange

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

頭部検出アルゴリズムが最適に動作する距離には制限があります。好条件にするために、デフォルト値を維持することを推奨します。部屋の側面の近くや周辺で人物トラッキングに問題が発生した場合、頭部検知の範囲を標準 (Standard) に設定することをご検討ください。この副作用の一つとして、遠くにいる人物がビューの真ん中にいた場合でも検出されない可能性があります。

Codec EQ、Codec Pro、Codec Plus の場合、Quad Camer を使用している場合のみ、この設定が適用されます。

デフォルト値:

拡張 (Extended)

値スペース:

Extended/Standard

Extended: 最も広い範囲。カメラの視野角の長方形の中心が適用されます。この長方形は、Speakertrack 診断ビューで可視化されます。

Standard: 最も狭い範囲。

Cameras SpeakerTrack ZoomRange

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

これには、ズーム範囲と画像の最大ズームの品質とのトレードオフがあります。範囲が広いほど、品質が下がります。デフォルトでは、自動カメラモードの最大のズーム範囲は、手動でのカメラ制御よりも低くなっています。

この設定では、自動カメラモードのズームレベルを手動でのカメラ制御と同等に上げることができます。この設定には、手動でのカメラ制御のズーム範囲の効果はありません。

Codec EQ、Codec Pro、Codec Plus の場合、Quad Camer を使用している場合のみ、この設定が適用されます。

デフォルト値:

Standard

値スペース:

Extended/Standard

標準: 自動カメラモードの標準ズーム範囲。

拡張: 自動カメラモードで拡張したズーム範囲。これは、手動カメラ制御の最大ズーム範囲と同じです。

Board

Cameras SpeakerTrack Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

スピーカー トラッキングやベスト オーバービューのサポートでカメラを使用する場合のみ、この設定が適用されます。

Quad Camera: 発言者追跡は自動カメラフレーミングを使用し、部屋にいる人の場所に基づいて最適なカメラ表示を選択します。Quad Cameraは、通話中のスピーカーのクローズアップを検索してキャプチャするオーディオ トラッキング技術を使用します。

SpeakerTrack 60 Camera: デュアルカメラアセンブリは、2 台のカメラで構成され、発言者のクローズアップを検索してキャプチャするオーディオ追跡技術を使用します。スピーカーの変更が検出された場合、ビデオ会議デバイスでは、最適なカメラのビューが常に適用されるように、2 台のカメラを自動的に切り替えることができます。異なるスイッチング モードについては、「Cameras SpeakerTrack TrackingMode」設定を参照してください。

内蔵発言者追跡カメラ付きビデオ会議デバイス (Room Kit、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Board Pro) : 発言者追跡は自動カメラフレーミングを使用し、室内の人の場所に基づいて最適なカメラビューを選択します。カメラは、通話中のスピーカーのクローズアップを検索してキャプチャするオーディオトラッキング技術を使用します。

[ベストオーバービュー (Best overview)] をサポートしていない、またはスピーカートラック (Room Kit Mini および Desk Series 製品) は搭載していないカメラ搭載ビデオ会議デバイス:[ベストオーバービュー (Best overview)]はユーザーが部屋のどこにいるかに基づいて最適なカメラ ビューを選択するために、自動カメラフレーミングを使用します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: スピーカートラック (Room Kit Mini、Desk Series 製品は未対応) および[ベストオーバービュー (Best overview)]がオンになります。デバイスが室内の人々を検出して自動的に最適なカメラフレーミングを選択します。ユーザーは、タッチコントローラのカメラのコントロールパネルで、機能のオン/オフを即座に切り替えることができますが、その機能は、各コールの後に再度オンになり、デバイスが次のユーザーに対応できるようになります。

Off: スピーカートラック (Room Kit Mini、Desk Series 製品は未対応) および[ベストオーバービュー (Best overview)]がオフになります。SpeakerTrack 60 Camera アセンブリがある場合、2 台のカメラは個別に動作します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cameras SpeakerTrack Closeup

適用先: RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

クローズアップ機能またはグループフレーミング機能をオンまたはオフにします。

Cameras SpeakerTrack Mode が [自動 (Auto)] に設定されている場合のみ、この設定が適用されます。クローズアップ機能をオンにすると、人が話していることがデバイスによって検出され、その人が映るように最適なフレーミングが選択されます。これはクローズ アップといい、室内のすべての人を含まない場合があります。室内のすべての人を常に表示しておきたい場合、クローズ アップ機能をオフにできます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: 動作はデバイスのタイプによって異なります。Board 55/55S/70/70S/85S および Board Pro は、部屋にいる全員を常にカメラフレーム内に保つように動作していますが、他のデバイスは、発言中のスピーカーのみ、または発言中のスピーカーの近くにいる参加者のいずれかのみズームインします (グループフレーミング)。

Off: デバイスは、室内のすべての人が常にカメラのフレームに入るように維持されます。

On: デバイスは、発言中のスピーカーまたはグループフレームにズームインします。

Cameras SpeakerTrack TrackingMode

適用対象: CodecEQ CodecPlus CodecPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、SpeakerTrack 60 カメラを使用している場合に Cameras SpeakerTrack Mode が [自動 (Auto)] に設定されている場合のみに適用されます。

スピーカーのトラッキング アルゴリズムは、2 つのモード (高速なモードと低速なモード) の変更に応じて変わります。このモードは、カメラのビューが新しいスピーカーに移行するタイミングを決定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Conservative

Auto: 通常トラッキング モードです。

Conservative: カメラのビューは、通常モードよりも遅いタイミングで新しいスピーカーに移行します。

Board

Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection Mode

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、SpeakerTrack 60 camera がビデオ会議デバイスに接続されている場合のみに適用されます。

個々のカメラが接続されているビデオ入力を自動的に検出するか、それとも手動で設定するかを定義します。ビデオ会議デバイスがカメラから EDID 情報を受信しない状況の場合、手動設定を選択する必要があります。通常、これは、EDID 情報を送信しない HDMI リピータを使用する場合にあてはまります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: カメラが接続されているビデオ入力を自動的に検出します。

Manual: カメラが接続されているビデオ入力を手動で定義します。Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft および Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight 設定を使用します。

Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraLeft

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SpeakerTrack 60 の左側のカメラが接続されているビデオ入力の数値を定義します。

この設定は、SpeakerTrack 60 camera がビデオ会議デバイスに接続されている場合のみに適用されます。さらに、Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection Mode を Manual に設定する必要があります。

Codec EQ は SpeakerTrack 60 カメラをサポートしていません。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 5) [[CodecPro](#)]

整数 (1 ~ 3) [[CodecPlus](#)]

有効なビデオ入力の番号を設定します。たとえば、左側のカメラがビデオ入力 1 に接続されている場合は、1 に設定します。

Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection CameraRight

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SpeakerTrack 60 の右側のカメラが接続されているビデオ入力の数値を定義します。

この設定は、SpeakerTrack 60 camera がビデオ会議デバイスに接続されている場合のみに適用されます。さらに、Cameras SpeakerTrack ConnectorDetection Mode を Manual に設定する必要があります。

Codec EQ は SpeakerTrack 60 カメラをサポートしていません。

デフォルト値:

2

値スペース:

整数 (1 ~ 5) [[CodecPro](#)]

整数 (1 ~ 3) [[CodecPlus](#)]

有効なビデオ入力の番号を設定します。たとえば、右側のカメラがビデオ入力 2 に接続されている場合は、2 に設定します。

Cameras SpeakerTrack Whiteboard Mode

適用先: [RoomKit](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

この設定は、このソフトウェアバージョンではサポートされていない[ホワイトボードへのスナップ (Snap to whiteboard)]機能に属しています。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Conference 設定

Conference ActiveControl Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

アクティブ コントロールは、会議参加者がビデオ会議デバイスのインターフェイスを使用して Cisco TelePresence Server または Cisco Meeting Server の会議を管理できる機能です。各ユーザーは、参加者リストの表示、ビデオ レイアウトの変更、参加者の接続解除などをインターフェイスから行えます。アクティブ コントロール機能は、インフラストラクチャ (Cisco Unified Communications Manager (CUCM) バージョン 9.1.2 以降、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) バージョン X8.1 以降、Cisco Media Server (CMS) バージョン 2.1 以降) でサポートされている限り、デフォルトで有効です。アクティブコントロール機能を無効にするには、この設定を変更します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: アクティブ コントロールがインフラストラクチャでサポートされている場合に有効になります。

Off: アクティブ コントロールは無効です。

Conference AutoAnswer Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

自動応答モードを定義します。デバイスを使用してコールに回答する前に数秒間待機する場合は、Conference AutoAnswer Delay 設定を使用し、コールに回答するときにマイクをミュートする場合は Conference AutoAnswer Mute 設定を使用します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: タッチコントローラで [応答 (Answer)] をタップし、着信コールに手で応答できます。

On: コール中でなければ、デバイスが自動的に着信コールに回答します。常に手で、通話中の着信コールの応答や拒否が行えます。

Conference AutoAnswer Mute

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

着信コールに自動応答する場合にマイクをミュートにするかどうかを定義します。[自動応答モード (AutoAnswer Mode)] が有効にされている必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 着信コールはミュートにされません。

On: 着信コールは自動的に応答されるときミュートにされます。

Conference AutoAnswer Delay

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスが自動応答するまで着信コールが待つ必要がある時間 (秒単位) を定義します。[自動応答モード (AutoAnswer Mode)] が有効にされている必要があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 50)

自動応答遅延 (秒単位)。

Conference CallProtocolIPStack

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスで通信プロトコル (SIP、H323) の IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを有効にする必要がある場合に選択します。

デフォルト値:

Dual

値スペース:

デュアル (Dual) /IPv4/IPv6

Dual: 通信プロトコルの IPv4 と IPv6 の両方をイネーブルにします。

IPv4: [IPv4] に設定すると、通信プロトコルは IPv4 を使用します。

IPv6: [IPv6] に設定すると、通信プロトコルは IPv6 を使用します。

Board

Conference CapsetFilter

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定では、H.323 および SIP 通話のメディアネゴシエーションでフィルタ処理をする必要があるメディアコーデックを指定できます。シスコとの契約が締結済みで、デバッグの目的でのみ使用してください。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、200)

フィルタ処理の定義。

Conference DefaultCall Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスからコールを発信するときに使用するデフォルトのコール プロトコルを定義します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/H323/Sip/Spark

Auto: 使用可能なプロトコルに基づいた通信プロトコルの自動選択をイネーブルにします。プロトコルが複数ある場合、優先順位は、1) SIP、2) H323 です。デバイスが登録を実行できない場合、自動選択により H323 が選択されます。

H323: すべてのコールが H.323 コールとして設定されます。

SIP: すべてのコールが SIP コールとして設定されます。

Spark: すべての通話は Webex インフラストラクチャ経由で設定されます。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Conference DefaultCall Rate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

発信する際のデフォルトの通話帯域を定義します。Webex Meetings の場合、このデフォルトは、Conference DefaultCall Webex Rate 設定によってオーバーライドされます。

通話帯域は、Conference MaxReceiveCallRate および Conference MaxTransmitCallRate 設定により、常に制限されます。該当する場合は、Conference MaxMultisiteReceiveRate および Conference MaxMultiSiteTransmitRate によっても制限されます。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/
Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

10000 [Board]

16000 [RoomPanorama / Room70Panorama]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro
Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

整数 (64 ~ 10000) [Board]

整数 (64 ~ 20000) [RoomPanorama/Room70Panorama]

デフォルト コール レート (kbps) です。

Conference DefaultCall Webex Rate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Webex Meetings で使用するデフォルトの通話帯域を定義します。この設定は、Webex クラウドサービスからソフトウェアを取得するデバイスにのみ適用されます。

通話帯域は、Conference MaxReceiveCallRate および Conference MaxTransmitCallRate 設定により、常に制限されます。

デフォルト値:

0 [RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2
RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

20000 [RoomBarPro CodecEQ]

10000 [Board]

値スペース:

整数 (0 ~ 20000) [RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

整数 (0 ~ 10000) [Board]

整数 (0 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

デフォルト コール レート (kbps) です。0 に設定すると、デフォルトの通話帯域は Conference DefaultCall Rate 設定によって定義されます。

Board

Conference DoNotDisturb DefaultTimeout

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は[サイレント (Do Not Disturb)]セッションのデフォルト期間、つまり着信通話が拒否され、不在履歴として登録される時間を決定します。セッションは、ユーザーインターフェイスを使用して早期に終了できます。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (1 ~ 1440)

DoNotDisturb (着信拒否) セッションが自動的にタイムアウトするまでの分数 (最大 1440 分、つまり 24 時間)。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Conference EmbeddedApp NotificationsOnly

適用対象: DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

組み込みアプリのサポートにより、Webex クライアントを使用している会議参加者が開始したアプリをデバイスで確認し、操作できます。

管理者は、デバイスに実際のアプリを表示するか、アプリが共有されているという通知だけを表示するかを設定できます。後者の場合、アプリを表示して操作するには、ミーティングクライアントを開く必要があります。

組み込みアプリは、デバイスの Web エンジンを使用しているので、WebEngine Mode 設定をオンにする必要があります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: ユーザーはデバイス組み込みアプリを表示して、操作することができます。

True: 組み込みアプリが共有されると通知が表示されます。デバイス上でアプリを表示したり、操作したりすることはできません。ミーティングクライアントを使用する必要があります。

Conference Encryption Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

会議の暗号化モードを定義します。会議が開始されると、数秒間画面に鍵と「Encryption On」または「Encryption Off」という文字が表示されます。

注: 暗号化オプション キーがデバイスにインストールされていない場合、暗号化モードは常に [オフ (Off)] になります。

デフォルト値:

BestEffort

値スペース:

Off/On/BestEffort

Off: デバイスは暗号化を使用しません。

On: デバイスは、暗号化されたコールだけを許可します。

BestEffort: デバイスは暗号化を可能な限り使用します。

> ポイントツーポイント コール: 相手先デバイスで暗号化 (AES-128) がサポートされている場合、コールは暗号化されます。そうでない場合は、コールは暗号化なしで送信されます。

> MultiSite コール: 暗号化されたマルチサイト会議を実現するためには、すべてのサイトが暗号化をサポートしている必要があります。そうでない場合は、会議は暗号化されません。

Conference EndToEndEncryption Identity PreferredDomain

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスが Webex のクラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされている場合にのみ使用できます。

この構成は、管理者が Control Hub からデバイスの優先ドメインを設定するときに行われます。組織に複数のドメインがある場合にのみ必要です。

デバイスは、Webex CA から証明書を要求するときはこのドメインを使用します。これにより、ドメインがデバイスを識別します。

この設定は、デバイスが自身を識別するためのアクティブな外部発行証明書を持っている場合は適用されません。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

Board

Conference EndToEndEncryption Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスが Webex のクラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされている場合にのみ使用できます。

デバイスのエンドツーエンド暗号化 (E2EE) 会議オプションを有効にします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

[オン (On)]: デバイスの E2EE の使用を有効にします。

[オフ (Off)]: デバイスの E2EE の使用を無効にします。

Conference FarEndControl Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

リモート側 (遠隔地) でビデオソースの選択やデバイスのカメラ (パン、チルト、ズーム) の操作を許可するかどうかを決定します。ローカルでカメラを制御し、ビデオソースを選択することは引き続き可能です。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: スピーカートラックが無効化されている場合のみ、ビデオソースの選択やカメラ操作が許可されます。パーソナルモードのデバイスでは遠隔操作は許可されません。

Off: 遠隔地でのビデオソースの選択やカメラ操作を許可しません。

On: 遠隔地でのすべてのデバイスでのビデオソースの選択やカメラ操作が許可されます (パーソナルと共有の両方)。デバイスが最初の FarEndControl Camera Move コマンドを受信すると、スピーカートラックは無効化され、通話が終了すると再び有効化されます。

Conference FarEndControl SignalCapability

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

遠端制御 (H.224) 信号機能モードを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 遠端制御信号機能を無効にします。

On: 遠端制御信号機能を有効にします。

Conference FarendMessage Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

制御システムまたはマクロと併用するために、ポイントツーポイント コールにおける 2 台のデバイス間でデータ送信が許可されているかどうかを切り替えます。SIP コールでのみ動作します。この設定は、遠隔メッセージ送信コマンドの xCommand のコール使用を有効化または無効化します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 2 台のデバイス間でメッセージを送信できません。

On: ポイントツーポイント コールの 2 台のデバイス間でメッセージ送信を行うことができます。

Board

Conference HideNonVideo OnCall Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

会議中に、ビデオをオフにしている参加者に表示するモードを指定します。

この機能は、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex に最適されたエクスペリエンスを有効化しているデバイスの Webex Edge にリンクされている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

非アクティブ

値スペース:

Active/Auto/Inactive/Previous

Active: 前回の通話での使用方法に関わらず、会議中にビデオをオフにしている参加者を非表示にします。

Auto: Auto では、共有デバイスの通話の最初で「Active」に、個人デバイスで「Previous」に設定します。

Inactive: 前回の通話での使用方法に関わらず、会議中にビデオをオフにしている参加者を表示します。

Previous: Previous では、最後の通話の状態と同じ設定にします。

Conference JoinLeaveNotifications

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

会議に出入りするユーザーの通知をいつ表示するかを指定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Always/Auto/Never

Always: 常にすべての通知を表示します。

Auto: 最初の 25 人の参加者の通知のみを表示します。

Never: 通知を表示しません。

Conference MaxReceiveCallRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

コールの発信または受信時に使用する最大受信ビット レートを定義します。一般に、これは個々の通話の最大受信ビットレートです。

オンプレミス登録済みデバイスの場合、各通話の最大受信ビットレートは、Conference MaxReceiveCallRate および Conference MaxMultisiteReceiveRate 設定の最低値です。MultiSite 会議の場合、Conference MaxMultisiteReceiveRate は、アクティブなすべての同時通話の集計最大値です。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

20000 [RoomBarPro CodecEQ RoomPanorama/Room70Panorama]

10000 [Board]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

整数 (64 ~ 20000) [RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

整数 (64 ~ 10000) [Board]

最大受信コール帯域 (kbps)。

Conference MaxTransmitCallRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

コールの発信または受信時に使用する最大送信ビット レートを定義します。一般に、これは個々の通話の最大送信ビットレートです。

オンプレミス登録済みデバイスの場合、各通話の最大送信ビットレートは、Conference MaxTransmitCallRate および Conference MaxMultisiteTransmitRate 設定の最低値です。MultiSite 会議の場合、Conference MaxMultisiteTransmitRate は、アクティブなすべての同時通話の集計最大値です。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

20000 [RoomBarPro CodecEQ RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

整数 (64 ~ 20000) [RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

最大送信コール帯域 (kbps)。

Board

Conference MaxMultisiteReceiveRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、デバイスに搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

許容される最大集約受信ビットレートを定義します。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブ コール間で均等に分割されます。これは、誰かが MultiSite 会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々の通話が適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大受信ビット レートは、Conference MaxReceiveCallRate 設定により定義されます。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]

15000 [RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]

整数 (64 ~ 15000) [RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

MultiSite 会議での最大集約受信コール帯域 (kbps)。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Conference MaxMultisiteTransmitRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、デバイスに搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合に適用されます。

許容される最大集約送信ビットレートを定義します。ビット レートは任意の時点におけるすべてのアクティブ コール間で均等に分割されます。これは、誰かが MultiSite 会議に参加または退出するとき、またはコールが保留 (中断) されるか再開されるときに個々の通話が適切に高速化または低速化されることを意味します。

個々のコールの最大送信ビット レートは、Conference MaxTransmitCallRate 設定により定義されます。

デフォルト値:

6000 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]

15000 [RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

値スペース:

整数 (64 ~ 6000) [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]

整数 (64 ~ 15000) [RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

MultiSite 会議での最大集約送信コール帯域 (kbps)。

Conference MicUnmuteOnDisconnect Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

すべてのコールが切断されたときに、マイクを自動的にミュート解除するかどうかを定義します。会議室またはその他の共有リソースでは、次のユーザーのためにデバイスを準備するためにこれを実行する場合があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: コール中にミュートにされている場合、コールが切断された後もマイクロフォンをミュートにされたままにします。

On: コールが切断された後にマイクロフォンのミュートを解除します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Conference Multipoint Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ポイントツーポイント ビデオ コール (2 者間のコール) から、参加者を追加してマルチポイント会議 (アドホック会議) に拡大する方法を定義します。ローカルのリソースのみに依存する組み込みの MultiSite 機能と、集中型のインフラストラクチャ (マルチポイント コントロール ユニット: MCU) をベースとする別のソリューションの両方を使用することができます。

MultiSite 機能はアップグレードされたオプションであり、MultiSite オプションキーがインストールされているデバイスでのみ利用できます。Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) に登録されている場合、デバイスは他のビデオデバイス呼び出す場合に MultiSite を使用できます。Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録されている場合、デバイスは、CUCM 会議ブリッジ、またはデバイス内蔵の MultiSite 機能を使用できます。使用するオプションは CUCM によってセットアップされます。

いずれの場合も、デバイスが会議に参加者を追加できるように MCU を呼び出す場合、MCU を介してマルチ パーティ会議がセットアップされます (直接リモート追加)。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/CUCMMediaResourceGroupList/MultiSite/Off

Auto: マルチ ポイント メソッドが自動的に選択されます。MultiSite オプション キーをデバイスにインストールして、他のデバイス (MCU 以外) を呼び出す場合、マルチパーティ会議は、組み込みの MultiSite 機能を使ってセットアップされます。参加者を追加できるのは MultiSite のホストのみです。これにより、カスケード会議ができなくなります。デバイスに MultiSite オプション キーがない場合、複数のデバイスをビデオでコールすることはできません。他のデバイス (MCU 以外) を呼び出す場合、一部のデバイスではオーディオのみの参加者を 1 人追加できるようになっています。

MultiSite オプション キーに関係なく、デバイスが会議に参加者を追加する (Direct Remote Add) MCU を呼び出す場合、MCU を介してマルチ パーティ会議をセットアップすることができます。

CUCMMediaResourceGroupList: マルチパーティ会議は、CUCM で設定された会議ブリッジによってホストされます。この設定は、CUCM 環境で CUCM によりプロビジョニングされるものであり、ユーザが手動で設定すべきではありません。

MultiSite: デバイスに MultiSite オプション キーがインストールされている場合は、組み込み MultiSite 機能を使ってマルチ パーティ会議がセットアップします。デバイスに MultiSite オプション キーがない場合、複数のデバイスをビデオでコールすることはできません。一部のデバイスではオーディオのみの参加者を 1 人追加できるようになっています。

Off: 複数のビデオのデバイスを呼び出すことはできません。デバイスが会議に参加者を追加できるように MCU を呼び出す場合、MCU を介してマルチ パーティ会議がセットアップされます (直接リモート追加)。他のデバイス (MCU 以外) を呼び出す場合、一部のデバイスではオーディオのみの参加者を 1 人追加できるようになっています。

Conference MultiStream Mode

適用対象: RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN

サポートされているデバイスでは、Conference MultiStream モードに、マルチストリームのオン/オフのオプションがあります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: 電話会議インフラストラクチャがマルチストリーム機能をサポートしている場合は、マルチストリームが使用されます。最低限必要なバージョン: CMS 2.2、CUCM 11.5、VCS X8.7。

Off: マルチストリームが無効になります。これらは常にマルチストリームを使用するため、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスには影響しません。デバイスが Webex Edge for Devices にリンクされ、Webex 最適化エクスペリエンスが有効になっている場合 (つまり、Webex Calling インフラストラクチャを介して会議に参加する場合) も同様です。

Conference IncomingMultisiteCall Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

すでにコール中または会議中の場合に着信コールを許可するかどうかを選択します。

デフォルト値:

許可

値スペース:

Allow/Deny

Allow: すでに通話している間に、誰かが電話をかけてきた場合、通知されます。着信コールを受け入れるかどうかは任意です。着信コールに回答している間、進行中のコールを保留しておくこともできますし、それらのコールをマージすることもできます (マルチパーティ ビデオ会議をサポートしている必要があります)。

Deny: すでに通話中の場合、着信コールは拒否されます。着信コールについては通知されません。ただし、コール履歴リストの不在履歴として表示されます。

Board

Conference PeopleFocus OnCall Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

人へのフォーカスを有効にするとローカルレイアウトが動的に変更され、何も映っていないバックグラウンドが切り取られ、画面上で各参加者のスペースが最適化されます。この設定は、会議参加時に人へのフォーカスを最初にオンにするかオフにするかを決定します。

これが設定されていたとしても、ユーザーは会議中に UI ([レイアウト (Layout)] ボタン) で People Focus のオン/オフを切り替えることができます。また、Conference PeopleFocus Activate および Conference PeopleFocus Deactivate コマンドも利用できます。

People Focus は、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex に最適されたエクスペリエンスを有効化しているデバイスの Webex Edge にリンクされている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

Previous

値スペース:

Auto/Active/Inactive/Previous

Auto: 共有モードデバイスでは Active のように振る舞い、個人モードデバイスでは Previous のように振る舞います。

Active: 会議参加時に人へのフォーカスをオンにします。

Inactive: 会議参加時に人へのフォーカスをオフにします。

Previous: 新規会議参加時に人へのフォーカスの初期状態 (オンまたはオフ) を前の会議の退出時の状態と同じにします。

Conference Presentation OnPlacedOnHold

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

リモート サイトで保留状態にされた後、プレゼンテーションを共有し続けるかどうかを定義します。

デフォルト値:

[アクションなし (NoAction)]

値スペース:

NoAction/Stop

NoAction: 保留しても、デバイスはプレゼンテーションの共有を停止しません。保留されている間はプレゼンテーションは共有されませんが、コールが再開されると自動的に継続されます。

Stop: リモート サイトで保留されると、デバイスはプレゼンテーションの共有を停止します。コールが再開されてもプレゼンテーションは継続されません。

Conference Presentation RelayQuality

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイント ビデオ会議をホストするデバイスに適用されます。リモート ユーザーがプレゼンテーションを共有している場合、デバイスがプレゼンテーションのトランスコーディングを行い、それをマルチポイント会議の他の参加者に送信します。[リレー品質 (RelayQuality)] 設定は、プレゼンテーション ソースに対して、高フレームレートと高解像度のどちらを優先するかを指定します。

デフォルト値:

Sharpness

値スペース:

Motion/Sharpness

Motion: できるだけ高いフレーム レートにします。高いフレーム レートが必要な場合に使用します (通常、画像の動きが激しい場合)。

Sharpness: できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

FacilityService 設定

[クイックダイヤル (Quick Dial)]機能は、UI 拡張機能とマクロを使用して作成できるため、FacilityService 構成はまもなく廃止されます。

FacilityService Service [n] CallType

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

各ファシリティサービスのコール タイプを定義します。最大 5 種類のファシリティサービスがサポートされます。ファシリティサービスは、FacilityService Service [n] Name と FacilityService Service [n] Number の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。ファシリティサービスは、ユーザーインターフェイスから利用できます。

デフォルト値:

ビデオ

値スペース:

Audio/Video

Audio: オーディオ コールには、このオプションを選択します。

Video: ビデオコールには、このオプションを選択します。

n: サービスを特定する固有 ID

範囲: 1 ~ 5

FacilityService Service [n] Name

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ファシリティサービスの名前を定義します。最大 5 種類のファシリティサービスがサポートされます。ファシリティサービスは、FacilityService Service [n] Name と FacilityService Service [n] Number の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。名前は、上部バーの疑問符アイコンをタップすると表示されるファシリティ サービス コール ボタンに表示されます。ファシリティサービスは、ユーザーインターフェイスから利用できます。

デフォルト値:

Service 1: "Live Support" その他のサービス: ""

値スペース:

文字列 (0, 1024)

ファシリティサービスの名前。

n: サービスを特定する固有 ID

範囲: 1 ~ 5

FacilityService Service [n] Number

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ファシリティサービスの番号 (URI または電話番号) を定義します。最大 5 種類のファシリティサービスがサポートされます。ファシリティサービスは、FacilityService Service [n] Name と FacilityService Service [n] Number の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。ファシリティサービスは、ユーザーインターフェイスから利用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 1024)

ファシリティサービスの番号 (URI または電話番号)。

n: サービスを特定する固有 ID

範囲: 1 ~ 5

FacilityService Service [n] Type

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

最大 5 種類のファシリティサービスを同時にサポートできます。この設定で、どのようなサービスかを選択できます。ファシリティサービスは、FacilityService Service [n] Name と FacilityService Service [n] Number の両方の設定が正しく設定されていないと使用できません。ファシリティサービスは、ユーザーインターフェイスから利用できます。

デフォルト値:

ヘルプデスク

値スペース:

Catering/Concierge/Emergency/Helpdesk/Security/Transportation/Other

Catering: ケータリング サービスには、このオプションを選択します。

Concierge: コンシェルジュ サービスには、このオプションを選択します。

Emergency: 緊急サービスには、このオプションを選択します。

Helpdesk: ヘルプ デスク サービスには、このオプションを選択します。

Security: セキュリティ サービスには、このオプションを選択します。

Transportation: 転送サービスには、このオプションを選択します。

Other: その他のオプションでカバーされないサービスには、このオプションを選択します。

n: サービスを特定する固有 ID

範囲: 1 ~ 5

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ファイル設定

Files Services OneDrive TemporaryPersonalSignIn

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

有効にすると、ユーザーは Microsoft OneDrive アカウントにサインインして、デバイスから OneDrive ファイルにアクセスできます。また、ホワイトボードにアクセスして編集し、OneDrive に保存することもできます。デバイスがスタンバイ状態になると、ユーザーは自動的にサインアウトします。

この機能は、このソフトウェアバージョンの Room 70 Panorama および Room Panorama では使用できません。

デフォルト値:

無効

値スペース:

Disabled/Enabled

Disabled: ユーザーは、デバイスから OneDrive ファイルとホワイトボードにアクセスできません。

Enabled: ユーザーはサインインすると OneDrive ファイルにアクセスし、ホワイトボードを保存できます。

GPIO 設定

GPIO Pin [n] Mode

適用対象: CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

4 つの GPIO のピンは個別に設定されます。実際の測定したピン状態 (Low/High) は、GPIO Pin [1..4] State ステータスにより取得できます。

出力モードのピンのデフォルトの状態は High (+12 V) です。

注: 出力モードに定義されたピンを設定して、強制的にラインをアクティブに Low にすることができます。High に設定すると、ラインを Low にする外部デバイスに接続されていない場合にのみラインが High になります。

デフォルト値:

[InputNoAction]

値スペース:

InputAcceptAllCalls/InputDisconnectAllCalls/InputMuteMicrophones/InputNoAction/OutputAllCallsEncrypted/OutputInCall/OutputManualState/OutputMicrophonesMuted/OutputPresentationOn/OutputStandbyActive

InputAcceptAllCalls: 着信コールでピンが High から Low に移行すると、コールが受け入れられます (Call Accept コマンドが自動的に発行されます)。

InputDisconnectAllCalls: コール中にピンが High から Low に移行すると、コールが切断されます (Call Disconnect コマンドが自動的に発行されます)。

InputMuteMicrophones: コール中にピンが High から Low に移行すると、マイクはミュートになります。コール中にピンが Low から High に移行すると、マイクがミュート解除されます (Audio Mute および Audio Unmute コマンドが自動的に発行されます)。

InputNoAction: ピン状態によってアクションはトリガーされません。ピン状態は GPIO Pin [1..4] State ステータスで読み取り可能です。

OutputAllCallsEncrypted: すべてのコールが暗号化されるとピンが Low に設定され、複数の通話が暗号化されないと High に設定されます。

OutputInCall: コール中の場合はピンが Low に設定され、コール中でない場合は High に設定されます。

OutputManualState: ピン状態を GPIO ManualState Set PinX コマンドにより High または Low に設定できます。それぞれ、+12 V または 0 V に設定されます。

OutputMicrophonesMuted: マイクがミュートされるとピンは Low に設定され、ミュート解除されると High に設定されます。

OutputPresentationOn: プレゼンテーションがアクティブになるとピンが Low に設定され、プレゼンテーションが非アクティブのときは High に設定されます。

OutputStandbyActive: デバイスがスタンバイモードのときはピンが Low に設定され、デバイスがスタンバイモードではないときは High に設定されます。

n: GPIO ピン番号。

範囲: 1 ~ 4

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

H323 設定

H323 Authentication Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

H.323 プロファイルの認証モードを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは H.323 ゲートキーパーに対して自身の認証を試行せず、通常の登録を試行します。

On: 認証が必要なことを H.323 ゲートキーパーから示されると、デバイスはゲートキーパーに対して自身の認証を試みます。デバイスとゲートキーパーの両方で、H323 Authentication LoginName と H323 Authentication Password の設定を定義する必要があります。

H323 Authentication LoginName

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスは認証のために、H.323 ゲートキーパーに H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを送信します。認証はデバイスから H.323 ゲートキーパーへの片方向認証です。つまり、デバイスはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、デバイスは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 50)

認証ログイン名。

H323 Authentication Password

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスは認証のために、H.323 ゲートキーパーに H323 認証ログイン名と H323 認証パスワードを送信します。認証はデバイスから H.323 ゲートキーパーへの片方向認証です。つまり、デバイスはゲートキーパーに認証されます。認証が不要であることを H.323 ゲートキーパーが示している場合でも、デバイスは登録を試行します。H.323 認証モードを有効にする必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 50)

認証パスワード。

H323 CallSetup Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

H.323 コールを確立するときにゲートキーパーとダイレクト コールのどちらを使用するかを定義します。

ダイレクト H.323 コールは、H323 CallSetup Mode が Gatekeeper に設定されている場合も発信できます。

デフォルト値:

Gatekeeper

値スペース:

Direct/Gatekeeper

Direct: IP アドレスに直接ダイヤルすることによってのみ、H.323 コールを発信できます。

Gatekeeper: デバイスは、H.323 コールを発信するためにゲートキーパーを使用します。このオプションを選択する場合は、H323 Gatekeeper Address も設定する必要があります。

Board

H323 Encryption AES256Support

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスは、メディア転送用に常に 128 ビット AES 暗号キーをサポートします。256 ビットキーもサポートするようにデバイスを設定できます。256 ビットキーを使用する場合、Diffie-Hellman キー交換方式の最小キーサイズは 2048 ビットである必要があります (H323 Encryption KeySize 設定を参照)。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは 128 ビット AES 暗号キーのみをサポートします。

On: デバイスは 128 ビットと 256 ビットの両方の AES 暗号キーをサポートします。

H323 Encryption KeySize

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化キーの確立時に使用する Diffie-Hellman キー交換方式の最小または最大のキー サイズを定義します。

デフォルト値:

Min1024bit

値スペース:

Max1024bit/Min1024bit/Min2048bit

Max1024bit: 最大サイズは 1024 ビットです。

Min1024bit: 最小サイズは 1024 ビットです。

Min2048bit: 最小サイズは 2048 ビットです。

H323 Gatekeeper Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ゲートキーパーの IP アドレスを定義します。H323 CallSetup Mode を Gatekeeper に設定する必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

H323 H323Alias E164

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

H.323 エイリアス E.164 は、H.323 ゲートキーパーに設定された番号計画に従ってデバイスのアドレスを定義します。E.164 エイリアスは電話番号と同じであり、アクセス コードと結合される場合もあります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 30)

H.323 Alias E.164 のアドレス。使用できる文字は、0 ~ 9、*、# です。

H323 H323Alias ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

H.323 エイリアス ID を定義します。この ID は、H.323 ゲートキーパーでデバイスのアドレス指定に使用され、コール リストに表示されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 49)

H.323 エイリアス ID。例: "firstname.lastname@company.com", "My H.323 Alias ID"

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

H323 NAT Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

H323 NAT Mode は、デバイスがプライベートネットワーク上にあり、ゲートキーパーに登録されていない場合に使用することを目的としています。H323 NAT モードを使用すると、パブリックネットワーク上のデバイスにアクセスできます。

NAT は IPv6 ではサポートされません。

注: ビデオ会議デバイスがゲートウェイに登録されている場合、H323 NAT Mode と H323 NAT Address 設定は無視されます。H323 NAT Mode ではなく、ファイアウォールトラバーサル機能を持つゲートキーパーを使用することをお勧めします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: Auto モードは、H323 NAT Address 設定で NAT アドレスを指定している場合にのみ動作します。

デバイスがゲートキーパーに登録されていない場合、デバイスのローカルアドレスがプライベートである場合、発信先のアドレス (リモート) がパブリックである場合、ローカルアドレスとリモートアドレスの両方が IPv4 の場合、NAT がオンになります。それ以外の場合は、NAT がオフになります。

つまり、プライベートネットワーク上にあるデバイスだけでなく、(プライベートネットワークの外部の) 外部デバイスにも発信することができます。プライベートネットワーク上のコールの場合、H323 NAT Address は使用されません (ただし、存在する必要があります)。パブリックネットワークへのコールでは、H323 NAT Address が使用されます。

Off: NAT がオフになっている場合、H323 NAT Address 設定は無視されます。この場合、ゲートキーパーを使用しない限り、プライベートネットワーク外のデバイスへのコールを設定することはできません。

On: NAT は常にオンになります。H323 NAT Address 設定で NAT アドレスを指定する必要があります。デバイスは、Q.931 および H.245 内にあるプライベート IP アドレスの代わりに、H323 NAT Address をシグナリングします。H323 NAT Address が間違っているか設定されていない場合、H.323 コールは設定できません。

H323 NAT Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

NAT 対応ルータの外部/グローバル IP アドレスを定義します。プライベートネットワーク外のデバイスへのコールを設定する場合は、このアドレスが公開されます。NAT Address を使用する場合の詳細については、H323 NAT Mode 設定を参照してください。

ルータで、次のポートはビデオ会議デバイスの IP アドレスにルーティングする必要があります。

* ポート 1720

* ポート 5555-6555

* ポート 2326-2487

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

IPv4 アドレス。ほとんどの場合、パブリック IP アドレスで、RFC 1918 を参照しますが、別のプライベートアドレス (より大きな企業ネットワークなど) にすることもできます。

H323 PortAllocation

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、H.323 コール シグナリングに使用される H.245 ポート番号に影響を与えます。

デフォルト値:

ダイナミック

値スペース:

Dynamic/Static

Dynamic: TCP 接続を開くとき、使用するポートをシステムが割り当てます。このようにする理由は、後続のコールで同じポートを使用しないようにするためです。一部のファイアウォールはこれを攻撃の徴候と見なします。Dynamic を選択した場合、使用される H.323 ポートは 11000 ~ 20999 です。20999 に達すると 11000 から再スタートされます。ポートは、特定の範囲内でシステムによって自動的に選択されます。ファイアウォール管理者は、どのポートがいつ使用されるかを推定しようとはなりません。指示された範囲内の割り当てスキーマがより詳細な通知なしで変更されることがあるからです。

Static: スタティックに設定すると、スタティックに事前定義された範囲 [5555-6555] 内でポート指定されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

HttpClient 設定

HttpClient Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP(S) 要求および応答を使用する外部 HTTP(S) サーバーとのコミュニケーションを許可または禁止します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ビデオ会議デバイスは外部 HTTP(S) サーバーと通信できません。

On: ビデオ会議デバイスは外部 HTTP(S) サーバーと通信できます。

HttpClient AllowHTTP

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

HttpClient Mode の設定は、外部 HTTPs サーバーとの通信を許可または禁止するために使用されます。Mode 設定では HTTP と HTTPS を区別していません。HTTP の使用を許可または禁止するには、HttpClient AllowHTTP 設定を使用する必要があります。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: ビデオ会議デバイスは、HTTPS のみで通信できます。

True: ビデオ会議デバイスは HTTPS と HTTP の両方で通信できます。

HttpClient AllowInsecureHTTPS

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

サーバーの証明書を最初に確認せずに、HTTPS を使用したサーバーとの通信をビデオ会議デバイスに許可するかどうかを選択できます。

デバイスによる証明書検証プロセスのスキップを許可する設定になっていても、自動的にスキップされません。証明書検証なしでデータをサーバーで交換するには AllowInsecureHTTPS パラメータを各 xCommand HttpClient コマンドで具体的に設定する必要があります。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: デバイスは常に、HTTPS サーバーに有効な証明書があるかどうかを確認します。証明書の検証に失敗した場合、サーバーとの通信は行われません。

True: デバイスは、サーバーと通信する前に証明書検証プロセスをスキップできます。

HttpClient UseHttpProxy

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

サービスの通信に HTTP プロキシを使用するかどうかを指定できるように、いくつかの [Http プロキシの使用 (UseHttpProxy)] 設定が用意されています。[HttpClient Httpプロキシの使用 (HttpClient UseHttpProxy)] 設定は、HttpClient コマンドを使用するマクロおよび任意の HTTP(S) リクエストに適用されます。

この設定を有効にするには、[ネットワークサービス HTTP プロキシ (NetworkServices HTTP Proxy)] 設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシサーバーをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: サーバーとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しません)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

HTTP フィードバック設定

HttpFeedback TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、ビデオ会議デバイスが任意の HTTPS 通信のために HTTPS サーバーに接続するときに適用されます (HTTP クライアントの POST/PUT/PATCH/GET/DELETE コマンドを参照してください)。電話帳、プロビジョニング、および外部ロギング サーバーについては、Phonebook Server 1 TlsVerify、Provisioning TlsVerify、Logging External TlsVerify の設定を参照してください。

デバイスと HTTPS サーバー間の接続を確立する前に、デバイスは、サーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、デバイスの CA リスト (プレインストールされているリストまたは Web インターフェイスか API を使用して手動でアップロードするリスト) に含める必要があります。

一般に、HTTPS 接続の最小 TLS (Transport Layer Security) のバージョンは 1.1 です。このルールには次の 2 つの例外があります。1) 互換性の理由で、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは、常にバージョン 1.2 を使用します。

注: アップグレード後にデバイスが初期設定にリセットされておらず、従来の NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的に On に設定されていなかった場合、CE 9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE 9.9 以降にアップグレードされたデバイスではこの値が Off に設定されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない証明書の場合、デバイスとサーバー間の接続は確立されません。

HttpFeedback UseHttpProxy

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

サービスの通信に HTTP プロキシを使用するかどうかを指定できるように、いくつかの [Httpプロキシの使用 (UseHttpProxy)] 設定が用意されています。[HttpFeedback Httpプロキシの使用 (HttpFeedback UseHttpProxy)] 設定は、ビデオデバイスから送信されたフィードバックに適用されます。

この設定を有効にするには、[ネットワークサービス HTTP プロキシ (NetworkServices HTTP Proxy)] 設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシサーバーをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: サーバーとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しません)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Logging 設定

Logging CloudUpload Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスからのログを Webex クラウドサービスにアップロードできるかどうかを指定します。デバイスログは、個人を特定できる情報でフィルタリングされた後、クラウドに送信されます。

有効にすると、デバイス自体または Control Hub からログのアップロードを開始できます。デバイスにはユーザーインターフェイスに [ログの送信 (Send logs)] ボタンが表示され、Control Hub の [デバイス (Devices)] ページに [ログの管理 (Manage Logs)] セクションが表示されます。

デバイスは、Webex クラウドサービスに登録されているか、オンプレミスサービスに登録されて Webex Edge for Devices にリンクされている必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスからのログを Webex クラウドにアップロードすることはできません。

On: デバイスからのログを Webex クラウドにアップロードできます。

Logging Debug Bluetooth

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

このオプションを有効にすると、ビデオ会議デバイスは Bluetooth 接続の設定とメンテナンスに関する詳細情報をログに記録します。この機能は、Bluetooth 接続に問題があった場合のトラブルシューティングに便利です。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 基本的な Bluetooth 情報だけをロギング。

On: Bluetooth 接続についての大量の情報をロギング。

Logging Debug Wifi

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

このオプションを有効にすると、デバイスは、デバイスとアクセス ポイントの間の Wi-Fi 接続のセットアップやメンテナンスについて詳細な情報を記録します。この機能は、WiFi 接続に問題があった場合のトラブルシューティングに便利です。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 基本 Wi-Fi 情報だけをロギング。

On: Wi-Fi 接続についての大量の情報をロギング。

Logging External Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスログをリモート syslog サーバーに保存するかどうかを指定します。Logging Mode 設定が Off に設定されている場合、この設定には効果がありません。

リモートサーバーのアドレスを Logging External Server Address 設定に入力する必要があります。External Server Port 設定に指定がない限り、標準規格 syslog ポートが使用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイス ログはリモート syslog サーバーに保存されません。

On: デバイス ログはリモート syslog サーバーに保存されます。

Board

Logging External Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

リモートログインサーバーに対して使用するプロトコルを指定します。syslog プロトコル over TLS (Transport Layer Security)、またはプレーンテキストの syslog プロトコルのいずれかを使用できます。syslog プロトコルの詳細については、RFC 5424 を参照してください。

デフォルト値:

SyslogTLS

値スペース:

Syslog/SyslogTLS

Syslog: プレーン テキストの syslog プロトコル。

SyslogTLS: syslog プロトコル over TLS。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Logging External TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、ビデオ会議デバイスがリモートの syslog サーバーに接続している場合に適用されます。通常のログ作成 (Logging External Mode 設定を参照) と監査ログ (Security Audit Logging Mode 設定を参照) の両方に適用されます。

デバイスと syslog サーバーの間の接続を確立する前に、デバイスは、サーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、デバイスの CA リスト (プレインストールされているリストまたは Web インターフェイスか API を使用して手動でアップロードするリスト) に含める必要があります。

syslog 接続の最小 TLS (Transport Layer Security) のバージョンは 1.1 です。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは syslog サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、syslog サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない証明書の場合、デバイスとサーバーの間の接続は確立されません。

Logging Internal Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

システムログをデバイス (ローカルファイル) に保存するかどうかを指定します。これらは、ログバンドルをデバイスからダウンロードした際に得られるファイルです。Logging Mode 設定が Off に設定されている場合、この設定には効果がありません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: システム ログはデバイスに保存されません。

On: システム ログはデバイスに保存されます。

Logging External Server Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

リモート syslog サーバーのアドレスを指定します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Logging External Server Port

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

リモート syslog サーバーがメッセージをリッスンするポート。0 に設定した場合、デバイスは標準の syslog ポートを使用します。syslog の標準 syslog ポートは 514 で、TLS を使用した syslog の標準 syslog ポートは 6514 です。

デフォルト値:

514

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

リモート syslog サーバーが使用しているポート番号。0 は、デバイスが標準 syslog ポートを使用することを意味します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Logging Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのロギング モード (syslog サービス) を定義します。無効にすると、syslog サービスが起動せず、システムログと監査ログのほとんどが生成されません。履歴ログと通話履歴は影響を受けません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: システムのロギング サービスを無効にします。

On: システムのロギング サービスを有効にします。

Macros 設定

Macros Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

マクロによって、ビデオ会議デバイスの一部を自動化できる JavaScript コードのスニペットを記述できます。これによりカスタム動作を作成します。デフォルトではマクロの使用は無効化されていますが、最初にマクロ エディタを開くときにデバイスでのマクロ使用を有効にするかどうか確認を求められます。デバイスのマクロの使用を手動で有効にする場合や、完全に無効にする場合は、この設定を使用します。マクロ エディタ内でのマクロの使用を無効にすることができます。ただし、デバイスがマクロをリセットするたびにマクロが自動的に再び有効化されるため、マクロの実行は永続的に無効にはなりません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: このデバイス上でのマクロの使用を完全に無効にします。

On: このデバイス上でのマクロの使用を有効にします。

Macros AutoStart

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

すべてのマクロは、マクロ ランタイムに呼び出され、ビデオ会議デバイスにおいてシングル プロセスで実行します。デフォルトでは実行されている必要がありますが、手動での停止と開始を選択することができます。自動開始が有効化されている場合、デバイスを再起動するときにランタイムは自動的に再び開始されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスの再起動後、マクロ ランタイムは自動的に開始されません。

On: デバイスの再起動後、マクロ ランタイムは自動的に開始されます。

Board

Macros Diagnostics JavascriptErrors

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

マクロまたはマクロ関連のエラーに対して診断メッセージを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: マクロで記録されたエラーを診断として公開しません。

On: マクロで記録されたエラーを診断として公開します。

Macros QuickJSEngine

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

マクロコードの実行に使用する JavaScript エンジンタイプを変更します。この設定を変更することは推奨しません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: QuickJS をマクロ JavaScript エンジンとして使用します。

Off: Duktape をマクロ JavaScript エンジンとして使用します。

Macros UnresponsiveTimeout

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

マクロは、応答しないコードを検出するために継続的に監視されます。マクロが応答しない状況は、通常はプログラムエラーを示唆するものですが、システムリソースが限られているために発生する場合があります。この値を大きくすると、より長い時間にわたってマクロを終了せずに実行できるようになります。一方、値を小さくすると、問題のあるマクロがシステムリソースを消費するのを抑えることができます。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

応答しないマクロを終了するまでの秒数を設定します。値を 0 にすると、チェックが完全に無効になります。

Network 設定

Network [n] DNS DNSSEC Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ドメイン ネーム システム セキュリティ拡張 (DNSSEC) は、DNS の拡張セットです。署名されたゾーンの DNS の応答を認証するために使用されます。署名されていないゾーンを引き続き許可します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ドメイン ネーム システム セキュリティ拡張を無効にします。

On: ドメイン ネーム システム セキュリティ拡張を有効にします。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] DNS Domain Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

DNS ドメイン名は非修飾名に追加されるデフォルトのドメイン名サフィックスです。

例: DNS ドメイン名が「company.com」で、ルックアップする名前が「MyDevice」の場合、DNS ルックアップ「MyDevice.company.com」になります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

DNS ドメイン名。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Network [n] DNS Server [m] Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

DNS サーバーのネットワーク アドレスを定義します。最大 3 つまでのアドレスを指定できます。ネットワーク アドレスが不明の場合、管理者またはインターネット サービス プロバイダーにお問い合わせます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

m: DNS サーバーを識別するインデックス。最大 3 台の DNS サーバーが許可されます。

範囲: 1 ~ 3

Network [n] IEEE8021X Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスは、イーサネット ネットワークに認証済みネットワーク アクセスを提供するために使用される。ポート ベースのネットワーク アクセス コントロールによって、IEEE 802.1X LAN ネットワークに接続できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 802.1X 認証が無効になります。

On: 802.1X 認証が有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IEEE8021X TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

TLS を使用する場合の、ローカル CA リストの証明書に対する IEEE802.1x 接続のサーバー側証明書の検証です。CA リストをビデオ会議デバイスにアップロードする必要があります。これは、デバイスの Web インターフェイスからできます。

この設定は、Network [1] IEEE8021X Eap Tls が有効 (On) の場合にのみ有効です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Off に設定する場合、ローカル CA リストに対するサーバー側 X.509 証明書を確認せずに、TLS 接続が許可されます。これは、デバイスに CA リストがアップロードされていない場合に選択する必要があります。

On: On に設定する場合、すべての TLS 接続のローカル CA リストに対して、サーバー側 X.509 証明書が検証されます。有効な証明書を持つサーバーだけが許可されます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IEEE8021X UseClientCertificate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

IEEE802.1x 接続中の、秘密キーと証明書のペアを使用した認証。認証 X.509 証明書がビデオ会議デバイスにアップロードされている必要があります。これは、デバイスの Web インターフェイスからできます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Off に設定した場合、クライアント側の証明書は使用されません (サーバー側のみ)。

On: On に設定した場合、クライアント (ビデオ会議デバイス) はサーバーと相互認証 TLS ハンドシェイクを実行します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Network [n] IEEE8021X Identity

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

802.1X 認証用のユーザー名を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

802.1X 認証用のユーザー名。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Network [n] IEEE8021X AnonymousIdentity

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

802.1X 匿名 ID 文字列は、別のトンネリングされた ID をサポートする EAP-PEAP および EAP-TTLS などの EAP (Extensible Authentication Protocol) タイプとともに、非暗号化 ID として使用されます。設定された場合、匿名 ID は最初の (非暗号化) EAP ID 要求に使用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

802.1X 匿名 ID 文字列。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IEEE8021X Eap Md5

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

MD5 (メッセージダイジェスト アルゴリズム 5) モードを定義します。これは、共有秘密に依存するチャレンジ ハンドシェイク認証プロトコルです。MD5 は弱いセキュリティです。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: EAP-MD5 プロトコルは無効になります。

On: EAP-MD5 プロトコルが有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Network [n] IEEE8021X Eap Ttls

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

TTLS (トンネル方式トランスポート層セキュリティ) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Funk Software および Certicom によって開発されました。通常 Agere Systems、Proxim および Avaya でサポートされます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: EAP-TTLS プロトコルは無効になります。

On: EAP-TTLS プロトコルが有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Network [n] IEEE8021X Eap Peap

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

PEAP (Protected Extensible Authentication Protocol) モードを定義します。クライアント証明書の要件なしで LAN クライアントを認証します。Microsoft、Cisco と RSA Security により開発されました。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: EAP-PEAP プロトコルは無効になります。

On: EAP-PEAP プロトコルが有効になります。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IPStack

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv4、IPv6、またはデュアル IP スタックを使用する必要がある場合に選択します。この設定が有効になるまで最大 30 秒かかる可能性があります。

デフォルト値:

Dual

値スペース:

デュアル (Dual) /IPv4/IPv6

Dual: [デュアル (Dual)] に設定すると、ネットワーク インターフェイスは両方の IP バージョンで同時に動作することができ、また、IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を同時に持つことができます。

IPv4: IPv4 に設定すると、デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv4 が使用されます。

IPv6: IPv6 に設定すると、デバイスのネットワーク インターフェイスで IPv6 が使用されます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Network [n] IPv4 Assignment

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスが IPv4 アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイ アドレスを取得する方法を定義します。

DHCP リクエストで使用されるクライアント識別子は、製品によって異なります。MAC アドレス (Touch 10)、「01」の後に MAC アドレス (Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Codec Plus、および Codec Pro)、および RFC 4361 で規定されている DHCP 一意の識別子 (DUID) (Room Navigator を含むその他の製品)。

デフォルト値:

DHCP

値スペース:

静的 (Static) /DHCP

Static: アドレスは、Network IPv4 Address、Network IPv4 Gateway、Network IPv4 SubnetMask の各設定 (静的アドレス) を使用して手動で設定する必要があります。

DHCP: デバイス アドレスは DHCP サーバーによって自動的に割り当てられます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IPv4 Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのスタティック IPv4 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Network [n] IPv4 Gateway

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

IPv4 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IPv4 InterfaceIdentifier

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

IPv4 DHCP に使用する識別子を選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/MAC/Opaque

MAC: デバイスは「01」の後にデバイスの MAC アドレスを識別子として送信します。

Opaque: デバイスは RFC4361 ベースの DHCP Unique Identifier (DUID) を使用します。DUID-LL (タイムスタンプなしのリンク層アドレスに基づく)。

Auto: 識別子として MAC と Opaque のどちらを使用するかは、製品によって異なります。MAC アドレス (Touch 10)、「01」の後に MAC アドレス (Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama、Board、Codec Plus、および Codec Pro)、および RFC 4361 で規定されている DHCP 一意識別子 (DUID) (Room Navigator を含むその他の製品)。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Network [n] IPv4 SubnetMask

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

IPv4 ネットワークのサブネット マスクを定義します。Network IPv4 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IPv6 Assignment

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスが IPv6 アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイアドレスを取得する方法を定義します。

DHCP リクエストで使用されるクライアント識別子は、製品によって異なります。MAC アドレス (Touch 10)、[01] の後に MAC アドレス (Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama, Board, Codec Plus, および Codec Pro)、および RFC 4361 で規定されている DHCP 一意の識別子 (DUID) (Room Navigator を含むその他の製品)。

デフォルト値:

[Autoconf]

値スペース:

静的 (Static) /DHCPv6/Autoconf

Static: デバイスおよびゲートウェイの IP アドレスは、Network IPv6 Address および Network IPv6 Gateway の設定を使用して手動で設定する必要があります。NTP アドレスや DNS サーバー アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバーから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOptions 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

DHCPv6: オプションを含むすべての IPv6 アドレスは、DHCPv6 サーバーから取得されます。詳細については RFC3315 を参照してください。Network IPv6 DHCPOptions 設定は無視されます。

Autoconf: IPv6 ネットワーク インターフェイスの IPv6 ステートレス自動設定を有効にします。詳細については RFC4862 を参照してください。NTP アドレスや DNS サーバー アドレスなどのオプションは、手動で設定するか、または DHCPv6 サーバーから取得する必要があります。Network IPv6 DHCPOptions 設定は、どの方法を使用するかを決定します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IPv6 Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのスタティック IPv6 ネットワーク アドレスを定義します。Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

ネットワーク マスクを含む有効な IPv6 アドレス。例: 2001:DB8::/48

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IPv6 Gateway

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

IPv6 ネットワーク ゲートウェイ アドレスを定義します。この設定は、Network IPv6 Assignment が Static に設定されている場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Board

Network [n] IPv6 DHCPOptions

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

DHCPv6 サーバーから一連の DHCP オプション (NTP および DNS サーバー アドレスなど) を取得します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: DHCPv6 サーバーからの DHCP オプションの取得を無効にします。

On: 選択した DHCP オプションのセットの DHCPv6 サーバーからの取得を有効にします。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] IPv6 InterfacelIdentifier

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスの IPv6 インターフェイス ID を定義します。選択したインターフェイス ID (MAC または Opaque) によって、IPv6 アドレスの一部を生成するために使用されるメソッドが決定します。これは、リンクローカル IPv6 アドレスとステートレスアドレス自動構成 (SLAAC) アドレスの両方に該当します。

アドレスには、デバイスによって生成された 64 ビットのプレフィックスと 64 ビットインターフェイス ID が含まれます。MAC では、RFC-2373 で説明するように、EUI-64 ベースのインターフェイス ID が生成されます。

Opaque では、デバイスの最初のブート時に RFC-7217 で説明するようにランダムな 64 ビットのインターフェイス ID が生成され、永遠に、または工場出荷時の状態にリセットされるまで使用されます。

デフォルト値:

MAC

値スペース:

MAC/Opaque

MAC: インターフェイス識別方法として MAC を選択します。

Opaque: インターフェイス識別方法として Opaque を選択します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] MTU

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

イーサネット MTU (最大伝送ユニット) サイズを定義します。MTU サイズは、ネットワーク インフラストラクチャでサポートする必要があります。IPv4 の場合、最小サイズは 576 で、IPv6 の場合、最小サイズは 1280 です。

デフォルト値:

1500

値スペース:

整数 ((576 ~ 1500)

MTU の値を設定します (バイト単位)。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] QoS Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

QoS (Quality of Service) は、ネットワーク内のオーディオ、ビデオ、その他のデータの優先順位を処理する手法です。QoS 設定はインフラストラクチャでサポートされている必要があります。DiffServ (差別化サービス) は、ネットワークトラフィックを分類して管理するための、シンプルかつスケラブルで粗いメカニズムを指定するネットワークングアーキテクチャです。これにより、IP ネットワークに QoS 優先順位が割り当てられます。

デフォルト値:

[Diffserv]

値スペース:

オフ (Off) /Diffserv

Off: QoS メソッドは使用されません。

Diffserv: [ネットワーク QoS Diffserv オーディオ (Network QoS Diffserv Audio)], [ネットワーク QoS Diffserv ビデオ (Network QoS Diffserv Video)], [ネットワーク QoS Diffserv データ (Network QoS Diffserv Data)], [ネットワーク QoS Diffserv シグナリング (Network QoS Diffserv Signalling)], [ネットワーク QoS Diffserv ICMPv6 (Network QoS Diffserv ICMPv6)], および [ネットワーク QoS Diffserv NTP (Network QoS Diffserv NTP)] の各設定を使用して、パケットに優先順位が付けられます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Network [n] QoS Diffserv Audio

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で音声パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。オーディオには EF を使用することをお勧めします。EF は 10 進数値 46 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

46

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内でのオーディオパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] QoS Diffserv Video

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でビデオ パケットに持たせる優先順位を定義します。プレゼンテーションチャンネル (共有コンテンツ) のパケットも、ビデオパケットのカテゴリに属します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。ビデオには AF41 を使用することをお勧めします。AF41 は 10 進数値 34 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

34

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内でのビデオパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] QoS Diffserv Data

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でデータ パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。データには AF41 を使用することをお勧めします。AF41 は 10 進数値 34 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

34

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内でのデータパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] QoS Diffserv Signalling

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内でリアルタイム処理に不可欠 (時間依存) であると考えられるシグナリング パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。シグナリングには CS3 を使用することをお勧めします。CS3 は 10 進数値の 24 で表されます。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

24

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内でのシグナリングパケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Network [n] QoS Diffserv ICMPv6

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で ICMPv6 パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。ICMPv6 には 0 を使用することをお勧めします。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内での ICMPv6 パケットの優先順位を設定します。0 は「ベスト エフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] QoS Diffserv NTP

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワーク QoS モード (Network QoS Mode)] が [Diffserv] に設定されている場合にのみ有効になります。

IP ネットワーク内で NTP パケットに持たせる優先順位を定義します。DiffServ RFC で推奨されているトラフィッククラスは、0 ~ 63 の 10 進数値にマップされます。NTP には 0 を使用することをお勧めします。

ここで設定された優先順位は、パケットがローカル ネットワークの管理者によって制御されるネットワークを出るときに上書きされる可能性があります。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 63)

IP ネットワーク内での NTP パケットの優先順位を設定します。0 は「ベストエフォート」を意味します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] RemoteAccess Allow

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

リモート アクセスで SSH/HTTP/HTTPS からデバイスに許可する IP アドレス (IPv4/IPv6) を定義します。複数の IP アドレスはスペースで区切られます。

ネットワーク マスク (IP 範囲) は <ip address>/N で指定されます。ここで N は IPv4 では 1 ~ 32 の範囲および IPv6 では 1 ~ 128 の範囲を表します。/N は最初の N ビットがセットされたネットワーク マスクの共通インジケータです。たとえば 192.168.0.0/24 は、192.168.0 で開始するどのアドレスとも一致します。これらはアドレスの最初の 24 ビットだからです。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレス。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] Speed

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR

イーサネット リンクの色を定義します。デフォルト値では、ネットワークとネゴシエートして自動的に速度が設定されます。このため、デフォルト値は変更しないことをお勧めします。自動ネゴシエーションを使用しない場合、選択した速度を、ネットワーク インフラストラクチャの最も近いスイッチがサポートしているか確認してください。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/10half/10full/100half/100full/1000full

Auto: リンク速度を自動でネゴシエートします。

10half: 10 Mbps 半二重に強制リンクします。

10full: 10 Mbps 全二重に強制リンクします。

100half: 100 Mbps 半二重に強制リンクします。

100full: 100 Mbps 全二重に強制リンクします。

1000full: 1 Gbps 全二重に強制リンクします。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

D15503.02

RoomOS

11.5

07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Network [n] TrafficControl Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ネットワーク トラフィック制御モードを定義して、ビデオ パケットの伝送速度の制御方法を決定します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ビデオ パケットをリンク速度で送信します。

On: ビデオ パケットを最大 20 Mbps で送信します。発信ネットワーク トラフィックのバーストを平滑化するために使用できます。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] VLAN Voice Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

VLAN 音声モードを定義します。Cisco UCM (Cisco Unified Communications Manager) をプロビジョニング インフラストラクチャとして使用している場合、VLAN 音声モードが Auto に自動的に設定されます。NetworkServices CDP Mode 設定が Off になっている場合は、Auto モードは機能しないことに注意してください。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual/Off

Auto: Cisco Discovery Protocol (CDP) が使用可能な場合は、音声 VLAN に ID を割り当てます。CDP を使用できない場合、VLAN は有効になりません。

Manual: VLAN ID は、Network VLAN Voice VlanId の設定を使用して手動で設定されます。CDP を使用できる場合、手動設定値は、CDP によって割り当てられた値によって却下されます。

Off: VLAN は有効になりません。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Network [n] VLAN Voice VlanId

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

VLAN 音声 ID を定義します。この設定は、Network VLAN Voice Mode が Manual に設定されている場合にだけ有効になります。

デフォルト値:

1

値スペース:

整数 (1 ~ 4094)

VLAN 音声 ID を設定します。

n: ネットワークを識別するインデックス。

範囲: 1 ~ 1

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

NetworkServices 設定

NetworkServices CDP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

CDP (Cisco Discovery Protocol) デーモンを有効または無効にします。CDP を有効にすると、デバイスは特定の統計情報とデバイス ID を CDP 対応スイッチにレポートします。CDP を無効にすると、[ネットワーク音声 VLAN モード (Network VLAN Voice Mode)]:[自動 (Auto)] 設定は機能しません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: CDP デーモンは無効です。

On: CDP デーモンは有効です。

NetworkServices H323 Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスでの H.323 コールの受発信を可能にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: H.323 コールの発信と受信の可能性を無効にします。

On: H.323 コールの発信と受信の可能性を有効にします。

NetworkServices HTTP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP または HTTPS (セキュア HTTP) プロトコルによるデバイスへのアクセスを許可するかどうかを指定します。デバイスの Web インターフェイスは HTTP または HTTPS を使用することに注意してください。この設定を Off にすると、デバイスの Web インターフェイスを使用できなくなります。

セキュリティの強化 (Web サーバーから返されるページと要求の暗号化/暗号化解除) が必要な場合、HTTPS のみを許可します。

注: 以前のソフトウェア バージョンから CE9.4 以降にアップグレードされたデバイスについては、アップグレード後に初期設定にリセットされていない場合、デフォルト値は HTTP+HTTPS となります。

デフォルト値:

HTTPS (CE9.4 では HTTP+HTTPS から HTTPS に変更)

値スペース:

Off/HTTP+HTTPS/HTTPS

Off: HTTP や HTTPS によるデバイスへのアクセスを禁止します。

HTTP+HTTPS: HTTP と HTTPS の両方によるデバイスへのアクセスを許可します。

HTTPS: HTTPS によるデバイスへのアクセスを許可し、HTTP によるアクセスを禁止します。

NetworkServices HTTP Proxy LoginName

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

これは、HTTP プロキシに対する認証に使用されるクレデンシャルのユーザー名部分です。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。MD5 アルゴリズムを使用したダイジェスト、および Basic HTTP 認証方式の HTTP 認証方式がサポートされています。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 80)

認証ログイン名。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

NetworkServices HTTP Proxy Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィックに対してプロキシ サーバーを設定できます。HTTP プロキシは手動でセットアップするか、自動設定 (PACUrl) または完全な自動化 (WPAD) を使用するか、オフにすることができます。

[ネットワークサービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が [オフ (Off)] でない場合は、どのサービスでプロキシを使用するかを、[HttpClient Httpプロキシの使用 (HttpClient UseHttpProxy)]、[HttpFeedback Httpプロキシの使用 (HttpFeedback UseHttpProxy)]、および [Webエンジン Httpプロキシの使用 (WebEngine UseHttpProxy)] の各設定で指定できます。

Webex クラウドとの通信は、NetworkServices HTTP Proxy Mode が[オフ (Off)]でない限り、常にプロキシ経由で行われます。

プロキシのモードにかかわらず、デバイスと CUCM、MRA (Expressway 経由の CUCM)、TMS との通信にはプロキシは使用されません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Manual/Off/PACUrl/WPAD

Manual: NetworkServices HTTP Proxy URL 設定にプロキシ サーバーのアドレスを入力します。必要に応じて、NetworkServices HTTP Proxy LoginName/Password 設定に HTTP プロキシのログイン名とパスワードを追加します。

Off: HTTP プロキシ モードがオフになっています。

PACUrl: HTTP プロキシは自動構成です。NetworkServices HTTP Proxy PACUrl 設定で PAC (プロキシ自動設定) スクリプトの URL を入力する必要があります。

WPAD: WPAD (Web プロキシ自動検出) を使用して、HTTP のプロキシは完全に自動化されかつ自動構成されます。

NetworkServices HTTP Proxy PACUrl

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL を設定します。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が PACUrl に設定されている必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

PAC (プロキシ自動構成) スクリプトの URL。

NetworkServices HTTP Proxy Password

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

これは、HTTP プロキシへの認証に使われるクレデンシャルのパスワード部分です。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。MD5 アルゴリズムを使用したダイジェスト、および Basic HTTP 認証方式の HTTP 認証方式がサポートされています。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

認証パスワード。

NetworkServices HTTP Proxy Url

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP プロキシ サーバーの URL を設定します。[ネットワーク サービス HTTP プロキシ モード (NetworkServices HTTP Proxy Mode)] が手動に設定されている必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

HTTP プロキシ サーバーの URL。

NetworkServices HTTPS OCSP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

クライアント証明書が Web ユーザーインターフェイスへのログイン情報として使用され、xConfiguration NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate が有効になっている場合、Online Certificate Status Protocol (OCSP) レスポンド サービスを使用して、クライアント証明書の失効ステータスを確認できます。

[モード (Mode)] が [オン (On)] に設定されている場合、Web UI はクライアント証明書の OCSP URL を調べ、ホストに接続してクライアントの証明書が有効かどうかを確認します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off/On: OCSP クライアント証明書の検証を無効または有効にします。

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Board

NetworkServices HTTPS OCSP URL

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

証明書のステータスを調べるために使用される OCSP レスポンダ (サーバー) の URL を指定します。

デフォルト値:

" "

値スペース:

文字列 (0、255)
有効な URL。

NetworkServices HTTPS Server MinimumTLSVersion

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTPS で許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.1

値スペース:

TLSv1.1/TLSv1.2
TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。
TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

NetworkServices HTTPS StrictTransportSecurity

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

HTTP Strict Transport Security ヘッダーにより、Web サイトからブラウザに対して、サイトを HTTP を使用してロードすることを避け、サイトへの HTTP を使用したアクセスはすべて HTTPS リクエストに自動変換する必要があることを通知します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On
Off: HTTP Strict Transport Security 機能が無効になります。
On: HTTP Strict Transport Security 機能が有効になります。

NetworkServices HTTPS VerifyClientCertificate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ビデオ会議デバイスが HTTPS クライアント (ウェブ ブラウザなど) に接続すると、クライアントは自分自身を識別するためにビデオ会議デバイスに証明書を提示するように要求されることがあります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On
Off: クライアント証明書を確認しません。

On: 信頼できる認証局 (CA) によって署名された証明書を提示するようクライアントに要求します。これには、信頼できる CA のリストがデバイスに事前にアップロードされている必要があります。

NetworkServices NTP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ネットワーク タイム プロトコル (NTP) は、リファレンス タイム サーバーにデバイスの時刻と日付を同期するために使用されます。時間の更新のために、タイム サーバーに定期的に照会します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual/Off
Auto: デバイスは時間を参照するために NTP サーバーを使用します。デフォルトでは、サーバーのアドレスはネットワークの DHCP サーバーから取得されます。DHCP サーバーを使用しない場合や、DHCP サーバーが NTP サーバーのアドレスを提供しない場合は、ネットワークサービス NTP サーバー [n] アドレス設定で指定された NTP サーバー アドレスが使用されます。
Manual: デバイスは、NetworkServices NTP Server [n] Address 設定で指定された NTP サーバーを使って時間を参照します。
Off: デバイスは NTP サーバーを使用しません。NetworkServices NTP Server [n] Address 設定は無視されます。

Board

NetworkServices NTP Server [n] Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

NetworkServices NTP Mode が Manual に設定された場合、および NetworkServices NTP Mode が Auto に設定されアドレスが DHCP サーバーから提供されない場合に使用される NTP サーバーのアドレスです。

デフォルト値:

"0.tandberg.pool.ntp.org"

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

n: NTP サーバーに対応する一意の ID。

範囲: 1 ~ 3

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

NetworkServices NTP Server [n] KeyId

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

NTP 情報が信頼できるソースからのものであることを確かめるためには、ビデオ会議デバイスは NTP ソースが使用する ID またはキー ペアを知っている必要があります。ID には NetworkServices NTP Server [n] KeyId 設定を使用します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 10)

NTP ソースが使用する ID/キーペアの一部である ID。

n: NTP サーバーに対応する一意の ID。

範囲: 1 ~ 3

NetworkServices NTP Server [n] KeyAlgorithm

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

NTP サーバーが使用し、ビデオ会議デバイスが時間メッセージを認証するために使用する必要がある、認証ハッシュ機能を選択します。

デフォルト値:

""

値スペース:

None/SHA1/SHA256

None: NTPサーバーはハッシュ機能を使用しません。

SHA1: NTPサーバーは SHA-1 ハッシュ機能を使用します。

SHA256: NTP サーバーは SHA-256 ハッシュ機能を使用します (ハッシュ機能の SHA-2 群から)。

n: NTP サーバーに対応する一意の ID。

範囲: 1 ~ 3

Board

NetworkServices SIP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスで SIP コールの発信および受信を可能にするかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: SIP コールの発信と受信の可能性を無効にします。

On: SIP コールの発信と受信の可能性を有効にします。

NetworkServices SMTP Mode

適用対象: RoomKitMini RoomBar DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

SMTP (簡易メール転送プロトコル) を使用するようにデバイスを設定して、デバイスから中継用のメール サーバーに電子メールを送信することができます。これは、ユーザーが組織内外の人に電子メールでホワイトボードやプレゼンテーションを送信する場合に必要です。

暗号化通信を使用するように設定されているデバイスでは ([ネットワークサービス SMTP セキュリティ (NetworkServices SMTP Security)] 設定を参照)、SMTP サーバーの証明書が検証された場合にのみ接続が許可されます。証明書チェックを無視することはできません。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: SMTP (および電子メール) サポートを無効にします。

On: 電子メールの送信用に SMTP サポートを有効にします。

NetworkServices SMTP Server

適用対象: RoomKitMini RoomBar DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

これは SMTP サーバーのアドレスです。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

NetworkServices SMTP Port

適用対象: RoomKitMini RoomBar DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

このポートは、デバイスから SMTP サーバーへの送信メールに使用されます。

暗号化の設定 (NetworkServices SMTP Security) と SMTP サーバーの要件に基づいてポート番号を設定します。デフォルト値は使用しないでください。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

デバイスからの送信電子メールに使用されるポート。

Board

NetworkServices SMTP Username

適用対象: RoomKitMini RoomBar DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

これは、SMTP サーバーでデバイスを認証するために使用されるクレデンシャルのユーザー名の部分です。この設定は、SMTP サーバーによって要求される場合があります。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 80)

有効なユーザー名。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



NetworkServices SMTP Security

適用対象: RoomKitMini RoomBar DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスと SMTP サーバー間の通信を保護するかどうかと、その方法を選択します。

この設定は、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

StartTls

値スペース:

None/StartTls/Tls

None: 暗号化なしで SMTP サーバーに接続します。

StartTls: 最初に暗号化なしで SMTP サーバーに接続してから、STARTTLS コマンドを送信して暗号化接続 (TLS) にアップグレードします。

Tls: TLS (トランスポート層セキュリティ) 経由で SMTP に接続します。

NetworkServices SNMP CommunityName

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR

SNMP コミュニティの名前を定義します。SNMP コミュニティ名は、SNMP v2c 使用時に、SNMP リクエストを認証するために使用します。管理システムからの SNMP 要求に、一致するコミュニティ名 (大文字と小文字の区別あり) が含まれていない場合、そのメッセージは破棄され、ビデオデバイスの SNMP エージェントは応答送信しません。

Cisco TelePresence Management Suite (TMS) を使用している場合は、同じ SNMP コミュニティがそこで設定されていることを確認する必要があります。

SNMP v3 を使用している場合、この設定は効果がありません。SNMP v3 のユーザーと認証は、Network SNMP USM User コマンドを使用して管理されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 50)

SNMP コミュニティ名。空の文字列は、SNMP v2c がサポートされていないことを意味します。

Board

NetworkServices SNMP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) は、IP ネットワークに接続されているネットワーク デバイスの監視と管理を行うために、ネットワーク管理システムによって使用されます。ビデオ会議 デバイスは、SNMP v2c と v3 の両方をサポートしています。管理システムが基本的なパラメータを読み書きできるように、両方のケースで、デバイスは次のオブジェクト識別子 (OID) を公開します。SNMPv2-MIB::sysDescr (読み取り)、SNMPv2 -MIB::sysObjectID (読み取り)、DISMAN-EVENT-MIB::sysUpTimeInstance (読み取り)、SNMPv2 -MIB::sysContact (読み取り/書き込み)、SNMPv2 -MIB::sysName (読み取り/書き込み)、SNMPv2 -MIB::sysLocation (読み取り/書き込み)、SNMPv2 -MIB::sysServices (読み取り)。

NetworkServices SNMP CommunityName を空の文字列 ("") に設定することで、SNMP サポートを v3 のみに制限できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

オフ (Off) /読み取り専用 (ReadOnly) /読み書き (ReadWrite)

Off: SNMP ネットワーク サービスを無効にします。

ReadOnly: SNMP ネットワーク サービスを照会のみ有効にします。

ReadWrite: SNMP ネットワーク サービスの照会とコマンドの両方を有効にします。

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

NetworkServices SNMP SystemLocation

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SNMP サーバーで使用できるロケーション情報を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 50)

ビデオデバイスのロケーション情報を表す文字列。

NetworkServices SSH Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

SSH (セキュア シェル) プロトコルは、ビデオ会議デバイスとローカル コンピュータ間でのセキュアな暗号化通信を提供できます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: SSH プロトコルは無効になります。

On: SSH プロトコルは有効になります (デフォルト)。

NetworkServices SSH HostKeyAlgorithm

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

SSH ホストキーに使用される暗号化アルゴリズムを選択します。2048 ビットのキーサイズを用いる RSA (リベスト・シャミル・エイドルマンアルゴリズム)、NIST 曲線の P-384 を用いる ECDSA (楕円曲線デジタル署名アルゴリズム)、ed25519 署名方式を用いる EdDSA (エドワード曲線デジタル署名アルゴリズム) から選択します。

デフォルト値:

RSA

値スペース:

ECDSA/RSA/ed25519

ECDSA: ECDSA アルゴリズムを使用します (nist-384p)。

RSA: RSA アルゴリズムを使用します (2048 bits)。

ed25519: ed25519 アルゴリズムを使用します。

Board

NetworkServices UPnP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

UPnP (ユニバーサル プラグ アンド プレイ) を完全に無効にするか、ビデオ会議デバイスがオンになった後または再起動した後に、短時間だけ UPnP を有効にします。

デフォルトでは、ビデオ会議デバイスをオンにするか再起動すると、UPnP が有効になります。その後、NetworkServices UPnP Timeout の設定で定義されたタイムアウト時間が経過すると、UPnP は自動的に無効になります。

UPnP が有効になると、デバイスはネットワーク上での自身のプレゼンスをアダプタイズします。このアダプタイズによって、タッチコントローラはビデオ会議デバイスを自動的に検出できるようになります。タッチコントローラとペアリングするために、手動でデバイスの IP アドレスを入力する必要はありません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: UPnP は無効になります。ビデオ会議デバイスは自身のプレゼンスをアダプタイズしないため、タッチコントローラをデバイスとペアリングするためにはデバイスの IP アドレスを手動で入力する必要があります。

On: UPnP は有効になります。ビデオ会議デバイスはタイムアウト期間が経過するまで、自身のプレゼンスをアダプタイズします。

NetworkServices UPnP Timeout

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスの電源をオンにした後または再起動した後に、UPnP を有効のままにしておく秒数を定義します。この設定を有効にするには、NetworkServices UPnP Mode を On に設定する必要があります。

デフォルト値:

600

値スペース:

整数 (0 ~ 3600)

範囲: 0 ~ 3600 秒の値を選択します。

NetworkServices Websocket

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

非セキュアおよびセキュア バージョン (ws および wss) の両方で、デバイスの API に WebSocket プロトコルから相互作用することができます。WebSocket は HTTP に結びついているため、HTTP または HTTPS を有効にしてから WebSockets を使用する必要があります (NetworkServices HTTP Mode 設定を参照)。

デフォルト値:

FollowHTTPService

値スペース:

FollowHTTPService/Off

FollowHTTPService: HTTP または HTTPS が有効な場合、WebSocket プロトコル経由での通信は許可されます。

Off: WebSocket プロトコル経由での通信は許可されません。

NetworkServices WelcomeText

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

SSH でデバイスにログインする際に、ユーザーに表示する情報を選択します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ようこそテキストは次のとおりです: ログインに成功しました (Login successfu)

On: ようこそテキストは次のとおりです: <システム名>; ソフトウェア バージョン; ソフトウェアのリリース日; ログインに成功しました (Login successful)

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

NetworkServices Wifi Allowed

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

Wi-Fi アダプタが組み込まれているデバイスは、イーサネットまたは Wi-Fi 経由でネットワークに接続できます。イーサネットと Wi-Fi の両方がデフォルトで許可され、ユーザーはどちらを使用するかをユーザーインターフェイスから選択できます。この設定を使用して、管理者はユーザーインターフェイスがセットアップできないように Wi-Fi 設定を無効にすることができます。

このデバイスは次の標準をサポートします: IEEE 802.11a, IEEE 802.11b, IEEE 802.11g, IEEE 802.11n, and IEEE 802.11ac。Codec EQ および Room Bar Pro も IEEE 802.11ax にサポートされます。

デバイスは、オープンとセキュアのネットワークの両方をサポートします。これらは、SHA-128、SHA-256 または高速移行 (Fast Transition) (802.11r) キー管理で、個人版または企業版の WPA2 と WPA3 をサポートします。

個人版では、次のキー管理プロトコルがサポートされます: WPA2-PSK および WPA3-SAE、両方に付随した CCMP128 (AES) 暗号。企業版では、IEEE 802.1X (EAP) と CCMP128 (AES) 暗号が使用できます。次の EAP タイプ がサポートされます: EAP-TLS、EAP-TTLS、EAP-FAST、PEAP (EAP-MSCHAPv2 または EAP-GTC を含む)。

デバイスの背面の定格ラベルに記載されている PID (製品 ID) に NR (無線なし) の文字が含まれている場合、デバイスは Wi-Fi をサポートしていません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: Wi-Fi は使用できません。イーサネット経由でネットワークに接続する必要があります。

True: イーサネットと Wi-Fi の両方を使用できます。

NetworkServices Wifi Settings A_MPDU

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、リアルタイムのメディアパフォーマンスを向上させることを目的としています。集成的 MAC プロトコルデータユニット (A-MPDU) がオンの場合、MAC プロトコルデータフレームはグループ化され、まとめて送信されます。受信者は、個々のフレームごとに確認するのではなく、グループの受信を確認します。これにより帯域幅が最適化されますが、データ配信が遅延する可能性があります。これは、ビデオコールデータなど、リアルタイム配信の優先順位が必要なデータには不適切です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: A-MPDU を無効にし、データがグループ化されてまとめて送信されるのではなく、リアルタイム配信の優先順位を維持するためにすぐに送信されるようにします。

On: A-MPDU を有効にし、MAC プロトコルデータフレームがグループ化され、まとめて送信されるようにします。

NetworkServices Wifi Settings FrequencyBand

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスを Wi-Fi 経由でネットワークに接続するときに使用する周波数帯を設定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

2_4Ghz/5Ghz/Auto

2_4Ghz: 2.4 GHz 帯を使用します。

5Ghz: 5 GHz 帯を使用します。

Auto: 最も強い信号が得られる周波数帯域を使用します。または、アクセスポイントがバンドステアリングで設定されている場合は、アクセスポイントによる決定に従います。

NetworkServices Wifi Enabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスが Wi-Fi 経由でのネットワーク接続を許可されている場合 (NetworkServices WIFI Allowed 設定を参照)、この設定を使用して Wi-Fi を有効または無効にすることができます。

イーサネットと Wi-Fi の両方を同時に使用することはできません。Wi-Fi を設定するときにイーサネット ケーブルが接続されている場合、そのイーサネット ケーブルを抜かないと続行できません。Wi-Fi に接続している最中にイーサネット ケーブルを接続すると、イーサネットが優先されます。イーサネット ケーブルを抜いた場合、前回接続した Wi-Fi ネットワークが使用可能であれば、デバイスはそのネットワークに自動的に接続します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: Wi-Fi は無効になります。

True: Wi-Fi が有効になります。

Board

NetworkServices XMLAPI Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスの XML API を有効化または無効化します。セキュリティ上の理由からこれを無効にできません。XML API を無効化にすると、TMS などによるリモート管理機能が制限され、デバイスに接続できなくなります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: XML API は無効になります。

On: XML API は有効になります。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Peripherals 設定

Peripherals ActivePen Enabled

適用対象: BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

アクティブペンの使用を有効化または無効化します。

デフォルト値:

True

値スペース:

True/False

True: アクティブペンが有効になっています。

False: アクティブペンは有効ではないため、ペンを使用しても効果はありません。

Peripherals InputDevice Mode

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

USB キーボードまたはワイヤレスリモート制御などのサードパーティー入力デバイスの、USB ドングルとの使用を許可するかどうかを定義します。入力デバイスはそれ自体を USB キーボードとしてアダプタイズする必要があります。ご自身で、キークリックに対する応答として行うアクションを定義して実装する必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: サードパーティー入力デバイスは許可されません。

On: サードパーティー製の USB 入力デバイスを使用して、ビデオ会議デバイスの特定の機能を制御できます。

Board

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels EmcResilience

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Board](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

多くの電磁的ノイズが存在する環境で Touch 10 タッチコントローラを使用すると、誤信号が生じる (例: 誰もタップしていないのに、タッチコントローラがタップされた状態になる) ことがあります。これを防止するには、[EMC レジリエンスモード (EMC Resilience Mode)] を有効にします。これは、Room Navigator ではなく、Touch 10 にのみ適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: EMC レジリエンスモードは無効になります。

On: EMC レジリエンスモードは有効になります。

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels HttpProxy

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [Board](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

これにより、ビデオ会議デバイスに直接接続されている (つまり、ローカルでペアリングされている) Room Navigator が外部 HTTP(S) サーバーにアクセスできるようになります。このようなアクセスを防止するには、この設定をオフにします。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: Room Navigator は、外部 HTTP(S) サーバー上のコンテンツにアクセスできます。ビデオ会議デバイスは、HTTP プロキシとして機能します。

Off: Room Navigator は外部 HTTP(S) サーバー上のコンテンツにアクセスできません。

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイスとしてタッチコントローラ (Room Navigator または Cisco Touch 10) を使用するには、タッチコントローラをデバイスにペアリングする必要があります。タッチコントローラをネットワーク (LAN) を介してペアリングする場合、これはリモートペアリングと呼ばれます。リモート ペアリングはデフォルトで許可されています。リモート ペアリングを回避する場合は、この設定をオフに切り替えてください。

Board 55/70 は、Room Navigator をサポートしておらず、Touch 10 のみをサポートしていません。Board 55S/75S/85S、Codec Plus、Codec Pro、Room Kit、Room Kit Mini、Room 55、Room 55 Dual、Room 70、Room 70 G2、Room 70 Panorama および Room Panorama は、Room Navigator と Touch 10 の両方をサポートしています。その他の製品は Room Navigator のみをサポートしています。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: タッチコントローラのリモートペアリングは許可されません。

On: タッチコントローラのリモートペアリングは許可されます。

Peripherals Profile Cameras

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスに接続されることが予想される外部カメラの数を定義します。この情報はデバイスの診断サービスで使用します。接続されたカメラの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。

デフォルト値:

Minimum1 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)]

0 [[DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#)]

値スペース:

NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5/6/7 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)]

0 [[DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#)]

NotSet: カメラの確認は実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 台のカメラがデバイスに接続されている必要があります。

0 ~ 7: デバイスへの接続が予想されるカメラの数を選択します。

Board

Peripherals Profile Cameras

適用対象: *Board*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスに接続されることが予想される外部カメラの数を定義します。この情報はデバイスの診断サービスで使われます。接続されたカメラの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。

デフォルト値:

0

値スペース:

0

0: デバイスに接続されることが予想されるカメラの数。

Peripherals Profile ControlSystems

適用対象: *すべての製品*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

サードパーティ製の制御システム (Crestron または AMX など) をビデオ会議デバイスに接続する予定であれば、定義します。この情報はビデオ会議デバイスの診断サービスで使われます。接続された制御システムの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。サードパーティ制御システムは 1 つのみサポートされるので注意してください。

1 に設定する場合、xCommand Peripherals HeartBeat コマンドを使用して、制御システムからビデオ会議デバイスにハートビートを送信する必要があります。これに失敗すると、ビデオ会議デバイスは、コントロールシステムへの接続が失われたことを示す警告を表示します。

デフォルト値:

NotSet

値スペース:

1/NotSet

1: 1 つのサードパーティ製コントロール システムをデバイスに接続する必要があります。

NotSet: サードパーティ製の制御システムの存在に対するチェックは実行されません。

Peripherals Profile NetworkSwitches

適用対象: *RoomPanorama / Room70Panorama*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスに接続されることが予想されるネットワークスイッチの数を定義します。この情報はデバイスの診断サービスで使われます。接続されたネットワーク スwitchの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。

デフォルト値:

Room Panorama: 2、Room 70 Panorama: NotSet

値スペース:

1/2/Minimum1/NotSet

NotSet: ネットワークスイッチが接続されていません。

Minimum1: 少なくとも 1 台のネットワークスイッチがデバイスに接続されている必要があります。

1-2: デバイスに接続されることが予想されるネットワークスイッチの数を指定します。

Peripherals Profile TouchPanels

適用先: *RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro*

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスに接続する予定の Cisco タッチコントローラの数 を定義します。この情報はデバイスの診断サービスで使われます。接続されたタッチコントローラの数がこの設定に一致しない場合、診断サービスによって不一致がレポートされます。

デフォルト値:

Minimum1 [*RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama*]

0 [*DeskMini Desk DeskPro BoardPro*]

値スペース:

NotSet/Minimum1/0/1/2/3/4/5 [*RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro*]

0 [*DeskMini Desk DeskPro*]

NotSet: タッチコントローラチェックは実行されません。

Minimum1: 少なくとも 1 台の Cisco タッチコントローラがデバイスに接続されている必要があります。

0 ~ 5: デバイスへの接続が予想される Cisco タッチコントローラの数を選択します。公式にサポートされているシスコタッチコントローラ数は次の通りです。Desk Series: 0、Room Panorama および Room 70 Panorama: 2、その他製品: 1。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Phonebook の設定

Phonebook Server [n] ID

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

外部電話帳の名前を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

外部の電話帳の名前。

n: 電話帳サーバーを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

Phonebook Server [n] Pagination

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

電話帳サーバーがページネーション(ウェルカムページ)に対応するかどうかを定義します。ページネーションとはサーバーが連続検索に対応しているかどうか、さらにこれらの検索がオフセットに関連付けられるかどうかを意味します。これにより、ユーザーインターフェイスは完全な検索結果を得るために必要な可能な限り多くの連続検索を実行できます。

ページネーションが無効の場合、デバイスは検索を 1 度行い、最大 100 エントリを検索結果に返します。それ以上の検索結果をさらにスクロールすることはできません。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Disabled/Enabled

Disabled: 電話帳サーバーはページネーションに対応しません。デバイスは 1 回の検索を実行します。検索結果の最大エントリ数は 100 です。

Enabled: 電話帳サーバーはページネーションに対応しています。

n: 電話帳サーバーを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

Phonebook Server [n] TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、ビデオ会議デバイスが HTTPS 経由で外部の電話帳サーバーに接続するときに適用されます。

デバイスと HTTPS サーバー間の接続を確立する前に、デバイスは、サーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、デバイスの CA リスト (プレインストールされているリストまたは Web インターフェイスか API を使用して手動でアップロードするリスト) に含める必要があります。

一般に、HTTPS 接続の最小 TLS (Transport Layer Security) のバージョンは 1.1 です。このルールには次の 2 つの例外があります。1) 互換性の理由で、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは、常にバージョン 1.2 を使用します。

注: アップグレード後にデバイスが初期設定にリセットされておらず、従来の NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的に On に設定されていなかった場合、CE 9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE 9.9 以降にアップグレードされたデバイスではこの値が Off に設定されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない証明書の場合、デバイスとサーバーの間の接続は確立されません。

Board

Phonebook Server [n] Type

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

電話帳サーバーの種類を選択します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/CUCM/Spark/TMS/VCS

Off: 電話帳を使用しません。

CUCM: 電話帳が Cisco Unified Communications Manager 上に配置されます。

Spark: Webex クラウドサービスに電話帳が配置されます。

TMS: 電話帳が Cisco TelePresence Management Suite サーバー上に配置されます。

VCS: 電話帳が Cisco TelePresence Video Communication Server 上に配置されます。

n: 電話帳サーバーを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Provisioning 設定

Provisioning Connectivity

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

この設定は、プロビジョニング サーバーからの内部または外部の設定を要求するかどうかを、デバイスが検出する方法を制御します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Internal/External/Auto

Internal: 内部コンフィギュレーションを要求します。

External: 外部コンフィギュレーションを要求します。

Auto: 内部または外部のコンフィギュレーションを要求するかどうかを自動的に NAPTR クエリーを使用して検出します。NAPTR の応答に「e」フラグがある場合、外部コンフィギュレーションが要求されます。それ以外の場合、内部コンフィギュレーションが要求されます。

Provisioning CUCM CallManagementRecords CallDiagnostics

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスがコール統計を CUCM に送信できるようにし、コール統計は CUCM のコール管理レコードに追加されます。コール統計は、コールの終了時に CUCM に送信されます。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Disabled/Enabled

Enabled: CUCM コール管理レコードのサポートを有効にします。

Disabled: CUCM コール管理レコードのサポートを無効にします。

Board

Provisioning ExternalManager Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

外部のマネージャ システムまたはプロビジョニング システムの IP アドレスまたは DNS 名を定義します。

外部マネージャのアドレス (およびパス) が設定されている場合、デバイスは起動時にこのアドレスにメッセージを送信します。このメッセージを受信すると、結果として外部マネージャ/プロビジョニング システムはそのユニットにコンフィギュレーション/コマンドを返すことができます。

CUCM または TMS プロビジョニングを使用する場合、外部マネージャ アドレスを自動的に提供するために DHCP サーバーをセットアップできます (TMS には DHCP オプション 242、CUCM には DHCP オプション 150)。Provisioning ExternalManager Address で設定されたアドレスは、DHCP によって提供されるアドレスを上書きします。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Provisioning ExternalManager AlternateAddress

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デバイスが Cisco Unified Communications Manager (CUCM) でプロビジョニングされており、冗長構成として代替の CUCM が利用可能な場合にのみ使用できます。代替 CUCM のアドレスを定義します。メインの CUCM が使用できない場合、デバイスは代替 CUCM でプロビジョニングされます。メインの CUCM が再び使用可能になると、デバイスはこの CUCM によってプロビジョニングされます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Provisioning ExternalManager Protocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

外部のマネージャ システムまたはプロビジョニング システムに要求を送信する際に、HTTP (非セキュアな通信) または HTTPS (セキュアな通信) のどちらのプロトコルを使用するかを定義します。

選択したプロトコルは、NetworkServices HTTP Mode の設定で有効になっている必要があります。

デフォルト値:

HTTP

値スペース:

HTTPS/HTTP

HTTPS: HTTPS を介してリクエストを送信します。

HTTP: HTTP を介してリクエストを送信します。

Provisioning ExternalManager Path

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

外部のマネージャ システムまたはプロビジョニング システムへのパスを定義します。この設定は、複数の管理サービスが同じサーバーに存在する場合、つまり同じ外部マネージャのアドレスを共有する場合に必要です。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

外部のマネージャ システムまたはプロビジョニング システムへの有効なパス。

Provisioning ExternalManager Domain

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

VCS プロビジョニング サーバーの SIP ドメインを定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効なドメイン名。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Provisioning Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

プロビジョニング システム (外部マネージャ) を使用してデバイスを設定できます。これにより、ビデオ会議のネットワーク管理者は複数のデバイスを同時に管理することができます。この設定により、使用するプロビジョニング システムの種類を選択します。プロビジョニングは、オフに切り替えることも可能です。詳細については、プロビジョニング システムのプロバイダー/担当者にお問い合わせください。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Off/Auto/CUCM/Edge/Webex/TMS/VCS

Off: デバイスはプロビジョニング システムによって設定されません。

Auto: DHCP サーバーでセットアップされる対象としてプロビジョニング サーバーが自動的に選択されます。

CUCM: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からデバイスに設定をプッシュします。

Edge: CUCM (Cisco Unified Communications Manager) からデバイスに設定をプッシュします。デバイスは Expressway インフラストラクチャを介して CUCM に接続します。Expressway を経由して登録するには、暗号化オプションキーがデバイスにインストールされている必要があります。

Webex: Webex クラウドサービスからデバイスに構成をプッシュします。Webex クラウドサービスに登録するには、暗号化オプションキーがデバイスにインストールされている必要があります。

TMS: TMS (Cisco TelePresence Management System) からデバイスに設定をプッシュします。

VCS: VCS (Cisco TelePresence Video Communication Server) からデバイスに設定をプッシュします。

Provisioning LoginName

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

これは、プロビジョニング サーバーでデバイスを認証するために使用されるログイン情報のユーザー名部分です。この設定は、プロビジョニング サーバーが要求する場合、使用する必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 80)

有効なユーザー名。

Provisioning Password

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

これは、プロビジョニング サーバーでデバイスを認証するために使用されるログイン情報のパスワード部分です。この設定は、プロビジョニング サーバーが要求する場合、使用する必要があります。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 64)

有効なパスワード。

Provisioning TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

この設定は、ビデオ会議デバイスが HTTPS 経由でプロビジョニング サーバーに接続するときに適用されます。

デバイスと HTTPS サーバー間の接続を確立する前に、デバイスは、サーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを確認します。CA 証明書は、デバイスの CA リスト (プレインストールされているリストまたは Web インターフェイスか API を使用して手動でアップロードするリスト) に含める必要があります。

一般に、HTTPS 接続の最小 TLS (Transport Layer Security) のバージョンは 1.1 です。このルールには次の 2 つの例外があります。1) 互換性の理由で、CUCM に登録されているデバイスの最小 TLS バージョンは 1.0 です。2) Webex クラウド サービスに登録されているデバイスは、常にバージョン 1.2 を使用します。

注: アップグレード後にデバイスが初期設定にリセットされておらず、従来の NetworkServices HTTPS VerifyServerCertificate 設定が明示的に On に設定されていなかった場合、CE 9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE 9.9 以降にアップグレードされたデバイスではこの値が Off に設定されます。

デバイスが Expressway 経由で Webex クラウドサービスや Cisco Unified Communications Manager からプロビジョニングされている場合 (MRA またはエッジとも呼ばれます)、この設定に関係なく、常に証明書のチェックが実行されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは HTTPS サーバーの証明書を確認しません。

On: デバイスは、HTTPS サーバーの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない証明書の場合、デバイスとサーバーの間の接続は確立されません。

Board

Provisioning WebexEdge

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

デバイスを Webex Edge for Devices にリンクするかどうかを定義します。リンクしたデバイスには、特定の Webex クラウドサービスへのアクセスが提供されます。

この設定は、オンプレミスサービスに登録されているデバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは Webex Edge for Devices にリンクされません。

On: デバイスは Webex Edge for Devices にリンクされます。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Proximity 設定

Proximity AlternatePort Enabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、[ネットワークサービス HTTP モード (NetworkServices HTTP Mode)] が [HTTP+HTTPS] または [HTTPS.] に設定されている場合にのみ適用されます。

デフォルトでは、プロキシミティ接続は TCP ポート 443 を使用します。この設定を使用すると、ポート 65533 でもプロキシミティ接続が許可されます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: プロキシミティ接続は常に TCP ポート 443 を使用します。

True: プロキシミティ接続は TCP ポート 443 または 65533 を使用できます。使用されるポートはクライアントによって変わります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Proximity Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

[プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定は、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスには効果がありません。クラウド登録デバイスから超音波ペアリングメッセージが送信されないようにするには、[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] を 0 に設定する必要があります。

オンプレミス登録デバイスの場合は、[プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定により、超音波ペアリングメッセージを出力するかどうかを決定します。デバイスから超音波ペアリングメッセージを出力すると、デバイスが近くにあることをシスココラボレーションクライアントで検知できます。

クライアントを使用するには、少なくとも 1 つのプロキシミティサービスを有効にする必要もあります ([プロキシミティ サービス (Proximity Services)] 設定を参照)。一般的に、すべてのプロキシミティ サービスを有効にすることをお勧めします。

[プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定と [オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定は、超音波ペアリングメッセージにのみ影響します。超音波の出力をすべて停止するには、[ルーム分析 人の存在の検出 (Room Analytics PeoplePresenceDetector)] 設定と [スタンバイ モーション検知ウェイクアップ (Standby WakeupOnMotionDetection)] 設定も [オフ (Off)] にする必要があります。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama Board BoardPro]

Off [RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro DeskMini Desk DeskPro]

値スペース:

Off/On

Off: シスコ コラボレーション クライアントはデバイスが近くにあることを検知できません。このため、プロキシミティサービスは使用できません。

On: シスココラボレーションクライアントはデバイスが近くにあることを検知できます。有効になっているプロキシミティサービスを使用できます。

Proximity Services CallControl

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

シスコ コラボレーション クライアントの基本的なコール制御機能を有効または無効にします。この設定を有効にすると、シスココラボレーションクライアントを使用してコールを制御できます (ダイヤル、ミュート、音量調節、コールの終了など)。このサービスはモバイルデバイス (iOS および Android) でサポートされます。この設定が機能するには、Proximity Mode を On にする必要があります。

デフォルト値:

無効

値スペース:

Enabled/Disabled

Enabled: シスコ コラボレーション クライアントからのコール制御が有効になります。

Disabled: シスコ コラボレーション クライアントからのコール制御が無効になります。

Proximity Services ContentShare FromClients

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

シスコ コラボレーション クライアントからのコンテンツ共有を有効または無効にします。この設定を有効にすると、シスコ コラボレーション クライアントからのコンテンツをデバイスにワイヤレスで共有できます (ラップトップ画面の共有など)。このサービスはラップトップ (OS X および Windows) でサポートされます。この設定が機能するには、Proximity Mode を On にする必要があります。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Enabled/Disabled

Enabled: シスコ コラボレーション クライアントからのコンテンツ共有が有効になります。

Disabled: シスコ コラボレーション クライアントからのコンテンツ共有が無効になります。

Proximity Services ContentShare ToClients

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

現在では、これは該当しません。

デフォルト値:

無効

値スペース:

[無効 (Disabled)]

D15503.02

RoomOS
11.5

07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RoomAnalytics 設定

RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Interval

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

環境雑音の予測を実行する間隔を設定します (有効化されている場合)。xConfiguration RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Mode を使用して、環境雑音の予測を有効または無効にすることができます。

デフォルト値:

10

値スペース:

整数 (10 ~ 60)

環境雑音の予測を実行する頻度の間隔 (秒) を設定します。

RoomAnalytics AmbientNoiseEstimation Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスは室内の固定周囲ノイズ レベル (背景雑音レベル) を算出することができます。結果は RoomAnalytics AmbientNoise レベル dBA ステータスにレポートされます。新しい周囲ノイズレベルが検出されるとステータスが更新されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: デバイスは固定周囲ノイズ レベルを定期的に予測します。

Off: デバイスは固定周囲ノイズ レベルを定期的に予測しません。

RoomAnalytics PeopleCountOutOfCall

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

このカメラと「頭部検出」を使用して、デバイスは室内にいる人数を特定できます。この設定では、どのシナリオの人数のカウントをアクティブにするかを決定します。

人数のカウントは、Desk、Desk Mini、Room Bar および Room Bar Pro で利用可能なネットワークスタンバイ (2 番目の低電力 / スタンバイステージ) でアクティブになることはありません。これらのデバイスは、人数のカウントが 0 になるまでネットワークスタンバイになりません。

Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro: Quad Camera がデバイスに接続されている場合のみ適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは、デバイスが通話中のときまたはセルフビューがオンのときのみ、人数を数えます。

On: デバイスは、セルフビューがオフになっている場合でも、通話外の数もカウントします。ホットデスクングに設定していない共有モードデバイスでは、デバイスがディスプレイオフモード (1 番目の低電力 / スタンバイステージ) の場合、人数のカウントもアクティブになります。

RoomAnalytics PeoplePresenceDetector

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

デバイスは、室内に人がいるかどうかを確認し、その結果を RoomAnalytics PeoplePresence のステータスにレポートすることができます。このデバイスでは、ルームに誰がいたかは記録として保持されず、ルームに人がいたかどうかのみが保持されます。Use the RoomAnalytics PeoplePresence Input Ultrasound および RoomAnalytics PeoplePresence Input HeadDetector 設定を使用して、超音波が頭部検知、または両方が人の存在の検知のベースになっているかを指定します。

この設定と Standby WakeupOnMotionDetection Mode 設定の両方が [オフ (Off)] になっている場合、人の存在を検出するための超音波信号は出力されません。[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定と [プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定は、人の存在の検出には影響しません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 室内の人の存在は、デバイスのステータスで報告されません。

On: 室内の人の存在が、少なくとも RoomAnalytics PeoplePresence Input Ultrasound と RoomAnalytics PeoplePresence Input HeadDetector の設定のうち 1 つをオン (On) にしている場合、デバイスのステータスにレポートされます。

Board

RoomAnalytics PeoplePresence Input HeadDetector

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定を使用して、デバイスの RoomAnalytics PeoplePresence の状態をレポートした人の存在機能を入力ソースとして、頭部検知を使用するかどうかを決定します。

通常、人の存在検知がオフ (RoomAnalytics PeoplePresenceDetector: Off) になっている場合、この設定の効果はありません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 人の存在の検知の入力ソースとして、頭部検知を使用しません。

On: 人の存在の検知の入力ソースとして、頭部検知を使用します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RoomAnalytics ReverberationTime Interval

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

RT60 を測定して RoomAnalytics ステータスにレポートする頻度を定義します。間隔は秒単位です。間隔を設定するには、[ルーム分析 残響時間 モード (RoomAnalytics ReverberationTime Mode)] 設定を有効にする必要があります。

デフォルト値:

1800

値スペース:

整数 (60 ~ 3600)

間隔 (秒単位)。

RoomAnalytics ReverberationTime Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

残響時間は、音が室内で「フェードアウトする」かまたは減衰する速度の測定です。

これは、室内の音響品質の認識に大きく関連しています。

シスコデバイスでは、音響エコーキャンセラから直接、残響時間 (RT60) を測定できます。

室内でノイズやインパルス信号を発生する必要がある従来の残響時間測定とは異なり、Cisco デバイスは RT60 を「サイレント測定」として測定します。

サイレント測定動作のため、RT60 値は暗示的で、ISO 3382-2 標準規格に従って厳密には正確ではありません。

測定では、125 Hz ~ 4 kHz の各オクターブバンドの RT60 値を測定します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: サイレント RT60 測定値をアクティブにします。

Off: サイレント RT60 測定値を非アクティブにします。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RoomAnalytics T3AlarmDetection Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

T3 アラーム検出により、デバイスは T3 火災警報器の音声信号を認識できます (T3 は米国の業界標準の警報パターンです)。アラームが検出されると、RoomAnalytics T3AlarmDetected ステータスが False から True に変わります。

重要: デバイスがアラームを検出する保証はありません。たとえば、マイクのレベルが低いと検出がブロックされます。したがって、アラームへの意識を高めるためにこの機能に頼るべきではありませんし、他の安全やセキュリティ対策および文書に取って代わるものではありません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: T3 アラーム検出は無効化されています。

On: T3 アラーム検出が有効化されています。

RoomAnalytics T3AlarmDetection Timeout

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

T3 アラーム検出が有効になっている場合、システムがアラームを検出すると、RoomAnalytics T3AlarmDetected ステータスが False から True に切り替わります。タイムアウトとして定義された秒数の間にアラームが検出されなかった場合、ステータスは False に戻ります。

デフォルト値:

10

値スペース:

整数 (5 ~ 60)

秒単位のタイムアウト期間。

RoomCleanup 設定

RoomCleanup AutoRun ContentType TemporaryAccounts

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにログインしている可能性のある一時アカウント (たとえば、エンタープライズコンテンツ管理 (ECM) サービスを介してアクセスされる OneDrive アカウント) を削除します。

デフォルト値:

Daily

値スペース:

Daily/Off

Daily: 一時的なアカウントの日次クリアを有効にします。

Off: 一時的なアカウントの日次クリアを無効化します。

RoomCleanup AutoRun ContentType WebData

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web データの毎日のルームクリーンアップを有効または無効にします。RoomCleanup AutoRun HourOfDay を使用して、時刻を設定します。

デフォルト値:

Daily

値スペース:

Daily/Off

Daily: Web データの毎日のクリーンアップを有効にします。

Off: Web データの毎日のクリーンアップを無効にします。

Board

RoomCleanup AutoRun ContentType Whiteboards

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ホワイトボードの毎日のルームクリーンアップを有効または無効にします。RoomCleanup AutoRun HourOfDay を使用して、時刻を設定します。

デフォルト値:

Daily

値スペース:

Daily/Off

Daily: ホワイトボードの毎日のクリーンアップを有効にします。

Off: ホワイトボードの毎日のクリーンアップを無効にします。

RoomCleanup AutoRun HourOfDay

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ルームクリーンアップを実行する毎日の時刻を設定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 23)

ルームクリーンアップが行われる時刻。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RoomReset 設定

RoomReset Control

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、コントロールシステムまたはマクロの使用に対するものです。マクロによって、ビデオ会議デバイスの一部を自動化できる JavaScript コードのスニペットを記述できます。これによりカスタム動作を作成します。

ルームが数分に渡って待機状態になると、ビデオ会議デバイスは、ルームがリセット可能な状態であることを示すイベントを送信できます。

この設定が有効である場合に送られるイベントは次の通りです:

```
*e RoomReset SecondsToReset: 30
```

```
** end
```

```
*e RoomReset Reset
```

```
** end
```

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: RoomReset イベントは送信されません。

On: RoomReset 制御が有効になっており、RoomReset イベントが送信されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RoomScheduler 設定

RoomScheduler BookingTimeout

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

スケジュールは、ユーザーが部屋やデバイスを予約するとすぐにフィードバックします。ただし、カレンダーサービスでは予約を確認するのに時間がかかる場合があります。予約確認に時間がかかり、その時間がここで設定した値を超えた場合、予約はクリアされ、デバイスまたは部屋は「空き」と表示されます。

Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (60 ~ 300)

確認を待機する秒数。

RoomScheduler Enabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ルームスケジューリング機能を使用すると、会議室にあるタッチコントローラから部屋を直接予約できます。部屋が使用可能な場合は、進行中の会議を延長することもできます。Webex Assistant (音声駆動型の仮想アシスタント) を使用して会議を予約または延長することもできます。

ルームスケジューリング機能では、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされている必要があります。また、予約を許可するカレンダーサービスをルームに設定する必要があります。ルームスケジューリング機能はパーソナルモードデバイスではサポートされていません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: ルームスケジューリング機能は使用できません。

True: 上記の前提条件を満たす場合、ルームスケジューリング機能を使用できます。

RTP 設定

RTP Ports Range Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

RTP ポート範囲の最初のポートを定義します。

デバイスは、RTP および RTCP メディアデータ向けに、RTP Ports Range Start および RTP Ports Range Stop 設定によって定義された範囲のポートを使用しています。RTP Video Ports Range を無効にしたときの最小範囲は 100、RTP Video Ports Range を有効にしたときの最小範囲は 20 です。

RTP Video Ports Range が有効な場合、オーディオは RTP Ports Range 設定で定義された範囲を使用し、その他のメディア データは RTP Video Ports Range 設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重ならない必要があります。

設定の変更内容は、次の発信から有効になります。

デバイスは、Webex クラウドに登録するときに別のデフォルト RTP Port Range (52050 (開始) ~ 52099 (終了)) を使用することに注意してください。

デフォルト値:

2326

値スペース:

整数 (1024 ~ 65438)

RTP ポート範囲内で最初のポートを設定します。この値は偶数にする必要があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

RTP Ports Range Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

RTP ポート範囲の最後のポートを定義します。

デバイスは、RTP および RTCP メディアデータ向けに、RTP Ports Range Start および RTP Ports Range Stop 設定によって定義された範囲のポートを使用しています。RTP Video Ports Range が有効な場合、デバイスは 1024 ~ 65436 の範囲のポートを使用します。RTP Video Ports Range を無効にしたときの最小範囲は 100、RTP Video Ports Range を有効にしたときの最小範囲は 20 です。

RTP Video Ports Range が有効な場合、オーディオは RTP Ports Range 設定で定義された範囲を使用し、その他のメディア データは RTP Video Ports Range 設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重ならない必要があります。

設定の変更内容は、次回の発信から有効になります。

デバイスは、Webex クラウドに登録するときに別のデフォルト RTP Port Range (52050 (開始) ~ 52099 (終了)) を使用することに注意してください。

デフォルト値:

2487

値スペース:

整数 (1121 ~ 65535)

RTP ポート範囲内で最後のポートを設定します。この値は奇数にする必要があります。偶数値を入力すると、自動的に 1 が加算されます。

RTP Video Ports Range Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

RTP ビデオ ポート範囲の最初のポートを定義します。

開始と終了の値の両方が 0 に設定されている場合、RTP Video Ports Range は無効です。有効にするには、最初のポートを 1024 から 65454 までの値に設定し、最後のポートを 1024 から 65535 までの値に設定します。最小範囲は 80 です。

RTP Video Ports Range が有効な場合、オーディオは RTP Ports Range 設定で定義された範囲を使用し、その他のメディア データは RTP Video Ports Range 設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重ならない必要があります。

設定の変更内容は、次回の発信から有効になります。

デバイスは、Webex クラウドに登録するときに別のデフォルト RTP Video Port Range (52200 (開始) ~ 52299 (終了)) を使用することに注意してください。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0, 1024 ~ 65454)

RTP ビデオ ポート範囲の最初のポートを設定します。

RTP Video Ports Range Stop

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

RTP ビデオ ポート範囲の最後のポートを定義します。

開始と終了の値の両方が 0 に設定されている場合、RTP Video Ports Range は無効です。有効にするには、最初のポートを 1024 から 65454 までの値に設定し、最後のポートを 1024 から 65535 までの値に設定します。最小範囲は 80 です。

RTP Video Ports Range が有効な場合、オーディオは RTP Ports Range 設定で定義された範囲を使用し、その他のメディア データは RTP Video Ports Range 設定で定義された範囲を使用します。2 つの範囲は重ならない必要があります。

設定の変更内容は、次回の発信から有効になります。

デバイスは、Webex クラウドに登録するときに別のデフォルト RTP Video Port Range (52200 (開始) ~ 52299 (終了)) を使用することに注意してください。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0, 1024 ~ 65535)

RTP ビデオ ポート範囲の最後のポートを設定します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Security 設定

Security Audit Logging Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: AUDIT

監査ログを記録または送信する場所を定義します。監査ログは syslog サーバーに送信されません。Logging Mode 設定が Off に設定されている場合、この設定には効果がありません。

External モードまたは ExternalSecure モードを使用する場合は、Security Audit Server Address 設定に監査サーバーのアドレスを入力する必要があります。

デフォルト値:

Internal

値スペース:

External/ExternalSecure/Internal/Off

External: デバイスは外部監査 syslog サーバーに監査ログを送信します。syslog サーバーでは UDP をサポートする必要があります。

ExternalSecure: デバイスは、監査 CA リストの証明書で検証された外部 syslog サーバーに暗号化された監査ログを送信します。監査 CA リスト ファイルが Web インターフェイスからデバイスにアップロードされている必要があります。CA のリストの証明書の common_name パラメータは syslog サーバーの IP アドレスまたは DNS 名と一致する必要があり、セキュア TCP サーバーでセキュア (TLS) TCP syslog メッセージをリッスンするように設定される必要があります。

Internal: デバイスは内部ログに監査ログを記録し、満杯になるとログをローテーションします。

Off: 監査ロギングは実行されません。

Security Audit OnError Action

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: AUDIT

syslog サーバーへの接続が失われた場合の動作を定義します。この設定は、Security Audit Logging Mode が ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

デフォルト値:

Ignore

値スペース:

Halt/Ignore

Halt: 停止状態が検出された場合、デバイスはリブートし、停止期間が経過するまでは監査役だけが装置の操作を許可されます。停止状態が過ぎ去ると、監査ログは syslog サーバーに再スプールされます。ネットワークの違反 (物理リンクなし)、動作中の外 Syslog サーバーが存在しない (または syslog への間違ったアドレスまたはポート)、TLS 認証が失敗した (使用中の場合)、ローカル バックアップ (再スプール) ログがいっぱいになった、などの停止状態があります。

Ignore: デバイスは通常の動作を続行し、満杯になった場合は内部ログをローテーションします。接続が復元されると syslog サーバーに再度監査ログを送信します。

Security Audit Server Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: AUDIT

監査ログの送信先である syslog サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を設定します。この設定は、Security Audit Logging Mode が External または ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

Board

Security Audit Server Port

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: AUDIT

監査ログは syslog サーバーに送信されます。デバイスが監査ログを送信する syslog サーバーのポートを定義します。この設定は、Security Audit Server PortAssignment が Manual に設定されている場合にのみ関連します。

デフォルト値:

514

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

監査サーバーのポートを設定します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Security Audit Server PortAssignment

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: AUDIT

監査ログは syslog サーバーに送信されます。外部 syslog サーバーのポート番号の割り当て方法を定義できます。この設定は、Security Audit Logging Mode が External または ExternalSecure に設定されている場合のみ関連します。使用しているポート番号を確認するために、Security Audit Server Port 状態をチェックできます。Web インターフェイスで [セットアップ (Setup)] > [ステータス (Status)] に移動するか、コマンドライン インターフェイスの場合はコマンド xStatus Security Audit Server Port を実行します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: [セキュリティ監査ロギング モード (Security Audit Logging Mode)] が [外部 (External)] にセットされている場合、UDP ポート番号 514 を使用します。Security Audit Logging Mode が ExternalSecure にセットされている場合、TCP ポート番号 6514 を使用します。

Manual: [セキュリティ監査サーバーのポート (Security Audit Server Port)] 設定で定義されたポート値を使用します。

Security Fips Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

必要に応じて、デバイスを FIPS モードに設定することができます (連邦情報処理標準 (FIPS) 140-3、「暗号化モジュールのセキュリティ要件」)。FIPS モード中、デバイスと HTTP プロキシの間では、ダイジェストアクセス認証はサポートされていません。これはダイジェストアクセス認証では FIPS で許可されていない MD5 暗号化ハッシュを使用するためです。

FIPS モードでは、HTTPS のみを許可し、SNMP や IEEE8021X に切り替えないようにする (デフォルト値を保持する) 必要があります。

この設定に対する変更を完全に反映させるには、デバイスを再起動する必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは FIPS モードではありません。

On: デバイスが FIPS モードになります。

Security Session FailedLoginsLockoutTime

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザーが Web または SSH セッションのログインに失敗したあと、デバイスがユーザーをロックアウトする時間を定義します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

60

値スペース:

整数 (0 ~ 10000)

ロックアウト時間 (分) を設定します。

Board

Security Session InactivityTimeout

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザーが Web または SSH セッションから自動的にログアウトされるまでに、デバイスがユーザーの非アクティブ状態をどれくらいの時間受け入れるかを定義します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 10000)

非アクティブタイムアウト (分) を設定します。0 を指定すると、1 時間のタイムアウトになります。最大タイムアウト長は 12 時間です。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Security Session MaxFailedLogins

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web または SSH セッションにログイン試行を失敗できるユーザー 1 人あたりの最大数を定義します。ユーザーが試行の最大数を超えた場合、ユーザーはロックアウトされます。0 は、失敗できるログインの回数に制限がないことを意味します。

この設定に対する変更を反映するには、デバイスを再起動します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 10)

ユーザー 1 人あたりの失敗できるログイン試行の最高回数を設定します。

Security Session MaxSessionsPerUser

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザー 1 人あたりの最大同時セッション数は 20 セッションです。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1 ~ 20)

ユーザー 1 人あたりの最大同時セッション数を設定します。

Security Session MaxTotalSessions

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

同時セッションの合計最大数は 20 セッションです。

デフォルト値:

20

値スペース:

整数 (1 ~ 20)

同時セッションの合計最大数を設定します。

Security Session ShowLastLogon

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

SSH を使用してデバイスにログインすると、前回ログインに成功したセッションのユーザー ID、時刻および日付が表示されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: 最後のセッションに関する情報を表示します。

Off: 最後のセッションに関する情報を表示しません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

リモートでペアリングされた Room Navigator からの Web ソケット経由の API へのアクセスを有効化または無効化します。API アクセスを必要とする一般的なユースケースは、Room Navigator の LED の色を制御する永続的な Web アプリ (カスタム予約アプリなど) です。API アクセスが無効化されている場合でも、デバイスの API との通信を必要としないアプリは、引き続き Room Navigator で実行されます。

注: 永続的な Web アプリは、ネットワークを介してデバイスにペアリングされている Room Navigator でのみ使用できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

True: Room Navigator は、デバイスが一般的に Web ソケットを介した API との対話を許可するように設定されている場合に限り、WebSockets を介してデバイスの API と対話することができます (NetworkServices HTTP Mode: HTTPS または HTTP+HTTPS および NetworkServices Websocket: FollowHTTPService)。また、アプリをホストするサーバーのドメインは、WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts 設定にリストされている必要があります。

False: Room Navigator は、Web ソケットを介してデバイスの API と対話することを許可されていません。

SerialPort 設定

SerialPort Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

シリアル ポートを有効/無効にします。デバイスに複数のシリアルポートがある場合、この設定はすべてのシリアルポートに適用されます。

この設定は、第 1 世代の Board (Board 55 および Board 70) では使用できません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: シリアル通信が無効になります。

On: シリアル通信が有効になります。

SerialPort BaudRate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

シリアルポートのボーレート (データ転送速度) を設定します。新しいボーレートは、デバイスの再起動後に有効になります。

シリアル ポートの他の接続パラメータは次の通りです。データ ビット: 8。パリティ: なし。ストップ ビット: 1。フロー制御: なし。

この設定は、専用のメンテナンスポート (マイクロ USB) には影響しません。メンテナンスポートでは、常にデフォルトのボーレートが使用されます。

この設定は、第 1 世代の Board (Board 55 および Board 70) では使用できません。

デフォルト値:

115200

値スペース:

115200 [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

9600/19200/38400/57600/115200 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

リストからボーレートを選択します (ビット/秒)。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SerialPort LoginRequired

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

シリアルポートに接続するときにログインが必要かどうかを定義します。デバイスに複数のシリアルポートがある場合、この設定はすべてのシリアルポートに適用されます。

この設定は、第 1 世代の Board (Board 55 および Board 70) では使用できません。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ユーザーはログインせずに、シリアル ポート経由でデバイスにアクセスできます。

On: シリアル ポート経由でデバイスに接続するときに、ログインが必要です。

SIP 設定

SIP ANAT

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ANAT (Alternative Network Address Types) は RFC 4091 で規定されている複数のアドレスとアドレス タイプのメディア ネゴシエーションを有効にします。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: ANAT を無効にします。

On: ANAT を有効にします。

SIP Authentication UserName

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのユーザー名部分です。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なユーザー名。

SIP Authentication Password

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

これは、SIP プロキシへの認証に使用されるクレデンシャルのパスワード部分です。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

Board

SIP DefaultTransport

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

LAN で使用するトランスポート プロトコルを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/TCP/Tls/UDP

TCP: デバイスはデフォルトの転送方法として常に TCP を使用します。

UDP: デバイスはデフォルトの転送方法として常に UDP を使用します。

Tls: デバイスはデフォルトの転送方法として常に TLS を使用します。TLS 接続の場合、SIP CA リストをデバイスにアップロードできます。該当する CA リストがデバイスにない場合は、ディフィー ヘルマン匿名認証が使用されます。

Auto: デバイスは、TLS、TCP、UDP の順序でトランスポート プロトコルを使用して接続を試みます。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP Ice DefaultCandidate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ICE プロトコルには、使用するメディア ルートを決定するまでの時間 (最大で通話開始から 5 秒間) が必要となります。この時間内に、この設定に従って、デバイスのメディアがデフォルトの候補に送信されます。

デフォルト値:

Host

値スペース:

Host/Rflx/Relay

Host: メディアをデバイスのプライベート IP アドレスに送信します。

Rflx: TURN サーバーが認識しているデバイスのパブリック IP アドレスにメディアを送信します。

Relay: TURN サーバーで割り当てられた IP アドレスおよびポートにメディアを送信します。

SIP Ice Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ICE (Interactive Connectivity Establishment、RFC 5245) は、最適化されたメディア パスの検出にデバイスで使用できる NAT トラバーサル ソリューションです。このため、音声とビデオの最短ルートがデバイス間で常に確保されます。メディアパスを設定すると、最初に STUN (Session Traversal Utilities for NAT) メッセージが交換されます。

なお、SIP Ice Mode に関係なく、STUN は NAT バインディングを更新するキープアライブ メカニズムとしても使用されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: TURN サーバーが提供されている場合は ICE が有効になり、提供されていない場合は ICE が無効になります。

Off: ICE が無効になります。

On: ICE が有効になります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP Line

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、デバイスを共有電話の一部にできます。これは、複数のデバイスが同じディレクトリ番号を共有することを意味します。RFC 4235 で規定されているように、同じ番号を共有する各デバイスは、ライン上のもう一方のアピアランスからステータスを受け取ります。

共有回線はデバイスではなく CUCM によって設定されることに注意してください。そのため、手動でこの設定を変更しないでください。CUCM は必要に応じてこの情報をデバイスにプッシュします。

デフォルト値:

Private

値スペース:

Private/Shared

Shared: デバイスは共有電話の一部であるため、ディレクトリ番号を他のデバイスと共有します。

Private: このデバイスは共有電話の一部ではありません。

SIP ListenPort

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンまたはオフにします。オフにした場合、デバイスは SIP プロキシ (CUCM または VCS) を介してのみ到達可能になります。セキュリティ対策として、デバイスが SIP プロキシに設定されている場合は SIP ListenPort をオフにする必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: デバイスが SIP プロキシに登録されている場合、SIP TCP/UDP ポートでの着信接続に対するリスニングは自動的にオフになります。それ以外の場合は、オンになります。

Off: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオフにします。

On: SIP TCP/UDP ポートでの着信接続のリッスンをオンにします。

SIP Mailbox

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) に登録すると、個人用ボイス メールボックスを所有するオプションが与えられます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な番号またはアドレス。ボイス メールボックスがない場合は、文字列を空のままにしておきます。

SIP MinimumTLSVersion

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

SIP で許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.0

値スペース:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以上をサポートします。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以上をサポートします。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以上をサポートします。

Board

SIP PreferredIPSignaling

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

シグナリングの優先 IP バージョンを定義します (音声、ビデオ、データ)。Network IPStack および Conference CallProtocolIPStack の両方が Dual に設定されていて、ネットワークに優先 IP バージョンを選択するメカニズムがない場合にのみ使用可能です。また、優先 IP バージョンが登録に使用されるように、DNS で A/AAAA ルックアップのプライオリティを指定します。

デフォルト値:

IPv4

値スペース:

IPv4/IPv6

IPv4: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv4 です。

IPv6: シグナリングの優先 IP バージョンは IPv6 です。

SIP Proxy [n] Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

プロキシ アドレスは発信プロキシに手動で設定されたアドレスです。完全修飾ドメイン名、または IP アドレスを使用することが可能です。デフォルト ポートは、TCP および UDP の場合は 5060 ですが、もう 1 ポート準備できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または DNS 名。

n: プロキシを識別するインデックス (最大 4 つのプロキシを定義できます)。

範囲: 1 ~ 4

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP TlsVerify

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

SIP TLS 経由の接続を確立する前に、デバイスは、信頼できる認証局 (CA) がピアの証明書に署名しているかどうかを確認します。CA が CA リストに含まれており、Web インターフェイスまたは API を使用して手動でデバイスにアップロードされている必要があります。プレインストールされている証明書リストは、SIP TLS 接続の証明書の検証には使用されません。

注: アップグレード後にデバイスが初期設定にリセットされておらず、この設定が明示的に On に設定されていない場合、CE 9.8 以前のソフトウェア バージョンから CE 9.9 以降にアップグレードされたデバイスではこの値が Off に設定されます。

どの TLS バージョンを許可するかを指定するには、SIP MinimumTLSVersion 設定を使用します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスはピアの証明書を確認しません。いずれにしても SIP TLS 接続が確立されます。

On: デバイスは、ピアの証明書が信頼できるかどうかを確認します。信頼できない場合、SIP TLS 接続は確立されません。

SIP Turn Server

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

TURN (Traversal Using Relay NAT) サーバーのアドレスを定義します。これはメディア リレー フォールバックとして使用され、また、デバイス固有のパブリック IP アドレスを検出するためにも使用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

推奨する形式は、DNS SRV record (例: _turn._udp.<domain>) または、有効な IPv4 または IPv6 アドレスです。

Board

SIP Turn UserName

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

TURN サーバーへのアクセスに必要なユーザー名を定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なユーザー名。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SIP URI

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

SIP URI (Uniform Resource Identifier) は、デバイスの識別に使用されるアドレスです。URI が登録され、SIP サービスによりデバイスへの着信コールのルーティングに使用されます。SIP URI 構文は RFC 3261 で定義されています。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

SIP URI 構文に準拠したアドレス (URI)。

SIP Turn Password

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

TURN サーバーへのアクセスに必要なパスワードを定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

有効なパスワード。

SIP Type

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ベンダーまたはプロバイダーに対する SIP 拡張および特別な動作を有効にします。

デフォルト値:

Standard

値スペース:

Standard/Cisco

Standard: 標準 SIP プロキシに登録する場合はこれを使用します (Cisco TelePresence VCS でテスト済み)。

Cisco: Cisco Unified Communications Manager に登録する場合はこれを使用します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Standby 設定

Standby BootAction

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

ビデオ会議デバイスの再起動後のカメラの位置を定義します。

デフォルト値:

DefaultCameraPosition [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk BoardPro]

RestoreCameraPosition [DeskPro Board]

値スペース:

None/DefaultCameraPosition/RestoreCameraPosition

None: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ会議デバイスを再起動すると、カメラは再起動前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ会議デバイスを再起動すると、カメラは工場出荷時のデフォルトの位置に移動します。

Standby Control

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスがスタンバイ モードに移行するかどうかを定義します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

On [RoomPanorama/Room70Panorama]

Off: デバイスはスタンバイ モードを開始しません。

On: Standby Delay がタイムアウトすると、デバイスはスタンバイ モードを開始します。

Standby Delay

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

スタンバイ モードに入るまでにデバイスがアイドル モードのまま経過する時間の長さ (分単位) を定義します。

[スタンバイ制御 (Standby Control)] が有効である必要があります。

デフォルト値:

10 [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro]

4 [Board BoardPro]

値スペース:

整数 (1 ~ 480)

スタンバイ遅延 (分) を設定します。

Standby Level Networked Delay

適用先: RoomBar RoomBarPro DeskMini Desk

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスがスタンバイ モードの「Networked」レベルに入るまで前に、スタンバイ モードの「Display Off」レベルにある時間の長さ (分単位) を定義します。

遅延が 0 に設定されている場合、デバイスは「Display Off」レベルをスキップしてネットワーク スタンバイに直接移行します。

デフォルト値:

2

値スペース:

整数 (1 ~ 1440)

スタンバイ レベルのネットワーク遅延を設定します (分単位)。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Standby Level Networked Mode

適用先: RoomBar RoomBarPro DeskMini Desk

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ネットワーク スタンバイ モードへの自動移行を無効または有効にします。

[ネットワークスタンバイ (Networked standby)]モードは、通常のスタンバイモードよりもさらに消費電力を削減する、より深いレベルのスタンバイです。

デバイスは、Standby Level Networked Delay 設定で定義されているように、x 分間「DisplayOff」レベルになった後、「ネットワーク」レベルのスタンバイモードになります。

スタンバイ モードを自動的に開始するには、[スタンバイ制御 (Standby Control)] 設定を [オン (On)] に設定する必要があります。ただし、 Standby Activate コマンドを使用して手動でトリガーできます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

On: Standby Level Networked Delay がタイムアウトすると、デバイスはスタンバイモードに入ります。

Off: デバイスは「Networked」スタンバイモードに入りません。

Standby Halfwake Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

自動ハーフウェイク モードを無効または有効にします。

デフォルトでは、デバイスは非アクティブ状態が 2 分間続くとハーフウェイク モードになります。

アクティビティが検出されるか、スタンバイ モードになるまで、ハーフウェイク モードのままになります。

[スタンバイ制御 (Standby Control)] 設定で有効になっている場合、[スタンバイ ハーフウェイク モード (Standby Halfwake Mode)] の設定に関係なく、

デバイスは、非アクティブ状態が x 分間続くとスタンバイ状態になります。ここで、x は [スタンバイ遅延 (Standby Delay)] 設定によって定義されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

[自動 (Auto)]: デフォルトでは、デバイスは非アクティブ状態が 2 分間続くとハーフウェイクモードになります。有効になっている場合、アクティブ モードまたはスタンバイ モードになるまで、ハーフウェイク モードのままになります。

[手動 (Manual)]: 自動ハーフウェイク モードは無効になっています。xCommand Standby Halfwake を使用して手動でのみトリガーできます。

Standby Signage Audio

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デフォルトでは、デバイスは、Web ページに音声がある場合でも、デジタル信号モードで音声を再生しません。この設定を使用して、デフォルトの動作を上書きすることができます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは、Web ページで音声を再生しません。

On: Web ページに音声が含まれている場合、デバイスは音声を再生します。音量は、デバイスの音量設定に従います。

Standby Signage InteractionMode

適用対象: RoomKitMini RoomBar DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デフォルトでは、ユーザーがデジタル サイネージの Web ページを操作することはできません。この設定を使用すると、Web ページとの対話機能を有効にすることができます。

対話モードは、Room Kit Mini では通常は使用できず、Room Kit Mini を Samsung Flip (Webex on Flip) と共に使っている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

NonInteractive

値スペース:

Interactive/NonInteractive

Interactive: Web ページを操作することができます。

NonInteractive: Web ページを操作することはできません。

Board

Standby Signage Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

URL (Web ページ) からのコンテンツで、従来のハーフウェイク背景画像および情報を置き換えることができます。

この機能は、「デジタル サイネージ」と呼ばれます。ユーザーは、デバイスに対話型の画面がある場合 (リンクをクリックしたり、フォームにテキストを入力したりするなど)、Web ページを操作できます。

デジタル サイネージを使用すると、デバイスが通常の方法でスタンバイ状態に入ることを防止できません。そのため、スタンバイ遅延の設定は、デバイスがスタンバイ状態になるまでのデジタル サイネージの表示時間を決定します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスでデジタル サイネージが有効になっていません。

On: WebEngine Mode 設定がオンになっている場合、デジタルサイネージが有効化され、デバイスのハーフウェイクモードに置き換えられます。

Standby Signage RefreshInterval

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

秒単位の一定間隔で Web ページを更新します。

これは、Web ページ自体を更新できない場合に便利です。

更新間隔をインタラクティブ モードで設定することは推奨されません。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (1~ 1440)

各 Web ページの更新間隔を秒数で表示します。値が 0 の場合、Web ページは強制的に更新されなくなります。

Standby Signage Url

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

画面 (デジタル サイネージ) に表示する Web ページの URLを設定します。

URL の長さが 0 の場合、デバイスに通常のハーフウェイク モードが保持されます。

URL が機能していない場合、デバイスは通常のハーフウェイク モードを保持し、診断メッセージが発行されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 2048)

Web ページの URL。

Standby StandbyAction

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

スタンバイ モードに入るときのカメラ位置を定義します。

デフォルト値:

PrivacyPosition

値スペース:

なし (None) /プライバシー位置 (PrivacyPosition)

None: アクションはありません。

PrivacyPosition: ビデオ 会議デバイスがスタンバイになると、プライバシー保護のためカメラは横向きになります。

Board

Standby WakeupAction

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

スタンバイ モードを抜けるときのカメラ位置を定義します。

デフォルト値:

RestoreCameraPosition

値スペース:

None/RestoreCameraPosition/DefaultCameraPosition

None: アクションはありません。

RestoreCameraPosition: ビデオ会議デバイスがスタンバイ状態から復帰すると、カメラはスタンバイ前の位置に戻ります。

DefaultCameraPosition: ビデオ会議デバイスがスタンバイ状態になると、カメラは工場出荷時のデフォルトの位置に移動します。

Standby WakeupAtMeetingStart

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

会議の開始が予定された際に、デバイスを自動的に起動するかどうかを選択します。会議に誰も参加しない場合や、デバイスとのやり取りがない場合は、開始予定時刻から数分後にハーフウェイクになり、その後スタンバイに移行します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: 予定された会議が開始される前にデバイスが起動します。

Off: 会議の開始が予定されていても、デバイスはスタンバイ状態のままです。

Standby WakeupOnMotionDetection

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

モーション検知時の自動ウェイクアップは、人が入室したことをデバイスで検出できるようにする機能です。この機能は、超音波検出に基づいています。

この設定と [ルーム分析 人の存在の検出 (RoomAnalytics PeoplePresenceDetector)] 設定の両方が [オフ (Off)] になっている場合、モーション検知用の超音波信号は出力されません。[オーディオ 超音波 最大音量 (Audio Ultrasound MaxVolume)] 設定と [プロキシミティ モード (Proximity Mode)] 設定は、モーション検知には影響しません。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

Off [CodecEQ CodecPlus CodecPro]

値スペース:

Off/On

Off: モーション検知ウェイクアップが無効になります。

On: 人が部屋に入ると、デバイスが自動的にスタンバイから復帰します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SystemUnit 設定

SystemUnit Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイス名を定義します。デバイスが SNMP エージェントとして機能している場合に、デバイス名は DHCP リクエストでホスト名として送信されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 50)

デバイス名を定義します。

SystemUnit BroadcastName

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ブロードキャスト名とは、ラップトップや携帯電話などの他のデバイスが Airplay、Miracast、Bluetooth などのサービスのスキャンリストに表示する名前です。この設定では、特定のブロードキャスト名を指定できます。ここでブロードキャスト名を特に設定しない場合、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されていると、スキャンリストには、Webex DisplayName と表示され、オンプレミスサービスに登録されている場合は SystemUnit 名が表示されます。どちらの名前も設定されていない場合は、商品タイプ (id) が表示されます。

ブロードキャスト名には PII (個人識別情報) を含めないことを推奨します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 256)

他のデバイスのスキャンリストに表示されるブロードキャスト名。

SystemUnit CrashReporting Advanced

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。詳しくは、SystemUnit CrashReporting Mode 設定を参照してください。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ACR ツールは標準的なログ解析を実行します。

On: ACR ツールは高度なログ解析を実行します。

SystemUnit CrashReporting Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。

Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスの場合、自動クラッシュレポートはすべてのデバイスで利用できます。クラウドにログを送信する前に、PII 情報は削除されたか匿名化されました。

CUCM などのオンプレミスサービスに登録されているデバイスの場合、自動クラッシュレポートは、シスコ内部のデバイスでのみ利用できます。クラッシュレポートは、SystemUnit CrashReporting URL 設定で入力した URL に送信されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ACR ツールにログは送信されません。

On: ACR ツールにログは自動的に送信されます。

Board

SystemUnit CrashReporting URL

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスがクラッシュすると、デバイスは解析のためにシスコ自動クラッシュ レポート ツール (ACR) にログを自動送信できます。詳しくは、SystemUnit CrashReporting Mode 設定を参照してください。

デフォルト値:

「acr.cisco.com」

値スペース:

文字列 (0、255)

[Cisco Automatic Crash Report ツール (Cisco Automatic Crash Report tool)]
の URL。

SystemUnit CustomDeviceld

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

SystemUnit CustomDeviceld は、ユニットに関するカスタム情報を保存する場所になります。これは、たとえば、プロビジョニング設定でデバイスを追跡する上で役立ちます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

通常、デバイスは Webex クラウドからソフトウェアを直接ダウンロードします。トランスポートを最適化するために、Web キャッシュ (HTTP キャッシュ) の設定を選択できます。

この設定は、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスまたは Webex Edge for Devices にリンクしているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Manual/Off

Manual: デバイスは Web キャッシュ (HTTP キャッシュ) を介してソフトウェアアップグレードをダウンロードします。Web キャッシュの URL は、SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache URL 設定で指定されます。キャッシュが機能していない場合、デバイスは標準のネットワーク接続を使用するようにフォールバックします。

Off: デバイスは、Web キャッシュを使用せずに Webex クラウドからソフトウェアを直接ダウンロードします。

SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Url

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Webex クラウドからのソフトウェアのダウンロードに使用できる Web キャッシュの URL を設定します。SystemUnit SoftwareUpgrade WebCache Mode が Manual に設定されている場合にのみ使用されます。

この設定は、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスまたは Webex Edge for Devices にリンクしているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

Web キャッシュの URL。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Time 設定

Time DateFormat

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

日付の形式を定義します。

デフォルト値:

[DD_MM_YY]

値スペース:

DD_MM_YY/MM_DD_YY/YY_MM_DD

DD_MM_YY: 2010 年 1 月 30 日は「30.01.10」と表示されます。

MM_DD_YY: 2010 年 1 月 30 日は「01.30.10」と表示されます。

YY_MM_DD: 2010 年 1 月 30 日は「10.01.30」と表示されます。

Time TimeFormat

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

時刻の形式を定義します。

デフォルト値:

[24H]

値スペース:

24H/12H

24H: 24 時間の時間フォーマットを設定します。

12H: 12 時間 (AM/PM) の時間フォーマットを設定します。

Time Zone

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

デバイスが物理的に存在する地域のタイムゾーンを設定します。値スペースの情報は、tz データベース (別名: IANA タイムゾーン データベース) から取得しています。

デフォルト値:

Etc/UTC

値スペース:

アフリカ/アビジャン、アフリカ/アクラ、アフリカ/アディスアベバ、アフリカ/アルジェ、アフリカ/アスマラ、アフリカ/アスマラ、アフリカ/バマコ、アフリカ/バンギ、アフリカ/バンジュール、アフリカ/ビサウ、アフリカ/ブランタイヤ、アフリカ/ブラザヴィル、アフリカ/ブジュンブラ、アフリカ/カイロ、アフリカ/カサブランカ、アフリカ/セウタ、アフリカ/コナクリ、アフリカ/ダカール、アフリカ/ダルエスサラーム、アフリカ/ジブチ、アフリカ/ドゥアラ、アフリカ/アイウン、アフリカ/フリータウン、アフリカ/ハボローネ、アフリカ/ハラレ、アフリカ/ヨハネスブルグ、アフリカ/ジュバ、アフリカ/カンパラ、アフリカ/ハルツーム、アフリカ/キガリ、アフリカ/キンシャサ、アフリカ/ラゴス、アフリカ/リールヴィル、アフリカ/ロメ、アフリカ/ルアンダ、アフリカ/ルブンバシ、アフリカ/ルサカ、アフリカ/マラボ、アフリカ/マプト、アフリカ/マセル、アフリカ/ムババネ、アフリカ/モガディシュ、アフリカ/モンロビア、アフリカ/ナイロビ、アフリカ/ンジャメナ、アフリカ/ニアメ、アフリカ/ヌアクショット、アフリカ/ワガドゥグー、アフリカ/ポルトノボ、アフリカ/サントメ、アフリカ/トンプクトゥ、アフリカ/トリポリ、アフリカ/チュニス、アフリカ/ウィントフック、アメリカ/アダック、アメリカ/アンカレッジ、アメリカ/アンギラ、アメリカ/アンティグア、アメリカ/アラグアイナ、アメリカ/アルゼンチン/ブエノスアイレス、アメリカ/アルゼンチン/カタマルカ、アメリカ/アルゼンチン/コモドリバダビア、アメリカ/アルゼンチン/コルドバ、アメリカ/アルゼンチン/フファイ、アメリカ/アルゼンチン/ラリオハ、アメリカ/アルゼンチン/メンドーサ、アメリカ/アルゼンチン/リオガジェゴス、アメリカ/アルゼンチン/サルタ、アメリカ/アルゼンチン/サンファン、アメリカ/アルゼンチン/サンルイス、アメリカ/アルゼンチン/チントクマン、アメリカ/アルゼンチン/ウシュアイア、アメリカ/アルバ、アメリカ/アスンシオン、アメリカ/アティコカン、アメリカ/アトカ、アメリカ/バイア、アメリカ/バイアベンデラス、アメリカ/バルバドス、アメリカ/ベレン、アメリカ/ベリーズ、アメリカ/ブランサブロン、アメリカ/ボアビスタ、アメリカ/ボゴタ、アメリカ/ボイシ、アメリカ/ブエノスアイレス、アメリカ/ケンブリッジベイ、アメリカ/カンボگرانデ、アメリカ/カンクン、アメリカ/カラカス、アメリカ/カタマルカ、アメリカ/カイエン、アメリカ/ケイマン、アメリカ/シカゴ、アメリカ/チワワ、アメリカ/シウダーフアレス、アメリカ/コーラルハーバー、アメリカ/コルドバ、アメリカ/コスタリカ、アメリカ/クレストン、アメリカ/クイアバ、アメリカ/キュラソー、アメリカ/デンマークハウン、アメリカ/ドーソン、アメリカ/ドーソンクリーク、アメリカ/デンバー、アメリカ/デトロイト、アメリカ/ドミニカ、アメリカ/エドモントン、アメリカ/エルネベ、アメリカ/エルサルバドル、アメリカ/エンセナダ、アメリカ/フォートネルソン、アメリカ/フォートウェイン、アメリカ/フォルタレザ、アメリカ/グレースベイ、アメリカ/ゴッドタブ、アメリカ/グースベイ、アメリカ/グランドターク、アメリカ/グレナダ、アメリカ/グアドループ、アメリカ/グアテマラ、アメリカ/グアヤキル、アメリカ/ガイアナ、アメリカ/ハリファックス、アメリカ/ハバナ、アメリカ/エルモシーゾ、アメリカ/インディアナ/インディアナポリス、アメリカ/インディアナ/ノックス、アメリカ/インディアナ/マレンゴ、アメリカ/インディアナ/ピーターズバーグ、アメリカ/インディアナ/テルシティア、アメリカ/インディアナ/ヴェヴァイ、アメリカ/インディアナ/ビンセンズ、アメリカ/インディアナ/ウィナマック、アメリカ/インディアナポリス、アメリカ/イヌビック、アメリカ/イカルティ、アメリカ/ジャマイカ、アメリカ/フファイ、アメリカ/ジュノー、アメリカ/ケンタッキー/ルイビル、アメリカ/ケンタッキー/モンティセロ、アメリカ/ノックス、IN、アメリカ/クラレンダイク、アメリカ/ラパス、アメリカ/リマ、アメリカ/ロサンゼルス、アメリカ/ルイビル、アメリカ/ローワープリンスズ、アメリカ/マセイオ、アメリカ/マナグア、アメリカ/マナウス、アメリカ/マリゴ、アメリカ/マルティニーク、アメリカ/マタモロス、ア

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

メリカ/マサチューセッツ、メリカ/メンドーサ、メリカ/メノミニ、メリカ/メリダ、メリカ/メトラカトラ、メリカ/メキシコシティ、メリカ/ミクソン、メリカ/モンクトン、メリカ/モンテレイ、メリカ/モンテビデオ、メリカ/モントリオール、メリカ/モントセラト、メリカ/ナッソー、メリカ/ニューヨーク、メリカ/ニビゴン、メリカ/ノーム、メリカ/ノローニヤ、メリカ/ノースダコタ/ビューラー、メリカ/ノースダコタ/センター、メリカ/ノースダコタ/ニューセーラム、メリカ/ノック、メリカ/オヒナガ、メリカ/パナマ、メリカ/パングニルトン、メリカ/パラマリボ、メリカ/フェニックス、メリカ/ポルトブラン、メリカ/ポートオブスペイン、メリカ/ポルトアクレ、メリカ/ポルトベリョ、メリカ/プエルトリコ、メリカ/プンタアレナス、メリカ/レイニエリバー、メリカ/ランキンインレット、メリカ/レシフェ、メリカ/レジーナ、メリカ/レゾリュート、メリカ/リオブランコ、メリカ/ロサリオ、メリカ/サンタイサベル、メリカ/サンタレン、メリカ/サンティアゴ、メリカ/サントドミンゴ、メリカ/サンパウロ、メリカ/スコルズビンス、メリカ/シブロック、メリカ/シトカ、メリカ/サンバルテルミー、メリカ/セントジョーンズ、メリカ/セントキッツ、メリカ/セントルシア、メリカ/セントトーマス、メリカ/セントビンセント、メリカ/スウィフトカレント、メリカ/テグシガルバ、メリカ/チューレ、メリカ/サンダーベイ、メリカ/ティファナ、メリカ/トロント、メリカ/トルトラ島、メリカ/バンクーバー、メリカ/ヴァージン、メリカ/ホワイトホース、メリカ/ウイニペグ、メリカ/ヤクタット、メリカ/イエローナイフ、南極/ケーシー、南極/デバイス、南極/デュモンデュルビル、南極/マッコリー、南極/モーソン、南極/マクマード、南極/パーマー、南極/ロゼラ、南極/南極点、南極/昭和、南極/トロール、南極/ボストーク、北極/ロングイェールビーン、アジア/アデン、アジア/アルマトイ、アジア/アンマン、アジア/アナディル、アジア/アクタウ、アジア/アクトベ、アジア/アシガバート、アジア/アシハバード、アジア/アティラウ、アジア/バグダッド、アジア/バーレーン、アジア/バクー、アジア/バンコク、アジア/バルナウル、アジア/バイエルト、アジア/ビシュケク、アジア/ブルネイ、アジア/カルクッタ、アジア/チタ、アジア/チョイバルサン、アジア/重慶 (Chongqing)、アジア/重慶 (Chungking)、アジア/コロロンボ、アジア/ダッカ、アジア/ダマスカス、アジア/ダッカ、アジア/ディリ、アジア/ドバイ、アジア/ドゥシャンベ、アジア/ファマグスタ、アジア/ガザ、アジア/ハルビン、アジア/ヘブロン、アジア/ホーチミン、アジア/香港特別行政区、アジア/ホブド、アジア/イルクーツク、アジア/イスタンブール、アジア/ジャカルタ、アジア/ジャヤプラ、アジア/エルサレム、アジア/カブール、アジア/カムチャツカ、アジア/カラチ、アジア/カシュガル、アジア/カトマンズ、アジア/カトマンズ、アジア/カンディガ、アジア/コルカタ、アジア/クラスノヤルスク、アジア/クアラルンプール、アジア/クチン、アジア/クウェート、アジア/マカオ、アジア/マカウ、アジア/マカダン、アジア/マカッサル、アジア/マニラ、アジア/マスカット、アジア/ニコシア、アジア/ノヴォクズネツク、アジア/ノボシビルスク、アジア/オムスク、アジア/オーラル、アジア/ブノベン、アジア/ボンティアナック、アジア/平壤、アジア/カタール、アジア/コスタナイ、アジア/クズロルダ、アジア/ラングーン、アジア/リヤド、アジア/サイゴン、アジア/サハリン、アジア/サルカンド、アジア/ソウル、アジア/上海、アジア/シンガポール、アジア/スレドネコリムスク、アジア/台北、アジア/タシケント、アジア/トビリシ、アジア/テヘラン、アジア/テルアビブ、アジア/チンパー、アジア/ティンパー、アジア/東京、アジア/トムスク、アジア/ウジュンパンダン、アジア/ウランバートル、アジア/ウランバートル、アジア/ウルムチ、アジア/ウスチネラ、アジア/ビエンチャン、アジア/ウラジオストク、アジア/ヤクーツク、アジア/ヤンゴン、アジア/エカテリンブルク、アジア/エレバン、大西洋/アゾレス諸島、大西洋/バミューダ、大西洋/カナリア、大西洋/カーボベルデ、大西洋/フェロー (Faeroe)、大西洋/フェロー (Faroe)、大西洋/ヤンマイエン、大西洋/マデイラ諸島、大西洋/レイキャビク、大西洋/サウスジョージア、大西洋/セントヘレナ、大西洋/スタンリー、オーストラリア/ACT、オーストラリア/アデレード、オーストラリア/ブリスベン、オーストラリア/ブロークンヒル、オーストラリア/キャンベラ、オーストラリア/カリー、オーストラリア/ダーウィン、オーストラリア/ユークラ、オーストラリア/ホバート、オーストラリア/LHI、オーストラリア/リンデマン、オーストラリア/ロードハウ、オーストラリア/メルボルン、オーストラリア/NSW、オーストラリア/北部、オーストラリア/パース、オーストラリア/クイーンズランド、オーストラリア/南部、オーストラリア/シドニー、オーストラリア/タスマニア、オーストラリア/ビクトリア、オーストラリア/西部、オーストラリア/ヤンコウイナ、ブラジル/エーカー、ブラジル/デノローニヤ、ブラジル/東部、ブラジル/西部、CET、CST6CDT、カナダ/大西洋、カナダ/中部、カナダ/東部、カナダ/山岳部、カナダ/ニューファンドランド、カナダ/太平洋、カナダ/サスカチュワン、カナダ/ユーコン、チリ/コンチネンタル、

チリ/イースター島、キューバ、EET、EST、EST5EDT、エジプト、エール、Etc/GMT、Etc/GMT+0、Etc/GMT+1、Etc/GMT+10、Etc/GMT+11、Etc/GMT+12、Etc/GMT+2、Etc/GMT+3、Etc/GMT+4、Etc/GMT+5、Etc/GMT+6、Etc/GMT+7、Etc/GMT+8、Etc/GMT+9、Etc/GMT-0、Etc/GMT-1、Etc/GMT-10、Etc/GMT-11、Etc/GMT-12、Etc/GMT-13、Etc/GMT-14、Etc/GMT-2、Etc/GMT-3、Etc/GMT-4、Etc/GMT-5、Etc/GMT-6、Etc/GMT-7、Etc/GMT-8、Etc/GMT-9、Etc/GMT0、Etc/グリニッジ、Etc/UCT、Etc/UTC、Etc/Universal、Etc/Zulu、ヨーロッパ/アムステルダム、ヨーロッパ/アンドラ、ヨーロッパ/アストラハン、ヨーロッパ/アテネ、ヨーロッパ/ベルファスト、ヨーロッパ/ベオグラード、ヨーロッパ/ベルリン、ヨーロッパ/ブラチスラバ、ヨーロッパ/ブリュッセル、ヨーロッパ/ブカレスト、ヨーロッパ/ブダペスト、ヨーロッパ/ビューズン、ヨーロッパ/キシノウ、ヨーロッパ/コペンハーゲン、ヨーロッパ/ダブリン、ヨーロッパ/ジブラルタル、ヨーロッパ/ガーンジー、ヨーロッパ/ヘルシンキ、ヨーロッパ/マン島、ヨーロッパ/イスタンブール、ヨーロッパ/ジャージー、ヨーロッパ/カリーニングラード、ヨーロッパ/キーウ (Kyiv)、ヨーロッパ/キーロフ、ヨーロッパ/キーウ (Kyiv)、ヨーロッパ/リスボン、ヨーロッパ/リュブリャナ、ヨーロッパ/ロンドン、ヨーロッパ/ルクセンブルク、ヨーロッパ/マドリッド、ヨーロッパ/マルタ、ヨーロッパ/マリエハムン、ヨーロッパ/ミンスク、ヨーロッパ/モナコ、ヨーロッパ/モスクワ、ヨーロッパ/ニコシア、ヨーロッパ/オスロ、ヨーロッパ/パリ、ヨーロッパ/ポドゴリツァ、ヨーロッパ/プラーハ、ヨーロッパ/リガ、ヨーロッパ/ローマ、ヨーロッパ/サマラ、ヨーロッパ/サンマリノ、ヨーロッパ/サラエボ、ヨーロッパ/サラトフ、ヨーロッパ/シンフェロポリ、ヨーロッパ/スコピエ、ヨーロッパ/ソフィア、ヨーロッパ/ストックホルム、ヨーロッパ/タリン、ヨーロッパ/ティラン、ヨーロッパ/ティラスポリ、ヨーロッパ/ウリヤノフスク、ヨーロッパ/ウジゴロド、ヨーロッパ/フアドゥーツ、ヨーロッパ/バチカン、ヨーロッパ/ウィーン、ヨーロッパ/ビリニウス、ヨーロッパ/ヴォルゴグラード、ヨーロッパ/ワルシャワ、ヨーロッパ/ザグレブ、ヨーロッパ/ザボリージャ、ヨーロッパ/チューリッヒ、GB、GB-Eire、GMT、GMT+0、GMT-0、GMT0、グリニッジ、HST、香港、アイスランド、インド/アンタナリボ、インド/チャゴス、インド/クリスマス、インド/ココス、インド/コモロ、インド/ケルゲレン、インド/マヘ、インド/モルディブ、インド/モーリシャス、インド/マヨット、インド/レユニオン、イラン、イスラエル、ジャマイカ、日本、クゼリン環礁、リビア、MET、MST、MST7MDT、メキシコ/パナウル、メキシコ/バハノル、メキシコ/一般、ニュージーランド、NZ-CHAT、ナバル、中華人民共和国、PST8PDT、太平洋/アジア、太平洋/オークランド、太平洋/ブーゲンビル、太平洋/チャタム、太平洋/チューク、太平洋/イースター、太平洋/エファテ、太平洋/エンダーベリー、太平洋/ファカオフォ、太平洋/フィジー、太平洋/フナフティ、太平洋/ガラバゴス、太平洋/ガンビア、太平洋/ガダルカナル、太平洋/グアム、太平洋/ホノルル、太平洋/ジョンストン、太平洋/カントン、太平洋/キリティマティ、太平洋/コスラエ、太平洋/クゼリン環礁、太平洋/マジロ、太平洋/マルケサス、太平洋/ミッドウェー、太平洋/ナウル、太平洋/ニューエ、太平洋/ノーフォーク、太平洋/ヌメア、太平洋/パゴゴ、太平洋/パラオ、太平洋/ピトケアン、太平洋/ポンペイ、太平洋/ポナペ、太平洋/ポートモレスビー、太平洋/ラロトンガ、太平洋/サイパン、太平洋/サモア、太平洋/タヒチ、太平洋/タラワ、太平洋/トンガタプ、太平洋/チューク、太平洋/ウェイク、太平洋/ウォリス、太平洋/ヤップ、ポーランド、ポルトガル、中華民国、韓国、シンガポール、トルコ、UCT、米国/アラスカ、米国/アリューシャン列島、米国/アリゾナ州、米国/中部、米国/イーストインディアナ、米国/東部、米国/ハワイ州、米国/インディアナスターク、米国/ミシガン州、米国/山岳部、米国/太平洋、米国/サモア、UTC、ユニバーサル、W-SU、WET、Zulu

リストからタイムゾーンを選択します。

D15503.02

RoomOS

11.5

07-2023



Board

Time OfficeHours Enabled

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスに営業時間を設定すると、通常の営業時間外にサイネージなどの常時稼働機能をオフにすることができます。これにより、画面が常にアクティブになることがなくなり、画面の寿命が長くなります。ほとんどの画面では、週 7 日間の終日使用は保証されていません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: デバイスは営業時間をサポートするように設定されていません。したがって、他の OfficeHours 設定は効果がありません。

True: デバイスは営業時間をサポートしています。その他の OfficeHours 設定では、営業時間と、営業時間外のデバイススタンバイ動作を定義します。

Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby AutoWakeup

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

営業時間外に室内で動きを検出したときのデバイスの反応を設定します。この設定に関係なく、誰かがデバイスを使い始めると、常にデバイスは起動します。

デフォルト値:

無効

値スペース:

Disabled/Enabled

Disabled: 動きを検出しても、デバイスはスタンバイ状態を維持します。

Enabled: 動きを検出すると、デバイスは通常どおり起動します。

Time OfficeHours OutsideOfficeHours Standby Delay

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

営業時間外にディスプレイオフモードに入る前に、デバイスがアイドルモードを維持する時間を指定します。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (1 ~ 30)

ディスプレイオフモードに入る前にデバイスがアイドルモードを維持する時間 (分)。

Time OfficeHours WorkDay End

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

通常の営業時間が終了する時刻を設定します。

デフォルト値:

「19:00」

値スペース:

文字列 (5, 5)

「hh:mm」形式の時刻。hh = 2 桁の時間、00 ~ 23 (am/pm はサポートされていません)、mm = 2 桁の分、00 ~ 59。

Time OfficeHours WorkDay Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

通常の営業時間が開始する時刻を設定します。

デフォルト値:

"07:00"

値スペース:

文字列 (5, 5)

「hh:mm」形式の時刻。hh = 2 桁の時間、00 ~ 23 (am/pm はサポートされていません)、mm = 2 桁の分、00 ~ 59。

Board

Time OfficeHours WorkWeek Monday

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

月曜日を営業日に含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 月曜日は営業日に含まれません。

True: 月曜日は営業日に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Tuesday

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

火曜日を営業日に含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 火曜日は営業日に含まれません。

True: 火曜日は営業日に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Wednesday

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

水曜日を営業日に含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 水曜日は営業日に含まれません。

True: 水曜日は営業日に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Thursday

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

木曜日を営業日に含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 木曜日は営業日に含まれません。

True: 木曜日は営業日に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Friday

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

金曜日を営業日に含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 金曜日は営業日に含まれません。

True: 金曜日は営業日に含まれます。

Time OfficeHours WorkWeek Saturday

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

土曜日を営業日に含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 土曜日は営業日に含まれません。

True: 土曜日は営業日に含まれます。

Board

Time OfficeHours WorkWeek Sunday

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

日曜日を営業日に含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 日曜日は営業日に含まれません。

True: 日曜日は営業日に含まれます。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

UserInteraction 設定

UserInteraction RaiseHand CMS

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

この設定は、CMS 会議の挙手機能の可用性を制御します。CMS が挙手機能をサポートしており、設定が True の場合、挙手ボタンがデバイスのユーザーインターフェイスに表示されます。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 挙手ボタンは表示されません。

True: CMS が機能をサポートしている場合は、挙手ボタンが表示されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface ス設定

UserInterface Accessibility IncomingCallNotification

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

画面表示を強調した着信コールの通知を利用できます。画面とタッチコントローラ は約 1 秒ごと (1.75 Hz) に赤と白に点滅し、聴覚が不自由なユーザーが着信コールに気づきやすくするようにしています。デバイスがコール中の場合、進行中のコールの妨げになるため画面は点滅しません、その代わりに、通常の通知が画面とタッチ パネルに表示されます。

このリリースでは、この機能は Board Pro および Desk Mini では使用できません。

デフォルト値:

Default

値スペース:

AmplifiedVisuals/Default

AmplifiedVisuals: デバイスがコールを受け入れたときに、画面とタッチパネル上での画面表示の強調を有効にします。

Default: スクリーンとタッチパネル上での通知を使用したデフォルトの動作を有効にします。

UserInterface Assistant Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Webex Assistant を使用すると、音声コマンドを使用してデバイスを制御できます。Webex Assistant はクラウドサービスなので、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、オンプレミスサービスに登録されて Webex Edge for Devices にリンクされている必要があります。

デバイスで Webex Assistant を有効または無効にするには、この設定を使用します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: Webex Assistant がオフになります。

On: インフラストラクチャでサポートされていれば、Webex Assistant を使用できます。

UserInterface Assistant ProactiveMeetingJoin

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

参加確認は Webex Assistant によって提供される機能です。参加確認が有効になっている場合、OBTP ミーティングの開始直前にミーティングルームに人がいることが検出されると、デバイスはその人にこれから始まるミーティングに参加するかどうかを確認します。

デバイスで参加確認機能を有効または無効にするには、この設定を使用します。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: 参加確認機能はオフになります。

True: Webex Assistant がアクティブになっていれば、参加確認機能を使用できます。

UserInterface Bookings Visibility EarlyJoin

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのカレンダーの [参加 (Join)] ボタンは、始まる時間になっていなくても、当日にスケジュールされた会議で利用できます。早期参加が有効になっていない場合、設定した時間の 5 分前に [参加 (Join)] ボタンが表示されます。これは、会議のリマインダーポップアップには影響されず、カレンダーのリストビューのみに影響します。

デフォルト値:

Hidden

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 早期参加が有効になります。

Hidden: 早期参加が有効になっておらず、設定した会議の時間の 5 分前に [参加 (Join)] ボタンが表示されます。

Board

UserInterface Bookings Visibility JoinedParticipants Avatars

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

会議に参加した参加者のアバターをユーザーインターフェイスに表示するかどうかを決めます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 参加者のアバターが表示されます。

Hidden: 参加者のアバターは表示されません。

UserInterface Bookings Visibility MeetingReminder

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

会議の開始前に、会議のリマインダを画面に表示します。

デフォルト値:

ControllerOnly

値スペース:

All/ControllerOnly

All: リマインダは、デバイスの画面とタッチコントローラの両方に表示されます。

ControllerOnly: リマインダはタッチコントローラにのみ表示されます。

UserInterface Bookings Visibility Organizer

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

デバイスの画面に会議の主催者を表示します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: デバイスの画面に会議の主催者の名前を表示します。

Hidden: 会議の主催者の名前が非表示になります。

UserInterface Bookings Visibility TentativeMeetings

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

通常、今後の会議のリストは画面とタッチコントローラに表示されます。仮の会議をリストに含めるかどうかを設定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 仮の会議がリストに含まれます。

Hidden: 仮の会議はリストに含まれません。

UserInterface Bookings Visibility Title

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR, USER

ミーティングの詳細をプライベートに変更します。「スケジュールされたミーティング (Scheduled meeting)」というテキストがミーティングのタイトルとして表示されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ミーティングのタイトルが公開され、ユーザーインターフェイスに表示されます。

Hidden: ミーティングのタイトルが非表示になり、ユーザーインターフェイスには「スケジュールされたミーティング (Scheduled meeting)」と表示されます。

UserInterface Branding AwakeBranding Colors

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR

ブランディングのカスタマイズを使用してデバイスがセットアップされている場合、この設定は、デバイスが起動している時に表示されるロゴの色に影響します。ロゴをフルカラーで表示するか、またはロゴの不透明度を下げるかによって、画面上の背景や他の要素とより自然にブレンドするように設定することができます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Native

Auto: ロゴの不透明度は低減されます。

Native: ロゴはフルカラーです。

Board

UserInterface ContactInfo Type

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザーインターフェイスに表示する連絡先情報の種類を選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/DisplayName/E164Alias/H323Id/IPv4/IPv6/None/SipUri/SystemName

Auto: 他のデバイスがこのビデオ会議デバイスに接続するためにダイヤルする必要があるアドレスを表示します。アドレスは、デフォルトのコール プロトコルおよびデバイス登録によって異なります。

None: どのようなコンタクト情報も表示しません。

IPv4: デバイスの IPv4 アドレスを示します。

IPv6: デバイスの IPv6 アドレスを示します。

H323Id: デバイスの H.323 ID を表示します (H323 H323Alias ID 設定を参照)。

E164Alias: 連絡先情報としてデバイスの H.323 E164 エイリアスを表示します (H323 H323Alias E164 設定を参照)。

SipUri: デバイスの SIP URI を表示します (SIP URI 設定を参照)。

SystemName: デバイス名を表示します (SystemUnit Name 設定を参照)。

DisplayName: デバイスの表示名を表示します (SIP DisplayName 設定を参照)。

UserInterface CustomMessage

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

アウェイク モードのとき、スクリーンの下部左側にカスタム メッセージを表示することができます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、256)

カスタム メッセージを追加します。カスタム メッセージを削除するには空の文字列を追加します。

UserInterface CustomWallpaperOverlay

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

カスタム壁紙を使用する場合、透過的な黒のオーバーレイを適用してバックグラウンド画像をソフトにすることで、UI 要素により焦点を合わせることができます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: 透過的な黒のオーバーレイを適用しません。

On: 透過的な黒のオーバーレイを適用します。

UserInterface Diagnostics Notifications

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ユーザーインターフェイスに診断の通知を表示するかどうかを設定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 診断の通知がユーザーインターフェイスに表示されます。

Hidden: 診断の通知はユーザーインターフェイスに表示されません。

UserInterface Features Call CameraControls

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイス (コントロールパネル) からカメラのコントロールを表示するか非表示にするかを選びます。この設定では、コール中とコール外の両方を適用します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにカメラのコントロールを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからカメラのコントロールを削除します。

Board

UserInterface Features Call End

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスからデフォルトの通話終了ボタンを削除するかどうかを選択します。設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからボタンを削除します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface Features Call JoinGoogleMeet

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスの[Google Meet]ボタンの表示/非表示を選択します。

このボタンを使用すると、ユーザーは Google の招待状によって生成された会議コードを使用して Google Meet 会議にダイヤルインできます。

デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features Call JoinZoom

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスの[Zoom]ボタンの表示/非表示を選択します。

このボタンを使用すると、ユーザーは Zoom の招待状によって生成された会議コードを使用して Zoom 会議にダイヤルインできます。

デフォルト値:

Hidden

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからボタンを削除します。

Board

UserInterface Features Call JoinWebex

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスのデフォルトの[Webex]ボタンの表示/非表示を選択します。
このボタンを使用すると、ユーザーは Webex ミーティング番号で Webex ミーティングにダイヤルインできます。ドメインは必要ありません。ただし、この機能を動作させるには、インフラストラクチャの設定で *@webex.com へのコールのルーティングを許可する必要があります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからボタンを削除します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface Features Call Keypad

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスから、デフォルトの通話中の [キーパッド (Keypad)] ボタンを削除するかどうかを選択します。このボタンは、DTMF 入力などに使用できるキーパッドを開きます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features Call LayoutControls

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デフォルトで通話中に使用できる[レイアウト (Layout)] ボタンをユーザーインターフェイスに表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスにボタンを表示しません。

UserInterface Features Call MidCallControls

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスにデフォルトの保留、転送、および通話再開ボタンを表示するか、非表示にするかを選択します。

設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features Call MusicMode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスに音楽モードのトグル ボタンを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Hidden

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: この機能が対応中のコールでサポートされている場合、ユーザーインターフェイスで音楽モードのトグルボタンを表示します。

Hidden: 音楽モードのトグルボタンは、ユーザーインターフェイスに表示されません。

UserInterface Features Call ParticipantList

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デフォルトで通話中に使用できる[参加者 (Participants)] ボタンをユーザーインターフェイスに表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスにボタンを表示しません。

Board

UserInterface Features Call SelfviewControls

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスにセルフビューコントロールを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにセルフビューコントロールを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスにセルフビューコントロールを表示しません。

UserInterface Features Call Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスから、デフォルトの会議ボタン (ディレクトリ、お気に入り、通話履歴リスト)、さらにデフォルトの会議中の[参加者の追加 (in-call Add participant)]ボタンを表示するか非表示にするかどうかを選択します。設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features Call VideoMute

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスにデフォルトの [ビデオをオフにする (Turn video off)] ボタンを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: この機能が継続的な会議でサポートされている場合、ユーザーインターフェイスに[ビデオをオフにする (Turn video off)]ボタンが表示されます。

Hidden: [ビデオをオフにする (Turn video off)]ボタンがユーザーインターフェイスに表示されません。

UserInterface Features Call Webcam

適用対象: RoomKitMini RoomBar BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

タッチコントローラに[ラップトップからのコール (Call from laptop)]ボタンを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: タッチコントローラにボタンを表示します。

Hidden: タッチコントローラにボタンを表示しません。

UserInterface Features Files Start

適用対象: DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスからデフォルトの[ファイル (Files)]ボタンを削除するかどうかを選択します。設定はボタンだけを削除し、機能などは削除しません。この設定は、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスまたは Webex Edge for Devices にリンクしているデバイスのみ適用されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ユーザーインターフェイスにボタンを表示します。

Hidden: ユーザーインターフェイスからボタンを削除します。

UserInterface Features HideAll

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスのすべてのボタンを非表示に設定します。

設定はボタンのみを削除し、機能は削除しません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: すべてのデフォルトボタンをユーザーインターフェイスで表示します。

True: すべてのデフォルトボタンをユーザーインターフェイスで表示しません。

D15503.02

RoomOS

11.5

07-2023



Board

UserInterface Features Share Start

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスから、発信通話および受信通話の両方で、コンテンツを共有およびプレビューするためのデフォルト UI 要素を削除するかどうかを選択します。設定はボタンと UI 要素だけを削除し、機能などは削除しません。Cisco Proximity または Cisco Webex アプリを使用してコンテンツを共有することもできます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: ボタンと UI 要素をユーザーインターフェイスに表示します。

Hidden: ボタンと UI 要素をユーザーインターフェイスから削除します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface Help Tips

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ヘルプヒントには、ユーザーインターフェイスからアクセスできます。有効にすると、ホーム画面に[ヒント (Tips)]ボタンが表示されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: [ヘルプヒント (help tips)]ボタンを表示します。

Hidden: [ヘルプヒント (help tips)]ボタンを非表示にします。

UserInterface HomeScreen Dashboard

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ホーム画面から時計や会議リストなどの要素を削除するかどうかを選択します。

デフォルト値:

On

値スペース:

On [DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

Off/On [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/
Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Off: ホーム画面の要素を削除します。

On: すべてのホーム画面要素を保持します。

Board

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Room Navigator で実行する Web アプリケーション (つまり、永続的な Web アプリ) の URL を設定します。アプリケーションは画面全体に表示され、ユーザーが閉じることはできません。

アプリがデバイスの API と対話する場合は、Security Xapi WebSocket ApiKey Allowed を True に設定し、アプリをホストするサーバーのドメイン名を WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts 設定の許可リストに追加することに注意してください。

注: 永続的な Web アプリは、ネットワークを介してデバイスにペアリングされている Room Navigator でのみ使用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 2048)

Web アプリケーションの URL です。

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface Kiosk Mode

適用対象: DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR

キオスクモードでは、デバイスのホーム画面を、自分でホストして管理する独自のカスタム Web アプリケーションに置き換えることができます。カスタム Web アプリケーションへの URL は、UserInterface Kiosk URL 設定に追加する必要があります。たとえば、キオスクモードでは、受付エリアで訪問者の登録に必要なデバイスの設定、施設の概要の説明、専門家への直接の問い合わせが可能になります。

キオスクモードはデバイスの Web エンジンを使用するため、キオスクモードを動作させるには、WebEngine 設定を[オン (On)]にする必要があります。呼び出しを可能にするには、WebEngine Features SipUrlHandler 設定も[オン (On)]にする必要があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは標準モードで動作します。

On: デバイスはキオスクモードで設定されます。

UserInterface Kiosk URL

適用対象: DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR

デバイスがキオスクモードに設定されているときに表示されるカスタム Web アプリケーションの URL。UserInterface Kiosk Mode 設定も参照してください。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 2048)

キオスクモードの Web アプリケーションの URL。

Board

UserInterface Language

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

ユーザーインターフェイスで使用される言語を選択します。該当する言語がサポートされていない場合、デフォルトの言語 (Medium) が使用されます。

デフォルト値:

English

値スペース:

アラビア語/カタロニア語/中国語簡体字/中国語繁体字/チェコ語/デンマーク語/オランダ語/英語/英語 (英国) /フィンランド語/フランス語/フランス・カナダ語/ドイツ語/ヘブライ語/ハンガリー語/イタリア語/日本語/韓国語/ノルウェー語/ポーランド語/ポルトガル語/ポルトガル・ブラジル/ロシア語/スペイン・ラテン語/スウェーデン語/トルコ語/ウクライナ語

リストから言語を選択します。

UserInterface LedControl Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Room Navigator の壁掛けバージョンには LED ライトが付いています。それらの制御方法を設定できます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual/Off

Auto: ビデオ会議デバイスは、通常、部屋の予約状態に基づいて LED ライトを自動的に制御します (たとえば、緑: 利用可能な部屋、赤: 使用中の部屋)。UserInterface LedControl Color Set Color コマンドは無効です。

Manual: UserInterface LedControl Color Set Color コマンドを使用して、LED ライトを制御し、色を設定できます。

Off: LED ライトは常時オフになります。

UserInterface MuteWarning

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

マイクがミュートされているときに通話を始めた場合に、画面に Warning (注意) を表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Enabled

値スペース:

Disabled/Enabled

Disabled: ミュートの Warning (注意) を表示しません。

Enabled: ミュートの Warning (注意) を表示します。

UserInterface NameAndSiteLabels Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

会議のリモート参加者のすべての名前とサイトラベルを非表示にするようにデバイスを設定できます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 名前とサイトラベルを表示します。

Hidden: 名前とサイトラベルを非表示にします。

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

Board

UserInterface OSD EncryptionIndicator

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

暗号化インジケータが画面に表示される時間の長さを定義します。暗号化された通話のアイコンは、ロックされた南京錠です。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/AlwaysOn/AlwaysOff

Auto: コールが暗号化されている場合は、「コールは暗号化されています (Call is encrypted)」という通知が 5 秒間表示されます。その後、通話の残りの部分では暗号化インジケータ アイコンが表示されます。

コールが暗号化されていない場合は、「コールは暗号化されていません (Call is not encrypted)」という通知が 5 秒間表示されます。暗号化インジケータ アイコンは表示されません。

AlwaysOn: 「コールは暗号化されています (Call is encrypted)」という通知が 5 秒間表示されます。その後、通話の残りの部分では暗号化インジケータ アイコンが表示されます。

AlwaysOff: 暗号化インジケータは画面上に表示されません。

UserInterface OSD HalfwakeMessage

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カスタム メッセージは、デバイスがハーフウェイク状態のときに、メイン スクリーンの中央に表示できます。カスタム メッセージは、デバイスの使用開始方法について指示するデフォルトのメッセージを置き換えます。カスタム メッセージを追加せずにデフォルト メッセージを削除することもできます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 128)

カスタム メッセージ。空の文字列: デフォルト メッセージを復元します。空白のみ: メッセージは一切表示されません。

UserInterface OSD Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

クリーンなビデオストリームを出力するようにデバイスを設定できます。これはブロードキャストモードと呼ばれます。このモードでは、インジケータ、通知、およびコントロールが削除されます。このモードは、視聴者にビデオを配信したいだけのブロードキャストおよび録音サービスを目的としています。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Unobstructed

Auto: インジケータ、通知、およびコントロールがビデオストリーム (通常モード) に含まれます。

Unobstructed: インジケータ、通知、およびコントロールがビデオストリーム (ブロードキャストモード) から削除されます。名前ラベルは削除されません。

Board

UserInterface OSD Output

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

画面上の情報やインジケータの表示に使用するモニターを指定します。これがオンスクリーンディスプレイ (OSD) です。

デフォルト値:

1 [Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

Auto [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

1 [Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

Auto/1/2 [RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]

Auto/1/2/3 [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Auto [RoomKitMini]

Auto: 内蔵画面があるデバイスの場合、画面に表示される情報とインジケータが内蔵画面に送信されます。デバイスに 2 つの内蔵画面がある場合は、左側の画面が使用されます。

内蔵画面のないデバイスの場合、デバイスは、ビデオ出力に接続された画面を検出し、最初に接続された画面に画面表示用の情報とインジケータを送信します。マルチ画面を設定して、デバイスをオンにする前にすべての画面を接続した場合、オンスクリーン用の情報とインジケータは番号が最も小さいビデオ出力に送信されます。ビデオ出力の番号は、出力コネクタ 1 (HDMI 1) から始まります。

1..n: デバイスは画面に表示される情報とインジケータを、指定した出力に送信します。デバイスの出力コネクタ n にオンスクリーン用の情報とインジケータを送信するには、n を選択します。

内蔵画面があるデバイスの場合、最も低い数値が内蔵画面を示します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface Phonebook DefaultSearchFilter

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ディレクトリで名前を検索するときは、すべてを検索するか、フィルタ処理をして人のみまたは部屋のみを含めることができます。デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

すべて

値スペース:

All/People/Rooms

All: 検索結果には、人物と部屋の両方が表示されます。

People: 検索結果には人のみが表示されます。

Rooms: 検索結果には部屋のみが表示されます。

UserInterface Phonebook Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、ユーザーが連絡先をディレクトリに追加または変更したり、お気に入りリストをデバイスのユーザーインターフェイスに追加または変更可能かどうかを決定します。

デフォルト値:

ReadWrite

値スペース:

ReadOnly/ReadWrite

ReadOnly: お気に入りリストへの連絡先の追加、お気に入りリストの連絡先の編集はできません。また、通話前にディレクトリやお気に入りリストから連絡先を編集することはできません。

ReadWrite: 連絡先をお気に入りリストに追加したり、お気に入りリストの連絡先を編集したりできます。また、通話前にディレクトリやお気に入りリストから連絡先を編集することができます。

Board

UserInterface Proximity Notifications

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスにプロキシミティの通知を表示するかどうかを設定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off/On

Auto: プロキシミティの通知を表示するタイミングをシステムが自動的に決定できるようにします。

Off: プロキシミティの通知はユーザーインターフェイスに表示されません。

On: すべてのプロキシミティの通知がユーザーインターフェイスに表示されます。

UserInterface RoomScheduler AmbientTemperature Show

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、Room Navigator が部屋予約デバイス (スケジューラモードとも呼ばれます) として設定されている場合にのみ適用されます。部屋がデバイスに接続されている場合、Room Navigator に室温が表示される場合があります。この設定を使用して、表示するかどうかを決定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden/ShowCelsius/ShowFahrenheit

Auto: 摂氏と華氏の両方で温度を表示します。

Hidden: 温度を表示しません。

ShowCelsius: 摂氏で温度を表示します。

ShowFahrenheit: 華氏で温度を表示します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface RoomScheduler PeopleCount Current

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、Room Navigator が部屋予約デバイス (スケジューラモードとも呼ばれます) として設定されている場合にのみ適用されます。接続されているデバイスからその情報を利用できる場合、Room Navigator には、現在会議室にいる人の数が表示される場合があります。この設定を使用して、この情報を表示するかどうかを決定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 人数を表示します。

Hidden: 人数を表示しません。

UserInterface RoomScheduler StatusWhenInUse

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、Room Navigator が部屋予約デバイス (スケジューラモードとも呼ばれます) として設定されている場合にのみ適用されます。Room Navigator は会議室の状態、つまり会議室が空いているか使用中かを表示します (Room Navigator 画面の LED の色とテキストを使用)。この設定を使用して、会議室の状態に影響するものを決定します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Free

Auto: 部屋の状態 (空き/使用中) は、部屋が使用されているかどうかに基づいています。使用されていない場合は空き、使用中の場合は、使用中とマークされます。そのため、予定表での招待がなくても、室内に人がいるとデバイスが検出すると、使用中としてマークされます。

Free: 予定表による予約のみに基づいた会議室の状態 (空き/使用中)。予定表による予約がない場合は空き、予定表による予約がある場合は使用中としてマークされます。

Board

UserInterface RoomStatusMenu Visibility

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定ではユーザーインターフェイスの左上のメニューを表示または非表示できるようにします。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 左上のメニューを表示します。

Hidden: 左上のメニューを隠します。

UserInterface Security Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定ではユーザーインターフェイスの左上のドロップダウンメニューから連絡先情報を隠せるようにします。ただし、これはコントロールパネル (右にスワイプするか、ユーザーインターフェイスの右上のアイコンをタップする) から開けるデバイス設定パネルでは詳細が非表示になりません。

デバイスの設定を保護したりユーザーインターフェイスからの情報を隠したりすることについての詳細は、UserInterface SettingsMenu Mode と UserInterface SettingsMenu Visibility を参照してください。

デフォルト値:

標準

値スペース:

Normal/Strong

標準 (Normal) : 連絡先情報はドロップダウンメニューに表示されます。

堅牢 (Strong) : 連絡先情報はドロップダウンメニューに表示されません。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface SettingsMenu Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

コントロールパネル (右にスワイプするか、ユーザーインターフェイスの右上のアイコンをタップする) から開けるデバイス設定パネルでは、デバイスの管理者パスワードは保護できます。パスワードが保護されない場合、誰でもこれらの設定やデバイスの工場出荷時の状態へのリセットにアクセスできるようになります。パスワードが保護されている場合、認証が必須のすべての設定に鍵のアイコンがつくようになります。

ユーザーインターフェイスからコントロールパネル (デバイス設定パネルを含む) を削除する場合は、UserInterface SettingsMenu Visibility を参照してください。

デフォルト値:

Unlocked

値スペース:

Locked/Unlocked

ロック (Locked) : デバイスの設定にアクセスするには、管理者のユーザー名とパスワードでログインする必要があります。

ロック解除 (Unlocked) : デバイスの設定にすべてのユーザーがアクセスできます。

UserInterface SettingsMenu Visibility

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定により、ユーザーインターフェイスからコントロールパネル (デバイス設定パネルを含む) を削除できます。

パスワードでデバイスの設定を保護する場合は、UserInterface SettingsMenu Mode を参照してください。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Hidden

Auto: 右からスワイプするか、ユーザーインターフェイスの右上隅のアイコンをタップすると、コントロールパネルが開きます。

Hidden: コントロールパネルがユーザーインターフェイスから削除されます。

Board

UserInterface SoundEffects Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

他のユーザーが Proximity でラップトップやモバイルに接続したときなどにサウンドエフェクトを鳴らすように、デバイスを設定できます。

テキスト入力時のキーボード クリックのサウンド エフェクトは、この設定の影響を受けません（ユーザーインターフェイス キートーン モード 設定を参照してください）。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: サウンド エフェクトを鳴らしません。

On: サウンド エフェクトをオンにします。

UserInterface Theme Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

ユーザーインターフェイスのテーマを変更します。

この設定は将来変更されるか、置き換えられる可能性があります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Light/Night

Auto: デフォルト設定を使用して、システムに最適な設定を決定させます。

Light: 「Light」背景テーマを使用します。

Night: 「Night」背景テーマを使用します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface Wallpaper

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

アイドル状態のときのビデオ画面の背景画像（壁紙）を選択します。

Web インターフェイスを使用してデバイスにカスタム壁紙をアップロードできます。

サポートされるファイル形式は JPEG、PNG です。

最大ファイル サイズは 4 MByte です。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Custom/None

Auto: デフォルトの壁紙を使用します。

None: 画面に背景イメージはありません。

Custom: 画面の背景画像としてカスタムの壁紙を使用します。

デバイスにカスタム壁紙がアップロードされていない場合、この設定はデフォルト値に戻ります。

UserInterface UsbPromotion

適用先: RoomKitMini RoomBar RoomBarPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

ハーフ ウェイク画面に、このデバイスを USB カメラとして使用できることを知らせるテキストを表示するかどうかを選択します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

オフ: USB カメラの情報テキストは表示されません。

オン: USB カメラの情報テキストが表示されます。

UserInterface WebcamOnlyMode

適用対象: RoomKitMini

必要なユーザー ロール: ADMIN

このソフトウェアバージョンでは適用されません。

Board

UserInterface Whiteboard ActivityIndicators

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

アクティビティインジケータを使用すると、コール中に誰が描画し、注釈を付けているかを確認できます。

参加者がホワイトボードと対話しているときは、その参加者のアバターまたはデバイスの頭文字が表示されるため、誰が描画や注釈付けを行っているかを把握できます。

クラウド登録デバイスにのみ適用されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

On: アクティビティインジケータを有効にします。

Off: アクティビティインジケータを無効にします。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserInterface Whiteboard DefaultTheme

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

ホワイトボードのデフォルトのテーマを黒または白に変更します。

デフォルト値:

Light

値スペース:

Dark/Light

Dark: ホワイトボードのデフォルトの外観は黒です。誰かが自分とホワイトボードを共有している場合も黒です。

Light: ホワイトボードのデフォルトの外観は白です。誰かが自分とホワイトボードを共有している場合も白です。

UserManagement 設定

UserManagement LDAP Admin Filter

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

どのユーザーに管理者権限を付与する必要があるか決定するために LDAP フィルタが使用されます。LDAP 管理者グループまたは LDAP 管理者フィルタをつねに設定する必要があります。LDAP Admin Filter が優先されるため、UserManagement LDAP Admin Filter が設定されている場合であっても、UserManagement LDAP Admin Group 設定は無視されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 1024)

この文字列の構文については、LDAP の仕様を参照してください。例: "(|(memberof=CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com)(sAMAccountName=username))"

UserManagement LDAP Admin Group

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この AD (Active Directory) グループのメンバーには、管理者権限が付与されます。この設定は、memberof:1.2.840.113556.1.4.1941:=<group name> の短縮形です。

LDAP 管理者グループまたは LDAP 管理者フィルタをつねに設定する必要があります。LDAP Admin Filter が優先されるため、UserManagement LDAP Admin Filter が設定されている場合であっても、UserManagement LDAP Admin Group 設定は無視されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 255)

AD グループの識別名。例: "CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com"

Board

UserManagement LDAP Attribute

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

指定のユーザー名にマップするために使用する属性。設定しない場合、sAMAccountName が使用されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

属性名。

UserManagement LDAP BaseDN

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

検索を開始するエントリの識別名 (ベース)。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

ベースの識別名。例: "DC=company, DC=com"

UserManagement LDAP Encryption

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスと LDAP サーバーの間の通信を保護する方法を定義します。ポート番号は、UserManagement LDAP Server Port 設定を使用してポート番号をオーバーライドできます。

デフォルト値:

LDAPS

値スペース:

LDAPS/None/STARTTLS

LDAPS: ポート 636 over TLS (Transport Layer Security) 上の LDAP サーバーに接続します。

None: ポート 389 で LDAP サーバーに接続します (暗号化なし)。

STARTTLS: ポート 389 で LDAP サーバーに接続し、暗号化された接続 (TLS) にアップグレードするための STARTTLS コマンドを送信します。

UserManagement LDAP MinimumTLSVersion

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

LDAP で許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.2

値スペース:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以上をサポートします。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以上をサポートします。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以上をサポートします。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserManagement LDAP Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

このデバイスでは、ユーザー名とパスワードを一元的に保存、検証する場所として、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) サーバーの使用をサポートします。この設定を使用して、LDAP 認証を使用するかどうかを設定します。実装は、Microsoft Active Directory (AD) サービスでテスト済みです。

LDAP Mode をオンにする場合、設定に合わせた UserManagement LDAP 設定の構成を確認してください。いくつかの例を示します。

例 1:

- UserManagement LDAP Mode: On
- UserManagement LDAP Address: "192.0.2.20"
- UserManagement LDAP BaseDN: "DC=company, DC=com"
- UserManagement LDAP Admin Group: "CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com"

例 2:

- UserManagement LDAP Mode: On
- UserManagement LDAP Address: "192.0.2.20"
- UserManagement LDAP BaseDN: "DC=company, DC=com"
- UserManagement LDAP Admin Filter: "(!(|memberof=CN=admin group, OU=company groups, DC=company, DC=com)(sAMAccountName=username))"

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: LDAP 認証は使用不可です。

On: LDAP 認証は許可されます。

UserManagement LDAP Server Address

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

LDAP サーバーの IP アドレスまたはホスト名を設定します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、255)

有効な IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはホスト名。

UserManagement LDAP Server Port

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

LDAP サーバーに接続するポートをオンに設定します。0 に設定した場合は、選択したプロトコルのデフォルトを使用します (「UserManagement LDAP Encryption」設定を参照)。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 65535)

LDAP サーバーのポート番号。

UserManagement LDAP VerifyServerCertificate

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスを LDAP サーバーに接続すると、サーバーはデバイスに証明書を提示して自身を識別します。この設定は、デバイスがサーバーの証明書を確認するかどうかを決定するために使用します。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: デバイスは LDAP サーバーの証明書を検証しません。

On: デバイスは、LDAP サーバーの証明書が信頼できる認証局 (CA) によって署名されているかどうかを検証する必要があります。該当する CA が、デバイスに事前にアップロードされている信頼できる CA のリストに含まれている必要があります。デバイスの Web インターフェイスを使用して、信頼できる CA のリストを管理します (詳細については『管理者ガイド』を参照してください)。

Board

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumDigits

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある数字 (0 ~ 9) の最小文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 4)

数字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumLowercase

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある小文字の最小文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 4)

小文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumSpecial

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある特殊文字の最小文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 4)

特殊文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

Board

UserManagement PasswordPolicy Complexity MinimumUppercase

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードに含める必要のある大文字の最小文字数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 4)

大文字の最小文字数。0 は制限がないことを意味します。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

UserManagement PasswordPolicy ReuseLimit

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、再使用の制限 (n) を指定します。つまり、ユーザーは、直前の n 個のパスワードを再使用することはできません。

デフォルト値:

12

値スペース:

整数 (0 ~ 24)

パスワードの最小数。0 は制限がないことを意味します。

UserManagement PasswordPolicy MaxLifetime

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスにローカルユーザーとしてサインインする場合、パスワードは [ユーザーインターフェイス パスワードポリシー (UserManagement PasswordPolicy)] 設定で設定されたルールに従う必要があります。これらの設定は、CE9.10 より前のソフトウェアバージョンに用意されていた「systemtools securitysetting」コマンドを置き換えるものです。

新しいパスワードルールは既存のパスワードには適用されませんが、次のパスワードの変更時に有効になります。

この設定は、パスワードが無効になるまでの最大日数を指定します。

デフォルト値:

0

値スペース:

整数 (0 ~ 7300)

最小日数。0 は制限がないことを意味します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video 設定

Video ActiveSpeaker DefaultPiPPosition

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

通話中のスピーカーを示すピクチャインピクチャ (PiP) の画面上の位置を定義します。この設定は、通話中のスピーカーを PiP 表示するビデオレイアウト (オーバーレイレイアウト) を使用している場合のみ有効です。また、場合によってはカスタムレイアウトでも有効です (Video DefaultLayoutFamily Local 設定を参照)。この設定は、次回以降のコールで有効になります。コール中に変更された場合、現在のコールへの影響はありません。

デフォルト値:

Current

値スペース:

Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/
LowerRight

Current: 通話中のスピーカーの PiP の位置はコール終了後も変更されません。

UpperLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: 通話中のスピーカーの PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: 通話中のスピーカーの PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: 通話中のスピーカーの PiP が画面の右下隅に表示されます。

Video DefaultLayoutFamily Local

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ローカルで使用するビデオ レイアウト ファミリを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Equal/Overlay/Prominent/Prominent_L/Single

Auto: デバイスによって提供されるローカル レイアウト データベースの指定に従って、デフォルトのレイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: Grid レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。参加者は同じサイズのビデオのグリッド内に表示されます。共有コンテンツがある場合、それはグリッドの横に表示されます。

Overlay: [オーバーレイ (Overlay)] レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーが全画面で表示され、他の参加者はサムネイルで下部にオーバーレイ表示されます。コンテンツがある場合は、通話中のスピーカーがサムネイルで上部にオーバーレイされた状態でコンテンツが全画面表示で表示されます。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Prominent: [スタック (Stack)] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されません。通話中のスピーカーまたは共有コンテンツは大きい画像となり、他の参加者は小さい画像として上部に表示されます。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Prominent_L: [対象拡大表示 (Prominent)] レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーが画面の左上部分に表示され、他の参加者は下部および右側の横に表示されます。

Single: Focus レイアウトファミリがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となります。他の参加者は表示されません。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Board

Video DefaultLayoutFamily LocalContent

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

コンテンツ共有の開始時に、デフォルトでローカルで切り替えるビデオレイアウトファミリーを選択します。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Equal/Overlay/Prominent/Prominent_L/Single

Auto: デバイスによって提供されるローカル レイアウト データベースの指定に従って、デフォルトのレイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: Grid レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。参加者は同じサイズのビデオのグリッド内に表示されます。共有コンテンツが、グリッドの横に表示されます。

Overlay: [オーバーレイ (Overlay)] レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。共有コンテンツは、全画面表示で通話中のスピーカーがサムネイルで上部にオーバーレイされた状態で表示されます。

Prominent: [スタック (Stack)] レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。共有コンテンツは大きい画像となり、参加者は小さい画像として上部に表示されます。

Prominent_L: [対象拡大表示 (Prominent)] レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。コンテンツが画面の左上部分に表示され、参加者は下部および右側の横に表示されます。

Single: Focus レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。共有コンテンツは全画面表示で表示されます。参加者は表示されません。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video DefaultLayoutFamily Remote

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

リモート参加者 (遠く) に送信されるストリーミングで使用するビデオレイアウトファミリーを選択します。この設定は、デバイスに搭載された MultiSite 機能 (オプション) を使用してマルチポイントのビデオ会議をホストする場合にのみ適用されます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Equal/Prominent/Prominent_L/Overlay/Single

Auto: デバイスによって提供されるローカル レイアウト データベースの指定に従って、デフォルトのレイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。

Equal: Grid レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。参加者は同じサイズのビデオのグリッド内に表示されます。共有コンテンツがある場合、それはグリッドの横に表示されます。

Overlay: [オーバーレイ (Overlay)] レイアウト ファミリがローカル レイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーが全画面で表示され、他の参加者はサムネイルで下部にオーバーレイ表示されます。コンテンツがある場合は、通話中のスピーカーがサムネイルで上部にオーバーレイされた状態でコンテンツが全画面表示で表示されます。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Prominent: [スタック (Stack)] レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーまたは共有コンテンツは大きい画像となり、他の参加者は小さい画像として上部に表示されます。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Prominent_L: [対象拡大表示 (Prominent)] レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカーが画面の左上部分に表示され、他の参加者は下部および右側の横に表示されます。

Single: Focus レイアウトファミリーがローカルレイアウトとして使用されます。通話中のスピーカー、または (存在する場合) プレゼンテーションは全画面表示となります。他の参加者は表示されません。通話中のスピーカーが遷移するとき、音声切り替えられます。

Board

Video DefaultMainSource

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

コールのメインビデオのデフォルト入力ソースを定義します。ビデオ会議デバイスのスイッチをオンにするか再起動すると、メインビデオがこのソースで再生されます。デバイスの実行中に別のソースに変更するには、Video Input SetMainVideoSource コマンドを使用します。

デフォルト値:

1

値スペース:

1/2/3/4/5/6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

1/2/3/4 [CodecEQ]

1/2/3 [RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

1/2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]

メインビデオのデフォルトソース。

Video Input AirPlay Beacon

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

検出ビーコンのサポートをオンにします。検出ビーコンを使用すると、ビデオデバイスや iPhone、iPad、または Mac が同じブロードキャストドメイン (VLAN またはサブネット) 上にあることが保証されていない環境での AirPlay デプロイが容易になります。これは通常、エンタープライズネットワークの設定に当てはまります。

ビーコン検出には Bluetooth® が必要です。Desk Series、Board Pro、Room Bar および Room Bar Pro では、専用の Bluetooth Allowed および Bluetooth Enabled 設定で Bluetooth を有効にする必要があります。専用の Bluetooth 設定がないデバイスでは、検出ビーコンをオンにすると、Bluetooth が自動的に有効になります。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: AirPlay ビーコンがアクティブになり、デバイスが検出可能になります。通常、エンタープライズ ネットワークの設定で使用されます。

Off: AirPlay ビーコンが無効になり、ビーコンサービスを介してデバイスを検出できなくなります。通常、ホームネットワークの設定で使用されます。

Video Input AirPlay DiscoveryInstructions NetworkName

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Apple デバイスを接続するネットワークの名前を挿入します。設定されていない場合、Video Input AirPlay DiscoveryInstructions ShowNetworkInfo 設定は、ネットワーク自体で定義された名前を表示します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 32)

ネットワークの名前。

Video Input AirPlay DiscoveryInstructions ShowNetworkInfo

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ビデオデバイスの AirPlay 情報画面 (カーテン) に、Apple デバイスが接続する必要があるネットワークの名前を表示するかどうかを決定します。ネットワーク名は、ネットワーク自体で定義されるか、Video Input AirPlay DiscoveryInstructions NetworkName 設定で明示的に設定します。後者が優先されます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: AirPlay 情報画面にネットワーク名を表示しません。

True: AirPlay 情報画面にネットワーク名を表示します。

Board

Video Input AirPlay Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

第 1 世代の Board (S シリーズ以外) を除くすべてのデバイスは、AirPlay をサポートしません。AirPlay を使用すると、ユーザーは iPhone、iPad、または Mac をワイヤレスで接続して、画面の共有、コラボレーション、およびオーディオおよびビデオコンテンツの再生を行うことができます。

この設定を使用して、デバイスで AirPlay を有効にします。

有効にすると、パーソナルモードのデバイスを使用している場合、ユーザーはデバイスの[設定 (Settings)]メニューから AirPlay を無効化してから再度有効化することができます。これは、共有デバイスではできません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Board、S シリーズ以外: Off その他のデバイス: Off/On

On: デバイスで AirPlay が有効です。

Off: デバイスで AirPlay が無効です。

Video Input AirPlay Password

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Video Input AirPlay Security 設定が[パスワード (Password)]に設定されている場合、AirPlay のペアリングに使用するパスワードを定義します。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、63)

AirPlay のペアリングパスワード。

Video Input AirPlay SecurityMode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

iPhone、iPad、または Mac をデバイスにペアリングするときに使用する認証タイプを定義します (AirPlay ペアリング)。

デフォルト値:

共有モードのデバイス: PinAlways パーソナルモードのデバイス: PinFirstTime

値スペース:

Password/PinAlways/PinFirstTime

Password: デバイスには、AirPlay ペアリング用のパスワードが必要です。Video Input AirPlay Password 設定でパスワードを定義する必要があります。パスワードを定義しない場合、デバイスはデフォルトに戻り、個人識別番号を要求します。

PinAlways: デバイスは、AirPlay をペアリングするたびに個人識別番号を要求します (切断後 30 秒以内に再接続する場合を除く)。

PinFirstTime: デバイスは、初回 AirPlay ペアリング時に個人識別番号を要求します。初回以降は、ペアリングに成功したデバイスが記憶されます。

Video Input Connector [n] CameraControl Camerald

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

カメラ ID は、このビデオ入力に接続されているカメラの一意の ID です。

複数のカメラを搭載したデバイスの場合、[Cameras Camera]ステータスで現在割り当てられている ID を確認できます。

デフォルト値:

コネクタ n: n [RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Connector 1:1 Connector 2:3 コネクタ 3:2 [BoardPro]

1 [RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro Board]

値スペース:

1/2/3/4/5/6/7 [RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama BoardPro]

1 [RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro Board]

複数のカメラが搭載されているデバイスの場合は、カメラの ID を設定します。1 台のカメラを備えたデバイスでは、値は固定されており、変更できません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro]

範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]

範囲: 1 ~ 6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Board

Video Input Connector [n] CameraControl Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

このビデオ入力コネクタに接続されているカメラを制御するかどうかを定義します。一部のコネクタでは制御できません (Off のみを選択できます)。

デフォルト値:

On [CodecPlus Room70/Room55D]

コネクタ 1、2、3、4、5: On コネクタ 6: Off [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama]

コネクタ 1: On その他のコネクタ: Off [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ
Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

値スペース:

Off/On [RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/
Room70Panorama]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2: Off コネクタ 3: Off/On [BoardPro]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2、3: Off [RoomBar Room55 Desk DeskPro]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2: Off [DeskMini]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2: Off [RoomKit RoomKitMini Board]

Off: カメラ制御を無効にします。

On: カメラ制御を有効にします。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro]

範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]

範囲: 1 ~ 6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Input Connector [n] CEC Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ入力 (HDMI) は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートします。この設定を有効にすると、接続デバイスの情報 (デバイスの種類やデバイス名) がビデオ会議デバイスのステータスで使用可能になります (Video Input Connector[n] ConnectedDevice CEC [n])。ただし、接続デバイスは CEC もサポートすることが条件となります。

カメラのスピーカーから音が出なくなるため、Quad Camera がある場合はコネクタの CEC のスイッチを切らないでください。CEC は、ビデオ会議デバイスからカメラに音声を送信するために使用されるチャンネルである HDMI ARC (オーディオ リターン チャンネル) に必要です。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55
Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

コネクタ 1: On その他のコネクタ: Off/On [Room70/Room55D]

Off: CEC が無効です。

On: CEC が有効になります。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]

範囲: 1 ~ 5 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]

範囲: 2 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Input Connector [n] HDCP Mode

適用対象: [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#)
[RoomPanorama/Room70Panorama](#) [BoardPro](#)

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスの HDMI 入力の 1 つを HDCP 保護コンテンツをサポートするように設定することができます (高帯域幅デジタル コンテンツ保護、バージョン 1.4)。これにより、DVD プレーヤー、Google ChromeCast、AppleTV、または HDTV デコーダなどのデバイスを接続してビデオ会議デバイスの画面を再利用できます。通話中にこの種のコンテンツを共有することはできません。

入力コネクタが HDCP をサポートするように設定されている場合、通話中は、この入力からのコンテンツを共有できないという制限が適用されます。ただし、HDCP で保護されたコンテンツと保護されていないコンテンツの両方をローカルで共有できます。このソースの Web スナップショットを撮ることはできません。

デバイス画面に HDCP で保護されたコンテンツを表示できるようにするには、Video Output Connector [n] HDCPPolicy が正しく設定されていること、および画面自体が HDCP をサポートしていることも確認してください。

デフォルト値:

Off

値スペース:

コネクタ 1、3: Off、コネクタ 2: Off/On [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

コネクタ 1、2、4: Off、コネクタ 3: Off/On [[CodecEQ](#)]

コネクタ 1、2、3、4: Off、コネクタ 5: Off/On [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 2: Off、コネクタ 3: Off/On [[Room55](#) [BoardPro](#)]

Off: ビデオ入力は、HDCP で保護されたコンテンツをサポートしていません。HDCP で保護されていないコンテンツのみがサポートされています。

On: ビデオ入力は、HDCP で保護されたコンテンツと HDCP で保護されていないコンテンツの両方をサポートします。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [[CodecPlus](#) [Room70/Room55D](#)]

範囲: 1 ~ 4 [[CodecEQ](#)]

範囲: 1 ~ 5 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

範囲: 2 ~ 3 [[Room55](#) [BoardPro](#)]

Video Input Connector [n] InputSourceType

適用対象: すべての製品

必要なユーザ ロール: ADMIN, INTEGRATOR

ビデオ入力に接続された入力ソースのタイプを選択します。
デバイスが内蔵カメラを備えている場合、コネクタ 1 は内蔵カメラを指します。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: camera コネクタ 3、4、5: PC [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: camera その他コネクタ: PC [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)]

値スペース:

PC/camera/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other [[RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: camera その他のコネクタ: PC/camera/document_camera/mediaplayer/whiteboard/other [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [Room55](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)]

PC: コンピュータがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

camera: カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

document_camera: ドキュメント カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

mediaplayer: メディア プレーヤーがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

whiteboard: ホワイトボード カメラがビデオ入力に接続されている場合に使用します。

other: 他のオプションが当てはまらない場合に使用します。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [DeskMini](#) [Board](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)]

範囲: 1 ~ 4 [[CodecEQ](#)]

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Board

Video Input Connector [n] Name

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ入力コネクタの名前を定義します。

デフォルト値:

コネクタ 1: "Camera 1" コネクタ 2: "Camera 2" コネクタ 3: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 4: "PC 2 (HDMI)" コネクタ 5: "PC 3 (HDMI)" コネクタ 6: "Camera 3 (SDI)" [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC (USB-C)" コネクタ 3: "PC (HDMI)" [[RoomBar BoardPro](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC (HDMI)" コネクタ 3: "PC (USB-C)" [[RoomBarPro](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 3: "PC 2 (HDMI)" [[CodecPlus Room70/Room55D](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 3: "PC 2 (HDMI)" コネクタ 4: "PC (USB-C)" [[CodecEQ](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC 1 (HDMI)" コネクタ 3: "PC 2 (HDMI)" [[Room55](#)]
コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC" [[RoomKit RoomKitMini Board](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC (USB-C)" [[DeskMini](#)]

コネクタ 1: "Camera" コネクタ 2: "PC (USB-C)" コネクタ 3: "PC (HDMI)" [[Desk DeskPro](#)]

値スペース:

文字列 (0、50)

ビデオ入力コネクタの名前。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro](#)]

範囲: 1 ~ 4 [[CodecEQ](#)]

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Video Input Connector [n] OptimalDefinition Profile

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は、対応する Video Input Connector [n] Quality 設定が Sharpness に設定されている場合には無効です。

最適鮮明度プロファイルは、ビデオ会議室の照明状態とカメラと品質を反映します。光の条件およびカメラの品質が優れているほど、プロファイルが高くなります。通常、Normal または Medium プロファイルが推奨されます。ただし、光の条件が良い場合、特定のコール率の解像度を大きくするために、High プロファイルを設定できます。解像度が発信側と着信側の両方のデバイスでサポートされている必要があります。

Video Input Connector [n] OptimalDefinition Threshold60fps 設定を使用し、60 fps が許可される最小解像度を設定します。このしきい値を下回ると、30 fps が最大フレームレートになります。

デフォルト値:

Medium [[RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk Board BoardPro](#)]

コネクタ 1: Medium コネクタ 2、3: High [[DeskPro](#)]

値スペース:

Normal/Medium/High

Normal: 照明が通常から不良の環境には、このプロファイルを使用します。解像度は控えめに設定されます。

Medium: 安定した光条件および高品質なビデオ入力が必要です。一部のコール レートの場合、これは高解像度へ移動できます。

High: 優れた全体的なエクスペリエンスを実現するには、理想に近いビデオ会議の光の状態および高品質なビデオ入力が必要です。相当高い解像度が使用されます。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [[RoomKit RoomKitMini DeskMini Board](#)]

範囲: 1 ~ 3 [[RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro](#)]

範囲: 1 ~ 4 [[CodecEQ](#)]

範囲: 1 ~ 6 [[CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Input Connector [n] OptimalDefinition Threshold60fps

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

各ビデオ入力について、この設定は 60 fps で送信できる最低解像度をデバイスに通知します。この値より低いすべての解像度では、最大送信フレームレートは 30 fps になります。この解像度以上では、使用可能な帯域幅が十分であれば 60 fps が可能です。

デフォルト値:

1920_1080 [RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]
Never [RoomKit Room55]

値スペース:

512_288/768_432/1024_576/1280_720/1920_1080/Never
512_288: 512x288 にしきい値を設定します。
768_432: 768x432 にしきい値を設定します。
1024_576: 1024x576 にしきい値を設定します。
1280_720: 1280x720 にしきい値を設定します。
1920_1080: 1920 X 1080 にしきい値を設定します。
Never: 60 fps を送信するしきい値を設定しません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]
範囲: 1 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro]
範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]
範囲: 1 ~ 6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Video Input Connector [n] PreferredResolution

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, INTEGRATOR

ビデオ会議デバイスが接続された入力ソース (例: ラップトップ) に通知する推奨の画面解析度と更新間隔を定義します。ソース デバイス (例: ラップトップのディスプレイ構成ソフトウェア) によって手動でオーバーライドされない限り、ソース側の解像度の選択するためのロジックは、自動的にこの解像度とリフレッシュ レートを選択します。

1920_1080_60 より大きい形式では特に大量のデータが使用されるため、少なくとも HDMI 1.4b データレートに対応したプレゼンテーションケーブル (またはアダプタ) が必要です。

デフォルト値:

1920_1080_60 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk]
コネクタ 2: 3840_2160_60 コネクタ 3: 3840_2160_30 [BoardPro]
コネクタ 1: 1920_1080_60 その他のコネクタ: 3840_2160_30 [CodecEQ]
3840_2160_30 [RoomBar RoomBarPro]
3840_2160_60 [DeskPro]
1920_1080_60 [RoomKit RoomKitMini CodecPlus Room55 Room70/Room55D Board]

値スペース:

コネクタ 1, 2: 1920_1080_60 コネクタ 3, 4, 5: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]
コネクタ 1: 1920_1080_60 その他のコネクタ: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [CodecPlus Room70/Room55D]
1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ Room55 Board]
1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 [DeskPro]
1920_1080_60 [DeskMini Desk]
コネクタ 2: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 コネクタ 3: 1920_1080_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [BoardPro]
1920_1080_60: 解像度は 1920 X 1080、リフレッシュ レートは 60 Hz です。
2560_1440_60: 解像度は 2560 X 1440、リフレッシュ レートは 60 Hz です。
3840_2160_30: 解像度は 3840 X 2160、リフレッシュ レートは 30 Hz です。
3840_2160_60: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]
範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]
範囲: 1 ~ 5 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]
範囲: 2 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]
範囲: 2 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Input Connector [n] PresentationSelection

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

プレゼンテーション ソースをビデオ入力に接続したときの、ビデオ会議デバイスの動作を定義します。デバイスがスタンバイ モードの場合、プレゼンテーション ソースを接続すると起動します。遠端とプレゼンテーションを共有するには、この設定が AutoShare に設定されていなければ、追加操作（ユーザーインターフェイスで [共有 (Share)] を選択）が必要です。

複数のカメラを搭載したデバイスの場合: どの入力ソースでもプレゼンテーションソースとして使用できます。通常、メインカメラはプレゼンテーションソースとして使用されません。

内蔵カメラを備えたデバイスの場合: 内蔵カメラはプレゼンテーション ソースとして利用できません。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: Manual コネクタ 3、4、5: OnConnect [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: Manual その他のコネクタ: OnConnect [CodecPlus Room70/Room55D]

コネクタ 1、2: Manual Other connectors: OnConnect [CodecEQ]

Desktop [DeskMini Desk DeskPro]

OnConnect [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro Room55 BoardPro]

AutoShare [Board]

値スペース:

AutoShare/Desktop/Manual/OnConnect

AutoShare: 通話時に、ビデオ入力のコンテンツは、ケーブルを接続するかまたはソースが有効になると（たとえば接続されているコンピュータがスリープ モードから復帰するなど）、自動的に遠端とローカル画面に表示されます。ユーザーインターフェイス上で [共有 (Share)] を選択する必要はありません。コールの発信時または応答時にプレゼンテーション ソースがすでに接続されている場合は、ユーザーインターフェイス上で [共有 (Share)] を手動で選択する必要があります。

Desktop: ビデオ入力のコンテンツは、ケーブルを接続するかまたはソースが有効になると（たとえば接続されているコンピュータがスリープ モードから復帰するなど）、画面に表示されます。これは、アイドル状態のときと通話中のときの両方に適用されます。また、ビデオ入力のコンテンツは、通話の終了時にアクティブ入力であれば、画面に表示されたままとなります。

Manual: ユーザーインターフェイスで [共有 (Share)] を選択するまでビデオ入力の内容は画面に表示されません。

OnConnect: ビデオ入力のコンテンツは、ケーブルを接続するかまたはソースが起動すると（たとえば接続されているコンピュータがスリープ モードから復帰するなど）、画面に表示されます。それ以外の場合は、Manual モードと同じ動作です。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]

範囲: 1 ~ 6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]

範囲: 2 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro]

Video Input Connector [n] Quality

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオのエンコーディングと送信のときには、高解像度と高フレーム レートとの間にトレード オフが存在します。一部のビデオ ソースでは、高フレーム レートが高解像度より重要である場合や、逆の場合もあります。この設定で、高フレーム レートと高解像度のどちらを優先するかを指定します。

デバイスにより、Quad Camera、SpeakerTrack 60 カメラ、または Precision 60 が検出されると、この設定は自動的に Motion に設定されます。ユーザーが手動でこの設定を変更した場合、再起動後またはカメラの再接続後に、Motion に戻ります。

デフォルト値:

コネクタ 1、2、6: Motion コネクタ 3、4、5: Auto [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: Motion その他のコネクタ: Auto [CodecPlus Room70/Room55D]

コネクタ 1、2: Motion その他のコネクタ: Auto [CodecEQ]

Auto [RoomKit RoomKitMini RoomBar Room55 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

コネクタ 2: Motion その他のコネクタ: Auto [RoomBarPro]

値スペース:

Auto/Motion/Sharpness

Auto: 開始点として、Auto は Sharpness に解決され、ビデオストリームはそれに応じてエンコードされます。デバイスは着信ビデオストリームを継続的に分析し、モーションが検出されると、Motion のエンコーディングに自動的に変更されます。

Motion: できるだけ高いフレーム レートにします。高いフレームレートが必要な場合に使用します（通常、画像の動きがある場合）。

Sharpness: できるだけ高い解像度にします。詳細なイメージやグラフィックに高い品質が必要な場合に使用されます。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]

範囲: 1 ~ 6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]

範囲: 2 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Input Connector [n] RGBQuantizationRange

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ入力に接続されたデバイスは CTA-861 で規定されている RGB ビデオ量子化範囲の規則に従う必要があります。残念ながら、一部のデバイスは規格に準拠していません。その場合、ソースの完全なイメージを取得するために、この設定を使用して設定を上書きできます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Full/Limited

Auto: RGB 量子化範囲は CTA-861-F に従ったビデオ形式に基づいて自動的に選択されません。CE ビデオ形式は、限定された量子化範囲レベルを使用します。IT ビデオ形式は、完全な量子化範囲レベルを使用します。

Full: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CTA-861-F で規定されています。

Limited: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CTA-861-F で規定されています。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 3 [CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]

範囲: 1 ~ 5 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]

範囲: 2 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro Room55 Desk DeskPro BoardPro]

Video Input Connector [n] Visibility

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ユーザーインターフェイスのメニューにあるビデオ入力コネクタとボタンの可視性を定義します。内蔵カメラを備えたデバイスの場合: コネクタ 1 はデバイス内蔵のカメラであり、プレゼンテーション ソースとしては利用できません。

デフォルト値:

コネクタ 1: Never その他コネクタ: IfSignal [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

コネクタ 1: Never コネクタ 2: Never その他コネクタ: IfSignal [RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: Never その他のコネクタ: Always [RoomKit RoomKitMini RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D]

値スペース:

Always/IfSignal/Never [RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: Never その他のコネクタ: Always/IfSignal/Never [RoomKit RoomKitMini RoomBar DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

Always: ビデオ入力コネクタ用メニュー選択は、ユーザーインターフェイスに常に表示されません。

IfSignal: ビデオ入力コネクタ用メニュー選択は、ビデオ入力に何か接続されている場合のみ表示されます。

Never: 入力の送信元はプレゼンテーション ソースとして使用されないため、ユーザーインターフェイスに表示されません。

n: ビデオ入力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomKitMini DeskMini Board]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D Desk DeskPro BoardPro]

範囲: 1 ~ 4 [CodecEQ]

範囲: 1 ~ 6 [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Input Miracast Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Miracast を使用すると、会議参加者は、クライアントを必要とせずに、ラップトップ (Windows または Android) からビデオ会議デバイスにワイヤレスでコンテンツを共有できます。Miracast は Wi-Fi Direct を使用して、送信側デバイス (通常は会議参加者のラップトップ) からビデオ会議デバイスへの直接ネットワーク接続を確立します。2.4 GHz 帯域のみがサポートされています。デバイスは、接続を確立する際のシグナリングに TCP ポート 7236 を使用します。

Miracast をオンにすると、デバイスからビーコンが発信され、近くのデバイスがそれを受信します (範囲は 100 m 程度)。近くのデバイスのスキャンリストに表示されるブロードキャスト名は、構成によって異なります。PII (個人識別情報) が含まれないようにするために、SystemUnit BroadcastName 設定でブロードキャスト名を具体的に設定できます。それ以外の場合、スキャンリストには、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されている場合は Webex DisplayName が表示され、オンプレミスサービスに登録されている場合は SystemUnit 名が表示されます。どちらの名前も設定されていない場合は、商品タイプ (id) が表示されます。

Miracast は Wi-Fi を使用しているため、非無線デバイスではサポートされていません。また、Wi-Fi アンテナがオプションになっている製品では、必ず接続する必要があります。さらに、デバイスはケーブルでネットワークに接続されている必要があります (また、有線ネットワーク インターフェイスに IP アドレスが設定されている必要があります)。

この機能は、このソフトウェアバージョンの Room 70 Panorama および Room Panorama では使用できません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Manual/Off/On

On: Miracast はアクティブ化されており、ユーザーは非アクティブ化できません。

Off: Miracast は非アクティブ化されており、ユーザーはアクティブ化できません。

Manual: Miracast はデフォルトで無効になっていますが、ユーザーはデバイスのユーザーインターフェイスの設定パネルから自分でオンとオフを切り替えることができます。

Video Input Miracast Pin Length

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Miracast 個人識別番号コードの桁数を設定します。会議参加者は、ビデオ会議デバイスに必要な Wi-Fi Direct ネットワーク接続を確立するときに、ラップトップ (送信デバイス) にこのコードを入力する必要があります。会議参加者は、30 秒以内に個人識別番号コードを入力する必要があります。

デフォルト値:

4

値スペース:

4/8

個人識別番号コードの桁数。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Monitors

適用先: RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/
Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Video Output Connector [n] MonitorRole 設定を使用する各画面にロールを割り当てます。モニター ロールは、この出力に接続されている画面上のどのレイアウト（コール参加者とプレゼンテーション）に表示するかを決定します。同じモニター ロールの画面は同じレイアウトになり、別のモニター ロールの画面は異なるレイアウトになります。

Video Monitors で設定するモニター レイアウト モードには、部屋のセットアップで利用する各レイアウト数を反映させてください。いくつかの画面がプレゼンテーション用に確保できることに注意してください。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Single/Dual/DualPresentationOnly [RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/
Room55D DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

Auto/Single/Dual/DualPresentationOnly/Triple/TriplePresentationOnly [RoomBarPro
CodecEQ CodecPro Room70G2]

Auto/TriplePresentationOnly [RoomPanorama/Room70Panorama]

Auto: デバイスに接続された画面数は自動的に検出され、レイアウトはモニター ロールの設定に従って画面に割り振られます。

Single: レイアウトは、デバイスの画面に表示されます。デバイスが複数の画面を備えている場合、すべての画面に同じレイアウトが表示されます。

Dual: レイアウトはモニター ロール [第 1 (First)] および [第 2 (Second)] の画面に配信されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、コールの参加者はすべてモニター ロールが First である画面に表示され、プレゼンテーションはモニター ロールが Second である画面に表示されます。

DualPresentationOnly: コールのすべての参加者がモニター ロールが First である画面に表示されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションはモニター ロールが Second である画面に表示されます。

Triple: レイアウトはモニター ロールが First、Second、Third である画面に配信されます。Second のモニター ロールがある画面がまず使用され、次に First、最後に Third が使用されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、コールの参加者はすべてモニター ロールが First および Second である画面に表示され、プレゼンテーションはモニター ロールが Third の画面に表示されます。

TriplePresentationOnly: コールのすべての参加者がモニター ロール First および Second の画面に配信されます。Second のモニター ロールがある画面がまず使用され、次に First の画面が使用されます。プレゼンテーションがレイアウトの一部である場合、プレゼンテーションはモニター ロールが Third の画面に表示されます。

Video Output Connector [n] Brightness

適用対象: Room55 DeskMini Desk DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: admin、user

デバイスの内蔵画面の明るさレベルを定義します。

デフォルト値:

80

値スペース:

整数 (0 ~ 100)

範囲: 値は 0 ~ 100 である必要があります。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

Video Output Connector [n] BrightnessMode

適用対象: DeskPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、USER

画面の輝度レベルを自動または手動制御を許可するように設定します。Connector [1] は、デバイスの内蔵画面です。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Manual

Auto: 画面の輝度レベルをデバイスで自動的に設定できるようにします。

Manual: 画面の輝度レベルをユーザーが手動で設定できるようにします。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Output Connector [n] CEC Mode

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオ出力 (HDMI) は、Consumer Electronics Control (CEC) をサポートします。

この設定が [オン (On)] の場合、ビデオ会議デバイス自身がスタンバイになるときに、CEC を使用して画面をスタンバイ状態にセットします。同様に、デバイスがスタンバイから復帰するときに、デバイス自身が画面を起動します。

画面のアクティブなビデオ入力が入力によって変更されることがあります。コールが開始されると、デバイスはアクティブなビデオ入力が入力の別の入力に切り替えられたかどうかを検出します。切り替えられている場合、デバイスは入力を切り替え直し、デバイスがアクティブなビデオ入力ソースになります。デバイスがスタンバイ状態になるときに、デバイスがアクティブな入力ソースでない場合は、画面はスタンバイ状態にセットされません。

出力に接続した画面に CEC 互換性があること、および CEC が画面上で有効であることが必須条件です。

CEC については、製造業者によって異なるマーケティング名称が使用されていることに注意してください。例: Anynet+ (Samsung)、Aquos Link (シャープ)、BRAVIA Sync (Sony)、HDMI-CEC (日立)、Kuro Link (パイオニア)、CE-Link および Regza Link (東芝)、RIHD (オンキヨー)、HDAVI Control、EZ-Sync、VIERA Link (Panasonic)、EasyLink (Philips)、NetCommand for HDMI (三菱)。

このソフトウェアバージョンの Desk Pro および Board Pro は、外付け画面をサポートしていません。

デフォルト値:

On [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 DeskPro BoardPro]

Off [Room70/Room55D Room70G2]

Room Panorama: On ; Room 70 Panorama: コネクタ 1: Off、コネクタ 2: Off、コネクタ 3: On [RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

Off/On [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskPro BoardPro]

Room Panorama: On、

Room 70 Panorama: Off/On [RoomPanorama/Room70Panorama]

Off: CEC が無効です。

On: CEC が有効になります。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [RoomKitMini]

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomBar CodecPlus]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [Room55 DeskPro BoardPro]

範囲: 2 ~ 2 (Room 70 Single 対応) Room 70 Dual では利用できません [Room70/Room55D]

Video Output Connector [n] HDCPPolicy

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

ビデオ会議デバイスの HDMI 出力の一部は、HDCP で保護されたコンテンツの送信を許可するように設定できます。HDCP で保護されたコンテンツを画面に表示するには、必ず、画面自体も HDCP をサポートしている必要があります。

デフォルト値:

Off [RoomKit RoomKitMini RoomBarPro BoardPro]

On [RoomBar CodecEQ Room55 DeskPro]

コネクタ 1、2: On コネクタ 3: Off [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: On コネクタ 2: Off [CodecPlus Room70/Room55D]

値スペース:

Off [RoomKit RoomKitMini RoomBarPro BoardPro]

Off/On [RoomBar CodecEQ]

On [Room55 DeskPro]

コネクタ 1、2: Off/On コネクタ 3: Off [CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: Off/On コネクタ 2: Off [CodecPlus Room70/Room55D]

Off: 出力リンクで HDCP が無効化されています。したがって、ビデオ出力では、保護されていないコンテンツのみが許可されます。

On: ビデオ出力は、HDCP で保護されたコンテンツと保護されていないコンテンツの両方を許可します。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [Room55 DeskPro BoardPro]

範囲: 1 ~ 1 [RoomKitMini]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Output Connector [n] Location HorizontalOffset

適用先: RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/
Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HorizontalOffset 設定および VerticalOffset 設定は、各ビデオ出力に関連付けられています。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対的な位置を信号で送信するために使用されます。

HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" は、ディスプレイが水平および垂直の両方で中央に位置することを示します。負の水平オフセットは、モニターが中心の左にあり、正の水平オフセットはモニターが中心の右にあることを示します。負の垂直オフセットは、モニターが中心の下にあり、正の垂直オフセットはモニターが中心の上にあることを示します。オフセットの大きさはディスプレイが (他のディスプレイと比較して) どれくらい中央から離れているかを示します。

例: 隣り合った 2 つの画面があります。左はコネクタ 1 の画面、右はコネクタ 2 の画面です。ここでは次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "1", VerticalOffset = "0"

例: 下のように 2 つの画面があります。上側はコネクタ 1 の画面、下側はコネクタ 2 の画面です。ここでは次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "-1"

Room 55 と Desk Pro の場合、内蔵画面 (コネクタ 1) は HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" です (暗黙的、設定不可)。このソフトウェアバージョンの Desk Pro および Board Pro は、外付け画面をサポートしていません。

デフォルト値:

コネクタ 1: "-1" コネクタ 2: "0" コネクタ 3: "1" [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2]

コネクタ 1: "0" コネクタ 2: "1" コネクタ 3: "0.5" [RoomPanorama/Room70Panorama]

コネクタ 1: "0" コネクタ 2: "1" [RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]

コネクタ 2: "1" [Room55 DeskPro BoardPro]

値スペース:

文字列 (1, 12)

この文字列は、-100.0 ~ 100.0 (両方の値を含む) の 10 進数を表します。C++ の文字列ライブラリの std::stof 関数に準拠した入力文字列を使用できます。つまり、10 進数表記または指数表記のどちらも使用できることを意味します。例: "12", "12.0", "1.2e1", "1.2E1", "-0.12", "-12e-2"。先頭の空白文字は破棄されます。小数点には "." を使用します。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [Room55 DeskPro BoardPro]

Video Output Connector [n] Location VerticalOffset

適用先: RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/
Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HorizontalOffset 設定および VerticalOffset 設定は、各ビデオ出力に関連付けられています。これらの設定は、これらの出力に接続されているディスプレイの相対的な位置を信号で送信するために使用されます。

HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" は、ディスプレイが水平および垂直の両方で中央に位置することを示します。負の水平オフセットは、モニターが中心の左にあり、正の水平オフセットはモニターが中心の右にあることを示します。負の垂直オフセットは、モニターが中心の下にあり、正の垂直オフセットはモニターが中心の上にあることを示します。オフセットの大きさはディスプレイが (他のディスプレイと比較して) どれくらい中央から離れているかを示します。

Room 55 と Desk Pro の場合、内蔵画面 (コネクタ 1) は HorizontalOffset = "0" および VerticalOffset = "0" です (暗黙的、設定不可)。

例: 隣り合った 2 つの画面があります。左はコネクタ 1 の画面、右はコネクタ 2 の画面です。ここでは次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "1", VerticalOffset = "0"

例: 2 つの画面 (一方がもう一方の下にある) があります。上側はコネクタ 1 の画面、下側はコネクタ 2 の画面です。ここでは次の設定が適用されます。

Video Output Connector 1 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "0"

Video Output Connector 2 Location: HorizontalOffset = "0", VerticalOffset = "-1"

このソフトウェアバージョンの Desk Pro および Board Pro は、外付け画面をサポートしていません。

デフォルト値:

コネクタ n: "0" [RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/
Room55D Room70G2 DeskPro BoardPro]

コネクタ 1, 2: "0" コネクタ 3: "-1" [RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

文字列 (1, 12)

この文字列は、-100.0 ~ 100.0 (両方の値を含む) の 10 進数を表します。C++ の文字列ライブラリの std::stof 関数に準拠した入力文字列を使用できます。つまり、10 進数表記または指数表記のどちらも使用できることを意味します。例: "12", "12.0", "1.2e1", "1.2E1", "-0.12", "-12e-2"。先頭の空白文字は破棄されます。小数点には "." を使用します。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [Room55 DeskPro BoardPro]

D15503.02

RoomOS

11.5

07-2023



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Output Connector [n] MonitorRole

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

モニター ロールは、ビデオ出力に接続された画面にどのビデオ ストリームを表示するかを示します。すべての出力用の Video Monitors 設定および MonitorRole 設定とともに、各画面に表示されるレイアウト (ビデオストリーム) を定義します。

この設定でサポートしている画面は 1 つだけのため、Room Kit Mini には適用されません。このソフトウェアバージョンの Desk Pro および Board Pro は、外付け画面をサポートしていません。

デフォルト値:

Auto [RoomKit RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro]

デュアル: コネクタ 1、2: Auto; シングル: コネクタ 1: Auto コネクタ 2: PresentationOnly [Room70/Room55D]

値スペース:

Auto/First/Second/PresentationOnly [RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro BoardPro]

Auto/First/Second/Third/PresentationOnly/Recorder [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Auto: 画面が接続されたときにデバイスが検知し、Video Monitors 設定に対応するモニター ロール (First、Second、Third) を自動的に割り当てます。

First/Second/Third: マルチ画面設定での画面の役割を定義します。シングル画面設定では、First、Second、Third の間に相違はありません。

PresentationOnly: アクティブな場合プレゼンテーション ビデオ ストリームを表示し、他のものは表示しません。このモニター ロールの画面および出力は Video Monitors 設定によって無視されます。

Recorder: ローカル メイン ビデオ (セルフビュー) を含むすべての参加者を表示します。アクティブであれば、プレゼンテーションも表示されます。このモニター ロールの画面および出力は Video Monitors 設定によって無視されます。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [Room55 DeskPro BoardPro]

範囲: 1 ~ 1 [RoomKitMini]

Video Output Connector [n] OverscanLevel

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

このバージョンでは適用されません。

デフォルト値:

なし

値スペース:

High/Medium/None

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [RoomKitMini]

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomBar CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ]

範囲: 2 ~ 2 [Room55 DeskPro BoardPro]

Board

Video Output Connector [n] Resolution

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR、USER

画面の解像度とリフレッシュレートを定義します。デバイスに統合画面がある場合、Connector [1] はこの画面を指します。

外付け画面に接続する際は、1920_1200_60 より大きなフォーマットには、高品質なディスプレイ ケーブルを使用する必要があります。

UHD テレビおよび画面には、3840_2160_30 (30 Hz) のみしか使用できないものもありますが、3840_2160_60 (60 Hz) はデフォルト設定ではありません。このような場合、テレビと画面の関連設定で、デバイスが接続されている HDMI 入力として 3840_2160_60 を許可するように再設定する必要があります。

このソフトウェアバージョンの Desk Pro および Board Pro は、外付け画面 (Connector [2]) をサポートしていません。

デフォルト値:

3840_2160_60 [Board]

1920_1080_60 [DeskMini Desk]

コネクタ 1: 3840_2160_60 コネクタ 2: Auto [Room55 DeskPro BoardPro]

Auto [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room70/Room55D Room70G2]

コネクタ 1、2: Auto、コネクタ 3: 3840_2160_30 [RoomPanorama/Room70Panorama]

値スペース:

コネクタ 1、2: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 コネクタ 3: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30 [CodecPro Room70G2]

コネクタ 1、2: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 コネクタ 3: 3840_2160_30 [RoomPanorama/Room70Panorama]

3840_2160_60 [Board]

コネクタ 1: 3840_2160_60 コネクタ 2: Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 [Room55 DeskPro BoardPro]

1920_1080_50 [DeskMini Desk]

Auto/1920_1080_50/1920_1080_60/1920_1200_50/1920_1200_60/2560_1440_60/3840_2160_30/3840_2160_60 [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus Room70/Room55D]

Auto: デバイスは接続されたモニタのネゴシエーションに基づいて自動的に最適な解像度の設定を試行します。

1920_1080_50: 解像度は 1920 X 1080、リフレッシュ レートは 50 Hz です。

1920_1080_60: 解像度は 1920 X 1080、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

1920_1200_50: 解像度は 1920 X 1200、リフレッシュ レートは 50 Hz です。

1920_1200_60: 解像度は 1920 X 1200、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

2560_1440_60: 解像度は 2560 X 1440、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

3840_2160_30: 解像度は 3840 X 2160、リフレッシュ レートは 30 Hz です。

3840_2160_60: 解像度は 3840 x 2160、リフレッシュ レートは 60 Hz です。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [RoomKitMini DeskMini Desk Board]

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomBar CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskPro BoardPro]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Video Output Connector [n] RGBQuantizationRange

適用先: RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama DeskPro BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

接続されている HDMI ディスプレイは、CTA-861 で定義されている RGB ビデオ量子化範囲の規則に従う必要があります。残念ながら、一部のディスプレイは規格に準拠していません。その場合、ディスプレイの完全なイメージを取得するために、この設定を使用して設定を上書きできます。

このソフトウェアバージョンの Desk Pro および Board Pro は、外付け画面をサポートしていません。

デフォルト値:

フル

値スペース:

Auto/Full/Limited

Auto: ディスプレイの信号が EDID で「選択可能な RGB 量子化範囲」をサポートする場合、AVI インフォフレームは RGB 量子化範囲ビット (Q0、Q1) で完全な範囲をシグナリングします。それ以外の場合、CE ビデオ形式の AVI インフォフレームでは限定された範囲がシグナリングされ、IT ビデオ形式では完全な範囲がシグナリングされません。

Full: 完全な量子化の範囲。R、G、B の量子化範囲にはすべてのコード値 (0 ~ 255) が含まれます。これは CTA-861-H で規定されています。

Limited: 限定された量子化の範囲。極端なコード値を除いた R、G、B の量子化範囲 (16 ~ 235)。これは CTA-861-H で規定されています。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1 [RoomKitMini]

範囲: 1 ~ 2 [RoomKit RoomBar CodecPlus Room70/Room55D]

範囲: 1 ~ 3 [RoomBarPro CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

範囲: 2 ~ 2 [Room55 DeskPro BoardPro]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Output HDMI Passthrough Allowed

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスの HDMI 出力の 1 つに接続されている HDMI - USB コンバータ (キャプチャデバイス) の USB ソケットにラップトップを接続すると、ラップトップのミーティング アプリケーションで会議を行う際に、デバイスのカメラとマイクを使用できます。また、デバイスの画面とスピーカーを利用するには、ラップトップと HDMI 入力のためにプレゼンテーションケーブル (HDMI) が必要です。この機能は、[ラップトップからのコール (Call from laptop)]、[Web カメラモード (Webcam mode)]、[HDMI パススルー (HDMI passthrough)] と呼ばれます。

HDMI - USB コンバータが接続されている HDMI 出力は、Video Output HDMI Passthrough OutputConnector 設定で設定されます。また、ビデオモニターと Video Output Connector [n] MonitorRole の設定が正しいことを確認することもできます。

Room 55 Dual および Room 70 Dual では、コンバータで使用できる HDMI 出力がないため、[ラップトップからのコール (Call from laptop)] はサポートされていません。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 機能を無効にします。ラップトップのミーティング アプリケーションからの発信はサポートされていません。

True: 機能を有効にします。ラップトップのミーティング アプリケーションからの発信がサポートされており、ユーザーインターフェイスで [ラップトップからのコール (Call from laptop)] ボタンがあります。

Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Mode

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

[ラップトップからのコール (Call from laptop)] (HDMI パススルー) 機能を使用する場合、ユーザーは (ラップトップで) HDMI - USB コンバータ (キャプチャデバイス) をマイクとカメラとして使用することを選択する必要があります。この設定では、選択するデバイスのリストに表示する名前をカスタマイズできます。

[ラップトップからのコール (Call from laptop)] の詳細については、HDMI Passthrough Allowed 設定を参照してください。Room 55 Dual および Room 70 Dual では、コンバータで使用できる HDMI 出力がないため、[ラップトップからのコール (Call from laptop)] はサポートされていません。

デフォルト値:

全般

値スペース:

Auto/Custom/General

Auto: HDMI-to-USB コンバータがビデオデバイスにアドバタイズしている名前を表示します。空白の場合、HDMI - USB コンバータの一般的な名前が表示されます。HDMI - USB コンバータに接続した HDMI 出力コネクタ n の Video Output Connector [n] ConnectedDevice Name 状態のアドバタイズされた名前を見つけることができます。

General: HDMI - USB へのコンバータの名前として、一般的な用語を表示します。

Custom: Video Output Hdmi Passthrough HdmiUsbConverter Name 設定で定義された名前を、HDMI - USB コンバータの名前として表示します。

Video Output HDMI Passthrough HdmiUsbConverter Name

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Video Output Hdmi Passthrough HdmiUsbConverter Mode が Custom に設定されている場合、ここで HDMI - USB コンバータ (キャプチャデバイス) の名前を設定する必要があります。これは、ラップトップからカメラとマイクを選択する際に、選択するデバイスのリストに表示される名前です。

Room 55 Dual および Room 70 Dual にはコンバータで使用できる HDMI 出力がないため、この設定は使用できません。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0、25)

HDMI - USB コンバータの名前。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Output HDMI Passthrough OutputConnector

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

HDMI - USB コンバータ (キャプチャデバイス) を接続した HDMI 出力コネクタを設定します。デフォルトでは、デバイスは最も高い番号の HDMI 出力を使用するように設定されています。

この設定は、[ラップトップからのコール (Call from laptop)] が有効になっている場合、つまり、Video Output HDMI Passthrough Allowed が True に設定されている場合にのみ適用されます。

Room 55 Dual および Room 70 Dual にはコンバータで使用できる HDMI 出力がないため、この設定は使用できません。

デフォルト値:

- 3 [CodecPro Room70G2]
- 2 [RoomKit CodecPlus Room70/Room55D]
- 1 [Room55]

値スペース:

- 整数 (1 ~ 3) [CodecPro]
 - Room 70 Dual G2: 整数 (3 ~ 3) Room 70 Single G2: 整数 (2 ~ 3) [Room70G2]
 - 整数 (1 ~ 2) [RoomKit CodecPlus]
 - 整数 (1 ~ 1) [Room55]
 - Room 70 Single: 整数 (2 ~ 2) [Room70/Room55D]
- 範囲: 選択したビデオ出力コネクタの一意の識別子。

Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Enabled

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

たとえば、ユーザーがタッチコントローラから切断するのを忘れた場合など、デバイスが一定の遅延の後に[HDMI パススルー (HDMI Passthrough)] を自動的に切断するかどうかを決定します。遅延は、Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Delay で設定されます。

[HDMI パススルー (HDMI passthrough)] と [ラップトップから会議 (Call from laptop)] 機能についての詳細は、「Video Output HDMI Passthrough Allowed 設定」を参照してください。[ラップトップから会議 (Call from laptop)] 機能は、Room 55 Dual および Room 70 Dual ではサポートされていません。

デフォルト値:

True

値スペース:

False/True

False: [HDMI パススルー (HDMI Passthrough)] は自動的に切断されません。ユーザーは常にタッチコントローラから切断する必要があります。

True: Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Delay がタイムアウトすると、[HDMI パススルー (HDMI Passthrough)] が切断されます。

Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Delay

適用対象: RoomKit CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2

必要なユーザ ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デバイスが自動的に切断されるまでの[HDMI パススルー (HDMI Passthrough)] モードの時間を分単位で設定します。この設定は、Video Output HDMI Passthrough AutoDisconnect Enabled が True に設定されている場合にのみ有効です。

[HDMI パススルー (HDMI passthrough)] と [ラップトップから会議 (Call from laptop)] 機能についての詳細は、「Video Output HDMI Passthrough Allowed 設定」を参照してください。[ラップトップから会議 (Call from laptop)] 機能は、Room 55 Dual および Room 70 Dual ではサポートされていません。

デフォルト値:

120

値スペース:

整数 (1 ~ 1440)
分単位で測定された遅延。

Video Output Webcam USBMode

適用対象: RoomKitMini RoomBar BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

ビデオの接続時またはストリーミングビデオの開始時に、USB モード (および、do-not-disturb) を指定するかどうかを指定します。

デフォルト値:

OnStreaming

値スペース:

OnConnect/OnStreaming
OnConnect: ビデオの接続時に USB モードになります。
OnStreaming: ストリーミングビデオの開始時に USB モードになります。

Board

Video Output Connector [n] Whitebalance Level

適用対象: [Room55](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: admin, user

内蔵スクリーンの色温度 (ホワイト バランス) を、4000 K (暖色) ~ 9000 K (寒色) の間で調整します。

デフォルト値:

6500

値スペース:

整数 (4000 ~ 9000)
ケルビン単位の色温度。

n: ビデオ出力コネクタを識別する固有 ID。

範囲: 1 ~ 1

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Video Presentation DefaultSource

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN, USER

デフォルトのプレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソースを定義します。この設定は、API およびサードパーティのユーザーインターフェイスで使用できます。Cisco が提供するユーザーインターフェイスの使用時には関係ありません。

デフォルト値:

- 2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)]
- 3 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

値スペース:

- 1/2 [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [DeskMini](#) [Board](#)]
- 1/2/3 [[RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecPlus](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [BoardPro](#)]
- 1/2/3/4 [[CodecEQ](#)]
- 1/2/3/4/5/6 [[CodecPro](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

デフォルトのプレゼンテーション ソースとして使用するビデオ入力ソース。

Video Presentation Priority

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

プレゼンテーションチャンネルとビデオチャンネル間でどのように帯域幅を分配するかを指定します。

デフォルト値:

等分

値スペース:

- Equal/High/Low [[RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)]
- Equal [[RoomPanorama/Room70Panorama](#)]

利用可能なビデオ伝送帯域幅がメインチャンネルとプレゼンテーションチャンネルの間で分散されます。

High: プレゼンテーションチャンネルは、メインビデオチャンネルを犠牲にして、利用可能な帯域の大部分に割り当てられます。

Low: メインビデオチャンネルは、プレゼンテーションチャンネルを犠牲にして、利用可能な帯域の大部分に割り当てられます。

Board

Video Selfview Default FullscreenMode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コール終了後に、メイン ビデオ ソース (セルフビュー) を全画面表示するか、小さいピクチャインピクチャ (PiP) として表示するかを定義します。この設定はセルフビューがオンになっている場合にのみ有効です (Video Selfview Default Mode の設定を参照)。

Desk および Desk Pro の場合、ユーザーインターフェイスを使用して全画面セルフビューをオフにすると、次回ユーザーインターフェイスを使用して再度オンにした場合に PiP として表示されます。

デフォルト値:

Current

値スペース:

Off/Current/On

Off: セルフビューは PiP として表示されます。

Current: セルフビュー画像のサイズは、会議終了時のまま維持されます。つまり、会議中に PiP だった場合は、会議後も PiP のままで、会議中に全画面だった場合は、会議後も全画面のまま維持されます。

On: セルフビューの画像は全画面表示されます。

Video Selfview Default Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コール後、およびコール中にビデオがオフになって再度オンになった後に、メインビデオソース (セルフビュー) を画面に表示する必要があるかどうかを定義します。セルフビュー ウィンドウの位置とサイズはそれぞれ、Video Selfview Default PIPPosition および Video Selfview Default FullscreenMode の設定によって決まります。

デフォルト値:

Current

値スペース:

Off/Current/On

Off: コール退出時や、コール中にビデオをオンにした後も、セルフビューがオフになります。

Current: セルフビューはそのままの状態が残ります。つまり会議中にオンであった場合は会議中終了後にもオンのままであり、会議中にオフであった場合は会議中終了後もオンのままであります。コール中にビデオをオンにした後も同様です。

On: コール退出時や、コール中にビデオをオンにした後も、セルフビューがオンになります。

Video Selfview Default OnMonitorRole

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コールの後にメイン ビデオ ソース (セルフビュー) を表示する画面/出力を設定します。この値は、異なる出力用に設定された Video Output Connector [n] MonitorRole 設定のモニターロールを反映します。

この設定は、セルフ ビューが全画面で表示されたとき、およびセルフビューがピクチャインピクチャ (PiP) で表示されたときの両方に適用されます。

デフォルト値:

Current

値スペース:

Current/First/Second [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecPlus Room55 Room70/Room55D DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro]

Current/First/Second/Third [CodecEQ CodecPro Room70G2 RoomPanorama/Room70Panorama]

Current: コールを中止すると、セルフビュー画像がコール中と同じ出力上に維持されます。

First: モニター ロールが First である出力で、セルフビュー画像が表示されます。

Second: モニター ロールが Second である出力で、セルフビュー画像が表示されます。

Third: モニター ロールが Third である出力で、セルフビュー画像が表示されます。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Board

Video Selfview Default PIPPosition

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コール終了後に小さいセルフビュー ピクチャインピクチャ (PiP) を表示する画面上の位置を定義します。この設定は、セルフビューがオンになっており (Video Selfview Default Mode 設定を参照)、全画面表示がオフになっている場合 (Video Selfview Default FullscreenMode 設定を参照) にのみ有効です。

デフォルト値:

Current [RoomKit RoomKitMini RoomBar RoomBarPro CodecEQ CodecPlus CodecPro Room55 Room70/Room55D Room70G2 DeskMini Desk DeskPro BoardPro]

LowerRight [RoomPanorama/Room70Panorama]

Current [Board]

値スペース:

Current/UpperLeft/UpperCenter/UpperRight/CenterLeft/CenterRight/LowerLeft/LowerRight

Current: セルフビュー PiP の位置はコール終了後にも変更されません。

UpperLeft: セルフビュー PiP が画面の左上隅に表示されます。

UpperCenter: セルフビュー PiP が画面の上部中央に表示されます。

UpperRight: セルフビュー PiP が画面の右上隅に表示されます。

CenterLeft: セルフビュー PiP が画面の左中央に表示されます。

CenterRight: セルフビュー PiP が画面の右中央に表示されます。

LowerLeft: セルフビュー PiP が画面の左下隅に表示されます。

LowerRight: セルフビュー PiP が画面の右下隅に表示されます。

Video Selfview Default Visibility

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

このソフトウェアバージョンでは適用されません。

デフォルト値:

Current

値スペース:

AlwaysShow/Current/Hide/ShowInCall

Video Selfview OnCall Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

コールをセットアップする短い間、この設定を使用してセルフ ビューがオンにされます。セルフビューをオンのままにしておく時間の長さは、Video Selfview OnCall Duration 設定で定義します。これは一般にセルフ ビューがオフの場合に適用されます。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されません。

On: セルフ ビューはコール セットアップ中に自動的に表示されます。

Video Selfview OnCall Duration

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定は Video Selfview OnCall Mode 設定が On になっている場合にのみ有効です。この場合、ここで設定された秒数により、自動的にオフにされる前にセルフ ビューが表示される期間が決まります。

デフォルト値:

5

値スペース:

整数 (1 ~ 60)

範囲: セルフ ビューをオンにする期間を選択します。有効な範囲は、1 ~ 60 秒です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

VoiceControl 設定

VoiceControl Wakeword Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

この設定を使用して、Webex Assistant で使用されるウェイクワード (「OK Webex」など) を有効または無効にします。Webex Assistant では、デバイスのハンズフリーを使用できます。ウェイクワードを使用すると、コールの発信やプレゼンテーションの開始などのタスクを開始できます。

UserInterface Assistant Mode 設定を使用して Webex Assistant をオンにします。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: ウェイクワードの使用を無効にします。

On: ウェイクワードの使用を有効にします。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

WebEngine 設定

WebEngine Features LocalWebAppManagement

適用対象: DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

デバイスのユーザーインターフェイスの[設定 (Settings)]メニューにインストールされている Web アプリケーションのリストを表示するかどうか、また、ユーザーがこのメニューから Web アプリを管理 (追加、編集、削除) できるかどうかを決定します。

デバイスのローカル Web インターフェイスまたは API を使用してデバイスに直接設定されている Web アプリのみ、[設定 (Settings)]メニュー (ローカルで管理) から管理できます。Control Hub (外部管理) から設定されている Web アプリは一覧表示されますが、ユーザーは管理できません。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Allowed/NotAllowed/Off

Allowed: ユーザーは、デバイスのユーザーインターフェイスの [設定 (Settings)] メニューから、ローカルで管理される Web アプリケーションを追加、編集、削除できます。

NotAllowed: インストールされている Web アプリケーションのリストは [設定 (Settings)] メニューに表示されますが、ユーザーはそれらを管理できません。

Off: [設定 (Settings)] メニューで Web アプリケーションを一覧表示または管理するためのエントリがありません。

WebEngine Features WebGL

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

WebGL™ は、低レベルの 3D グラフィックスの Web 標準です。RoomOS の WebGL は試験的な機能であり、将来変更される可能性があります。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

On: WebGL が有効になります。

Off: WebGL が無効になります。

WebEngine Features SipUrlHandler

適用対象: RoomKitMini DeskMini Desk DeskPro Board BoardPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

この構成により、Web ビューベースの機能 (Web アプリ、デジタルサイネージなど) から直接 SIP コールを開始できます。ユーザーは SIP:yourSipUrl というラベルの付いたボタンを選択してコールを開始し、そのコールはデバイスによって発信されます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Web ビューからの SIP コールの開始は無効になります。

On: Web ビューからの SIP コールの開始は有効になります。

WebEngine Features Xapi Peripherals AllowedHosts Hosts

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

永続的な Web アプリをホストしているサーバーのドメイン名がここにリストされている場合、アプリはデバイス上で API コマンドを実行することが許可されています。それ以外の場合は、デバイスとの通信を必要としないアプリのみが Room Navigator で実行できます。

UserInterface HomeScreen Peripherals WebApp URL 設定で指定された URL がチェックされ、許可されたホストのリストと一致した場合、デバイスでの API コマンドの実行が許可されます。

注: 永続的な Web アプリは、ネットワークを介してデバイスにペアリングされている Room Navigator でのみ使用できます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 1024)

1 つ以上のドメイン名を指定します。複数の場合は、コンマで区切ります。「*」をワイルドカードとして使用できます。たとえば、「*.cisco.com」は、cisco.com で終わるすべてのホストを許可します。任意のドメインを許可するには、「*」を指定します。

Board

WebEngine FpsCounter

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

このリリースでは適用外です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

WebEngine MinimumTLSVersion

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web エンジンで許可する最低バージョンの TLS (Transport Layer Security) プロトコルを設定します。

デフォルト値:

TLSv1.1

値スペース:

TLSv1.0/TLSv1.1/TLSv1.2

TLSv1.0: TLS バージョン 1.0 以降のサポート。

TLSv1.1: TLS バージョン 1.1 以降のサポート。

TLSv1.2: TLS バージョン 1.2 以降のサポート。

WebEngine Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web エンジンは、デジタル サイネージや Web アプリなど、デバイスの Web ビューを使用する機能が動作するための前提条件です。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: Web エンジンが無効になります。

On: Web エンジンが有効になります。

WebEngine RemoteDebugging

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることを推奨します。リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニターされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

使用後は、必ずリモート デバッグをオフにしてください。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: リモート デバッグがオフに切り替わります。

On: リモート デバッグがオンに切り替わります。

WebEngine UseHttpProxy

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

サービスの通信に HTTP プロキシを使用するかどうかを指定できるように、いくつかの [Httpプロキシの使用 (UseHttpProxy)] 設定が用意されています。WebEngine UseHttpProxy 設定は、デジタルサイネージ、API 駆動の Web ビューや Web アプリなど、すべての Web ビューベースの機能に適応します。

この設定を有効にするには、[ネットワークサービス HTTP プロキシ (NetworkServices HTTP Proxy)] 設定を使用して、HTTP、HTTPS、および WebSocket トラフィック用のプロキシサーバーをセットアップする必要があります。

デフォルト値:

On

値スペース:

Off/On

Off: サーバーとの直接通信をセットアップします (プロキシを使用しません)。

On: プロキシ経由の通信をセットアップします。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Webex 設定

Webex CloudProximity GuestShare

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定では、devices.webex.com 経由でゲスト共有機能をオフにすることができます。

デフォルト値:

Auto

値スペース:

Auto/Off

Auto: ゲストの共有を許可するかどうかをシステムが自動的に判断できるようにします。これは、現在デフォルトでは有効になっています。

Off: ゲスト共有機能をオフにします。

Webex CloudProximity Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

オンプレミスのコールマネージャに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされたデバイスは、超音波、Wi-Fi 検出、ゲスト共有のようなペアリングメカニズムを処理するためにオンプレミスとクラウド両方のプロキシモディモードをサポートします。この設定では、使用する 2 つのプロキシモディモードを定義できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: リンクされたデバイスは、オンプレミスのプロキシモディモードを使用します。

On: リンクされたデバイスはクラウドのプロキシモディモードを使用します。

Webex CloudUpgrades Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

オンプレミスサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスでは、オンプレミスのプロビジョニングサービスまたは Webex クラウドサービス (クラウド管理のソフトウェアのアップグレード) からソフトウェアをアップグレードするかどうかを選択できます。

クラウド管理のソフトウェアのアップグレードでは、新しい RoomOS ソフトウェアバージョンが利用可能になると、デバイスは自動的にアップグレードされます。これは、クラウドに登録されたデバイスのアップグレードと同時です。デバイスを手動でアップグレードする必要なく、最新の更新とバグ修正をより速く取得できます。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: デバイスソフトウェアはクラウドからアップグレードされません。CUCM などのオンプレミスのプロビジョニングサービスを使用するか、または手動アップグレードを使用する必要があります。

On: クラウドで新しいソフトウェアバージョンが利用可能になると、デバイスソフトウェアは自動的にアップグレードされます。

Webex Hotdesking DefaultBookingEndTime

適用対象: DeskMini Desk DeskPro

必要なユーザー ロール: ADMIN

この設定は、ホットデスク機能を使用して設定されたデバイスにのみ適用されます。これは、デバイスが共有モードであり、Webex クラウドサービスに登録されているか、Webex Edge for Devices にリンクされている必要があることを意味します。

会社や組織では、通常の営業時間はそれぞれ異なるため、デフォルトで予約が期限切れになる時刻を設定できます。これはデフォルトの時刻であるため、ユーザーはデバイスを予約するときに別の終了時刻を指定できます。

デフォルト値:

17

値スペース:

整数 (0 ~ 24)

24 時間単位のデフォルトの予約終了時刻。例: 0 は午前 0 時の 00:00、12:00 a.m.、12 は午後 12:00/12:00 p.m.、17 は午後 17:00/5:00 p.m.。

Board

Webex Meetings AudioNotifications

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

Webex Meetings の音声通知設定を制御します。Webex Meetings では、様々な音声通知を有効または無効にでき、会議イベントやアクションに関する音声のフィードバックやアラートをユーザーに提供します。

この設定は、Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex に最適されたエクスペリエンスを有効化しているデバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: Webex Meetings の音声通知が無効です。この状態では、ユーザーは、会議に関する音声でのアラートやフィードバックを受け取りません。

True: Webex Meetings の音声通知が有効です。この機能が有効の場合、ユーザーは、会議に関する音声でのアラートやフィードバックを受け取ります。

Webex Meetings JoinProtocol

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

オンプレミスのサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイスは、Webex Meetings へのコールに Webex クラウドサービスを使用する場合があります。Webex 経由の会議では、高度なミュート、共同ホスト、転送ホスト、顔認識など、一連のネイティブ Webex Meetings 会議中機能を利用できます。

Webex Meetings のコールルーティングが使用される場合は次のとおりです。[Webex に参加 (Join Webex)] ボタンを使用する場合、Webex Assistant を使用してパーソナルルームミーティング (PMR) に参加する場合、および @webex.com、@*.webex.com、および @meet.ciscospark.com のいずれかのドメインを含む URI で [コール (Call)] ボタンまたはダイヤル API コマンドを使用する場合、他のコールは、デフォルトプロトコルに使用します。

また、ネイティブの Webex Meetings コールルーティングでは、デバイスがクラウド管理のソフトウェアのアップグレードに対して有効で、Control Hub からの設定が有効で、Conference Multipoint Mode が Auto に設定されている必要があります。

デフォルト値:

SIP

値スペース:

SIP/Webex

SIP: コールプロトコルは SIP です。

Webex: 上記の要件を満たしている場合、コールプロトコルは Webex です。それ以外の場合は、SIP です。

Webex Meetings MeetingChatNotifications Mode

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN、INTEGRATOR

デフォルトでチャット通知が画面にどのように表示するかを決めます。UI または Conference MeetingChatNotification Default コマンドを使用して会議中や会議の合間の両方のモードを変更することができます。

共有デバイスは毎回の会議後にデフォルトの動作の設定に戻ります。個人デバイスは、現在のモードを記憶しており、UI コマンドの使用で変更されるまで保持します。

チャット通知に関する詳細は、Webex Meetings MeetingChatPreview 設定を参照してください。

デフォルト値:

プレビュー

値スペース:

Disabled/Focused/Preview

Disabled: デバイスの画面のチャット通知を受け取りません。

Focused: 会議内のメッセージがあることをデバイスの画面で通知されます。最初のメッセージが送信されたときのみ、通知が表示されます。このモードでは、会議の妨害要因を排除しており、大きな会議に適する場合があります。

Preview: 送信されたすべての新しいメッセージに対して、デバイス画面に通知プレビューが表示されます。これは、会議のチャットを追う場合に適しています。

Board

Webex Meetings MeetingChatPreview

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

会議中に、デバイス画面に会議のメッセージ (チャット) をポップアップ表示させるかどうかを設定します。これにより、ユーザーはデバイスでチャットの内容を把握できるようになります。

個別の会議チャット通知は、8 秒間画面に表示されます。ほぼ同時に送信されたメッセージのキューがある場合、メッセージが多く蓄積されるのを避けるために、表示時間を 5 秒ほど僅かに短くします。チャット通知は、最大 3 行のテキスト表示になります。

チャット通知は、デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex に最適されたエクスペリエンスを有効化しているデバイスの Webex Edge にリンクされている場合にのみ使用できます。

デフォルト値:

False

値スペース:

False/True

False: 会議のチャット通知はデバイスで利用できません。

True: 会議のチャット通知はデバイスで利用できます。UI または Conference MeetingChatNotification コマンドを使用して、デバイスの画面に表示させるかどうかを決めることができます。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Webex Meetings RoomObservedByHost

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

有効にする場合、この構成により、バックエンドサーバーからペアリングされた会議終了時のフローに関する情報にアクセスできるようになります。

この設定は、Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex に最適されたエクスペリエンスを有効化しているデバイスの Webex Edge にリンクされているデバイスに適用されます。

デフォルト値:

無効

値スペース:

Disabled/Enabled

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

WebRTC 設定

WebRTC EndCallTimeout

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBar](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

WebRTC ミーティングで [コールの終了 (End Call)] を押して Web ビューを閉じるまでの時間を延長できます。

通常動作では、この設定を変更する必要はありませんが、トラブルシューティングに役立つ場合があります。

WebRTC は、オンプレミスのサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイス、および Webex クラウドサービスに登録されているデバイスでのみ使用できます。

デフォルト値:

2

値スペース:

整数 (0 ~ 600)
秒単位の時間。

WebRTC InteractionMode

適用対象: [RoomKitMini](#) [DeskMini](#) [Desk](#) [DeskPro](#) [Board](#) [BoardPro](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

WebRTC ミーティングでは、デバイスの通話制御または WebRTC アプリの内蔵コントロールを使用できます。

WebRTC は、オンプレミスのサービスに登録され、Webex Edge for Devices にリンクされているデバイス、および Webex クラウドサービスに登録されているデバイスでのみ使用できます。

デフォルト値:

NonInteractive

値スペース:

Interactive/NonInteractive

Interactive: WebRTC アプリの内蔵コントロールをデバイスのタッチスクリーンから直接使用できます。これにより、内蔵の WebRTC 機能にアクセスできます。

NonInteractive: WebRTC アプリの内蔵コントロールは利用できません。デバイスの通常の通話制御のみ使用できます。

WebRTC Provider MicrosoftTeams CompatibilityMode

適用先: [RoomKit](#) [RoomKitMini](#) [RoomBarPro](#) [CodecEQ](#) [CodecPlus](#) [CodecPro](#) [Room55](#) [Room70/Room55D](#) [Room70G2](#) [RoomPanorama/Room70Panorama](#) [DeskPro](#) [Board](#)

必要なユーザー ロール: ADMIN

WebRTC を使用した Microsoft Teams 会議で、時々発生するトラブルシューティングに一時的に適用できるオプション。Cisco TAC は、この構成をいつ設定するかをアドバイスできます。それ以外の場合は、オフのままにすることを推奨します。

デフォルト値:

Off

値スペース:

Off/On

Off: 互換性モードがオフになっています。

On: 互換性モードがオンになっています。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ズーム設定

Zoom DefaultDomain

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ここでは、Zoom Join コマンドを使用してドメインを入力します。したがって、デバイスの UI にある [Zoom] ボタンをタップしたときも使用されます。Zoom Join コマンドが予約 (BookingID) から参加情報をフェッチする場合、ここで入力したドメインは無視されます。

デフォルト値:

zoomcrc.com

値スペース:

文字列 (1, 256)

Zoom 会議に使用するドメイン。

Zoom DialStringOptions

適用対象: すべての製品

必要なユーザー ロール: ADMIN

ここでは、Zoom Join コマンドを使用してダイヤル文字列オプションを入力します。したがって、デバイスの UI にある [Zoom] ボタンをタップしたときも使用されます。中でも、デュアルスクリーンやその他の視覚機能のオプションが利用可能です。Zoom のダイヤル文字列オプションの詳細については、<https://support.zoom.us/hc/en-us/articles/202405539-SIP-H-323-Room-Connector-Dial-Strings> を参照してください。

Zoom Join コマンドが予約 (BookingID) から参加情報をフェッチし、フェッチされた uri の形式が <meetingid>@<domain> 以外の場合、入力したダイヤル文字列オプションは無視されます。

デフォルト値:

""

値スペース:

文字列 (0, 200)

Zoom ダイアル文字列のオプション。

Board

試験的設定

試験的設定は、テストのためだけのもので、Cisco と同意したものでない限り使用できません。これらの設定は記載されておらず、以降のリリースで変更されます。

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 6 章

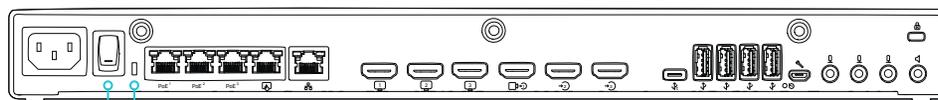
物理インターフェイス

電源のオン/オフと LED の動作 (1/10 ページ)

Codec EQ、Codec Plus、Codec Pro

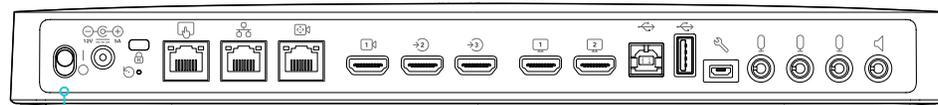
コーデック背面にある電源スイッチは、メインのオン/オフ スイッチです。

コーデックの起動には、数分かかる場合があります。コーデックが使用可能な状態になると、LED が点灯します。

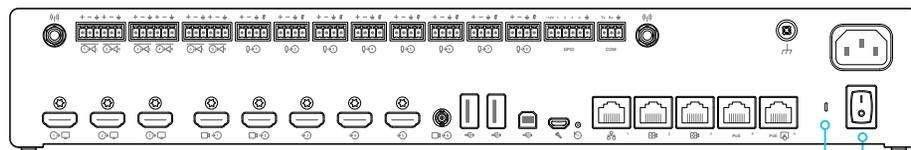


コーデックには 2 つの同一のステータス LED があります。
1 つはデバイスの背面に、もう 1 つはデバイスの前面にあります。

Codec EQ の電源スイッチ*。



Codec Plus の電源スイッチ*。
LED はデバイスの上部にあります。



コーデックには 2 つの同一のステータス LED があります。
1 つはデバイスの背面に、もう 1 つはデバイスの前面にあります。

Codec Pro の電源スイッチ*。

LED の動作

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):
点灯状態になります。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):
点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):
LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:
LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

* 変更を保存してから数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、設定の変更が失われる可能性があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

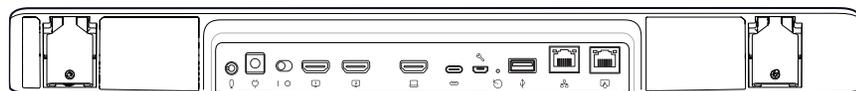
Room
Panorama

電源のオン/オフと LED の動作 (2/10 ページ)

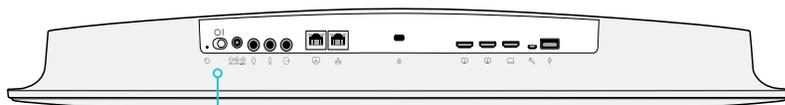
Room Bar, Room Kit, Room Kit Mini

メインのオン/オフスイッチは、Room Bar, Room Kit, Room Kit Mini の後ろ側にあります。オンの位置に切り替えます。起動に数分かかる場合があります。デバイスが使用可能な状態になると、システム LED が点灯します。

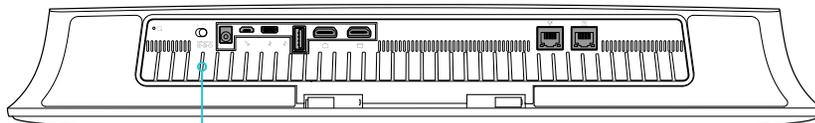
デバイスが画面の上部に取り付けられると、電源スイッチにアクセスするのが難しくなる場合があることに注意してください。



Room Bar の電源スイッチ*。
LED はデバイスの前面にあります。



Room Kit の電源スイッチ*。
LED はデバイスの前面にあります。



Room Kit Mini の電源スイッチ*。
LED はデバイスの前面にあります。

LED の動作

システム LED

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):
点灯状態になります。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):
点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):
LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:
LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

カメラの LED

コールの着信時:
LED が点滅します。

コール中:
点灯状態になります。

セルフビュー オン時:
点灯状態になります。



カメラの LED

システム LED

* 変更を保存してから数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、設定の変更が失われる可能性があります。

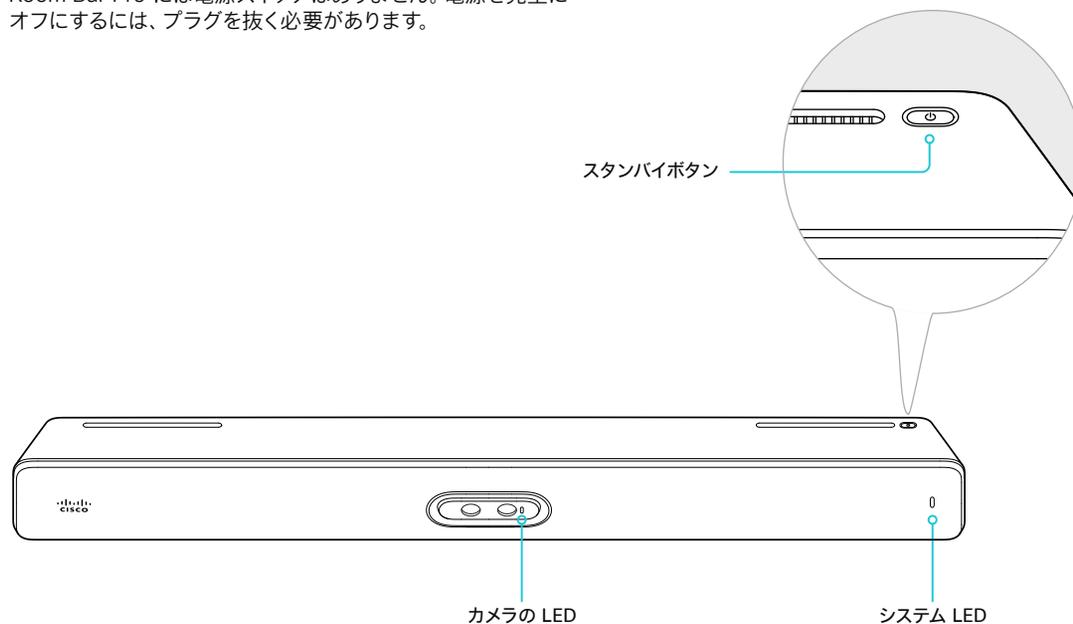
電源のオン/オフと LED の動作 (3/10 ページ)

Room Bar Pro

電源を接続すると、デバイスが起動します。起動に数分かかる場合があります。デバイスが使用可能な状態になると、システム LED が点灯します。

スタンバイボタンはデバイスの上部にあります (デバイスを画面の下に上下逆に取り付けた場合は下部)。このボタンを押すと、デバイスはスタンバイ モードになります。同じボタンを使用して起動できます。

Room Bar Pro には電源スイッチはありません。電源を完全にオフにするには、プラグを抜く必要があります。



LED の動作

システム LED

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):
点灯状態になります。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):
点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):
LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:
LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

カメラの LED

コールの着信時:
LED が点滅します。

コール中:
点灯状態になります。

セルフビュー オン時:
点灯状態になります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電源のオン/オフと LED の動作 (4/10 ページ)

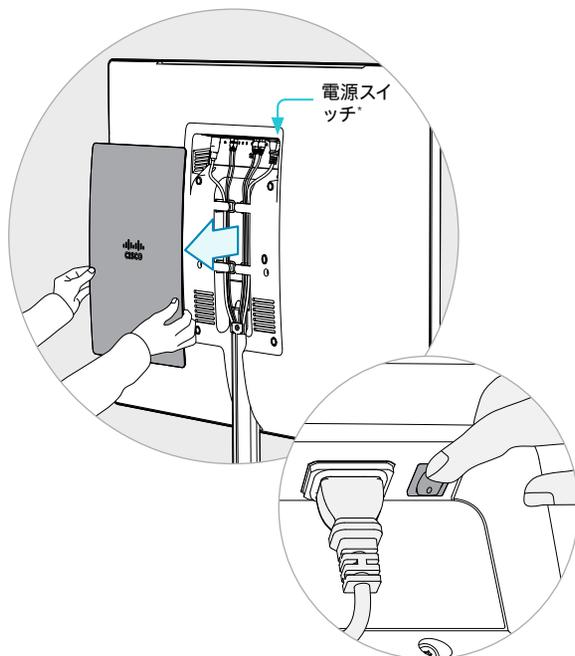
Room 55

Room 55 を壁面に取り付けられた場合は、電源スイッチにアクセスすることができません。Room 55 が取り付けられたら、自動的に電源がオンになるように、電源スイッチがオンの位置で Room 55 が取り付けられていることを確認します。

デバイスを取り外す前に、デバイスの Web インターフェイス経由でシャットダウンします:[バックアップと復元 (Backup and Recovery)]>[再起動とシャットダウン (Restart and Shutdown)]>[シャットダウン (Shutdown)]。

デバイスを正しくシャットダウンする前にデバイスを取り外すと、問題が発生する場合があります。この問題が発生した場合は、デバイスの Web インターフェイスを使用してビデオシステムを再起動し、正常な動作を復元してみてください。

フロアスタンドまたはホイールベースに取り付けられた Room 55 では、背面にあるカバーを外してコネクタにアクセスします。電源スイッチは、電源コネクタの横にあります。



LED の動作

システム LED

システム LED はカメラの右側にあります。LED の通常の色は白です。赤色のライトは、ハードウェア障害を示します。

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):

LED は消灯しています。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):

点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):

LED が 2 回ずつ、繰り返して点滅します。

スタートアップ (起動) 時:

LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

カメラの LED

カメラの LED はカメラのレンズのすぐ上にあります。

コールの着信時:

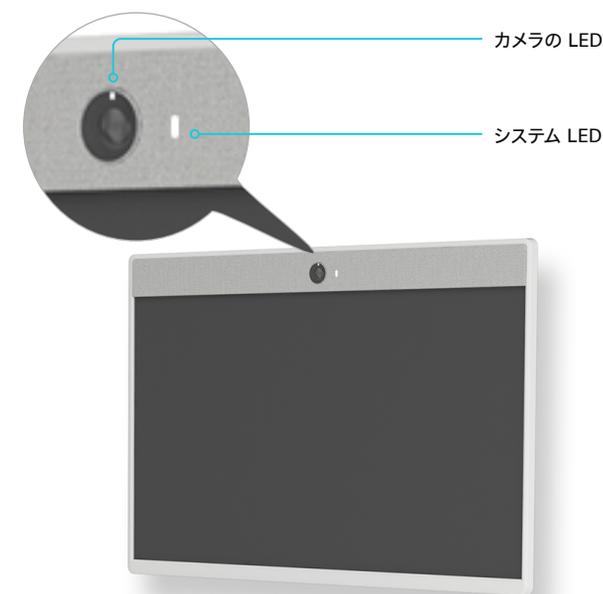
LED が点滅します。

コール中:

点灯状態になります。

セルフビュー オン時:

点灯状態になります。



* 変更を保存してから数秒後に、電源スイッチを使用して、または電源プラグを抜いてデバイスをシャットダウンすると、設定の変更が失われる可能性があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

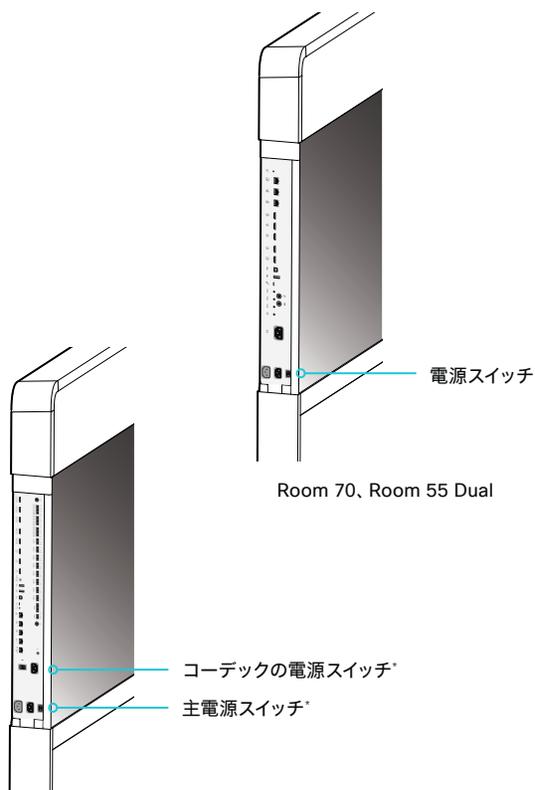
電源のオン/オフと LED の動作 (5/10 ページ)

Room 70、Room 55 Dual、Room 70 G2、Room 70 Panorama

電源スイッチは左側のカバーの後ろにあります (すべての取り付けオプションで同じ場所です)。

スイッチにアクセスするには、左側のカバーを外します。マグネットで取り付けまたは取り外します。電源スイッチはコーデック下の主電源コネクタの横にあります。

(Room 70 G2、Room 70 Panorama) コーデックの電源スイッチがオンになっていることも確認してください。



LED の動作

システム LED

システム LED はカメラの右側のファブリックの後ろにあります。LED の通常の色は白です。赤色のライトは、ハードウェア障害を示します。

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):

LED は消灯しています。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):

点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):

LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:

LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

カメラの LED

カメラの LED はカメラのレンズのすぐ上にあります。

コールの着信時:

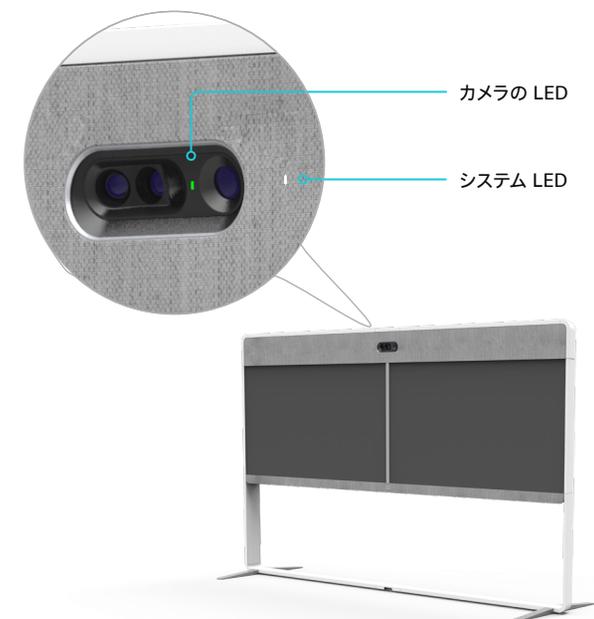
LED が点滅します。

コール中:

点灯状態になります。

セルフビュー オン時:

点灯状態になります。



* 変更を保存してから数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、設定の変更が失われる可能性があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電源のオン/オフと LED の動作 (6/10 ページ)

Room Panorama (1/2 ページ)

壁面ソケットに接続された複数のコンポーネント

Room Panorama は多くのコンポーネントで構成されています。各コンポーネントには、壁面ソケットに直接接続される電源コードが付いています。*

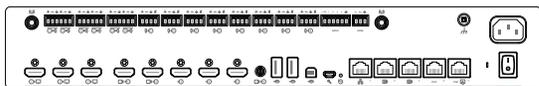
システムの両側にソケットのコンセントがあります。デコグリルの下部にある持ち手を使用し、左右の画面を引き下げてすべてのコンセントにアクセスします。

電源スイッチを備えるコンポーネントは一部のみです。完全なシステムの電源を完全にオフにするには、壁掛けソケットのコンセントからプラグを抜きます。

コーデックの電源スイッチ

コーデックは左画面の後ろにあります。デコグリルの下部にある持ち手を使用して、左側の画面を引き下げてコーデックにアクセスします。

- 電源スイッチは、設置の一部としてオンに設定されています。



電源スイッチ*

カメラの電源スイッチ

カメラには、設置の一部としてオンに設定された電源スイッチがあります。

システムを組み立てたときには、このスイッチに簡単にアクセスすることはできません。

24 V の PSU 電源スイッチ

この PSU は、左側の画面の後ろの左のキャビティにあります。

- デコグリルの下部にある持ち手を使用して、左側の画面を引き下げて PSU にアクセスします。
- 電源スイッチは、設置の一部としてオンに設定されています。

画面の電源ボタン

画面は、電源に接続されたときに自動的に電源が入る必要があります。電源が入らない場合は、リモート制御または電源ボタンを使用して電源を入れます。

- メイン画面: ログの下 (右下) の電源ボタン
- コンテンツ画面: 電源ボタン (中央下)

* 変更を保存してから数秒後に電源スイッチを使用してデバイスをシャットダウンすると、設定の変更が失われる可能性があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

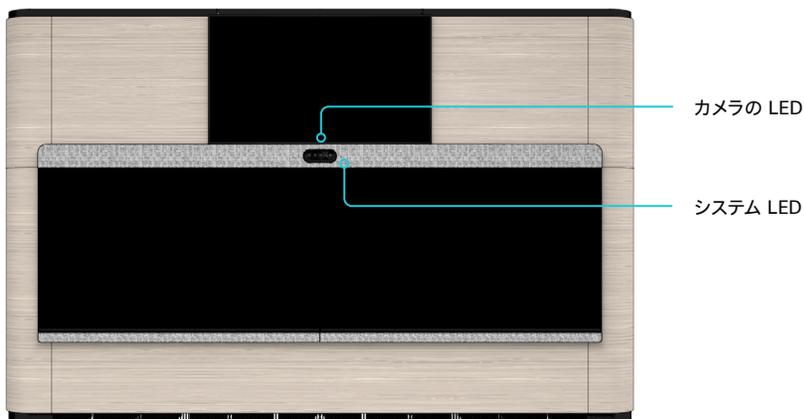
Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

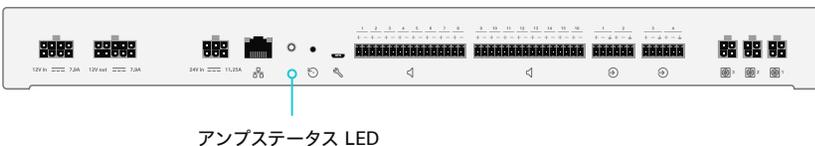
電源のオン/オフと LED の動作 (7/10 ページ)

Room Panorama (2/2 ページ)



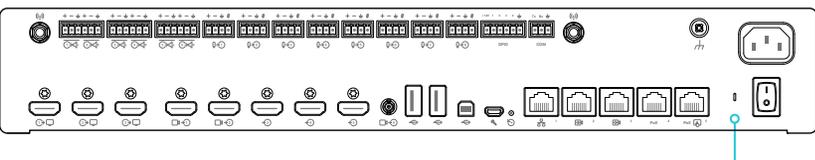
左側の画面を引き下げて、アンプとコーデックを確認します。どちらのユニットも、コネクタパネルが上向きになった状態で取り付けられます。

アンプ: Cisco Natural Audio Module IV



アンプステータス LED

コーデック: Cisco Webex Codec Pro



コーデックステータス LED

システム LED

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):
LED は消灯しています。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):
点灯状態になります。

スタートアップ (起動) 時:
LED が点滅します。コーデックが使用可能になると点灯状態になります。
システム全体 (すべての周辺機器) が使用可能になると、LED がオフになります。

カメラの LED

コールの着信時:
LED が点滅します。

コール中:
点灯状態になります。

セルフビュー オン時:
点灯状態になります。

アンプステータス LED

スタートアップ (起動) 時:
点灯状態になります。

デバイスがコーデックに接続されていません (ペアリングされていません):
すばやく点滅します。

デバイスがコーデックに接続されています:
点灯状態になります。

コーデックはスタンバイモードです:
ゆっくりと点滅します。

コーデックステータス LED

アイドル モード時 (スクリーンはアウェイク):
点灯状態になります。

スタンバイ モード時 (スクリーンはオフ):
点灯状態になります。

要注意時 (不在着信がある場合やネットワーク接続がない場合など):
LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時:
LED が点滅します。デバイスが使用可能になると点灯状態になります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

電源のオン/オフと LED の動作 (8/10 ページ)

Desk, Desk Mini, Desk Pro

次の図のように、LED インジケータ付き電源ボタンは背面にあります。

デバイスのスイッチをオンにするには、電源ボタンを 1 回押します。オフにするには、電源ボタンを 1 回押します。デバイスがオフになるまで、少なくとも 10 秒かかります。



LED の動作

システム LED

アイドルモード (画面はアクティブ) :

LED は消灯しています。

スタンバイモード (画面はオフ) :

点灯状態になります。

不在着信 :

LED は、アイドルモードでは消灯していますが、スタンバイモードでは 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

ネットワーク接続がない場合 :

LED が 2 回ずつ、繰り返し点滅します。

スタートアップ (起動) 時 :

LED が点滅します。

カメラの LED

カメラの LED は、カメラのレンズの上の画面の上部にあります。

コールの着信時 :

LED が点滅します。

コール中 :

点灯状態になります。

セルフビューオン時 :

点灯状態になります。

スタートアップ (起動) 時 :

LED が短い間点灯します。

マイク LED

コール中にマイクがオン :

緑で点灯します。

コール中にマイクがオフ :

赤で点灯します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

電源のオン/オフと LED の動作 (9/10 ページ)

Board Pro

Board Pro には電源ボタンがありません。電源を完全にオフにするには、プラグを抜いてください。



LED の動作

カメラの LED

カメラの LED は、カメラのレンズの上の画面の上部にあります。

コールの着信時:

LED が点滅します。

コール中:

点灯状態になります。

セルフビューオン時:

点灯状態になります。

スタートアップ (起動) 時:

LED が短い間点灯します。

ソフト電源ボタン LED

アイドルモード (画面はアクティブ) :

LED は消灯しています。

スタンバイモード (画面はオフ) :

点灯状態になります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

電源のオン/オフと LED の動作 (10/10 ページ)

ユーザーインターフェイスを使用した再起動とスタンバイ

デバイスの再起動

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。
2. [\[再起動 \(Restart\)\]](#) を選択します。
3. 再び [\[再起動 \(Restart\)\]](#) を選択して確定します。

スタンバイ モードの開始

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。
2. [\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) を選択します。

スタンバイ モードの終了

スタンバイモードを終了するには、デバイスのタッチスクリーンまたは接続されているタッチコントローラをタップします。

リモートからのデバイスのシャットダウンまたは再起動

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[バックアップとリカバリ \(Backup and Recovery\)\]](#) > [\[再起動とシャットダウン \(Restart and Shutdown\)\]](#) に移動します。

デバイスの再起動

[\[再起動 \(Restart\)\]](#) をクリックして、選択を確定します。

デバイスが使用可能になるまでに数分かかります。

デバイスのシャットダウン

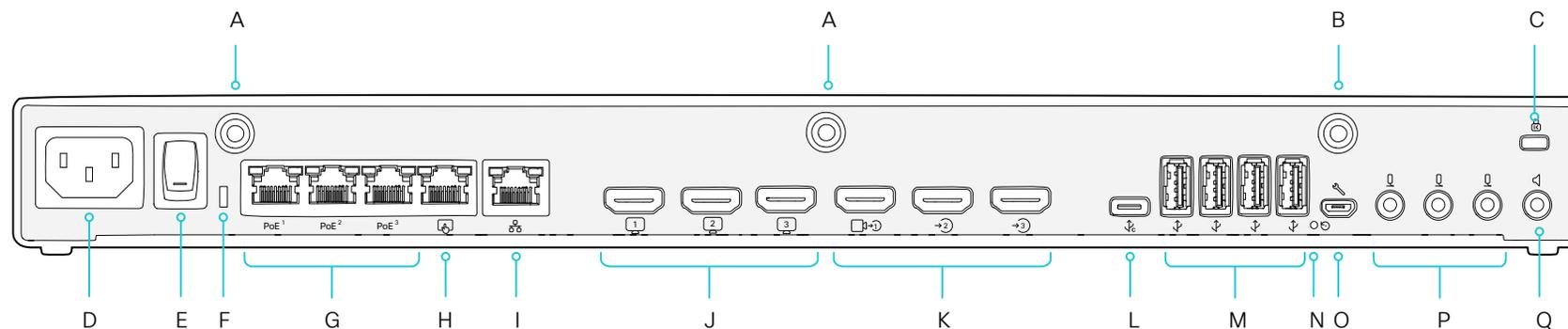
[\[シャットダウン \(Shutdown\)\]](#) をクリックして、選択を確定します。

 デバイスをシャットダウンすると、再びオンにするには物理プレゼンスが必要になります。

リモートシャットダウン後にデバイスの電源を入れるには、次の操作を実行します。

- 電源プラグを抜いて、もう一度接続します。 ([Board および Board Pro](#))
- デバイスの上部 (または画面の下に上下逆に取り付けられている場合は下部) にあるスタンバイボタンを押します。 ([Room Bar Pro](#))
- 本体を傾けて、電源スイッチをオフにしてから、オンにします。傾けた後で、部屋のベストオーバービューを把握するために本体/カメラの再調整が必要な場合があります。または、電源プラグを抜いて、もう一度接続します。 ([Room Bar](#), [Room Kit](#), [Room Kit Mini](#))
- 電源スイッチをオフにしてからオンにします。 ([Codec EQ](#), [Codec Plus](#), [Codec Pro](#), [Room 70 G2](#), [Room 70](#), [Room 55 Dual](#), [Room Panorama](#), [Room 70 Panorama](#), [Desk](#), [Desk Mini](#), [Desk Pro](#))
- 電源スイッチをオフにしてからオンにするか、電源プラグを抜いて、再度接続します。 ([Room 55](#))

コネクタパネル: Codec EQ



A. Wi-Fi アンテナ (RP-SMA コネクタ)

- ・ コーデックにはホイップアンテナが付属しています。最高のパフォーマンスが得られるように、障害物がないように設置してください。

B. Bluetooth® アンテナ (RP-SMA コネクタ)

- ・ コーデックにはホイップアンテナが付属しています。最高のパフォーマンスが得られるように、障害物がないように設置してください。

C. ケンジントン ロック

- ・ デバイスの移動や盗難の防止用。

D. 電源 (100 ~ 240 V_{AC}、50/60 Hz、2.0 ~ 1.2 A)

E. 電源オン/オフ

F. ステータス LED

- ・ 前面ステータスの LED をミラーリングします。

G. 内部ネットワーク用のイーサネットポート (RJ45)

- ・ カメラ制御、デジタルマイク用。
- ・ PoE++ (IEEE 802.3bt) : 1 ポートあたり最大 90 W。これらの 3 ポート (F) とタッチコントローラ専用ポート (G) を合わせて最大 90 W。

H. タッチコントローラ (RJ45)

- ・ タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。
- ・ PoE++ (IEEE 802.3bt) : このポートで最大 90 W。このポート (G) と他の 3 つの PoE ポート (F) を合わせて最大 90 W。

I. ネットワーク

- ・ イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

J. HDMI 出力。通常は画面用に使用します

- ・ HDMI 2.0、最大解像度 3840 × 2160 (60 fps)。
- ・ オーディオとビデオ (スピーカーを搭載した Quad Camera が HDMI 1 入力に接続されている場合、オーディオは無効化されます)。

K. 通常、カメラやその他のコンテンツソースに使用される HDMI 入力

- ・ 一般に、メインカメラには HDMI 1 を使用することを推奨します。Quad Camera には HDMI 1 を使用する必要があります。
- ・ HDMI 2.0。最大 3840 × 2160 (30fps) の解像度。
- ・ コンテンツ共有。
- ・ HDMI 3 では、 HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツをサポートしています。

L. USB-C

- ・ DisplayPort 代替モードを使用すると、最大 3840 × 2160 (30 fps) のフォーマットをサポートします。
- ・ コンテンツ共有。
- ・ 任意のソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、およびスピーカーを使用 (USB カメラモード)。
- ・ 充電容量: 3 A。

M. USB 3.0 type A

- ・ 1 ポートあたり 1.5 A の充電容量。
- ・ スピーカー、マイク、ヘッドセット、DSP、および今後の組み込み用。

N. 初期設定リセット ピンホール

- ・ ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します。

O. メンテナンス (マイクロ USB)

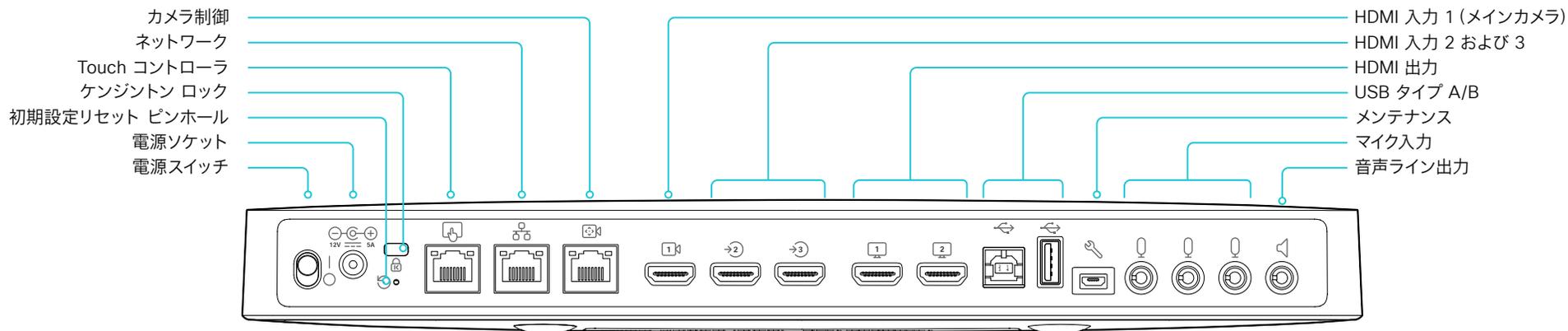
- ・ デバイスとのシリアル通信用。

P. アナログマイク (3.5 mm ミニジャック、4 ピンコネクタ)

Q. オーディオライン出力 (3.5mm ミニジャック、3 ピンコネクタ)

- ・ アナログライン出力 (ステレオ)。
- ・ アクティブ スピーカー (増幅器内蔵) と共に使用します。

コネクタパネル: Codec Plus



電源

必ず付属の電源を使用してください。

- DC 出力: 5A, 12 V
- AC 入力: 100 ~ 240 V, 50 ~ 60 Hz, 最大 1.2 A

電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的に電源が入ります。

初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します。

ケンジントン ロック

デバイスの移動と盗難を防止するために、ケンジントンロックを使用できます。

Touch コントローラ

タッチコントローラは Power over Ethernet (PoE) であり、このソケットを介して電源を供給します。

ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

HDMI 入力

HDMI 1: HDMI バージョン 1.4b、最大解像度 1920 × 1080 (60 fps)。ほとんどの場合、メインカメラに使用されます。Quad Camera には常に HDMI 1 を使用する必要があります。

HDMI 2 および 3: HDMI バージョン 1.4b、最大解像度 3840 × 2160 (30 fps) / 1920 × 1080 (60 fps)。コンピュータ、カメラ、外部再生デバイス (オーディオおよびビデオ) など、さまざまなタイプの入力ソースに使用されます。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。2 つ目の HDMI コネクタ入力では、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツを表示することができます。

HDMI 出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60fps で 3840 × 2160。メイン モニターには出力 1 を使用し、出力 2 はオプションの 2 番目のモニターに使用します。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。

接続しているカメラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力では音声は出力されません。それ以外の場合、音声はコネクタ 1 で出力されます。

カメラ制御

カメラのカメラ制御 (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを接続する場合は、両方のカメラを制御できるようにするため、イーサネット スイッチが必要です。

USB

USB 2.0 タイプ A/B。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

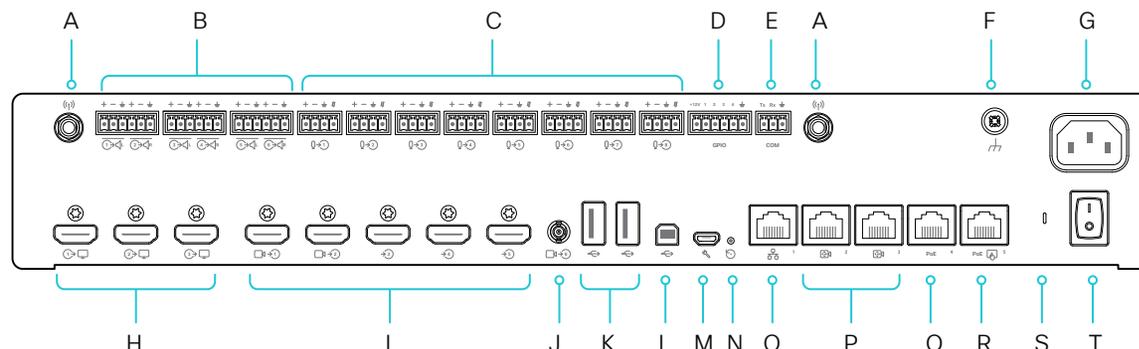
マイク

3 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピン コネクタ (Cisco Table Microphone 20 または Cisco TelePresence Ceiling Microphone)。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。アクティブ スピーカー (増幅器内蔵) と共に使用します。

コネクタパネル: Codec Pro および Room Panorama



A. アンテナコネクタ (2)

ワイヤレスネットワークまたは Bluetooth® 接続で使用
する 2.4 GHz および 5 GHz のアンテナ。

B. ライン出力 (6)

バランスの取れたラインレベル出力。3 または 6 ピンのユー
ロブロックコネクタ。

C. マイク/ライン入力 (8)

マイク X 8、48 V ファントム電源 (それぞれ個別のエコー
キャンセラおよびノイズリダクション付き)。すべてのマイク
をバランスラインレベルに設定可能。4 ピンのユーロブロッ
クコネクタ。

D. プログラム可能な GPIO ポート。6 ピンのユーロブロッ
クコネクタ。

E. COM ポート。3 ピンのユーロブロックコネクタ。

F. アース。保護アース。

G. 電源 (100 ~ 240 V_{AC}、50 ~ 60 Hz、最大 1.3 ~ 0.6 A)

H. HDMI 出力 (3)

音声とビデオ。HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60
fps で 3840 × 2160。高解像度とフレームレートをサポー
トするプレミアム HDMI ケーブルを使用します。Cisco 認
定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。接続しているカメ
ラにスピーカーがある場合 (Quad Camera)、HDMI 出力
では音声は出力されません。そうでない場合は、このコネク
タから音声は出力されます。

HDMI 1: メインディスプレイ

HDMI 2 および *HDMI 3*: オプションの 2 番目と 3 番目の
ディスプレイ

I. HDMI 入力 (5)

音声とビデオ。HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30
fps で 3840 × 2160 / 60 fps で 1920 × 1080。高解像度
とフレームレートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b
ケーブルを使用します。Cisco 認定プレゼンテーション ケ
ーブルをお勧めします。

HDMI 1 および *HDMI 2*: メインカメラ入力として使用し
ます。Quad Camera は常に HDMI 1 に接続します。

HDMI 3 から *HDMI 5*: コンピュータ、カメラ、外部再生デバ
イス (オーディオおよびビデオ) など、さまざまなタイプの入
力ソースに使用します。HDMI 5 入力コネクタでは、HDCP (高
帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツを表示
することができます。

J. 3G-SDI/HD-SDI 入力

ビデオ。最大解像度は 60 fps で 1920 × 1080 で
す。HD-BNC: 1080p60、レベル A 10 ビットデータナイ
ティブカラーエンコーディング 4:2:2 YCbCr、75 Ω。

K. USB コネクタ (2)、2.0 タイプ A

L. USB コネクタ、2.0 タイプ B

M. メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを
使用します。

N. 初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。可能で
あれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスま
たはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨
します。

O. ネットワーク

RJ45: イーサネット インターフェイス、1Gb イーサネット イ
ンターフェイス。

P. カメラ制御 (2)

RJ45: カメラ制御 (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを
接続するには、両方のカメラを制御するためのイーサネット
スイッチが必要です。

Q. イーサネット PoE

RJ45: PoE デバイス用の内部ネットワークポート。

R. Touch コントローラ

RJ45: タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。

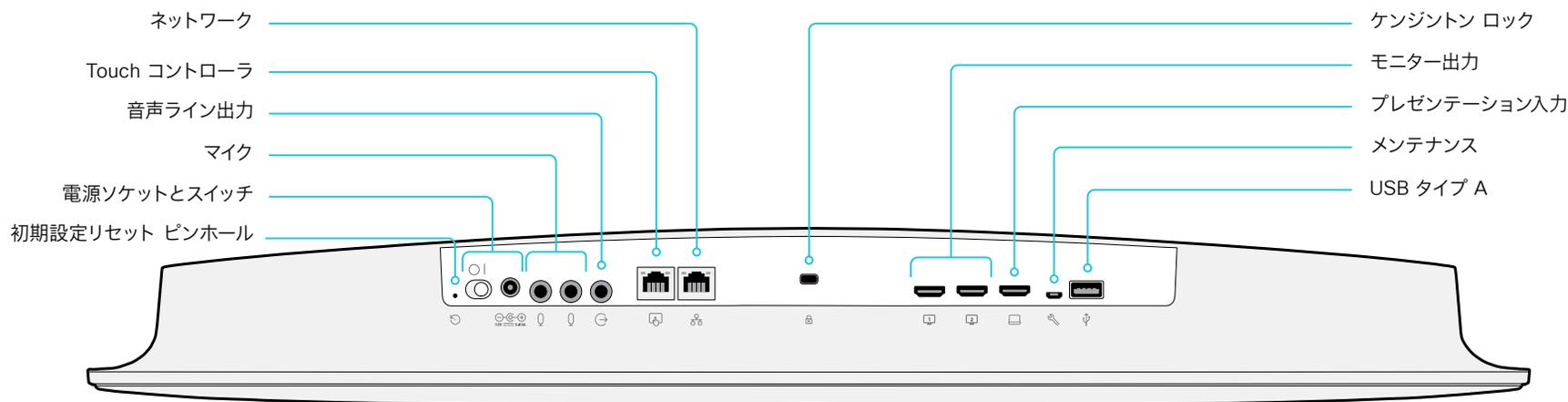
S. ステータス LED

前面ステータスの LED をミラーリングします。

T. 電源オン/オフ

電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的
に電源が入ります。

コネクタパネル: Room Kit



ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

Touch コントローラ

タッチコントローラは、このソケットでは提供されていないイーサネット経由で電源供給されています。したがって、タッチコントローラとビデオ会議デバイスの間にはミッドスパン パワーインジェクタが必要です。詳細は、▶「[タッチコントローラの接続](#)」の章を参照してください。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。アクティブ スピーカー（増幅器内蔵）またはセルフパワー型サブウーファーと共に使用します（オーディオ出力ライン [n] 出力タイプの設定を参照）。

マイク

2 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピン コネクタ: Cisco Table Microphone 20 または Cisco TelePresence Ceiling Microphone。

電源

必ず付属の電源を使用してください。

- ・ DC 出力: 5.83 A, 12 V
- ・ AC 入力: 100 ~ 240 V, 50 ~ 60 Hz, 最大 1.2 A

電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的に電源が入ります。

初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。初期設定へのリセットは、タッチコントローラまたはデバイスの Web インターフェイスから実行することを推奨します。

モニター出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60 fps で 3840 × 2160。メイン モニターには出力 1 を使用し、出力 2 はオプションの 2 番目のモニターに使用します。これらの出力には音声がありません。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。

プレゼンテーション入力

HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30 fps で 3840 × 2160。コンピュータや外部再生デバイス（オーディオおよびビデオ）など、異なるタイプの入力ソースに使用されます。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

USB

USB 2.0 タイプ A。

ケンジントン ロック

デバイスの移動と盗難を防止するために、ケンジントンロックを使用できます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

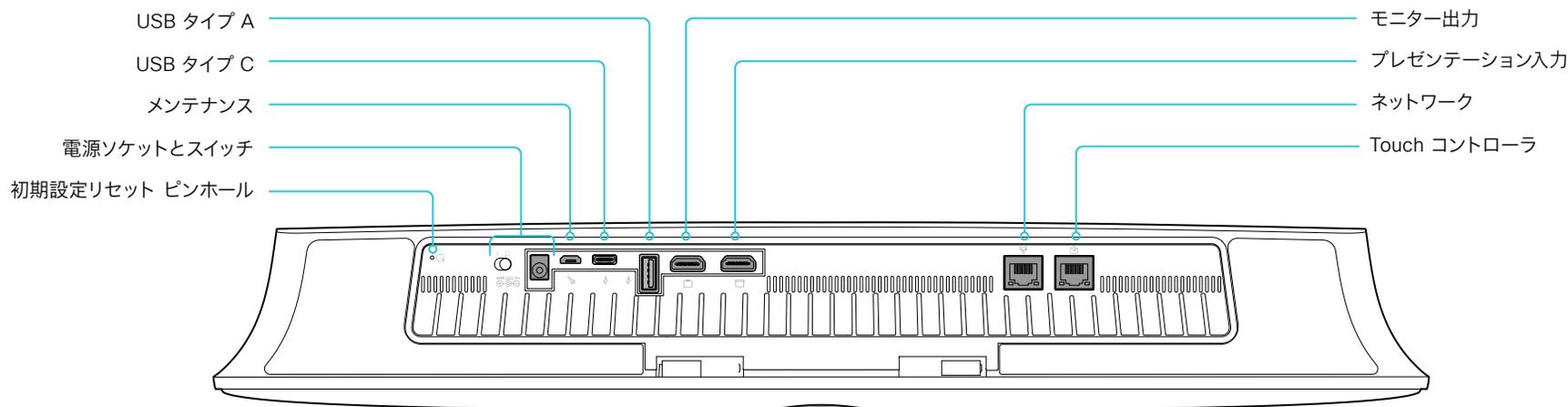
D15503.02

RoomOS 11.5

07-2023

CISCO

コネクタパネル: Room Kit Mini



初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。初期設定へのリセットは、タッチ ユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから実行することを推奨します。

電源

必ず付属の電源を使用してください。電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的に電源が入ります。

メンテナンス

デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。

USB

- ・ USB: 2.0 タイプ A
- ・ USB 2.0 タイプ C

モニター出力

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60fps で 3840 × 2160。これらの出力には音声がありません。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。

プレゼンテーション入力

HDMI バージョン 1.4b、最大解像度はコンピューターでは 30fps で 3840 × 2160。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。

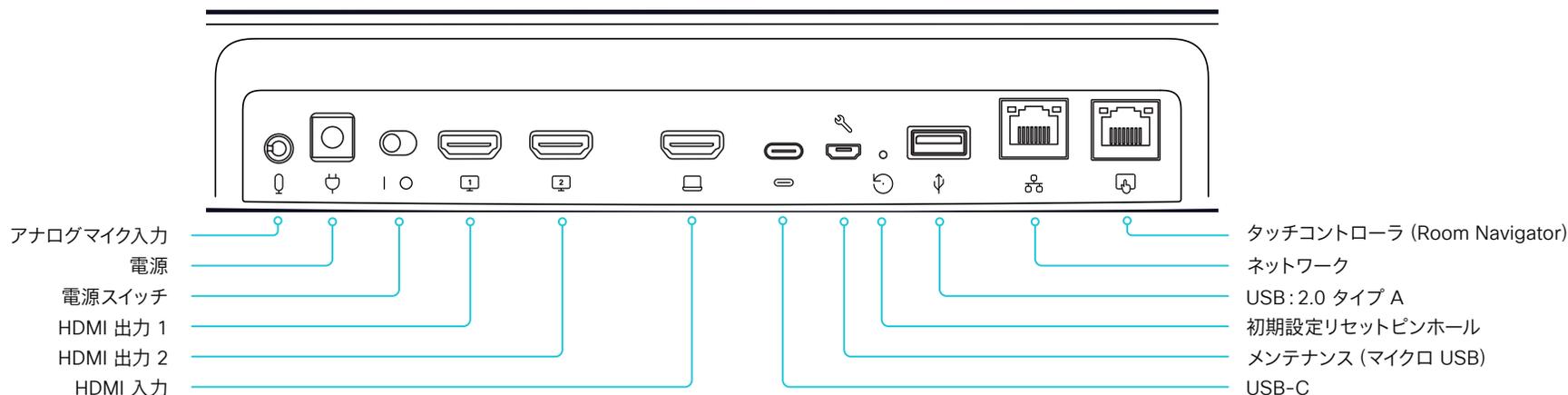
ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

Touch コントローラ

タッチコントローラは、このソケットで提供されるイーサネット経由で電源供給されます。

コネクタパネル: Room Bar



アナログマイク入力

- 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピンコネクタ (Cisco Table Microphone または Cisco TelePresence Ceiling Microphone など)

電源

- 必ず付属の電源を使用してください。電源スイッチがオンの位置にある場合、デバイスは自動的に電源が入ります
- 100 ~ 240 VAC、50/60 Hz、12 VDC 入力
- 電力消費:
 - 平均: 20 W
 - ピーク: 86 W

HDMI 出力

- 2 つの HDMI 2.0 出力により、最大 3840 × 2160 (60 fps) のフォーマットをサポート
- この出力には、オーディオはありません
- 高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。シスコ認定ディスプレイケーブルを推奨します。

HDMI 入力

- HDMI 1.4 type A 入力
- 1920 × 1080 (60 fps) を含む、最大 3840 × 2160 (30 fps) フォーマットをサポート
- コンテンツ共有と画面拡張 (コンピュータの外付け画面)
- 高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。シスコ認定プレゼンテーションケーブルを推奨します

USB-C

- DisplayPort Alternate Mode を使用し、1920 × 1080 (60 fps) を含む、最大 3840 × 2160 (30 fps) フォーマットをサポート
- コンテンツ共有と画面拡張 (コンピュータの外付け画面)
- 1 本の USB-C ケーブルで、接続したコンピュータでカメラ、マイク、スピーカーを使用できる機能 (USB-C パススルー)

メンテナンス - マイクロ USB

- デバイスとのシリアル通信用

初期設定リセット ピンホール

- ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します

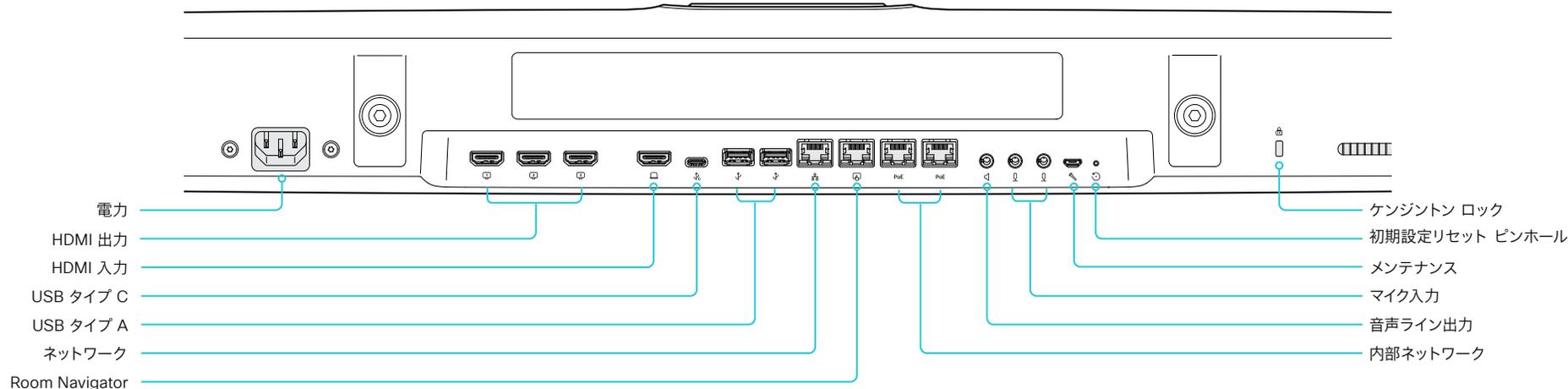
ネットワーク

- LAN (外部ネットワーク) 用イーサネット (RJ45) 100/1000 Mbps

タッチコントローラ - Room Navigator

- イーサネット (RJ45) 100/1000 Mbps、PoE 対応、タッチコントローラ (Room Navigator) の直接接続
- Room Navigator はイーサネット経由で電源供給されます

コネクタパネル: Room Bar Pro



電源

- 100 ~ 240V_{AC}, 50-60Hz, 12V DC 入力/2.0-1.2A
- 常に付属の電源ケーブルを使用します。

HDMI 出力

- 3 つの HDMI 2.0 出力により、最大 3840 × 2160 (60 fps) のフォーマットをサポート
- この出力には、オーディオはありません
- 高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。シスコ認定ディスプレイケーブルを推奨します。

HDMI 入力

- HDMI 1.4 type A 入力
- 1920 × 1080 (60 fps) を含む、最大 3840 × 2160 (30 fps) フォーマットをサポート
- コンテンツ共有と画面拡張 (コンピュータの外付け画面)
- 高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。シスコ認定プレゼンテーションケーブルを推奨します

USB

- USB タイプ A
- USB タイプ C
 - コンテンツ共有および画面拡張 (コンピュータの外付け画面) 用です。
 - 1 本の USB-C ケーブルで、接続したコンピュータでカメラ、マイク、スピーカーを使用できる機能 (USB-C パススルー)

ネットワーク

- イーサネットインターフェイス、10Mb / 100Mb / 1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)

タッチコントローラ - Room Navigator

- タッチコントローラ (Room Navigator) 用の専用イーサネット PoE ポート (RJ45)

内部ネットワーク、イーサネット PoE

- PoE デバイス用の 2 つの内部ネットワークコネクタ (RJ45)

音声ライン出力

- 3.5mm ミニジャック、3 ピンコネクタ。
- アナログライン出力 (ステレオ)
- アクティブスピーカー (増幅器内蔵) と共に使用します。

マイク

- 2 本の 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピンコネクタ (Cisco Table Microphone または Cisco TelePresence Ceiling Microphone など)

メンテナンス

- デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB を使用します。

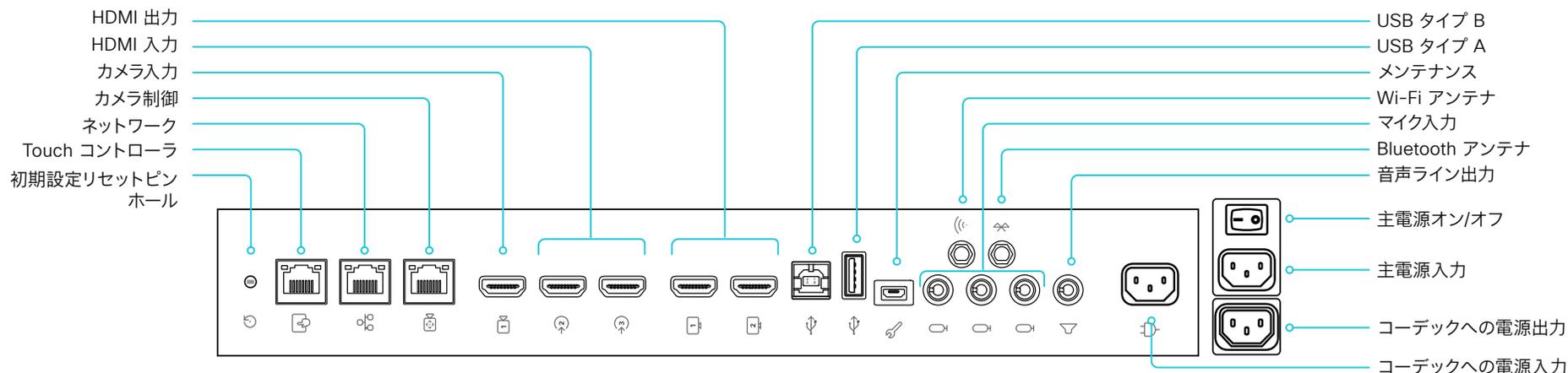
初期設定リセット ピンホール

- ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します

ケンジントン ロック

- デバイスの移動と盗難を防止するために、Kensington ロックを使用できます。

コネクタパネル: Room 55 Dual および Room 70



初期設定リセット ピンホール

ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します。

Touch コントローラ

タッチコントローラは Power over Ethernet (PoE) であり、このソケットを介して電源を供給します。

ネットワーク

イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。

カメラ制御

内蔵カメラのカメラ制御 (パン、チルト、ズーム)。

カメラ入力

この HDMI 入力は、内蔵カメラ用です。

HDMI 入力 (音声)

HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30 fps で 3840 × 2160。コンピュータ、追加カメラ、または外部再生用のデバイス向け。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。2 つ目の HDMI コネクタ入力では、HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツを表示することができます。

HDMI 出力 (4K 解像度)

HDMI バージョン 2.0、最大解像度は 60fps で 3840 × 2160。出力 1 は、単一画面デバイスの内蔵画面用です。両方の出力は、デュアル画面デバイスの内蔵画面用です。高解像度とフレーム レートをサポートするプレミアム HDMI ケーブルが必要です。Cisco 認定ディスプレイ ケーブルをお勧めします。単一画面デバイスの HDMI 出力コネクタ 2 にはオーディオがありません。

音声ライン出力

3.5 mm ミニジャック、3 ピン コネクタ。

マイク

3 つの 3.5 mm ミニジャック、外部マイク用の 4 ピン コネクタ (Cisco Table Microphone 20 または Cisco TelePresence Ceiling Microphone)。

USB コネクタ

- USB 2.0 タイプ B
- USB 2.0 タイプ A、内部用
- メンテナンス用 Micro USB ソケット

アンテナコネクタ

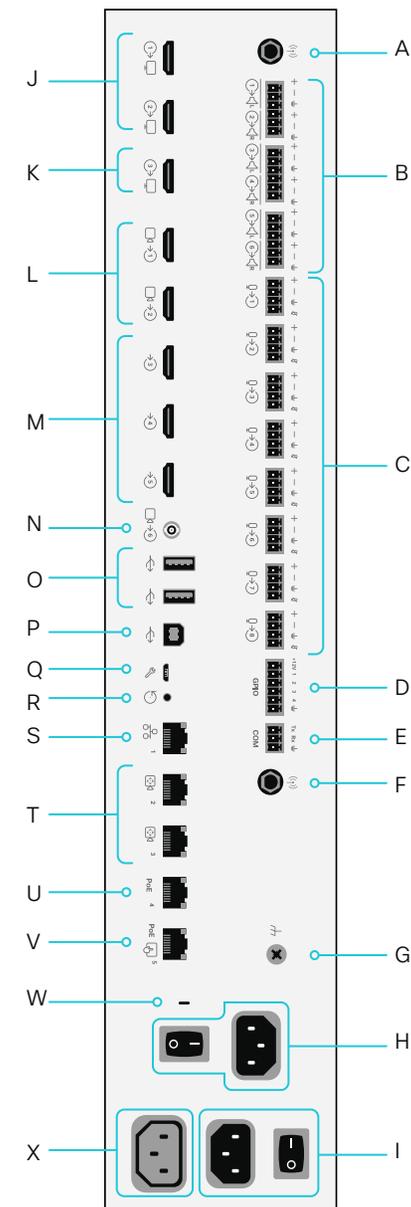
- ワイヤレス ネットワーク接続用の Wi-Fi アンテナ
- Bluetooth アンテナ (将来使用予定)

電源

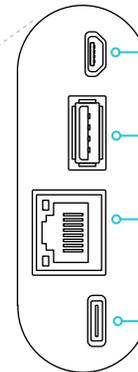
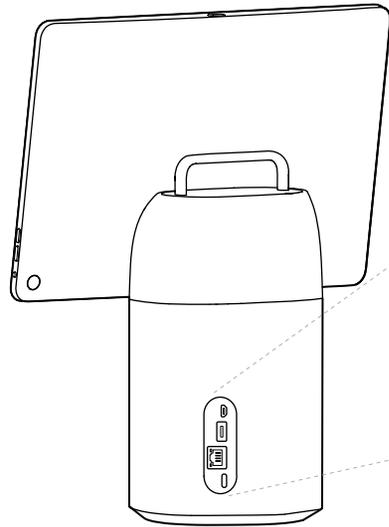
- コーデックへの電源入力用です
- コーデックへの電源供給用です
- 主電源入力 (100 ~ 240 VAC、3.5 ~ 2.0 A、50/60 Hz)
- 主電源オン/オフ

コネクタパネル: Room 70 G2 および Room 70 Panorama

- A. アンテナコネクタ (2)
ワイヤレスネットワークまたは Bluetooth 接続で使用する 2.4GHz および 5GHz のアンテナ。
- B. ライン出力 (6)
バランスの取れたラインレベル出力。ユーロブロック、3.5 mm。
- C. マイク/ライン入力 (8)
マイク X 8、48 V ファントム電源 (それぞれ個別のエコーキャンセラおよびノイズリダクション付き)。すべてのマイクをバランスラインレベルに設定可能。ユーロブロック、3.5 mm。
- D. プログラム可能な GPIO ポート。3.5 mm ユーロブロックコネクタ。
- E. COM ポート。3.5 mm ユーロブロックコネクタ。
- F. アンテナコネクタ、A を参照
- G. アース。保護アース。
- H. 電源入力
コーデックへの電源入力と電源のオン/オフスイッチ。
- I. 主電源入力
主電源入力 (100 ~ 240 VAC、5.5 ~ 2.5 A、50/60 Hz) と電源のオン/オフスイッチ。
- J. HDMI 出力 (2)。
音声とビデオ。コネクタ 1 および 2、4Kp60。
- K. HDMI 出力 (1)
音声とビデオ。コネクタ 3、4Kp30。
- L. カメラ入力 (2)
HDMI、コネクタ 1 ~ 2、1080p60。
- M. HDMI 入力 (3)
音声とビデオ。コネクタ 3 ~ 5、4Kp30。コネクタ 5 は HDCP をサポートします。
- N. カメラ入力
3G-SDI/HD-SDI。コネクタ 6、1080p60、レベル A のみ、HD-BNC、75 Ω。
- O. USB コネクタ (2)、2.0 タイプ A。
- P. USB コネクタ、2.0 タイプ B。
- Q. メンテナンス
デバイスとのシリアル通信には、マイクロ USB コネクタを使用します。
- R. 初期設定リセット ピンホール
ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します。
- S. ネットワーク
RJ45: イーサネット インターフェイス、1Gb イーサネット インターフェイス。
- T. カメラ制御 (2)
RJ45: カメラ制御 (パン、チルト、ズーム)。追加のカメラを接続するには、両方のカメラを制御するためのイーサネットスイッチが必要です。
- U. イーサネット PoE
RJ45: PoE デバイス用の内部ネットワークポート。
- V. Touch コントローラ
RJ45: タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。
- W. ステータス LED
前面ステータスの LED をミラーリングします。
- X. 電源出力
コーデックの電源出力。



コネクタパネル: Desk Mini

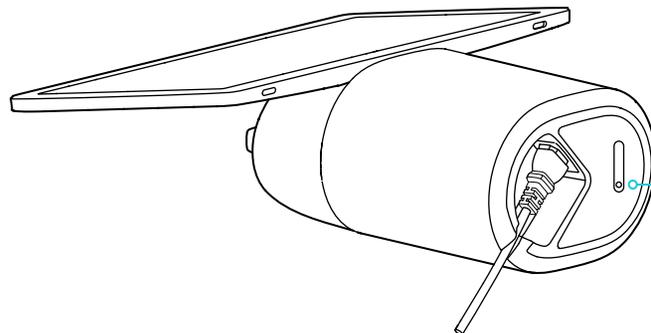


メンテナンス (マイクロ USB)
・ デバイスとのシリアル通信用

USB: 2.0 タイプ A

ネットワーク
・ イーサネットインターフェイス、10Mb / 100Mb /
1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)

USB-C
・ DisplayPort Alternate Mode を使用し、1920 ×
1080 (60 fps) (1080p60) フォーマットをサポート
・ コンテンツ共有と画面拡張 (コンピュータの外付け
画面)
・ サポートされているオペレーティングシステムでのタッ
チフォワーディング機能
・ 任意のソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、およ
びスピーカーを使用 (USB カメラモード)



初期設定リセット ピンホール

- ・ ピンホールは最後の手段として使用してください。
可能であれば、デバイスのリセットはユーザーイン
ターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイ
スから行うことを推奨します。

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

コネクタパネル: Desk および Desk Pro

1. USB

- USB: 2.0 タイプ A

2. メンテナンス (マイクロ USB)

- デバイスとのシリアル通信用

3. HDMI 出力: 今後使用 (Desk Pro のみ)

4. PC 用ネットワーク (Desk Pro のみ)

- イーサネットインターフェイス、10Mb / 100Mb / 1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)

5. ネットワーク

- イーサネットインターフェイス、10Mb / 100Mb / 1Gb イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)

6. HDMI 入力

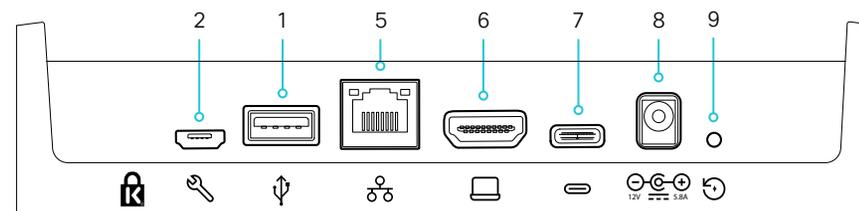
- HDMI 2.0 タイプ A の入力。最大以下のフォーマットに対応:
 - 3840 × 2160 (60 fps) (4kp60) (Desk Pro)
 - 1920 × 1080 (60 fps) (1080p60) (Desk)
- コンテンツ共有と画面拡張 (コンピュータの外付け画面)

7. USB-C

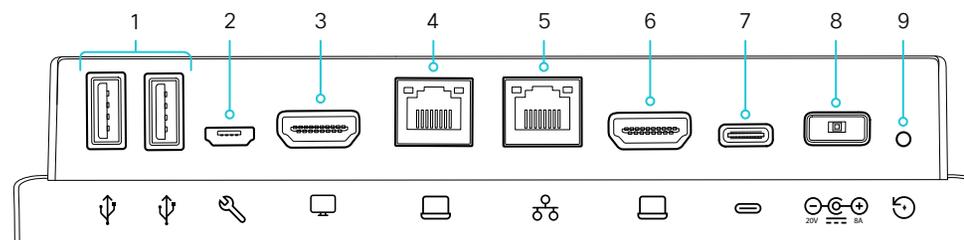
- DisplayPort Alternate Mode を使用して、最大で以下のフォーマットをサポートします。
 - 3840 × 2160 (60 fps) (4kp60) (Desk Pro)
 - 1920 × 1080 (60 fps) (1080p60) (Desk)
- コンテンツ共有と画面拡張 (コンピュータの外付け画面)
- サポートされているオペレーティングシステムでのタッチフォーワーディング機能
- 任意のソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、およびスピーカーを使用 (USB カメラモード)
- ラップトップ充電 (60 W 最大) (Desk Pro のみ)

8. 電源

- 定格:
 - 最大 200 W (Desk Pro)
 - 最大 70 W (Desk)
- スタンバイ時消費電力:
 - 15 W: ディスプレイオフモード (Desk Pro)
 - 7.5 W: ネットワークスタンバイ (Desk) : 7.5 W



背面のメインコネクタパネル
(Desk)



背面のメインコネクタパネル
(Desk Pro)

9. 初期設定リセット ピンホール

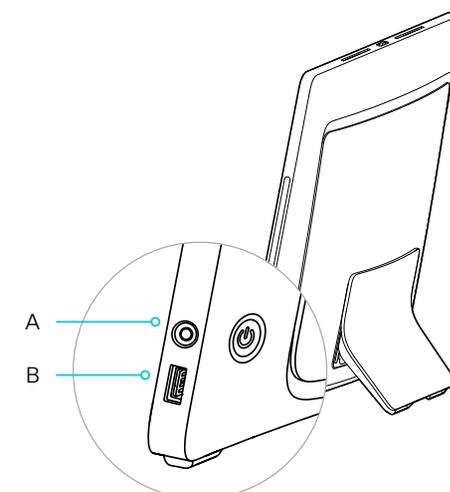
- ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します。

A. アナログオーディオ出力 (Desk Pro のみ)

- 3.5 mm ステレオミニジャック (3 ピン)
- ヘッドフォン用

B. USB、オーディオ入力および出力 (Desk Pro のみ)

- USB: 2.0 タイプ A
- USB ヘッドセット用



オーディオコネクタ (右側)
(Desk Pro)

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

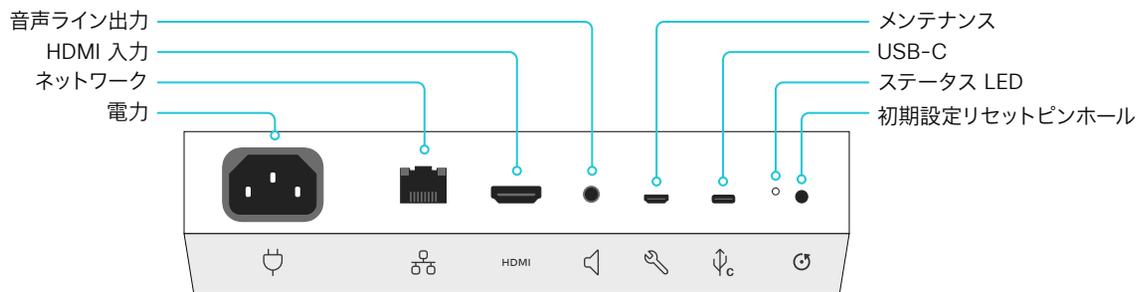
D15503.02

RoomOS
11.5

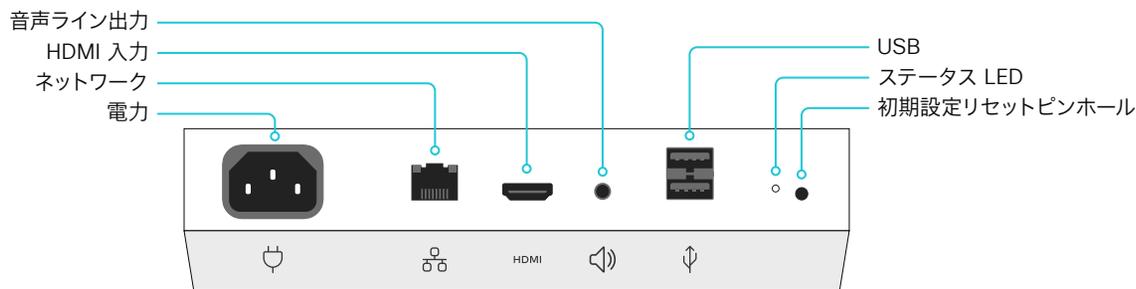
07-2023

CISCO

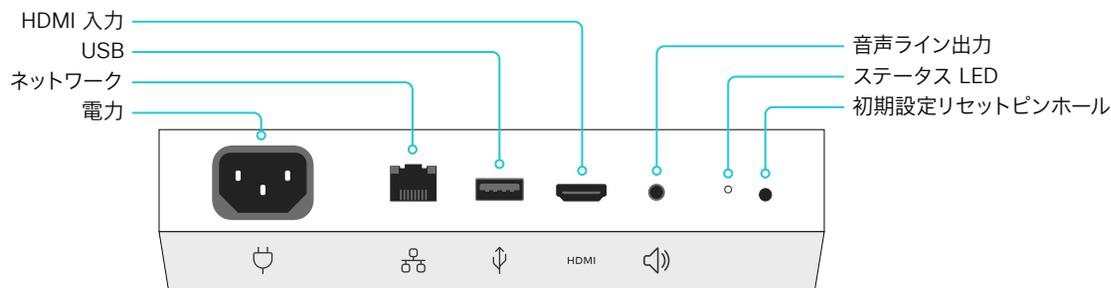
コネクタパネル: Board



Board 55S、70S、および 85S¹



Board 55



Board 70

電源

- Board 55S: 100 ~ 240VAC, 3.0 ~ 1.5A, 50/60Hz
- Board 70S: 100 ~ 240VAC, 3.5 ~ 2.0A, 50/60Hz
- Board 85S: 100 ~ 240VAC, 4.6 ~ 2.0A, 50/60Hz
- Board 55, 70: 100 ~ 240VAC, 最大 3.5A, 50/60Hz

ネットワーク

- イーサネット インターフェイス、10 Mb/100 Mb/1 Gb のイーサネット LAN インターフェイス (RJ45)。²

HDMI 入力

- HDMI バージョン 1.4b、最大解像度は 30fps で 3840 × 2160。コンピュータまたは外部再生デバイス用。高解像度とフレーム レートをサポートするハイスピード HDMI 1.4b ケーブルが必要です。Cisco 認定プレゼンテーション ケーブルをお勧めします。

音声ライン出力

- 3.5mm ミニジャック、3 ピンコネクタ。

USB

- Board 55: メンテナンス用 USB 2.0 タイプ A × 2
- Board 70: メンテナンス用 USB 2.0 タイプ A × 1
- Board 55S、70S、および 85S: メンテナンス用マイクロUSB
- Board 55S、70S、および 85S: USB-C

初期設定リセット ピンホール

- ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します。

¹ 第 2 世代の Webex Board ファミリ (S シリーズ) では、ハードウェアプラットフォームにマイナーな最適化が施されています。

² すべてのモデルで Wi-Fi もサポートされます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

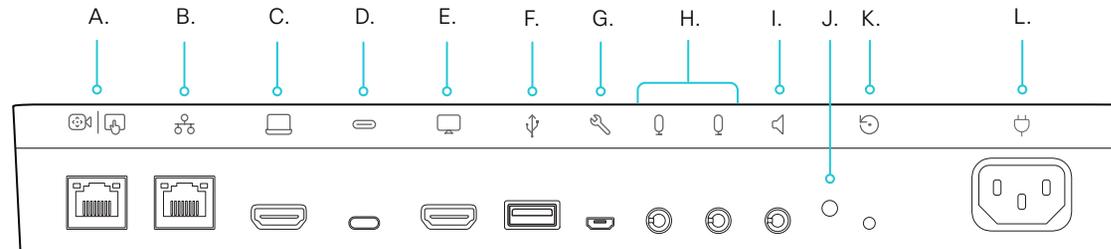
Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

コネクタパネル: Board Pro



A. Touch コントローラ

- ・ RJ45: タッチコントローラ用の専用 PoE ポート。

B. ネットワーク

- ・ イーサネットインターフェイス、10Mb / 100Mb / 1Gb
イーサネット LAN インターフェイス (RJ45)

C. HDMI 入力

- ・ HDMI 2.0 タイプ A の入力。最大以下のフォーマットに対応:
 - ・ 3840 × 2160 (30 fps) (4kp30)
- ・ コンテンツ共有と画面拡張 (コンピュータの外付け画面)
- ・ HDCP (高帯域幅デジタルコンテンツ保護) 暗号化コンテンツをサポートしています。

D. USB-C

- ・ DisplayPort Alternate Mode を使用して、最大で以下のフォーマットをサポートします。
 - ・ 3840 × 2160 (60 fps) (4kp60)
- ・ コンテンツ共有と画面拡張 (コンピュータの外付け画面)
- ・ サポートされているオペレーティングシステムでのタッチフォワード機能
- ・ 任意のソフトウェアクライアントでカメラ、マイク、およびスピーカーを使用 (USB カメラモード)
- ・ ラップトップの充電 (最大 60 W)

E. HDMI 出力: 将来使用

F. USB

- ・ USB: 2.0 タイプ A

G. メンテナンス (マイクロ USB)

- ・ デバイスとのシリアル通信用

H. マイク入力 (3.5 mm ミニジャック)

- ・ アナログマイク入力 x 2

I. オーディオライン出力 (3.5 mm ミニジャック)

- ・ アナログライン出力 (ステレオ)

J. ステータス LED

K. 初期設定リセット ピンホール

- ・ ピンホールは最後の手段として使用してください。可能であれば、デバイスのリセットはユーザーインターフェイスまたはデバイスの Web インターフェイスから行うことを推奨します。

L. 電源

- ・ 定格: 最大 200 W
- ・ スタンバイ時消費電力: 15 W

コネクタパネル: Room Panorama アンプ

Cisco Natural Audio Module IV は、Room Panorama の必須コンポーネントです。これは、イーサネットおよびアナログ入力を備えた 16 チャンルのオーディオパワーアンプです。

12V の電源入力および電源出力。

これは、Cisco Room Panorama システム内の Cisco Quad Camera 用のバススルー電流制限電源接続です。

初期設定へのリセット

- ・ ピンホール

メンテナンス

- ・ マイクロ USB

ファンの出力

Cisco Room Panorama システムには、ファンを制御する 3 つのファン出力ポートがあります。



アンプの電源入力

これはアンプの DC 電源入力です。

- ・ 24VDC、11.25A

イーサネット

イーサネットポートは、Cisco Codec Pro からのオーディオ ストリームや、制御およびソフトウェア アップグレードに使用されます。

- ・ 1000BASE-T

スピーカー出力

各スピーカー出力チャンネルはブリッジ/差動アンプ出力です。+ および - 接続は 1 台のスピーカーにのみ接続し、別のスピーカー一出力やアースには接続しません。

3.5 mm のユーロブロックコネクタのブリッジ差動出力。

- ・ 最大 25 W / 0.1% THD で 8 ohm (チャンネルあたり)。
- ・ クリッピングより低いすべてのレベルで 0.1% THD 未満。
- ・ 106 dB SNR。
- ・ 最大 200 W の合計出力電力。

アナログ入力 / ライン入力

各アナログ入力は、差動アナログライン入力です。最適なパフォーマンスを得るには、バランスのとれたアナログライン出力信号に接続する必要があります。ただし、バランス調整されていないソースで使用することができます。その場合、- 端末はアースに接続する必要があります。

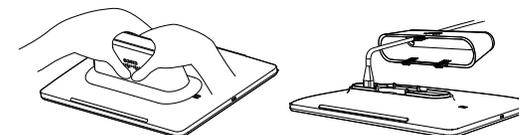
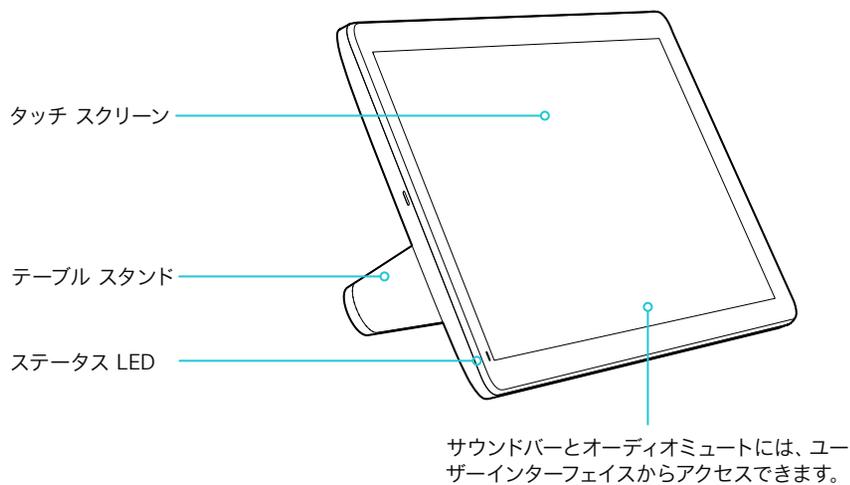
3.5 mm ユーロブロックコネクタでの差動入力。

- ・ 最大 24 dBu の入力レベル。
- ・ 106 dB SNR。

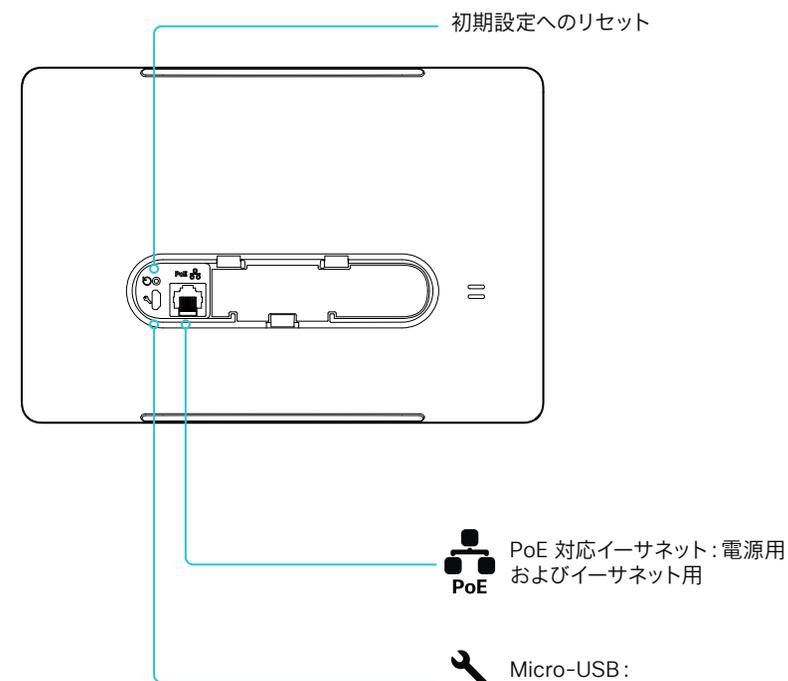
- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

Room Navigator 物理インターフェイス

このタッチコントローラは、2021 年初めに発売されました。タッチコントローラは Touch 10 と同じ機能を備えていますが、電波品質や温度などをモニタリングするための環境センサーも提供しています。



コネクタパネルにアクセスするには、テーブルスタンドを取り外します。しっかりと押して回転させます。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

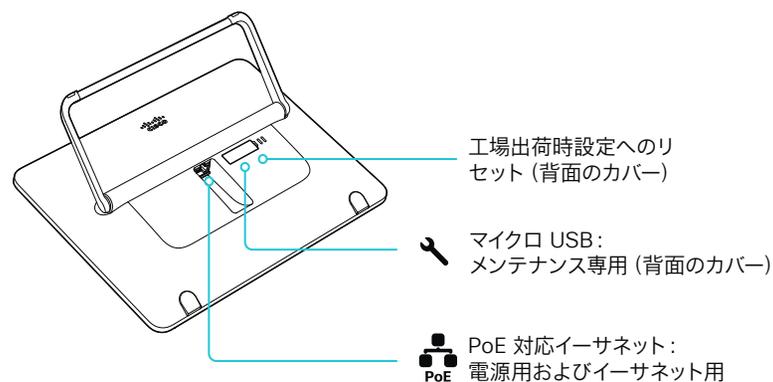
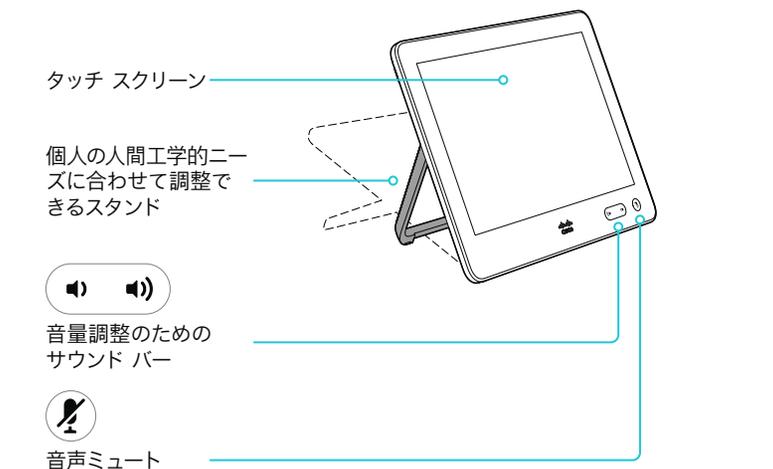
Room 70
Panorama

Room
Panorama

Touch 10 物理インターフェイス

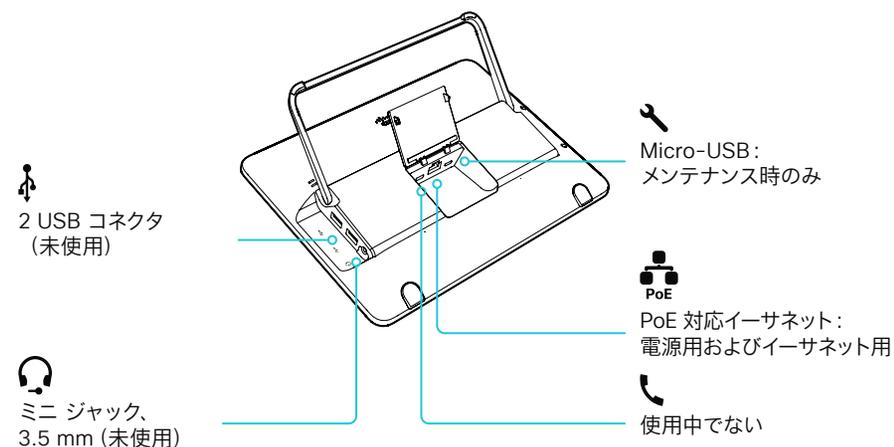
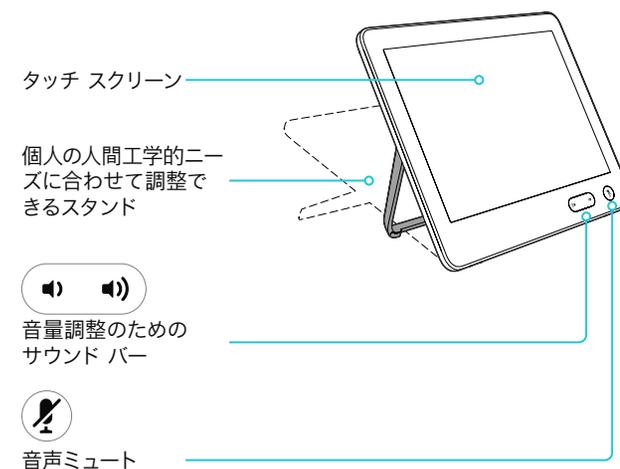
Cisco Touch 10

これは、Touch 10 コントローラ (2017 年後半に発売) の 2 つ目のバージョンです。最初のバージョンと同じ機能を備えています。物理インターフェイスが多少異なります。新しいデバイスは、前面のロゴと、背面のコネクタが少ないことによって識別できます。



Cisco TelePresence Touch 10

これは Touch 10 コントローラの最初のバージョンです。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

第 7 章 付録

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスを Web カメラとして使用したラップトップからのコール (1/4 ページ)

ラップトップをビデオ会議デバイスに接続すると、ラップトップのミーティング アプリケーションから呼び出すときに、デバイスを高機能 Web カメラとして使用できます¹。

このモードでは、次のデバイスリソースを利用します。

- カメラ、マイク、スピーカー
- 画面 - 製品に応じて内蔵または外付け

ラップトップのミーティング アプリケーションから、カメラ、マイク、スピーカーのソースとしてビデオ会議デバイスを選択する必要があります!

デバイスによって機能が異なるため、この機能の設定と使用方法は異なります。

- USB-C を完全にサポートするデバイス:
 - Board Pro
 - Desk Pro, Desk, Desk Mini
 - Codec EQ
 - Room Bar, Room Bar Pro
- USB-C のサポートが制限されているデバイス:
 - Room Kit Mini
- USB-C をサポートしていないデバイス:
 - Codec Plus, Codec Pro
 - Room Kit, Room 55
 - Room 70 Single, Room 70 G2 Single および Dual

最小要件

最小 USB バージョン:

- USB 2.0

最小のコンピュータオペレーティングシステム:

- Windows 7
- OS X 10.6

通話中の動作

オーディオのミュート

ラップトップのミーティング アプリケーションからいつでもマイクをミュートできます。

管理者は、これらの設定を使用して、ユーザーがデバイス (またはデバイスに接続されているタッチコントローラや外部マイク) からのミュートを許可するかどうかを決定できます。

- [オーディオ (Audio)]>[マイク (Microphones)]>[USB パススルー (USB Passthrough)]>[ミュートボタン (MuteButton)]
- [オーディオ (Audio)]>[マイク (Microphones)]>[HDMI パススルー (HDMI Passthrough)]>[ミュートボタン (MuteButton)]

Inactive: ユーザーはデバイスからミュートできません (Desk シリーズのデフォルト動作)

Active: ユーザーはデバイスからミュートできます (その他の製品のデフォルトの動作)

デバイスとミーティング アプリケーションのミュートインジケータは同期していません。これには副次的に多少の影響があります。

- ユーザーがラップトップのミーティング アプリケーションから自分自身をミュートした場合、デバイス、タッチコントローラ、外付けマイクのマイク LED はミュート時の色に変わりません。
- ユーザーがデバイス、タッチコントローラ、外付けマイクから自分自身をミュートした場合、会議中の他の参加者には、ミュートしたことが通知されません。
- アプリケーションのマイクソースとしてデバイスを選択するのを忘れた場合、アプリはラップトップのマイクを使用します。このような場合、デバイス、タッチコントローラ、外付けマイクのマイク LED が赤 (ミュート時の色) になっている場合がありますが、オーディオはミュートされていません。

その他、デバイスから可能なこと

デバイス UI から次の操作を実行できます。

- カメラの制御。カメラの使用中は、カメラの LED が点灯します。
- 音量の調整。
- 背景雑音を除去し、オーディオ品質を最適化します。

その他、ラップトップのミーティング アプリケーションで行う内容

ラップトップのアプリケーションでは、ビデオ会議デバイスをカメラ、マイク、スピーカーのソースとして使用する必要があります。

ラップトップのミーティング アプリケーションは、デバイス UI で制御されないすべての通話中の機能を制御します。これには、通話の切断も含まれます。

USB-C をサポートしていないデバイス:

- デバイス自体の[ラップトップからのコール (Call from laptop)]のアプリケーションも停止する必要があります。

応答不可モード

一般に、ラップトップから会議に参加している場合、デバイス自体は[サイレント (Do Not Disturb)]モードに設定されます。したがって、会議中にデバイスに着信することはありません。

USB-C を完全にサポートするデバイス:

- オーディオのみのミーティングでは、デバイスは[サイレント (Do Not Disturb)]モードになりません。

USB-C をサポートしていないデバイス:

- デバイスで[ラップトップからのコール (Call from laptop)]のアプリケーションがアクティブである限り、最小化されている場合でも、デバイスは[サイレント (Do Not Disturb)]モードのままになります。

¹ Microsoft Teams、Skype for Business、Slack、Zoom などがあります。Cisco は製品の発売前にこれらのクライアントを正常にテストしています。異なるソフトウェアバージョン間の互換性は、定期的にはテストされません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスを Web カメラとして使用したラップトップからのコール (2/4 ページ)

USB-C を完全にサポートするデバイス

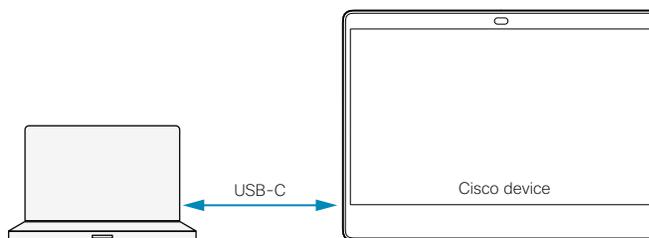
適用先: *Board Pro, Desk Pro, Desk, Desk Mini, Codec EQ, Room Bar, and Room Bar Pro*

このカテゴリのデバイスには USB-C コネクタが付いており、ラップトップから USB-C 接続でデバイスにコンテンツを共有できます。

デバイスは、このモードで最大 1080p のビデオをサポートします。

管理者は、特別な設定を行わなくても、デバイスを Web カメラとして使用できます。[通話中の動作](#) セクションで説明したように、ミュートについて、いくつかのカスタマイズを行うことができます。

ラップトップでの通話のみに使用する場合は、デバイスを通話サービス (クラウドまたはオンプレミス) に登録する必要はありません。初回設定時に登録をスキップした場合は、後で戻ってシスコにデバイスを登録できます。コントロールパネルを開き、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) に移動して、[\[デバイスのアクティベーション \(Device activation\)\]](#) を選択します。



USB-C

- ビデオデバイスのカメラおよびマイクからのビデオとオーディオを、コンピュータクライアントに出力します。
- コンピュータクライアント (相手先) からのビデオとオーディオをビデオデバイスのスピーカーと画面に出力。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスを Web カメラとして使用したラップトップからのコール (3/4 ページ)

USB-C のサポートが制限されているデバイス

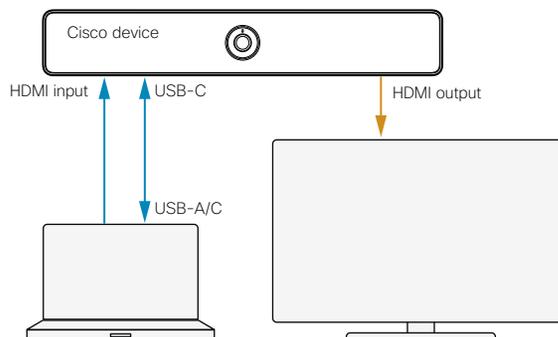
適用対象: Room Kit Mini

このデバイスには USB-C コネクタが付いていますが、ラップトップから USB-C 接続のデバイスにコンテンツを共有することはできません。コンテンツ共有をサポートするには、HDMI ケーブルの接続も必要です。

Web カメラとして使用する場合、このデバイスでは最大 1080p のビデオをサポートします。

管理者は、特別な設定を行わなくても、デバイスを Web カメラとして使用できます。[通話中の動作](#) セクションで説明したように、ミュートについて、いくつかのカスタマイズを行うことができます。

ラップトップでの通話のみに使用する場合は、デバイスを通話サービス (クラウドまたはオンプレミス) に登録する必要はありません。初回設定時に登録をスキップした場合は、後で戻ってシスコにデバイスを登録できます。コントロールパネルを開き、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) に移動して、[\[デバイスのアクティブ化 \(Device activation\)\]](#) を選択します。



USB-C

- ビデオ会議デバイスのカメラおよびマイクからのビデオとオーディオを、コンピュータクライアントに出力します。
- コンピュータクライアントからのオーディオを、ビデオ会議デバイスのスピーカーに出力します。

HDMI インおよび HDMI 送信:

- コンピュータクライアント (相手先) からのビデオを、ビデオ会議デバイスを通じて画面に出力します。

デバイスを Web カメラとして使用したラップトップからのコール (4/4 ページ)

USB-C をサポートしていないデバイス

適用対象: Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2 Single, Room 70 G2 Dual

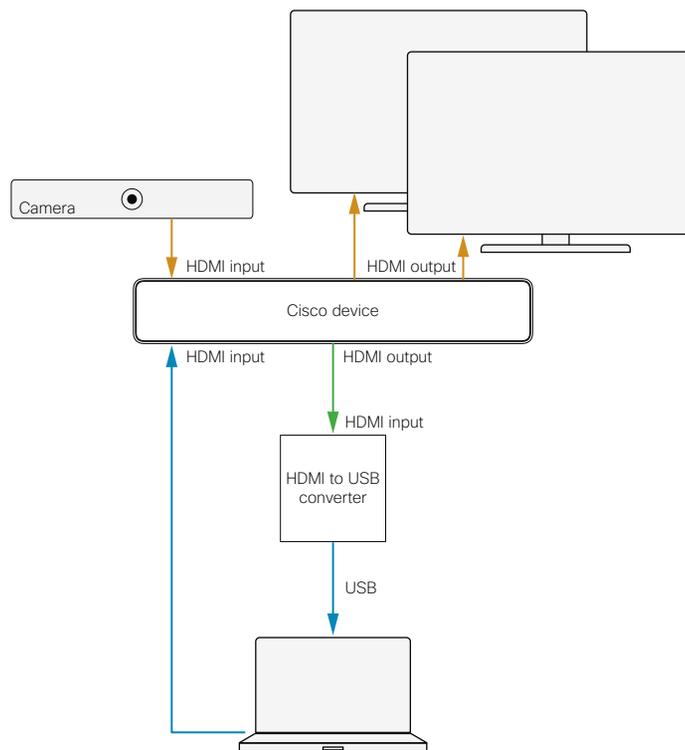
このカテゴリのデバイスには USB-C コネクタがないため、ラップトップとデバイス間に HDMI - USB コンバータ (キャプチャデバイスとも呼ばれます) が必要です (図を参照)。それとは別に、通常どおりデバイスの周辺機器を接続します。

この機能 (HDMI バススルーとも呼ばれる) を次のように設定します。

1. 図に示すように、HDMI - USB コンバータをデバイスの HDMI 出力の 1 つに接続します。^{1, 2}
2. この機能を有効にするには、`[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [HDMI] > [パススルー (Passthrough)] > [許可 (Allowed)]` を True に設定します。
3. デフォルトでは、デバイスは、HDMI - USB コンバータの最も大きい番号の HDMI 出力を使用するように設定されています。

別の HDMI 出力に変更する場合は、`[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [HDMI] > [パススルー (Passthrough)] > [出力コネクタ (OutputConnector)]` 設定を使用します。また、その場合は出力コネクタのモニターのロールが、`[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [コネクタ [n] (Connector [n])] > [モニターのロール (MonitorRole)]` で正しく設定されていることを確認します。

4. 外部電源付きの HDMI - USB コンバータがあり、画面が接続されていない場合は、デバイスの画面数を手動で設定する必要があります。`[ビデオ (Video)] > [モニター (Monitors)]` 設定を使用します。
不一致があると、デバイス本体からミーティングに参加する際にレイアウトの問題が発生します。
5. ユーザーがデバイスのタッチコントローラまたは外付けマイクからのオーディオをミュートできないようにするには、`[オーディオ (Audio)] > [マイク (Microphones)] > [HDMI バススルー (HDMI Passthrough)] > [ミュートボタン (MuteButton)]` を Inactive に設定します。通話中の動作セクションのミュートの項目を参照してください。
6. デバイスが 120 分後に `[ラップトップからのコール (Call from laptop)]` アプリケーションから通話を自動的に切断するかどうかを決定します。詳細はサイドバーを参照してください。



HDMI/USB (クライアントへ) :

- HDMI - USB コンバータ経由でデバイスのカメラとマイクからコンピュータクライアントにビデオとオーディオに出力します。

HDMI (クライアントから) :

- コンピュータクライアント (相手先) から、デバイスの画面へのビデオ。
- コンピュータクライアント (相手先) からデバイスのスピーカーへのオーディオ。

`[ラップトップからのコール (Call from laptop)]` アプリケーションを閉じる

ラップトップのミーティング アプリケーションからの呼び出しは常に切断します。ただし、これらのデバイスでは、デバイス本体の `[ラップトップからのコール (Call from laptop)]` アプリケーションを閉じる必要があります。閉じるまで、デバイスは `[サイレント (Do Not Disturb)]` モードのままになります。

手動で閉じない場合、デフォルトの動作では、アプリケーションは 120 分後に自動的に閉じます。

これらの設定を使用して、デフォルトの動作から変更します。

- `[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [HDMI] > [パススルー (Passthrough)] > [自動切断 (AutoDisconnect)] > [有効 (Enabled)]` : True/False
- `[ビデオ (Video)] > [出力 (Output)] > [HDMI] > [パススルー (Passthrough)] > [自動切断 (AutoDisconnect)] > [遅延 (Delay)]` : 切断までの時間 (分)

Codec Pro および Room 70 G2 のオーディオの詳細設定

`[オーディオ (Audio)] > [出力 (Output)] > [接続設定 (ConnectorSetup)]` 設定を Auto にしておくことを推奨します。

部屋の設定で `[手動 (Manual)]` にする必要がある場合は、オーディオコンソール (推奨) または API コマンドを使用して、マイクパススルーを手動で設定します。

¹ Room 55 Dual, Room 70 Dual, Room 70 Panorama, Room Panorama には、HDMI - USB コンバータ用の予備の HDMI 出力がないため、これらのデバイスでは `[ラップトップからのコール (Call from laptop)]` 機能をサポートしていません。

² Inogeni 4KX-PLUS コンバータをテストし、これを推奨していますが、他のコンバータを使用することもできます。

Board

パノラマ表示ビデオ

パノラマ表示ビデオでは、2 台のカメラの望遠レンズを同時に使用して広角なカメラビューを作成しています。

パノラマ表示ビデオはサポートされるシナリオで常に使用されます。永続的にも一時的にもオフにできる機能ではありません。

サポートされるシナリオ

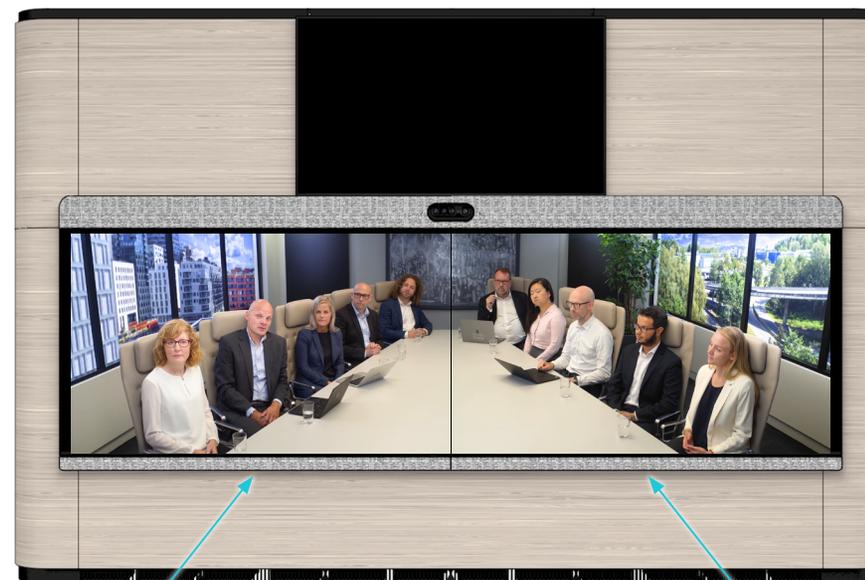
パノラマ表示ビデオは、次のシナリオで使用されます。

- ・ パノラマ表示ビデオをサポートする 2 台のデバイス間のポイントツーポイントコール
- ・ パノラマ表示ビデオをサポートする 2 台のデバイス間の CMS ミーティング

その他のシナリオは、今後のソフトウェアリリースで利用できます。

パノラマ表示ビデオをサポートするデバイス

- ・ Room Panorama
- ・ Room 70 Panorama



右の望遠レンズでキャプチャされたビデオ



左の望遠レンズでキャプチャされたビデオ

カメラの左右の望遠レンズからのビデオはステッチングされ、広角なパノラマビューが作成されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

リモート モニタリングのセットアップ

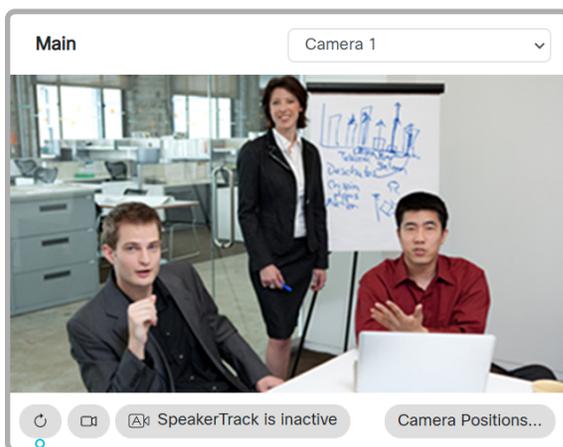
要件:

- ・ [リモート モニタリング (RemoteMonitoring)] オプション

リモート モニタリングは別の場所からデバイスを制御する場合に便利です。

入力ソースからのスナップショットがデバイスの Web インターフェイスに表示されるため、部屋にいなくてもカメラビューをチェックしてカメラを制御できます。

有効にすると、スナップショットは約 5 秒おきに自動的に更新されます。



スナップショットを自動更新する

デバイスでリモート モニタリング オプションを設定するかどうかの確認

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[ソフトウェア (Software)] に移動し、[オプションキー (Option Keys)] を選択します。
2. [インストールされたオプションキー (Installed Option Keys)] のリストで、[リモートモニタリング (RemoteMonitoring)] が[アクティブ (Active)] とマークされているかどうかを確認します。
そうでない場合、リモートモニタリングは使用できません。

リモート モニタリングを有効にする

RemoteMonitoring オプション キーをインストールします。オプションキーのインストール方法については、▶「[オプションキーの追加](#)」の章を参照してください。

リモート モニタリング オプションを有効にする場合は、プライバシーに関する地域の法律および規制を遵守する必要があります。また、システム管理者がカメラや画面を監視および制御する可能性があることを、デバイスのユーザーに適切な方法で通知してください。デバイスの使用時にプライバシー規制を遵守するのはお客様の責任であり、シスコはこの機能の違法な使用について一切の責任を追わないものとします。

スナップショットについて

ローカル入力ソース

デバイスのローカル入力ソースのスナップショットは [コール制御 (Call Control)] ページに表示されます。

スナップショットは、デバイスがアイドル状態のときおよびコール中に表示されます。

遠端のスナップショット

通話中の場合、遠端カメラからのスナップショットも表示できます。これは、相手先デバイスでリモート モニタリング オプションが設定されているかどうかとは関係がありません。

遠端スナップショットは、コールが暗号化されている则表示されません。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

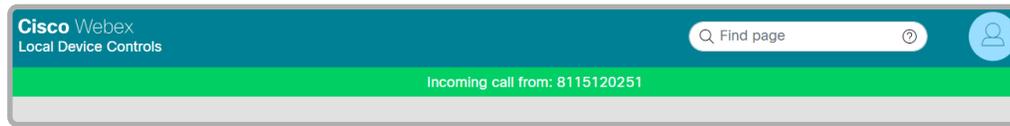
Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスの Web インターフェイスを使用したコール情報へのアクセスと応答

Web ページの上部にある緑のバナーは、着信コールについて通知するため、またデバイスがコール中であることを表示するためにあります。

デバイスがアイドル状態の場合、緑のバナーはありません。



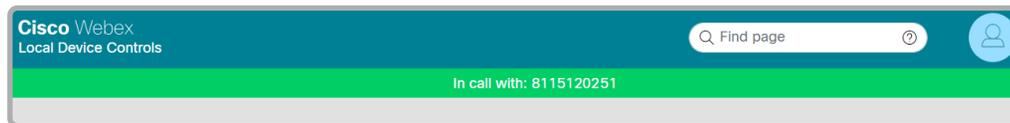
着信通知

緑のバナーをクリックして [コール (Call)] ページを開きます。ここで、コールの応答または拒否を行うことができます。

コールの操作

[コール (Call)] ページでは、コール操作に関する操作ボタンが表示されます。各ボタンを使用して次のことを実行します。

-  コールの詳細を表示する
-  コールを保留にする
-  通話に応答する
-  コールを切断する



デバイスがコール中

デバイスがコール中である場合は、緑のバナーが表示されます。また、デバイスに複数のアクティブコールがある場合にも表示されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスの Web インターフェイスを使用したコールの発信 (1/2 ページ)

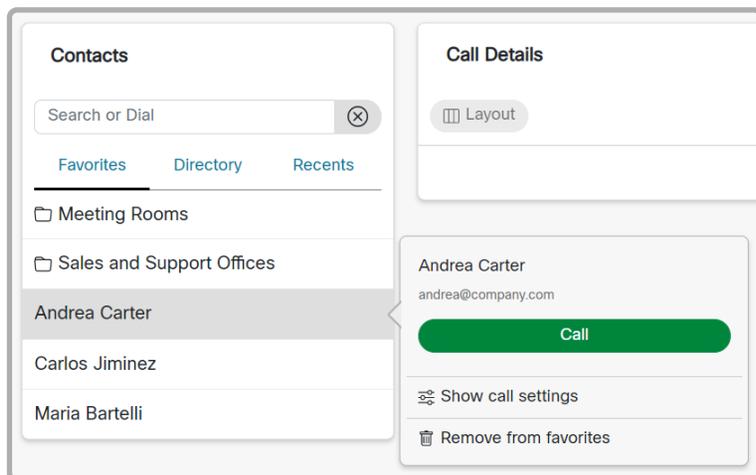
デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[通話 \(Call\)\]](#) に移動します。

コールの発信

- i** デバイスの Web インターフェイスを使ってコールを開始した場合でも、コールに使用されるのはビデオ会議デバイス (ディスプレイ、マイク、およびスピーカー) であり、Web インターフェイスを実行している PC ではありません。

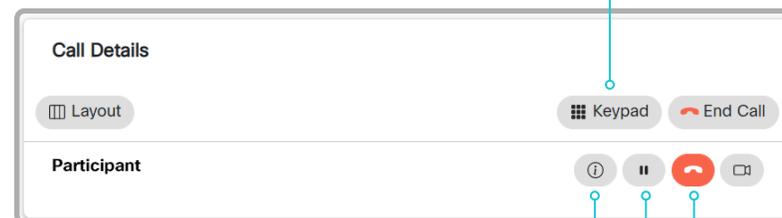
- 正しいエントリを見つけるには、[お気に入り (Favorites)] リスト、[ディレクトリ (Directory)] リスト、または [最近の履歴 (Recents)] リストに移動するか、あるいは [検索またはダイヤル (Search or Dial)] フィールドに 1 文字以上を入力します*。該当する連絡先名をクリックします。
- 連絡先カードで [\[コール \(Call\)\]](#) をクリックします。

または、[検索して発信 (Search and Dial)] フィールドに完全な URI または番号を入力します。次に、URI または番号の横に表示される [\[コール \(Call\)\]](#) ボタンをクリックします。



DTMF トーンの送信

アプリケーションが DTMF (デュアルトーン多重周波数) シグナリングを必要とする場合は、クリックしてキーパッドを開きます。



コールの詳細の表示/非表示

情報ボタンをクリックすると、コールの詳細情報が表示されます。もう一度ボタンをクリックすると情報が非表示になります。

コールの保留および復帰

参加者を保留にするには、その名前の横にある **||** ボタンを使用します。

コールを再開するには、保留中の参加者に表示される **▶** ボタンを使用します。

コールの終了

コールまたは会議を終了する場合は、[\[コールの終了 \(End Call\)\]](#) をクリックします。表示されるダイアログで選択内容を確認します。

1 人の参加者のみコールを終了するには、その参加者の **🔴** ボタンをクリックします。

* 検索時には、入力内容に応じて、[お気に入り (Favorites)]、[ディレクトリ (Directory)]、および [最近の履歴 (Recents)] リストの一致するエントリが表示されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスの Web インターフェイスを使用したコールの発信 (2/2 ページ)

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[通話 \(Call\)\]](#) に移動します。

複数の相手に発信

ポイントツーポイントのビデオコール (2 者間限定のコール) を拡張して、音声専用でもう 1 人の参加者を含めることができます。

オプションで搭載される MultiSite 機能をデバイスで使用している場合は、自身を含めて最大 4 人または 5 人までビデオコール (会議) に参加できます (表を参照)。

ビデオ会議デバイス	MultiSite コールの参加者の最大数
Board, Codec Plus, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70	4
Board Pro, Codec EQ, Codec Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room Bar, Room Bar Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama	5

最初の参加者を呼び出したときと同じ手順で、次の会議参加者を呼び出してください。

音量の調整

マイクをミュートにする

[\[マイク: オン \(Microphone: On\)\]](#) をクリックして、マイクをミュートにします。すると、テキストが [\[マイク: オフ \(Microphone: Off\)\]](#) に変わります。

ミュートを解除するには、[\[マイク: オフ \(Microphone: Off\)\]](#) をクリックします。



* 音声のみの参加者の追加は、Board, Codec Plus, Codec Pro, Desk Pro, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2 でサポートされています。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスの Web インターフェイスを使用したコンテンツの共有

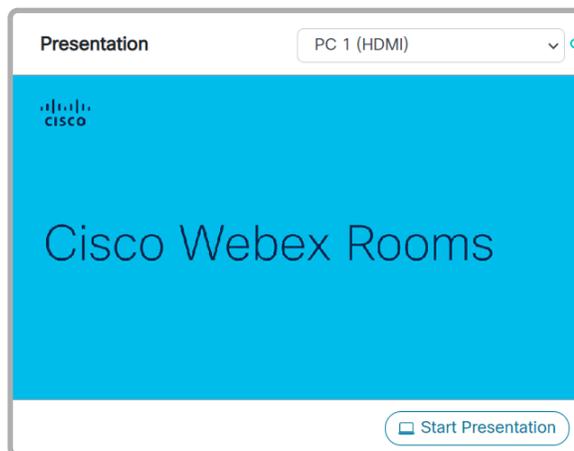
デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[通話 \(Call\)\]](#) に移動します。

コンテンツの共有

1. プレゼンテーション ソース ドロップダウンリストで、共有するコンテンツ ソースを選択します。
1 つの入力ソースのみをサポートする製品には、ドロップダウンリストに 1 つのエントリのみあります。
2. [\[プレゼンテーションの開始 \(Start Presentation\)\]](#) をクリックします。すると、テキストが [\[プレゼンテーションの停止 \(Stop Presentation\)\]](#) に変わります。

コンテンツ共有の停止:

共有している間に表示される [\[プレゼンテーションの停止 \(Stop Presentation\)\]](#) ボタンをクリックします。



プレゼンテーション
ソース ドロップダウン
リスト

ドロップダウン リストから、共有する入力ソースを選択します。

スナップショット領域

選択されたプレゼンテーション ソースのスナップショットが表示されます。

リモート モニタリングオプションが設定されているデバイスでのみ利用できます。

コンテンツ シェアリング (共有) について

デバイスのビデオ入力にプレゼンテーションソースを接続できます。ほとんどの場合は PC がプレゼンテーション ソースとして使用されますが、デバイスの設定によっては他のオプションを使用できる場合があります。

コールの間、コールの他の参加者 (相手先) とコンテンツを共有できます。

コール (通話) 中でない場合は、コンテンツはローカルに表示されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

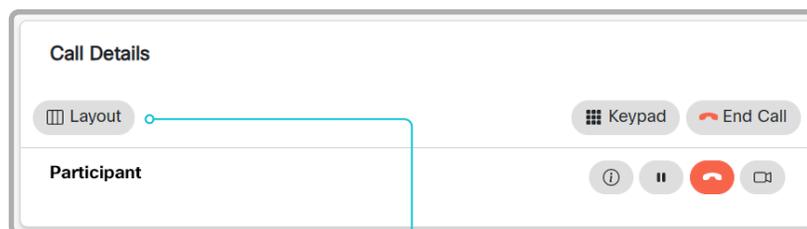
Room 70
Panorama

Room
Panorama

ローカル レイアウトの制御

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[通話 \(Call\)\]](#) に移動します。

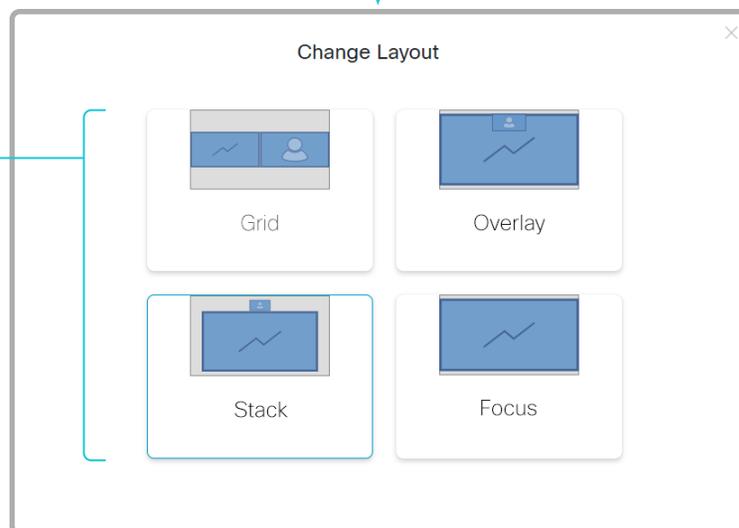
注: ローカルレイアウトの制御はパノラマ表示ビデオのシナリオでは使用できません。



レイアウトの変更

[\[レイアウト \(Layout\)\]](#) をクリックし、表示されるウィンドウで望ましいレイアウトを選択します。^{*}

選択するレイアウトのセットは、デバイスの設定によって異なります。



レイアウトについて

ここでいうレイアウトとは、プレゼンテーションとビデオを画面に表示するさまざまな方法のことです。会議の種類によって、レイアウトを変える必要があります。

通話や会議の参加者の数は、選択肢に反映されます。

注: レイアウトのセットは、現在名前が変更されています。短い期間、古い名前と新しい名前の両方が混在して使用されている場合があります。

古い名前	新しい名前
等分	グリッド
オーバーレイ	オーバーレイ
対象拡大表示	スタック
シングル	重点

^{*} 会議ブリッジにコールしている場合、参加者レイアウトの変更は、ビデオ会議デバイスでサポートされていても、デバイスの Web インターフェイスではサポートされません。

ローカル カメラの制御

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[通話 \(Call\)\]](#) に移動します。

手動カメラ制御の前提条件

- [\[ビデオ \(Video\)\]](#) > [\[入力 \(Input\)\]](#) > [\[コネクタ n \(Connector n\)\]](#) > [\[カメラ制御 \(CameraControl\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) 設定が [\[オン \(On\)\]](#) になっている。
- カメラにパン、チルト、またはズーム機能が付いている。
- ベストオーバービュー / スピーカートラッキングがオフである。
- パノラマ表示ビデオが使用されていない。

スナップショット領域

選択したカメラ (メイン入力ソース) のスナップショットが表示されます。

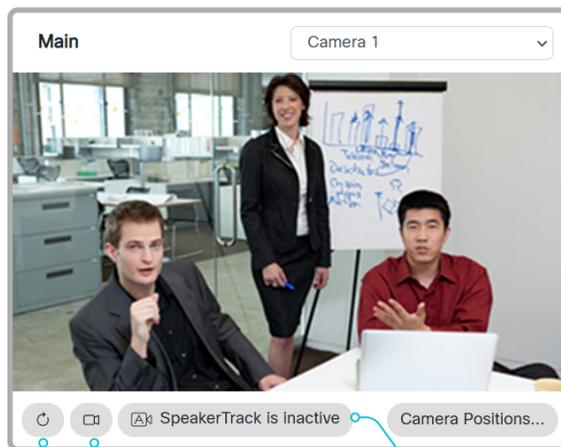
リモート モニタリングオプションが設定されているデバイスでのみ利用できます。

スナップショットを自動更新する

パン/チルト/ズーム コントロールを使用したカメラの移動

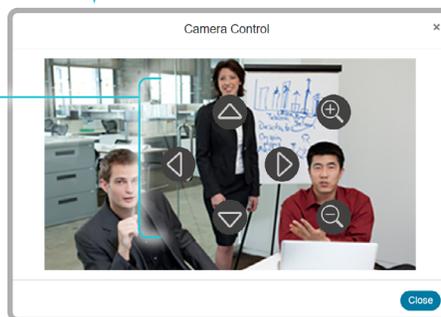
スピーカートラック/ベストオーバービューがアクティブの場合、カメラ制御は使用できません。

1. 該当する場合は、[\[メイン \(Main\)\]](#) ソースドロップダウンリストで、制御するカメラを選択します。
2. カメラ制御ウィンドウを開くには、カメラのアイコンをクリックします。
室内からのビデオスナップショットは、[\[リモートモニタリング \(Remote Monitoring\)\]](#) オプションが設定されているデバイスにのみ表示されます。
3. カメラのパンには左右の矢印キー、チルトには上下の矢印キー、ズームインとズームアウトには **+** および **-** を使用します。
関連するコントロールのみがウィンドウに表示されます。
4. [\[閉じる \(Close\)\]](#) をクリックして、ウィンドウを閉じます。



ベストオーバービュー / スピーカートラッキング

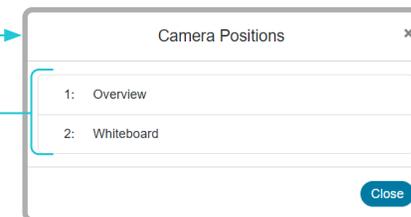
クリックして機能のオンとオフを切り替えます。



[メイン (Main)] ソース ドロップダウン リスト

このドロップダウン リストから、制御するカメラを選択します。

1 つのカメラのみをサポートする製品には、ドロップダウンリストが含まれていません。



カメラのプリセット位置への移動

1. 該当する場合は、[\[メイン \(Main\)\]](#) ソースドロップダウンリストで、制御するカメラを選択します。
2. [\[カメラの位置... \(Camera Positions...\)\]](#) をクリックして、使用可能なプリセットのリストを開きます。
プリセットが定義されていない場合は、ボタンが無効化され、[\[カメラの位置なし \(No Camera Positions\)\]](#) と表記されます。
3. プリセットの名前をクリックすると、カメラがそのプリセット位置に移動します。
4. [\[閉じる \(Close\)\]](#) をクリックして、ウィンドウを閉じます。

i デバイスの Web インターフェイスを使用してプリセットを定義することはできません。デバイスのユーザーインターフェイスを使用する必要があります。

カメラの位置のプリセットを選択すると、スピーカートラック/ベストオーバービューは自動的にオフになります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

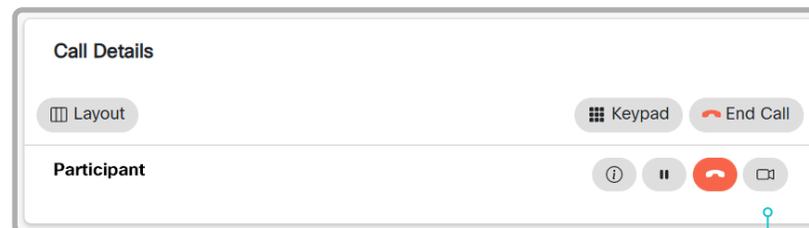
相手先カメラの制御

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[通話 \(Call\)\]](#) に移動します。

前提条件

以下の条件において、通話中にリモート参加者のカメラ（相手先）を制御できます。

- パノラマ表示ビデオが使用されていない。
- 相手先デバイスで[\[会議 \(Conference\)\]](#) > [\[相手先制御 \(FarEndControl\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) 設定が **[オン (On)]** または **[自動 (Auto)]** に設定されている。
 - [自動 (Auto)]** に設定されている場合は、スピーカトラックをオフにする必要があります。
 - [オン (On)]** に設定すると、デバイスが最初の移動コマンドを受信したときにスピーカトラックが自動的に無効化され、通話が終了すると再び有効化されます。
- 遠端カメラにパン、チルト、ズーム機能がある。関連する制御のみ表示される。
- ローカル デバイスでリモート モニタリング オプションが設定されている。

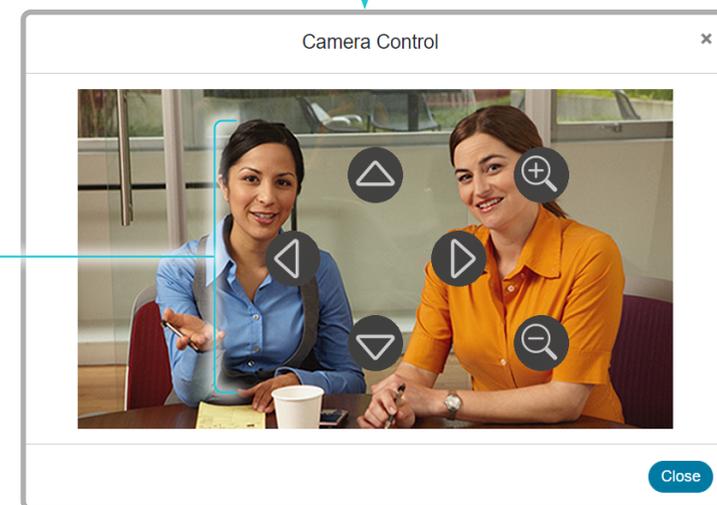


リモート参加者のカメラを制御

- リモート カメラ制御ウィンドウを開くには、カメラのアイコンをクリックします。
- カメラのパンには左右の矢印キー、チルトには上下の矢印キー、ズームインとズームアウトには + および - を使用します。

遠端カメラの制御が許可されていない場合は、画面にコントロールが表示されません。

コールが暗号化されている場合、制御の背後の遠端スナップショットは表示されません。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ルーム分析 (ページ 1 / 2)

ルーム分析機能は、会議室からのいくつかの変数を使用します。また、それらの変数を再利用して、時間経過やコールのたびに部屋の使用率を分析します。

以下に示す設定を見つけるには、デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#) を選択します。ステータスを確認するには、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[ステータス \(Statuses\)\]](#) を選択します。

環境ノイズ レポート

このデバイスでは、室内の定常環境雑音レベルをレポートできます。レポートされた値はA荷重デシベル値(dBA)で、人間の耳の応答に反響します。この機能に関連するすべてのシグナリング処理はローカルで、転送されるデータは算出されたノイズレベルだけです。

この値はノイズレベルの異常な変化の検出に使用できます。このような変化は、室内で仕事をしている人にとっては不快なノイズを引き起こす場合があります。施設管理はこの問題をトラブルシューティングするために迅速に介入できます。

デバイスの Web インターフェイスから環境雑音の検出をオンまたはオフにできます。[\[ルーム分析 \(RoomAnalytics\)\]](#) > [\[環境雑音の予測 \(AmbientNoiseEstimation\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) 設定を使用します。

人の存在の検出

このデバイスは、人が室内にいるかどうかを見つける機能を備えています。人の存在の検出には最低でも 2 分かかります。部屋が空室になった後、ステータスを変更するまで最大 2 分かかることがあります。

この機能は、超音波検出または頭部検出に基づいています。室内にいた人物の記録を保持することはなく、人がいたかどうかのみを記録します。

デバイスの Web インターフェイスから人の存在の検出をオンまたはオフにできます。[\[ルーム分析 \(RoomAnalytics\)\]](#) > [\[人の存在の検出 \(PeoplePresenceDetector\)\]](#) 設定を使用します。

オンにすると、検出の入力ソースとして超音波、頭部検出、またはその両方を使用するかどうかをさらに指定できます。[RoomAnalytics > PeoplePresence > Input > HeadDetector](#) および [RoomAnalytics > PeoplePresence > Input > Ultrasound](#) 設定を使用します。

人数のカウント

頭部検出*を使用して、デバイスで室内の人数を特定できます。室内にいた人物の記録を保持することはなく、人の平均数だけを検知します。室内の物体や写真も頭部として検出し、カウントされる可能性があります。

信頼性の高い平均数を得るために、コール時間の長さは最低 2 分必要です。2 分未満のコールと人数のカウントが無効にされたコールでは、通話履歴を取得すると「N/A」が表示されます。

デフォルトでは、デバイスはコール中またはセルフビュー画像を表示しているときにのみ人数をカウントします。

[RoomAnalytics > PeopleCountOutOfCall](#) 設定を使用して、コール外でも人数カウントを有効にします。その後、セルフビューがオフの場合でも人数のカウントがアクティブになり、ホットデスクングに設定していない共有デバイスでは、デバイスがディスプレイオフモード (1 番目の低電力 / スタンバイステージ) の場合、人数のカウントもアクティブになります。ただし、デバイスがネットワークスタンバイ (2 番目の低電力/スタンバイ段階) の場合、人数カウントはアクティブになりません。

Codec EQ, Codec Pro, Codec Plus

- ・ コール中の人数カウントでは、Quad Camera または SpeakerTrack 60 カメラを使用する必要があります ([Codec EQ](#) ではサポートされません)。
- ・ 非通話中の人数カウントでは、Quad Camera が必要です。

ステータス

人の存在および人のカウントに関する特定の瞬間のステータスを確認することができます。[\[ルーム分析 \(RoomAnalytics\)\]](#) のステータスを確認します。

* 例外: SpeakerTrack 60 カメラは、顔検出アルゴリズムではなく、頭部検出アルゴリズムを使用しています。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

ルーム分析 (ページ 2 / 2)

診断

ユーザーインターフェイスから SpeakerTrack Diagnostics モードを有効にすると、リアルタイムの人数やその他のスピーカートラックの診断情報を画面上で確認することができます。

1. 右からスワイプするか、右上隅にあるコントロールアイコン  をタップして、コントロールパネルを開きます。次に、[\[デバイス設定 \(Device settings\)\]](#) を選択します。
2. [\[問題と診断 \(Issues & diagnostics\)\]](#) を選択し、[\[SpeakerTrack の診断 \(SpeakerTrack diagnostics\)\]](#) をオンにします。

これで、リアルタイムの人数とその他のスピーカートラックの診断情報の両方がセルフビュー（通話以外と通話中）に表示され、相手側に送信されます（通話中）。

通話履歴コマンド

コール後に、通話履歴コマンドから人々の平均数の値を抽出できます。

- `xCommand CallHistory Get DetailLevel: Full`

通話履歴コマンドは、API (Application Programming Interface) から使用できます。詳細については、『RoomOS API Reference Guide (RoomOS API リファレンスガイド)』を参照してください。次のリンクからアクセスできます。

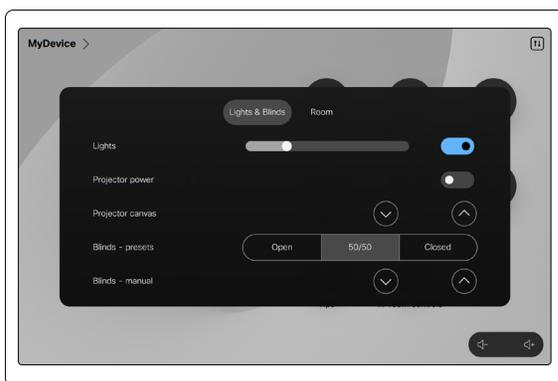
- ▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs>
- ▶ <https://www.cisco.com/go/board-docs>
- ▶ <https://www.cisco.com/go/desk-docs>

カスタマイゼーション

ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイスのカスタマイズ

ユーザーインターフェイスをカスタマイズして、照明やブラインドなど、会議室内の周辺機器を制御したり、マクロをトリガーしてビデオ会議デバイスの動作を変更したりできます。

これにより、制御システムの機能と、ビデオ会議デバイスの使いやすいタッチユーザーインターフェイスを強力に組み合わせることができます。



室内制御パネルの例

UI 拡張エディタを使用してカスタムのユーザーインターフェイス パネル、アクションボタン、Web アプリを設計する方法、およびビデオ会議デバイスの API を使用してコントロールとアクションをプログラミングする方法の詳細については、『カスタマイズガイド』をご覧ください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

また、Cisco RoomOS Web サイトでは、カスタマイズやマクロに関する詳細な情報、例などを確認できます。次のリンクからアクセスできます。

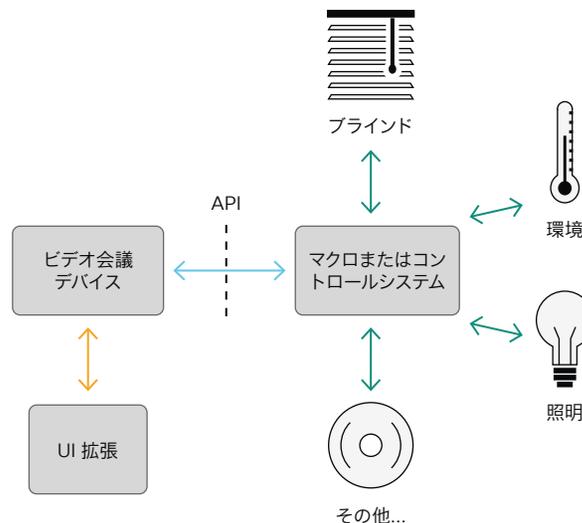
▶ <https://roomos.cisco.com>

UI 拡張の制御アーキテクチャ

タッチインターフェイス (タッチコントローラまたは統合タッチスクリーン)、およびマクロまたはコントロールシステムを備えたシスコのビデオ会議デバイスが必要です。

- マクロでは、デバイスの API (イベントおよびコマンド) を使用して、短縮ダイヤル、言語の選択、カスタマイズされたシステムのリセットなど、あらゆる種類の機能をトリガーすることができます。
- 制御システムは、ハードウェア ドライブや周辺機器を備えた Crestron や AMX などの他社製システムである場合もあります。これはビデオ会議デバイスではなく、周辺機器を制御するコントロール システムです。

コントロール システムをプログラミングするときは、ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイス上のコントロールに接続するために、ビデオ会議デバイスの API (イベントとコマンド) を使用する必要があります。



UI 拡張の制御概略図

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, DeskPro, DeskMini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタマイゼーション

ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイスのカスタマイズ (ページ 2/2)

UI 拡張エディタ

無料のエディタ

ビデオ会議デバイスのソフトウェアには、ドラッグアンドドロップ方式の使いやすいエディタが無償で付属しています。カスタムユーザーインターフェイス拡張機能 (アクションボタン、Web アプリ、および室内制御などのカスタムパネル) を作成するには、このエディタを使用します。

デバイスの Web インターフェイスにサインイン^{*}して、[\[UI 拡張エディタ \(UI Extensions Editor\)\]](#)に移動します。

- デバイスの Web インターフェイスでエディタが直接開きます。新しいパネル、アクションボタン、または Web アプリを作成してデバイスにプッシュし、その結果をすぐにユーザーインターフェイスで確認することができます。

プレビュー機能

エディタは、カスタム インターフェイスがどのようにユーザーインターフェイスに表示されるか確認するためのプレビュー機能も提供します。

-  をクリックしてプレビューを開始します。

プレビュー機能ではカスタム パネルがソフトウェア的に完全に再現されるため、コントロールをクリックすると、実際のユーザーインターフェイスでコントロールを選択した場合と同じアクションが実行されます。

したがって、実際の ユーザーインターフェイスを有効にすることなく、プレビュー機能を使用してお使いの統合をテストできます。リモートの場所からデバイスのカスタム パネルを使用することもできます。

D15503.02

RoomOS

11.5

07-2023



^{*} UI 拡張エディタおよびプログラミングに必要な API コマンドにアクセスするには、ROOMCONTROL、INTEGRATOR、または ADMIN ユーザー ロールを持つユーザーが必要です。

カスタマイゼーション

マクロを使用したビデオ会議デバイスの動作のカスタマイズ

マクロにより、デバイスで実行するコードの独自のスニペットを作成できます。言語は、アロー関数、promise および class などの機能をサポートする JavaScript/ECMAScript 6 です。

インテグレータは、マクロ フレームワークを利用して、個別の顧客要件に応じてデバイスの動作を調整するスクリプトを作成できます。インテグレータが行える作業には、独自の機能または機能のバリエーションの実装、特定の設定または再設定の自動化、機能のカスタム テストやモニタリングの作成などがあります。

マクロの使用とカスタム ユーザーインターフェイス パネル (UI 拡張機能) の作成を組み合わせることで、カスタマイズされたローカル機能をトリガーするようにユーザーインターフェイスを変更できます。以下に例を示します。

- 短縮ダイヤル ボタンの追加
- すべての設定を好みのデフォルト セットアップに戻すためのルームリセットボタンの追加

マクロの詳細およびデバイスに搭載されているマクロ エディタの使用方法については、[カスタマイズ ガイド](#)をご覧ください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

また、Cisco RoomOS Web サイトでは、カスタマイズやマクロに関する詳細な情報、例などを確認できます。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://roomos.cisco.com>

デバイスでのマクロの使用許可

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#) を選択します。

- [\[マクロ \(Macros\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) を [オン (On)] に設定します。

この設定が [オフ (Off)] の場合にマクロ エディタを起動しようとすると、ポップアップ メッセージが表示されます。[マクロの有効化 (Enable Macros)] をタップして応答した場合は [\[マクロ \(Macros\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) 設定が自動的に [オン (On)] に変更され、エディタが起動します。

マクロ エディタの起動

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[マクロエディタ \(Macro Editor\)\]](#) に移動します。

これにより、デバイスの Web インターフェイスに組み込まれているマクロエディタが開きます。スタンドアロンのエディタは提供していません。

マクロ エディタ

マクロ エディタは、以下のことができる強力なツールです。

- 変更したり、そのまま使用したり、または自身のマクロを記述する際のヒントとして使用したりするコードの例をロードできます。
- 詳細なマクロ記述チュートリアルを用意しているので、参照してください。コードの例についても、より詳しく説明しています。
- 独自のマクロを記述して、デバイスにアップロードできます。
- マクロは、個別に有効または無効にできます。
- マクロを実行したときの動作は、組み込みのログ コンソールで確認できます。

* マクロ エディタにアクセスするには、ADMIN ユーザー ロールを保持しているユーザーが必要です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

カスタマイゼーション

ユーザーインターフェイスのボタンの表示または非表示

[通話 (Call)] または [共有 (Share)] などのボタンを使用しないユースケースもあります。このような使用しないボタンは混乱を引き起こす場合があります。このような場合、使用しないボタンをユーザーインターフェイスから削除できます。その場合もカスタム UI ボタンは表示できます。カスタムボタンの追加中に標準のボタンを削除すると、ユーザーインターフェイスを完全にカスタマイズできるようになります。

たとえば、誰もこのデバイスからコンテンツや通話を共有しない場合は、[通話 (Call)] ボタンと [共有 (Share)] ボタンを削除できます。代わりに、実行する予定のタスク用のカスタム ボタンとパネルを追加します。

解説場所

ボタンの削除方法およびユーザーインターフェイスのカスタマイズ方法については [カスタマイズガイド](#) を参照してください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

構成

ユーザーインターフェイスでボタンを表示または非表示にするには、次の設定を使用します。設定は、デバイスの Web インターフェイスと API の両方から利用できます。

- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [コール (Call)] > [開始 (Start)]: デフォルトの [コール (Call)] ボタンを表示または非表示にします (ディレクトリ、お気に入り、最近のコール履歴リストも含まれます)。コール中に表示される、[参加者を追加 (Add participant)] ボタンにも影響します。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [コール (Call)] > [Webex に参加 (JoinWebex)]: Webex ミーティングに参加するためのデフォルトのボタンを表示または非表示にします。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [Google Meet に参加する (JoinGoogleMeet)]: Google の招待状によって生成された会議コードだけを使って、Google Meet の会議にダイヤルできるボタンの表示/非表示を設定します。(デバイスが Webex クラウドサービスに登録されているか、または Webex Edge for Devices にリンクされている場合のみ使用できます)。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [Zoom に参加 (JoinZoom)]: Zoom ミーティングに参加するためのデフォルトのボタンを表示または非表示にします。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [共有 (Share)] > [開始 (Start)]: 通話中および通話中以外の両方で、コンテンツの共有およびプレビュー用のデフォルト ユーザーインターフェイスを削除します。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [ホワイトボード (Whiteboard)] > [開始 (Start)]: ホワイトボードを開始するためのデフォルトのボタンを削除します。(Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro のみ)
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [ビデオミュート (VideoMute)]: デフォルトの [ビデオをオフにする (Turn video off)] ボタンを削除します。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [終了 (End)]: [通話終了 (End Call)] ボタンを削除します。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [通話中コントロール (MidCallControls)]: [保留 (Hold)], [再開 (Resume)], [転送 (Transfer)] 通話中ボタンを削除します。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [レイアウト制御 (LayoutControls)]: デフォルトで通話で使用できる [レイアウト (Layout)] ボタンを表示または非表示にします。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [参加者リスト (ParticipantList)]: デフォルトで通話で使用できる [参加者 (Participants)] ボタンを表示または非表示にします。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [コール (Call)] > [音楽モード (MusicMode)]: デバイスの音楽モードを有効にするトグルボタンを削除します。音楽モードは、マイクが音楽をキャプチャする必要がある場合に便利です。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [コール (Call)] > [キーパッド (Keypad)]: 通話中の [キーパッド (Keypad)] ボタンを削除します。このボタンは、DTMF 入力に使用できるキーパッドを開きます。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [セルフビュー制御 (SelfviewControls)]: ユーザーインターフェイスのセルフビュー制御を表示または非表示にします。
- UserInterface > Features > Call > CameraControls: ユーザーインターフェイス (コントロールパネル) のカメラ制御を表示または非表示にします。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [HDMI バススルー (HdmiPassthrough)]: [ラップトップからのコール (Call from laptop)] ボタンを表示または非表示にします。(Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room 55, Room 70 Single, Room 70 G2 のみ)
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [通話 (Call)] > [Web カメラ (Webcam)]: [ラップトップからのコール (Call from laptop)] ボタンを表示または非表示にします。(Room Bar, Room Kit Mini, Board Pro のみ)
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [開始 (Start)]: [ファイル (Files)] ボタンを表示または非表示にします。(Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro のみ。この設定は、Webex クラウドサービスに登録されているデバイスまたは Webex Edge for Devices にリンクしているデバイスのみ適用されます)
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [ヘルプ (Help)] > [ヒント (Tips)]: デバイスの使用方法についての情報にアクセスできる [ヒント (Tips)] ボタンを表示または非表示にします。
- [ユーザーインターフェイス (UserInterface)] > [機能 (Features)] > [すべて非表示 (HideAll)]: すべてのデフォルトボタンを削除します。カスタムボタンは削除されません。

i 設定はボタンと UI 要素だけを削除し、機能などは削除しません。たとえば、[共有 (Share)] ボタンをユーザーインターフェイスから削除しても、Proximity を使用してコンテンツを共有できます。

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

カスタマイゼーション

サードパーティ USB 入力デバイスの使用

サードパーティ製の USB 入力デバイスを使用して、ビデオ会議デバイスの特定の機能を制御できます。USB ドングルや USB キーボードでの Bluetooth リモート制御はこのような入力デバイスの一例です。

この機能は、利便性を高めるために、ビデオ会議デバイスのユーザーインターフェイスの機能を補完することを目的としています。ユーザーインターフェイスを置き換えるものではありません。

アプリケーションの例

- クラスルームや講義で、小型のリモコンを使用してビデオ会議デバイスをスタンバイ モードから復帰させることができます。また、表示する入力ソースを選択するためにリモート制御を使用するのも便利です。
- タッチインターフェイスを使用できない状況で、カメラビュー（パン、チルト、ズーム）を制御します。例えば、病院の手術室。

機能の概要

USB 入力デバイスのボタンを押すと、API でイベントが生成されます。マクロまたはサードパーティの制御デバイスは、こういったイベントをリッスンして応答することが可能です。この動作は、カスタム UI ボタン (UI 拡張機能) の動作と似ています。ウェブフックを使って、直接SSH セッションでイベントをリッスンすることも可能です。

アクション選択からすぐに利用できるアクションのライブラリはありません。ご自身で、イベントに対する応答として行うアクションを定義して実装する必要があります。次に例を示します。

- [音量アップ (Volume Up)] キーが押されたら、ビデオ会議デバイスの音量を上げる。
- [スリープ (Sleep)] キーが押されたら、ビデオ会議デバイスをスタンバイモードにする。

設定、イベント、およびステータス

USB 入力デバイスのサポートはデフォルトで無効になっています。 [Peripherals > InputDevice > Mode](#) を On に設定することで明示的に有効にします。

ボタンを押してから離すと、押されたおよびリリースされたイベントが作成されます：

```
*e UserInterface InputDevice Key Action Key: <キーの名前>
*e UserInterface InputDevice Key Action Code: <キーの ID>
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: Pressed
** end
*e UserInterface InputDevice Key Action Key: <キーの名前>
*e UserInterface InputDevice Key Action Code: <キーの ID>
*e UserInterface InputDevice Key Action Type: Released
** end
```

イベントをリッスンするには、InputDevice イベントからのフィードバックを登録する必要があります。

```
xFeedback Register /event/UserInterface/InputDevice
** end
```

ビデオ会議デバイスでサードパーティの入力デバイスが検出されると、その入力デバイスがビデオ会議デバイスの [\[ユーザーインターフェイス \(UserInterface\)\] > \[周辺機器 \(Peripherals\)\] > \[接続されているデバイス \(ConnectedDevice\)\]](#) ステータスに表示されます。入力デバイスは複数のデバイスとして報告される場合があります。

必要な工具

- Cisco Webex Room、Board、または Desk シリーズのデバイス。
- デバイス自体を USB キーボードとしてアダプタ化するサードパーティ入力デバイス。例えば、USB ドングル付きの Bluetooth リモート制御。

解説場所

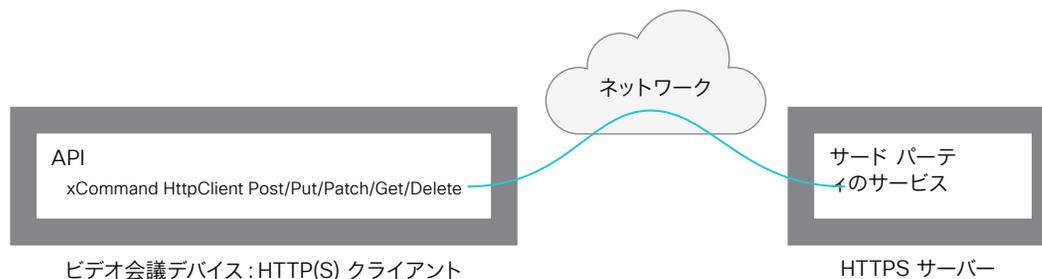
サードパーティ入力デバイスの利用についての詳細は、 [カスタマイズガイド](#) をご覧ください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

Cisco support (TAC) はマクロを含む、サードパーティ コードのデバッグに対応していません。マクロやサードパーティーコードについてのヘルプは、▶ [Cisco Collaboration Developer コミュニティ](#) を確認してください。

カスタマイゼーション

HTTP(S) 要求の送信



HTTP(S) 要求機能を使用すると、ビデオ会議デバイスから HTTP(S) サーバーに任意の HTTP(S) 要求を送信できます。さらに、デバイスはサーバーから送信された応答を受信します。このデバイスは、POST、PUT、PATCH、GET、および DELETE メソッドをサポートします。

マクロを使用すると、必要に応じて HTTPs サーバーにデータを送信できます。送信するデータを選択して、必要に応じて構造化することができます。それにより、すでに確立されているサービスにデータを適合させることができます。

セキュリティ対策：

- HTTP(S) 要求機能は、デフォルトでは無効になっています。システム管理者は `HttpClient > Mode` を On に設定することでこの機能を明示的に有効にする必要があります。
- システム管理者は `HttpClient > AllowHTTP` を False に設定することで HTTP の使用を防ぐことができます。
- システム管理者は、デバイスがデータを送信可能な先である HTTP(S) サーバーのリストを指定することができます。
- 同時 HTTP(S) 要求の数は制限されています。

許可されている HTTP(S) サーバーのリスト

システム管理者はコマンドを使用して最大 10 の許可されている HTTP(S) サーバー (ホスト) のリストを設定し維持できます：

- `xCommand HttpClient Allow Hostname Add Expression:<HTTP(S) サーバーのホスト名または IP アドレスに一致する正規表現>`
- `xCommand HttpClient Allow Hostname Clear`
- `xCommand HttpClient Allow Hostname List`
- `xCommand HttpClient Allow Hostname Remove Id:<リスト内のエントリーの ID>`

リストが空でない場合、HTTP(S) リクエストをリスト内のサーバーにだけ送信できます。リストが空の場合、リクエストを任意の HTTP(S) サーバーに送信できます。

許可されているサーバーのリストに対するチェックは、非セキュア (HTTP) およびセキュア (HTTPS) なデータ転送の両方で実行されます。

証明書の検証なしの HTTPS の使用

HTTPS 経由で要求を送信する場合、ビデオ会議デバイスはデフォルトで HTTPS サーバーの証明書を確認します。HTTPS サーバー証明書が有効でない場合、エラーメッセージが表示されます。デバイスはそのサーバーにデータを送信しません。

証明書が検証される HTTPs の使用を推奨します。証明書の検証が不可能な場合、システム管理者は `[HTTP クライアント (HttpClient)] > [セキュアでない HTTPS を許可 (AllowInsecureHTTPS)]` を [オン (On)] に設定できます。これにより、サーバーの証明書を検証せずに HTTPS を使用することができます。

HTTP(S) 要求の送信

HTTP(S) 要求機能が有効になったら、次のコマンドを使用して要求を HTTP(S) サーバーに送信できます。

```
xCommand HttpClient <メソッド>
[AllowInsecureHTTPS: <True/False &gt;]
[Header: <ヘッダー テキスト>]
[ResponseSizeLimit: <最大応答サイズ>]
[ResponseBody: < None/PlainText/Base64 >]
[Timeout: <タイムアウト時間>]
Url: <要求の送信先 URL&gt;

<メソッド> は、Post、Put、Patch、Get、Delete のいずれかです。
```

Post、Put、および Patch コマンドは複数行コマンドです。複数行コマンドの使用方法和、コマンド パラメータの詳細な説明については、API ガイドをお読みください。

解説場所

HTTP(S) Post リクエストについての詳細情報は [カスタマイズガイド](#)にあります。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

Web ビュー ベースの機能

デジタル サイネージ

デジタル サイネージを使用すると、デバイスがハーフウェイク状態のときにカスタム コンテンツ (Web ページ) を表示できます。デジタル サイネージは、広告コンテンツを表示してブランドを宣伝するだけでなく、訪問者や社内の従業員情報、ダッシュボード、またはカレンダーを表示するのに最適な方法です。

カスタムコンテンツは、ハーフウェイク状態の従来の背景画像と情報を置き換え、常にフルスクリーンで表示されます。Web ウィンドウまたはタブ 1 つのみがサポートされます。Web ページが新しいウィンドウまたはタブでページを開こうとすると、現在のページは置き換えられます。

キャッシュ、Cookie、ローカル ストレージなどのデータは、デバイスの再起動時に自動的に消去されることはありません。データを削除するには、ストレージ削コマンドを使用する必要があります。

- xCommand WebEngine DeleteStorage [Type: WebApps]

Web ページがサポートされていない場合、デバイスはすぐに通常のハーフウェイク モードになります。

インタラクティブ モード

適用対象: Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro

ユーザーは、リンクのクリックやフォームへのテキスト入力など、画面上のコンテンツの操作を行うことができます。

デジタル サイネージのセットアップ

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[設定 \(Settings\)\]](#)に移動し、[\[構成 \(Configurations\)\]](#) を選択します。
2. [\[Webエンジン \(WebEngine\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) を [オン (On)] に設定して、Web エンジンを有効にします。
3. [\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#) を [オン (On)] に設定して、デジタル サイネージを有効にします。
4. [\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[URL \(Url\)\]](#) に、表示する Web ページの URL を入力します。
5. Web ページは、デバイスがスタンバイ モードになる前に表示されます。Web ページの表示時間を決定するには、次の設定を使用します。

[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[モード \(Mode\)\]](#): Off に設定すると、デバイスはスタンバイ モードになりません (非推奨)。On に設定すると、[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[遅延 \(Delay\)\]](#) がタイムアウトしたときにデバイスがスタンバイ モードになります。

[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[遅延 \(Delay\)\]](#): デバイスがスタンバイ モードになるまでに Web ページを表示する時間 (分単位) を定義します。

[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[モーション検知復帰 \(WakeUpOnMotionDetection\)\]](#): On に設定すると、人が室内に入ったときにデバイスが自動的にスタンバイから復帰して Web ページを表示します。Off に設定すると、人が室内に入ってもデバイスは影響を受けません。

その他のデジタル サイネージ設定:

- 音声が含まれる Web ページで音声を再生するかどうかを決定します。
[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[音声 \(Audio\)\]](#)
- サポートされている場合は、Web ページとの対話を許可するかどうかを決定します。
[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[対話モード \(InteractionMode\)\]](#)
- Web ページを一定の間隔で強制的に更新する。これは、Web ページが自動更新されない場合に便利です。
[\[スタンバイ \(Standby\)\]](#) > [\[サイネージ \(Signage\)\]](#) > [\[更新間隔 \(RefreshInterval\)\]](#)

Web エンジン

Web ビュー ベースの機能はすべて、Web エンジンを使用しています。このため、Web ビューベースの機能を使用するには、Web エンジンが有効になっている必要があります。

Web エンジンは、V8 JavaScript を使用した Chromium/Qt WebEngine に基づいています。Chromium バージョンは定期的に更新されますが、Chrome ラップトップ バージョンよりも古いバージョンである可能性があります。

次の機能はサポートされていません。PDF、WebGL WebRTC、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知。

リモート デバッグ

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることができます。

[\[Webエンジン \(WebEngine\)\]](#) > [\[リモート デバッグ \(RemoteDebugging\)\]](#)

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニターされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

Web ビューベースの機能で HTTP プロキシを使用するようにデバイスを設定できます。

[\[ネットワークサービス \(NetworkServices\)\]](#) > [\[HTTP\]](#) > [\[プロキシ \(Proxy\)\]](#)

さらに、次の設定をオンにする必要があります。

[\[Webエンジン \(WebEngine\)\]](#) > [\[Httpプロキシの使用 \(UseHttpProxy\)\]](#)

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

D15503.02

RoomOS

11.5

07-2023



Web ビュー ベースの機能

Web アプリ

Web アプリは、ユーザーがデバイスのホーム画面からアクセスできる Web ページまたはアプリケーションです。Web アプリは通話中でない場合にのみ使用できます。

Web アプリはフルスクリーンで起動し、15 分間使用されないとタイムアウトします。Web アプリは対話型にすることもできます。

キャッシュ、Cookie、ローカルストレージなどのデータは、セッションが終了すると自動的に消去されます。

Web アプリを作成するには、デバイスの Web インターフェイスから利用できる **UI 拡張エディタ**を使用する必要があります。エディタでは、ホーム画面で使用されるラベルとアイコンも設定できます。デフォルトでは Web ページのアイコンが使用されますが、代わりに別のアイコンを選択することもできます。

アイコンの詳細：

- 形式：.ico、.png、.jpg、svg、または .gif
- アイコンサイズ：最小 60 × 60 ピクセル、最大 1200 × 1200 ピクセル

代表的なアプリとして、Office 365、Trello、Wikipedia、YouTube のほか、社内の Web ページやツールがあります。

解説場所

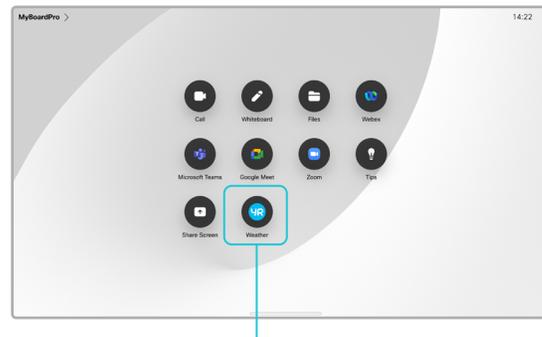
Web アプリの作成方法の詳細については、カスタマイズガイドを参照してください。次のリンクからアクセスできます。

▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

Web アプリの作成

- デバイスの Web インターフェイスにサインインして、**[設定 (Settings)]**に移動し、**[構成 (Configurations)]**を選択します。
- [Webエンジン (WebEngine)] > [モード (Mode)]**を [オン (On)] に設定して、Web エンジンを有効にします。
- [UI 拡張エディタ (UI Extensions Editor)]**に移動します。デバイスの Web インターフェイスで直接エディタが開きます。
- [新規 (New)]**をクリックし、Web アプリの **[追加 (Add)]** ボタンを選択します。
- 右側のバーに Web アプリのプロパティを入力します。
 - Id: アプリの一意識別子。
 - Name: ボタンのラベル。
 - Web アプリの URL: Web アプリの URL。
 - Web アプリアイコンの URL (オプション): ボタンのアイコンです。
 - Web アプリの場所: ホーム画面、通話制御、その両方または別の場所。
- 上部のバーにあるエクスポートボタン  をクリックして、設定をデバイスにアップロードします。

これで、新しい Web アプリのボタンがホーム画面に表示されます。



ホーム画面に表示されるラベルとアイコン付きの Web アプリボタン

* UI 拡張エディタおよびプログラミングに必要な API コマンドにアクセスするには、ROOMCONTROL、INTEGRATOR、または ADMIN ユーザーロールを持つユーザーが必要です。

Web エンジン

Web ビュー ベースの機能はすべて、Web エンジンを使用しています。このため、Web ビューベースの機能を使用するには、Web エンジンが有効になっている必要があります。

Web エンジンは、V8 JavaScript を使用した Chromium/Qt WebEngine に基づいています。Chromium バージョンは定期的に更新されますが、Chrome ラップトップ バージョンよりも古いバージョンである可能性があります。

次の機能はサポートされていません。PDF、WebGL WebRTC、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知。

リモート デバッグ

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることができます。

[Webエンジン (WebEngine)] > [リモート デバッグ (RemoteDebugging)]

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニターされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

Web ビューベースの機能で HTTP プロキシを使用するようにデバイスを設定できます。

[ネットワークサービス (NetworkServices)] > [HTTP] > [プロキシ (Proxy)]

さらに、次の設定をオンにする必要があります。

[Webエンジン (WebEngine)] > [Httpプロキシの使用 (UseHttpProxy)]

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk, Desk Pro, Desk Mini

Room Bar Pro, Room Bar

Room Kit

Room Kit Mini

Room 55

Room 55 Dual, Room 70

Room 70 G2

Room 70 Panorama

Room Panorama

D15503.02

RoomOS 11.5

07-2023

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Web ビュー ベースの機能

API 駆動型の Web ビュー

Web ビューは、API コマンドを使用して開いたり閉じたりすることができます。インテグレータは、サードパーティ統合またはマクロを作成するときに、これらのコマンドを使用できます。インテグレータは、外部イベントに基づいて読み込む URL を決定します。たとえば、企業の重要な通知を表示できます。

Web ビューは全画面表示になっており、15 分後にタイムアウトになるか、または API コマンドをコールしてビューを閉じます。

Web ビューを開く：

- `xCommand UserInterface WebView Display Url: <url>`

Web ビューを閉じる：

- `xCommand UserInterface WebView Clear`

キャッシュ、Cookie、ローカル ストレージなどのデータは、セッションが終了すると自動的に消去されます。

インテグレータは、API 駆動型 Web ビュー、マクロ、およびタッチコントローラのカスタムボタンを組み合わせることで、タッチスクリーンのないデバイス向けにも対話型のソリューションを作成できます。タッチコントローラのボタンをタップすると、メイン画面にさまざまな Web ビューが表示されます。たとえば、基本的なヘルプ ページを開いて参照したり、説明ビデオを表示したりできます。

Web エンジン

Web ビュー ベースの機能はすべて、Web エンジンを使用しています。このため、Web ビュー ベースの機能を使用するには、Web エンジンが有効になっている必要があります。

Web エンジンは、V8 JavaScript を使用した Chromium/Qt WebEngine に基づいています。Chromium バージョンは定期的に更新されますが、Chrome ラップトップ バージョンよりも古いバージョンである可能性があります。

次の機能はサポートされています。PDF、WebGL WebRTC、パスワード マネージャー、プラグイン、ファイルのダウンロードとアップロード、通知。

リモート デバッグ

Web ページに問題が発生した場合は、リモート デバッグをオンにすることができます。

```
[Webエンジン (WebEngine)] > [リモート  
デバッグ (RemoteDebugging)]
```

リモート デバッグを使用すると、Chrome 開発者コンソールにアクセスして、Web ページの潜在的な問題を識別することができます。有効にすると、画面の下部にバナーが表示され、モニターされる可能性があることをユーザーに警告します。ヘッダには、開発者コンソールを開くためにローカルの Chrome ブラウザに入力可能な URL も表示されます。

プロキシの使用

Web ビューベースの機能で HTTP プロキシを使用するようにデバイスを設定できます。

```
[ネットワークサービス  
(NetworkServices)] > [HTTP] >  
[プロキシ (Proxy)]
```

さらに、次の設定をオンにする必要があります。

```
[Webエンジン (WebEngine)] > [Httpプ  
ロキシの使用 (UseHttpProxy)]
```

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの構成 (1/2 ページ)

デバイスの API を使用して、単一のメインのビデオ ストリームに最大 4 つの入力ソースを結合できます。

組み合わせることのできる入力ソースの最大数はデバイスによって異なります。

TV会議本体	組み合わせることができる異なる入力ソースの最大数
Desk Mini, Room Kit, Room Kit Mini	2
Codec Plus, Room Bar, Room Bar Pro, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Desk, Desk Pro, Board Pro	3
Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room Panorama*, Room 70 Panorama*	4

ソース構成

構成レイアウト

3 つのレイアウトから選択できます。

- ・ グリッド
- ・ スタック
- ・ PIP (2 つの入力ソースを構成するときのみ使用可能)

PIP 位置をコーナーの一つに変更できます。PIP のサイズは通常でも大型でも可能です。

構成とレイアウトは、コールとコール外の両方でいつでも変更できます。

セルフビュー

セルフビューは、遠端に送信されるのと同じ構成イメージを示します。

個別カメラ制御

API コマンド (xCommand Camera *) を使用して、個々のカメラを制御することができますが、ユーザーインターフェイス上の制御は使用できません。

ユーザーインターフェイスでカメラを選択すると、メインのビデオ ストリームが構成されたビデオ ストリームから、選択されたカメラからの単一のストリームに切り替えられます。

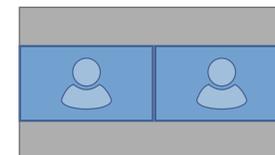
オン デマンドによる構成およびレイアウトの変更

入力ソース構成は API コマンドを使用するのみ利用可能です。専用のユーザーインターフェイスは提供されません。

構成とレイアウトをオン デマンドで簡単に変更できるようにするには、マクロを使用してカスタムのユーザーインターフェイス パネル (UI 拡張機能) を作成することを推奨します。

レイアウト

グリッド



ソースの数: 2

スタック

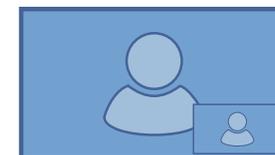


ソースの数: 2

ピクチャインピクチャ (PIP)



右下隅



右下隅、大型 PIP

* Room 70 Panorama および Room Panorama :これらのデバイスでは、メイン カメラの 2 つの入力ソースを使用します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

入力ソースの構成 (2/2 ページ)

API コマンド

```
xCommand Video Input SetMainVideoSource
ConnectorId: <1..n> SourceId: <1..m>
Layout: <Equal, PIP, Prominent>
PIPPosition <LowerLeft, LowerRight,
UpperLeft, UpperRight> PIPSize <Auto,
Large>
```

値は次のとおりです。

入力ソースは、(ConnectorId) に接続されている物理コネクタか、論理ソース識別子 (SourceId) のいずれかによって識別できます。同じコマンド内で異なる識別子を混合することはできません。ConnectorId または SourceId のいずれかを使用してください。これらの識別子は、[ビデオ入力コネクタ (Video Input Connector)] および [ビデオ入力ソース (Video Input Source)] のステータスで見つけることができます。

例では、グリッド (Layout: Equal)、PIP (Layout: PIP)、スタック (Layout: Prominent) のレイアウトの違いがわかります。

PIP 位置をコーナーの一つに変更できます。PIP のサイズは通常 (自動) でも大型でも可能です。

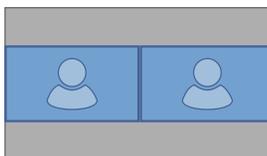
詳細については、API ガイドを参照してください。

例

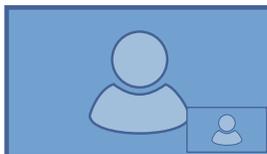
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 ConnectorId: 3 ConnectorId: 4 Layout: Equal
```



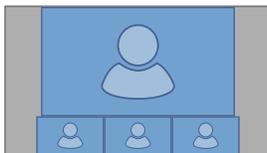
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 Layout: Equal
```



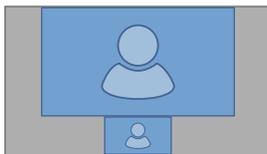
```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 Layout: PIP PIPPosition: LowerRight PIPSize: Large
```



```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 SourceId: 3 SourceId: 4 Layout: Prominent
```



```
xCommand Video Input SetMainVideoSource SourceId: 1 SourceId: 2 Layout: Prominent
```



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

プレゼンテーションソースの構成 (1/2 ページ)

デバイスの API を使用して、単一のビデオ ストリームに最大 4 つのプレゼンテーション ソースを結合できます。*

組み合わせることのできるプレゼンテーション ソースの最大数はデバイスによって異なります。

TV会議本体	プレゼンテーションソースの最大組み合わせ可能数
Desk Mini, Room Kit, Room Kit Mini, Board	2
Codec Plus, Room Bar, Room Bar Pro, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Desk, Desk Pro, Board Pro	3
Codec EQ, Codec Pro, Room 70 G2, Room Panorama*, Room 70 Panorama*	4

ケーブル (デバイスに応じて HDMI または USB-C など) 経由で共有されているソースのみを共有できます。

ソース構成

構成レイアウト

2 つのレイアウトから選択できます。

- ・ グリッド
- ・ スタック

ソースの数は、コール時と非コール時どちらであっても、いつでも変更できます。画像サイズは修正できません。

ソースが画面に表示される順序は、コマンド内の順番に従います。表示は左上から始まり、右下が最後になります。

オン デマンドによる構成およびレイアウトの変更

プレゼンテーションソース構成は API コマンドを使用してのみ利用可能です。専用のユーザーインターフェイスは提供されません。

構成とレイアウトをオン デマンドで簡単に変更できるようにするには、マクロを使用してカスタムのユーザーインターフェイス パネル (UI 拡張機能) を作成することを推奨します。

レイアウト

グリッド



ソースの数: 2

スタック



ソースの数: 2

* Room 70 Panorama および Room Panorama: これらのデバイスでは、メイン カメラの 2 つの入力ソースを使用します。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

プレゼンテーションソースの構成 (2/2 ページ)

API コマンド

```
xCommand Presentation Start
ConnectorId: <1 ~ n>
PresentationSource: <None, 1 ~ n>
Instance: <New, 1 ~ n>
Layout: <Equal, Prominent>
SendingMode: < LocalRemote, LocalOnly >
```

値は次のとおりです。

入力ソースは、接続されている物理コネクタ (ConnectorId)、または論理ソース識別子 (PresentationSource) のどちらかによって識別可能です。同じコマンド内で異なる識別子を使うことはできません。ConnectorId または PresentationSource のうち片方のみを使用してください。

これらの識別子は、[ビデオ入力コネクタ (Video Input Connector)] および [ビデオ入力ソース (Video Input Source)] のステータスで見つけることができます。

PresentationSource: None を選択すると、空のフレームが挿入されます。*

例では、グリッド (Layout: Equal) レイアウトとスタック (Layout: Prominent) レイアウトの違いがわかります。

詳細については、API ガイドを参照してください。

例

```
xCommand Presentation Start PresentationSource: 1 PresentationSource: 2 Layout: Equal
```



```
xCommand Presentation Start ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 Layout: Prominent
```



```
xCommand Presentation Start ConnectorId: 1 ConnectorId: 2 ConnectorId: 3 Layout: Equal
```



```
xCommand Presentation Start PresentationSource: 1 PresentationSource: 2 PresentationSource: 3 Layout: Prominent
```



* Board: [なし (None)] は使用できません。

Board

デバイスの XML ファイルへのアクセス

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[デベロッパー API \(Developer API\)\]](#)に移動します。

XML ファイルはデバイスの API の一部です。デバイスに関する情報が階層で構成されています。

- *Configuration.xml*には現在のデバイス設定 (構成) が含まれます。これらの設定は、デバイスの Web インターフェイスまたは API (アプリケーション プログラミング インターフェイス) から制御されます。
- *status.xml* 内の情報は、デバイスによって常に更新され、システムおよびプロセスの変更が反映されます。ステータス情報は、デバイスの Web インターフェイスまたは API からモニタリングします。
- *Command.xml* には、デバイスにアクションの実行を指示するために使用できるコマンドの概要が含まれています。コマンドは、API から発行されます。
- *Valuespace.xml* には、デバイス設定、ステータス情報、およびコマンドのすべての値スペースの概要が含まれています。

XML ファイルを開く

XML ファイルを開くにはファイル名をクリックします。

API について

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、デバイスを使用する統合技術者や開発者を対象としたツールです。API に関する詳細は、デバイスの API ガイドで説明されています。

また、インテグレータおよびデベロッパー向けの次の情報も参照してください。

▶ <https://roomos.cisco.com>

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

デバイスの Web インターフェイスからの API コマンドと設定の実行

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[デベロッパー API \(Developer API\)\]](#)に移動します。

コマンド (xCommand) および設定 (xConfiguration) は、デバイスの Web インターフェイスから実行できます。構文とセマンティックの説明については、デバイスの API ガイドをご覧ください。

API コマンドとコンフィギュレーションの実行

1. テキスト領域に、コマンド (xCommand または xConfiguration) またはコマンド シーケンスを入力します。
2. [\[実行 \(Execute\)\]](#) をクリックしてコマンドを発行します。

Execute Commands and Configurations

In the field below you can enter API commands (xCommand and xConfiguration) directly.

Example command:

xCommand Dial Number: "person@example.com" Protocol: Sip

Execute

API について

アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) は、デバイスを使用する統合技術者や開発者を対象としたツールです。API に関する詳細は、デバイスの API ガイドで説明されています。

また、インテグレータおよびデベロッパー向けの次の情報も参照してください。

▶ <https://roomos.cisco.com>

オーディオの高度なカスタマイズ (1/5 ページ)

オーディオコンソールの概要

オーディオコンソール アプリケーションは、高度にカスタマイズ可能なオーディオ機能へのグラフィカル インターフェイスを提供します。これは、簡単なドラッグ アンド ドロップを使用して、オーディオの入力と出力をどのように接続するかを定義できます。

オーディオ コンソールの主な機能は次のとおりです。

- ・ コーデックの音声システムを設定
- ・ デフォルトのミキシング、ルーティング、イコライザを変更する。
- ・ さまざまな入出力コネクタのプロパティを設定する。
- ・ ローカル補強などの高度な機能を設定する。

これらの製品はオーディオコンソールをサポートしています。

- ・ Codec Pro/Room Kit Pro
- ・ Room 70 G2
- ・ Room 70 Panorama および Room Panorama
- ・ AVIntegrator オプション付きの Codec EQ。オプションキーのインストール方法については、▶「[オプションキーの追加](#)」の章を参照してください。

オーディオコンソールを開く

デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[オーディオコンソール \(Audio Console\)\]](#)に移動します。

これにより、オーディオコンソール アプリケーションが開きます。これはデバイスの Web インターフェイスに埋め込まれています。

オーディオコンソールの使用

論理入力グループと論理出力グループを定義することから始めます。これらには、ユーザが定義した名前を付けることができます。次に、物理入力 (場合によっては論理入力) と出力を論理入力と出力グループに割り当てます。

新しい論理グループは、いつでも追加または削除できます。

設定に適用された変更は直ちに保存され、有効になります。

物理出力は、1 つ以上の論理出力グループに割り当てできません。ただし、マイクなどの物理入力を複数の入力に割り当てることができます。たとえば、講堂でビデオデバイスを使用する際、マイクを通して発言している内容を現地の聴衆も聞く必要がある場合など、現地での音響補正や追加のスピーカを使用する際に便利な機能です。

オーディオコンソールを介して、相手側に送信されるマイク信号の一部にエコー制御を設定できます。同時に、ローカルで使用される部分のエコー制御については省略しています。これは、*Direct: On* を使用して、そのマイクを複数の論理グループに割り当てる方法で行われます。

マイク信号にノイズ リダクションとイコライザの設定を適用することもできます。

マイク入力のラインレベル

Codec EQ または Codec Pro ベースのデバイスには専用のライン入力はありませんが、ラインレベルにマイク入力を使用できます。実行するアクションは、デバイスのタイプによって異なります。

Codec Pro ベースのデバイス:

ファントム電源 ([\[オーディオ \(Audio\)\]>\[入力 \(Input\)\]>\[マイク \[n\] \(Microphone \[n\]\)>\[ファントム電源 \(PhantomPower\)\]](#)) を無効にして、入力ゲイン ([\[オーディオ \(Audio\)\]>\[入力 \(Input\)\]>\[マイク \[n\] \(Microphone \[n\]\)>\[レベル \(Level\)\]](#)) を下げます。最小ゲインに設定した場合の最大入力レベルは +24 dBu です。

ラインレベルに設定されている入力を通常のミュートボタンでミュートおよびミュート解除しない場合は、[\[オーディオ \(Audio\)\]>\[入力 \(Input\)\]>\[マイク \[n\] \(Microphone \[n\]\)>\[ミュート無効 \(MuteOverride\)\]](#) を [\[オン \(On\)\]](#) に設定します。

Codec EQ:

最小ゲインに設定された場合の最大入力レベルは -18 dBu です。ソースの最大レベルが高い場合、入力信号のクリッピングを避けるために外部減衰が必要です。

通常のミュートボタンは、他のマイク入力と同様にラインレベルに設定された入力をミュートおよびミュート解除します。

デバイスのローカル Web ブラウザからのオーディオ

WebRTC コールまたは他の WebEngine 関連のソースからオーディオを受信するには、オーディオコンソールに、スピーカとともに出力グループにルーティングされる WebView 1 コネクタを含む入力グループが必要です。

最初にオーディオコンソールを設定したときに WebEngine モードが有効になっている場合、この入力グループはすでに配置されています。ただし、最初の設定後に WebEngine モードが有効にした場合は、グループを手動で作成する必要があります。

ローカルの音声を強化

このようなソリューションの包括的な説明とベストプラクティスについては、「[補助スピーカと音響補正の使用 \(Using Extra Loudspeakers and Sound Reinforcement\)](#)」のガイドを参照してください。

URL : ▶ <https://www.cisco.com/go/in-room-control-docs>

* Room 70 G2、Room 70 Panorama、Room Panorama は Codec Pro をベースにしています。

- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

オーディオの高度なカスタマイズ (2/5 ページ)

オーディオリターンチャンネル (ARC)

HDMI は、オーディオをどちらの方向にも送信できる能力があります。音声が進方向に送信される場合をオーディオ リターンチャンネル (ARC) と言います。

図示のような設定を考えてみます。HDMI 経由で接続された Quad Camera、画面、Codec Pro が示されています。この設定では、Quad Camera がカメラとサウンドバーの両方として機能します。Codec Pro は一例であり、オーディオコンソールをサポートする製品に置き換えることができます。

Quad Camera のスピーカーの使用

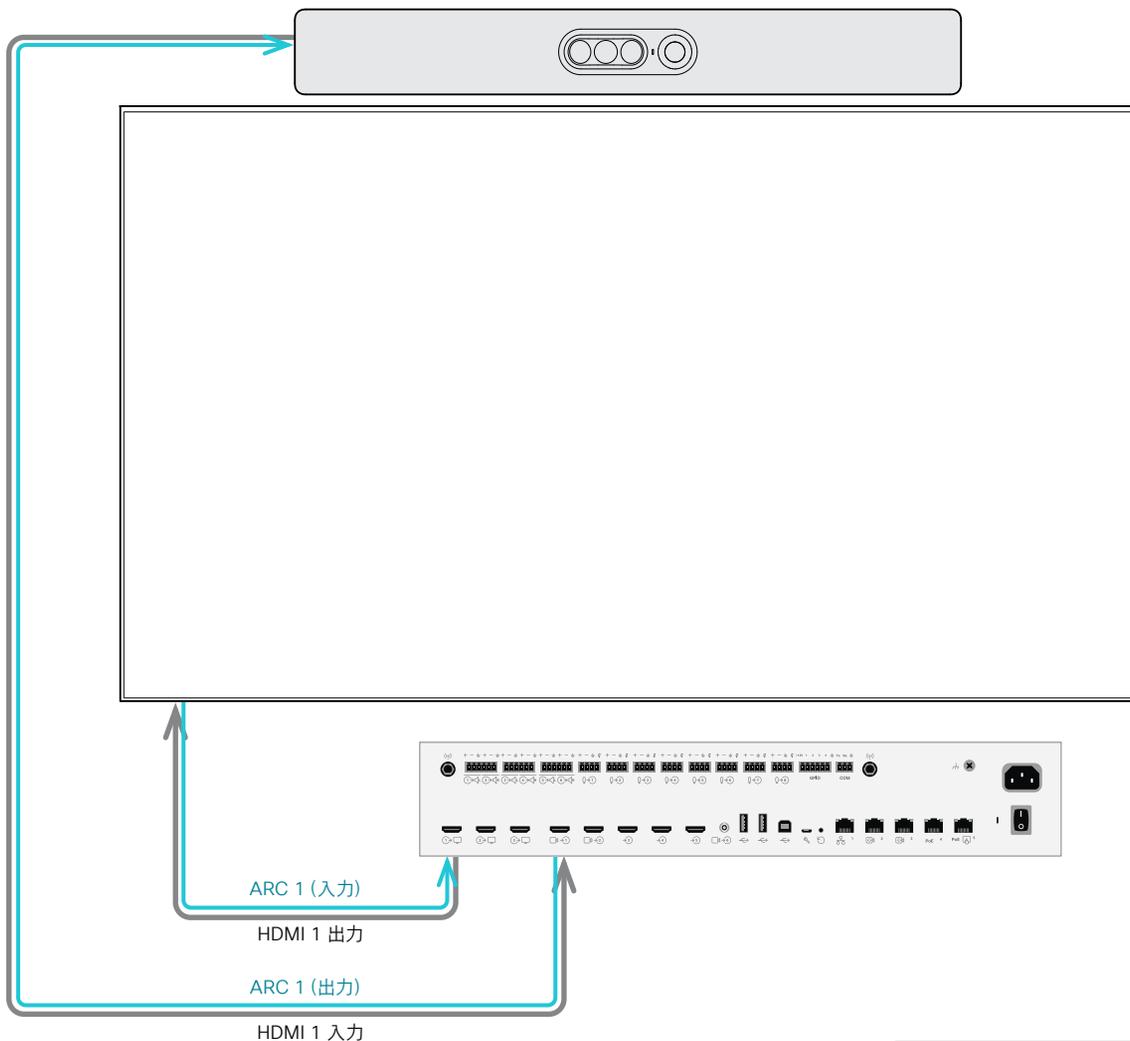
通常、HDMI 1 入力はカメラからコーデックにビデオを供給するために使用され、同じ HDMI 入力のオーディオリターンチャンネルは、コーデックからカメラのスピーカーにオーディオをルーティングするために使用されます。

Quad Camera を TV のサウンドバーとして使用する

Codec Pro, Room 70G2, Room 70 Panorama, Room Panorama

設定を単なるサウンドバー付きの TV として使用する場合は、システムは画面からのオーディオをコーデックの HDMI 1 出力の ARC 経由でコーデックに送信し、コーデックはそのオーディオをさらにコーデックの HDMI 1 入力の ARC 経由で Quad Camera に送信します。

これを可能にするには、画面を CEC+ARC 対応にする必要があります。設定で 4K ビデオを使用する場合は、画面が 4K 形式の CEC+ARC をサポートしている必要があります。



オーディオの高度なカスタマイズ (3/5 ページ)

オーディオコンソールパネル

オーディオコンソールは、デバイスの Web インターフェイスの **[カスタマイズ (Customization)]** で確認できます。

接続の削除、またはゲインの調整を行うには、ケーブルのイラストの上で右クリックします。

デフォルトにリセットすると、検出された接続デバイスに基づいて一定の接続が作成されます。

コネクタ (物理または論理) のプールが使用可能です。

入力コネクタは、論理入力グループに割り当てられます。これらの論理入力グループはユーザが作成します。

論理グループの名前は、**[新規入力グループ]** をクリックして指定します。

特定の入力コネクタを複数の論理グループに割り当てることもできます。ドラッグ アンド ドロップを使用します。

グループまたはグループのメンバーを削除するには、グループまたはメンバーにマウスをホバーします。X が表示されます。これをクリックすると、そのアイテムが削除されます。

ローカル補正に使用する場合は、個々のメンバーではなく論理グループを拡張します。

ローカル補正のシナリオでは、マイクを **[Direct (ダイレクト)]** に設定して、エコー制御などの余分な処理をバイパスします。

これにより、遅延が最小限に抑えることができ、メイン音量コントロールがローカルプレゼンタの音量に影響を与えることを回避するためにも機能します。

The screenshot shows the 'Audio Console' interface. On the left, there are 'Input connectors' (HDMI 1-3, Line 1-4, Microphone 1-8) and 'Input groups' (Microphone 1-8, HDMI input 1-3, Local reinforcement). On the right, there are 'Output groups' (Loudspeaker, Recorder, Local reinforcement) and 'Output connectors' (None available). A 'Local reinforcement' settings panel is open, showing 'Mode' set to 'On', 'Level' at -4 dB, 'Channel' set to 'Left', 'Delay' at 32 ms, and 'Delay Mode' set to 'Fixed'. A 'Delete Gain' dialog box is also visible, showing a gain of 0 dB and a 'Delete' button. A yellow callout box points to a connection between 'Microphone 1' and 'Local reinforcement', stating: '入力グループと出力グループの間をクリックしてドラッグすると、両者の接続が確立されます。' (Clicking and dragging between the input and output groups establishes the connection.)

コネクタをクリックしてグループにドラッグします。

入力グループと出力グループの間をクリックしてドラッグすると、両者の接続が確立されます。

これは、物理出力コネクタのプールです。使用されていないものは、非アクティブと見なされます。

論理出力グループの処理は論理入力グループと同様ですが、物理出力を複数の論理出力グループに割り当てることはできません。

外部画面によって発生する可能性のある遅延を回避するように **遅延モード** を固定することを推奨します。

オーディオの高度なカスタマイズ (4/5 ページ)

アナログマイクの設定

ミュート: 論理グループ全体をミュートします。

AGC: 論理グループ全体に適用されるオートゲインコントロール (AGC) を有効化または無効化します。

チャンネル: チャンネルには、1 (モノラル) または 2 (ステレオ) を使用できます。

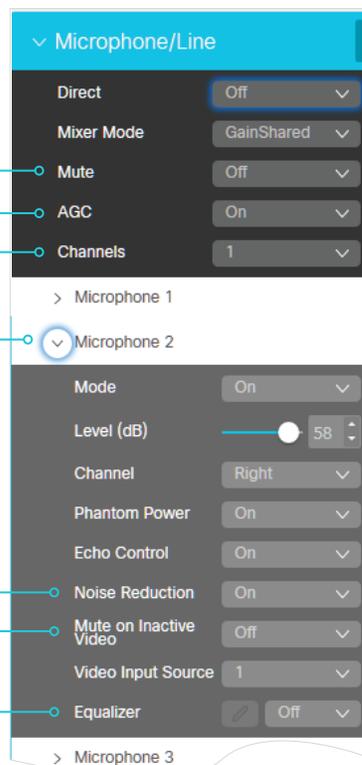
論理グループを展開して、グループレベルの設定にアクセスすることができます。

ノイズリダクション: これを[オン (On)]に設定すると、室内に存在する連続雑音 (ファンの雑音など) が減少します。Impulsive ノイズは減少しません。

非アクティブなビデオのミュート: プレゼンターのマイクなど、シナリオではこの機能を使用します。このようにカメラ/マイクの組み合わせが設定されている場合、このマイクは、関連付けられたカメラ (プレゼンタを撮影しているもの) がビデオを実際に送信しない限り、ミュートされます。

イコライザ: イコライザでは、定義済みのイコライザ設定を最大 8 つ (またはなし、[オフ (Off)] を示す) の中から選択できます。

イコライザを設定するためのグラフィカルツールについては、▶ [イコライザの設定](#) セクションにある説明を参照してください。



ローカル補正のシナリオでは、**エコー制御**などの余分な処理がバイパスされるように、[マイク (Microphone(s))] を [ダイレクト (Direct)] から オンに設定されていることを確認してください。これにより、遅延が最小化され、マスター音量コントロールがローカルプレゼンターの音量にも影響を与えることを回避するのに機能します。その他の使用例では、そのままにしておきます。

ミキサーモードは、GainSharedまたはFixedにすることができます。GainShared が選択されている場合、マイクの信号の合計レベルが特定の値を超えることはありません (ただし、個々のオフセットは保持されます)。固定モードでは、レベルの合計がまとめられます。

モード: マイクは[オン (On)]または[オフ (Off)]に設定できます。

レベル (dB) /ゲイン (dB): 接続したオーディオ送信元の出力レベルに合わせて、ゲインを調整します。*

チャンネルが 2 (グループレベル) に設定されている場合は、下位レベルでチャンネル設定を使用して、この特定のマイクが左チャンネルのマイクグループに属するか、または右チャンネルのマイクグループに属するかを指定できます。

論理グループ全体がグループレベルでダイレクトに設定されている場合、**エコー制御**はN/Aに設定されます。

ファントム電源: この設定では、マイクケーブルから電源を送信します。これは、回線レベルの信号を提供するプリアンプでマイクを使用している場合にオフにできます。

回線入力としてマイク入力を使用する場合は、ゲイン (通常は 40 dB 以上) を下げてください。

* 入力コネクタのゲインです。デバイスに応じて、このフィールドは次のように呼ばれます。
レベル (dB) (Codec Pro, Room 70G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)
ゲイン (dB) (Codec EQ)

オーディオの高度なカスタマイズ (5/5 ページ)

イコライザの設定

これには、ユーザー定義可能なパラメータ化されたイコライザのプリセットが 8 種類使用できます。

プリセットは、1つのフィルタタイプ、ゲイン、中央、クロスオーバー周波数、Q 値を持つ最大 6 つのセクションで構成されています。

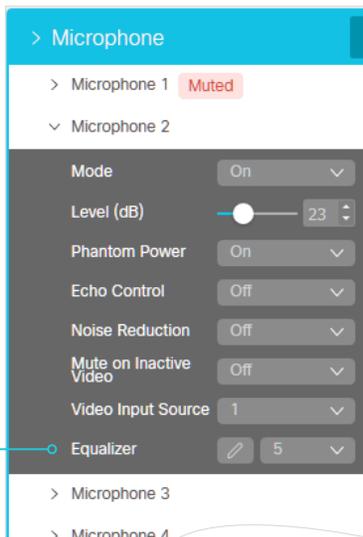
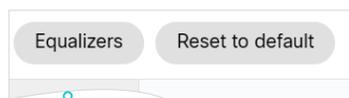
各セクションには独自の色が表示されます。白色の線は、イコライザの結合された周波数応答を示しています。

任意のパラメータを変更した場合、Enter キーを押すか別のフィールドを選択するとグラフに表示されます。

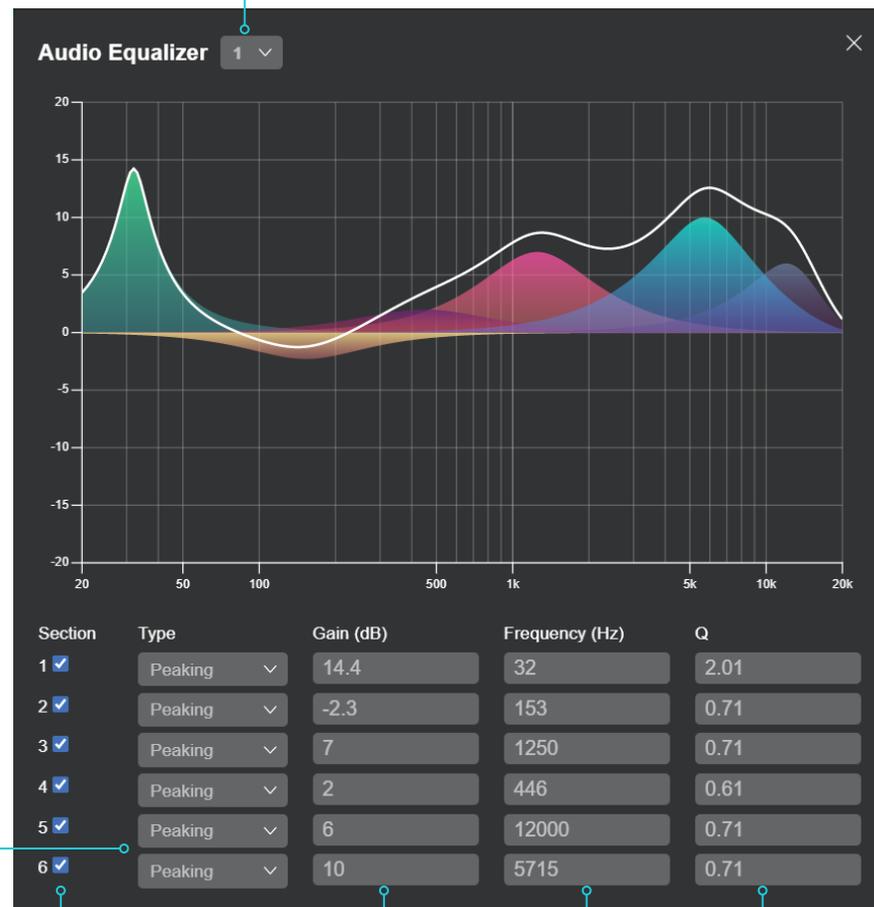
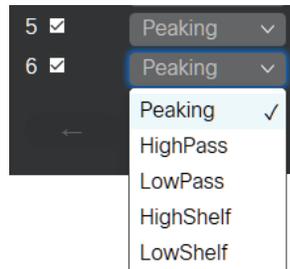
設定は自動的に保存されます。

次のプリセットに移動します (該当する場合)。

トッパーまたは入力グループからイコライザにアクセスします。



使用可能なフィルタタイプ



フィルタセクションをアクティブまたは非アクティブにするには、対応するチェックボックスをクリックします。

ゲインの値スペースは 0 dB ± 20 dB です

周波数の値スペースは 20 ~ 20,000 Hz です。

Q 値の値スペースは 0.1 ~ 10.0 です。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

イーサネットポートについて

メインネットワークポート

メイン ネットワーク ポート - ネットワーク ポート 1 - は常に LAN 接続用に予約されています。これは、すべてのビデオ会議デバイスに適用されます。

ネットワーク ポート 1 は、デバイスに応じて、番号 1、ネットワーク記号 (Ⓜ)、またはその両方でマークされます。

補助ポート

多くのビデオ会議デバイスには、ネットワーク ポートが複数あります。追加のポートは、カメラ、タッチコントローラ、サードパーティー製制御システムなどの周辺機器に使用できます。

ネットワークポートの一つに接続された周辺機器は、ビデオ会議デバイスの内部ネットワークのローカル IP アドレスを取得します。パケットは、メインネットワークポート (LAN) とその他のネットワークポートの間のデバイスの移動はできません。

注: 内部ネットワークで許可される IP アドレス範囲は、シスコとサードパーティー (シスコ以外) の周辺機器では異なります。

許可された IP アドレス

Cisco 周辺機器	<ul style="list-style-type: none"> 169.254.1.41 ~ 169.254.1.200 (ダイナミック、DHCP)
Cisco 以外の周辺機器	<ul style="list-style-type: none"> 169.254.1.30 (ダイナミック、DHCP) 169.254.1.225 ~ 169.254.1.254 (スタティック)

ローカルネットワークでは、SSH または HTTP (403 ポート) を使用して、169.254.1.1 のビデオ会議デバイスにアクセスします。

Power over Ethernet (PoE)

ネットワークポートには Power over Ethernet (PoE) を提供するものもあります。これらのポートは、タッチコントローラなどの周辺機器に電力を供給できます。

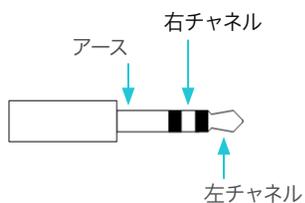
製品	補助ネットワークポートの数	PoE 付きの補助ネットワークポートの数
Room Bar Pro	3	3 (🖱️, PoE)
Room Bar	1 (🖱️)	1 (🖱️)
Room Kit	1	0
Room Kit Mini	1	1 (🖱️)
Room 55	1	1 (🖱️)
Room 70 ¹ / Room 55 Dual ¹	2	1 (🖱️)
Room 70 G2 ¹	4	2 (🖱️, PoE)
Room 70 Panorama ¹ / Room Panorama ¹	4	2 (🖱️, PoE)
コーデック EQ	4	4 (🖱️, PoE)
Codec Plus	2	1 (🖱️)
Codec Pro	4	2 (🖱️, PoE)
Board	0	0
Board Pro	1	1 (🖱️)
Desk	0	0
Desk Mini	0	0
Desk Pro ²	1	0

¹ この製品の 1 つ以上の補助ポートは、内部使用のために予約されています。

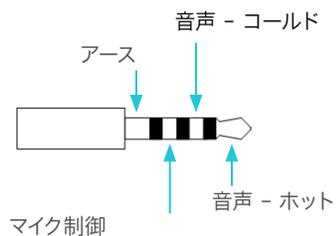
² この製品の補助ポートはネットワーク拡張ポートです。コンピュータやその他のデバイスをこのポートに接続して、ビデオ会議デバイスと同じネットワーク/LAN にアクセスできます。このポートは周辺機器には使用されず、コーデックからローカル IP アドレスが割り当てられることはありません。

ミニ端子コネクタのピン配列方法

3.5 mm ミニ端子、3 極 (ライン出力)



3.5 mm ミニジャック、4 極 (マイク)



オーディオコネクタ (ミニジャック)*

	マイクroフォン	出力回線
コネクタのピン配列	チップ = ホット リング 1 = コールド リング 2 = マイク制御 シールド = GND	チップ = 左チャンネル リング = 右チャンネル シールド = GND
信号タイプ	バランス	アンバランス
コネクタ (コーデック)	3.5 mm ミニジャック、 4 コンダクタ	3.5 mm ミニジャック、 3 コンダクタ
入力インピーダンス	900 Ohm/leg	なし
出力インピーダンス	なし	470 Ohm
最大入力レベル	-18.3 dBu ±2 dB	なし
最大出力レベル	なし	8.2 dBu ±2 dB
ファントム電源	10V ± 0.5V	なし
ファントム電源抵抗のピン「tip」	1.0 kOhm	なし
ファントム電源抵抗のピン「ring 1」	1.0 kOhm	なし
周波数応答	20 Hz ~ 20 kHz ±1 dB	20 Hz ~ 20 kHz ±1 dB
信号対雑音比	-95 dB	-100 dB

* Board および Desk Pro: これらのデバイスにはライン出力専用のミニジャックソケットがあります。Desk および Desk Mini にはミニジャックソケットがありません。Room Bar にはマイク専用のミニジャックソケットがあります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

オーディオ入力と出力 (1/2 ページ)

音声入力

オーディオ入力は、各入力のゲインと出力スイッチのオン/オフを個別に調整できるため、マイクロフォンとライン入力の両方として使用できます。次の設定を使用します。

- **オーディオ > 入力 > マイク [n] > Level:** 接続されている音源に合わせて入力コネクタのゲインを調整します。ゲインは、1 db ずつ調整できます。0 dB のゲインの最大入力レベルは、24 dBu です。
- **オーディオ > 入力 > マイク [n] > PhantomPower:** デフォルトの設定では、入力にファントム電源 (48 V ± 1 V) が発生します。これは、Cisco table や天井マイクなど、一部のマイクに必要です。ファントム電源を必要としない機器 (外部ミキサーなど) に接続する場合は、ファントム電源をオフにできます。



オーディオ入力は、最大 4 つのポートを備えた Euroblock コネクタを使用するように設定されます。



3 つのポートを持つ Euroblock を使用する場合は、可能な限り左端の位置に挿入されていることを確認してください。つまり、ポート 4 (マイクミュート) は使用されません。

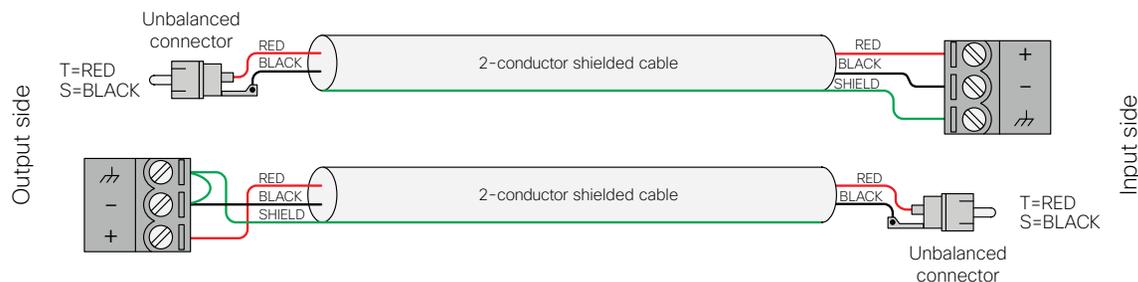
音声出力



オーディオ出力は、3 つのポートを持つ Euroblock コネクタを使用するように設定されます。

不平衡コネクタへの接続

次の図は、不平衡コネクタにビデオ会議デバイスを接続する場合のベストプラクティスを示しています。



オーディオ入力と出力 (2/2 ページ)

オーディオ入力/出力仕様

	マイク/回線入力	回線出力
コネクタ タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ バランス入力 ・ 3.5 mm ピッチフェニックス/Euroblock type オスヘッダー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インピーダンスバランス出力 ・ 3.5 mm ピッチフェニックス/Euroblock type オスヘッダー
ファントム電源	<ul style="list-style-type: none"> ・ 48 V, 6.8 kohm インピーダンス/7 mA 最大電流 (各脚)。 ・ 個別に切り替え可能です。 	なし
入力インピーダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2.5 kohm (区間あたり) 	なし
出力インピーダンス	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 200 ohm (区間あたり)
推奨されるロードインピーダンス	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ > 600 ohm
信号レベル。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 dB 入力ゲイン:24 dBu 最大値。(1 kHz, +/-1 dB) ・ 入力ゲインは、1 dB ステップの 0 dB から + 70 dB へと個別に調整可能です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 dB 出力ゲイン:18 dBu max。(1 kHz, +/-1 dB) ・ 出力ゲインは、1 dB ステップの 0 dB から + 70dB へと個別に調整可能です。
周波数応答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20Hz-20kHz: +0/-1 dB 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20Hz-20kHz: +0/-0.5dB
・ 全高調波歪みと雑音の和 (THD+N) :	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 dB 入力ゲイン、22 dBu シグナルレベル: < 0.005% (20 Hz ~ 20 kHz, 22 khz) ・ 46 dB 入力ゲイン、-24 dBu 信号レベル: < 0.01% (20 Hz ~ 20 kHz, 22 khz) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 dB 出力ゲイン、17 d dBu シグナルレベル: < 0.005% (20 Hz ~ 20 kHz, 22 khz)
対応入力ノイズ (中)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 46 dB 入力ゲイン、Rs = 150 ohm: <-124 dBu (20 Hz-20 kHz A-重み付け) 	なし
ダイナミックレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 dB 入力ゲイン、Rs = 150 ohm: > 107 dB (20 Hz ~ 20 kHz, 22 kHz BW) ・ 46 dB 入力ゲイン、Rs = 150 ohm: > 102 dB (20 Hz ~ 20 kHz, 22 kHz BW) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 dB 出力ゲイン: > 109 dB (20 Hz-20 kHz: 重み付けあり)
クロストーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 dB 入力ゲイン、23 dBu シグナルレベル、10 kHz: < -110 dB ・ 46 dB 入力ゲイン、-23 dBu 信号レベル、10 kHz: < -110 dB 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0 dB 出力ゲイン、17 dBu シグナルレベル 10 kHz: 100 dB

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

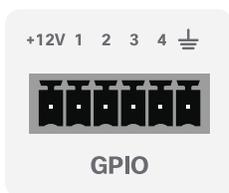
Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

GPIO および 3G-SDI コネクタ

GPIO コネクタ

デバイスには、GND、+12 V、および 4 GPIO ピンを備えた 6 ピンのユーロブロック GPIO (General Purpose Input/Output) ポートが 1 つあります。



4 つの GPIO のピンのモードは個別に設定できます。アクションのトリガー (入力) またはデバイスのステータスのレポート (出力) を行うようにピンを設定できます。例:

- ・ マイクをミュートする (入力)、またはマイクがミュートされているかどうかをレポートする (出力)。
- ・ コールを受け入れるか拒否する (入力)、またはデバイスがコール中かどうかをレポートする (出力)。

動作の原則

+12 V ピンは +12 V_{DC} を供給し、最大 500 mA を供給することができます。

GND ピンは、GPIO コネクタのすべてのピンにアースを提供します。

入力として使用する場合、GPIO ピンは次のように状態を検出します。

- ・ 電圧 0-1 V_{DC} を低信号
- ・ 電圧 2-12 V_{DC} を高信号

出力として使用する場合は、GPIO ピンが次のように設定されます。

- ・ 低信号ではピンは低 (GND) に設定されます
- ・ 高信号では、内部のプルアップでピンがオープンドレンに設定されます。つまり、外部接続で低くならない限り、ピンは 12 V に設定されます。

コマンドと設定

ピンのモードを設定するには:

事前定義された入力モードと出力モードの詳細については、設定の説明を参照してください。

- ・ `[GPIO]>[ピン [n] (Pin [n])]>[モード (Mode)]`
(xConfiguration GPIO Pin [n] Mode)

ピンの状態を取得するには:

- ・ `[GPIO]>[ピン [n] (Pin [n])]>[状態 (State)]`
(xStatus GPIO Pin [n] State)

手動モードのピンの状態を設定するには:

- ・ xCommand GPIO ManualState Set

API コマンドの詳細については、RoomOS ソフトウェアの API ガイドを参照してください。▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs>

3G-SDI コネクタ

Codec Pro には、次の 1 つの 3G-SDI 入力コネクタがあります。

コネクタは HD-BNC で、最大 1080p60 の解像度をサポートします。3G-SDI 信号は、レベル A、75 Ω、10 ビット データ ネイティブ カラー エンコーディング 4:2:2 YCbCr です。

コーデックから遠く離れた場所にカメラを配置する場合は、3G-SDI コネクタを使用します (たとえば、大きな部屋で後ろにカメラを設置したい場合)。

同軸ケーブルの合計長は最大 100m であるため、ビデオ会議室の構築または設定時に柔軟性を持たせることができます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

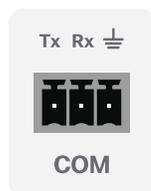
Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

COM ポートを使用した API アクセス

このデバイスには COM ポートが 1 つあり、シリアル接続を介してデバイスの API にアクセスできます。*

これは 3 ピンのユーロブロックであり、それぞれ Tx (送信)、Rx (受信)、および GND ピンとなっています。



シリアル通信はデフォルトで有効になっています。無効にするには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [モード (Mode)]

セキュリティ上の理由から、シリアル インターフェイスを使用する前にサインインするように求められます。サインインプロンプトをオフにするには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [ログインが必須 (LoginRequired)]

デバイスは大量のフィードバックを送信する可能性があるため、接続のボーレートはできるだけ高い値に保つことを推奨します。長いケーブルを使用している場合など、状況によっては、ビットエラーを回避するために低いレートの使用が求められることがあります。ボーレートを調整するには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [ボーレート (BaudRate)]

デバイスが CUCM によってプロビジョニングされている場合、シリアルポートの設定は CUCM から構成する必要があります。

シリアル接続のパラメータは次のとおりです。

- ・ ボーレート: 9600、19200、38400、57600、または 115200 bps
- ・ データ ビット: 8
- ・ パリティ: なし
- ・ ストップビット: 1
- ・ フロー制御: なし

マイクロ USB メンテナンスポートには、ボーレートを除いて同じ設定とパラメータのセットが使用されます。メンテナンスポートのボーレートは常に 115200 bps になります。

* COM ポートはメンテナンス用途に使用しないでください。代わりにマイクロ USB ポートを使用してください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

メンテナンス用のシリアル インターフェイス (1/5 ページ)

デバイスとの直接通信には、マイクロ USB コネクタを使用します¹。マイクロ USB to USB ケーブルが必要です。コンピュータにシリアル ポート ドライバが自動的にインストールされない場合は、手でシリアル ポート ドライバをインストールする必要があります²。

シリアルインターフェイスに接続するには、ターミナルエミュレータを使用します。最も一般的なコンピュータ タイプ (PC、MAC) およびオペレーティング システムでは、PuTTY または Tera Term は機能します。

パラメータ:

- ・ ボー レート: 115200 bps
- ・ データ ビット: 8
- ・ パリティ: なし
- ・ ストップ ビット: 1
- ・ ハードウェア フロー制御: オフ

デバイスの設定

シリアル通信はデフォルトでイネーブルになっています。動作を変更するには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [モード (Mode)]

セキュリティ上の理由から、シリアル インターフェイスを使用する前にサインインするように求められます。動作を変更するには、次の設定を使用します。

[シリアルポート (SerialPort)] > [ログインが必須 (LoginRequired)]

デバイスが CUCM によってプロビジョニングされている場合、シリアルポートの設定は CUCM から構成する必要があります。

Codec Pro, Room 70 G2, Room 70 Panorama, および Room Panorama

- ・ [シリアルポート (SerialPort)] > [ボーレート (BaudRate)] 設定は、メンテナンスポートには影響しません。メンテナンスポートでは、常にデフォルトのボーレートが使用されます。

コンピュータ

USB

USB (Board 55 および 70)
マイクロ USB (その他の製品)

TV会議本体

USB - USB ケーブル (Board 55 および 70)
USB - マイクロ USB ケーブル (その他の製品)

 次のページの図を参照して、異なる製品のマイクロ USB メンテナンスポートを確認してください。

Webex Board 55S, 70S, および 85S:

1. USB ケーブルをコンピュータからボードのマイクロ USB ポートに接続します。

コンピュータに USB - シリアルポートデバイスが 2 つ表示されます。名前はコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。Linux では通常、カメラが /dev/ttyUSB0、メインが /dev/ttyUSB1 になります。

これらのポートは、2 つの CPU のネイティブシリアルインターフェイス (UART) に接続されています。ブートローダからのログを含む、システムからこのポートに印刷されたすべてのものを表示します。

2. 起動完了後にサインインプロンプトが表示されたら、管理者の資格情報でログインします。カメラ CPU ではなく、メイン CPU にしかログインできません。

サインイン後、ボードの API にアクセスすることができます。

ボードが工場出荷時設定にリセットされている場合は、*admin* と空のパスワードでサインインします。

Webex Board 55 および 70:

1. USB ケーブルをコンピュータからボードの USB-A ポートに接続します。Webex Board 55 では、パネルに最も近い USB ポートを使用してください。
2. ボードの電源を入れます。コンピュータに仮想シリアルポートが表示されます。名前はコンピュータのオペレーティングシステムによって異なります。Linux では、通常は /dev/ttyACM0 になります。

注: コンピュータを接続する前にボードの電源を入れた場合、コンピュータでボードを認識することはできません。

3. サインインプロンプトが表示されたら、管理者の資格情報を使用してログインします。サインイン後、ボードの API にアクセスすることができます。

ボードが工場出荷時設定にリセットされている場合は、*admin* と空のパスワードでサインインします。

¹ マイクロ USB ポートはメンテナンス用途で使います。シリアル接続を通してデバイスの API にアクセスする場合は、詳細について API ガイドを参照してください。

² CP210x USB - UART ブリッジ仮想 COM ポート (VCP) ドライバが必要です。▶ <https://jp.silabs.com/products/development-tools/software/usb-to-uart-bridge-vcp-drivers> を参照してください。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

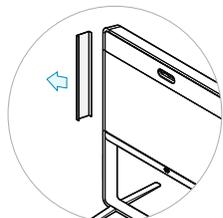
Room 70 G2

Room 70
Panorama

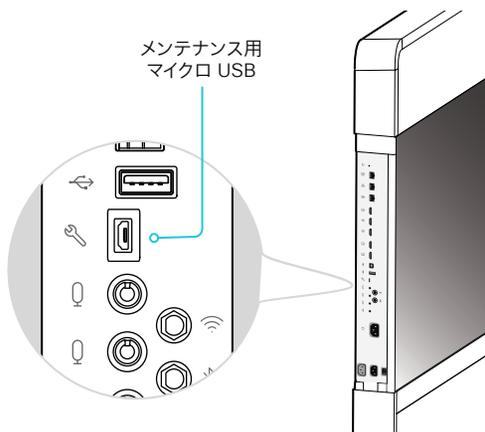
Room
Panorama

メンテナンス用のシリアルインターフェイス (2/5 ページ)

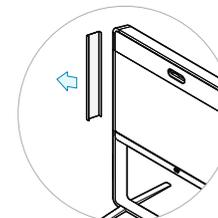
Room 55 Dual および Room 70



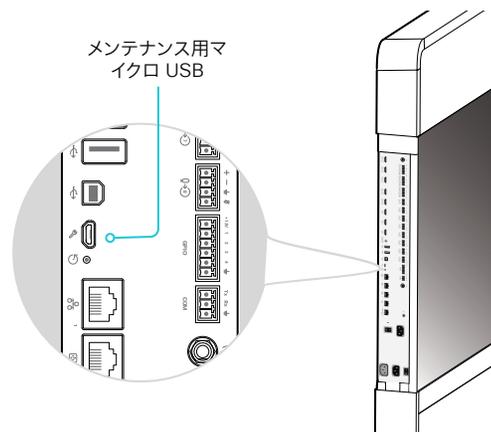
デバイスの左側のカバーを取り外して、コーデックコネクタパネルにアクセスします。カバーはマグネットで留められています。



Room 70 G2 および Room 70 Panorama



デバイスの左側のカバーを取り外して、コーデックコネクタパネルにアクセスします。カバーはマグネットで留められています。



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

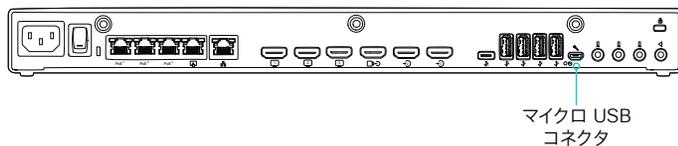
Room 70 G2

Room 70
Panorama

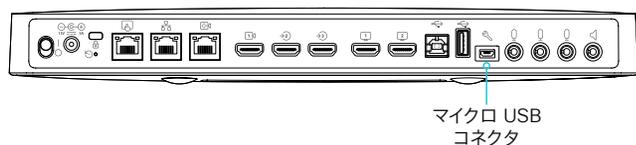
Room
Panorama

メンテナンス用のシリアルインターフェイス (3/5 ページ)

Codec EQ



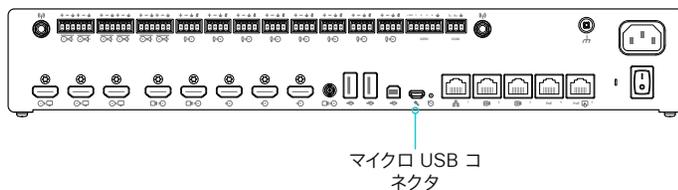
Codec Plus



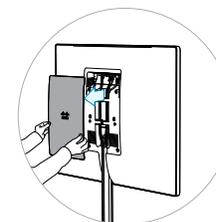
Codec Pro および Room Panorama

Room Panorama の場合:

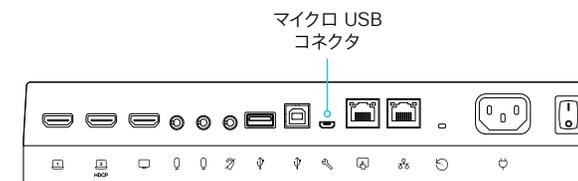
- デコグリの下部にある持ち手を使用し、左側のモニターを引き下げてコーデックにアクセスします。



Room 55



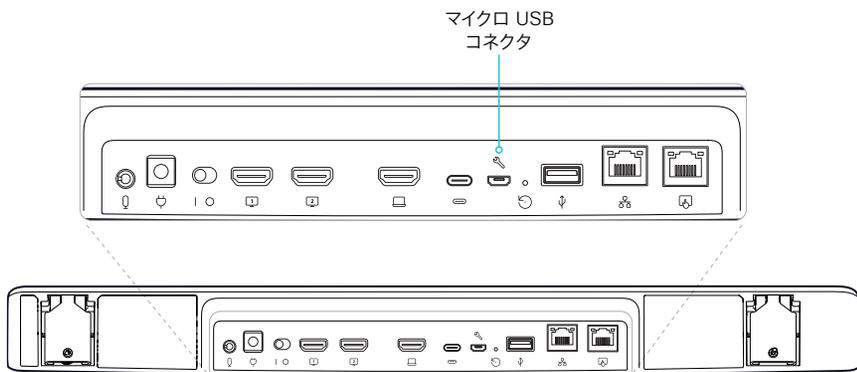
コネクタ パネルを利用するには、背面カバーを取り外します。



メンテナンス用のシリアルインターフェイス (4/5 ページ)

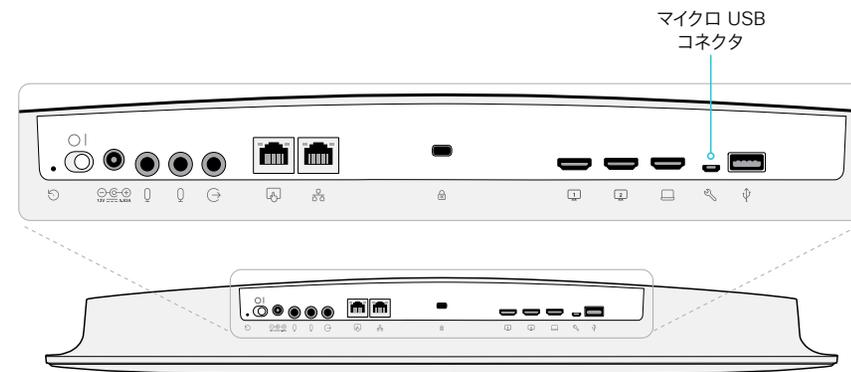
Room Bar

ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。

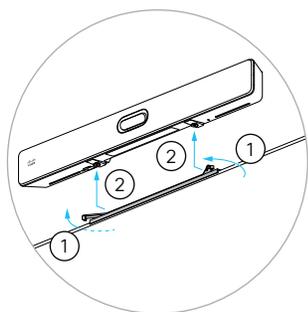


Room Kit

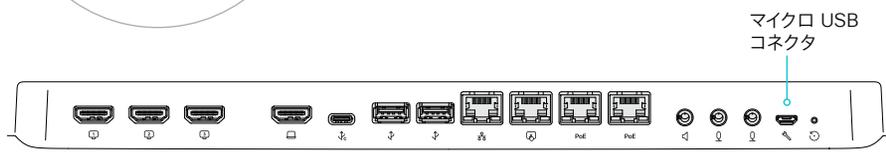
ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。



Room Bar Pro

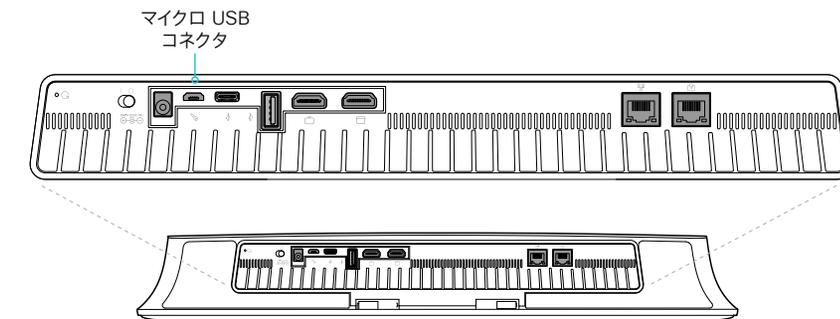


まず、取り付けバーの両側にあるロックハンドルを引いて、デバイスのロックを解除します (1)。次に、デバイスをゆっくりと手前に引き、取り付けバー (2) から持ち上げて、コネクタパネルにアクセスできるようにします。



Room Kit Mini

ユニットを前に傾け、コネクタパネルにアクセスします。



- Board
- Board Pro
- Codec EQ
- Codec Plus
- Codec Pro
- Desk, Desk Pro, Desk Mini
- Room Bar Pro, Room Bar
- Room Kit
- Room Kit Mini
- Room 55
- Room 55 Dual, Room 70
- Room 70 G2
- Room 70 Panorama
- Room Panorama

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

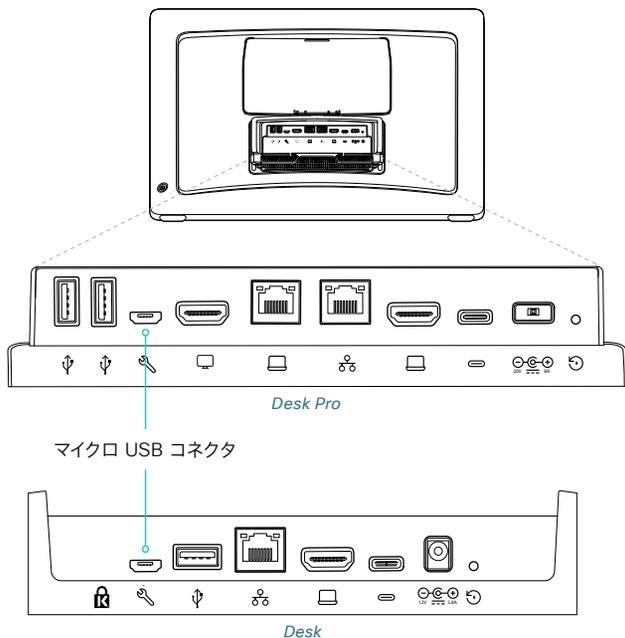
Room 70
Panorama

Room
Panorama

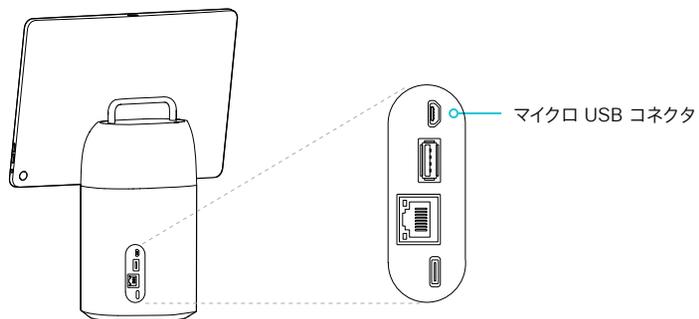
メンテナンス用のシリアルインターフェイス (5/5 ページ)

Desk および Desk Pro

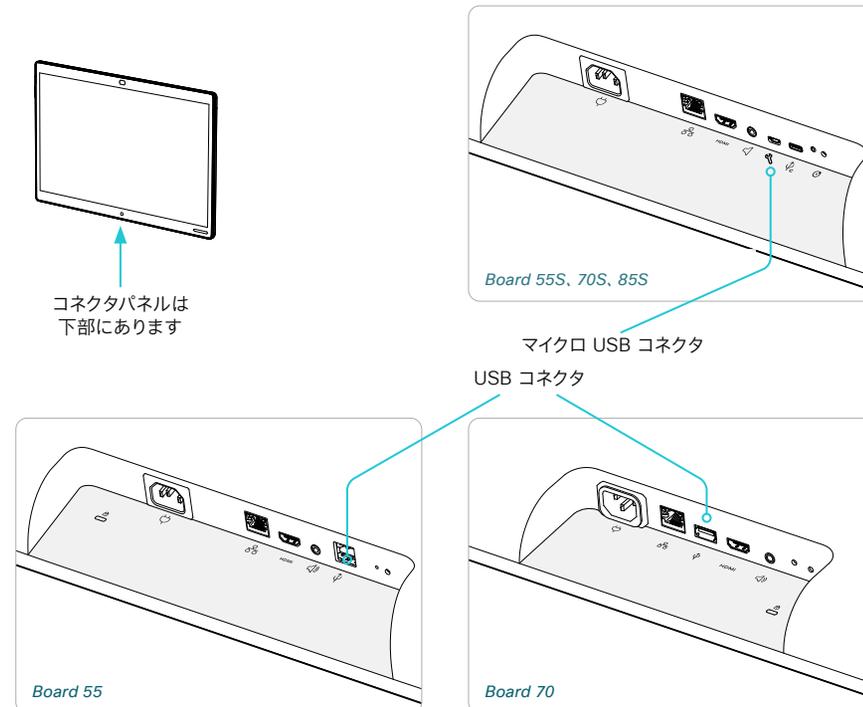
デバイスの背面のカバーをひっくり返して、コネクタパネルにアクセスします。



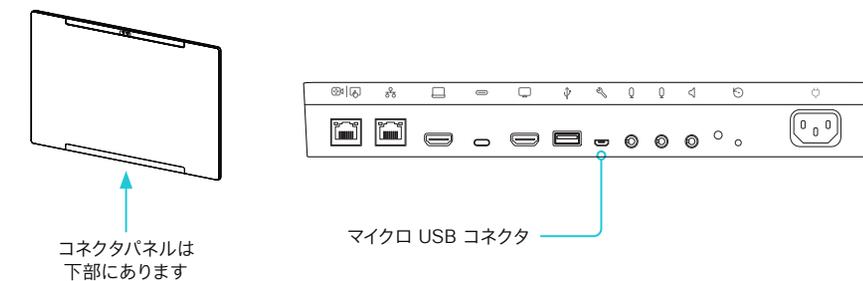
Desk Mini



Board



Board Pro



Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

SystemTools コマンド

SystemTools コマンドはデバイスの管理制御に使用され、コマンドライン インターフェイスからのみ使用できません。Systemtools をデバイスのプログラミングに使用しないでください。

サポートされているコマンド タイプの概要を確認するには、「systemtools ?」と入力します。

例:

```
systemtools ?
selectsw
whoami
license
network
ntp
ps
securitystatus
bootlogo
idefixversion
touch
```

コマンドの使用方法を知るには、コマンドの末尾に疑問符を追加します。

例:

```
systemtools network ?
usage: network ping <hostname> | traceroute
<hostname> | netstat | addr | ifconfig |
ifstats <ifname>
```

systemtools idefixversion (Board, Codec Plus, Codec Pro, Room Kit, Room Kit Mini, Room 55, Room 55 Dual, Room 70, Room 70 G2, Room 70 Panorama, Room Panorama)

接続された Touch 10 に必要なソフトウェアのバージョンを返します。

systemtools license list

デバイスのすべてのライセンスを示します。

systemtools license show <name>

名前によって定義されたライセンス ファイルの内容を示します。

<name>: ライセンス ファイルの名前。

systemtools network ping <hostname>

Network デバッグ コマンド。

<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network traceroute <hostname>

Network デバッグ コマンド。

<hostname>: ホストの IP アドレスまたは URL。

systemtools network netstat

Network デバッグ コマンド。

systemtools network addr

デバイスの IP アドレスを示します。

systemtools network ifconfig

Network デバッグ コマンド。

systemtools network ifstats <ifname>

Network デバッグ コマンド。ネットワーク インターフェイスの統計情報を出力します。

<ifname>: インターフェイス名。

systemtools ntp

NTP ステータスを表示します。

systemtools ps

実行中のすべてのプロセスを一覧表示します。

systemtools securitystatus

デバイスの Security ステータスを表示します。

systemtools selectsw [image name]

使用するソフトウェア イメージを選択します。ソフトウェア イメージを変更すると、デバイスが再起動されます。

引数を指定しない場合: 使用できるソフトウェア イメージのバージョンをリストし、アクティブになっているバージョンを示します。

image name: この名前のソフトウェアに切り替えます。

systemtools touch start (Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro のみ)

タッチ スクリーンをテストするためのデバッグ コマンド。

systemtools touch stop (Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro のみ)

タッチ スクリーンをテストするためのデバッグ コマンド。

systemtools touch forever (Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro のみ)

タッチ スクリーンをテストするためのデバッグ コマンド。

systemtools whoami

サインインしているユーザーの名前と ID、およびこのユーザーが保持しているユーザー ロールをリストします。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

TCP ポートの開放

コーデック内の Web サーバーでは、非セキュアまたは不必要なポート、プロトコル、モジュール、またはサービスの使用が禁止または制限されています。いくつかのポートはデフォルトで開放されています。

デバイスの Web インターフェイスからデバイスの設定を構成できます。Web ブラウザを開き、デバイスの IP アドレスを入力してサインインします。[\[設定 \(Settings\)\]](#) に移動し、[\[設定 \(Configurations\)\]](#) を選択します。

TCP 22:SSH

SSH モード設定を [オフ (Off)] にすることで、ポートを閉じることができます。

NetworkServices SSH Mode: Off/On

TCP 80:HTTP

HTTP モードを [オフ (Off)] にするか、[HTTPS (HTTPS)] にすることで、ポートを閉じることができます。

NetworkServices HTTP Mode: HTTP+HTTPS/HTTPS/Off

TCP 443:HTTP

HTTP モード設定を [オフ (Off)] にすることで、ポートを閉じることができます。

NetworkServices HTTP Mode: HTTP+HTTPS/HTTPS/Off

TCP 4043:リモートペアリング ソフトウェアのダウンロード (レガシーアップグレード)

Touch 10 をサポートするすべての製品に適用されます。

このポートは、下位互換性のためにオープンになっています。このポートは、Touch 10 のセキュアアップグレード (TCP 4060) をサポートしていない古いソフトウェアで、Touch 10 がコーデックにペアリングされている場合、Touch 10 にソフトウェアをダウンロードするために使用されます。

タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On

TCP 4045:リモート ペアリング バージョン情報

タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On

TCP 4047:リモート ペアリング セッション接続

このポートは、タッチコントローラがビデオ会議デバイスとリモートペアリングされている場合にのみ使用可能 (オープン) です。タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On

TCP 4051:リモートペアリングポート (廃止)

タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On

TCP 4060:リモート ペアリング ソフトウェアのダウンロード (セキュアアップグレード)

Room Navigator または Touch 10 をサポートするすべての製品に適用されます。

このポートは、ソフトウェアをタッチコントローラにダウンロードするときに使用されます。タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On

TCP 4062:リモートペアリングポート

タッチコントローラとのリモートペアリングを [オフ (Off)] に設定することでポートを閉じることができます。

Peripherals Pairing CiscoTouchPanels RemotePairing: Off/On

TCP 4190:UPnP ポート

SIP リッスンポートを [オフ (Off)] にすることで、ポートを閉じることができます。

NetworkServices UPnP Mode: Off

TCP 5060/5061:SIP リッスン ポート

SIP リッスンポートはデフォルトで開放されています。SIP リッスンポートは、Cisco UCM (Unified Communication Manager) によって無効にされています。SIP リッスンポートを [オフ (Off)] にすることで、ポートを閉じることができます。

SIP ListenPort: Off/On

TCP 65533:プロキシミティ接続用代替ポート

このポートはデフォルトで閉じられています。Proximity で代替ポートを有効にする設定を True にすると、このポートがプロキシミティ接続用に開放されます。

Proximity AlternatePort Enabled:False/True

Board

エフェメラル IP ポート

エフェメラル IP ポート範囲: 32768 ~ 60999

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

TMS からの HTTPFeedback アドレス

デバイスが Cisco TelePresence Management Suite (TMS) に追加されると、TMS に情報 (イベント) を送り返すように自動的に設定されます。デバイスは、TMS からそれらのイベントに送信されるアドレス (HTTPFeedback アドレス) を受けとります。このアドレスが存在しないか、または正しく設定されていない場合、デバイスは TMS にイベントを送信できません。

失われたイベントへの応答

イベントへの応答がデバイスで受信されない場合、デバイスは最大 6 回、間隔を増やしながら HTTPFeedback アドレスに送信を再試行します。

再試行してもデバイスで応答が受信されない場合、エンドポイントは 10 分ごとに HTTPFeedback アドレスにメッセージの送信を試行します。HTTPFeedback ステータスには失敗したことが示され、障害のタイプを示す診断メッセージが表示されます。

メッセージの再送を試みる際、TMS での通話詳細記録 (CDR) の紛失が生じます。

TMS からの新しい HTTPFeedback アドレスの取得

イベントを送信するための新しいアドレスを取得するには、デバイスを再起動して、TMS から (スケジュール設定または TMS 管理者によるトリガーで) 次の管理アドレスがプッシュされるのを待つ必要があります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

オンプレミス登録デバイスの Cisco Webex Edge for Devices へのリンク

Webex Edge for Devices を使用すると、オンプレミス登録のデバイスを Webex クラウドサービスにリンクできます。これにより、登録、デバイスの設定管理、通話¹、メディアサービスはオンプレミスのままで、特定のクラウド機能にアクセスできるようになります。Webex Control Hub でクラウドサービスを管理したり、デバイスの診断を受けたりできます。

詳細情報を表示

デバイスを Webex Edge for Devices にリンクする方法、サポートされる機能、前提条件、制限事項について詳しくは、Webex ヘルプ センターで ▶ [Webex Edge for Devices \(https://help.webex.com/cy2l2z/\)](https://help.webex.com/cy2l2z/) に関する記事を参照してください。

Setup

最初にデバイスをオンプレミスサービスに登録してから、Webex Edge にリンクすることをお勧めします。

詳細については、左で参照されている *Webex Edge for Devices* の記事を参照してください。

機能

特長や機能についての詳しいリストは、左で参照されている *Webex Edge for Devices* の記事を確認してください。オプションの一部を次に示します。

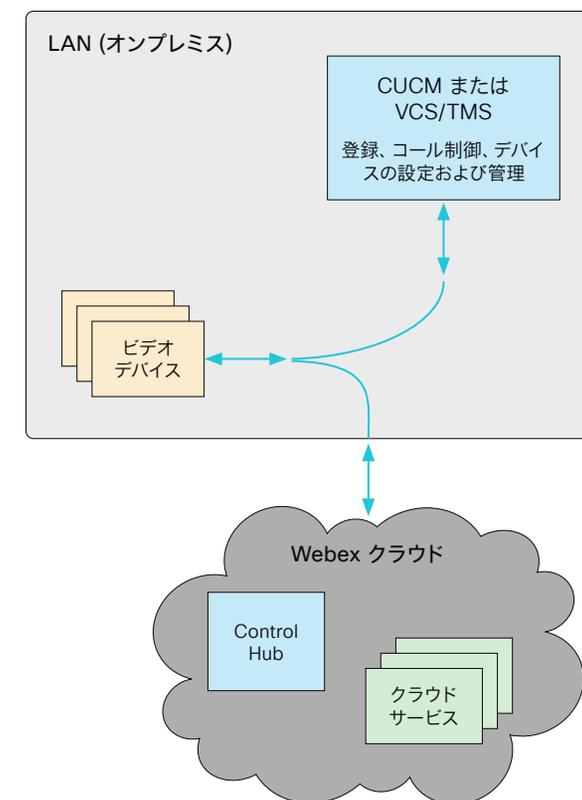
- Control Hub でのオンライン/オフライン接続ステータス
- 管理者アラートの設定に対応したデバイス診断
- デバイスの履歴分析を Control Hub で直接使用可能
- Control Hub からのデバイス設定へのアクセス
- クラウド xAPI アクセス
- Webex コールに参加する場合のリアルタイムメディアメトリック
- Control Hub からのログの管理
- Control Hub によるハイブリッド予定表²
- Webex Assistant (音声駆動型の仮想アシスタント)

前述の *Webex Edge for Devices* の記事には、使用できる機能と制限事項の最新の一覧が含まれています。

前提条件

前提条件や制限事項の詳しいリストについては、左で参照されている *Webex Edge for Devices* の記事を確認してください。オプションの一部を次に示します。

- RoomOS または CE ソフトウェアの暗号化バージョン
- CUCM に登録されている場合 : CUCM バージョン 12.5su1、または最新のデバイスパックを適用した 11.5.x
- Control Hub の管理者アクセス権
- Cisco Webex Device Connector (Webex Edge へのリンクを設定するため)
- クラウド サービス ライセンス(シスコ コラボレーション フレックス プラン)



¹ Webex Meetings へのコールに Webex クラウドサービスを使用するようにデバイスを設定できます。詳細については、Webex ヘルプセンターで、▶ [Webex Edge for Devices \(https://help.webex.com/cy2l2z/\)](https://help.webex.com/cy2l2z/) の Webex optimized experience for Webex Edge for Devices に関する記事を参照してください。

² TMS ベースの予約は無視されます。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco Webex Cloud サービスへのデバイスの登録

画面上の設定アシスタントを使用する代わりに、デバイスの Web インターフェイスからリモートで Cisco Webex にデバイスを登録できます。

Web インターフェイスから登録できるのは、現在サービスに登録されていないデバイスのみです。

注: このデバイス用に作成されたローカル ユーザーとカスタマイズは、すべて非アクティブ化されます。

アクティベーションコードの作成

Cisco Webex にデバイスを登録するには、アクティベーションコードが必要です。

共有モードのデバイス:

管理者は Control Hub 上でアクティベーションコードを作成する必要があります。

共有モードのデバイス用のアクティベーションコードを作成する方法については、[▶Cisco Webex ルームデバイスまたは Cisco Webex Board 用のワークスペースの作成とサービスの追加 \(https://help.webex.com/1mqb9cb/\)](#) に関する記事を参照してください。

パーソナルモードのデバイス:

Cisco Webex Settings (<https://settings.webex.com>) から、管理者でなくてもアクティベーションコードを取得できます。

パーソナルモードでデバイス用のアクティベーションコードを作成する方法については、[▶Webex Board、Room または Desk Device のパーソナルデバイスとしての設定 \(https://help.webex.com/n3alqtv/\)](#) に関する記事を参照してください。

1. デバイスの Web インターフェイスにサインインして、[\[ホーム \(Home\)\]](#) に移動します。[\[システムの登録 \(Register System\)\]](#) カードを見つけます。
このカードは、デバイスがサービスにまだ登録されていない場合にのみ使用できます。

Register System

In order to place calls with this video system, it needs to be registered to a call service.

Register to Webex

2. [\[Webex に登録 \(Register to Webex\)\]](#) をクリックします。
3. ポップアップが表示され、アクティベーションコードを入力できます。
形式:
 - xxxx-xxxx-xxxx-xxxx、または
 - xxxxxxxxxxxxxxxxx
4. 登録後に、画面上のセットアップ アシスタントからタイムゾーンと言語を設定する必要があります。設定アシスタントがタイムアウトした場合は、デフォルト設定が適用されます。

制限

利用可能な設定の一部は、オンプレミスの登録済みデバイスにのみ適用されます。これらは、Webex に登録されているデバイスには適用されません。API ガイドの「サポートされているコマンド マトリックス」では、これらの項目は「オンプレミスのみ」とマークされています。

適用されない設定はすべて、H.323、SIP、NTP、CUCM、LDAP、Proximity、および相手先カメラ制御に関連するものです。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

サポートされている RFC

RFC (Request For Comments) シリーズには、Internet Engineering Task Force (IETF) によって作成される技術仕様およびポリシー文書など、インターネットに関する技術および組織のドキュメントが含まれます。

RoomOS ソフトウェアは、以下を含む RFC の範囲をサポートしていません。

- RFC 2782 - 『DNS RR for specifying the location of services (DNS SRV)』
- RFC 3261 - SIP: 『Session Initiation Protocol』
- RFC 3263 - 『Locating SIP Servers』
- RFC 3361 - 『DHCP Option for SIP Servers』
- RFC 3550 - 『RTP: A Transport Protocol for Real-Time Applications』
- RFC 3711 - 『The Secure Real-time Transport Protocol (SRTP)』
- RFC 4091 - 『The Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics for the Session Description Protocol (SDP) Grouping Framework』
- RFC 4092 - 『Usage of the Session Description Protocol (SDP) Alternative Network Address Types (ANAT) Semantics in the Session Initiation Protocol (SIP)』
- RFC 4582 - 『The Binary Floor Control Protocol』
draft-ietf-bfcpbis-rfc4582bis-00 『Revision of the Binary Floor Control Protocol (BFCP) for use over an unreliable transport』
- RFC 4733 - 『RTP Payload for DTMF Digits, Telephony Tones and Telephony Signals』
- RFC 5245 - 『Interactive Connectivity Establishment (ICE)』 : A Protocol for Network Address Translator (NAT) Traversal for Offer/Answer Protocols
- RFC 5321 - 『Simple Mail Transfer Protocol』 (*Board, Board Pro, Desk, Desk Mini, Desk Pro, Room Kit Mini*)
- RFC 5589 - 『SIP Call Control Transfer』
- RFC 5766 - 『Traversal Using Relays around NAT (TURN)』 : Relay Extensions to Session Traversal Utilities for NAT (STUN)
- RFC 5905 - 『Network Time Protocol Version 4: Protocol and Algorithms Specification』

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk Mini

Room
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
Panorama

Room
Panorama

最小帯域幅の計算

最小帯域幅の要件は、技術仕様で指定されています。デュアルストリームを使用する場合、使用可能な帯域幅は 2 つのストリームに分割されます。

デュアルストリームで希望の解像度の最小帯域幅を計算するには、その解像度の最小ビットレート (bps) を 2 倍します (720p30 など)。

たとえば、解像度 720p30 に対して最低 768 kbps の帯域幅がある場合、デュアルストリームの最小帯域幅は 768×2 、または 1536 kbps になります。

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
Desk Pro,
Desk MiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

シスコ Web サイト内のユーザー マニュアル

通常、すべてのシスコ コラボレーション デバイスのユーザー マニュアルは、▶ <https://www.cisco.com/c/en/us/support/collaboration-endpoints> で参照できます。

次のショートリンクを使用して、RoomOS ソフトウェアを実行するデバイスのマニュアルを検索することを推奨します。

Room Series :

▶ <https://www.cisco.com/go/room-docs>

Desk Series :

▶ <https://www.cisco.com/go/desk-docs>

Board Series :

▶ <https://www.cisco.com/go/board-docs>

特定のドキュメントを見つけるには、[\[ドキュメント \(Documentation\)\]](#) をクリックして、そのドキュメントが属するカテゴリを探します。

たとえば、アドミニストレーション ガイドを見つけるには、[\[ドキュメント \(Documentation\)\]](#) をクリックし、[\[メンテナンスと運用 \(Maintain and Operate\)\]](#) > [\[メンテナンスと運用ガイド \(Maintain and Operate Guides\)\]](#) を探します。

カテゴリとドキュメントの種類

これらのリストは、ドキュメントタイプが属するカテゴリを示します。すべてのタイプのドキュメントが、すべてのタイプのデバイスで使用できるわけではありません。

インストールとアップグレード > インストールとアップグレード ガイド

- ・ **設置ガイド:**
デバイスの組み立てと設置方法
- ・ **スタートアップガイド:**
初めてデバイスを動作させるために必要な初期設定
- ・ **RCSI ガイド:** 法規制の遵守および安全に関する情報

保守と運用 > メンテナンスとオペレーション ガイド

- ・ **スタートアップガイド:**
初めてデバイスを動作させるために必要な初期設定
- ・ **アドミニストレーション ガイド:**
デバイスの設定と管理に必要な情報
- ・ **スペア部品の概要、スペア部品の交換ガイド、ケーブルスキーマ:** ケーブルの接続や、スペア部品を交換するときに役立つ情報

保守と運用 > エンドユーザー ガイド

- ・ **ユーザーガイド:**
デバイスの使用方法
- ・ **クイックリファレンスガイド:**
デバイスの主要機能の使用法

[リファレンス (Reference)] > [コマンドリファレンス (Command references)]

- ・ **API リファレンスガイド:**
デバイスの公開 API のリファレンスガイド

[リファレンス (Reference)] > [テクニカルリファレンス (Technical References)]

- ・ **CAD 図面:**
デバイスの測定値付き 2D CAD 図面

[構成 (Configuration)] > [構成ガイド (Configuration Guides)]

- ・ **カスタマイズガイド:**
ユーザーインターフェイスのカスタマイズ方法、デバイスの API を使用した室内制御のプログラミング方法、マクロの作成方法、オーディオコンソールを使用した高度な音声設定の設定方法などのカスタマイズ。

[リリースと互換性 (Release and Compatibility)] > [リリースノート (Release Notes)]

- ・ **ソフトウェア リリース ノート**

Board

Board Pro

Codec EQ

Codec Plus

Codec Pro

Desk,
DeskPro,
DeskMiniRoom
Bar Pro,
Room Bar

Room Kit

Room Kit
Mini

Room 55

Room 55
Dual,
Room 70

Room 70 G2

Room 70
PanoramaRoom
Panorama

Cisco のお問い合わせ先

Cisco のウェブサイトでは、Cisco の世界各地のお問い合わせ先を確認できます。

参照先: ▶ <https://www.cisco.com/go/offices>

本社
Cisco Systems, Inc.
170 West Tasman Dr.
San Jose, CA 95134 USA

知的財産

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

Cisco が採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または暗示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

印刷版と複製ソフトは公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

Cisco および Cisco ロゴは、Cisco Systems, Inc. またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Cisco の商標の一覧については、www.cisco.com/go/trademarks をご覧ください。Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. 「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナーシップ関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。

Cisco 製品のセキュリティの概要

この製品には、輸入、輸出、譲渡、使用を規制する米国またはその他の国の法律の対象となる暗号化機能が含まれています。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意したものとみなされます。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、<http://www.bis.doc.gov/policiesandregulations/ear/index.htm> で参照できます。